

かみ のほ ほん ごう い せき
上 保 本 郷 遺 跡

(第2分冊)

2021

岐阜県文化財保護センター



11・12 地点全景（西から）



20・21 地点全景（南西から）



美濃国刻印須恵器



古瀬戸四耳壺



SD269・SD368 出土土師器皿

目 次

第4章 調査の成果	1
第5節 1・2・20・21 地点の遺構・遺物	1
第6節 11 地点の遺構・遺物	190

第1分冊 目次

序

例言

目次

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

第2節 調査の方法と経過

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

第2節 歴史的環境

第3章 調査の成果

第1節 基本層序

第2節 遺構・遺物の概要

第4章 調査の成果

第1節 9・10・19 地点の遺構・遺物

第2節 6～8・17・18 地点の遺構・遺物

第3節 5・14～16 地点の遺構・遺物

第4節 13 地点の遺構・遺物

報告書抄録

第3分冊 目次

第4章 調査の成果

第7節 12 地点の遺構・遺物

第8節 3・4 地点の遺構・遺物

第5章 自然科学分析

第1節 分析の概要と成果

第2節 花粉分析とプラント・オパール分析

第3節 石材同定

第4節 ガラス玉蛍光X線分析

第5節 鋳滓・鍛冶関連遺物の成分分析

第6節 獣骨同定分析

- 第7節 繊維同定
- 第8節 木製品樹種同定
- 第9節 漆製品の塗膜構造調査

第4分冊 目次

第6章 総括

- 第1節 遺構について
- 第2節 遺物について
- 第3節 土地利用の変遷

参考文献

遺構一覧表

第5分冊 目次

遺物観察表

発掘区全域図分割図

- 9・10・19 地点
- 6～8・17・18 地点
- 5・14～16 地点
- 3・4 地点
- 1・2・13・20・21 地点
- 11・12 地点

第6分冊 目次

写真図版

插图目次

图218 1・2・20・21地点平面图(1)…………… 1	图253 SA22遺構図…………… 42
图219 1・2・20・21地点平面图(2)…………… 2	图254 SA23遺構図…………… 44
图220 SI 4 遺構図・出土遺物実測図…………… 4	图255 SA24遺構図…………… 44
图221 SI 5 遺構図・出土遺物実測図…………… 5	图256 SA25遺構図…………… 45
图222 SI 6 遺構図・出土遺物実測図…………… 7	图257 SA26遺構図…………… 45
图223 SI 7 遺構図・出土遺物実測図…………… 8	图258 SA27遺構図…………… 47
图224 SI 8 遺構図・出土遺物実測図…………… 10	图259 SA28遺構図・出土遺物実測図…………… 48
图225 SI 9 遺構図…………… 11	图260 SA29遺構図…………… 49
图226 SI 9 出土遺物実測図…………… 12	图261 SA30遺構図…………… 50
图227 SI10遺構図・出土遺物実測図…………… 13	图262 SA31遺構図…………… 51
图228 SI11遺構図(1)…………… 14	图263 SA32遺構図…………… 52
图229 SI11遺構図(2)…………… 15	图264 SA33遺構図…………… 52
图230 SI11遺構図(3)…………… 16	图265 SA34遺構図…………… 54
图231 SI11出土遺物実測図…………… 17	图266 SA35遺構図…………… 54
图232 SI12遺構図(1)…………… 19	图267 SA52遺構図・出土遺物実測図…………… 55
图233 SI12遺構図(2)・出土遺物実測図…………… 20	图268 SE 1 遺構図(1)・出土遺物実測図…………… 57
图234 SI13遺構図・出土遺物実測図…………… 21	图269 SE 1 遺構図(2)…………… 58
图235 SI14遺構図(1)…………… 22	图270 SP262・SP268遺構図…………… 59
图236 SI14遺構図(2)・出土遺物実測図…………… 23	图271 SP275・SP282～SP284・SP289・SP290・ SP298・SP307遺構図・出土遺物実測図…………… 61
图237 SB16遺構図・出土遺物実測図…………… 24	图272 SP340・SP352・SP365・SP372遺構図…………… 63
图238 SB17遺構図…………… 26	图273 SP379・SP381・SP382・SP395・SP396・ SP422遺構図・出土遺物実測図…………… 66
图239 SB19遺構図…………… 27	图274 SK2174～SK2176遺構図・出土遺物 実測図…………… 67
图240 SB20遺構図(1)…………… 28	图275 SK2179・SK2181～SK2183遺構図・出土遺物 実測図…………… 69
图241 SB20遺構図(2)…………… 29	图276 SK2188・SK2190・SK2194・SK2196・SK2207 遺構図・出土遺物実測図…………… 71
图242 SB21遺構図(1)…………… 30	图277 SK2214～SK2216遺構図・出土遺物 実測図…………… 73
图243 SB21遺構図(2)…………… 31	图278 SK2217～SK2219遺構図・出土遺物 実測図…………… 75
图244 SB22遺構図…………… 32	图279 SK2221・SK2225・SK2229・SK2231・SK2233 遺構図・出土遺物実測図…………… 77
图245 SB23遺構図・出土遺物実測図…………… 34	
图246 SB24遺構図・出土遺物実測図…………… 35	
图247 SB25遺構図・出土遺物実測図…………… 36	
图248 SA16遺構図…………… 37	
图249 SA17遺構図・出土遺物実測図…………… 38	
图250 SA18遺構図…………… 39	
图251 SA19遺構図…………… 40	
图252 SA21遺構図…………… 41	

図280	SK2238・SK2253遺構図・出土遺物 実測図……………	78	図303	SK2507遺構図……………	113
図281	SK2257・SK2258・SK2260遺構図・出土遺物 実測図……………	80	図304	SK2517遺構図・出土遺物実測図……………	115
図282	SK2261・SK2271・SK2275遺構図・出土遺物 実測図……………	81	図305	SK2519・SK2538・SK2539・SK2550・ SK2551遺構図・出土遺物実測図……………	117
図283	SK2320・SK2321遺構図・出土遺物 実測図……………	83	図306	SK2558遺構図・出土遺物実測図……………	118
図284	SK2326遺構図・出土遺物実測図……………	85	図307	SK2565・SK2575遺構図・出土遺物 実測図……………	120
図285	SK2340・SK2341・SK2345遺構図・出土遺物 実測図……………	86	図308	SK2578・SK2579・SK2587遺構図・出土遺物 実測図……………	122
図286	SK2348・SK2350・SK2364・SK2368 遺構図……………	88	図309	SK2591遺構図……………	123
図287	SK2377・SK2378遺構図・出土遺物 実測図……………	89	図310	SK2591出土遺物実測図……………	124
図288	SK2380・SK2383・SK2385・SK2390 遺構図……………	92	図311	SK2596・SK2598遺構図・出土遺物 実測図(1)……………	126
図289	SK2391・SK2393～SK2397遺構図・出土遺物 実測図……………	94	図312	SK2598出土遺物実測図(2)……………	127
図290	SK2406・SK2407・SK2414遺構図……………	96	図313	SK2598出土遺物実測図(3)……………	128
図291	SK2417・SK2419・SK2432遺構図・出土遺物 実測図……………	97	図314	SK2626・SK2652・SK2654・SK2681遺構図・ 出土遺物実測図……………	129
図292	SK2442遺構図・出土遺物実測図……………	98	図315	SK2691・SK2711～SK2713・SK2716・SK2732 遺構図・出土遺物実測図……………	133
図293	SK2443遺構図・出土遺物実測図……………	99	図316	SK2747遺構図・出土遺物実測図……………	134
図294	SK2447・SK2448・SK2462遺構図・出土遺物 実測図……………	101	図317	SK2749・SK2774・SK2794遺構図・出土遺物 実測図……………	136
図295	SK2474・SK2475・SK2478遺構図・出土遺物 実測図……………	103	図318	SK2797・SK2802・SK2807遺構図・出土遺物 実測図……………	137
図296	SK2476・SK2477・SK2479遺構図・出土遺物 実測図……………	104	図319	SK2819遺構図・出土遺物実測図……………	139
図297	SK2489遺構図・出土遺物実測図……………	105	図320	SK2823・SK2840遺構図・出土遺物 実測図……………	141
図298	SK2490遺構図……………	107	図321	SK2843・SK2849・SK2851遺構図・出土遺物 実測図……………	142
図299	SK2490出土遺物実測図……………	108	図322	SK2863・SK2880遺構図・出土遺物 実測図……………	143
図300	SK2492・SK2494遺構図……………	109	図323	SK2881・SK2882・SK2888・SK2893遺構図・ 出土遺物実測図……………	146
図301	SK2492出土遺物実測図……………	110	図324	SK4577～SK4579遺構図・出土遺物 実測図……………	147
図302	SK2497・SK2498・SK2500遺構図・出土遺物 実測図……………	112	図325	SD258～SD262遺構図……………	150
			図326	SD258・SD259・SD262出土遺物実測図……………	151

図327	SD265・SD266・SD268遺構図・出土遺物 実測図……………	152	図359	11地点平面図……………	190
図328	SD269・SD368・SD369遺構図……………	154	図360	SB26遺構図……………	191
図329	SD269遺物出土状況図……………	155	図361	SB27遺構図・出土遺物実測図……………	192
図330	SD368遺物出土状況図……………	156	図362	SB28遺構図・出土遺物実測図……………	194
図331	SD269出土遺物実測図……………	157	図363	SB29遺構図（1）……………	195
図332	SD368出土遺物実測図……………	158	図364	SB29遺構図（2）・出土遺物実測図……………	196
図333	SD269・SD368・SD369帰属不明出土遺物 実測図……………	159	図365	SB30遺構図・出土遺物実測図……………	197
図334	SD270・SD271遺構図・出土遺物実測図……………	160	図366	SB31遺構図……………	198
図335	SD272・SD273・SD279遺構図・出土遺物 実測図……………	161	図367	SB32遺構図・出土遺物実測図……………	199
図336	SD274・SD275・SD280遺構図……………	163	図368	SA36遺構図……………	201
図337	SD277・SD278遺構図・出土遺物実測図……………	165	図369	SA37遺構図……………	201
図338	SD281遺構図・出土遺物実測図……………	166	図370	SA38遺構図・出土遺物実測図……………	202
図339	SD283遺構図（1）……………	167	図371	SA39遺構図……………	203
図340	SD283遺構図（2）・出土遺物実測図……………	168	図372	SA40遺構図……………	205
図341	SD284遺構図……………	169	図373	SA41遺構図……………	205
図342	SD284出土遺物実測図……………	170	図374	SA42遺構図……………	206
図343	SD285遺構図・出土遺物実測図……………	172	図375	SA43遺構図・出土遺物実測図……………	207
図344	SD286遺構図・出土遺物実測図……………	173	図376	SP440・SP455・SP466遺構図・出土遺物 実測図……………	209
図345	SD287・SD288遺構図……………	174	図377	SK2911・SK2912・SK2918遺構図・出土遺物 実測図……………	211
図346	SD287出土遺物実測図……………	175	図378	SK2923・SK2972・SK2979遺構図・出土遺物 実測図……………	213
図347	SD292遺構図・出土遺物実測図……………	176	図379	SK2989・SK2990・SK3012・SK3022・SK3031 遺構図・出土遺物実測図……………	215
図348	SL10遺構図・出土遺物実測図……………	177	図380	SK3047・SK3059・SK3084・SK3088・SK3095 遺構図・出土遺物実測図……………	218
図349	SL12遺構図……………	178	図381	SK3111・SK3112遺構図・出土遺物 実測図……………	219
図350	SF 1（SD282・SD289）遺構図・出土遺物 実測図……………	180	図382	SK3113遺構図・出土遺物実測図……………	221
図351	SF 2（SD293～SD296）遺構図……………	181	図383	SK3115・SK3151・SK3161・SK3175遺構図・ 出土遺物実測図……………	223
図352	SF 2（SD293）遺物出土状況図・出土遺物 実測図……………	182	図384	SK3192・SK3212・SK3213遺構図・出土遺物 実測図……………	224
図353	SU 3 遺構図・出土遺物実測図……………	184	図385	SK3245・SK3278遺構図・出土遺物 実測図……………	226
図354	その他の遺構出土遺物実測図……………	184	図386	SK3280遺構図・出土遺物実測図……………	227
図355	Ⅲ層等出土遺物実測図（1）……………	186			
図356	Ⅲ層等出土遺物実測図（2）……………	187			
図357	Ⅲ層等出土遺物実測図（3）……………	188			
図358	Ⅲ層等出土遺物実測図（4）……………	189			

図387	SK3283遺構図・出土遺物実測図	228	図412	SK4582遺構図	263
図388	SK3291・SK3318・SK3320・SK3330遺構図・ 出土遺物実測図	230	図413	SK4583遺構図・出土遺物実測図	264
図389	SK3337・SK3342遺構図・出土遺物 実測図	231	図414	SD297遺構図	266
図390	SK3345・SK3346遺構図・出土遺物 実測図	233	図415	SD297出土遺物実測図	267
図391	SK3350遺構図・出土遺物実測図	235	図416	SD300遺構図	268
図392	SK3354・SK3362遺構図・出土遺物 実測図	236	図417	SD300遺物出土状況図(1)	269
図393	SK3367遺構図・出土遺物実測図	237	図418	SD300遺物出土状況図(2)	270
図394	SK3377・SK3388・SK3436遺構図・出土遺物 実測図	239	図419	SD300遺物出土状況図(3)	271
図395	SK3472・SK3507遺構図	240	図420	SD300出土遺物実測図(1)	272
図396	SK3489・SK3493遺構図	241	図421	SD300出土遺物実測図(2)	273
図397	SK3508遺構図・出土遺物実測図	243	図422	SD300出土遺物実測図(3)	274
図398	SK3550・SK3553遺構図・出土遺物 実測図	244	図423	SD301・SD302遺構図	277
図399	SK3575遺構図・出土遺物実測図	245	図424	SD301・SD302出土遺物実測図	278
図400	SK3578・SK3580遺構図・出土遺物 実測図	247	図425	SD303遺構図・出土遺物実測図	279
図401	SK3591遺構図・出土遺物実測図	248	図426	SD306遺構図・出土遺物実測図	280
図402	SK3602遺構図・出土遺物実測図	249	図427	SD307遺構図・出土遺物実測図(1)	281
図403	SK3608・SK3628・SK3659遺構図・出土遺物 実測図	250	図428	SD307出土遺物実測図(2)	282
図404	SK3663・SK3665・SK3670遺構図・出土遺物 実測図	253	図429	SD308遺構図・出土遺物実測図	283
図405	SK3672・SK3674遺構図・出土遺物 実測図	254	図430	SD316遺構図(1)	285
図406	SK3676遺構図・出土遺物実測図	256	図431	SD316遺構図(2)	286
図407	SK3678・SK3680遺構図・出土遺物 実測図	257	図432	SD316遺構図(3)	287
図408	SK3681遺構図・出土遺物実測図	258	図433	SD316遺構図(4)	288
図409	SK3683・SK3688・SK3712遺構図・出土遺物 実測図	260	図434	SD316遺構図(5)	289
図410	SK4581遺構図(1)	261	図435	SD316遺構図(6)	290
図411	SK4581遺構図(2)・出土遺物実測図	262	図436	SD316出土遺物実測図(1)	291
			図437	SD316出土遺物実測図(2)	292
			図438	SD316出土遺物実測図(3)	293
			図439	SD316出土遺物実測図(4)	294
			図440	SD319遺構図・出土遺物実測図	295
			図441	SD320遺構図・出土遺物実測図	296
			図442	SD321遺構図・出土遺物実測図	298
			図443	SD322遺構図	299
			図444	SD322出土遺物実測図	300
			図445	SD326遺構図・出土遺物実測図	302
			図446	SD327遺構図(1)	303
			図447	SD327遺構図(2)	304
			図448	SD327遺構図(3)	305

図449	SD327遺構図（4）・出土遺物実測図（1）	306	図453	その他の遺構出土遺物実測図	312
図450	SD327出土遺物実測図（2）	307	図454	Ⅲ層等出土遺物実測図（1）	313
図451	SL14・SL15遺構図	309	図455	Ⅲ層等出土遺物実測図（2）	314
図452	SL16・SL17遺構図	310			

写真図版目次

巻頭図版

巻頭図版 4

11・12地点全景（西から）

20・21地点（南西から）

巻頭図版 5

美濃国刻印須恵器

古瀬戸四耳壺

SD269・SD368出土土師器皿

第5節 1・2・20・21地点の遺構・遺物

遺跡の南西部に位置する調査地点であるが、市道を挟んで13地点の南西側、席田用水を挟んで3地点の北西側及び東側、11地点の北側となる。調査面積は1,972.3㎡で、席田用水の付替部分、本線橋脚及び盛土部分、側道部分を調査した。

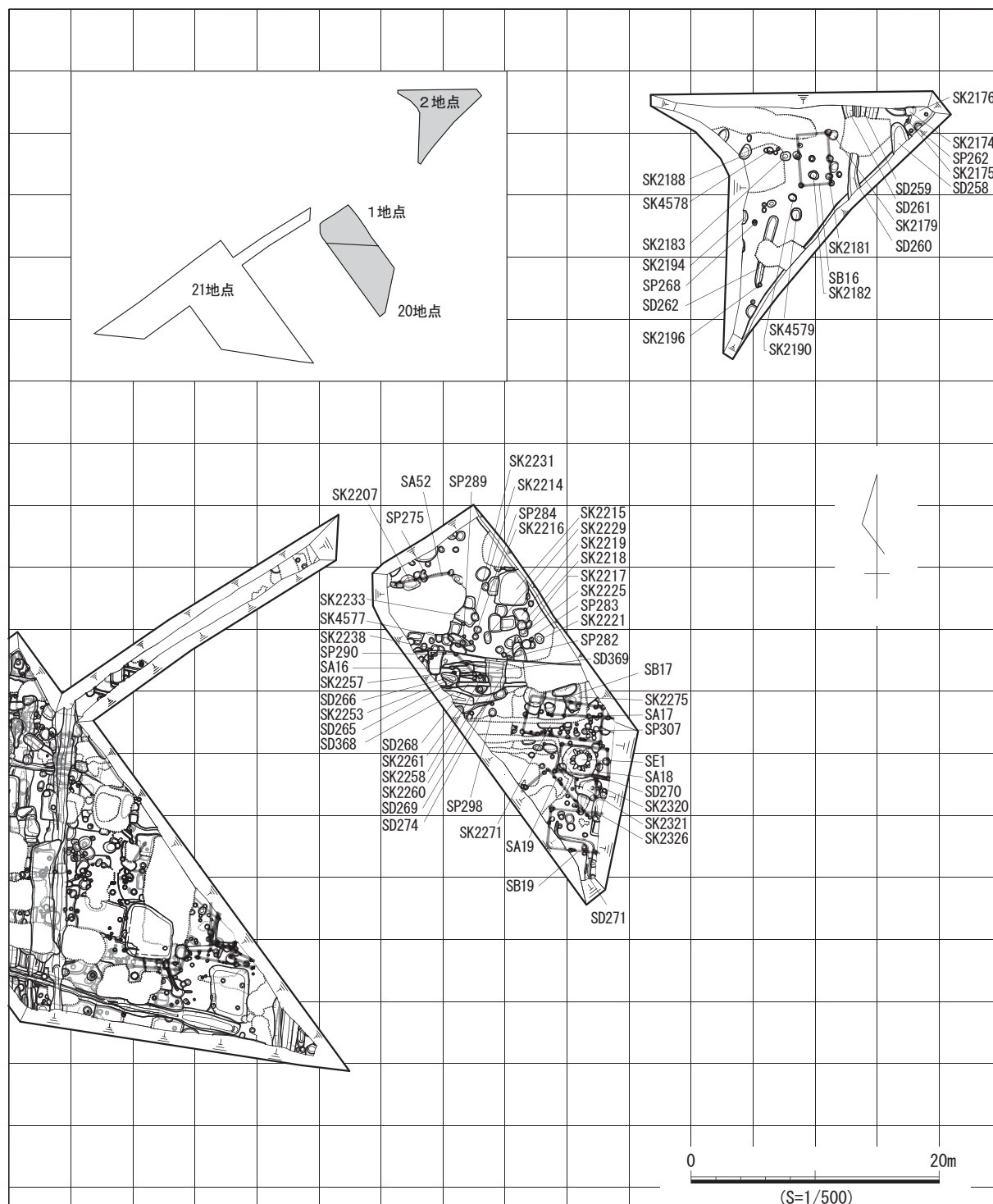


図 218 1・2・20・21地点平面図(1)



図 219 1・2・20・21 地点平面図 (2)

1 竪穴建物

SI 4 (図 220)

検出状況 21 地点 LH16～LI17 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側は他の遺構により大きく消失し、全容は不明である。西側で SD285、東側で SA25-P 2 と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。長軸方位は $N-6^{\circ}-W$ である。壁面の傾斜はやや急である。

埋土 2 層に分層した。2 層は遺構の南側壁面周辺に堆積し、崩落土と考えられる。1 層は炭化物や焼土塊、ブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

床面 床面は平坦である。床面で柱穴 2 基、土坑 1 基、カマド 1 基、遺構西側 SD285 の壁面で柱穴 1 基を検出した。P1～P3 で柱痕跡を確認した。4 本柱の柱配置を想定すると、P1～P3 が支柱穴と考えられる。

カマド 東壁のやや北寄りで検出した。埋土は SI 4 埋土を含め 8 層に分層した。1 層は SI 4 埋土である。2 層は焼土ブロックや炭化物、基盤層のブロック土を含み、カマド上部構造の崩落と考えられる。3 層・7 層・8 層に炭化物や焼土ブロックを含む。底面や壁面で被熱痕は確認されなかったが、火床に石や土器片などを敷いていたか、廃絶時に底さらえなどを行った可能性がある。

遺物出土状況 カマド埋土 2 層から土師器の甕(1666)など土師器 14 点が集中して出土した。2 層はカマド上部構造の堆積にあたることから、土師器は建物の廃絶時に廃棄され、埋められたと考えられる。その他にカマド埋土中から土師器 5 点、SI 4 埋土中から土師器 47 点、須恵器 11 点が散在して出土した。P1 から土師器 1 点が出土したが、小片であった。

出土遺物 土師器など 2 点を図示した。1666 は土師器の丸底甕で、つまみ上げ口縁をもつ。1667 は岩崎 101 号窯式に比定した須恵器の坏身 A 類である。

時期 図示した 1666 と 1667 から、本遺構は 7 世紀中葉と考えられる。

SI 5 (図 221)

検出状況 21 地点 LH17～LI18 グリッド、IV b 層上面で検出した。重複の少ない西側では平面形は明瞭であったが、重複の多い北側や南側では不明瞭であった。東側は攪乱により消失する。北側で SK2507、西側で SA23-P 2、南東側で SA22-P 4、遺構内部で SA22-P 2・SA23-P 3・SK2587 と重複する。本遺構は重複するいずれの遺構より古い。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整形とされる。長軸方位は $N-6^{\circ}-W$ である。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。SI 4 と主軸の向きが揃う。

埋土 4 層に分層した。概ね 1 層が堆積し、2 層は遺構の床面に薄く堆積する。3 層は西側、4 層は北側の壁面周辺に堆積し、崩落土と考えられる。1 層・2 層ともにブロック土を多く含むことから人為堆積と考えられる。また、1 層に炭化物や焼土ブロックを含む。

床面 床面は平坦である。床面で柱穴 3 基を検出した。いずれもやや浅く、柱痕跡は確認できなかったが、4 本柱の柱配置を想定すると、P1～P3 が支柱穴と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 86 点、須恵器 45 点、山茶碗 1 点が散在して出土した。このうち山茶碗は混入品と考えられる。P1～P3 から遺物は出土しなかった。

4 第4章 調査の成果

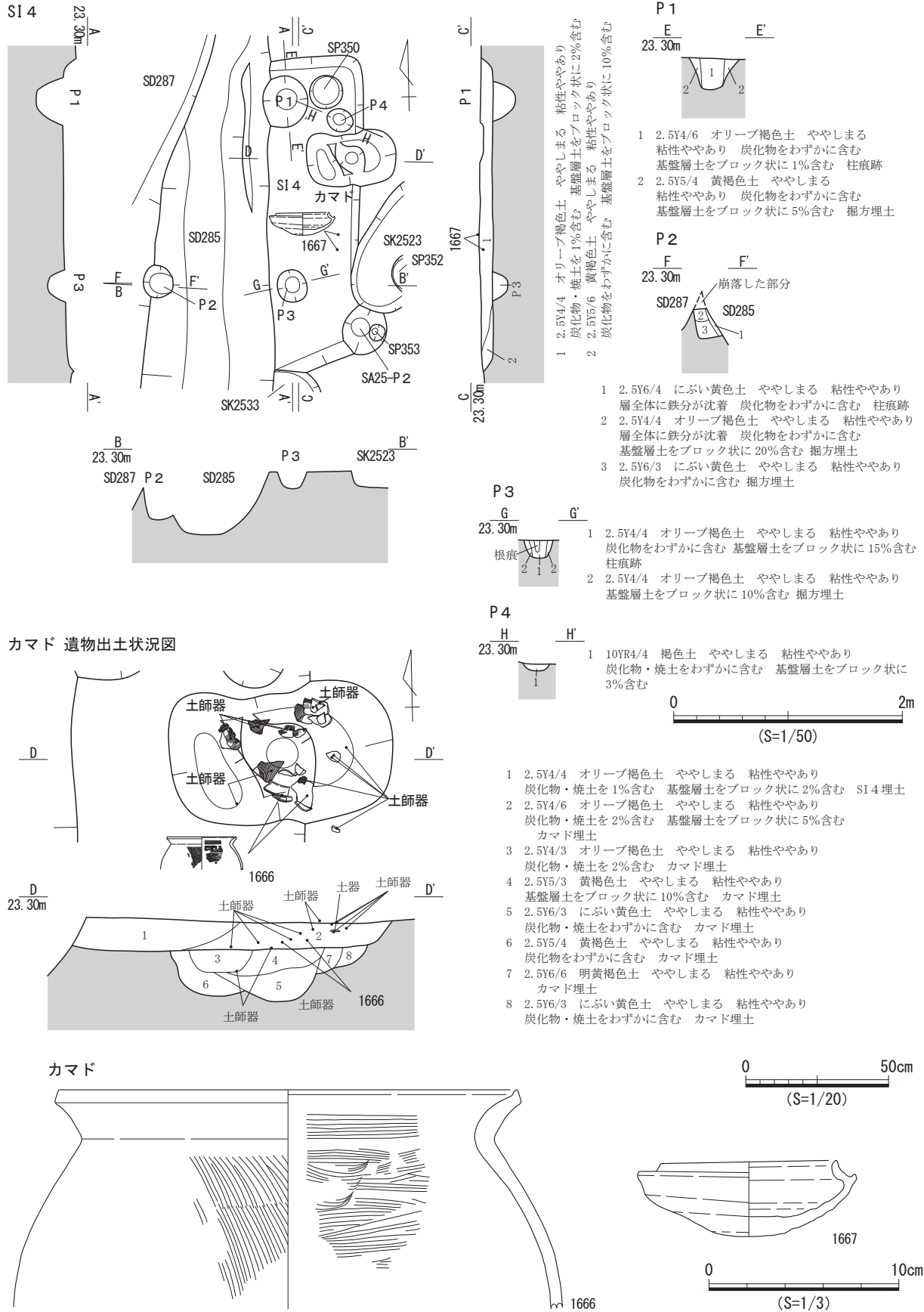


図 220 SI 4 遺構図・出土遺物実測図

SI 5

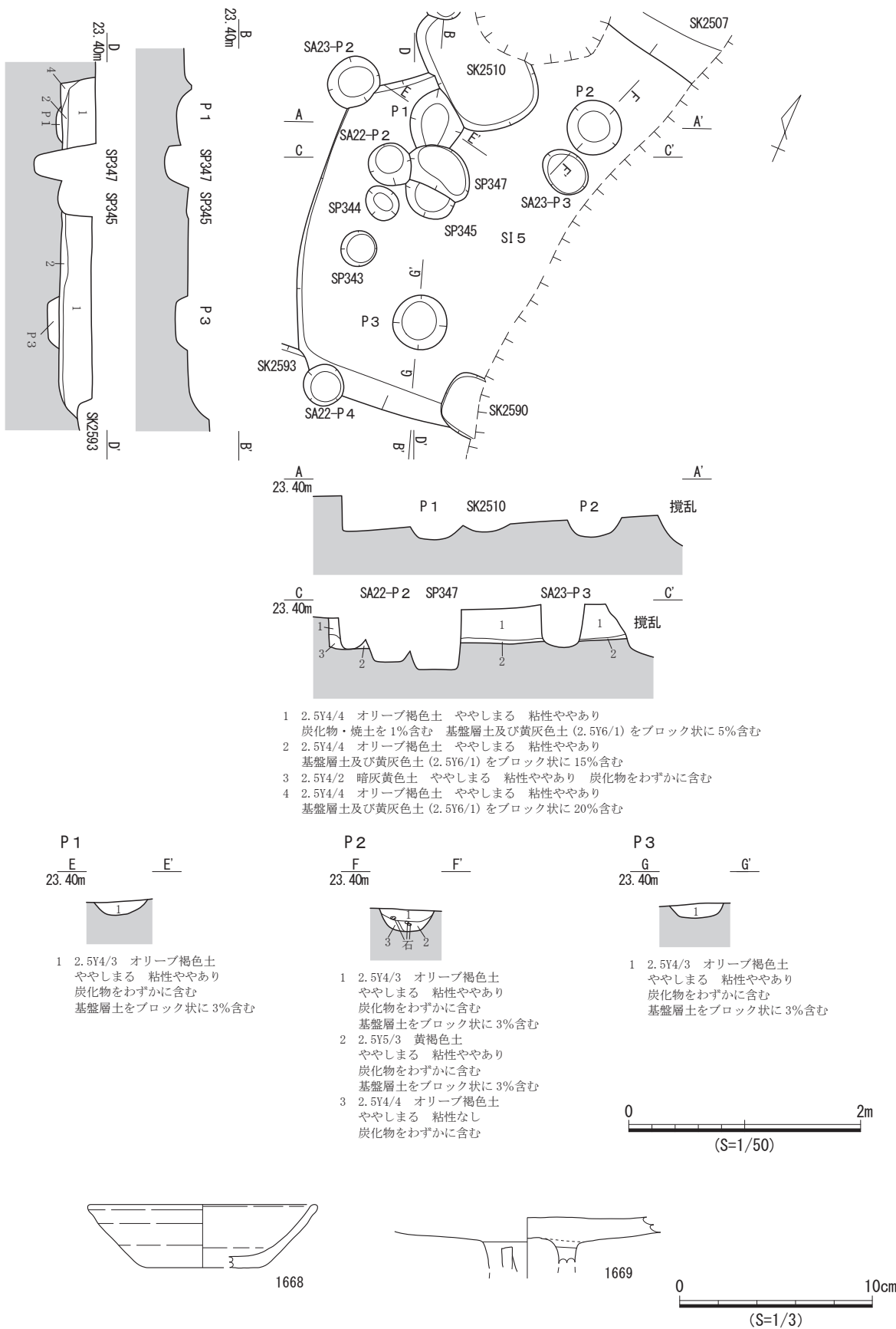


図 221 SI 5 遺構図・出土遺物実測図

出土遺物 須恵器2点を図示した。1668は坏身B類、1669は高盤で、高台に3方向の透孔をもつ。いずれも美濃須衛窯IV期第3小期～V期第1小期に比定した。

時期 図示した1668と1669から、8世紀後葉から9世紀後葉と考えられる。

SI 6 (図 222)

検出状況 21地点LI15グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は埋土が基盤層土と類似し不明瞭であった。西側、南東側、中央部は攪乱により消失する。北側でSK2551・SK2552・SK2553、東側でSK2555・SK2558、遺構内部でSP365と重複する。本遺構はSP365・SK2551・SK2552・SK2555・SK2558より古く、SK2553より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は方形と考えられる。長軸方位はN-11°-Eである。壁面の傾斜は南北側では急で、東側ではやや緩やかに開く。

埋土 6層に分層した。1層に焼土ブロックや炭化物をわずかに含む。2層にも炭化物を含み、ブロック土も多く含むことから、人為堆積と考えられる。4層から6層は壁面周辺に三角堆積し、基盤層のブロック土を含むことから、崩落土と考えられる。

床面 床面は平坦である。床面で柱穴2基と土坑2基を検出した。P1とP2で柱痕跡、P1で柱当たりとみられる底面の窪みを確認した。4本柱の柱配置を想定すると、P1は北東側、P2は南東側に位置し、支柱穴と考えられる。P3は北東隅に位置し、上端の長軸0.9m、深さ0.22mの隅丸方形であることから貯蔵穴の可能性がある。P4は性格不明である。

遺物出土状況 埋土中から土師器128点、須恵器6点、山茶碗3点、白磁2点が散在して出土した。P1～P4から遺物は出土しなかった。

出土遺物 土師器2点を図示した。1670と1671は廻間Ⅱ式のミニチュアのS字甕B類である。

時期 第5型式～第6型式の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は12世紀後葉から13世紀中葉と考えられる。

SI 7 (図 223)

検出状況 21地点LI16～LI17グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北東部以外は他の遺構や攪乱により消失する。西側でSD285、東側でSI9と重複する。本遺構はSI9・SD285より古い。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。長軸方位はN-3°-Eである。壁面の傾斜はやや緩やかに開く。

埋土 4層に分層した。1層に焼土ブロックを含む。2層は焼土と基盤層のブロックが混じる層で、人為堆積と考えられる。3層は東壁際に堆積し、基盤層のブロック土を含むため、崩落土と考えられる。4層は北西部に部分的に堆積し、焼土ブロックや炭化物、基盤層のブロック土を多く含む。

床面 床面は平坦である。床面から柱穴2基と土坑1基を検出した。P2で柱当たりとみられる底面の窪みを確認した。P1の壁面はほぼ垂直に立ち上がる柱穴状の掘方である。4本柱の柱配置を想定すると、P1は北東側、P2は南東側に位置し、支柱穴と考えられる。P3は性格不明である。

遺物出土状況 P1から完形の須恵器坏身1点(1673)が、正位で置かれたような形で出土した。その他にSI7埋土中から土師器14点、須恵器10点、山茶碗1点が散在して出土した。このうち山茶碗は混入品と考えられる。P2から土師器1点出土したが、小片であった。

SI 6

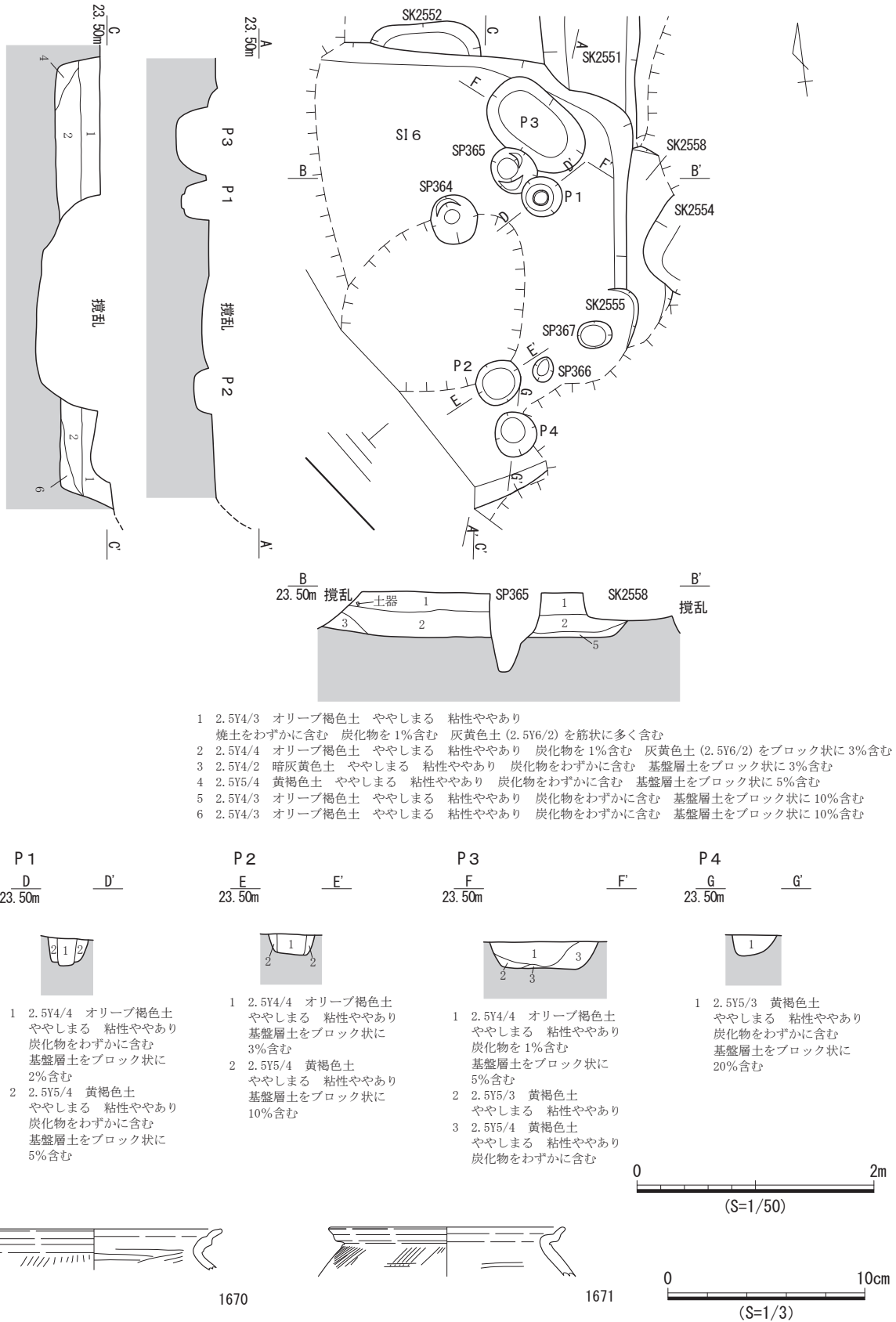


図 222 SI 6 遺構図・出土遺物実測図

SI 7

P 1 遺物出土状況図

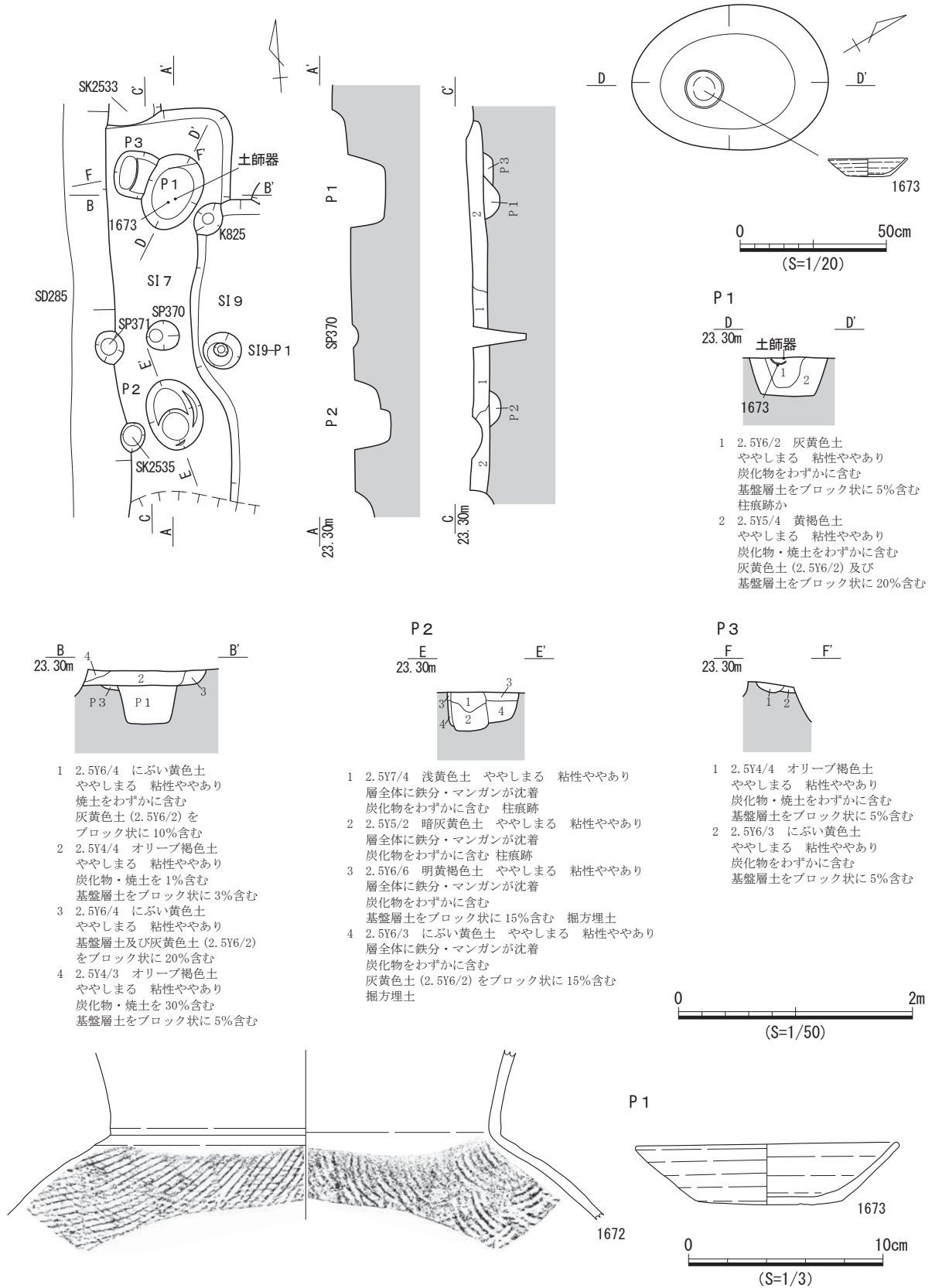


図 223 SI 7 遺構図・出土遺物実測図

出土遺物 須恵器2点を図示した。いずれも美濃須衛窯産で、1672はⅣ期第3小期に比定した甕、1673はⅤ期第1小期に比定した坏身B類である。

時期 図示した1673から、本遺構は9世紀初頭から後葉と考えられる。

SI8 (図224)

検出状況 21地点LI18～LJ19グリッド、Ⅳb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。西側は攪乱により消失し、北側は発掘区外に続く。また、東側も遺構の重複により消失する。南側でSA33-P4、東側でSK2626、遺構内でSA29-P1・P2・SA30-P1・P2・SA31-P1・P2・SP395・SP396・SD275と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不明である。長軸方位はN-2°-Wと考えられる。南側の壁面の傾斜は急である。

埋土 3層に分層した。1層は遺構の大部分に堆積し、炭化物や焼土が混じる。2層は南辺部に堆積し、焼土ブロックや炭化物を含む。3層は西側に堆積し、2層に似た堆積である。1層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

床面 床面は平坦である。床面で柱穴2基を検出した。P1は遺構の南壁近くに位置するため、支柱穴とした。P2は想定される柱配置から外れ、性格不明である。

遺物出土状況 埋土中から土師器54点、須恵器15点、山茶碗1点、石製品(剥片)1点が散在して出土した。このうち山茶碗は混入品と考えられる。P1とP2から遺物は出土しなかった。

出土遺物 土師器など2点を図示した。1674は土師器の丸底甕で、つまみ上げ口縁をもつ。1675は美濃須衛窯Ⅴ期第1小期に比定した坏身B類である。

時期 図示した1675から、本遺構は9世紀初頭から後葉と考えられる。

SI9 (図225・226)

検出状況 21地点LI17グリッド、Ⅳb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側中央と南西側は攪乱により消失する。西側でSI7、南側でSI11と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸不整形と考えられる。西辺はP1付近で屈曲する。長軸方位はN-78°-Wである。壁面の傾斜は西側ではやや緩やかだが、他の側では急である。

埋土 15層に分層した。1層は遺構全体の上層に堆積する。埋土の多くに基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。底面付近の埋土は鉄分やマンガンにより硬化していた。

床面 床面はほぼ平坦であるが、北に向かってやや傾斜する。床面で柱穴2基と土坑2基を検出した。P1では柱痕跡と柱当たりとみられる底面の窪みを確認した。P2では柱根(1682)と礎盤石を確認した。P1とP2は竪穴の東西両辺の中心付近の壁際に位置し、2本柱の配置と考えられる。

遺物出土状況 遺構検出面で宝篋印塔(1677)、1層から石臼(1678)が出土した。この他に埋土中から土師器138点、須恵器27点、灰釉陶器9点、山茶碗52点、陶器28点、金属製品2点(銅製飾金具(1680)、鉄製責金具(1681))が散在して出土した。P1から土師器4点、灰釉陶器1点、山茶碗1点が散在して出土し、P2から柱根(1682)が出土した。

出土遺物 灰釉陶器など7点を図示した。1676は黒笹90号窯式に比定した灰釉陶器の碗である。1677は宝篋印塔で、笠の隅飾である。1678は石臼(粉挽臼)の下臼である。1679は砥石である。1680は銅製の飾金具である。板状で、上部の破断面に沿って沈線が認められ、緩やかに湾曲する。筒状のも

SI 8

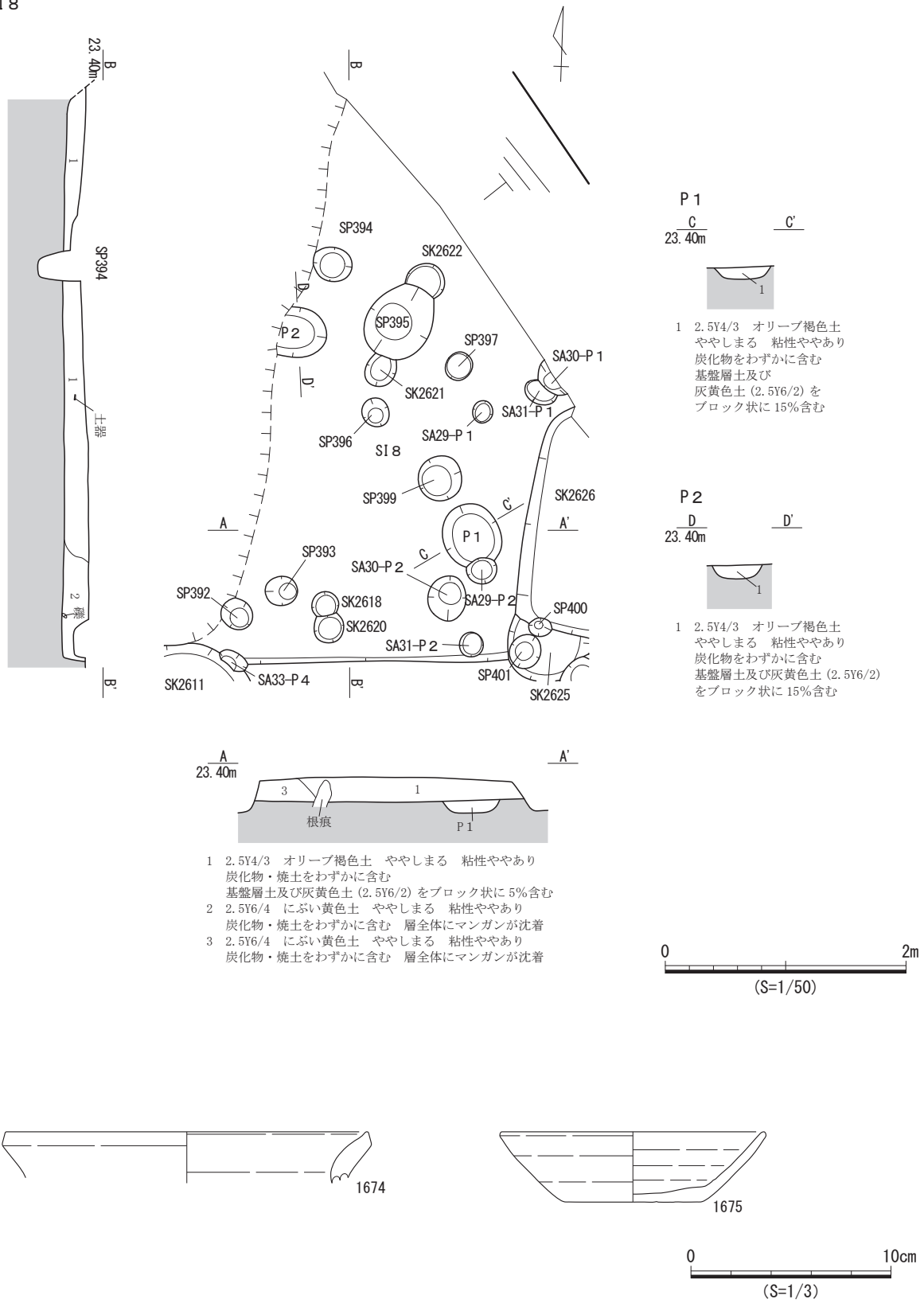


図 224 SI 8 遺構図・出土遺物実測図

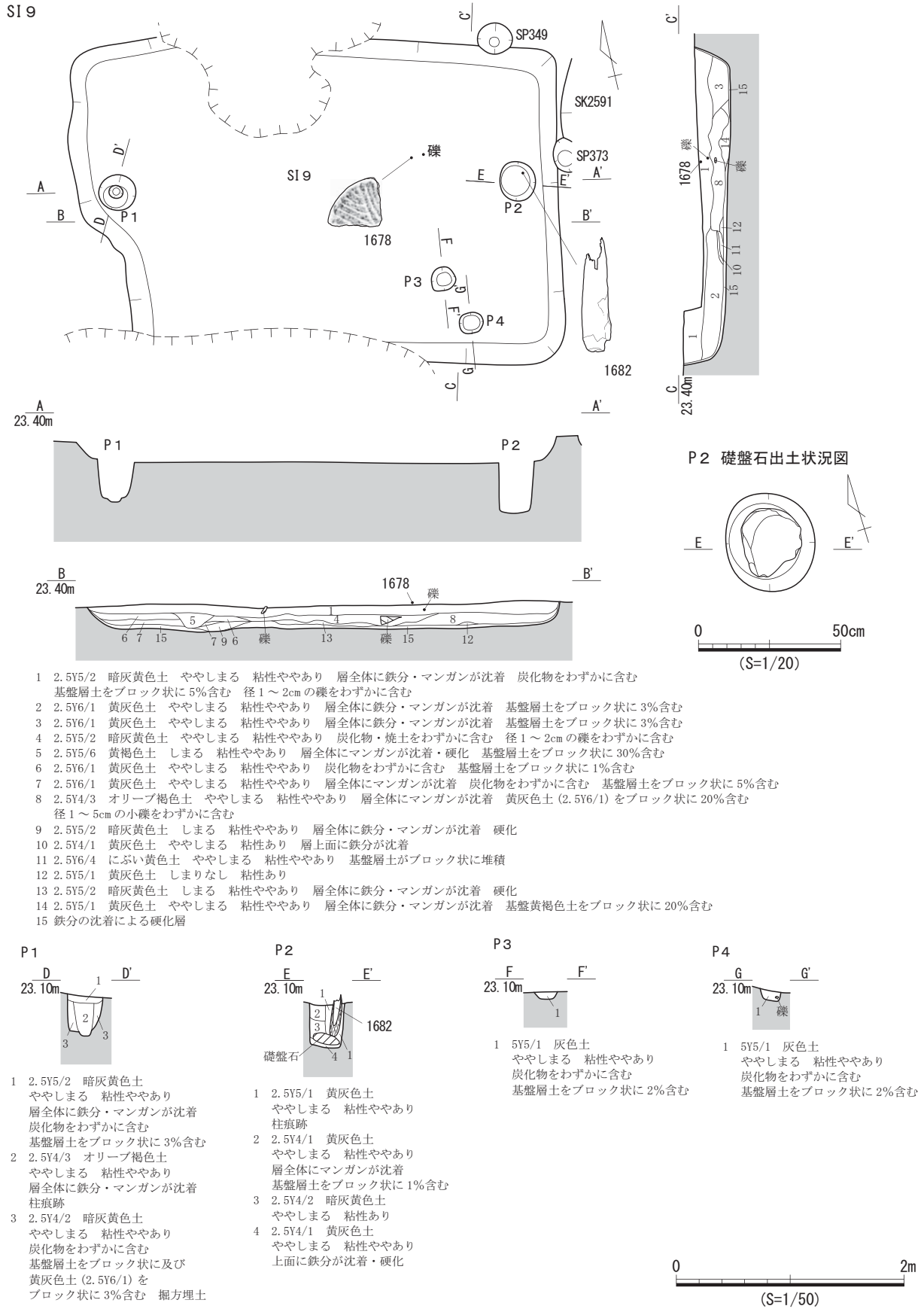


図 225 SI 9遺構図

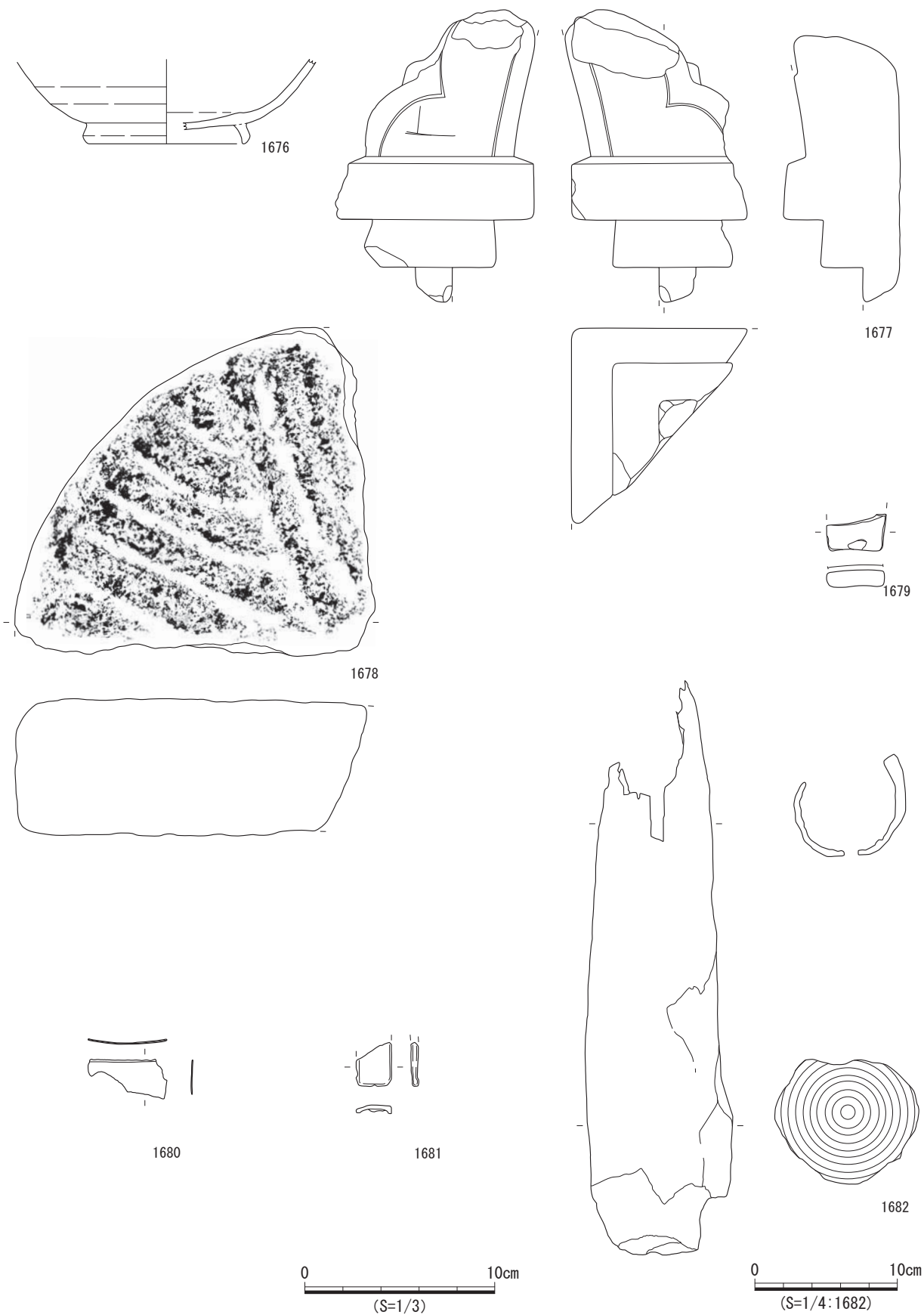


図 226 SI 9 出土遺物実測図

のに取り付けられた可能性がある。1681 は鉄製の責金具である。三方の端部が屈曲してわずかに突出する。帯状のものの先端部に取り付けられた可能性がある。1682 はクリ材の柱根である。上部にほぞ穴が確認でき、建物の上部構造に用いられた建築部材の転用と考えられる。

時期 古瀬戸後IV期古段階の平碗が出土したことから、本遺構は15世紀中葉と考えられる。

SI10 (図227)

検出状況 21 地点 LJ18 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北東隅と南西隅は攪乱により消失し、北側は重複により大きく消失する。北側で SK2591、西側で SI11、南東側で SA33-P 3、東側で SA35-P 3、遺構内部で SA33-P 2・SA35-P 2 と重複する。本遺構は SA33・SA35・SK2591 より古く、SI11 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。長軸方位はN-79°-Eである。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土 5層に分層した。5層は西側の一部に堆積し、整地土と考えられる。また、1層～4層は基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

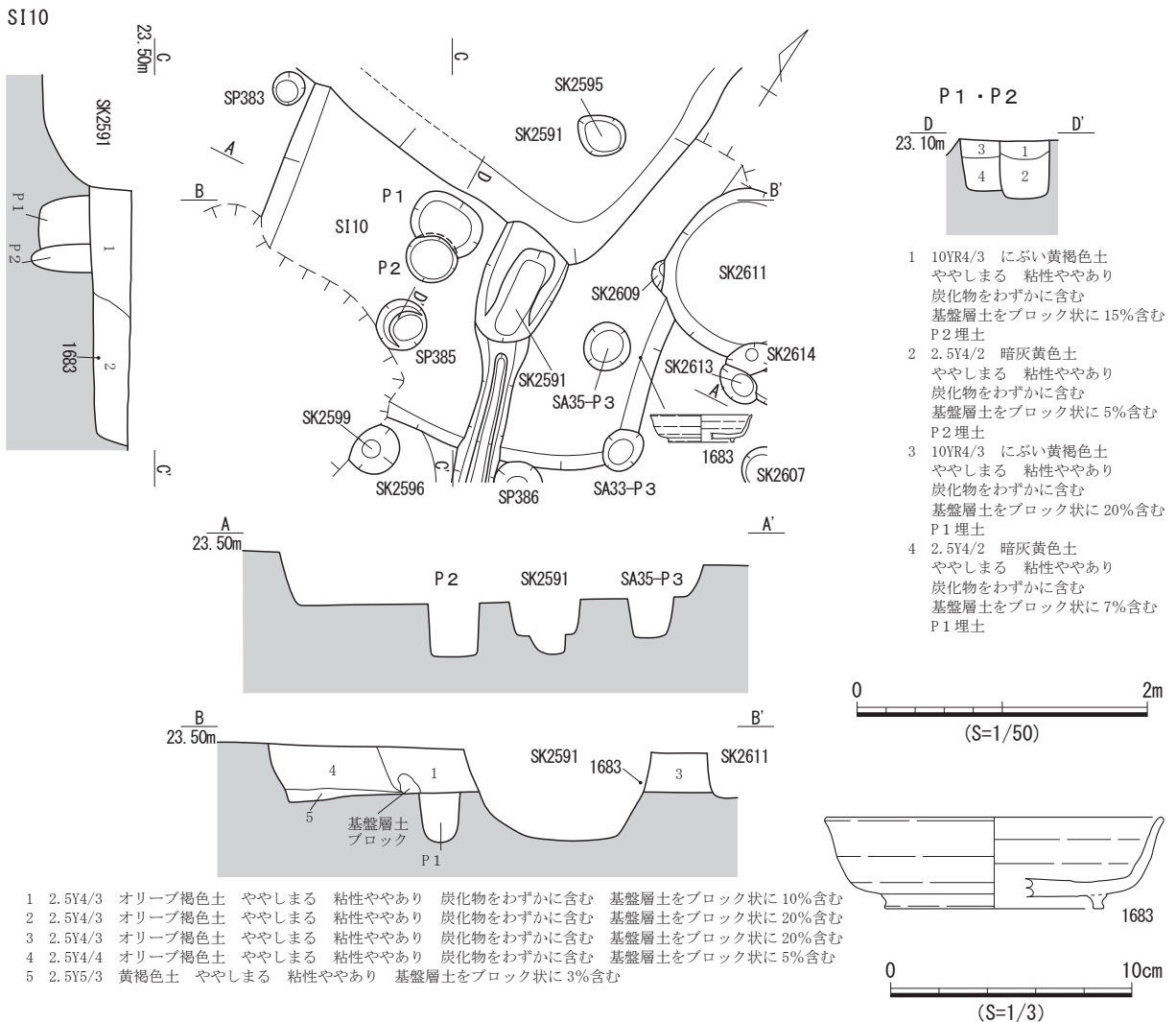


図227 SI10 遺構図・出土遺物実測図

床面 床面は平坦である。床面で柱穴2基を検出した。P1とP2は重複し、P2はP1を掘り込んでいる。どちらも壁面は垂直に立ち上がり、埋土は基盤層のブロック土を含む。P2はP1の掘り直しと考えられる。P1とP2は主柱穴と考えられるが、柱配置は不明である。

遺物出土状況 埋土中から土師器49点、須恵器22点、山茶碗6点が散在して出土した。P1とP2から遺物は出土しなかった。

出土遺物 須恵器1点を図示した。1683は美濃須衛窯IV期第3小期～V期第1小期に比定した坏身C類である。

時期 大洞東1号窯式に比定した東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構は14世紀後葉から15世紀初頭と考えられる。

SI11 (図228～231)

検出状況 21地点LI17～LJ18グリッド、IVb層上面で検出した。攪乱や遺構の重複により掘方が確認できたのは北壁の一部のみで、平面形は不明瞭であった。北側でSI9、東側でSI10、北東側でSK2591、遺構内部でSA33-P1・SA35-P1と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 平面形は重複により不明である。長軸方位はN-14°-Eである。北側壁面の傾斜はや

SI11

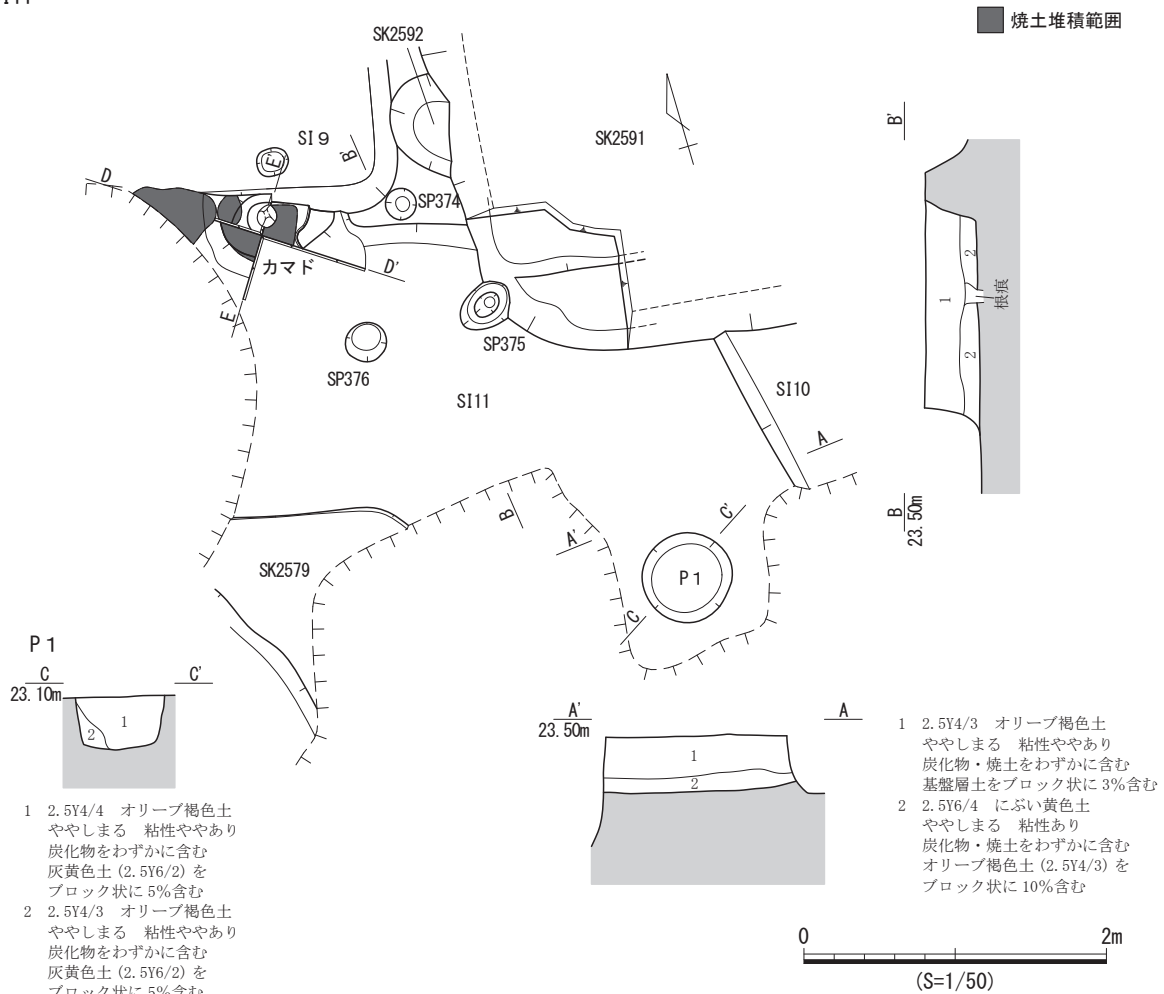
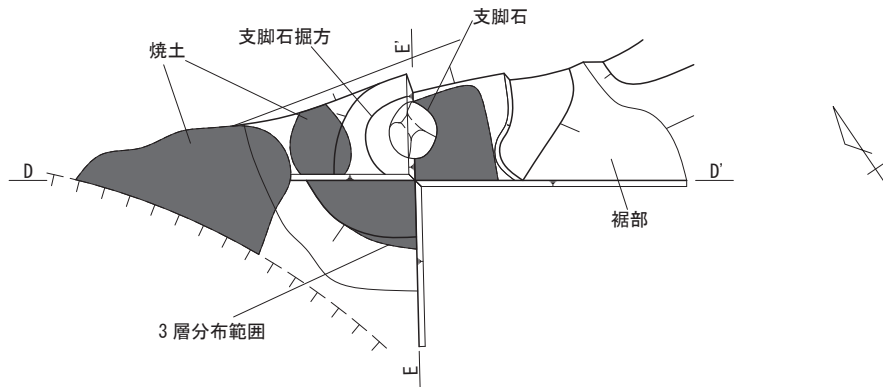
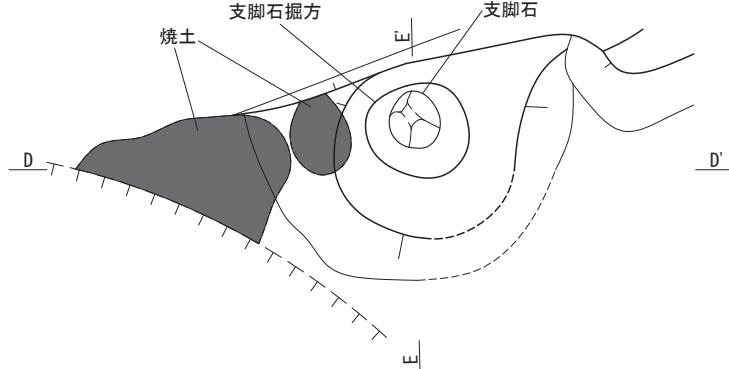


図228 SI11 遺構図(1)

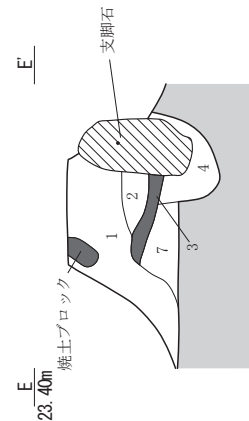
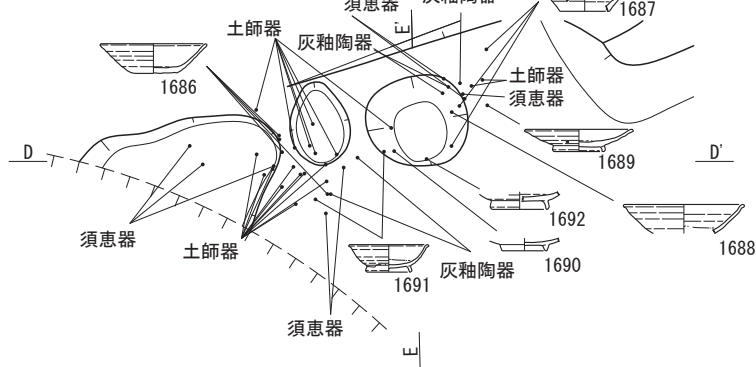
カマド3層上面平面図



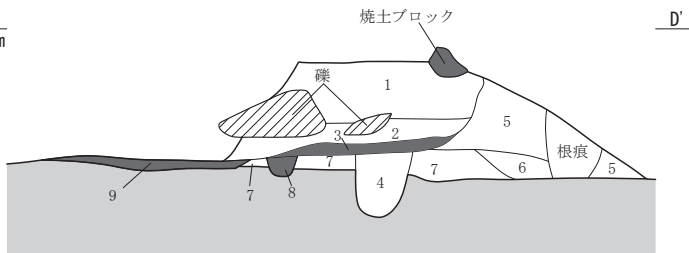
カマド7層上面平面図



カマド完掘図



D
23.40m



- 1 2.5Y5/3 黄褐色土 ややしまる 粘性なし
炭化物・焼土を1%含む 部分的に焼土をブロック状に含む
- 2 2.5Y6/2 灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土を2%含む 基盤層土をブロック状に5%含む
- 3 2.5Y6/2 灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
層上面に焼土がブロック状に集中 炭化物をわずかに含む
基盤層土をブロック状に5%含む
- 4 2.5Y7/4 浅黄色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土を1%含む 基盤層土をブロック状に15%含む

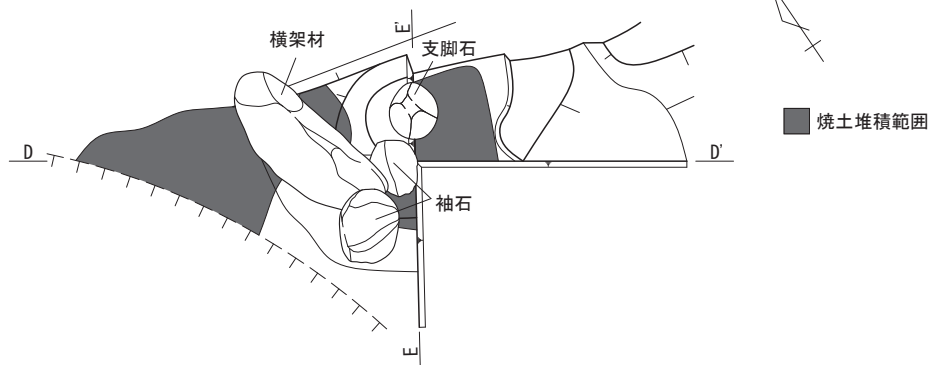
- 5 2.5Y7/6 明黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 灰黄色土(2.5Y6/2)を
ブロック状に3%含む
- 6 2.5Y6/6 明黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 灰黄色土(2.5Y6/2)を
ブロック状に2%含む

- 7 2.5Y7/6 明黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む
- 8 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土を5%含む 基盤層土をブロック状に
10%含む
- 9 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土を5%含む 基盤層土をブロック状に
10%含む

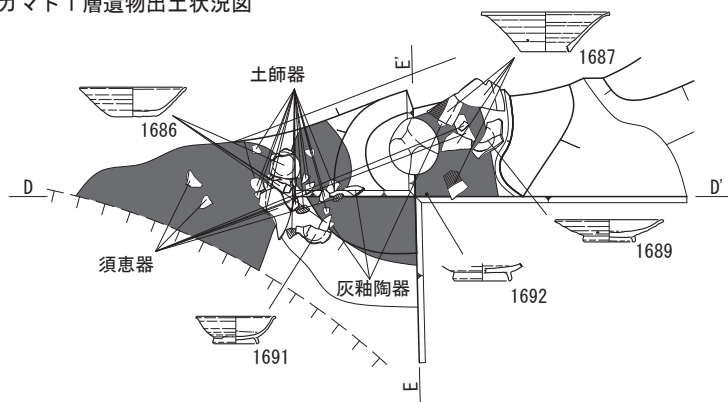
0 50cm
(S=1/20)

図 229 SI11 遺構図 (2)

カマド礫検出状況図



カマド1層遺物出土状況図



カマド2層遺物出土状況図

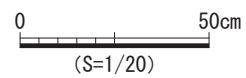
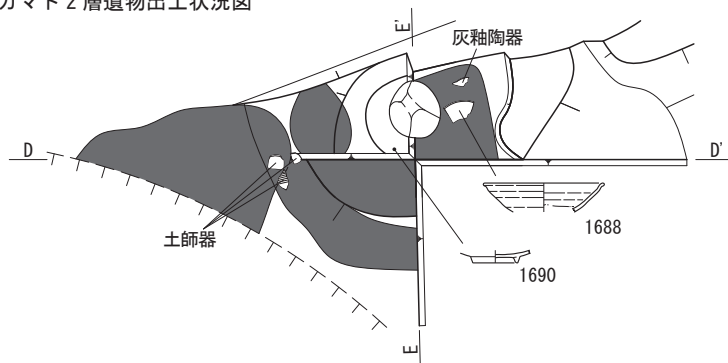


図 230 SI11 遺構図 (3)

や急である。

埋土 2層に分層した。1層は水平堆積であるが、2層に比べて厚く堆積する。1層・2層ともに炭化物や焼土ブロックが混じり、基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

床面 床面は概ね平坦である。床面で柱穴1基とカマド1基を検出した。P1は深さが0.32mあり、壁面は垂直に立ち上がる。柱配置は不明であるが、支柱穴の一つと考えられる。

カマド 北西壁際で検出した。カマドの北側で支脚石と想定される、意図的に立てられた川原石を確認した。支脚石の西側で被熱して破砕した川原石2点を確認した。形状から横架材と袖石と考えられる。また、東側の5層・6層はカマドの袖部分の盛土で、支脚石の西側は袖石、東側は盛土により構築している。1層は焼土ブロックを含み、カマド上部構造の崩落と思われる。支脚石の周辺の3層は焼土ブロックを含む。8層と9層は3層同様焼土ブロックを含む。

遺物出土状況 カマド支脚石周辺の1層と2層から多数の土器片(1686~1692含む)が出土した。カマド廃絶時に廃棄して埋められた可能性がある。これらを含めカマド埋土中から土師器32点、須恵器25点、灰釉陶器17点が散在して出土した。この他にSI11埋土中から土師器45点、須恵器13点、灰釉陶器1点が散在して出土した。P1から遺物は出土しなかった。

出土遺物 土師器など9点を図示した。1684と1685は土師器の丸底甕である。1686と1687は須恵器である。1686は美濃須衛窯V期第1小期に比定した坏身B類で、底部外面に「+」の線刻が施される。1687は産地不明で美濃須衛窯V期第1小期併行に比定した平鉢である。1688~1692は灰釉陶器で、1691は黒笹90号窯式に比定した碗、1688~1690は折戸53号窯式に比定した碗と皿、1692は光ヶ丘1号窯式に比定した碗である。

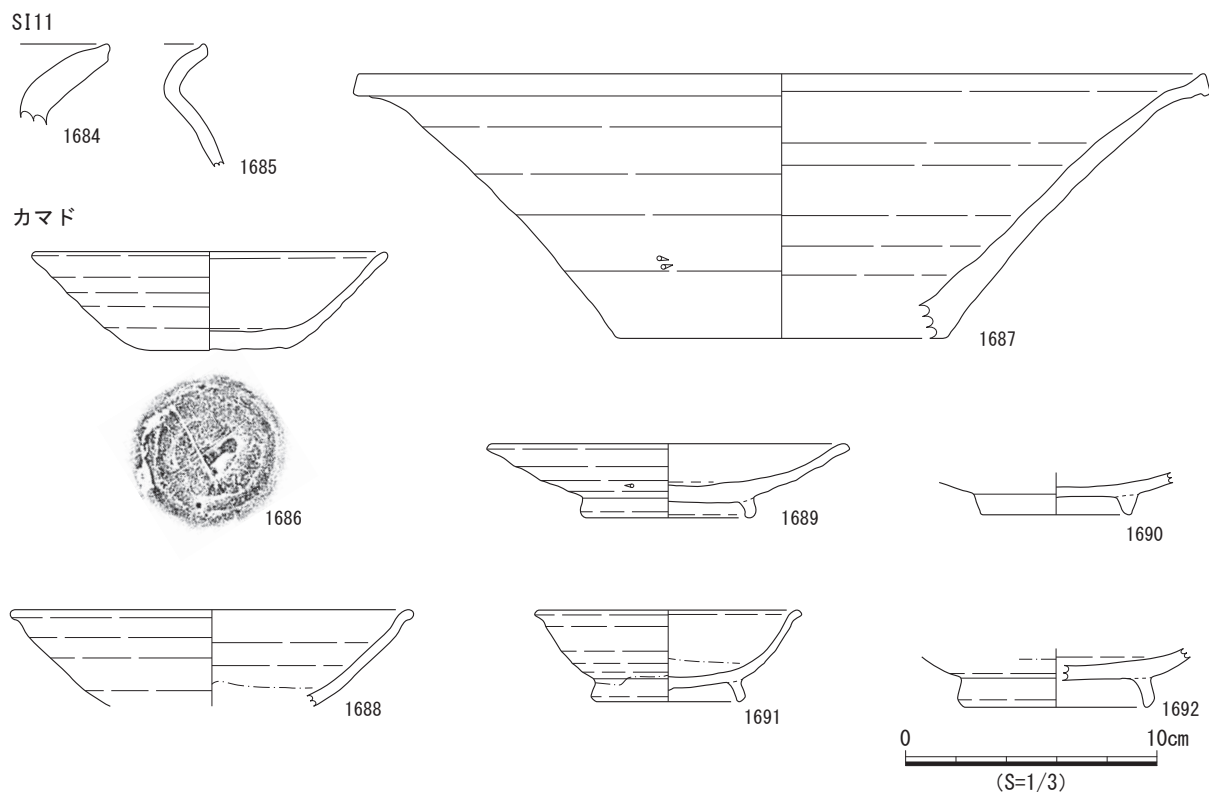


図 231 SI11 出土遺物実測図

時期 図示した 1688～1690 から、本遺構は 10 世紀前葉から中葉と考えられる。

SI12 (図 232・233)

検出状況 21 地点 LJ19～LK19 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は北側では明瞭であったが、南側では不明瞭であった。南側で SD283 と重複する。本遺構は SD283 より古い。

規模・形状 平面形は隅丸不整形である。長軸方位は $N-3^{\circ}-E$ である。壁面の傾斜は 4 辺とも緩やかに開く。

埋土 5 層に分層した。埋土に基盤層のブロック土を含むことから人為的に埋められたと考えられる。東西の壁側の 4 層と 5 層が埋め戻されたのち、溝状となった中央の窪みに 3 層・2 層・1 層の順に埋めていったと考えられる。

床面 床面は概ね平坦である。床面で柱穴 4 基を検出した。P1・P2・P4 は堅穴の掘方に沿った方形の柱配置から支柱穴と考えられる。P3 は柱穴状の掘方を有するが柱配置から外れ、堅穴の掘方と重なり支柱穴とは考えにくい。P3 の 1 層から扁平な礫が確認されたが、底面から 0.5m ほど浮いており礎盤石の可能性は低い。

遺物出土状況 東壁面付近の 1 層からほぼ完形の土師器皿(1694)が正位で出土した。その他に SI12 埋土中から土師器 97 点、須恵器 10 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 29 点、陶磁器 6 点が散在して出土した。P2 から土師器 3 点、山茶碗 3 点、P3 から土師器 3 点、須恵器 1 点、P4 から土師器 1 点、須恵器 2 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 土師器皿 4 点を図示した。1695 と 1696 は B 1 類、1693 と 1694 は M 3 類である。

時期 図示した 1693 と 1694 から、本遺構は 12 世紀後葉から 13 世紀中葉と考えられる。

SI13 (図 234)

検出状況 21 地点 LK18～LK19 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。西側は攪乱により消失し、南側は発掘区外に続く。北側で SK2591・SK2596、中央で SD283 と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。長軸方位は $N-6^{\circ}-E$ である。壁面の傾斜は東壁面のみで確認でき、北側はやや急で南側はやや緩やかに開く。

埋土 3 層に分層した。1 層は上層の一部に薄く堆積し、炭化物と暗灰黄色土のブロックを含む。2 層は遺構全体に広く堆積する。炭化物や基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。3 層は遺構の北端の床面上にわずかに堆積し、炭化物を含む。

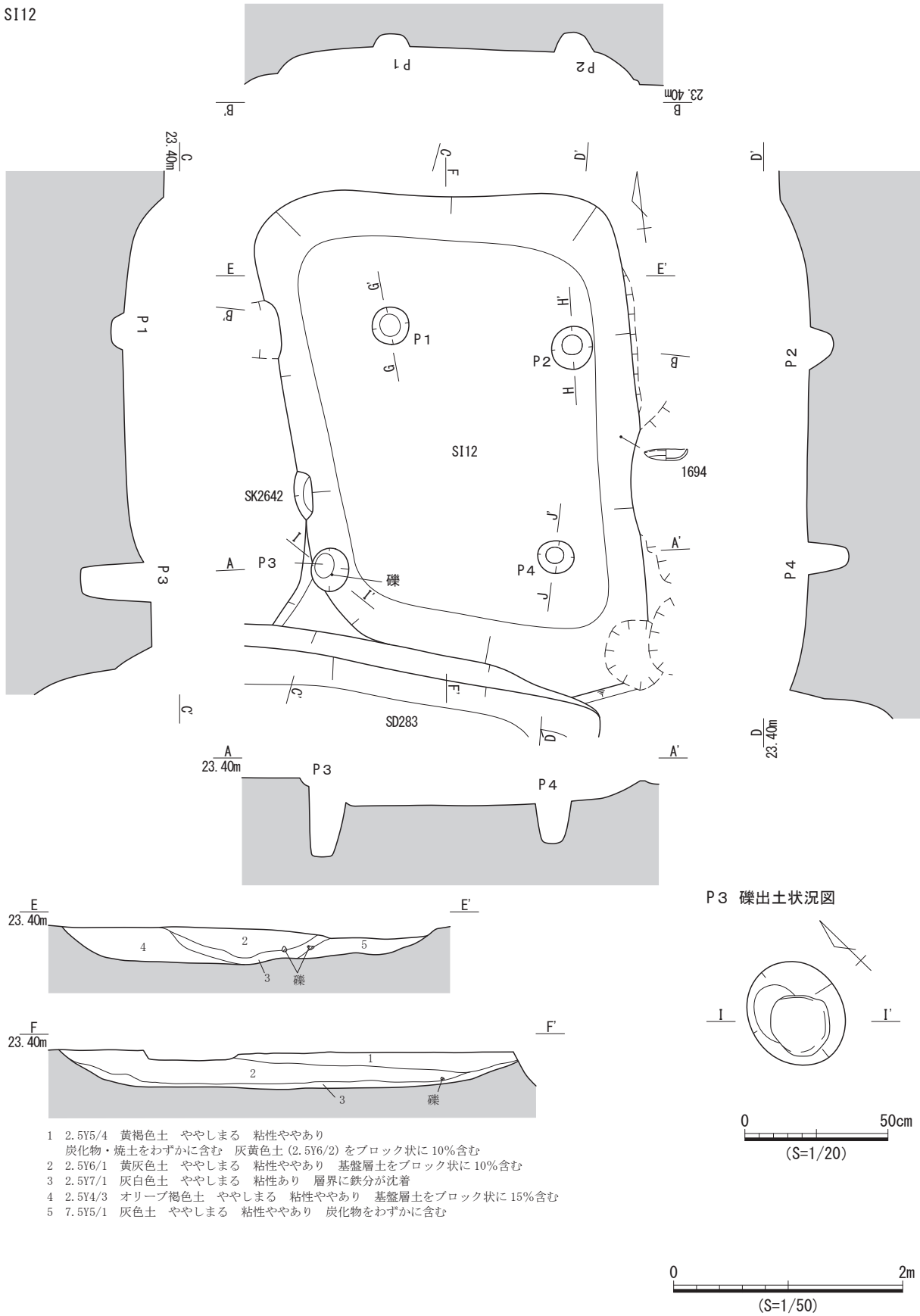
床面 床面は概ね平坦であるが、東に向かいやや傾斜する。床面で柱穴 2 基と土坑 1 基を検出した。P1 と P2 は堅穴の北辺と平行して並ぶことから、柱痕跡は確認できなかったが支柱穴と考えられる。P3 は遺構の中央やや東寄りで見出した深さ 0.2m ほどの土坑である。1 層が垂直に分層されるが、性格は不明である。

遺物出土状況 床面上の P3 検出面で、外面を上にした土師器甕の胴部片と灰釉陶器片が出土した。その他に埋土中から土師器 8 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 3 点が散在して出土した。P3 から灰釉陶器 1 点が出土したが、小片であった。

出土遺物 山茶碗 1 点を図示した。1697 は第 7 型式の尾張型山茶碗である。

時期 図示した 1697 から、本遺構は 13 世紀後葉から末と考えられる。

S112



SI14 (図 235・236)

検出状況 21 地点 LJ16~LK17 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。南側は発掘区外に続く。北側、東側は攪乱、西側は他の遺構により一部消失する。南西側で SD286、南側で SL12、東側で SK2575、中央で SD283、遺構内で SP379・SD285・SD288 と重複する。本遺構は SP379・SD283・SD285・SD286・SD288 より古く、SL12・SK2575 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整形と考えられる。長軸方位はN-11°-Eである。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土 3層に分層した。1層は、2層に比べて厚く水平に堆積し、炭化物や焼土を含む。2層は床面の上に薄く堆積し、炭化物を含む。3層はSD285の西側に堆積し、炭化物を含む。すべての層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

床面 床面は概ね平坦であるが、南東に向かってやや傾斜する。床面で柱穴3基と土坑5基を検出した。P1で柱痕跡を確認し、P2で底面中央に柱当たり状の窪みを確認した。またP6は壁面が垂直に立ち上がる掘方である。4本柱の配置を想定すると、P1・P2・P6が支柱穴と考えられる。土坑5基は遺構南西部に集中するが性格は不明である。

遺物出土状況 P6の底面から2つに割れた山茶碗の底部(1700)が逆位で出土した。その他にSI14埋土中から土師器131点、須恵器85点、灰陶陶器2点、山茶碗16点、陶器2点、器種不明の鉄製品1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など3点を図示した。1698は土師器の長胴甕である。1699は美濃須衛窯V期第1小

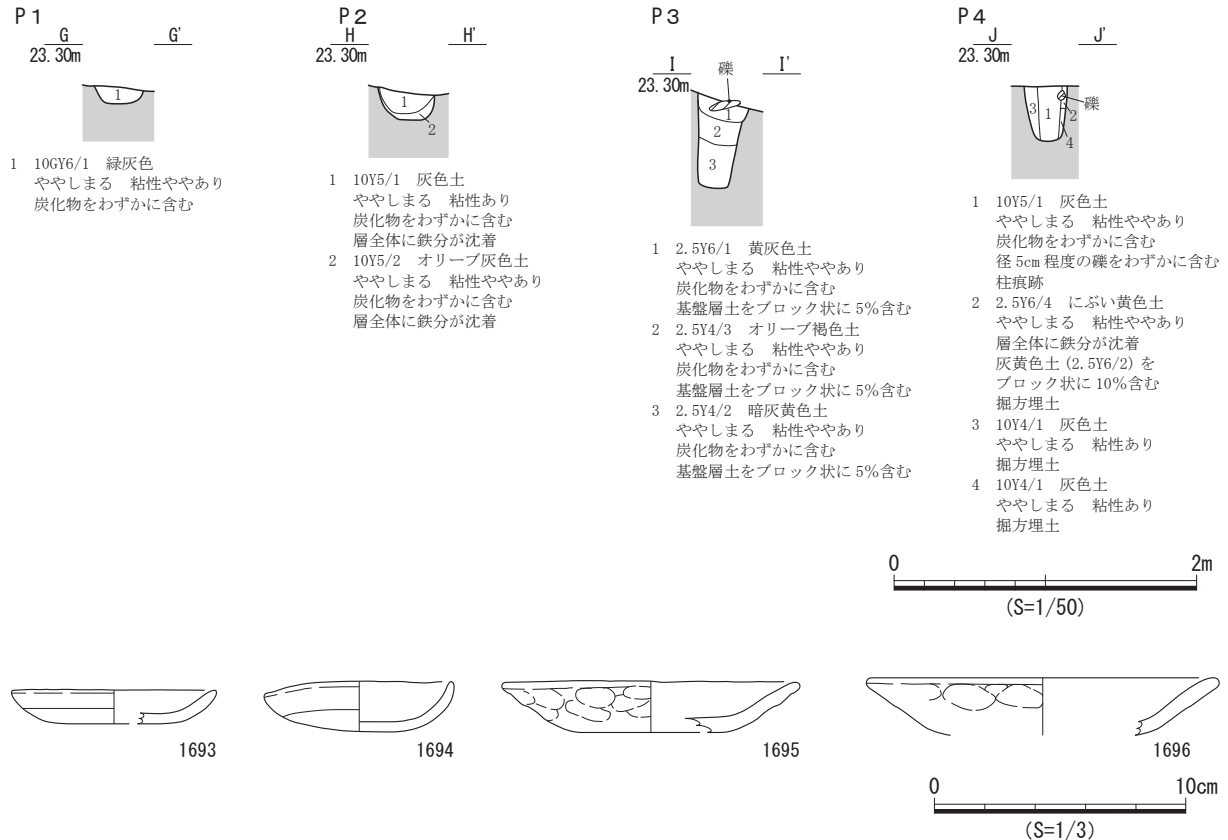
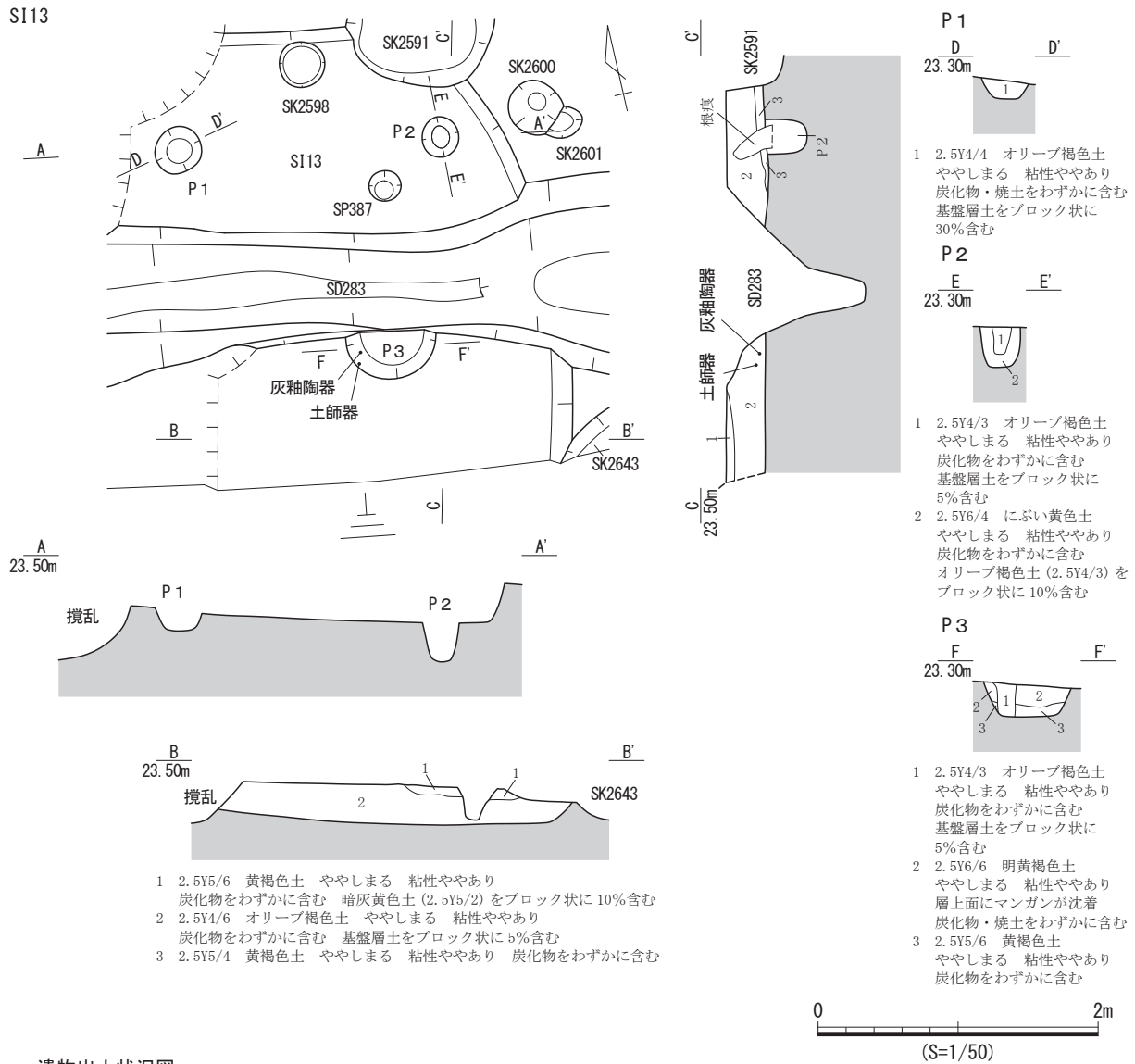


図 233 SI12 遺構図 (2)・出土遺物実測図



遺物出土状況図

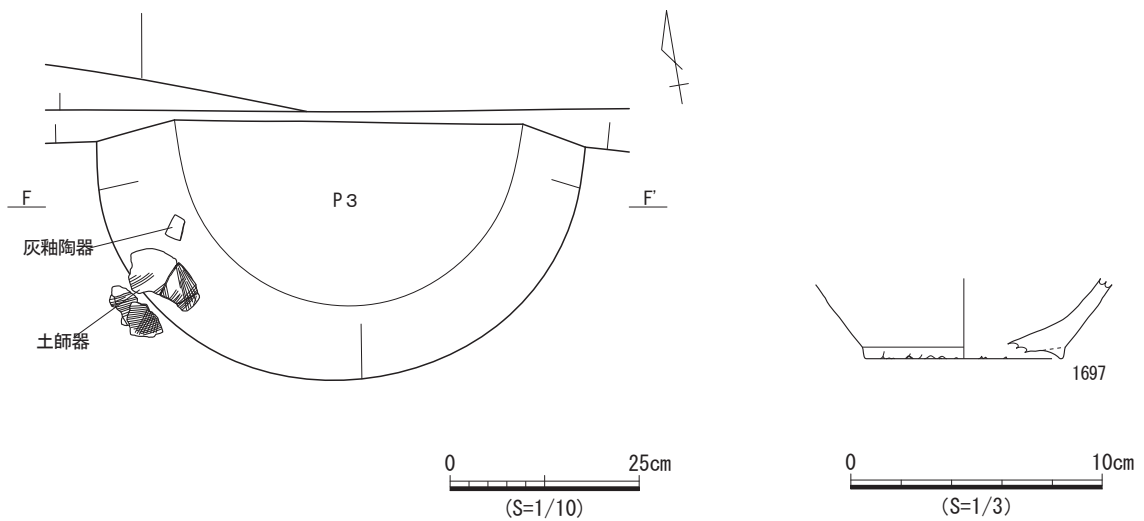


図 234 S113 遺構図・出土遺物実測図

SI14

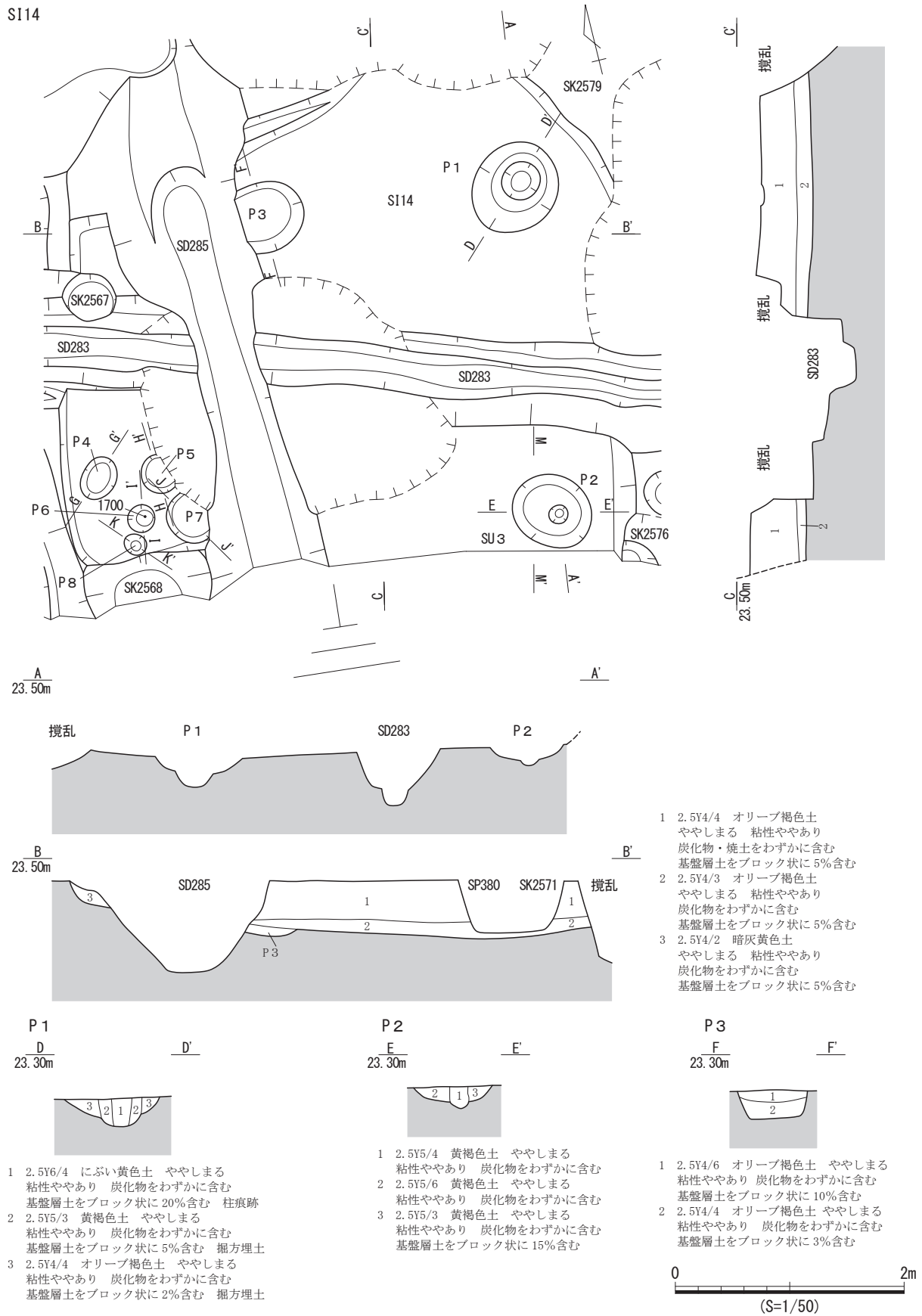


図 235 SI14 遺構図 (1)

期に比定した碗である。1700は第4型式の尾張型山茶碗である。

時期 図示した1700から、本遺構は12世紀中葉から後葉と考えられる。

2 掘立柱建物

SB16 (図237)

検出状況 2地点IP8～IQ9グリッド、IVb層上面で検出した。北西隅は攪乱により消失するが、2間×1間の側柱建物と考えられる。各柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。P1はSK2179と重複する。本遺構はSK2179より新しい。

規模・形状 長軸方位はN-4°-Eである。桁行2間(4m、柱間2m-2m)、梁行1間(2.5m)、面積10㎡である。建物の長軸方向はSD260と同一で、SD260は本遺構を区画する溝と考えられる。

柱穴 いずれの柱穴も平面形は円形である。P2で柱痕跡を確認し、4層の上面で礎盤石とみられる扁平な礫を確認した。P1から土師器2点、P2から土師器14点、山茶碗6点、常滑産の甕1点、釘1点、P3から土師器6点、山茶碗1点、常滑産の甕1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿など4点を図示した。1703はC1類、1701と1704はM3類の土師器皿である。1702は第6型式の尾張型山茶碗の片口鉢である。

時期 SK2179との重複関係から、本遺構は15世紀後葉以降と考えられる。

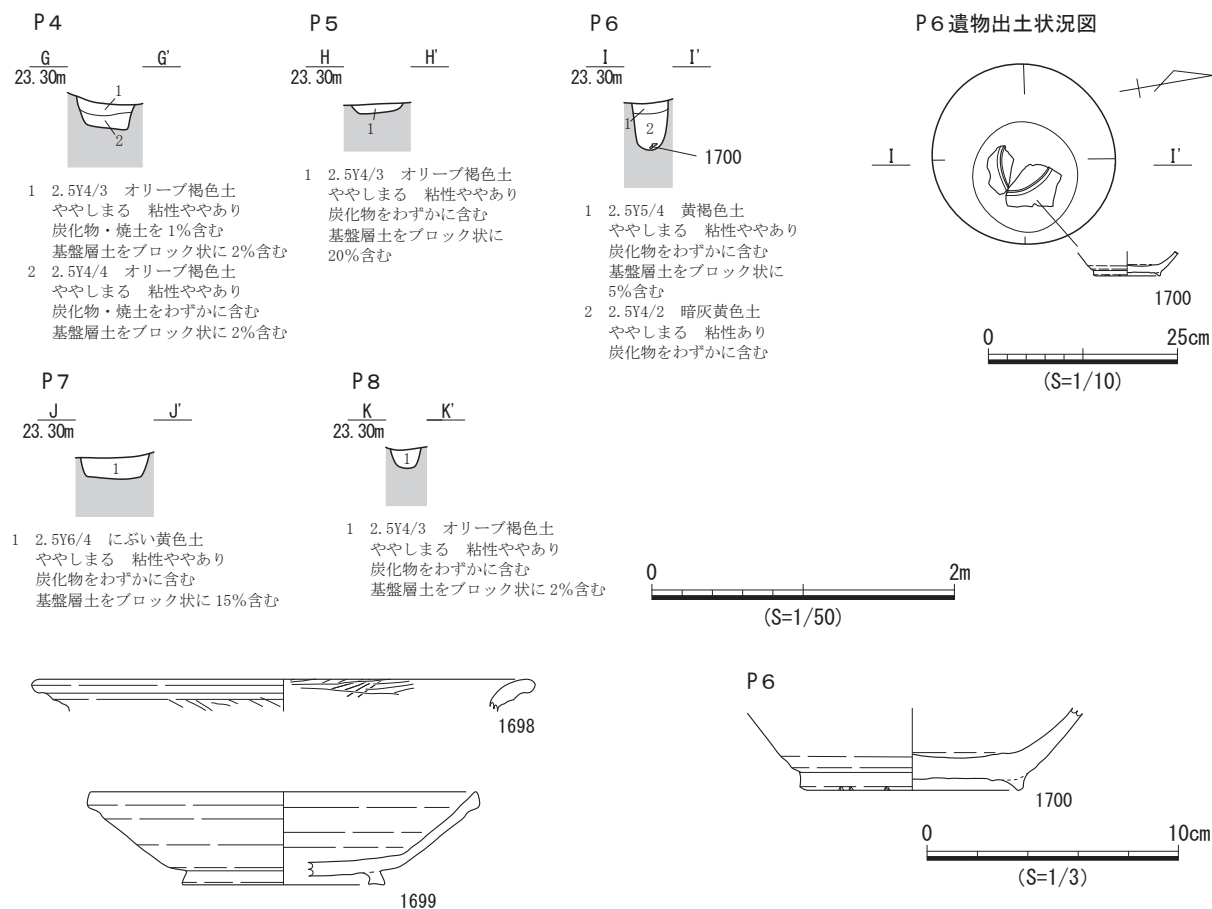
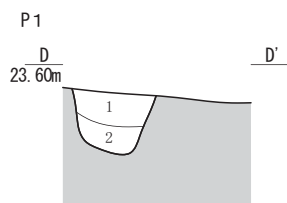
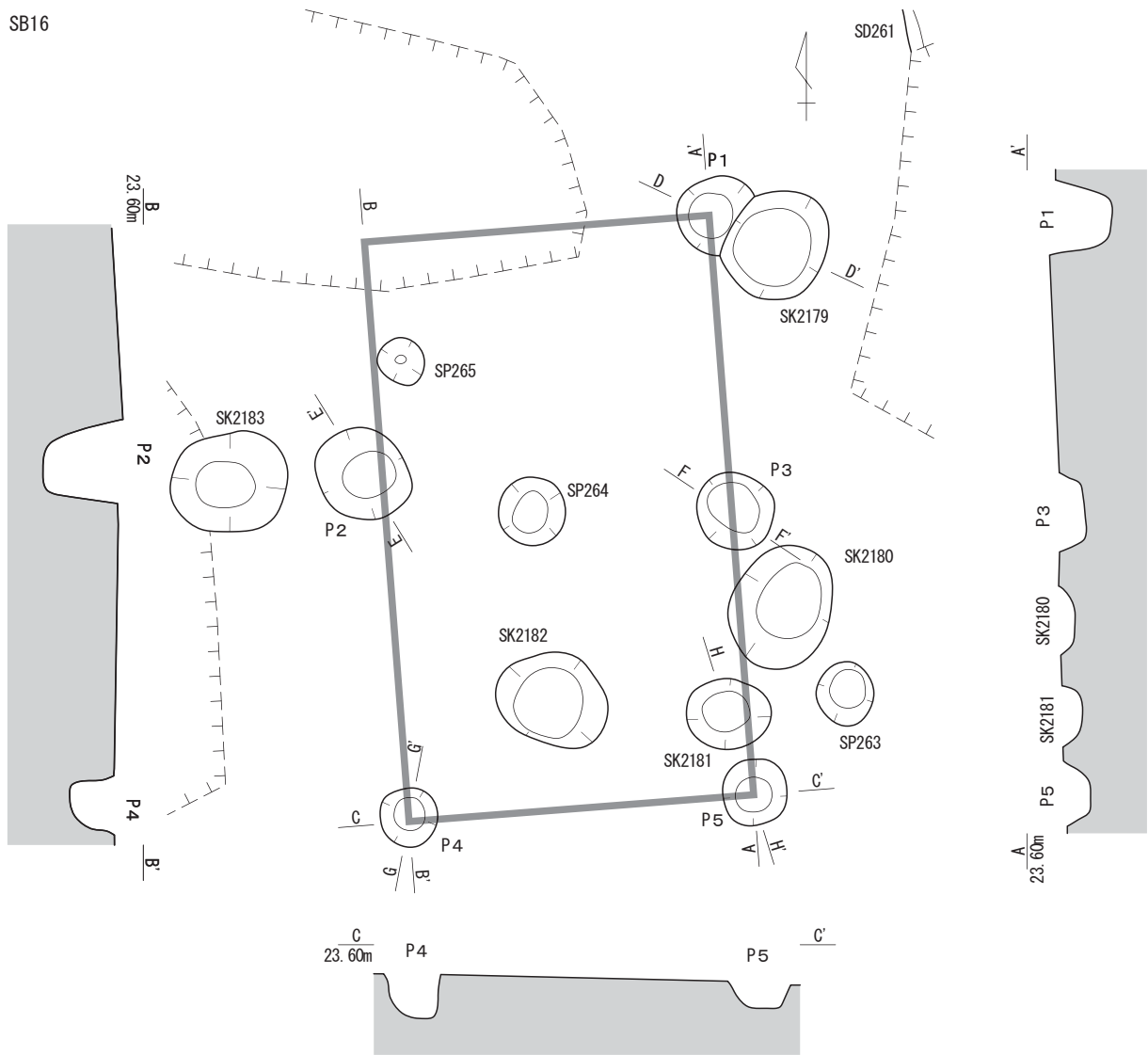
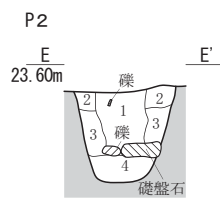


図236 SI14遺構図(2)・出土遺物実測図

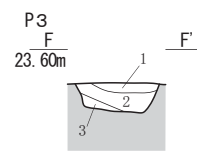
SB16



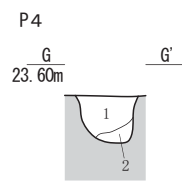
- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土
しまる 粘性あり
- 2 10YR3/3 暗褐色砂質土
しまりなし 粘性なし



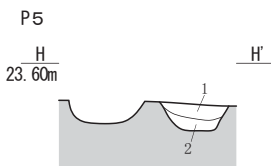
- 1 10YR3/2 黒褐色土
しまりなし 粘性あり
炭粒を少量含む
径1~3cmの円礫を多く含む
- 2 10YR3/3 暗褐色土
しまる 粘性なし
炭粒を多く含む
- 3 7.5YR3/2 黒褐色土
しまりなし 粘性あり
- 4 10YR3/3 暗褐色土
ややしまる 粘性なし



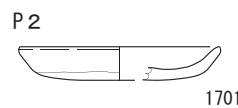
- 1 10YR4/2 灰黄褐色土
しまる 粘性あり
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土
しまりなし 粘性あり
- 3 10YR4/2 灰黄褐色砂質土
しまりなし 粘性なし



- 1 10YR3/2 黒褐色土
ややしまる 粘性あり
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土
しまりなし 粘性ややあり



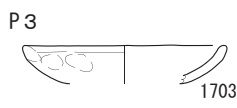
- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土
しまる 粘性あり
- 2 10YR3/3 暗褐色土
ややしまる 粘性あり



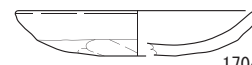
1701



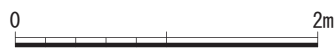
1702



1703



1704



(S=1/50)



(S=1/3)

図 237 SB16 遺構図・出土遺物実測図

SB17 (図 238)

検出状況 20 地点 MF 4～MF 5 グリッド、IV a 層上面で検出した。土坑や攪乱により北西部と東部の柱穴が消失するが、3間×2間の側柱建物と考えられる。各柱穴の平面形は P 1 が不明瞭であったが、その他の柱穴は明瞭であった。P 1 は SK2275 と重複する。本遺構は SK2275 より新しい。

規模・形状 長軸方位は N-83° -W である。桁行 3 間 (6.4m、柱間 1.3m-2.4m-2.7m)、梁行 2 間 (2.8m、柱間 1.4m)、面積 17.92 m² である。SE 1 の柱穴や SB19 と東西軸が揃う。また、SA18 とは南北軸が概ね揃う。

柱穴 いずれの柱穴も平面形は円形である。すべての柱穴で柱痕跡を確認した。P 1 から土師器 2 点、山茶碗 1 点、P 2 から土師器 1 点、P 3 から土師器 3 点、山茶碗 1 点、P 5 から灰釉陶器 1 点、P 6 から灰釉陶器 1 点、P 7 から土師器 1 点、山茶碗 1 点が出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2275 との重複関係と P 7 から D 類の伊勢型鍋が出土したことから、本遺構は 13 世紀後葉から 14 世紀初頭と考えられる。

SB19 (図 239)

検出状況 20 地点 MG 4～MH 5 グリッド、IV a 層上面で検出した。北東側と南西側の柱穴が発掘区外となるが、2間×1間以上の側柱建物と考えられる。各柱穴の平面形は明瞭であった。P 2 は SK2322、P 3 は SP320、P 4 は SK2333 と重複する。本遺構は SP320・SK2322・SK2333 より新しい。

規模・形状 長軸方位は N-83° -W である。桁行 2 間 (4.1m、柱間 2.0m-2.1m)、梁行 1 間 (3.2m)、面積 13.12 m² となる。SB17・SE 1 の柱穴と東西軸が揃う。また、SA17 と東西軸、SA18 と南北軸が揃う。東西両側ともに発掘区外に延びる可能性が考えられる。

柱穴 いずれの柱穴も平面形は円形である。P 1・P 2・P 5 で柱痕跡を確認した。P 1 から土師器 2 点、P 4 から土師器 3 点、灰釉陶器 1 点、P 5 から灰釉陶器 1 点が出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2333 との重複関係と SB17 との位置関係から、本遺構は 13 世紀末から 14 世紀後葉と考えられる。

SB20 (図 240・241)

検出状況 21 地点 LH11～LI12 グリッド、IV b 層上面で検出した。2間×2間の側柱建物である。各柱穴の平面形は P 4 と P 6 は不明瞭であったが、その他の柱穴は明瞭であった。P 2 は隅柱間の柱筋からやや南にずれる。また、西辺中央の柱穴は遺構の重複により消失したと考えられる。P 1 は SD292、P 2 は SK2712 と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 桁行 2 間 (5.9m、柱間 2.7m-3.2m)、梁行 2 間 (3.5m、柱間 1.8m-1.7m)、面積 20.65 m² である。長軸方位は、N-87° -W である。

柱穴 柱穴の平面形は円形である。P 2 と P 3 で柱痕跡を確認した。P 4 は基盤層のブロック土を含む。P 1 から土師器 3 点、須恵器 1 点、P 2 から土師器 8 点、須恵器 1 点、山茶碗 3 点、釘 1 点、P 3 から土師器 4 点、灰釉陶器 1 点、P 5 から土師器 1 点、山茶碗 2 点、P 6 から土師器 2 点、山茶碗 1 点、P 7 から土師器 4 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

SB17

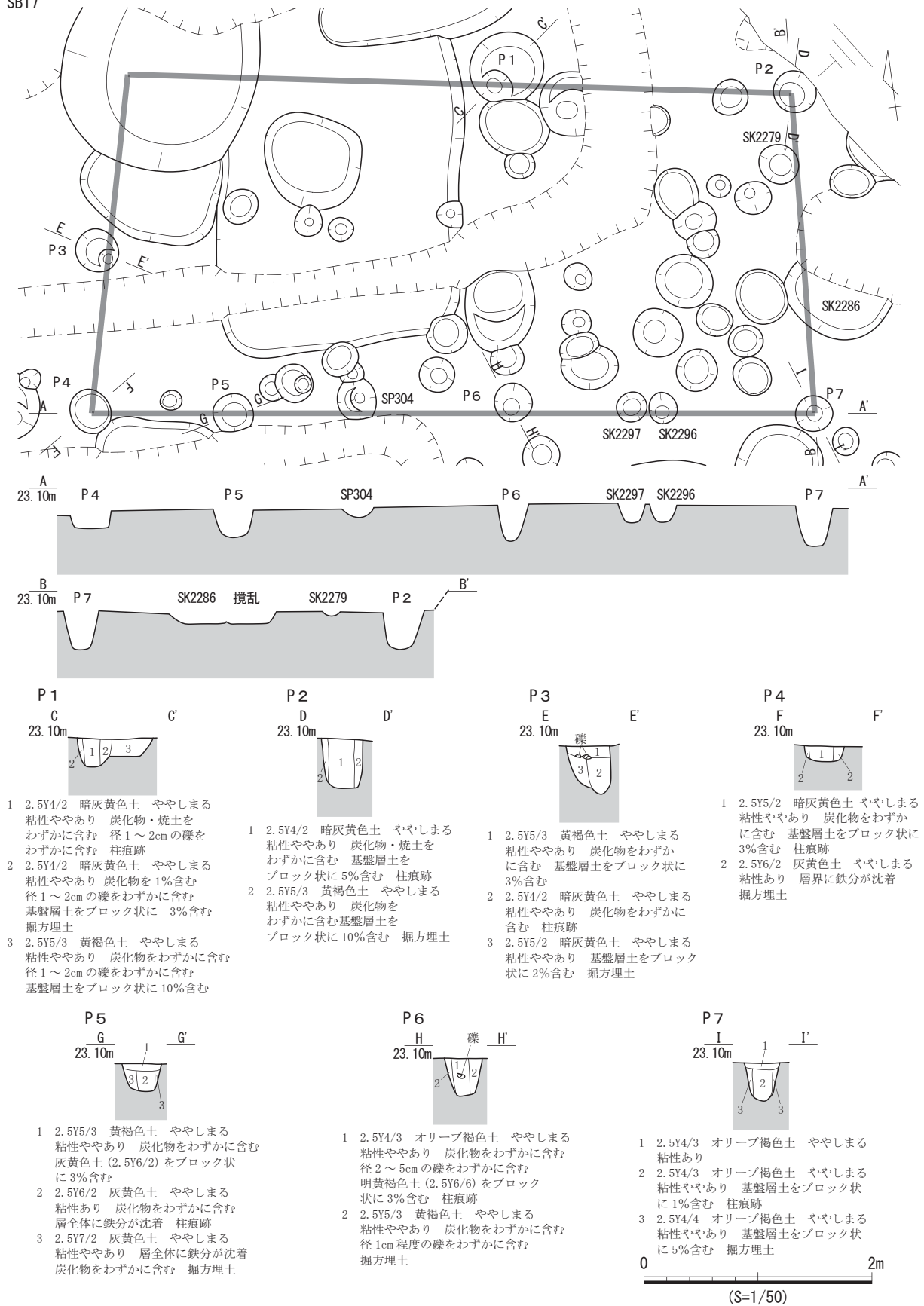


図 238 SB17 遺構図

SB19

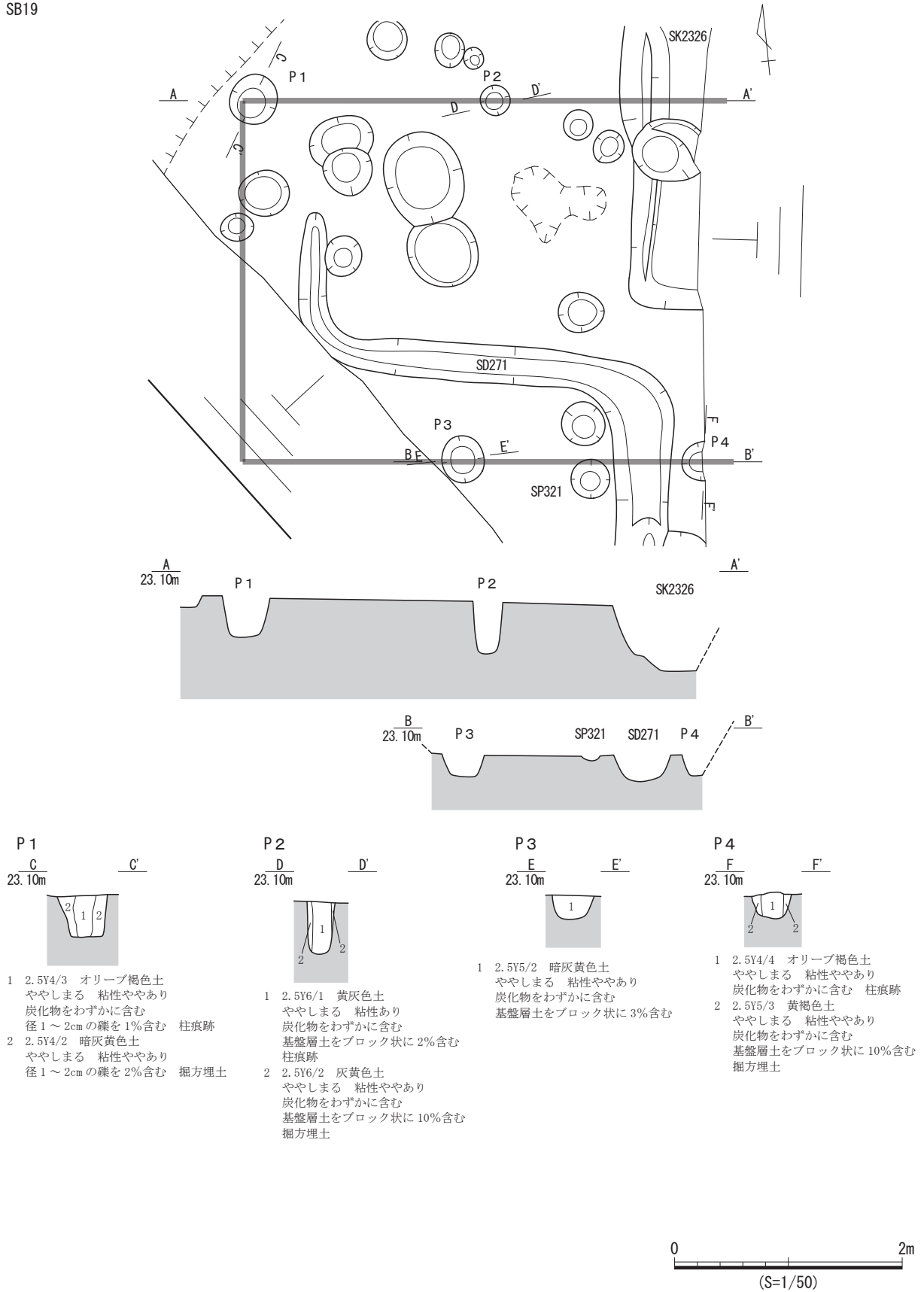


図 239 SB19 遺構図

SB20

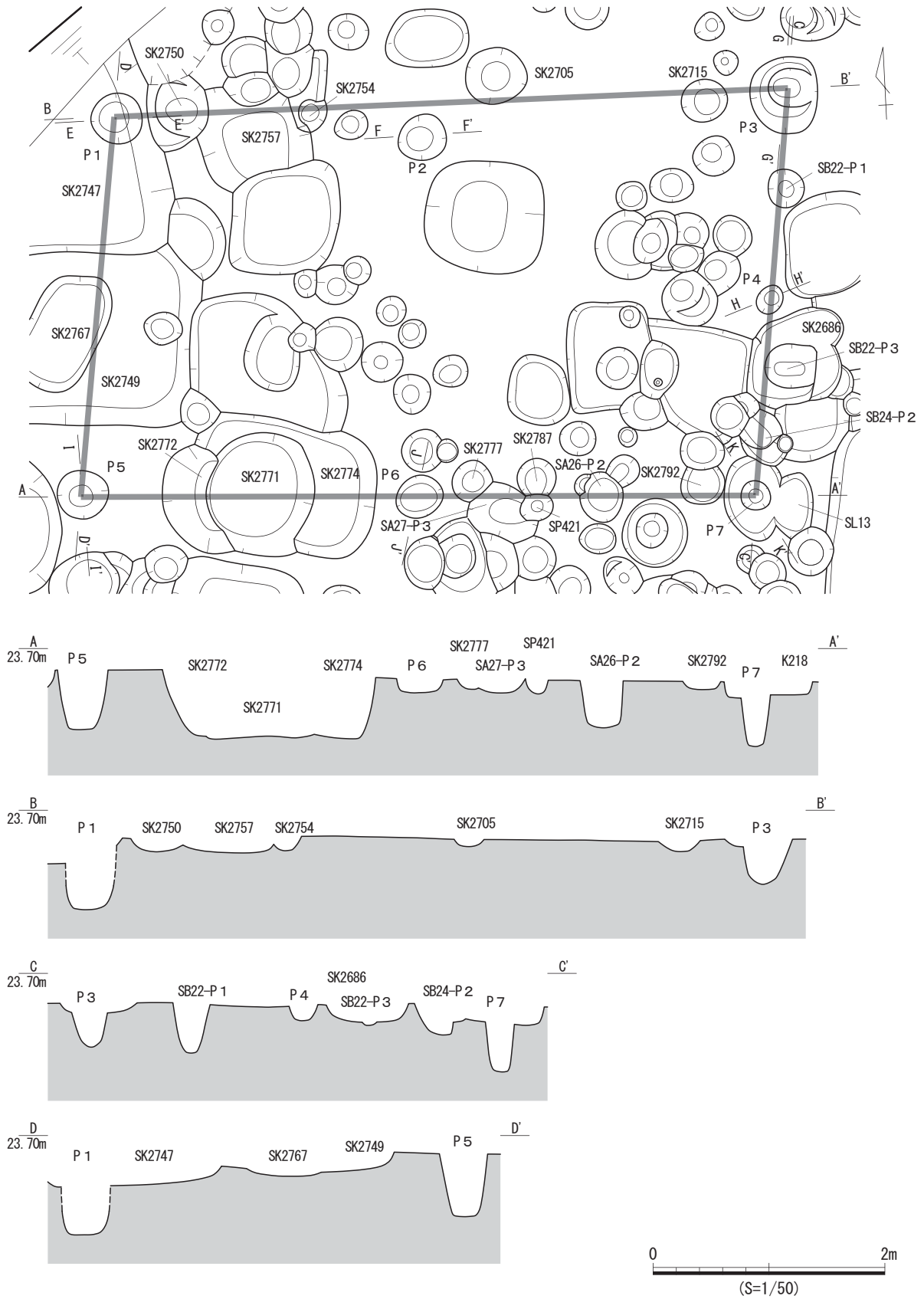


図 240 SB20 遺構図 (1)

時期 SK2712 との重複関係と山茶碗が出土したことから、本遺構は 15 世紀中葉以降と考えられる。
SB21 (図 242・243)

検出状況 21 地点 LH12～LI12 グリッド、IV b 層上面で検出した。2 間×1 間の側柱建物と考えられる。南端の中央の柱穴は遺構の重複により消失し、南東隅の柱穴は発掘区外と考えられる。各柱穴の平面形は P1 と P4 は不明瞭であったが、その他の柱穴は明瞭であった。P1 は SK2712、P4 は SB24-P1、P7 は SA26-P3 と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 桁行 2 間 (5.1m、柱間 2.5m-2.6m)、梁行 1 間 (1.8m)、面積 9.18 m² である。長軸方位は N-1°-W である。平面形は南北に長い長方形である。東側の P3 と P6 は他の柱穴に比べ小さく、P3 は P1・P2 と、P6 は P4・P5 と方向が揃うことから、庇若しくは縁側の柱穴と考えられる。

柱穴 柱穴の平面形は円形若しくは楕円形である。P1・P5 以外の柱穴で柱痕跡を確認した。P5 は大部分が消失するが、壁面が立ち上がり柱穴状の掘方をもつと考えられる。P2・P4・P6・P7 は基盤層のブロック土を含む。P2 から土師器 2 点、山茶碗 1 点、P3 から土師器 1 点、P4 から土師器 8 点、山茶碗 2 点、陶器 4 点、P5 から土師器 1 点、P7 から土師器 4 点、山茶碗 1 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SB24 との重複関係と尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は 12 世紀後葉から 13 世紀中葉と考えられる。

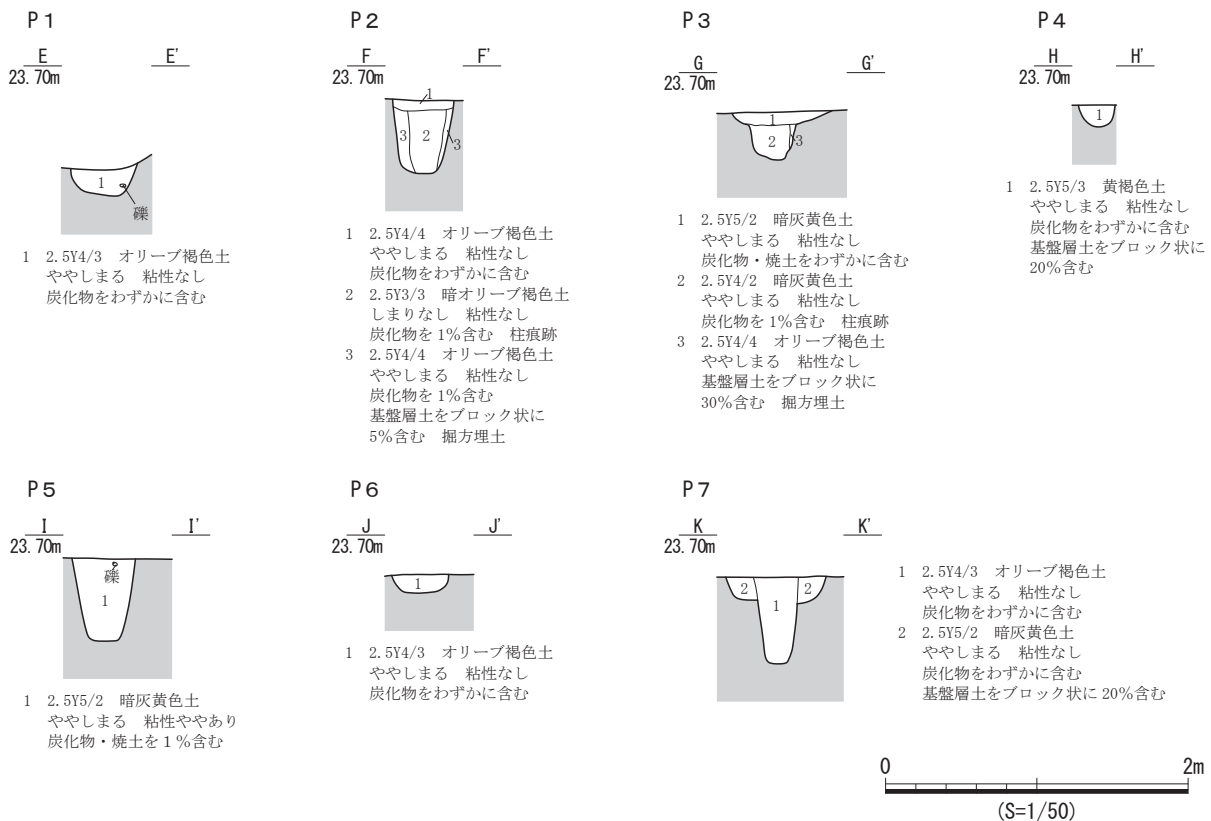
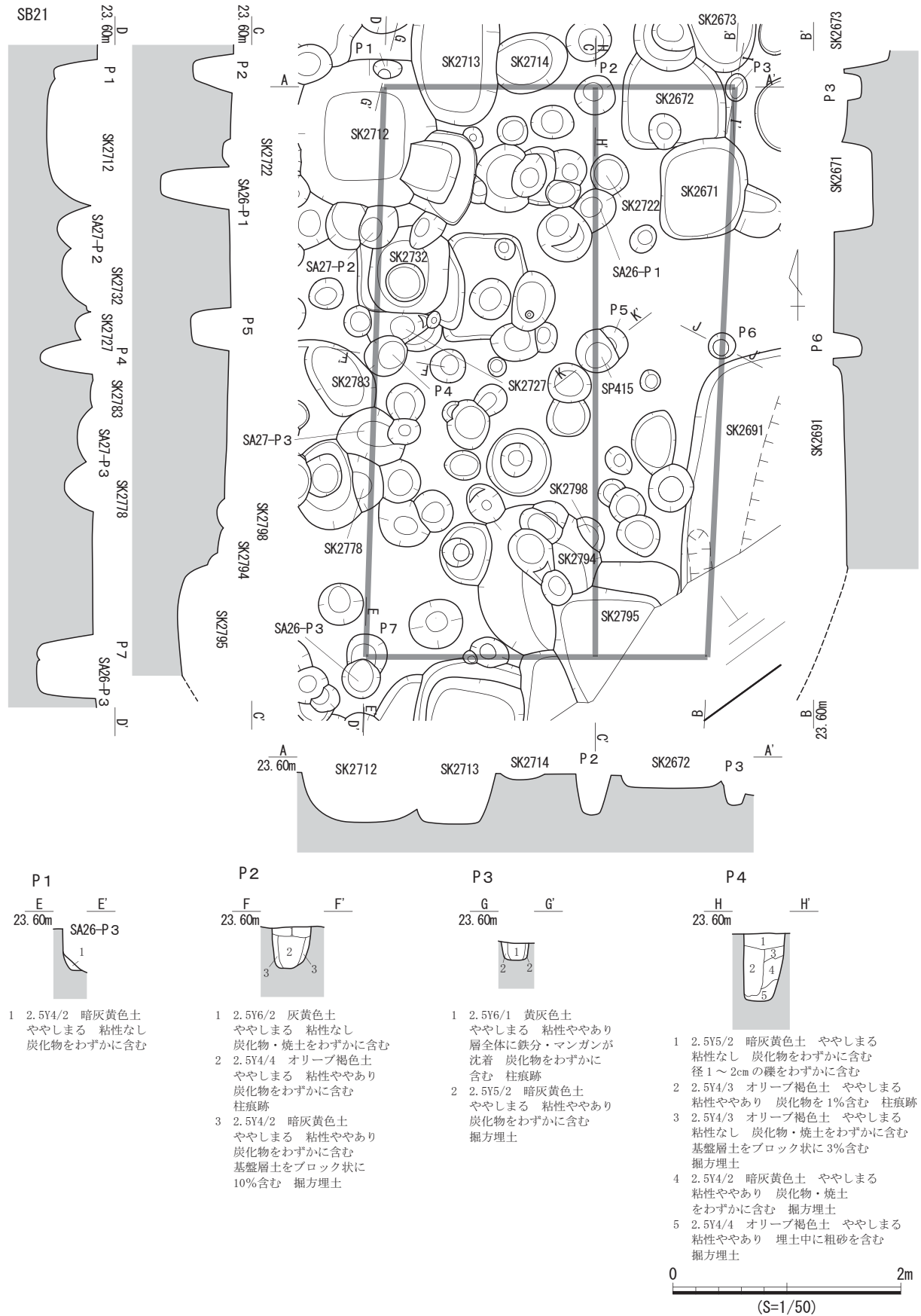


図 241 SB20 遺構図 (2)



P 1
E E'
23.60m SA26-P 3
1

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性なし 炭化物をわずかに含む

P 2
F F'
23.60m
2
3

- 1 2.5Y6/2 灰黄色土 ややしまる 粘性なし 炭化物・焼土をわずかに含む
2 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物をわずかに含む 柱痕跡
3 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に10%含む 掘方埋土

P 3
G G'
23.60m
1
2

- 1 2.5Y6/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり 層全体に鉄分・マンガンが沈着 炭化物をわずかに含む 柱痕跡
2 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物をわずかに含む 掘方埋土

P 4
H H'
23.60m
1
2
3
4
5

- 1 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性なし 炭化物をわずかに含む 径1~2cmの礫をわずかに含む
2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を1%含む 柱痕跡
3 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性なし 炭化物・焼土をわずかに含む 基盤層土をブロック状に3%含む 掘方埋土
4 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物・焼土をわずかに含む 掘方埋土
5 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 埋土中に粗砂を含む 掘方埋土

0 2m
(S=1/50)

図 242 SB21 遺構図 (1)

SB22 (図 244)

検出状況 21 地点 LH12~LI12 グリッド、IV b 層上面で検出した。2 間×1 間の側柱建物と考えられる。北西端の柱穴は遺構の重複により消失したと考えられる。各柱穴の平面形は明瞭であった。P2 は SK2732、P4 は SP422、P5 は SK2691 と重複する。本遺構は SK2732 より古く、SP422・SK2691 より新しい。

規模・形状 桁行 2 間 (3.15m、柱間 1.6m-1.55m)、梁行 1 間 (2.1m)、面積 6.615 m² である。長軸方位は N-0°-EW である。長軸は南北に平行であるが、短軸は西側に向かい 5° 南に傾き、平面形は平行四辺形となる。

柱穴 柱穴の平面形は円形若しくは不整円形である。P2 以外の柱穴で柱痕跡を確認した。P3 の 1 層と 2 層は重複する別遺構の埋土と考えられる。P1 から土師器 1 点、山茶碗 2 点、P3 から土師器 7 点、須恵器 1 点、山茶碗 5 点、P4 から土師器 13 点、山茶碗 6 点、P5 から土師器 7 点、山茶碗 1 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2691・SK2732 との重複関係から、本遺構は 14 世紀後葉から 15 世紀中葉と考えられる。

SB23 (図 245)

検出状況 21 地点 LH12~LI12 グリッド、IV b 層上面で検出した。2 間×1 間の側柱建物と考えられる。各柱穴の平面形は P1・P4~P6 は明瞭であったが、P2 と P3 は不明瞭であった。P1 は SK2749・SD292、P3 は SA26-P1・SA27-P1、P4 は SB25-P4・SD292、P6 は SK2794 と重複する。本遺構は SA27・SK2749・SK2794 より古く、SB25・SA26・SD292 より新しい。

規模・形状 桁行 2 間 (4.5m、柱間北側 2.2m-2.3m)、梁行 1 間 (2.6m)、面積 11.7 m² である。長軸方位は N-86°-W である。P2 は隅柱間の柱筋からやや南にずれる。

柱穴 柱穴の平面形は円形若しくは楕円形である。すべての柱穴で柱痕跡を確認した。どの柱穴も基盤層のブロック土を含む。P2 から土師器 1 点、P3 から土師器 3 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 2 点、P4 から土師器 7 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 4 点、P5 から土師器 8 点、山茶碗 1 点、P6 から土師器 10 点、山茶碗 1 点が散在して出土した。

出土遺物 灰釉陶器 1 点を図示した。1705 は丸石 2 号窯式に比定した灰釉陶器の碗である。

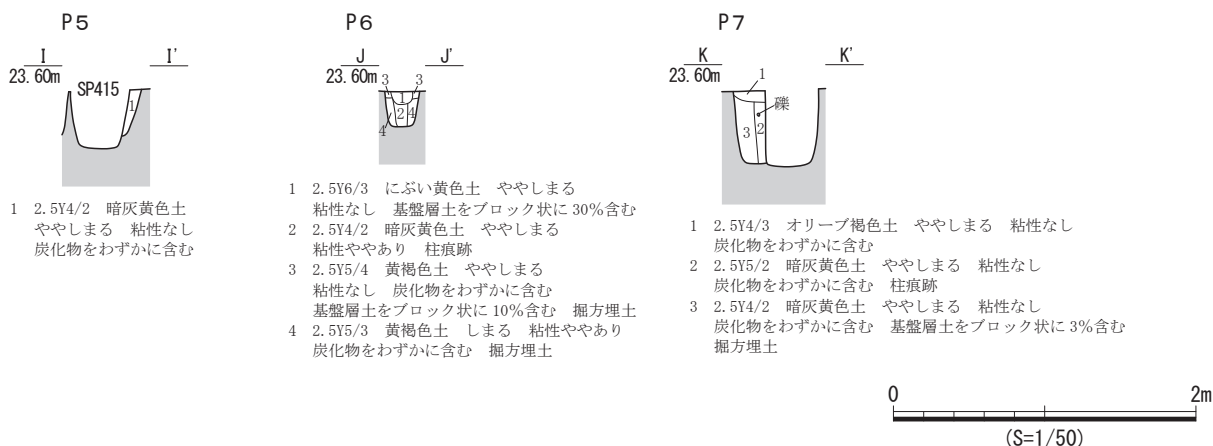


図 243 SB21 遺構図 (2)

SB22

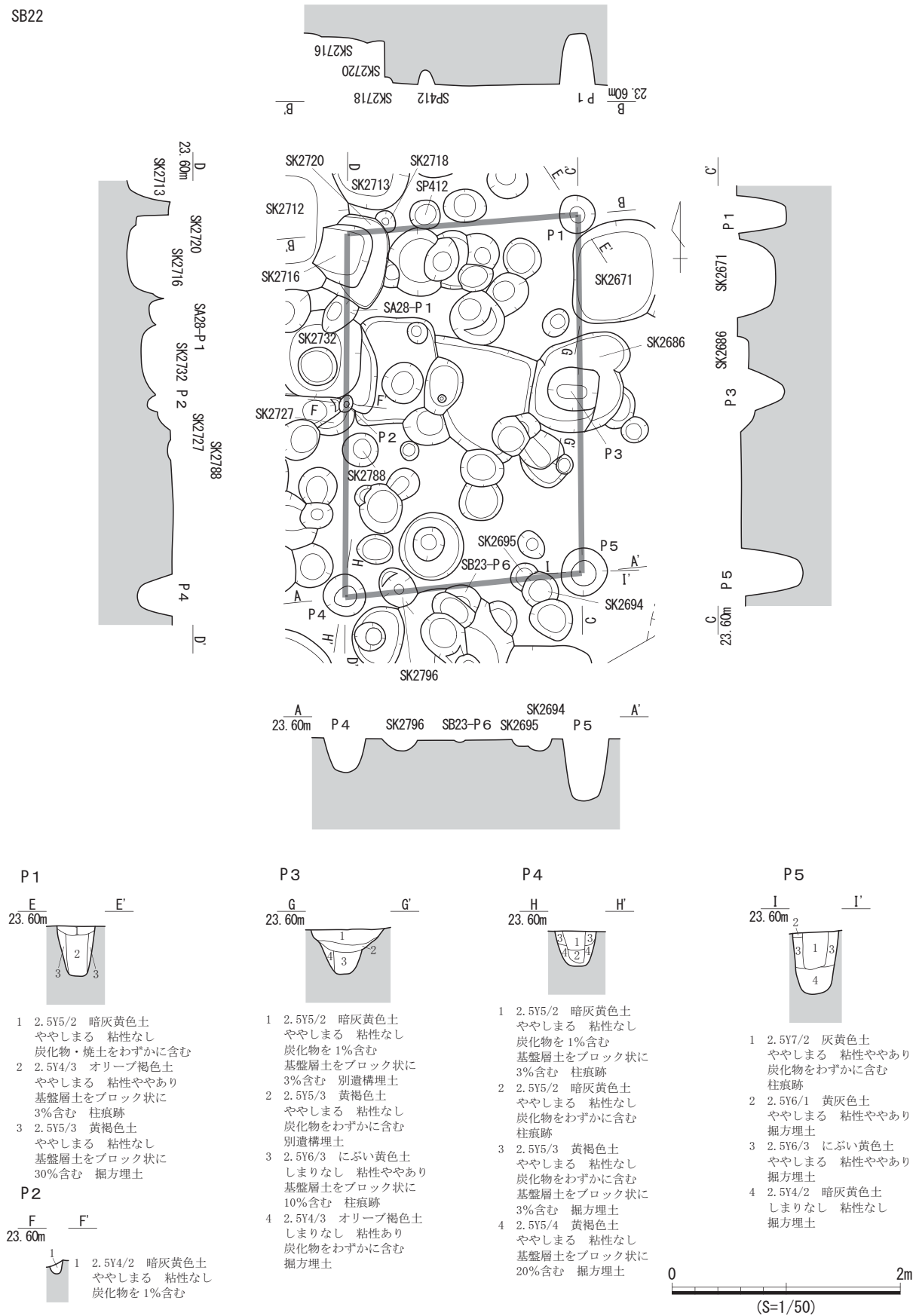


図 244 SB22 遺構図

時期 SB25・SK2749・SK2794 との重複関係から、本遺構は 15 世紀中葉と考えられる。

SB24 (図 246)

検出状況 21 地点 LI12 グリッド、IV b 層上面で検出した。1 間×1 間以上の側柱建物と考えられる。北東端は攪乱により消失し、P4 は発掘区際で検出されたことから、南東部は発掘区外に続く可能性がある。各柱穴の平面形は P1 と P3 は明瞭であったが、P2 と P4 は不明瞭であった。P1 は SB21-P4・SK2732 と重複する。本遺構は SK2732 より古く、SB21 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、桁行 1 間 (2.5m)、梁行 1 間 (2.1m)、面積 5.25 m² である。長軸方位は N-12° - E である。P4 は発掘区際で検出したことから、建物は東に続く可能性がある。

柱穴 柱穴の平面形は P1 は不整形、P2 は不整形、P3・P4 は円形である。P1～P3 で柱痕跡を確認した。P4 の掘方は他の柱穴に比べて浅いが、底面の標高は P2 と揃う。P2～P4 は基盤層のブロック土を含む。P2 の柱痕跡底面から土師器皿 (1706・1707) と常滑産の甕の底部が出土した。甕の底部は柱を乗せた痕跡がなく、土師器皿とともに柱抜き取り後に埋められたと考えられる。その他に P1 から土師器 5 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 1 点、P2 から土師器 8 点、山茶碗 5 点、P3 から土師器 2 点、山茶碗 5 点が出土した。

出土遺物 土師器皿 2 点を図示した。1707 は B1 類、1706 は M3 類の土師器皿である。

時期 図示した 1706 から、本遺構は 12 世紀後葉から 13 世紀中葉と考えられる。

SB25 (図 247)

検出状況 21 地点 LI11～LI12 グリッド、IV b 層上面で検出した。2 間×1 間の側柱建物と考えられる。各柱穴の平面形は P2～P6 は明瞭であったが、P1 は不明瞭であった。P4 は SB23-P4・SD292 と重複する。本遺構は SB23 より古く、SD292 より新しい。

規模・形状 桁行 2 間 (4.2m、南側 2.1m-2.1m)、梁行 1 間 (2.5m)、面積 10.5 m² 以上である。長軸方位は N-76° - W である。西側がやや広がった建物である。

柱穴 柱穴の平面形は円形若しくは楕円形である。P2～P6 で柱痕跡を確認した。P2 から土師器 7 点、P3 から土師器 8 点、須恵器 2 点、山茶碗 2 点、P4 から土師器 13 点、須恵器 4 点、山茶碗 3 点、P5 から土師器 8 点、須恵器 1 点、陶器 2 点、P6 から土師器 6 点、山茶碗 2 点が散在して出土した。

出土遺物 古瀬戸 1 点を図示した。1708 は後 IV 期古段階の縁釉小皿である。

時期 図示した 1708 から、本遺構は 15 世紀中葉と考えられる。

3 柵

SA16 (図 248)

検出状況 20 地点 ME3 グリッド、P1 は IV a 層上面、P2 は SD265 底面、P3 は SD266 底面で検出した。各柱穴の平面形は明瞭であった。本遺構は SD265・SD266 より古い。

規模・形状 3 基の柱穴が等間隔で直線的に並ぶ。柱間は P1 から 1.2m-1.0m である。方位は N-47° - W である。SB17・SB19・SA17・SA18 と方位が異なるが、SA19 と軸が揃う。

柱穴 いずれの柱穴も平面形は円形である。どの柱穴もやや浅いものの柱痕跡を確認し、P3 では底面で礎盤石と考えられる片面が扁平な礫を確認した。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

時期 SD265・SD266 との重複関係と SA19 との位置関係から、本遺構は 14 世紀後葉と考えられる。

SB23

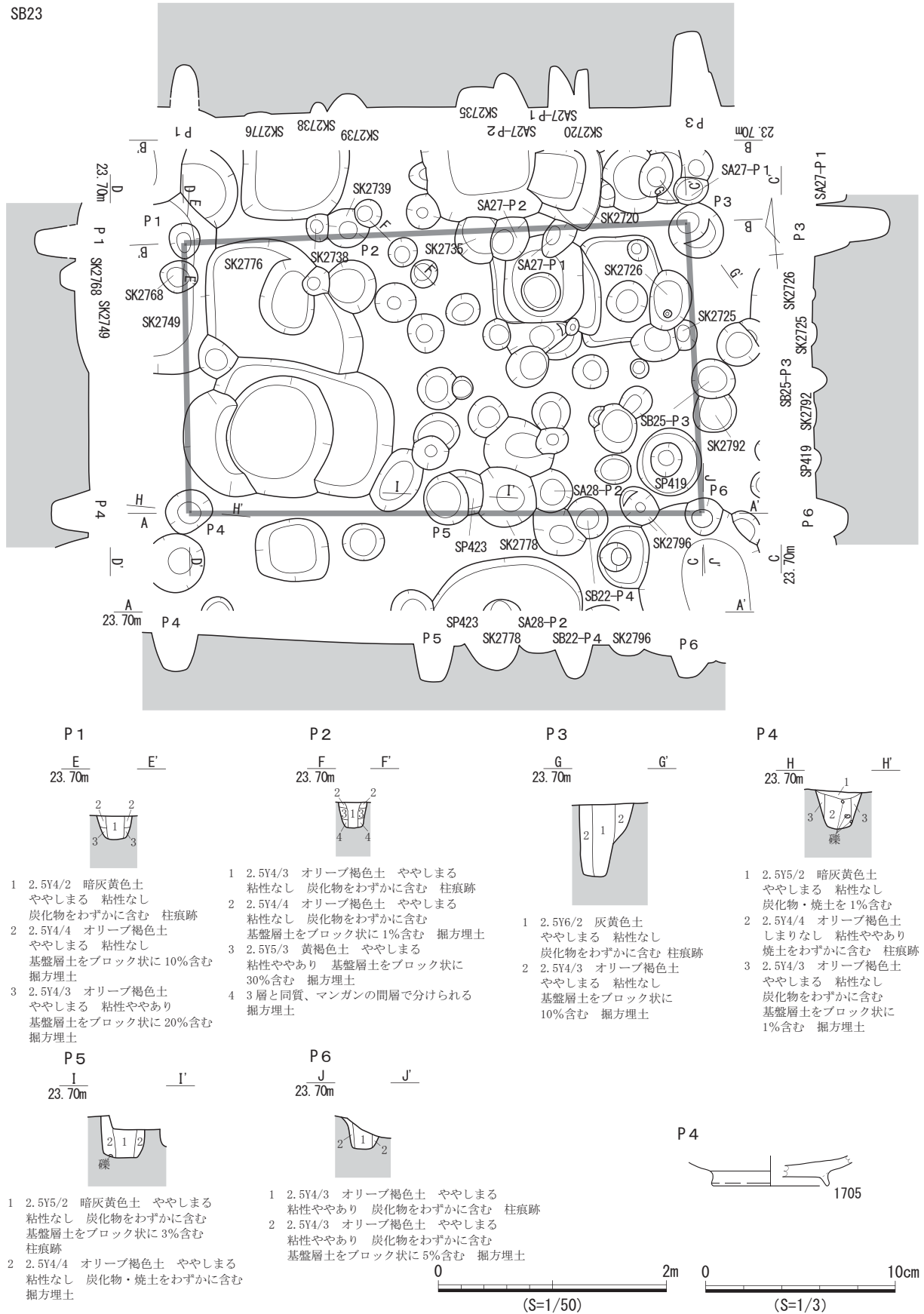


図 245 SB23 遺構図・出土遺物実測図

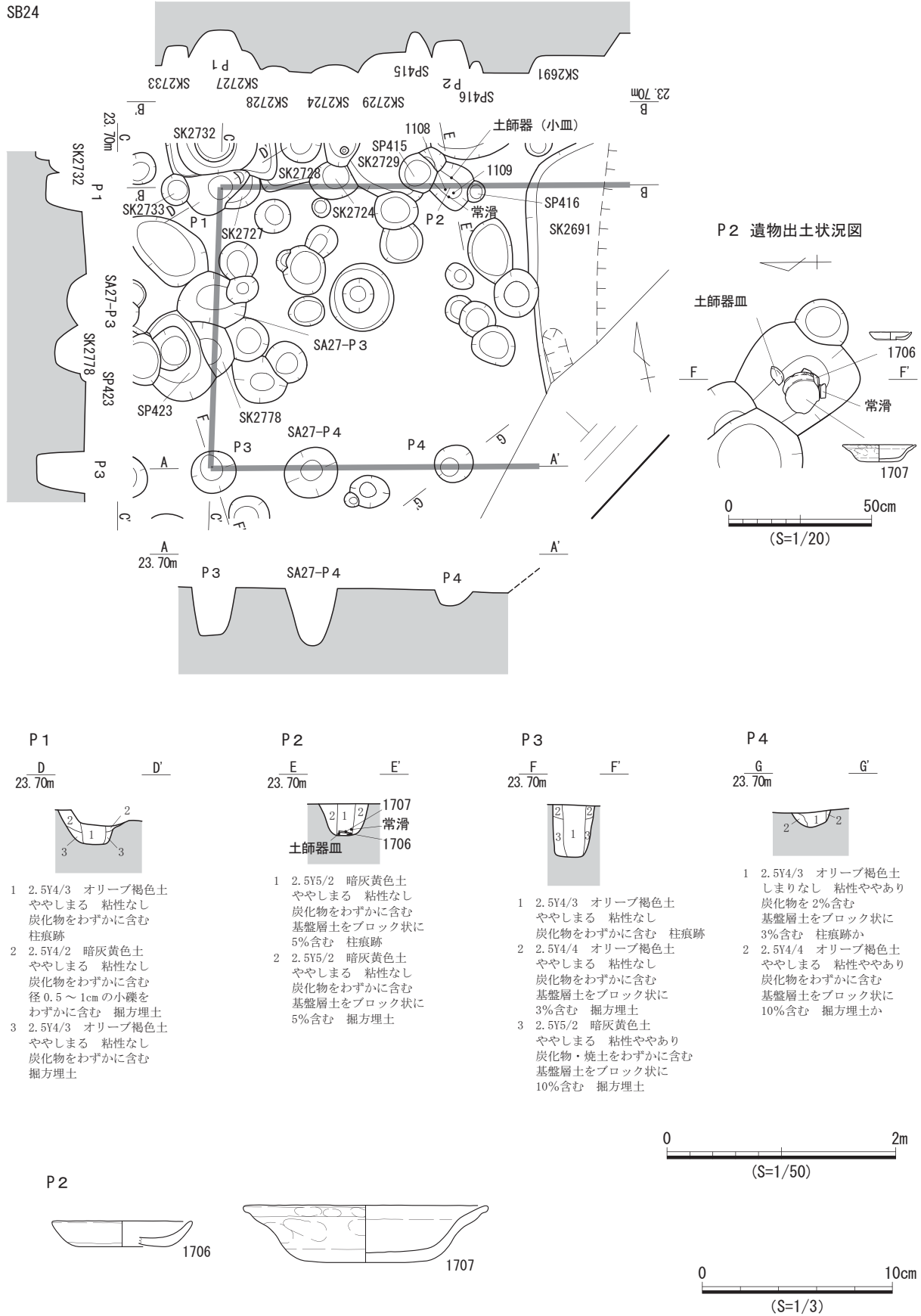


図246 SB24遺構図・出土遺物実測図

SB25

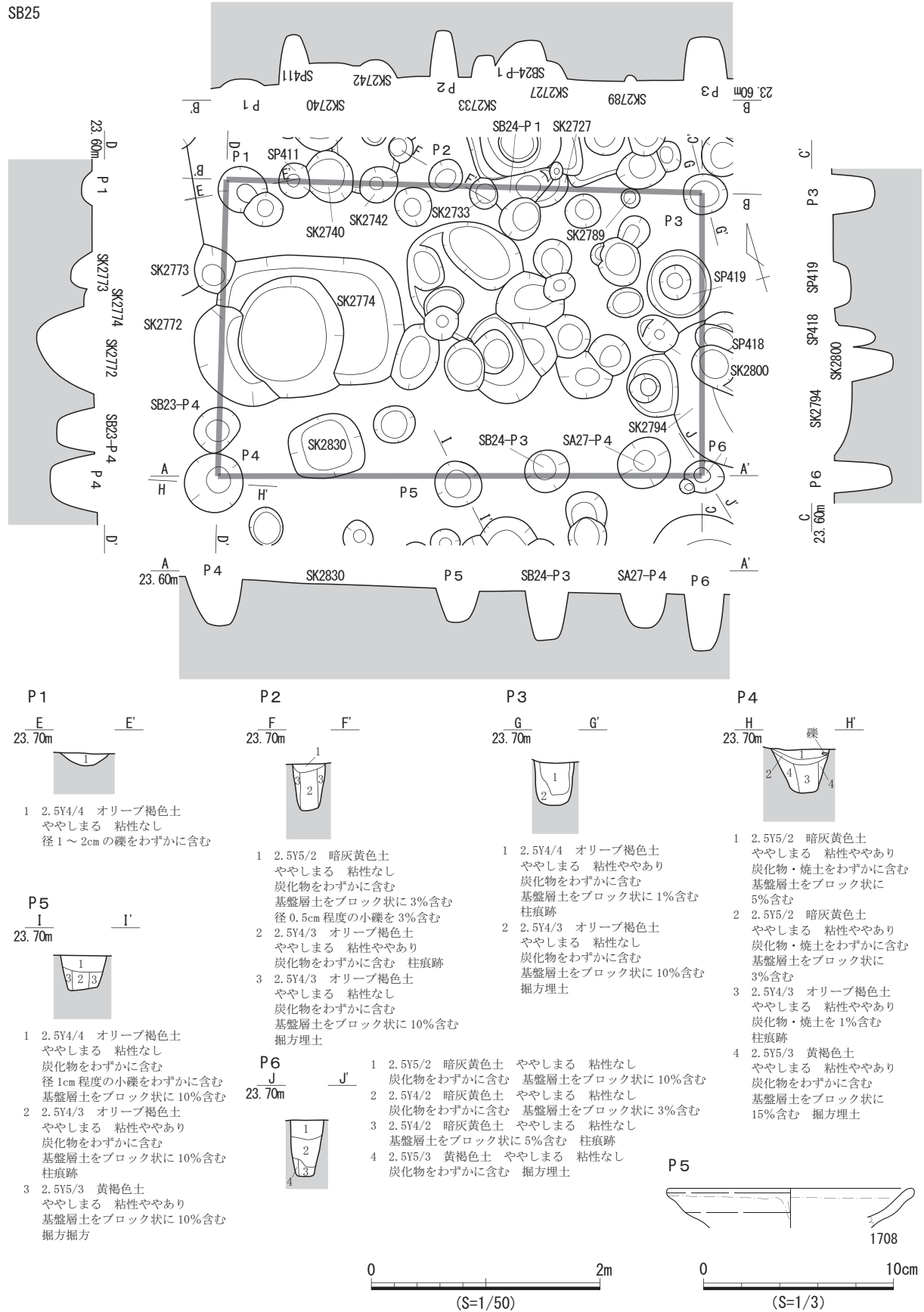


図 247 SB25 遺構図・出土遺物実測図

SA17 (図 249)

検出状況 20地点MF4～MF5グリッド、P1とP2はSK2271底面、P3とP4はIV a層上面で検出した。各柱穴の平面形はP3が不明瞭で、その他の柱穴は明瞭であった。本遺構はSK2271より古い。

規模・形状 4基の柱穴が直線的に並ぶ。柱間はP1から1.2m-2.4m-1.2mである。P2とP3の柱間は、中間にあった柱穴が攪乱により消失したため長くなったと考えられる。攪乱内の柱穴を想定すると、全ての柱間が1.2mの間隔で並ぶ。方位はN-85°-Wである。SE1の柱穴、SB19と東西軸が揃う。

柱穴 柱穴の平面形は円形若しくは楕円形である。P1・P2・P4で柱痕跡を確認した。P3は柱穴状の掘方である。P4からほぼ完形の土師器皿(1709)が正位で出土した。柵の廃絶時に埋納したと考えられる。この他にP2から白磁1点が出土したが、小片であった。

出土遺物 土師器1点を図示した。1709はM2類の土師器皿である。

時期 図示した1709から、本遺構は12世紀後葉から13世紀中葉と考えられる。

SA18 (図 250)

検出状況 20地点MG5グリッド、P1はIV a層上面、P2とP3はSK2321底面で検出した。各柱穴の平面形はP1が不明瞭で、P2とP3は明瞭であった。P1はSE1、P3はSK2326と重複し、本遺構はSE1・SK2321・SK2326より古い。

規模・形状 3基の柱穴が直線的に並ぶ。柱間は、P1から1.2m-1.3mである。方位はN-7°-Eである。SB17・SB19と南北軸が揃う。

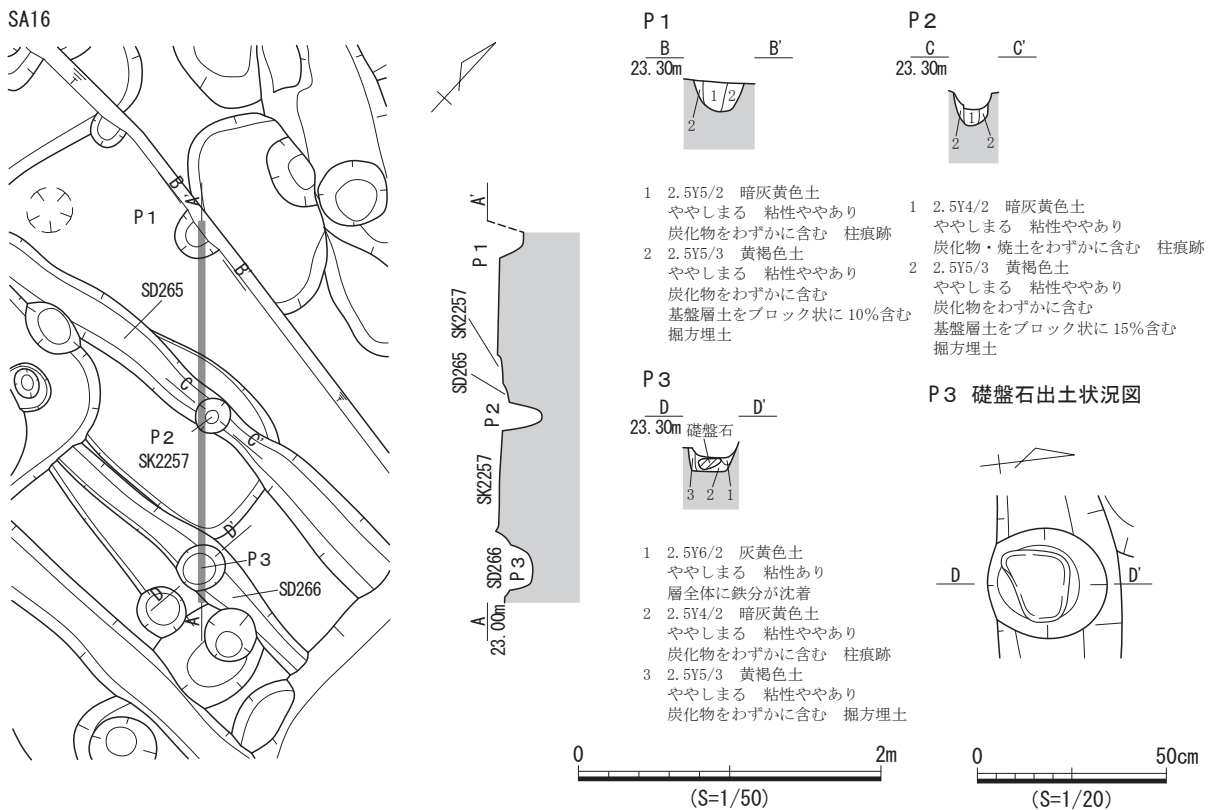


図 248 SA16 遺構図

柱穴 柱穴の平面形は円形若しくは楕円形である。すべての柱穴で柱痕跡を確認した。P1の4層上面で礎盤石と考えられる扁平な礫を確認した。P1から土師器4点、須恵器2点、山茶碗2点、P3から土師器1点、灰釉陶器1点が出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SE1・SK2321・SK2326との重複関係と山茶碗が出土したことから、本遺構は13世紀初頭以前の中世と考えられる。

SA19 (図 251)

検出状況 20地点MG4～MH5グリッド、IVa層上面で検出した。各柱穴の平面形は明瞭であった。南側と西側は発掘区外に続く可能性がある。P1はSP310と重複する。本遺構はSP310より古い。

規模・形状 4基の柱穴(P2～P5)が直線的に並び、P2で南西側に直角に屈曲し、P1へ続くL字形の柵である。柱間はP1～P2間は2.3m、P2～P5間は北から1.6m-1.7m-1.6mである。長軸方位はN-43°-Wである。南側のSD271を囲むような配置である。SA16と長軸が揃う。

柱穴 いずれの柱穴も平面形は円形である。P5で柱痕跡を確認した。P2とP4は柱穴状の掘方である。P1から須恵器1点、山茶碗1点、P4から須恵器1点、山茶碗1点、P5から須恵器1点が出土し

SA17

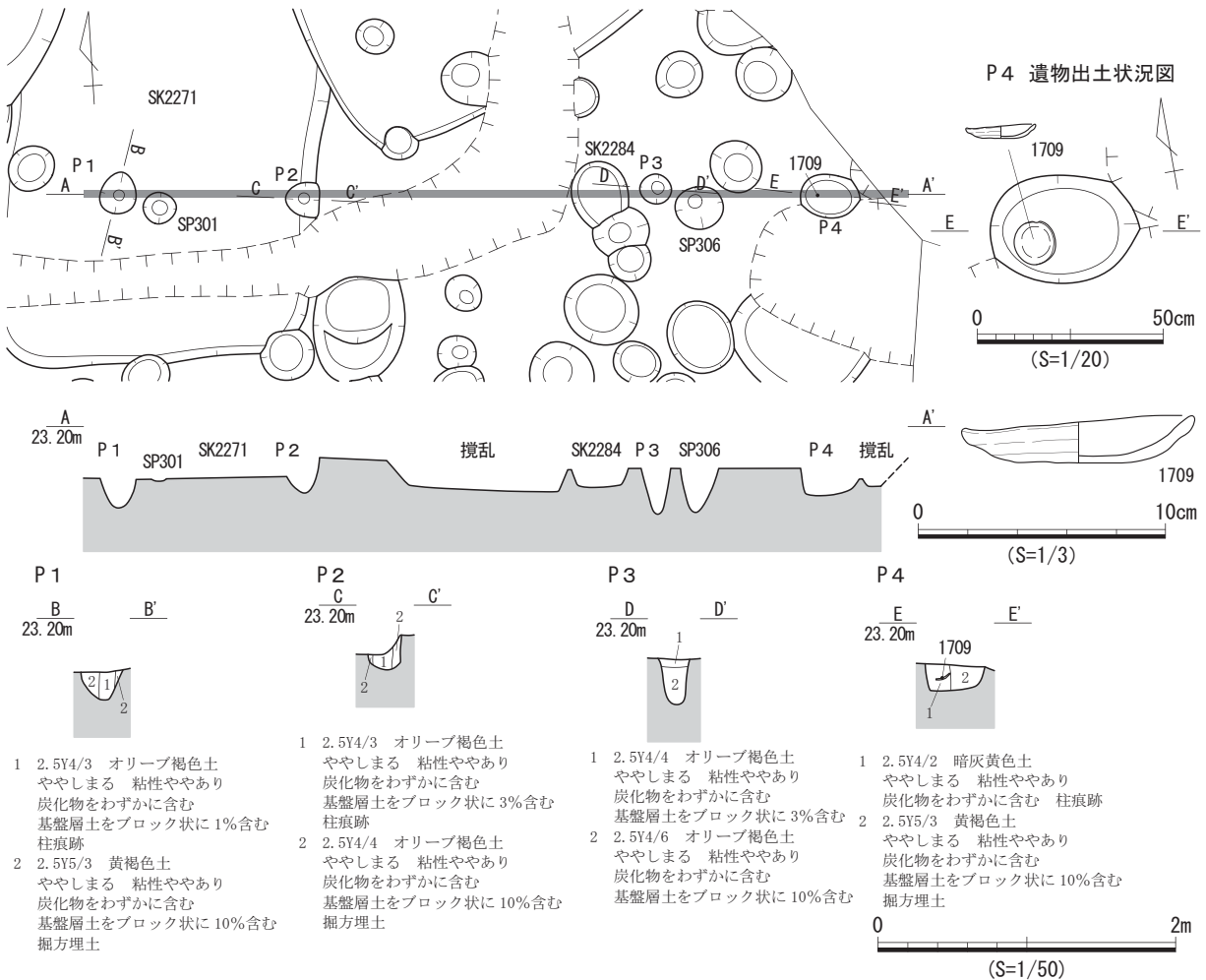


図 249 SA17 遺構図・出土遺物実測図

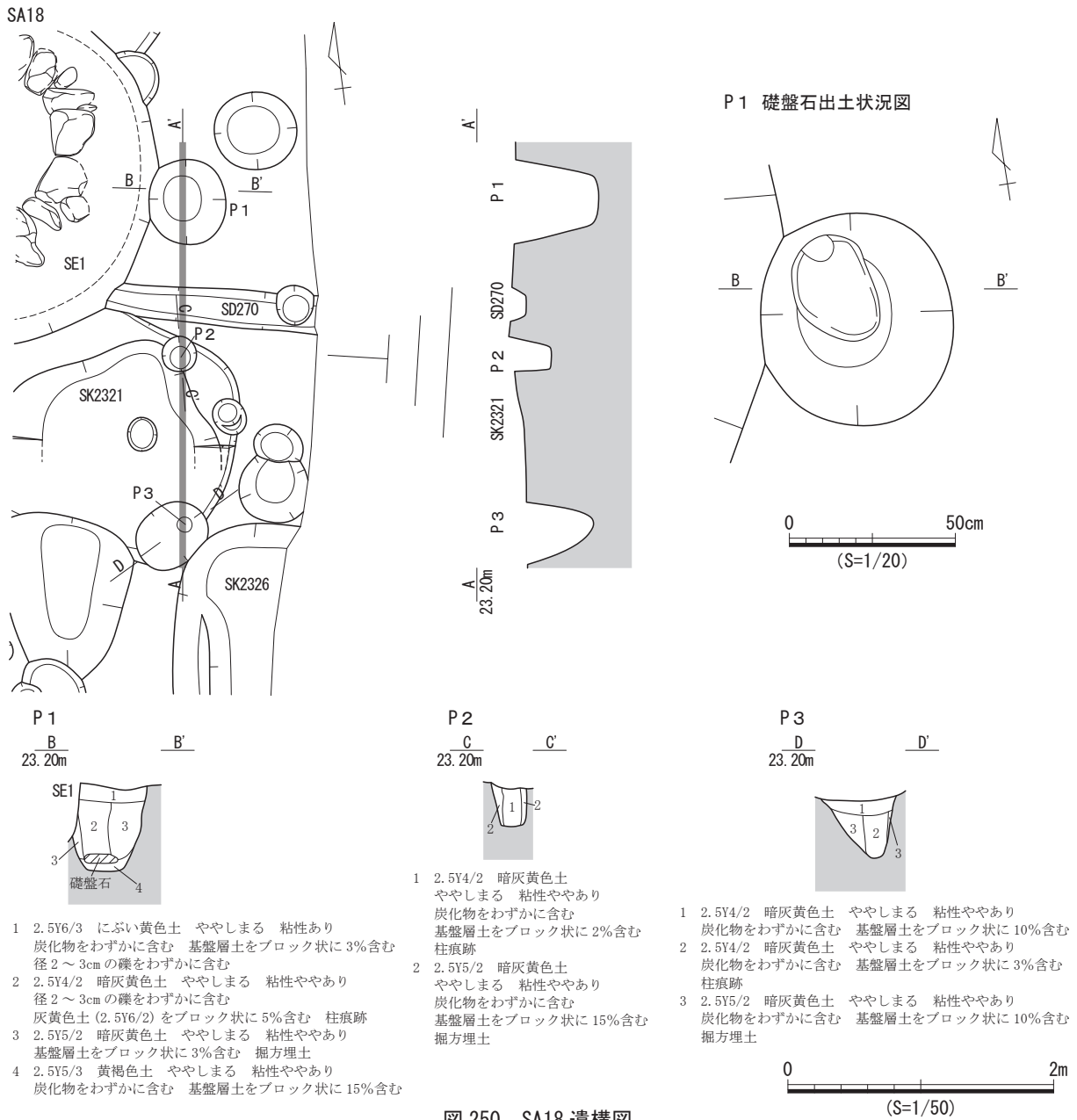


図250 SA18 遺構図

ているが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SA16・SD271との位置関係と山茶碗が出土したことから、本遺構は14世紀後葉と考えられる。

SA21 (図252)

検出状況 21地点LF16グリッド、P1・P4・P5はIVb層上面、P2はSK2425底面、P3はSK2434底面で検出した。各柱穴の平面形は明瞭であった。P1の上端は攪乱により消失する。P1はSD284、P4はSK2432・SD280・SD284、P5はSD284と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 5基の柱穴がL字形に並ぶ。柱間はP1から1.0m-1.3m-1.15m-1.0mである。長軸方位はN-31°-Wである。

柱穴 いずれの柱穴も平面形は円形である。P3とP4で柱痕跡を確認した。P4の底面で礎盤石と考えられる被熱した扁平な礫を確認した。P1～P3はブロック土を含む。P1から土師器1点、P4から土師器2点、P5から土師器1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2432・SD280・SD284との重複関係から、本遺構は15世紀初頭以降と考えられる。

SA22 (図253)

検出状況 21地点 LH17～LH18 グリッド、IV b層上面で検出した。各柱穴の平面形はP2は不明瞭であ

SA19

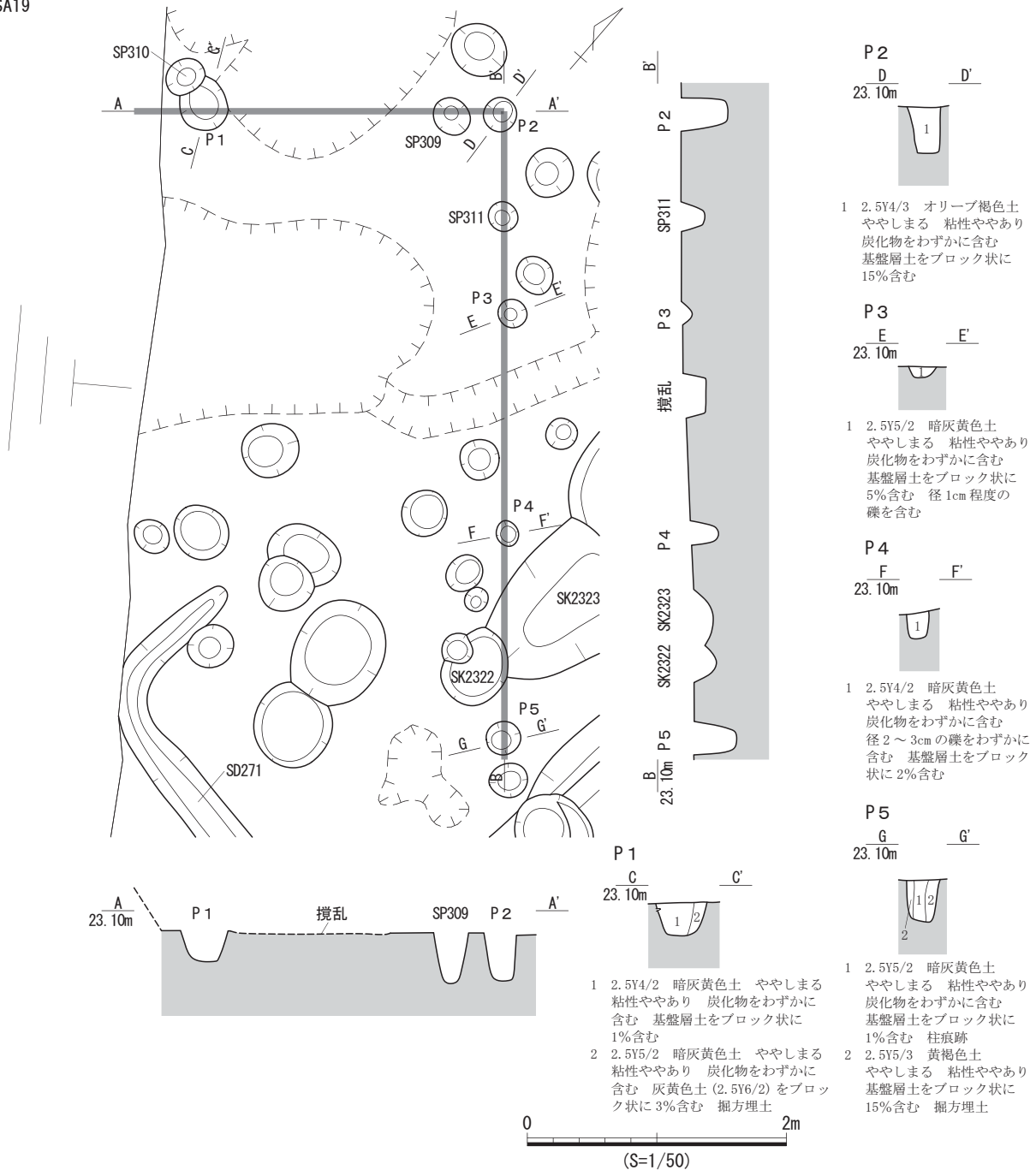


図251 SA19遺構図

ったが、その他の柱穴は明瞭であった。P1はSK2507、P2はSI5と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 4基の柱穴がL字形に並ぶ。柱間は、P1から3.15m-1.5m-1.5mである。長軸方位はN-33°-Eである。中間の柱穴が攪乱により消失したため、P1-P2の柱間は長い。攪乱内の柱穴を想定すると、柱間は1.5m~1.6mの間隔になる。東側のSA30と東西軸、南北軸の方位が揃う。

柱穴 いずれの柱穴も平面形は円形である。P2~P4で柱痕跡を確認し、ブロック土を含む。P1から土師器8点、須恵器2点、山茶碗4点、P2から土師器11点、P4から土師器1点、山茶碗1点が散在

SA21

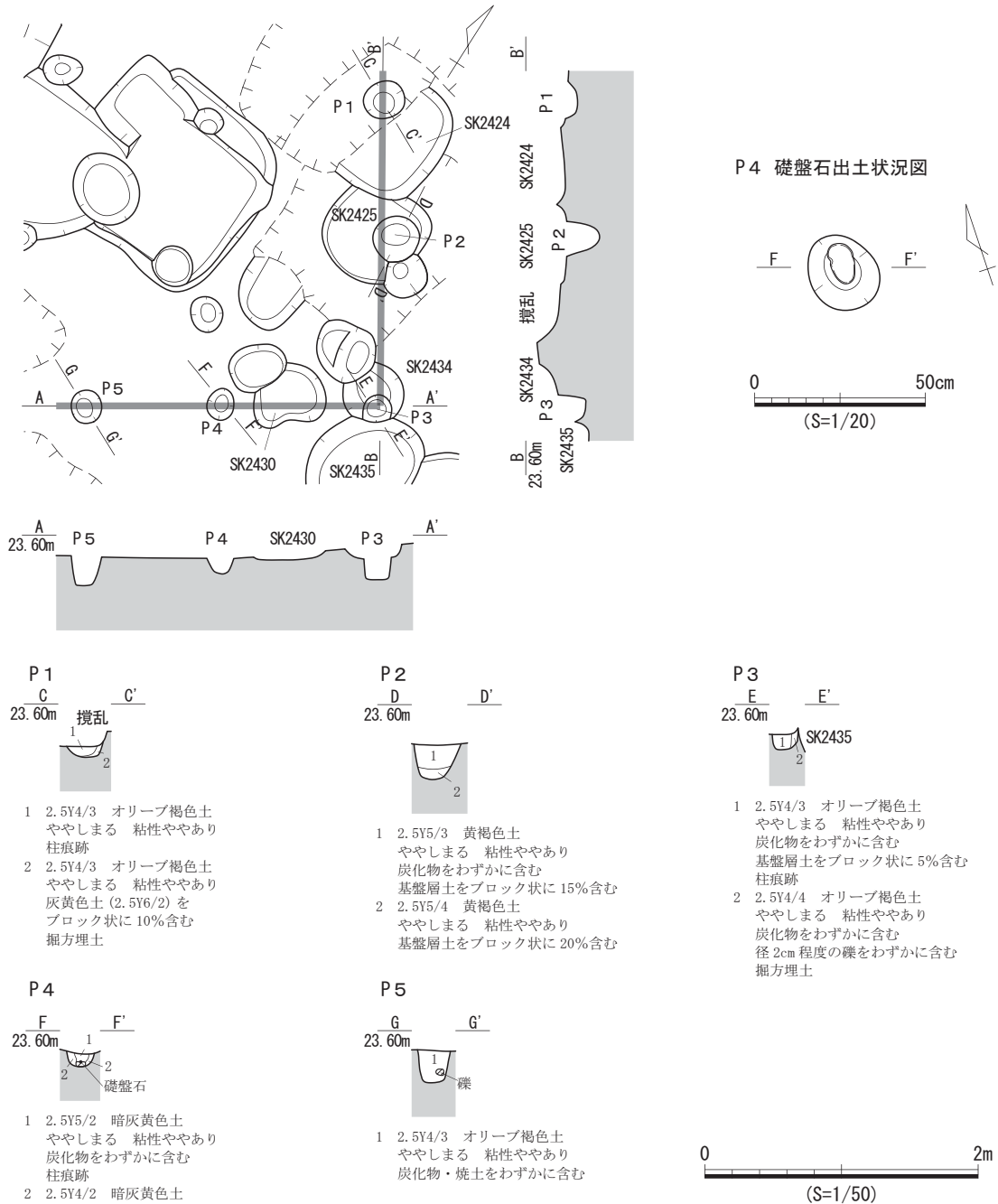


図 252 SA21 遺構図

SA22

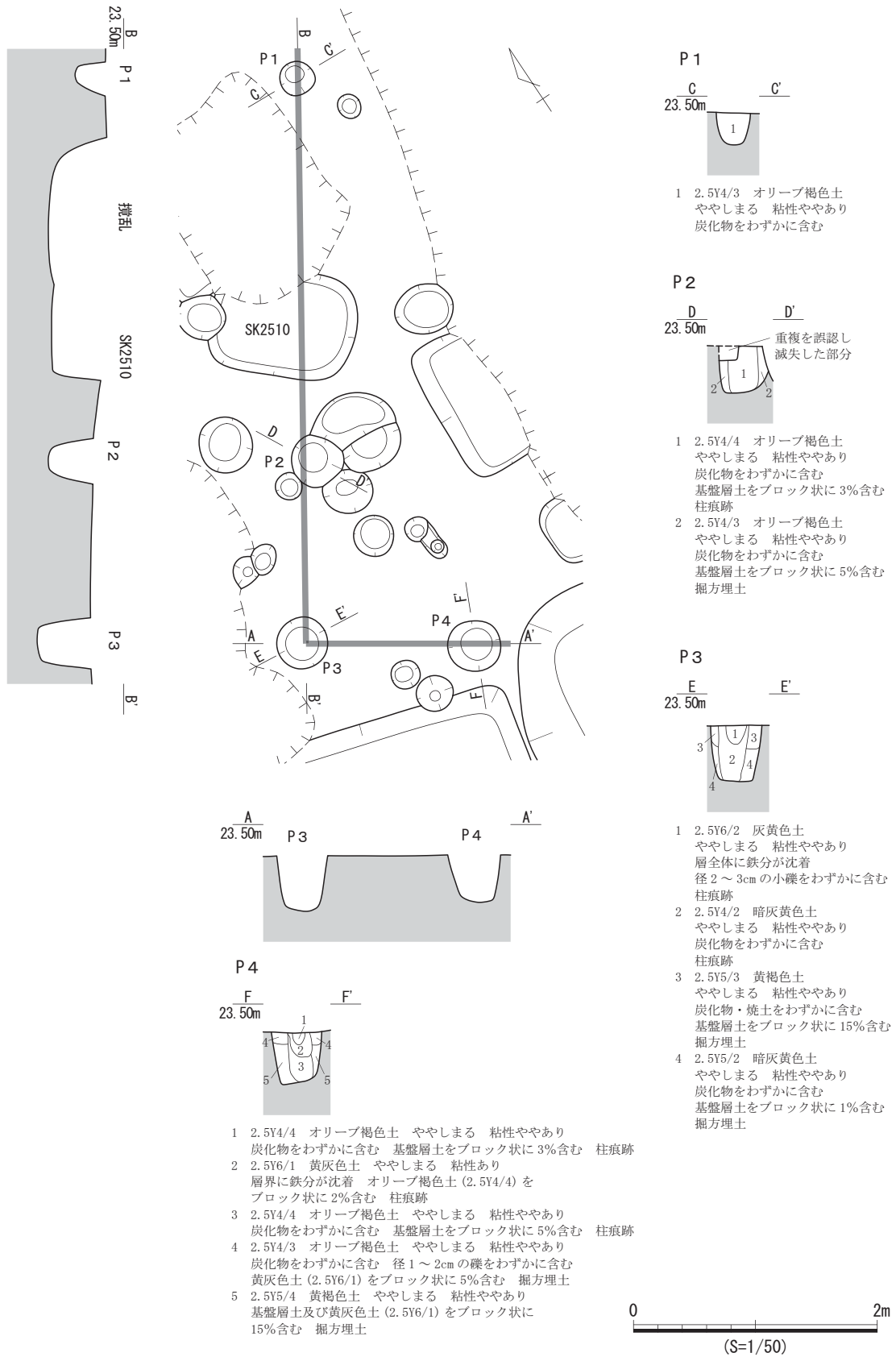


図 253 SA22 遺構図

して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2507 との重複関係、SA30 との位置関係から、本遺構は 12 世紀後葉から 17 世紀初頭と考えられる。

SA23 (図 254)

検出状況 21 地点 LH17～LH18 グリッド、IV b 層上面で検出した。各柱穴の平面形は P3 は不明瞭であったが、その他の柱穴は明瞭であった。P1 は SK2512 と SK2513、P2 と P3 は SI5 と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 3 基の柱穴が L 字形に並ぶ。柱間は、P1 から 2.1m－2.0m である。長軸方位は N－0°－E W である。西側の SI4・SD285 の南北軸の方位が揃う。

柱穴 いずれの柱穴も平面形は円形である。P3 で柱痕跡を確認した。どの柱穴も基盤層のブロック土を含む。P1 から土師器 4 点、P2 から土師器 10 点、山茶碗 1 点、陶磁器 2 点、P3 から土師器 1 点、須恵器 2 点、山茶碗 1 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SI5 との重複関係と尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は 12 世紀後葉以降と考えられる。

SA24 (図 255)

検出状況 21 地点 LH16～LI17 グリッド、IV b 層上面で検出した。各柱穴の平面形は明瞭であった。P1 は SK2497、P3 は SA25-P3 と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 3 基の柱穴が直線的に並ぶ。柱間距離は P1 から 2.9m－2.6m である。方位は N－79°－W である。南側の SI7・SI9 の東西軸と方位が揃う。

柱穴 柱穴の平面形は円形若しくは楕円形である。P1 と P2 で柱痕跡を確認した。いずれの柱穴も壁面は垂直に立ち上がる。P1 から土師器 3 点、青磁 1 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2497 との重複関係から、本遺構は 15 世紀中葉以降と考えられる。

SA25 (図 256)

検出状況 21 地点 LH16～LH17 グリッド、P1 は SK2497 底面、P2 と P3 は IV b 層上面で検出した。各柱穴の平面形は明瞭であった。P1 は SD287、P2 は SI4、P3 は SA24-P3 と重複する。本遺構は SA24・SK2497 より古く、SI4・SD287 より新しい。

規模・形状 3 基の柱穴が直線的に並ぶ。柱間は P1 から 2.7m－2.9m である。方位は N－80°－W である。SA24 とほぼ同位置で全長と方位が揃う。また、南側の SI7・SI9 の東西軸と方位が揃う。

柱穴 いずれの柱穴も平面形は円形である。P2 で柱痕跡を確認した。どの柱穴も埋土に炭化物を含む。P1 は基盤層のブロック土を含み、P3 の壁面は垂直に立ち上がる。P1 から土師器 1 点、須恵器 1 点、P2 から土師器 7 点、山茶碗 2 点、P3 から土師器 1 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SD287 との重複関係から、本遺構は 15 世紀前葉以降と考えられる。

SA26 (図 257)

検出状況 21 地点 LH12～LI12 グリッド、IV b 層上面で検出した。各柱穴の平面形はいずれも明瞭で

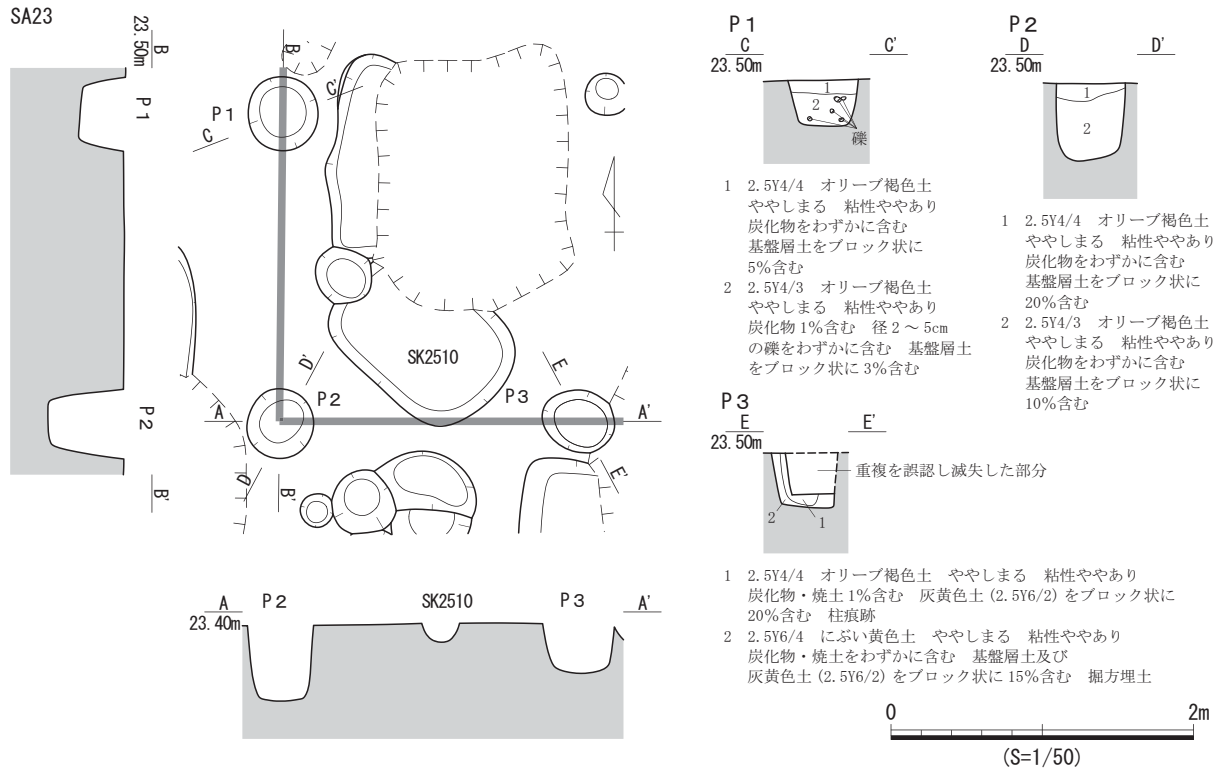


図 254 SA23 遺構図

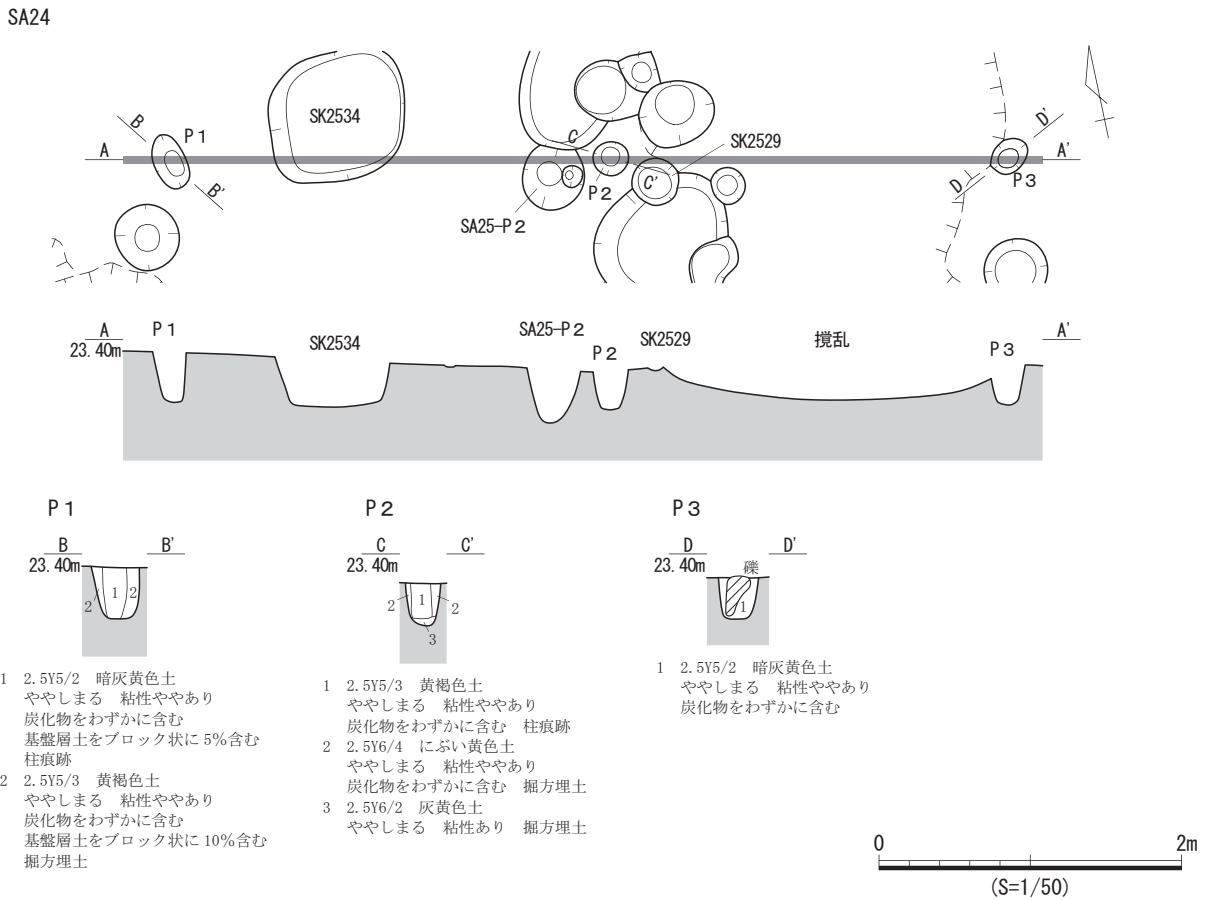


図 255 SA24 遺構図

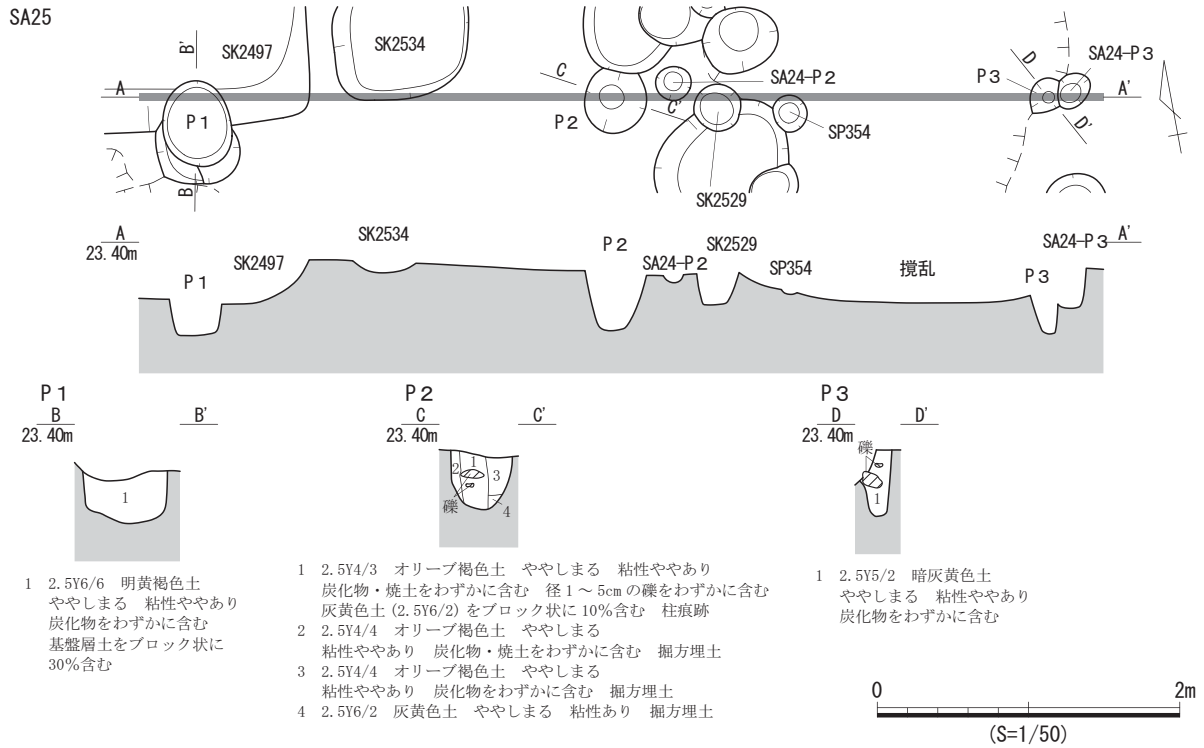


図 256 SA25 遺構図

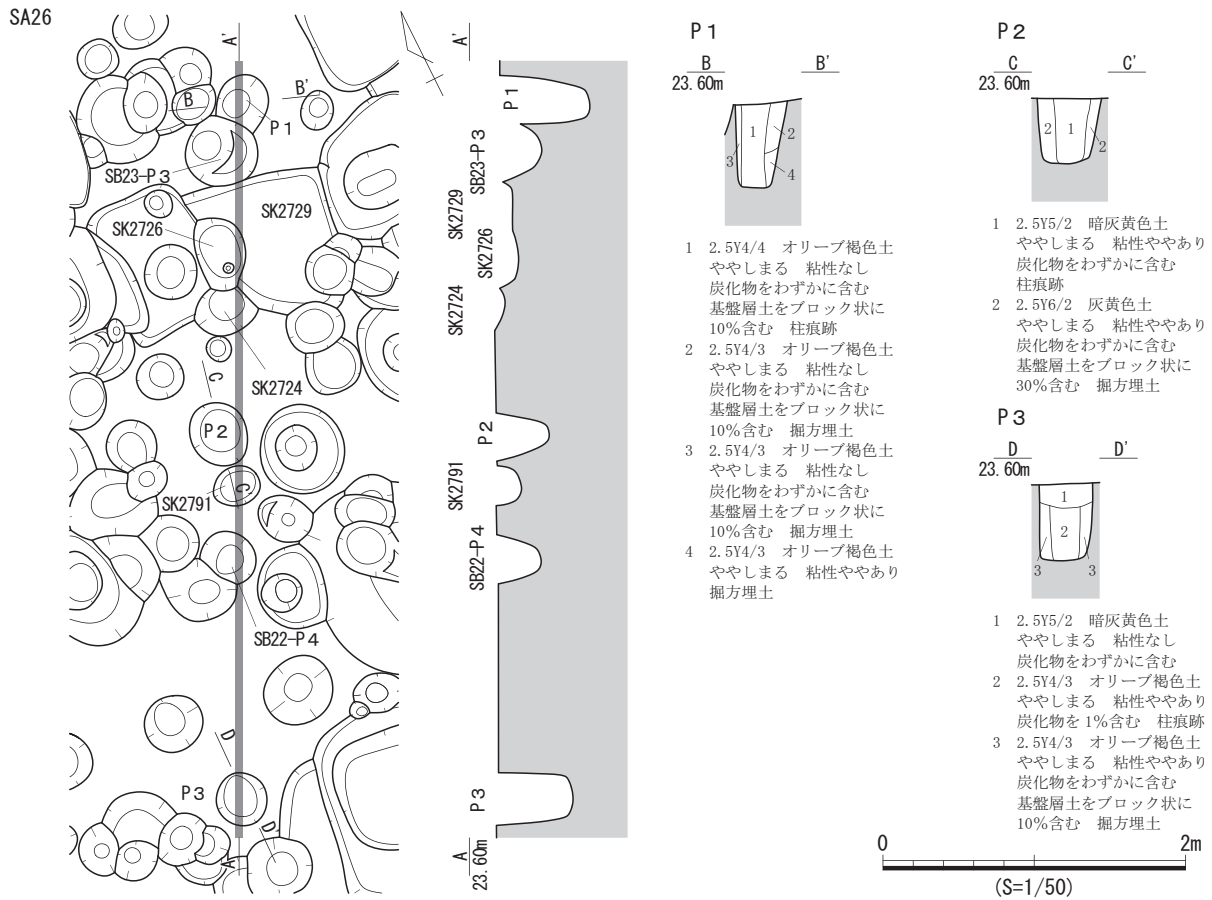


図 257 SA26 遺構図

あった。P1はSB23-P3・SK2722、P2はSK2790、P3はSB21-P7と重複する。本遺構はSB23より古く、SB21・SK2722・SK2790より新しい。

規模・形状 3基の柱穴が直線的に並ぶ。柱間はP1から2.2m-2.4mである。方位はN-26°-Eである。方位は他の溝や建物と揃わない。

柱穴 いずれの柱穴も平面形は円形である。すべての柱穴で柱痕跡を確認した。P1から土師器3点、須恵器1点、山茶碗5点、P2から土師器6点、須恵器1点、山茶碗3点、釘2点、P3から土師器6点、山茶碗2点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SB21・SB23との重複関係から、本遺構は12世紀後葉から15世紀中葉と考えられる。

SA27 (図258)

検出状況 21地点LH12~LI12グリッド、IVb層上面で検出した。各柱穴の平面形は、P2で不明瞭であったが、その他の柱穴は明瞭であった。P1はSB23-P3、P2はSK2712・SK2732、P3はSI5と重複する。本遺構はいずれの遺構よりも新しい。

規模・形状 4基の柱穴がL字形に並ぶ。柱間はP1から1.7m-1.8m-1.7mである。方位はN-2°-Wである。方位は他の溝や建物と揃わない。

柱穴 いずれの柱穴も平面形は円形である。P3で柱痕跡を確認した。どの柱穴も基盤層のブロック土を含む。P1から土師器6点、山茶碗1点、P3から土師器2点、山茶碗2点、P4から土師器6点、灰釉陶器1点、山茶碗4点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2712との重複関係から、本遺構は15世紀中葉以降と考えられる。

SA28 (図259)

検出状況 21地点LH12~LI12グリッド、P1はSK2732壁面、その他の柱穴はIVb層上面で検出した。各柱穴の平面形はP1は不明瞭であったが、その他の柱穴の平面形は明瞭であった。P1はSK2732、P2はSA27-P3・SP422と重複する。本遺構はSA27・SK2732より古く、SP422より新しい。

規模・形状 3基の柱穴が直線的に並ぶ。柱間はP1から2.2m-2.25mである。方位はN-7°-Eである。南側のSD292と方位が揃う。

柱穴 柱穴の平面形はP1は楕円形、P2とP3は円形である。すべての柱穴で柱痕跡を確認した。P2から土師器12点、灰釉陶器1点、山茶碗2点、古瀬戸1点、P3から土師器1点、山茶碗6点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗など2点を図示した。1710は第6型式の尾張型山茶碗である。1711は古瀬戸後Ⅱ期の折縁深皿である。

時期 図示した1711から、本遺構は14世紀末から15世紀初頭と考えられる。

SA29 (図260)

検出状況 21地点LI19~LJ19グリッド、IVb層上面で検出した。各柱穴の平面形はP3は不明瞭であったが、その他の柱穴は明瞭であった。P1はSI8・SD275、P2はSI8と重複する。本遺構はいずれの遺構よりも新しい。

規模・形状 4基の柱穴がL字形に並ぶ。柱間はP1から1.3m-1.1m-1.65mである。方位はN-

0° - E Wである。南側の SA35・SD283 と東西軸の方位が揃い、SA33 とは東西軸、南北軸ともに方位が揃う。

柱穴 いずれの柱穴も平面形は円形である。P1・P2・P4で柱痕跡を確認した。どの柱穴もブロック土を含み、壁面は垂直に立ち上がる。P2から土師器2点、灰釉陶器1点、山茶碗5点、P3から土師器1点、山茶碗1点、P4から須恵器1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SA33・SA35・SD283 との位置関係から、本遺構は14世紀後葉から17世紀初頭と考えられる。

SA30 (図 261)

検出状況 21地点 LI19~LJ19 グリッド、P3はSD276底面、その他の柱穴はIV b層上面で検出した。各柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。P1はSI8・SA31-P1、P2はSI8と重複する。本遺構は

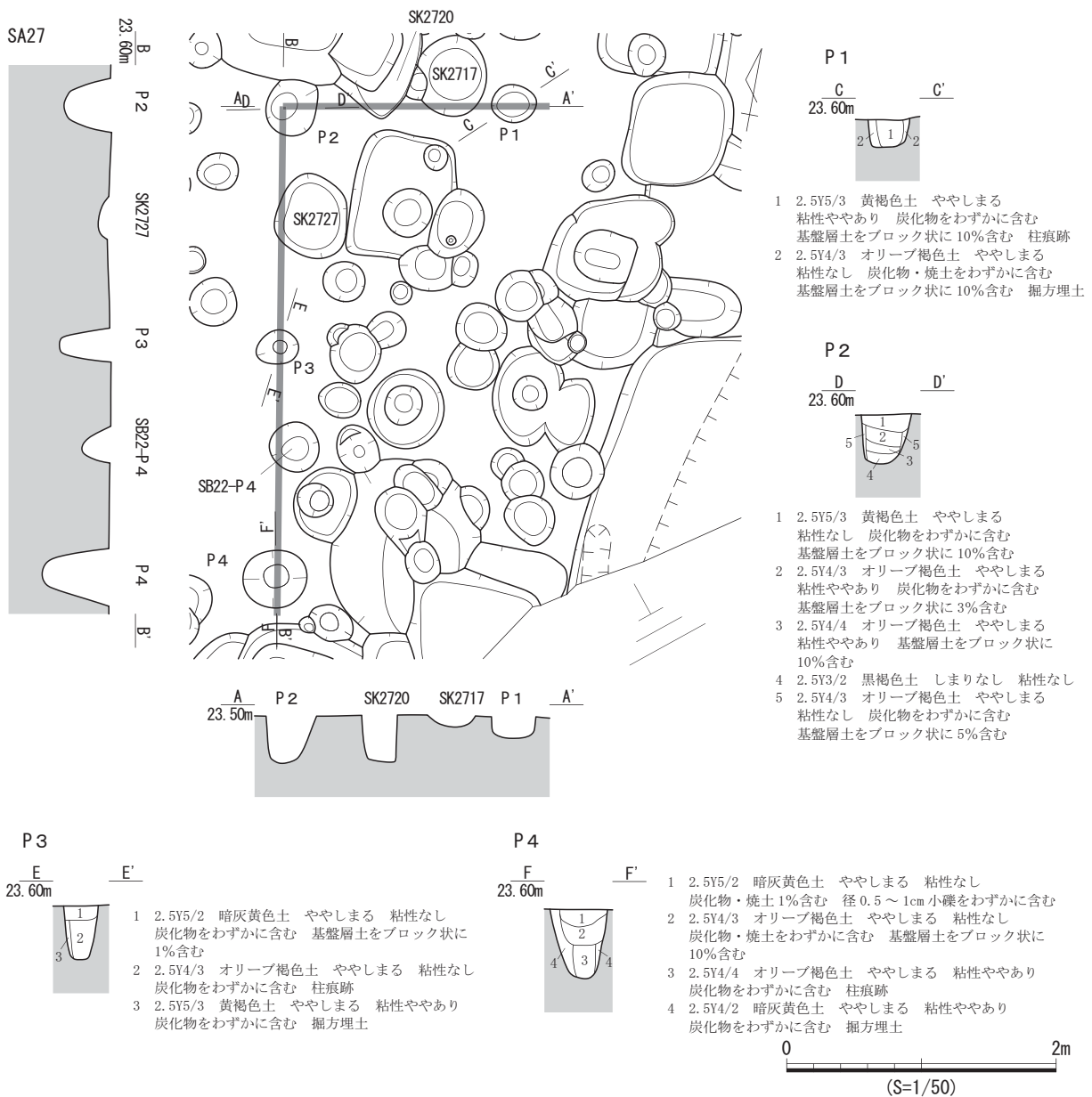


図 258 SA27 遺構図

SA31 より古く、SI 8 より新しい。

規模・形状 5基の柱穴がL字形に並ぶ。柱間はP1から2.0m-1.3m-1.5m-1.1mである。方位はN-65°-Wである。西側のSA22と7.0mの距離を隔てて東西軸、南北軸の方位が概ね揃う。北東側は発掘区外となり掘立柱建物の可能性がある。

柱穴 P2~P4の平面形は円形である。また、検出した範囲では、P1とP5の平面形は円形と考えられる。P2~P5はブロック土を含み、柱痕跡を確認した。どの柱穴も壁面は垂直に立ち上がる。P1から陶器1点、P2から土師器15点、須恵器1点、山茶碗7点、陶器2点、P3から土師器4点、山茶碗1点、P5から土師器1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SA22との位置関係から、本遺構は12世紀後葉から17世紀初頭と考えられる。

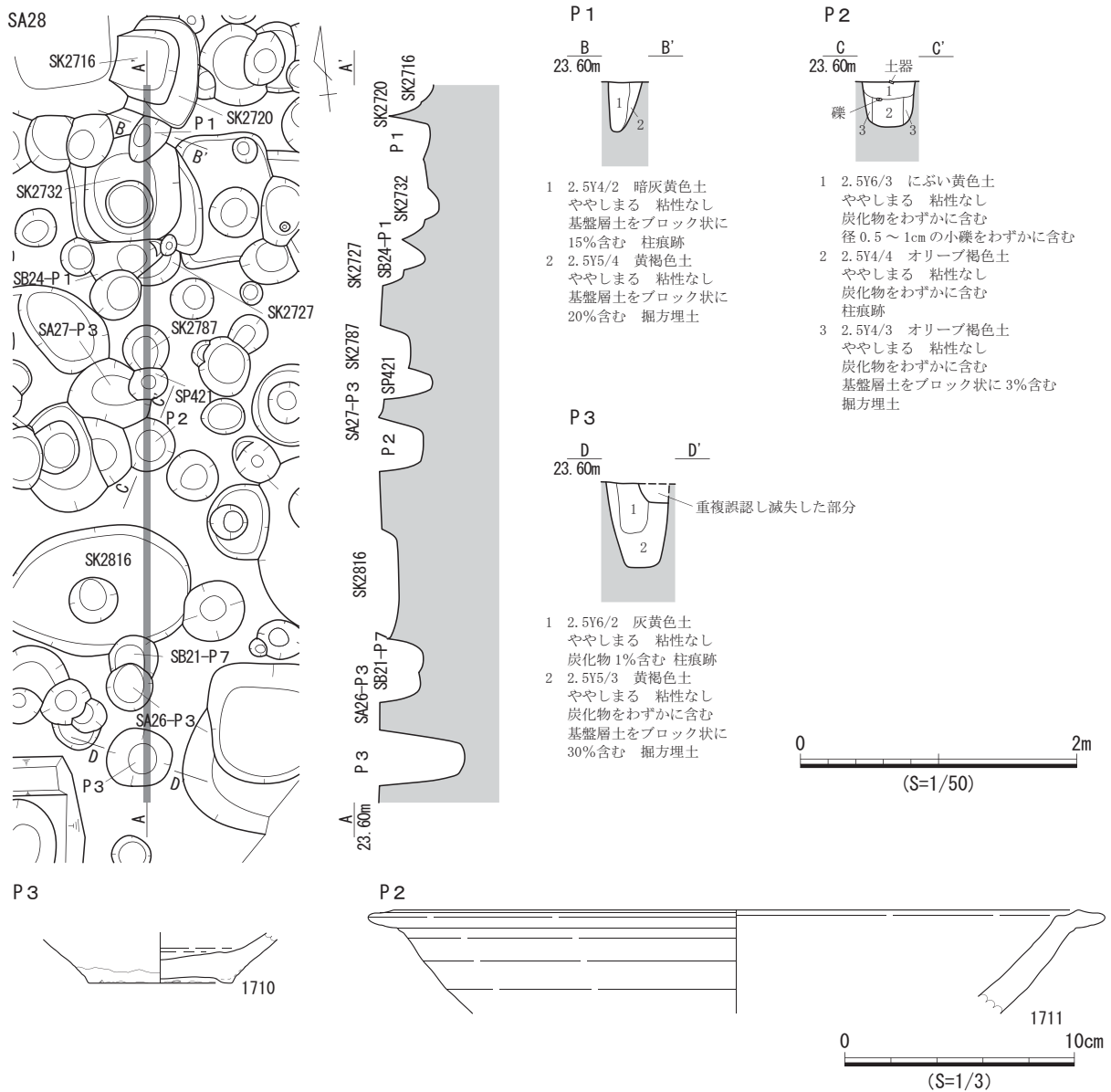


図 259 SA28 遺構図・出土遺物実測図

SA31 (図262)

検出状況 21地点LI19~LJ19グリッド、IVb層上面で検出した。各柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。P1はSA30-P1・SD275、P3はSA32-P1と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 3基の柱穴がL字形に並ぶ。柱間は、P1から2.2m-1.95mである。方位はN-12°-Eである。南側のSD283、西側のSI9・SI14と東西軸の方位が揃う。

柱穴 いずれの柱穴も平面形は円形である。すべての柱穴で柱痕跡を確認した。どの柱穴もブロック土を含み、壁面は垂直に立ち上がる。P3から灰釉陶器1点、山茶碗1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

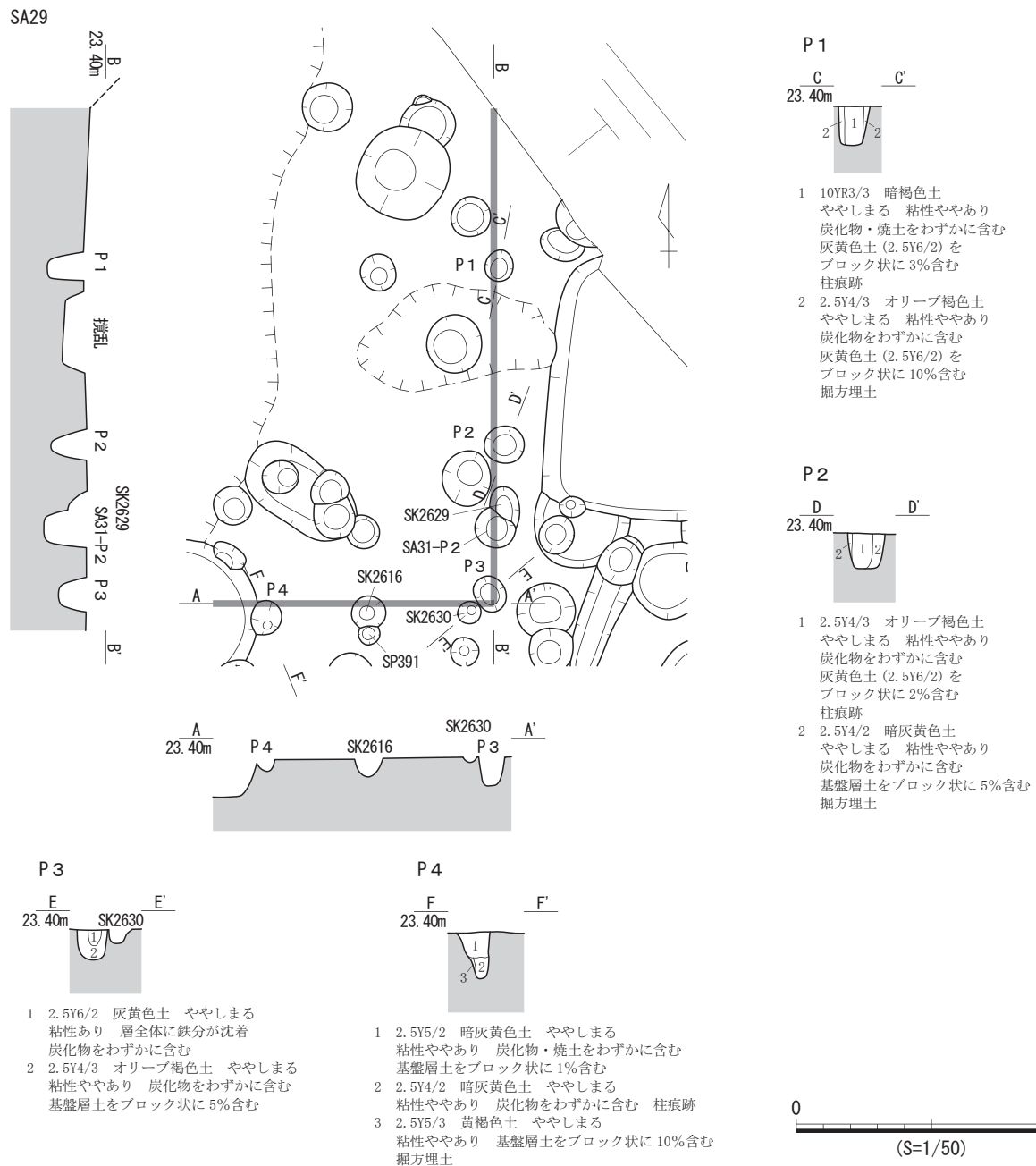


図260 SA29遺構図

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SA32 との重複関係と SD283 との位置関係から、本遺構は 16 世紀後葉から 17 世紀初頭と考えられる。

SA32 (図 263)

検出状況 21 地点 LJ19 グリッド、P1 は SK2627 底面、P2 は SK2636 底面、P3 は IV b 層上面で検出した。各柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。P1 は SA31-P3・SK2626 と重複する。本遺構は SA31 より古く、SK2626 より新しい。

規模・形状 3 基の柱穴が L 字形に並ぶ。柱間は P1 から 1.2m-1.35m である。方位は N-69°-W である。SD283 と東西軸の方位が揃う。

柱穴 いずれの柱穴も平面形は円形である。すべての柱穴で柱痕跡を確認した。どの柱穴も基盤層の

SA30

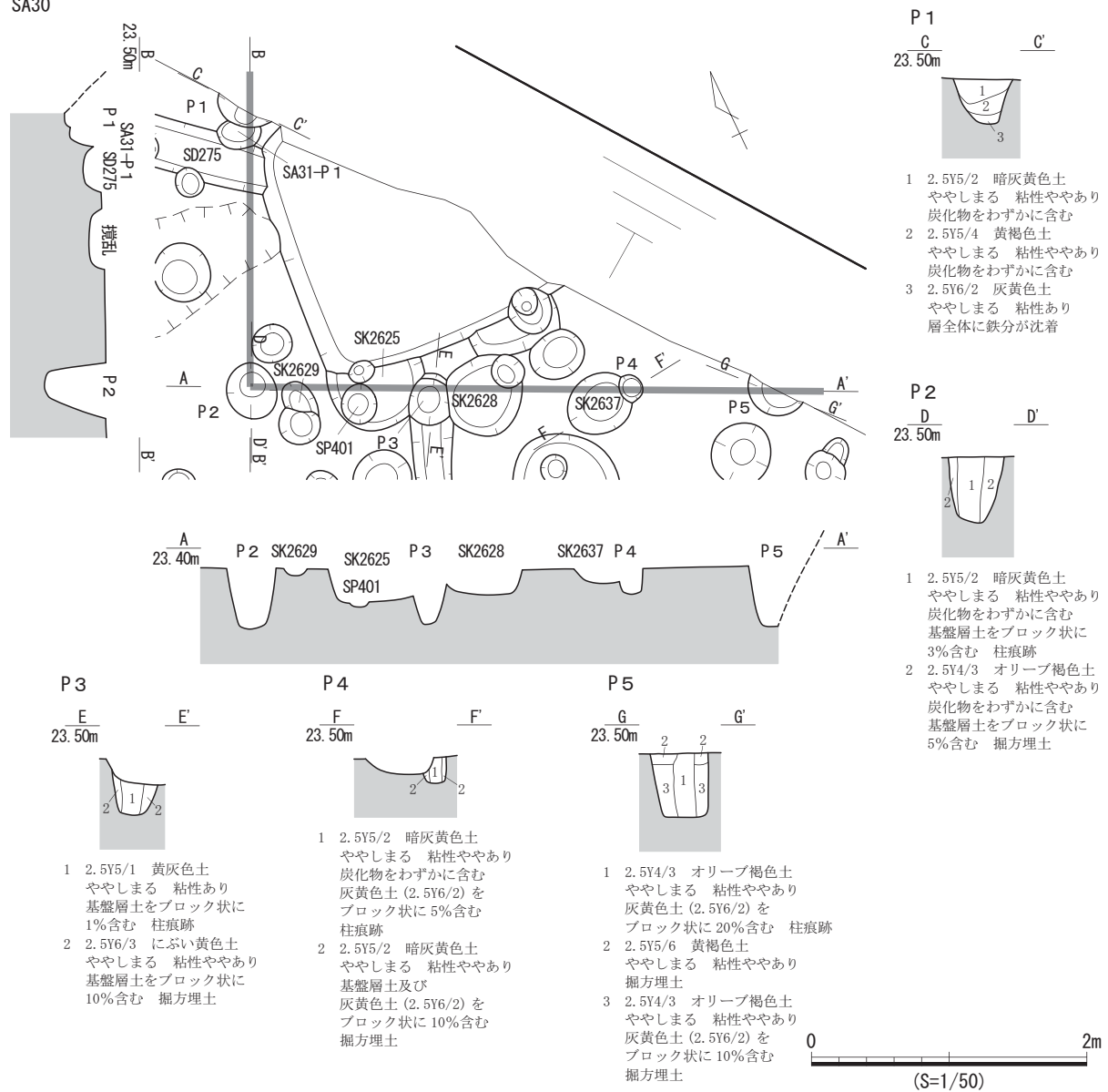


図 261 SA30 遺構図

ブロック土を含む。P3から土師器3点、山茶碗1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SD283との位置関係から、本遺構は16世紀後葉から17世紀初頭と考えられる。

SA33 (図264)

検出状況 21地点LJ17~LJ18グリッド、IVb層上面で検出した。各柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。P1はSI11、P2はSI10、P3はSI10、P4はSI8と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 4基の柱穴がL字形に並ぶ。柱間はP1から1.85m-2.05m-1.95mである。長軸方位はN-86°-Wである。北側のSA35、西側のSI9、南側のSD283、東側のSI12と東西軸の方位が揃う。

柱穴 柱穴の平面形はP4は不整形円で、その他の柱穴は円形である。P2とP3で柱痕跡を確認した。いずれの柱穴も基盤層のブロック土を含み、壁面の傾斜は急に立ち上がる。P1から土師器2点、須恵器1点、P2から土師器5点、P3から土師器3点、須恵器1点、山茶碗3点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SI10との重複関係とSD283との位置関係から、本遺構は14世紀後葉から17世紀初頭と考えられる。

SA34 (図265)

検出状況 21地点LI19グリッド、IVb層上面で検出した。各柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。

規模・形状 3基の柱穴が直線的に並ぶ。柱間はP1から2.3m-2.1mである。方位はN-78°-E

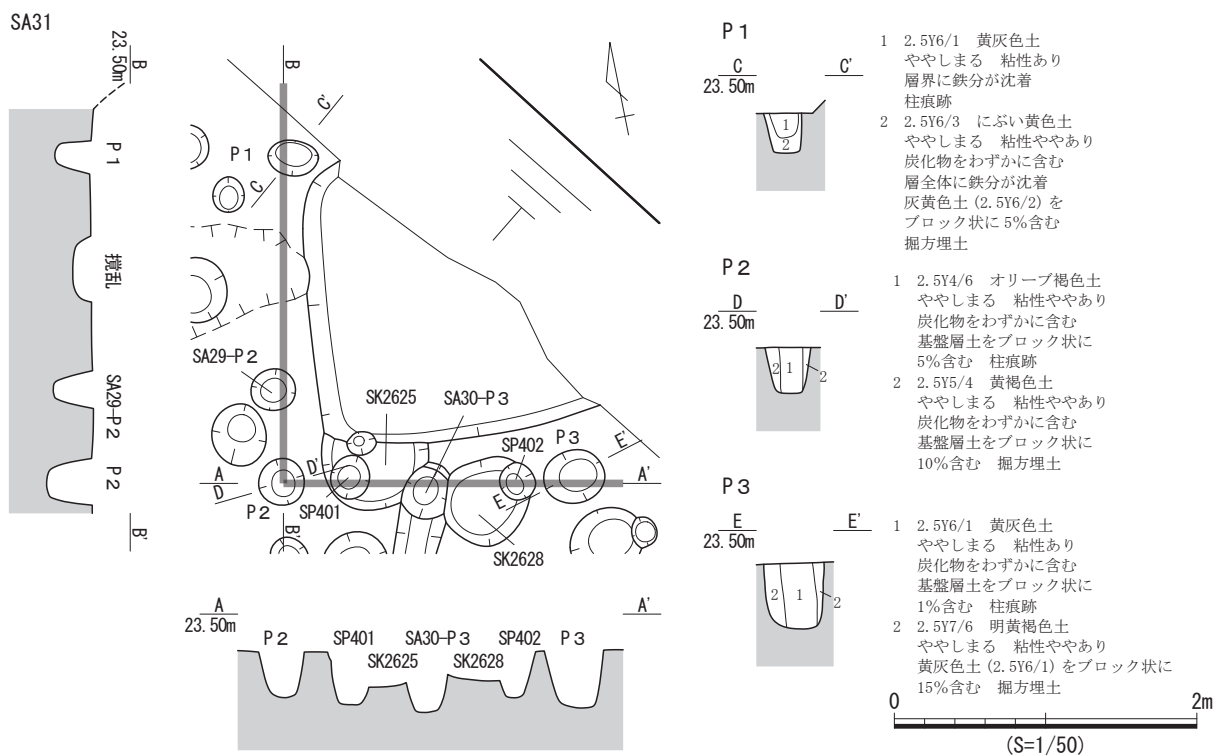


図262 SA31遺構図

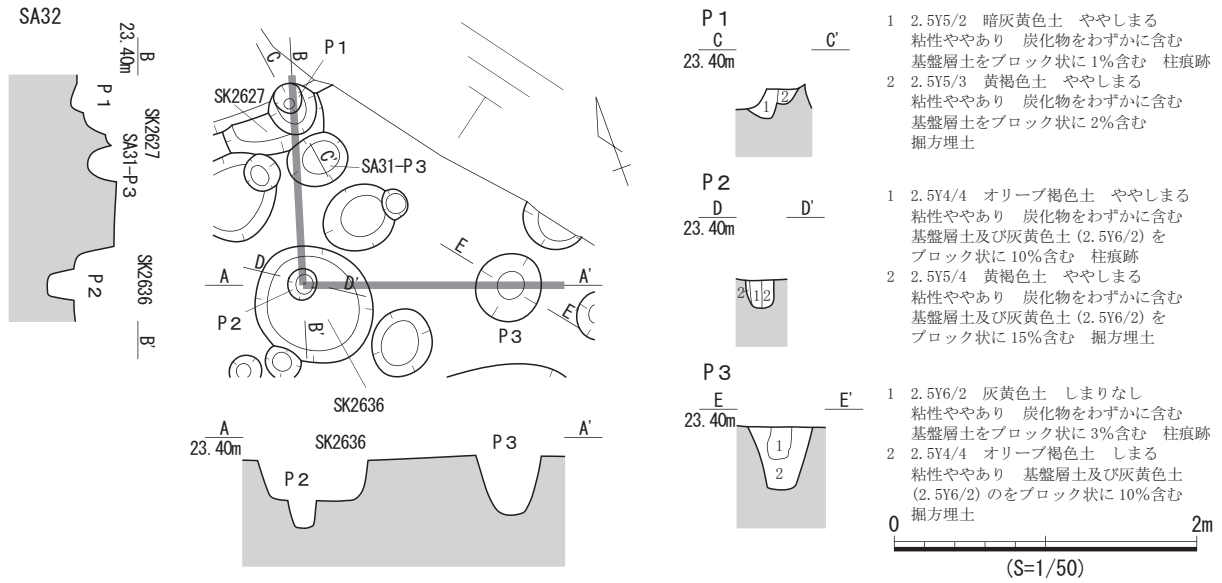


図 263 SA32 遺構図

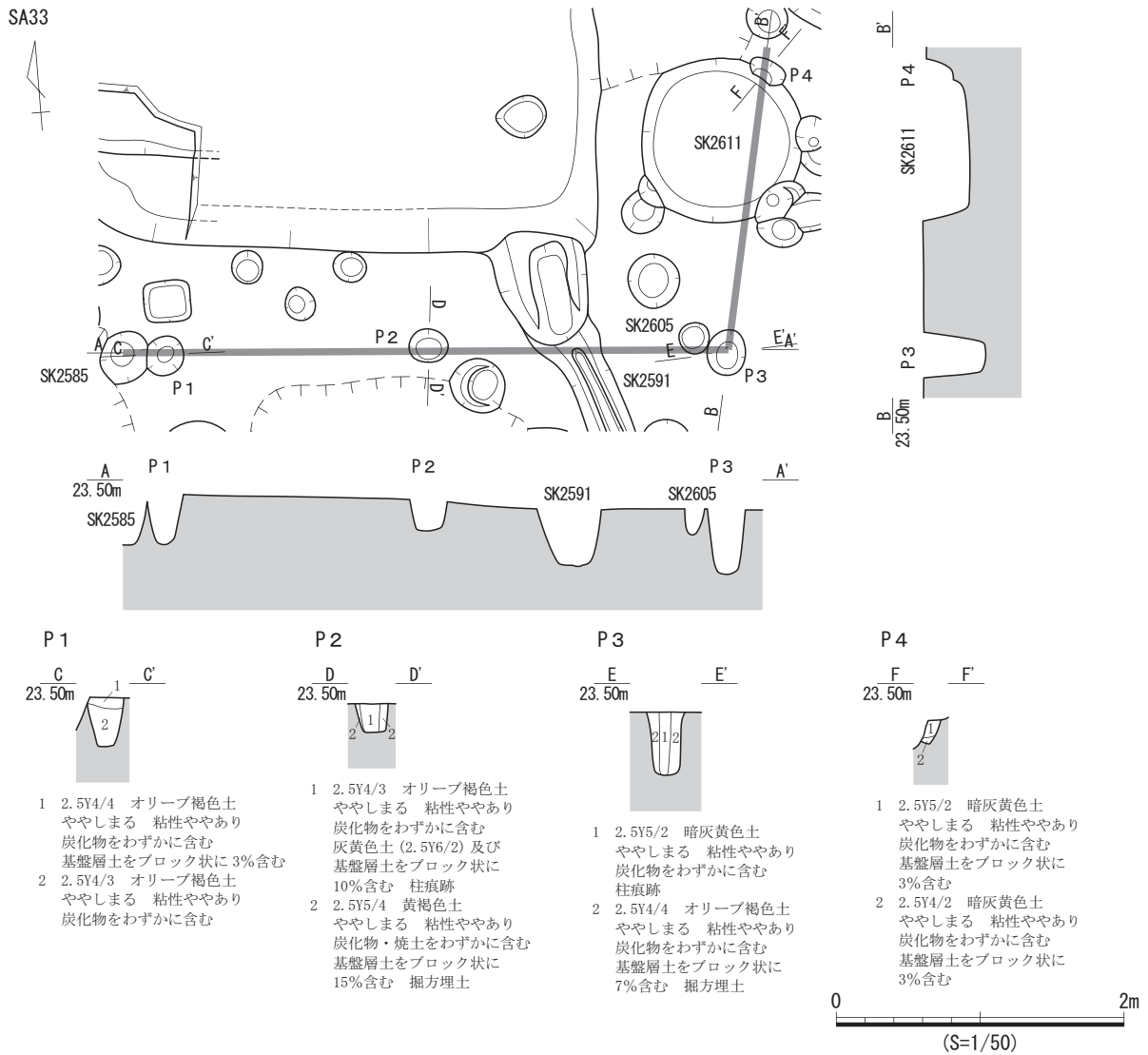


図 264 SA33 遺構図

である。西側の SA35、南側の SI12・SD283 と東西軸の方位が揃う。

柱穴 いずれの柱穴も平面形は円形である。すべての柱穴で柱痕跡を確認した。どの柱穴もブロック土を含み、壁面は垂直に立ち上がる。P1 から土師器 1 点、須恵器 1 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SA35・SD283 との位置関係から、本遺構は 14 世紀後葉から 17 世紀初頭と考えられる。

SA35 (図 266)

検出状況 21 地点 LJ17～LJ18 グリッド、IV b 層上面で検出した。各柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。P1 は SI11、P2 は SI10、P3 は SI10 と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 3 基の柱穴が直線的に並ぶ。柱間は P1 から 2.1m－1.75m である。長軸方位は N－84°－W である。北側の SK2591、南側の SD283・SA33、東側の SI12・SA34 と東西軸の方位が揃う。

柱穴 いずれの柱穴も平面形は円形である。すべての柱穴で柱痕跡を確認した。どの柱穴もブロック土を含み、壁面は垂直に立ち上がる。P2 から土師器 2 点、須恵器 1 点、山茶碗 1 点、P3 から土師器 5 点、常滑産の甕 1 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SI10 との重複関係と SA33・SD283 との位置関係から、本遺構は 14 世紀後葉から 17 世紀初頭と考えられる。

SA52 (図 267)

検出状況 1 地点 MD2～MD3 グリッド、IV b 層上面で検出した。各柱穴の平面形は明瞭であった。P2 は北側で SP275 と重複する。本遺構は SP275 より古い。

規模・形状 3 基の柱穴が等間隔で直線的に並ぶ。全長 4.7m、柱間は P1 から 2.5m－2.2m である。方位は N－78°－E である。P1 は発掘区際で、西側に延びる可能性がある。周囲が攪乱により消失し、関連する遺構は確認できなかった。

柱穴 柱穴の平面形は楕円形若しくは円形である。柱痕跡は確認できなかったが、深く壁が立ち上がる掘方である。P1 から土師器 9 点、須恵器 1 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 4 点、常滑産の甕 2 点、P2 から灰釉陶器 2 点、山茶碗 1 点、P3 から古瀬戸 1 点、山茶碗 1 点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗 1 点を図示した。1712 は第 7 型式の尾張型山茶碗の小皿である。

時期 図示した 1712 から、本遺構は 13 世紀後葉から末と考えられる。

4 井戸

SE1 (図 268・269)

検出状況 20 地点 MF4～MG5 グリッド、IV a 層上面で検出した。石積の井戸で、平面形は明瞭であった。北側で SK2289・SK2290、西側で SK2315、南側で SK2321、東側で SA18-P1・SD270 と重複する。本遺構は SA18・SK2289・SK2290・SK2315・SK2321・SD270 より新しい。

規模・形状 掘方の平面形は円形である。石積は小口積みで、掘方中央に円筒状に積まれる。石積の石材内面(井戸壁面として露出する面)は比較的面が揃い、面取りの痕跡を確認できる石材もあった。掘方の壁面は垂直に近いが、底面に向かって若干狭くなる。底面までの調査は不可能であったが、角度と引きを考慮すると、深さは 2 m 程度と推測される。

SA34

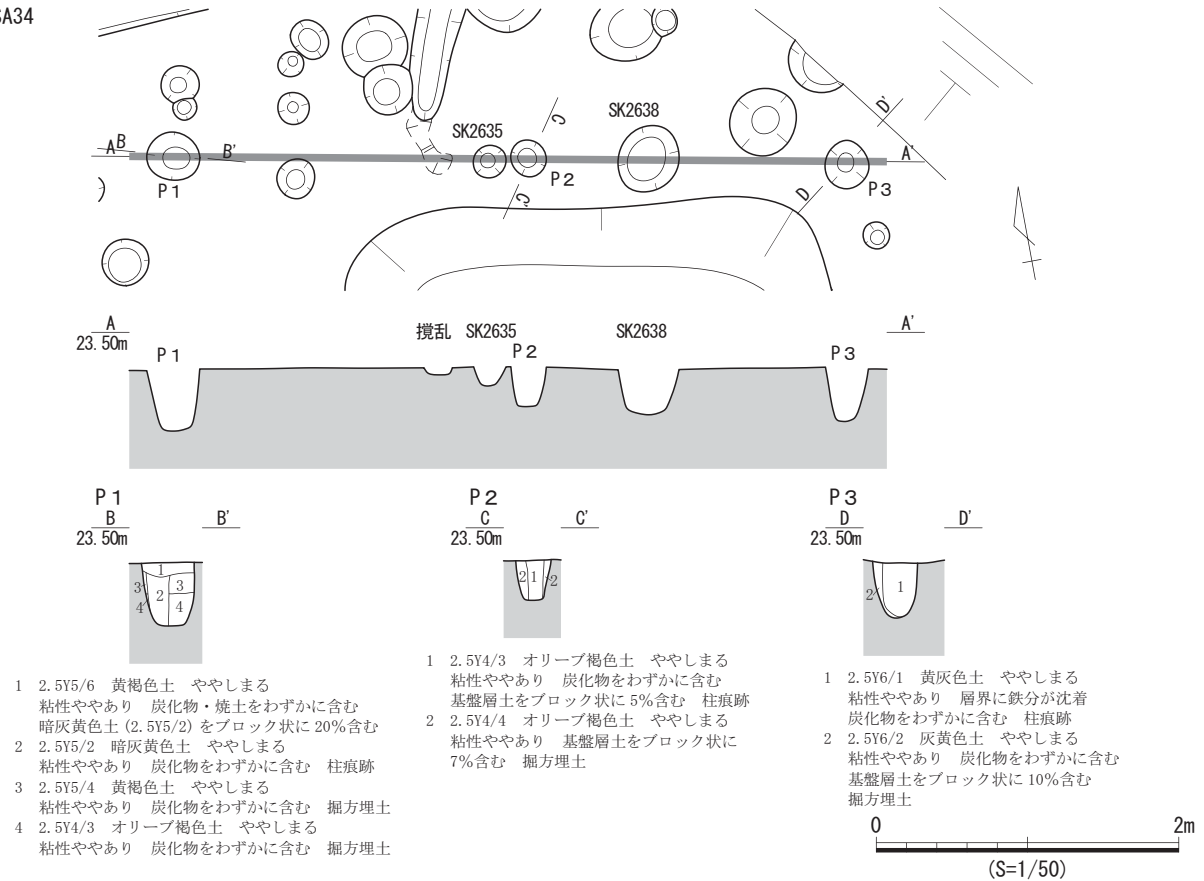


図 265 SA34 遺構図

SA35

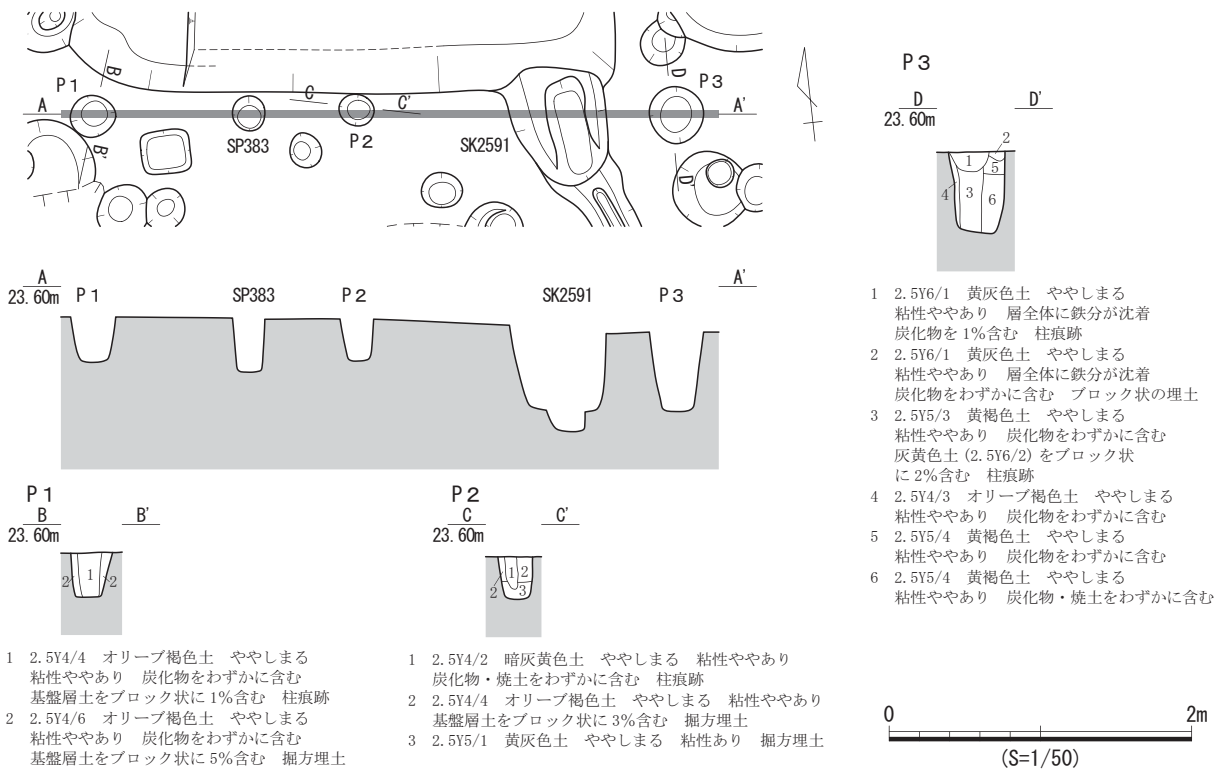


図 266 SA35 遺構図

埋土 3層に分層した。1層は井戸の埋設に伴う埋土で、川原石を多量に含んでいた。2層と3層は石積の裏込土である。

柱穴 P1～P4は、井戸の周囲で検出した柱穴である。桁行1間（北側3.7m、南側4.3m）、梁行1間（2.3m）、面積8.8㎡の建物が想定され、井戸の覆屋と考えられる。長軸方位はN-72°-Wである。SB17・SB19・SA17と東西軸が概ね揃う。P4から土師器1点、山茶碗1点が散在して出土した。

遺物出土状況 1層から土師器4点、須恵器1点、山茶碗3点、陶器5点、2層と3層から土師器38点、須恵器11点、山茶碗17点、陶器3点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿など3点を図示した。1713はP4から出土したM2類の土師器皿である。1714は1層から出土した丸石3号窯式、1715は2層から出土した白土原1号窯式に比定した東濃型山茶碗である。

時期 図示した1715から、本遺構は13世紀初頭から中葉に構築されたと考えられる。また、1層か

SA52

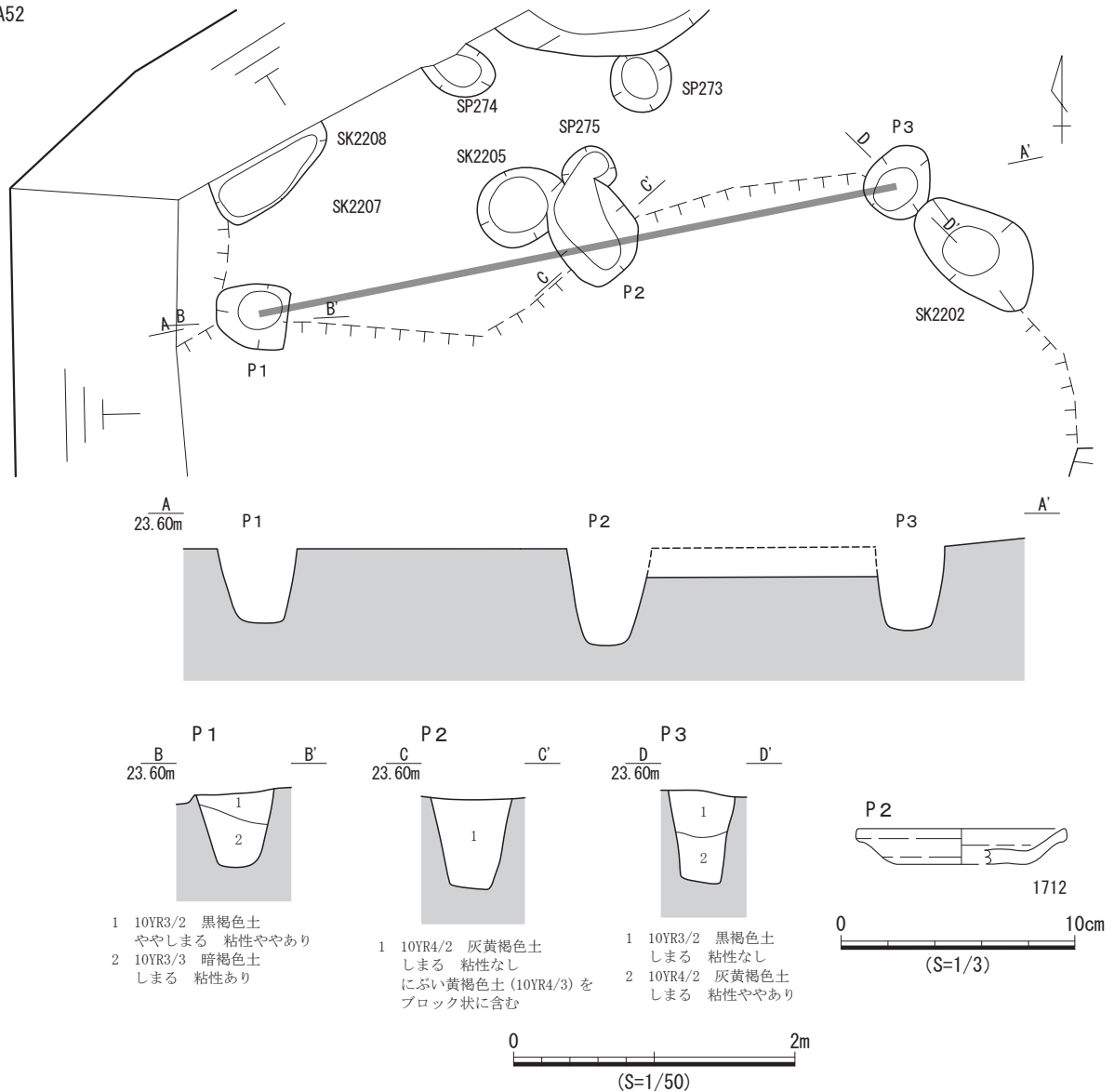


図 267 SA52 遺構図・出土遺物実測図

ら大窯製品が出土したことから、15世紀末から17世紀初頭に廃絶したと考えられる。

5 柱穴

SP262 (図 270)

検出状況 2地点 IP10 グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は不明瞭であり、SK2176の掘削中に土層断面で確認した。南側は発掘区外に続くSK2176の上面から掘り込む。本遺構はSK2176より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は円形と考えられる。壁面の傾斜は底面付近ではやや緩やかであるが、その後急に立ち上がる。底面は概ね平坦である。

埋土 4層に分層した。遺構の中央部に2層・3層が水平に堆積する。4層は2層・3層に対して垂直に堆積する。1層に炭化物と焼土粒を少量含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器21点、須恵器1点、山茶碗4点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2176との重複関係から、本遺構は13世紀後葉以降と考えられる。

SP268 (図 270)

検出状況 2地点 IR7～IR8 グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は楕円形である。南の壁面の傾斜はやや開くが、他の壁面の傾斜は急である。中央部は深く窪み、底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。1層が柱痕跡で、2層は掘方埋土と考えられる。

遺物出土状況 1層から土師器2点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 重複関係がなく、出土遺物も小片のため、時期は不明である。

SP275 (図 271)

検出状況 1地点 MD2 グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側でSA52-P2と重複する。本遺構はSA52より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。底面は東に向かって下がる。柱痕跡は確認できなかったが、壁面がほぼ垂直に立ち上がる掘方である。

埋土 単層で、埋土上部に炭化物を少量含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器7点、須恵器1点、灰釉陶器1点、山茶碗4点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

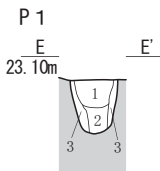
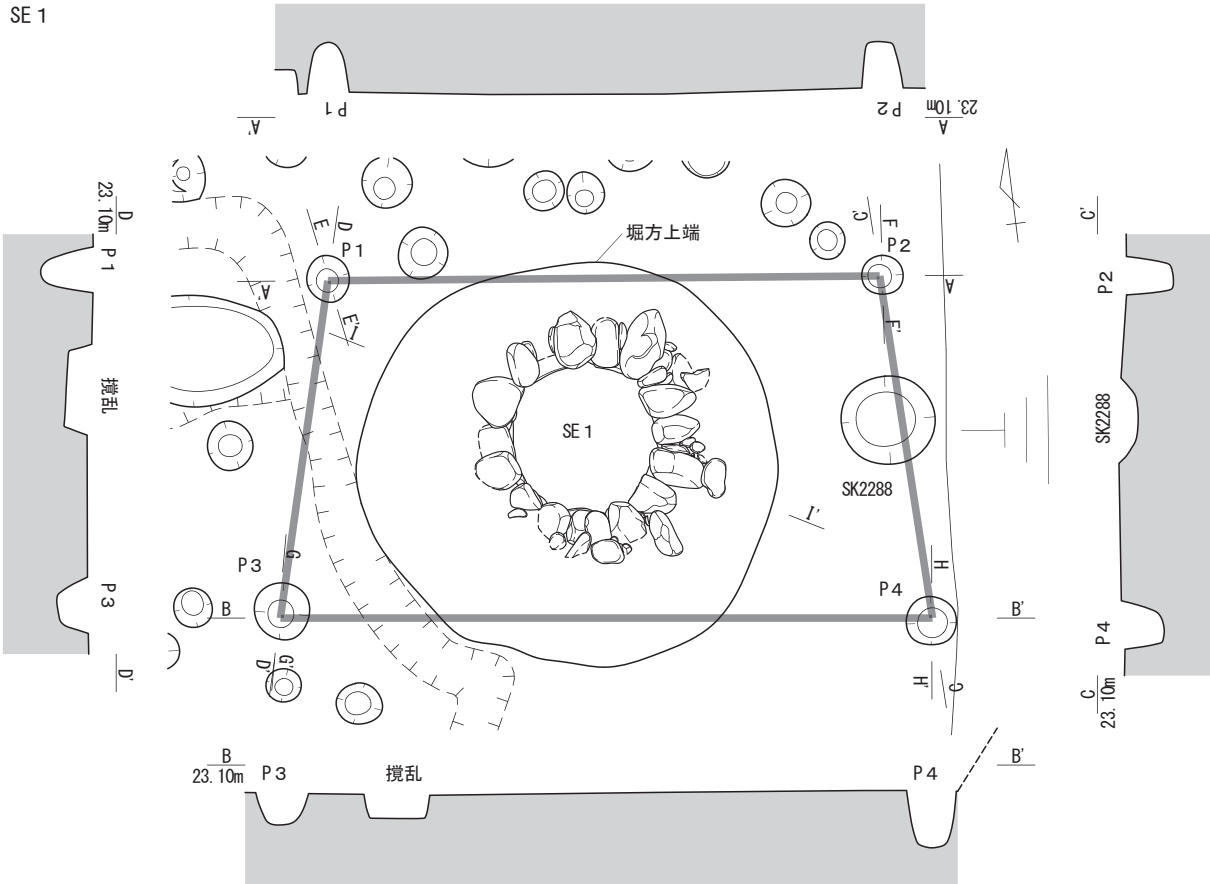
時期 SA52との重複関係から、本遺構は13世紀後葉以降と考えられる。

SP282 (図 271)

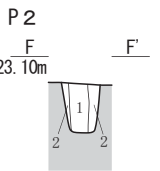
検出状況 1地点 ME4 グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南西のSP283と同規模である。

規模・形状 平面形は円形である。底面はやや深く、丸みを帯びる。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

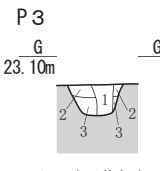
埋土 2層に分層した。1層は上部に堆積し、炭化物を少量含む。



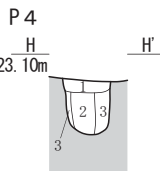
- 1 2.5Y6/2 灰黄色土
ややしまる 粘性あり
層界に鉄分が沈着
炭化物をわずかに含む
柱痕跡
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 柱痕跡
- 3 2.5Y5/2 暗灰黄色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む
掘方埋土



- 1 2.5Y4/4 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む
径1~2cmの礫をわずかに含む
柱痕跡
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土をわずかに含む
基盤層土をブロック状に10%含む
掘方埋土



- 1 2.5Y5/2 暗灰黄色土
ややしまる 粘性ややあり
基盤層土をブロック状に及び
灰黄色土(2.5Y6/2)を
ブロック状に15%含む
柱痕跡
- 2 2.5Y5/3 黄褐色土
ややしまる 粘性ややあり
径0.5~1cmの礫を1%含む
基盤層土をブロック状に15%含む
掘方埋土
- 3 2.5Y6/3 にぶい黄色
ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分が沈着 掘方埋土



- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物を1%含む 基盤層土
をブロック状に3%含む
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物を1%含む 基盤層土
をブロック状に1%含む
柱痕跡
- 3 2.5Y5/3 黄褐色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む
掘方埋土

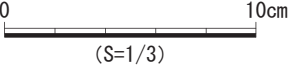
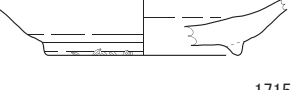
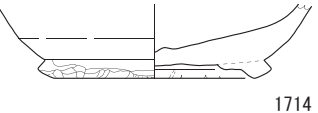
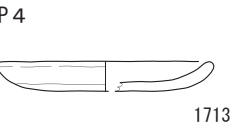
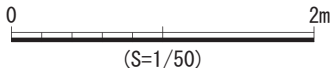
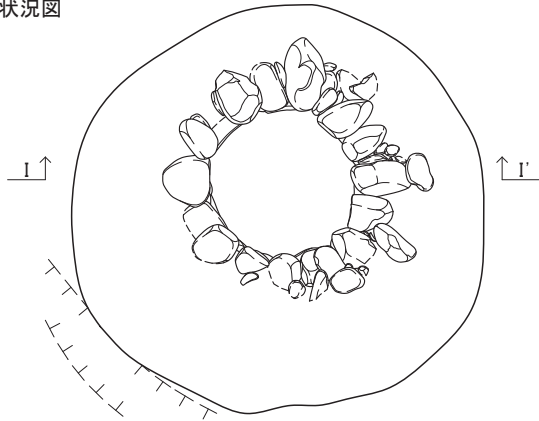
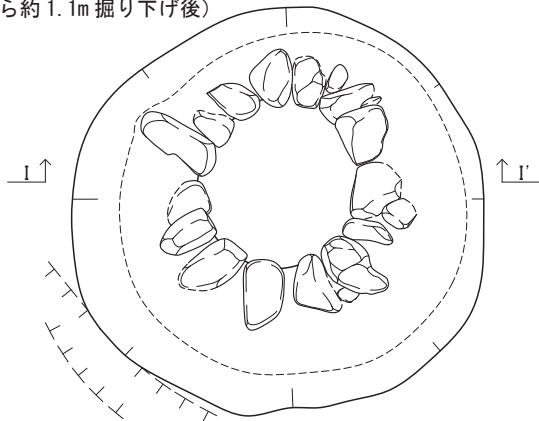


図 268 SE 1 遺構図 (1)・出土遺物実測図

SE 1 検出状況図



SE 1 掘削状況図
(検出面から約 1.1m 掘り下げ後)



SE 1 石積見通し図



SE 1 断面図



- 1 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性あり
径 1 ~ 70cm の円礫・亜角礫を 2% 含む
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 径 1 ~ 30cm の礫を 15% 含む
基盤層土をブロック状に 3% 含む 裏込土
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 径 1 ~ 20cm の礫を 15% 含む 裏込土

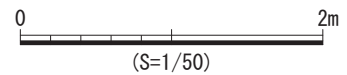


図 269 SE 1 遺構図 (2)

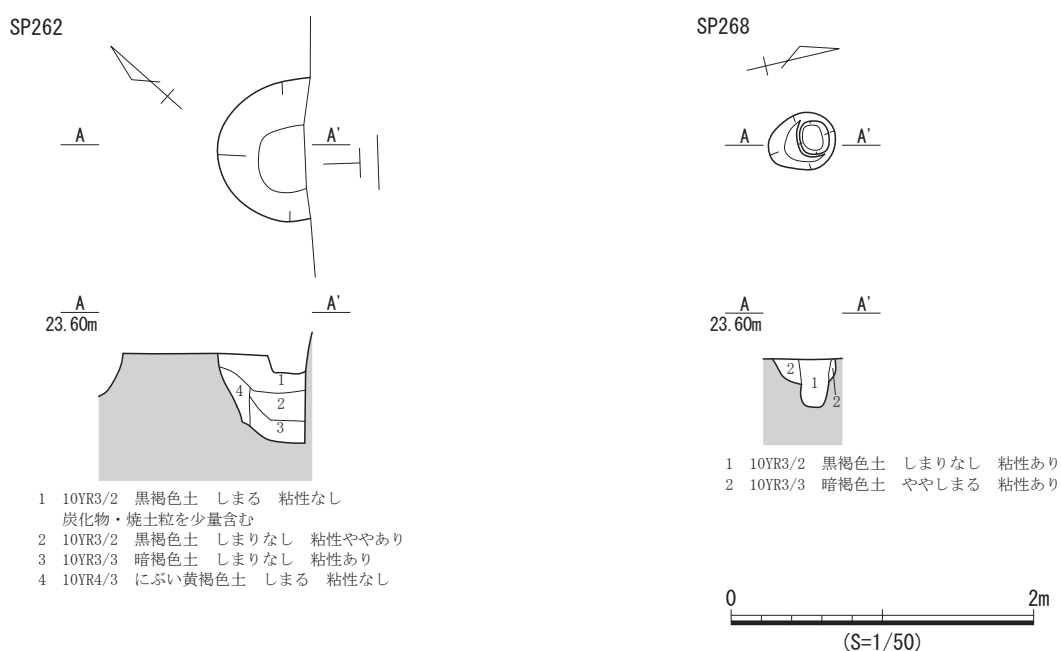


図 270 SP262・SP268 遺構図

遺物出土状況 埋土中から土師器 5 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 重複関係がなく、出土遺物も小片のため、時期は不明である。

SP283 (図 271)

検出状況 1 地点 ME 3 ～ME 4 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北東の SP282 と同規模である。

規模・形状 平面形は円形である。柱痕跡は見られなかったが、壁面は南東側ではほぼ垂直に立ち上がる。北西側では底面付近で垂直に立ち上がり、上部でわずかに開く。底面は平坦である。柱痕跡は確認できなかったが、柱穴状の掘方である。

埋土 2 層に分層した。1 層・2 層はほぼ水平に堆積する。1 層に炭化物や焼土粒を少量含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 11 点、須恵器 3 点、山茶碗 3 点、古瀬戸 1 点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗 1 点を図示した。1716 は第 5 型式の尾張型山茶碗である。

時期 大洞東 1 号窯式に比定した東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構は 14 世紀後葉から 15 世紀初頭と考えられる。

SP284 (図 271)

検出状況 1 地点 ME 3 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は円形である。壁面の傾斜はほぼ垂直である。底面はわずかに丸みを帯びる。柱痕跡は確認できなかったが、柱穴状の掘方である。

埋土 2 層に分層した。1 層は中央で大きく窪む堆積である。1 層にはブロック土を含む。底面で礎盤石を確認した。

遺物出土状況 埋土中から須恵器 1 点、大窯 1 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 大窯製品が出土したことから、本遺構は15世紀末以降と考えられる。

SP289 (図 271)

検出状況 1地点 ME3 グリッド、SD264 底面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は円形である。柱痕跡は確認できなかったが、東壁面の傾斜はほぼ垂直で、西壁面の傾斜は急であるが、上部に向かいやや開く。底面は概ね平坦である。

埋土 単層である。

遺物出土状況 埋土中から土師器7点、山茶碗2点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は中世と考えられる。

SP290 (図 271)

検出状況 1地点 ME3 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側は発掘区外に続く。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は楕円形と考えられる。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面は西側に比べ、東側がやや下がる。

埋土 2層に分層した。1層・2層とも垂直に堆積する。

遺物出土状況 埋土中から土師器1点、山茶碗2点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は中世と考えられる。

SP298 (図 271)

検出状況 20地点 MF3 グリッド、IV a 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側は攪乱により消失する。

規模・形状 平面形は円形である。底面は平坦である。底面で礎盤石を確認した。

埋土 2層に分層した。1層に炭化物、焼土、礫、ブロック土を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器28点、須恵器2点、常滑産の甕1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 重複関係がなく時期を判断できる遺物がなかったため、本遺構の時期は不明である。

SP307 (図 271)

検出状況 20地点 MF5 グリッド、IV a 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は円形である。底面は平坦である。底面で礎盤石を確認した。

埋土 2層に分層した。1層は柱痕跡、2層は掘方埋土である。ともに炭化物、焼土、ブロック土を含む。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

時期 重複関係がなく遺物が出土しなかったため、本遺構の時期は不明である。

SP340 (図 272)

検出状況 21地点 LH17 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側でSK2474と

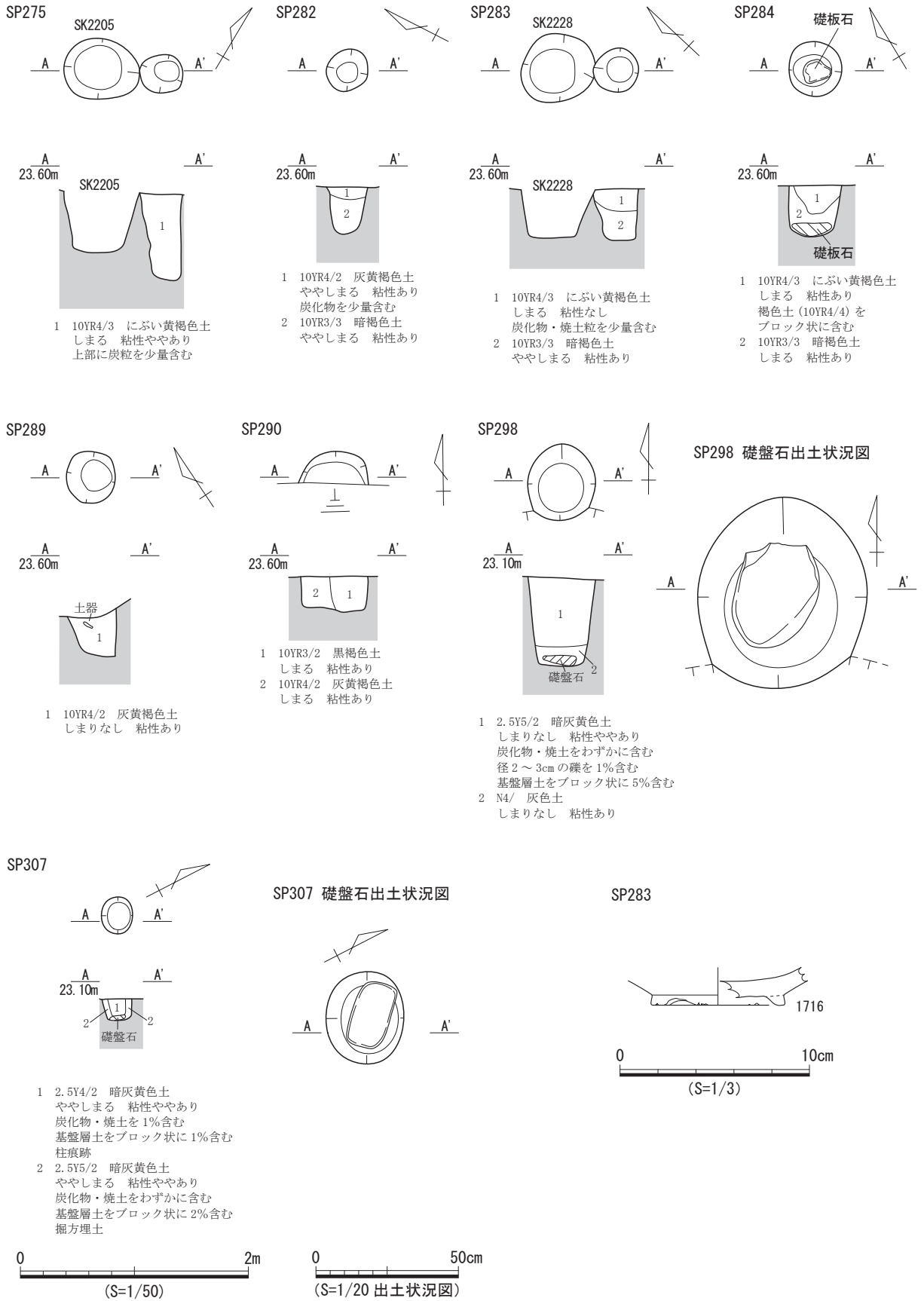


図 271 SP275・SP282～SP284・SP289・SP290・SP298・SP307 遺構図・出土遺物実測図

重複し、SK2478の上面から掘り込む。本遺構はSK2474より古く、SK2478より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土 2層に分層した。柱痕跡は確認できなかった。2層は構築時の整地土と考えられる。1層の下部で平坦面を上にした川原石を確認した。

遺物出土状況 埋土中から須恵器1点が出土したが、小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2478との重複関係と美濃須衛産の須恵器が出土したことから、本遺構は7世紀初頭から10世紀後葉と考えられる。

SP352 (図 272)

検出状況 21地点 LH17 グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側は攪乱により一部消失する。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は円形と考えられる。東側の壁面の傾斜は急である。西側の壁面は垂直に立ち上がるが、上部でやや内湾しわずかに袋状となる。底面は平坦である。

埋土 7層に分層した。1層は柱穴の上面に水平に堆積する。2層と3層は柱痕跡、4層～7層は掘方埋土と考えられる。7層上面で掘方に埋められた川原石を確認した。

遺物出土状況 埋土中から土師器2点、山茶碗1点が出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 第5型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は12世紀後葉以降と考えられる。

SP365 (図 272)

検出状況 21地点 LH15 グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は明瞭である。SI6の上面から掘り込む。本遺構はSI6より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。南北両側の壁に部分的にテラス状の平坦面をもつ。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

埋土 4層に分層した。1層から3層に炭化物を含む。4層は粘性のある均質な堆積で、整地土と考えられる。4層上面で礎盤石と考えられる扁平な川原石を確認した。1層と2層は3層の上部に縦方向に堆積する。

遺物出土状況 埋土中から土師器2点が出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SI6との重複関係から、本遺構は12世紀後葉以降と考えられる。

SP372 (図 272)

検出状況 21地点 LI16 グリッド、IV b層上面で検出した。南側は攪乱により消失する。西側でSD287、東側でSD285と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は円形と考えられる。北側の壁面の傾斜は急に立ち上がり、底面はわずかに丸みを帯びる。

埋土 3層に分層した。残りが少なくはっきりとしないが、1層は柱痕跡、2層は掘方埋土と考えられる。底面を3層で整地し、礎盤石を置く。礎盤石は被熱していた。

遺物出土状況 1層から土師器1点が出土したが、小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SD285・SD287 との重複関係から、本遺構は15世紀中葉以降と考えられる。

SP379 (図273)

検出状況 21 地点 LJ17 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭である。SI14 の上面から掘り込む。本遺構は SI14 より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土 2層に分層した。1層と2層は垂直方向に堆積し、1層は東側に寄る。

遺物出土状況 埋土中から山茶碗1点、大窯1点が出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

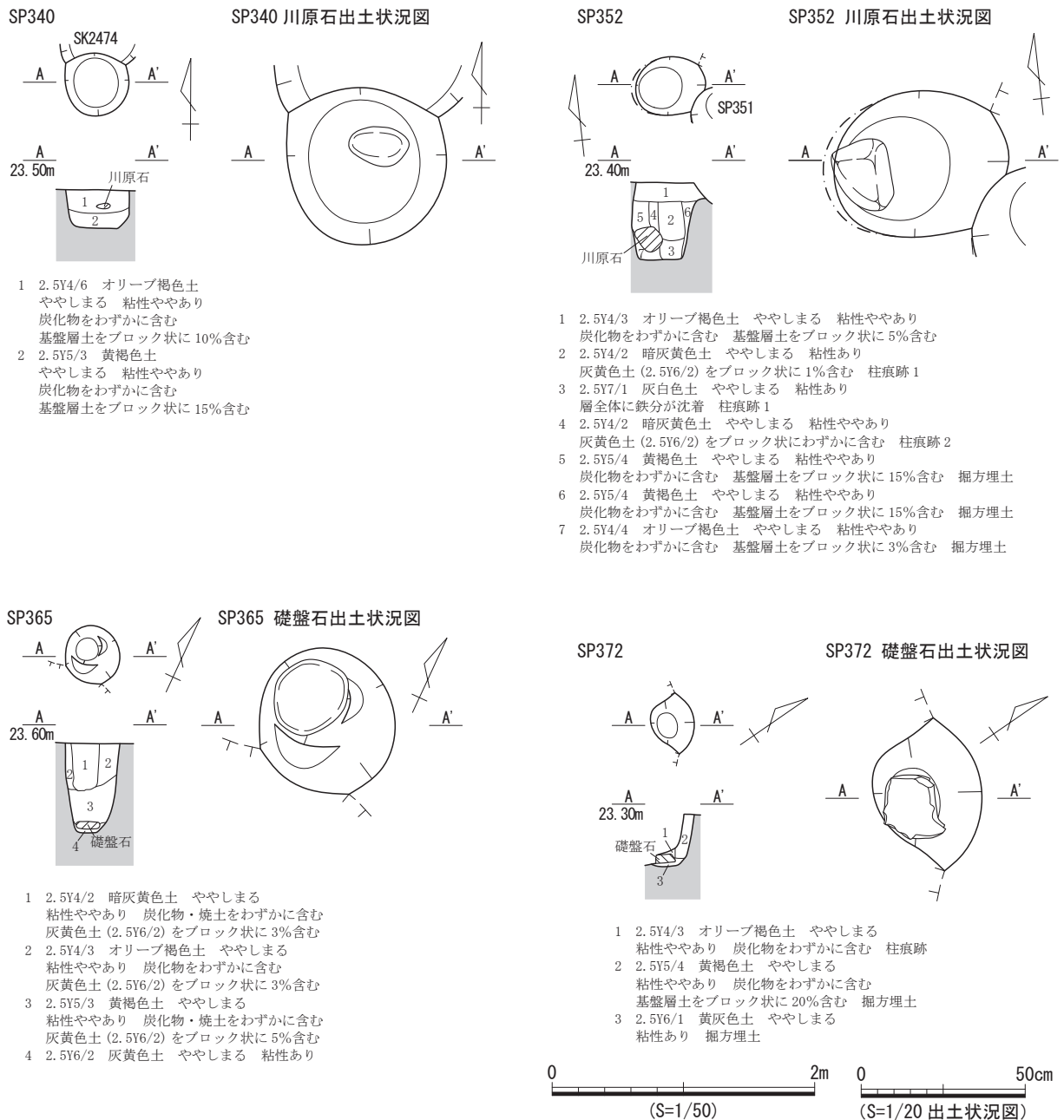


図272 SP340・SP352・SP365・SP372 遺構図

時期 大窯第1段階～第2段階の端反皿が出土したことから、本遺構は15世紀末から16世紀中葉と考えられる。

SP381 (図 273)

検出状況 21地点LK17グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SK2575の上面から掘り込む。本遺構はSK2575より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。壁面の傾斜は急で、底面はやや丸みを帯びる。

埋土 2層に分層した。1層は柱痕跡、2層は掘方埋土である。1層に炭化物と焼土ブロックを含む。

遺物出土状況 遺構上面の1層からほぼ完形の山茶碗1点(1717)が正位で、須恵器1点とともに出土した。その他に埋土中から土師器2点が出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 山茶碗1点を図示した。1717は第5型式の尾張型山茶碗である。

時期 図示した1717から、本遺構は12世紀後葉から13世紀初頭と考えられる。

SP382 (図 273)

検出状況 21地点LK17グリッド、IVb層上面、SK2575底面で検出した。平面形は明瞭である。東側は攪乱により消失する。本遺構はSK2575より古い。

規模・形状 平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦だが北側で一段下がる。

埋土 2層に分層した。1層は2層を掘り込むような堆積で、別遺構である可能性もある。埋土全体に炭化物、基盤層のブロック土をわずかに含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器1点が出土したが、小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2575との重複関係から、本遺構は9世紀後葉以前と考えられる。

SP395 (図 273)

検出状況 21地点LI19グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側でSD275、南側はSI8と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 平面形は不整形円形である。底面は丸みを帯び、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土 2層に分層した。1層は柱痕跡で、炭化物と焼土を含む。2層は掘方埋土で、炭化物と基盤層のブロック土を含む。

遺物出土状況 2層の下部から完形の山茶碗の小皿1点(1718)が正位で出土した。その他に1層から土師器1点、山茶碗1点、青磁1点、2層から土師器7点、須恵器2点、山茶碗8点、埋土中から土師器25点、山茶碗12点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗2点を図示した。1718は第5型式の尾張型山茶碗の小皿、1719は窯洞1号窯式に比定した東濃型山茶碗である。

時期 SD275との重複関係と図示した1718と1719から、本遺構は12世紀後葉から13世紀初頭に構築されたと考えられる。また、1層から山茶碗が出土したことから、建物等の構築後15世紀末までに埋められたと考えられる。

SP396 (図 273)

検出状況 21地点LI19グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭である。本遺構はSI8と重複する。本遺構はSI8より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。壁面の傾斜は急で、底面は丸みを帯びる。

埋土 3層に分層した。1層は上面に薄く堆積し、炭化物や焼土ブロックを含む。2層と3層は垂直に堆積し、2層は東側に寄る。

遺物出土状況 埋土中から土師器5点、山茶碗1点が出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SI 8 との重複関係と第5型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は12世紀後葉以降と考えられる。

SP422 (図 273)

検出状況 21 地点 LI12 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側で SA28-P 2、東側で SB22-P 4 と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 平面形は不整円形である。壁面の傾斜は急で、底面は平坦である。

埋土 3層に分層した。2層は柱痕跡、3層は掘方埋土である。1層から3層に炭化物を含む。

遺物出土状況 3層との層界付近の2層から完形の土師器皿(1720)1点が横位で出土した。この他に2層から土師器9点、1層から土師器1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿2点を図示した。1720と1721はC 1類の土師器皿である。

時期 SB22 との重複関係と図示した1720・1721から、本遺構は12世紀後葉から15世紀初頭と考えられる。

6 土坑

SK2174 (図 274)

検出状況 2 地点 IP10 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側で SK2176 と重複する。本遺構は SK2176 より新しい。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面の傾斜は急で、底面はほぼ平坦である。

埋土 2層に分層した。1層が埋土の大部分を占め、2層は遺構の底面に薄く均一に堆積する。

遺物出土状況 埋土中から土師器68点、須恵器1点、山茶碗11点、陶器4点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿など3点を図示した。1722はB 1類、1723はM 3類の土師器皿である。1724は古瀬戸後Ⅱ期の直縁大皿である。

時期 図示した1724から、本遺構は14世紀末から15世紀初頭と考えられる。

SK2175 (図 274)

検出状況 2 地点 IP10 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側で SK2176 と重複する。本遺構は SK2176 より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。壁面の傾斜はやや急で、底面はほぼ平坦である。

埋土 単層の埋土である。炭化物を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器11点、山茶碗1点が散在して出土した。

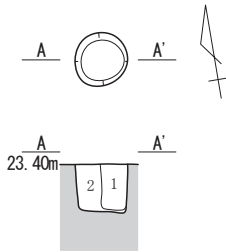
出土遺物 土師器皿1点を図示した。1725はM 3類の土師器皿である。

時期 SK2176 との重複関係から、本遺構は13世紀後葉以降と考えられる。

SK2176 (図 274)

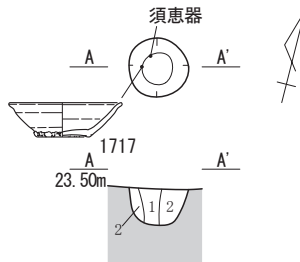
検出状況 2 地点 IP10 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側、東側、南

SP379



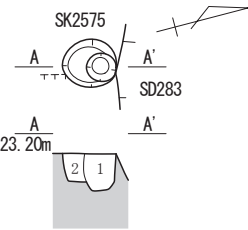
- 1 10YR4/4 褐色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物をわずかに含む
灰黄色土 (2.5Y6/2) をブロック状に15%含む
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物をわずかに含む
灰黄色土 (2.5Y6/2) をブロック状に5%含む 掘方埋土

SP381



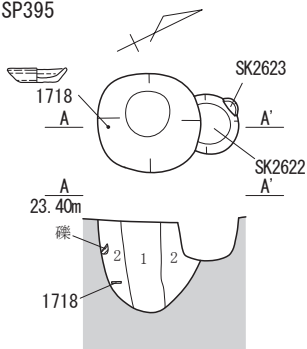
- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物・焼土をわずかに含む
基盤層土をブロック状に5%含む
- 2 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物をわずかに含む
基盤層土をブロック状に10%含む

SP382



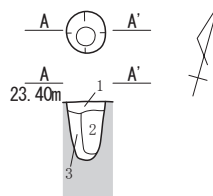
- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物をわずかに含む
基盤層土をブロック状に3%含む
- 2 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物を1%含む
基盤層土をブロック状に3%含む
掘方埋土

SP395



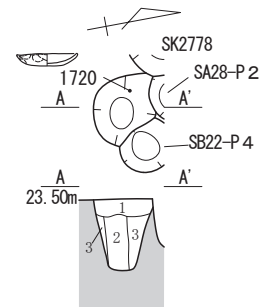
- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる
粘性あり 炭化物・焼土をわずかに含む
基盤層土をブロック状に5%含む 柱痕跡
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物をわずかに含む
基盤層土及び灰黄色土 (2.5Y6/2) を
ブロック状に15%含む 掘方埋土

SP396

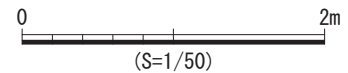


- 1 2.5Y6/2 灰黄色土 ややしまる
粘性あり 炭化物・焼土をわずかに含む
基盤層土をブロック状に3%含む
- 2 2.5Y5/3 黄褐色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物をわずかに含む
基盤層土をブロック状に10%含む
- 3 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる
粘性ややあり 基盤層土をブロック状に5%含む

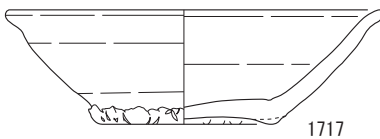
SP422



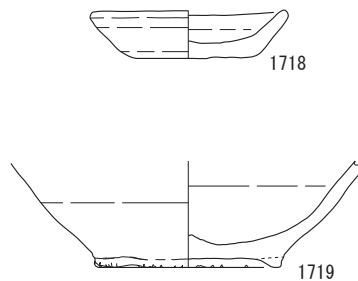
- 1 2.5Y6/4 にぶい黄色土 ややしまる
粘性なし 炭化物をわずかに含む
径1~2cmの小礫を1%含む
- 2 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる
粘性なし 炭化物を1%含む
基盤層土をブロック状に5%含む
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる
粘性なし 炭化物をわずかに含む
基盤層土をブロック状に3%含む



SP381



SP395



SP422

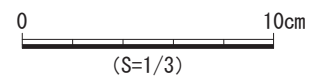
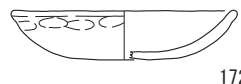
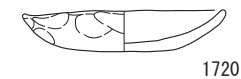


図 273 SP379・SP381・SP382・SP395・SP396・SP422 遺構図・出土遺物実測図

側は発掘区外に続く。東側で SP262、西側で SK2174・SK2175・SD258 と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不定形と考えられる。底面の西側に盛り上がりが見られる。

埋土 2層に分層した。1層は上部に薄く水平に堆積し、2層は埋土の大部分を占める。

遺物出土状況 埋土中から土師器 232点、須恵器 1点、灰釉陶器 3点、山茶碗 73点、陶磁器 6点、石器(剥片) 1点、金属製品 5点(鉄滓 4点、釘 1点)が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿など5点を図示した。1726はB1類、1727はC1類の土師器皿である。1728と1729は第5型式、1730は第7型式の尾張型山茶碗である。

時期 図示した1730から、本遺構は13世紀後葉から末と考えられる。

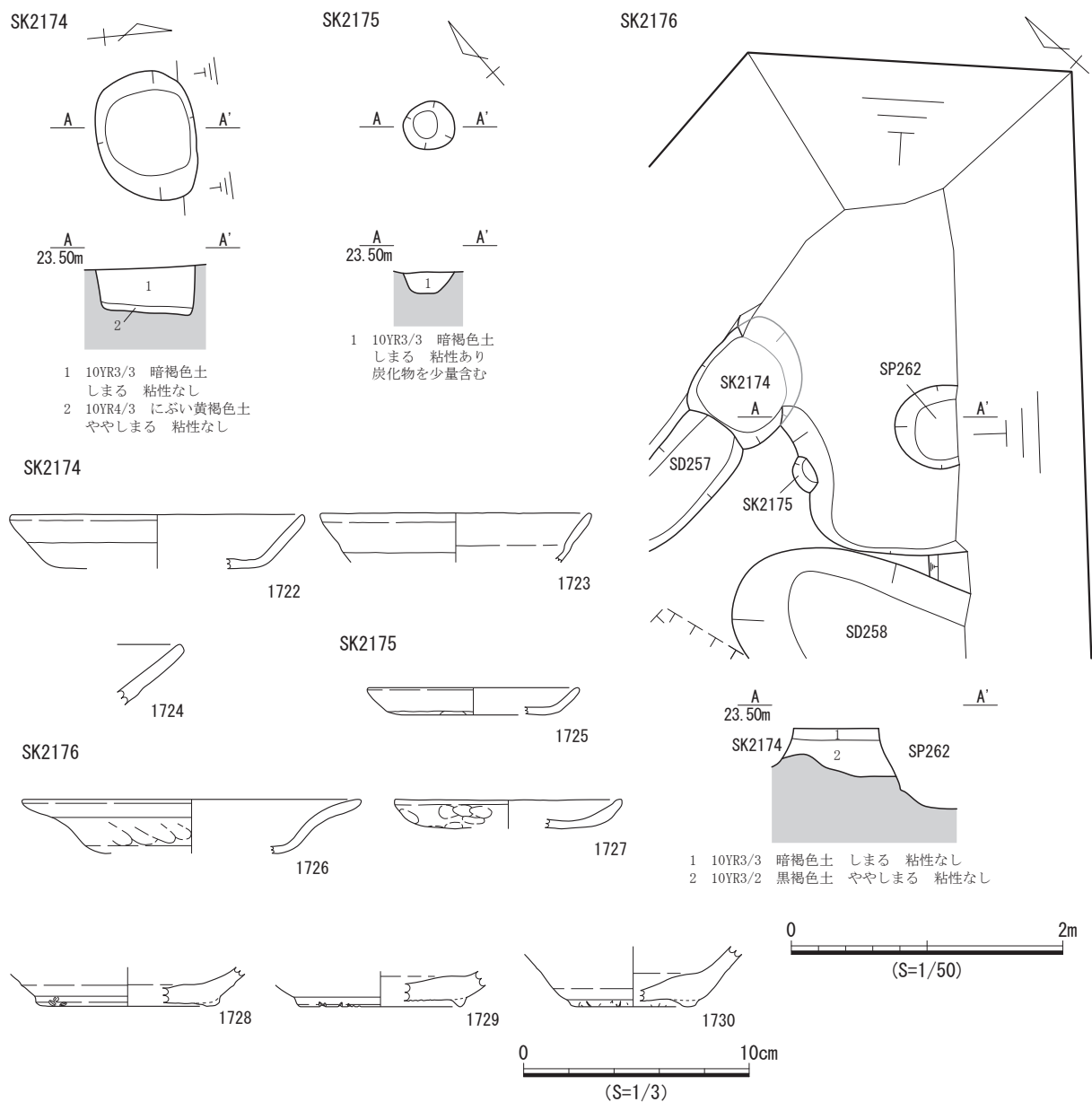


図 274 SK2174～SK2176 遺構図・出土遺物実測図

SK2179 (図 275)

検出状況 2地点 IP9～IQ9グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北西側でSB16-P1と重複する。本遺構はSB16より古い。

規模・形状 平面形は円形である。壁面の傾斜は急で、底面は東側に向かって下がる。

埋土 2層に分層した。中央がやや窪む堆積から、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 1層から天目茶碗(1737)が出土した。その他に埋土中から土師器38点、山茶碗3点、陶磁器1点、銅滴1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿など7点を図示した。1731～1734はB1類、1735はC1類の土師器皿である。1736は龍泉窯系I-4類の青磁碗で、体部内面を5分割した分割線と内面見込に花卉文が片彫で施される。1737は古瀬戸後IV期新段階の天目茶碗である。

時期 図示した1737から、本遺構は15世紀後葉と考えられる。

SK2181 (図 275)

検出状況 2地点 IQ9グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は円形である。壁面の傾斜はやや急で、底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。2層は北側壁面の下部に部分的に堆積する。

遺物出土状況 埋土中から土師器1点、山茶碗1点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗1点を図示した。1738は第7型式の尾張型山茶碗の片口鉢である。

時期 図示した1738から、本遺構は13世紀後葉から末と考えられる。

SK2182 (図 275)

検出状況 2地点 IQ8～IQ9グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面の傾斜は急である。底面は平坦であるが、東側が窪む。

埋土 2層に分層した。1層は中央が窪む堆積から、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器25点、須恵器5点、陶磁器3点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿など3点を図示した。1739はM4類の土師器皿である。1740はI-4類の白磁碗である。1741は古瀬戸後期の四耳壺である。

時期 図示した1741から、本遺構は14世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SK2183 (図 275)

検出状況 2地点 IQ8グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側の上端は攪乱により消失する。

規模・形状 平面形は円形である。壁面の傾斜はやや急で、上部でやや開く。底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。概ね水平に堆積する。1層にブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器10点、須恵器1点、灰釉陶器1点、山茶碗4点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿1点を図示した。1742はC1類の土師器皿である。

時期 尾張型山茶碗と東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構は中世と考えられる。

SK2188 (図 276)

検出状況 2地点 IQ7グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側の上端は攪乱

により消失する。

規模・形状 平面形は不定形である。壁面の傾斜は北東側ではやや緩やかに開くが、北東側以外では急である。底面は凹凸を持ち、南側がやや高く、北に向かって傾斜する。

埋土 2層に分層した。1層は中央やや東側がわずかに窪む堆積である。レンズ状の堆積から、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 23 点、須恵器 2 点、山茶碗 11 点が散在して出土した。

出土遺物 須恵器など 3 点を図示した。1743 は美濃須衛窯IV期第 3 小期に比定した C 類の須恵器の坏蓋である。1744 は第 6 型式の尾張型山茶碗、1745 は明和 1 号窯式に比定した東濃型山茶碗の片口鉢である。

時期 図示した 1745 から、本遺構は 13 世紀後葉から末と考えられる。

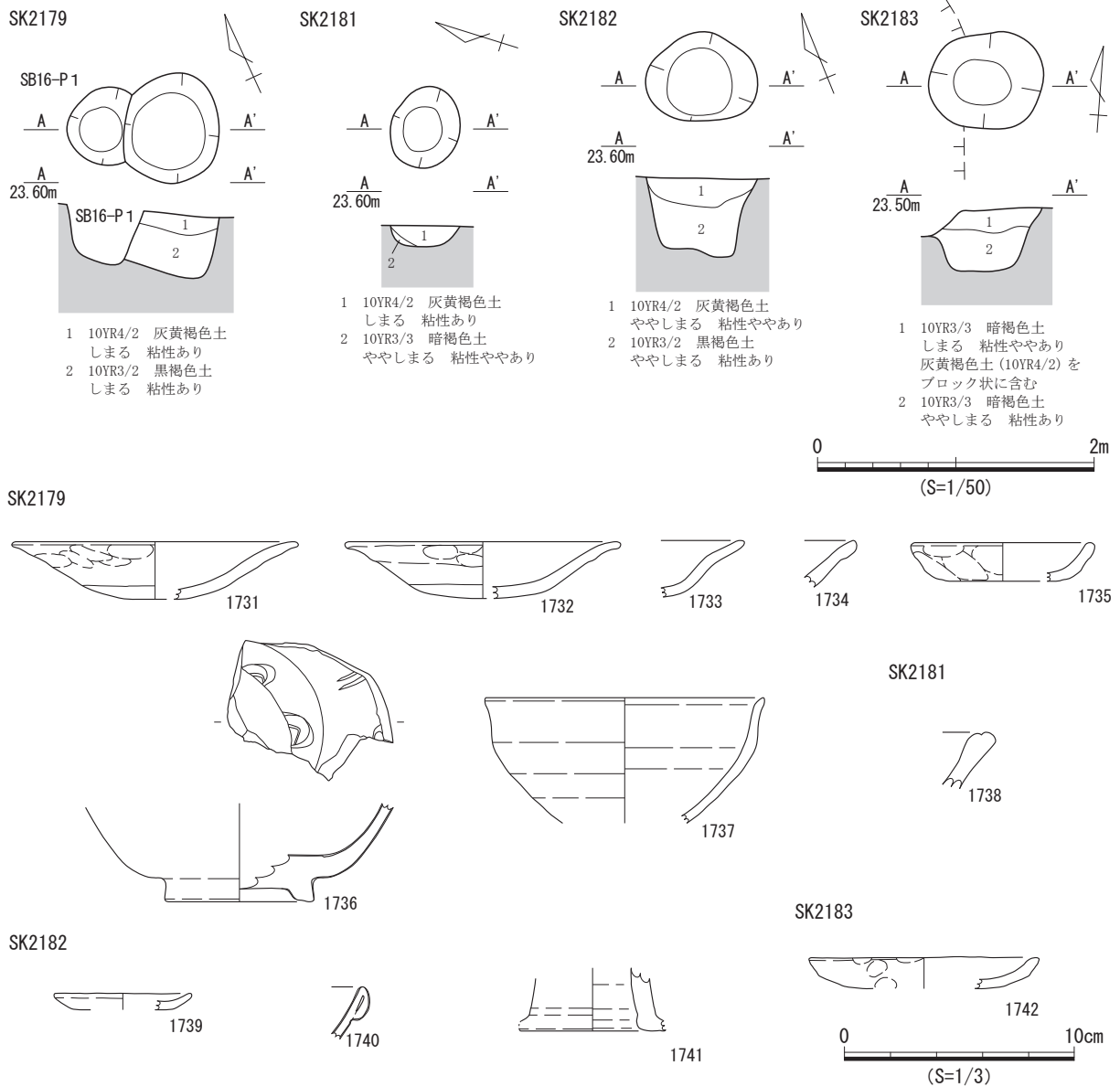


図 275 SK2179・SK2181～SK2183 遺構図・出土遺物実測図

SK2190 (図 276)

検出状況 2地点 IQ8～IR8 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は円形である。壁面の傾斜は急で、底面は平坦である。

埋土 2層に分層した。1層に炭化物や焼土粒を多く含む。レンズ状の堆積から、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 6 点、須恵器 1 点が散在して出土した。

出土遺物 須恵器 1 点を図示した。1746 は美濃須衛窯 V 期第 1 小期に比定した須恵器の坏身 B 類である。

時期 図示した 1746 から、本遺構は 9 世紀初頭から後葉と考えられる。

SK2194 (図 276)

検出状況 2地点 IR7 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側は発掘区外に続く。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は長楕円形と考えられる。壁面の傾斜は急で、底面は概ね平坦である。

埋土 5層に分層した。4層と5層は壁面側から堆積し、中央の3層が堆積する。その後1層と2層が堆積したと思われる。

遺物出土状況 埋土中から山茶碗 1 点、古瀬戸 1 点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗など 2 点を図示した。1747 は第 6 型式の尾張型山茶碗である。1748 は古瀬戸後 IV 期新段階の播鉢である。

時期 図示した 1748 から、本遺構は 15 世紀後葉と考えられる。

SK2196 (図 276)

検出状況 2地点 IS8 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側と北側で SD262 と重複する。本遺構は SD262 より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。柱穴状の掘方をもつ。壁面の傾斜は急で、底面は概ね平坦である。

埋土 単層の埋土である。炭化物を少量含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 2 点、須恵器 1 点が出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SD262 との重複関係から、本遺構は 14 世紀初頭以降と考えられる。

SK2207 (図 276)

検出状況 1地点 MD2 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側と東側は攪乱により消失する。

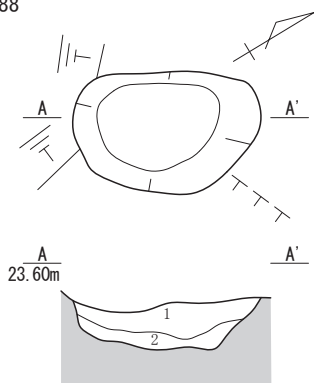
規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整楕円形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかで、底面は概ね平坦である。

埋土 3層に分層した。ほぼ水平に堆積する。1層と2層に炭化物を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 35 点、須恵器 3 点、灰釉陶器 4 点、山茶碗 19 点、白磁 1 点が散在して出土した。

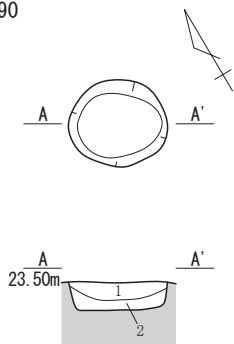
出土遺物 土師器皿 1 点を図示した。1749 は M3 類の土師器皿である。

SK2188



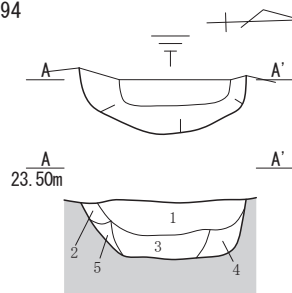
- 1 10YR4/2 灰黄褐色土
ややしまる 粘性あり
- 2 10YR3/2 黒褐色土
しまりなし 粘性ややあり

SK2190



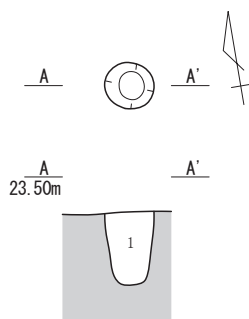
- 1 7.5YR3/2 黒褐色土
しまる 粘性ややあり
炭化物・焼土粒を多く含む
- 2 10YR3/3 暗褐色土
しまる 粘性なし

SK2194



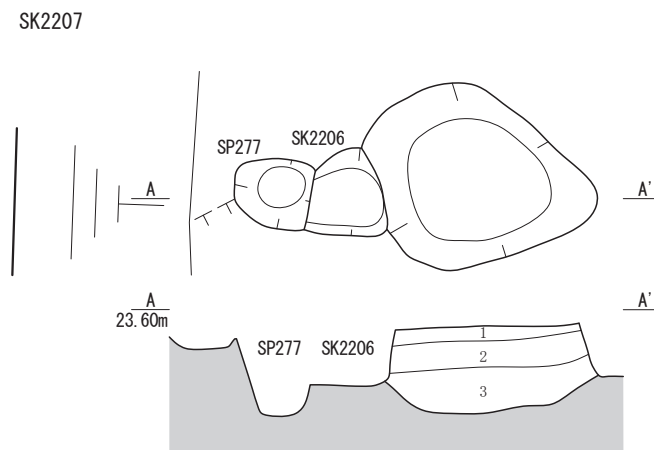
- 1 10YR3/3 暗褐色土
しまりなし 粘性あり
- 2 10YR3/2 黒褐色土
しまりなし 粘性あり
- 3 10YR3/2 黒褐色土
しまりなし 粘性あり
- 4 10YR4/4 褐色土
ややしまる 粘性あり
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色土
しまりなし 粘性あり

SK2196

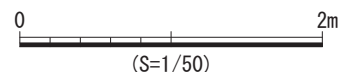


- 1 10YR3/3 暗褐色土
しまる 粘性ややあり
炭化物を少量含む

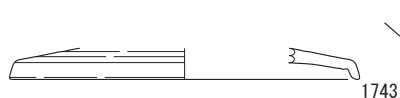
SK2207



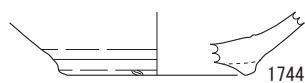
- 1 10YR3/3 暗褐色土 しまる 粘性なし 炭化物を少量含む
- 2 10YR3/2 黒褐色土 しまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む
- 3 10YR3/4 暗褐色土 しまる 粘性なし



SK2188



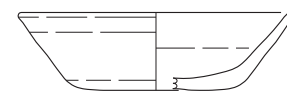
1743



1744

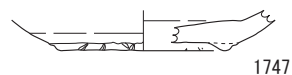


1745

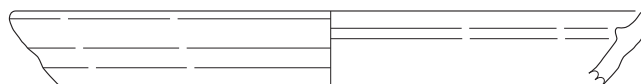


1746

SK2194

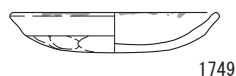


1747



1748

SK2207



1749

SK2190

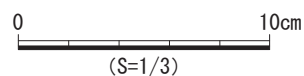


図 276 SK2188・SK2190・SK2194・SK2196・SK2207 遺構図・出土遺物実測図

時期 図示した1749から、本遺構は12世紀後葉から13世紀中葉と考えられる。

SK2214 (図 277)

検出状況 1地点 MD3 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側で SK2216 と重複する。本遺構は SK2216 より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。壁面の傾斜は南西側ではやや急で、北東側ではやや緩やかに開く。底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。水平に堆積する。1層は上部に薄く堆積し、2層は遺構の大部分を占める。

遺物出土状況 埋土中から土師器4点、須恵器2点、山茶碗2点、金属製品2点（釘、燭台）が散在して出土した。

出土遺物 須恵器など2点を図示した。1750は美濃須衛窯IV期第3小期に比定した須恵器の水瓶である。1751は銅製の鶴亀燭台である。蓮軸を啜る鶴の頭と針状のロウソク立てが残存し、蓮の葉を模った火皿、鶴の胴と脚（軸）、亀（台座）が欠損する。なお、鶴亀燭台は浄土真宗大谷派などで仏具として用いられる。

時期 図示した1751から、本遺構は近世と考えられる。

SK2215 (図 277)

検出状況 1地点 MD3～MD4 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北東側は発掘区外に続く。西側で SK2216 と重複する。本遺構は SK2216 より新しい。

規模・形状 検出範囲では、平面形は不整形と考えられる。東西壁面の傾斜は急で、上部に向かいやや開く。北側壁面の傾斜は底面付近では急であるが、すぐに緩やかになる。南側壁面は垂直に立ち上がるが、上部に向かいやや開く。底面は西側中央が窪む。

埋土 4層に分層した。2層と3層に炭化物を含み、層界は凹凸が激しい。4層は南側壁面に沿って縦に堆積する。

遺物出土状況 埋土中から土師器53点、須恵器10点、灰釉陶器3点、山茶碗21点、陶器18点が散在して出土した。

出土遺物 須恵器など9点を図示した。1752は美濃須衛窯Ⅲ期後半併行に比定した産地不明の須恵器の坏蓋A類である。1754～1758は第6型式の尾張型山茶碗である。1753は大畑大洞4号窯式新段階に比定した東濃型山茶碗の小皿である。1760は瓦質土器の火鉢で、火窓の上部が残存する。1759は土鈴である。

時期 図示した1760から、本遺構は近世と考えられる。

SK2216 (図 277)

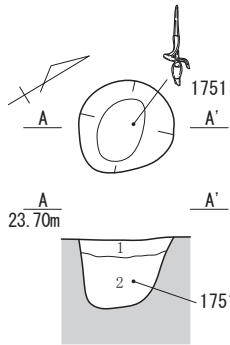
検出状況 1地点 MD3 グリッド、IV b 層上面で検出した。SK2214・SK2215 完掘後に壁面で確認した。平面形は不明瞭であった。西側で SK2214・SK2215 と重複する。本遺構は SK2214・SK2215 より古い。

規模・形状 平面形は不定形である。壁面の傾斜は南側ではやや緩やかで、北側ではやや急である。底面は丸みを帯びる。

埋土 3層に分層した。1層と2層はレンズ状に中央が窪む。3層は南北の底面付近に堆積する崩落土である。土質が均質であることから、自然堆積と考えられる。

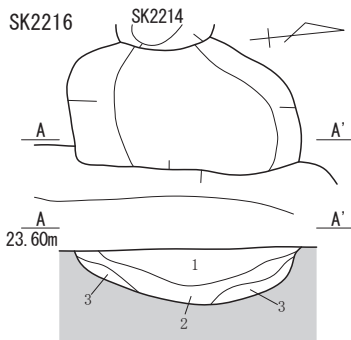
遺物出土状況 埋土中から土師器7点、須恵器7点、灰釉陶器2点、山茶碗4点、陶器3点が散在し

SK2214



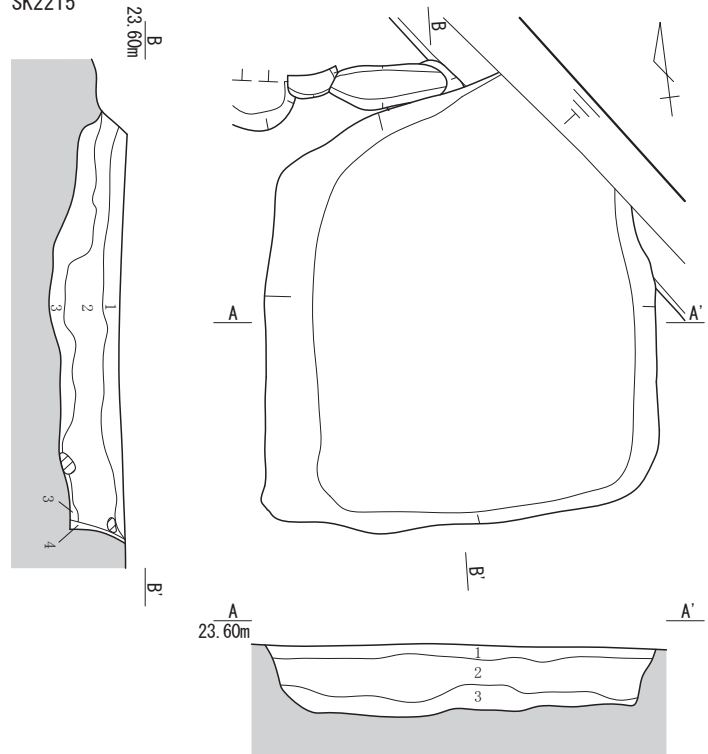
- 1 10YR3/3 暗褐色土 しまる 粘性なし
- 2 10YR3/2 黒褐色土 しまりなし 粘性あり

SK2216



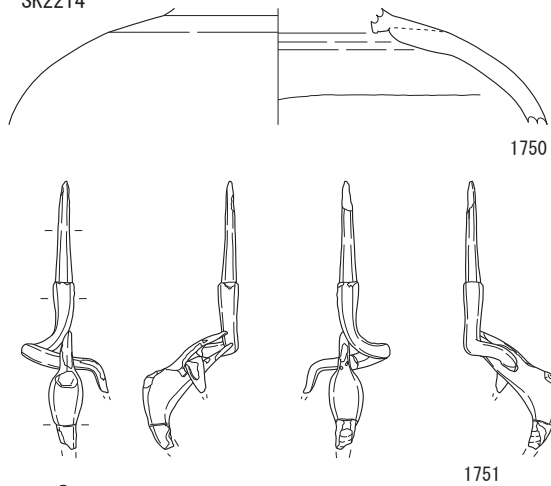
- 1 10YR3/2 黒褐色土 しまる 粘性なし
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性あり
- 3 10YR4/4 褐色砂質土 しまりなし 粘性なし

SK2215

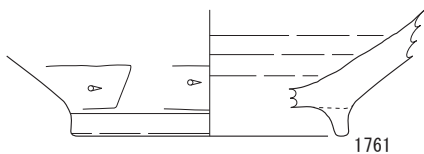


- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまる 粘性なし
- 2 10YR3/3 暗褐色土 しまる 粘性ややあり 径3cm大の炭化物を含む
- 3 10YR5/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む
- 4 10YR5/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性あり

SK2214



SK2216



SK2215

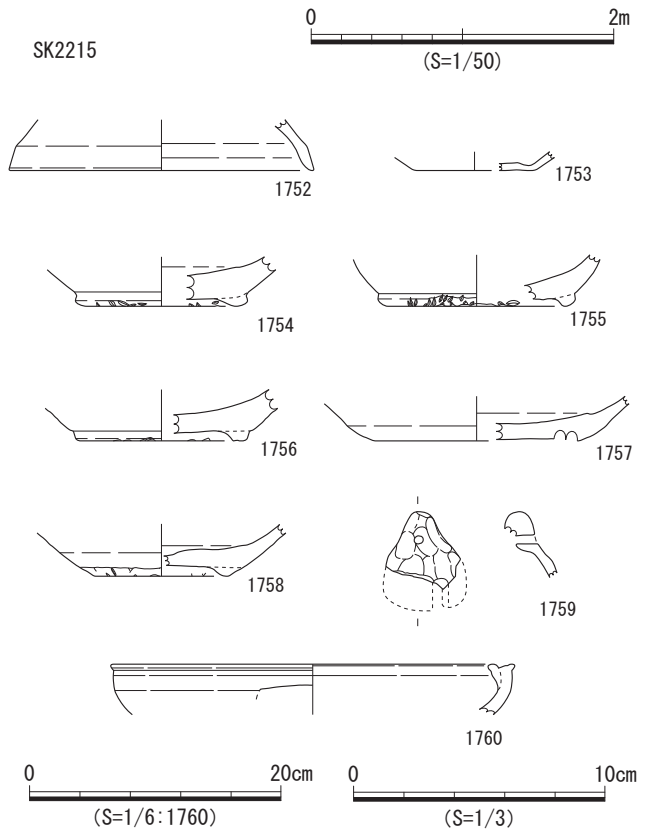


図 277 SK2214 ~ SK2216 遺構図・出土遺物実測図

て出土した。

出土遺物 山茶碗1点を図示した。1761は第6型式の尾張型山茶碗の片口鉢である。

時期 図示した1761から、本遺構は13世紀初頭から中葉と考えられる。

SK2217 (図 278)

検出状況 1地点MD4～ME4グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側でSK2218と重複する。本遺構はSK2218より新しい。1地点南側では同規模の土坑を多く検出した。

規模・形状 平面形は隅丸方形である。壁面の傾斜は緩やかで、底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。中央がやや窪み、1層に炭化物を少量含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器8点、山茶碗4点、陶磁器3点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿など3点を図示した。1763はC1類、1762はM3類の土師器皿である。1764は明和27号窯式に比定した灰釉陶器の碗である。

時期 SK2218との重複関係と図示した1762から、本遺構は12世紀後葉から13世紀中葉と考えられる。

SK2218 (図 278)

検出状況 1地点MD4グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側でSK2217、北側でSK2219と重複する。本遺構はSK2217より古く、SK2219より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。中央がわずかに窪むが、ほぼ水平に堆積する。西側で扁平な面を上にした幅25cmの礫を確認した。礫は底面から浮いた状態でやや傾いており、礎盤石である可能性は低い。礫は人為的に埋められたと思われる。

遺物出土状況 埋土中から土師器12点、須恵器1点、灰釉陶器1点、山茶碗3点、陶器3点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿1点を図示した。1765はM3類の土師器皿である。

時期 SK2217・SK2219との重複関係と図示した1765から、本遺構は12世紀後葉から13世紀中葉と考えられる。

SK2219 (図 278)

検出状況 1地点MD4グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側でSK2218と重複する。本遺構はSK2218より古い。

規模・形状 平面形は不整楕円形である。壁面の傾斜は急で、底面は南側に向かい2段階に窪む。

埋土 2層に分層した。1層に礫を含む。1層は中央が窪むことから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器10点、須恵器6点、山茶碗7点、陶器4点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗1点を図示した。1766は丸石3号窯式に比定した東濃型山茶碗である。

時期 SK2218との重複関係と図示した1766から、本遺構は12世紀末と考えられる。

SK2221 (図 279)

検出状況 1地点ME4グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面の傾斜はやや急で、底面は平坦である。

埋土 2層に分層した。1層・2層ともに炭化物を少量含む。1層は中央が窪むことから、自然堆積

と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器9点、須恵器2点、山茶碗3点、古瀬戸2点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗1点を図示した。1767は大畑大洞4号窯式古段階に比定した東濃型山茶碗の小皿である。

時期 図示した1767から、本遺構は13世紀末から14世紀初頭と考えられる。

SK2225 (図 279)

検出状況 1地点 ME4 グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側でSK2224と重複する。本遺構はSK2224より古い。

規模・形状 平面形は長楕円形である。壁面の傾斜は緩やかで、底面は東西がわずかに窪む。

埋土 2層に分層した。1層は中央が窪み、中央部では底面まで堆積する。2層は東西の壁から窪んだ部分に堆積する。1層に炭化物を少量含む。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器9点、須恵器2点、山茶碗3点、古瀬戸1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿など2点を図示した。1768はM3類の土師器皿である。1769は美濃須衛窯IV期第3小期に比定した須恵器の盤である。

時期 図示した1768から、本遺構は12世紀後葉から13世紀中葉と考えられる。

SK2229 (図 279)

検出状況 1地点 ME3 グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面の傾斜はやや急で、底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。1層は薄く中央がやや窪む。2層は埋土の大部分を占める。埋土全体に炭化

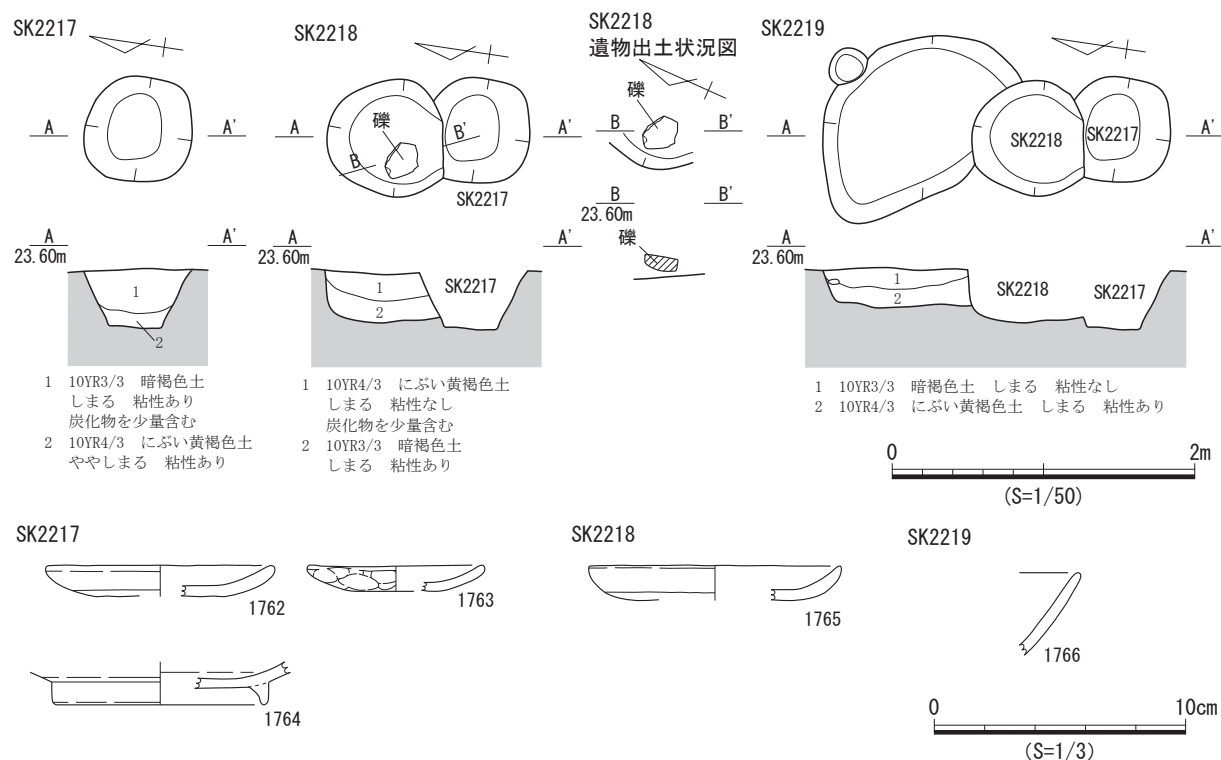


図 278 SK2217 ~ SK2219 遺構図・出土遺物実測図

物、焼土粒を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 15 点、須恵器 2 点、山茶碗 2 点、陶器 2 点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗 1 点を図示した。1770 は大畑大洞 4 号窯式新段階に比定した東濃型山茶碗である。

時期 近世陶器が出土したことから、本遺構は近世と考えられる。

SK2231 (図 279)

検出状況 1 地点 MD3 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側で SK2233 と重複する。本遺構は SK2233 より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。壁面の傾斜は急である。底面は丸みを帯び、北に向かいわずかに下がる。

埋土 2 層に分層した。1 層は上部に薄く堆積する。2 層は埋土の大部分を占める。

遺物出土状況 埋土中から土師器 4 点、須恵器 2 点、山茶碗 1 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿 1 点を図示した。1771 は C 1 類の土師器皿である。

時期 SK2233 との重複関係から、本遺構は 15 世紀後葉以降と考えられる。

SK2233 (図 279)

検出状況 1 地点 MD3 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側は攪乱により消失する。東側で SK2231 と重複する。本遺構は SK2231 より古い。

規模・形状 平面形は不整形である。壁面の傾斜は緩やかに開く。底面は概ね平坦である。

埋土 2 層に分層した。水平に堆積する。1 層に炭化物を少量含む。

遺物出土状況 南西の壁際ではほぼ完形の天目茶碗(1775)が横位で出土した。また、1 層から青磁稜花皿(1774)が出土した。その他に埋土中から土師器 7 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 2 点、陶器 2 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿など 4 点を図示した。1772 は C 1 類の土師器皿である。1773 は第 6 型式の尾張型山茶碗の片口鉢である。1774 は龍泉窯系の青磁劃花文稜花皿で、波状の口縁を持ち、内面口唇部に 3 条の線刻が施される。1775 は古瀬戸後 IV 期新段階の天目茶碗である。

時期 図示した 1775 から、本遺構は 15 世紀後葉と考えられる。

SK2238 (図 280)

検出状況 1 地点 ME2 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は円形である。壁面の傾斜は底面付近では緩やかだが、上部は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

埋土 単層の埋土である。検出面で平坦面をもつ大型の礫を確認した。礎盤石の可能性も考えられるが、平坦面が傾いていた。礫は埋められたと考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 7 点、山茶碗 1 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿など 2 点を図示した。1776 は M3 類の土師器皿である。1777 は尾張型と東濃型の区別がつかない尾張型第 3 型式併行の山茶碗である。

時期 図示した 1776 から、本遺構は 12 世紀後葉から 13 世紀中葉と考えられる。

SK2253 (図 280)

検出状況 20 地点 ME2～ME3 グリッド、IV a 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南西端は発

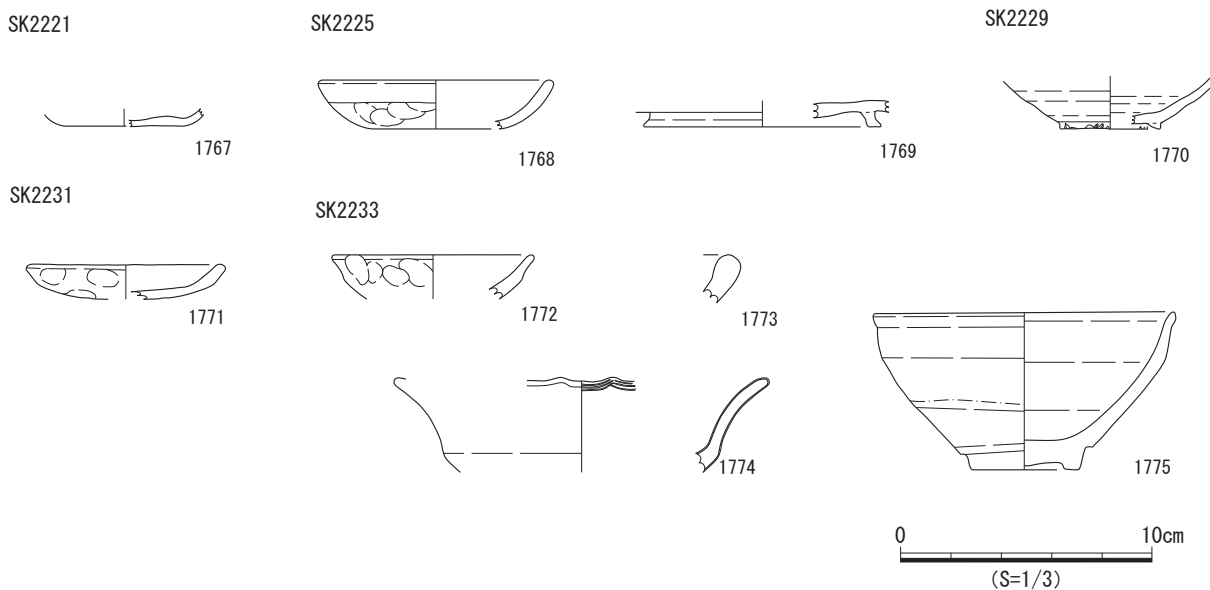
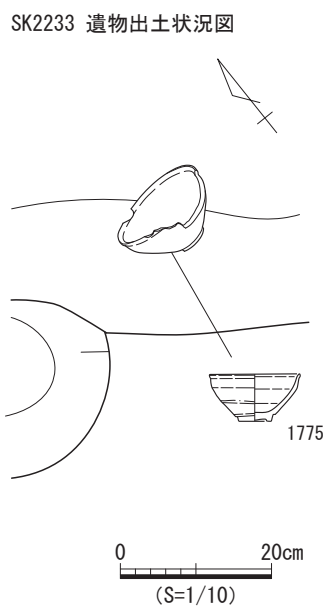
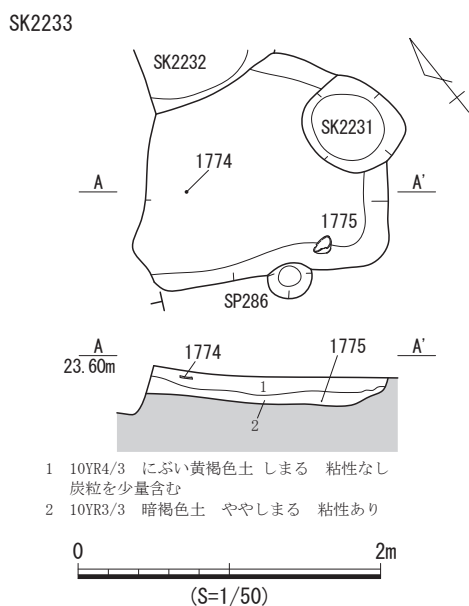
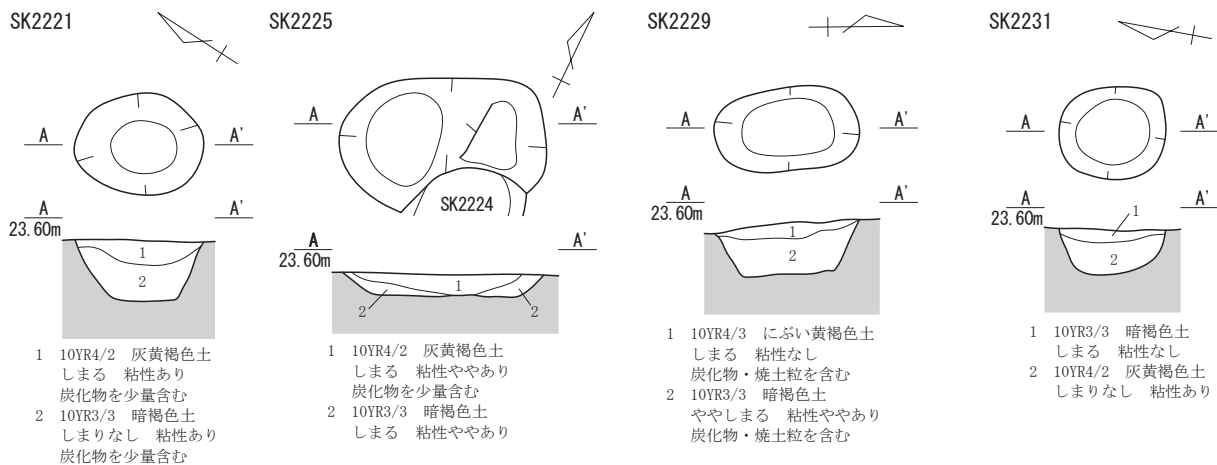


図 279 SK2221・SK2225・SK2229・SK2231・SK2233 遺構図・出土遺物実測図

掘区外に続く。北東側で SK2257、北側で SK2255、北西側で SK2249、南側で SK2254・SD269、東側で SD266・SD268 と重複する。底面で SK2256 を検出した。本遺構は SK2249 より古く、SK2254～SK2257・SD266・SD268・SD269 より新しい。

規模・形状 平面形は隅丸方形である。東壁面の傾斜はやや急であるが、南、北、西の各壁面の傾斜は緩やかに開く。底面は中央で不定形に窪む。窪みは北側が深く、南側が浅い。

埋土 5層に分層した。1層と2層に炭化物と小礫を含む。窪みの内部に3層～5層が堆積する。

遺物出土状況 埋土中から土師器 18 点、須恵器 1 点、山茶碗 7 点、古瀬戸 4 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2249・SK2257・SD266・SD268・SD269 との重複関係と古瀬戸が出土したことから、本遺構は 15 世紀後葉と考えられる。

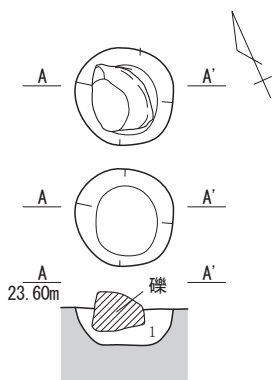
SK2257 (図 281)

検出状況 20 地点 ME 2～ME 3 グリッド、IV a 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側で SK2255、南西側で SK2253、南側で SD266、東側で SD265 と重複する。本遺構は SK2253・SK2255 より古く、SD265・SD266 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整楕円形と考えられる。壁面の傾斜はやや緩やかに開き、底面は平坦である。

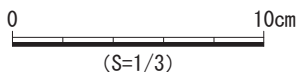
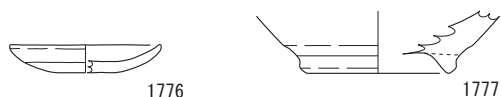
埋土 単層の埋土である。炭化物や小礫をわずかに含む。

SK2238

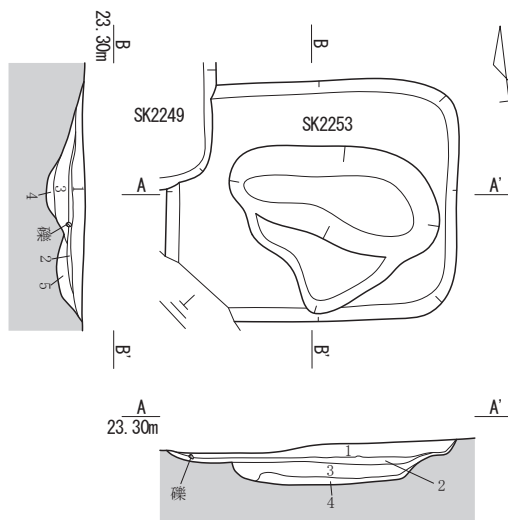


1 10YR3/3 暗褐色土
ややしまる 粘性ややあり

SK2238



SK2253



- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
下層との層界に著しく鉄分が沈着 炭化物をわずかに含む
径 2～3cm の礫を 1% 含む
- 2 10YR4/6 褐色土 下層が鉄分の沈着により硬化・変色
- 3 2.5Y6/1 黄灰色土 ややしまる 粘性あり
- 4 2.5Y7/2 灰黄色土 ややしまる 粘性なし 層全体に鉄分が沈着
- 5 2.5Y7/2 灰黄色土 ややしまる 粘性なし 層全体に鉄分が沈着

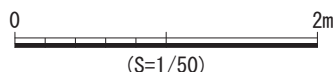


図 280 SK2238・SK2253 遺構図・出土遺物実測図

遺物出土状況 北東端の壁際底面から完形の土師器皿(1778)が正位で出土した。底面に置かれたように出土していることから、意図的に埋納された可能性がある。その他に埋土中から土師器 31 点、須恵器 1 点、山茶碗 3 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿 1 点を図示した。1778 は C 1 類の土師器皿である。

時期 SK2253・SD265・SD266 との重複関係から、本遺構は 15 世紀後葉と考えられる。

SK2258 (図 281)

検出状況 20 地点 ME 3 グリッド、IV a 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側で SD266、西側で SP295・SD267、南側で SD268、東側で SK2260 と重複する。底面で SP294 を検出した。本遺構は SD266・SD268 より古く、SP294・SP295・SK2260・SD267 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は円形と考えられる。壁面の傾斜はやや緩やかに開き、底面は丸みを帯びる。南端と北端は溝状遺構と重複し消失する。

埋土 3 層に分層した。埋土全体に炭化物を含む。1 層に焼土を含む。3 層にブロック土を含む。1 層～3 層は東側に偏ったレンズ状に堆積する。

遺物出土状況 埋土中から土師器 14 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 5 点、常滑産の甕 1 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2260・SD266・SD268 との重複関係から、本遺構は 15 世紀後葉と考えられる。

SK2260 (図 281)

検出状況 20 地点 ME 3～MF 3 グリッド、IV a 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側で SD266、西側で SK2258、南側で SD268、東側で SD269 と重複する。底面で SK2259・SP296 を検出した。本遺構は SK2258・SD266・SD268 より古く、SP296・SK2259・SD269 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は楕円形と考えられる。壁面の傾斜はやや緩やかに開き、底面は北へ向かいやや上る。

埋土 単層の埋土である。焼土、炭化物、ブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 1 点、須恵器 1 点、山茶碗 3 点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗 1 点を図示した。1779 は第 7 型式の尾張型山茶碗の片口鉢である。

時期 SK2258・SD266・SD268・SD269 との重複関係から、本遺構は 15 世紀後葉と考えられる。

SK2261 (図 282)

検出状況 20 地点 MF 3 グリッド、IV a 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。南西側は発掘区外に続く。北側で SD369 と重複する。本遺構は SD369 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不明である。壁面の傾斜はやや急で、底面は北側が一段深くなっている。

埋土 2 層に分層した。1 層・2 層ともに炭化物をわずかに含む。1 層に礫や遺物を多く含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 153 点、須恵器 3 点、灰釉陶器 2 点、山茶碗 6 点、陶磁器 6 点、釘 1 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿など 6 点を図示した。1781 と 1782 は B1 類、1780 は C 1 類の土師器皿である。

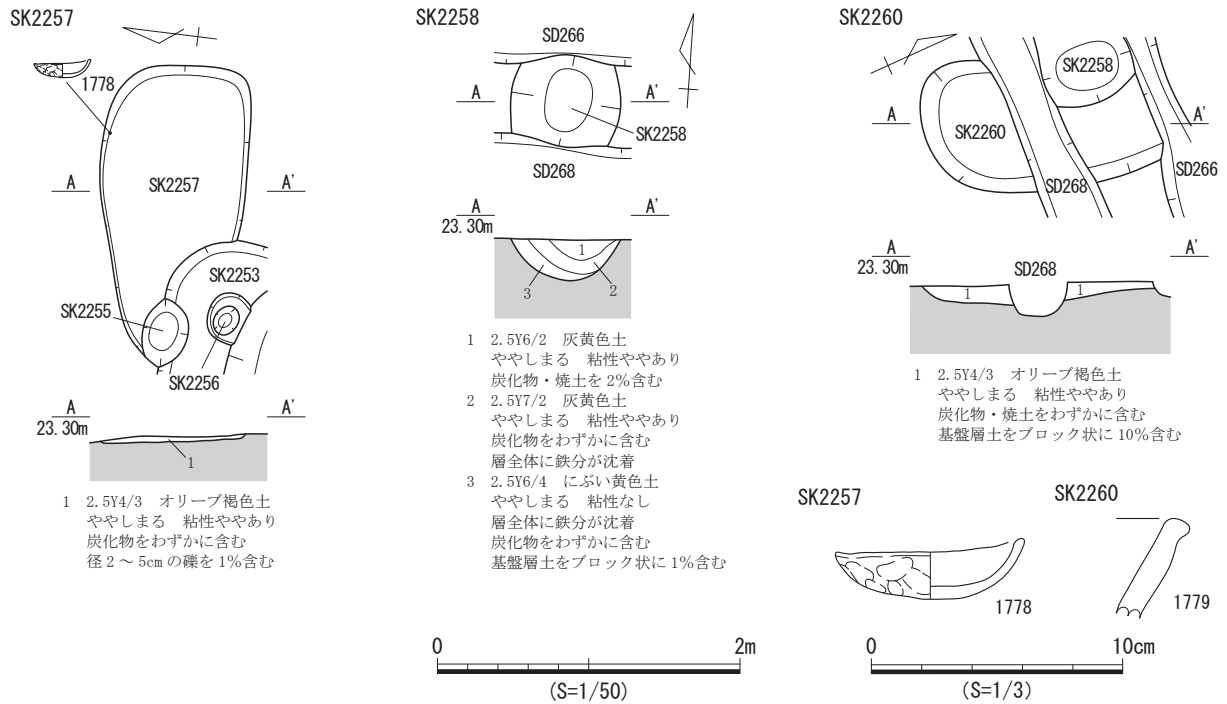


図 281 SK2257・SK2258・SK2260 遺構図・出土遺物実測図

1783 は丸石 2 号窯式に比定した灰釉陶器の碗である。1784 は第 7 型式の尾張型山茶碗である。1785 は古瀬戸後 IV 期の盤類である。

時期 SD269 との重複関係と図示した 1785 から、本遺構は 15 世紀中葉から後葉と考えられる。

SK2271 (図 282)

検出状況 20 地点 MF 4 グリッド、IV a 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北西側と南側の一部は攪乱により消失する。北側で SK2267・SK2270、西側で SK2265・SK2266、南側で SP303、東側で SA17-P 2・SK2275、遺構内で SP300・SP301 と重複する。底面で SA17-P 1・SK2269 を検出した。本遺構は SP300・SP301・SP303・SK2265・SK2267・SK2270 より古く、SA17・SK2266・SK2269・SK2275 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面の傾斜はやや開き、底面は概ね平坦である。

埋土 2 層に分層した。1 層に炭化物や礫をわずかに含む。2 層は西側壁面の崩落土と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 4 点、須恵器 7 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 4 点、常滑産の甕 1 点が散在して出土した。

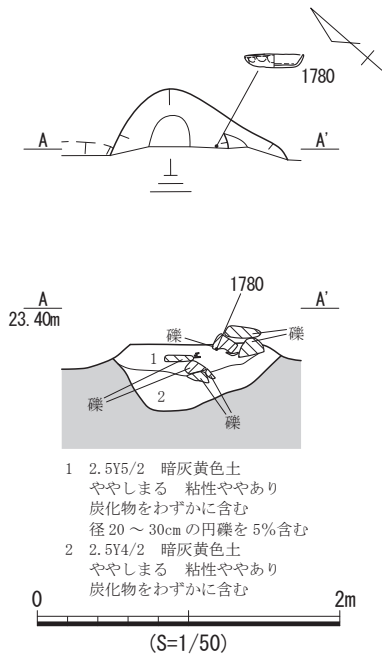
出土遺物 灰釉陶器 1 点を図示した。1786 は美濃須衛窯 VI 期（東山 72 号窯式併行）に比定した灰釉陶器の碗である。

時期 SA17・SK2270 との重複関係と尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は 12 世紀後葉から 13 世紀中葉と考えられる。

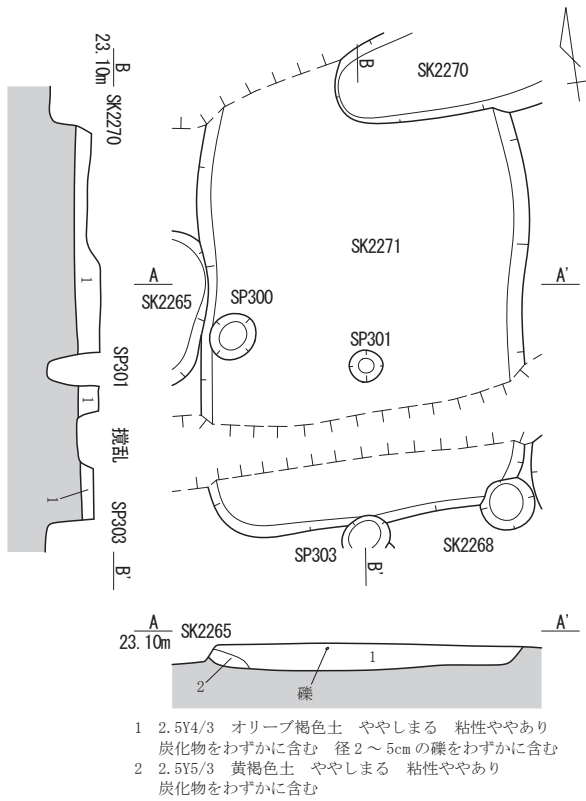
SK2275 (図 282)

検出状況 20 地点 ME 5～MF 5 グリッド、IV a 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。遺構の北

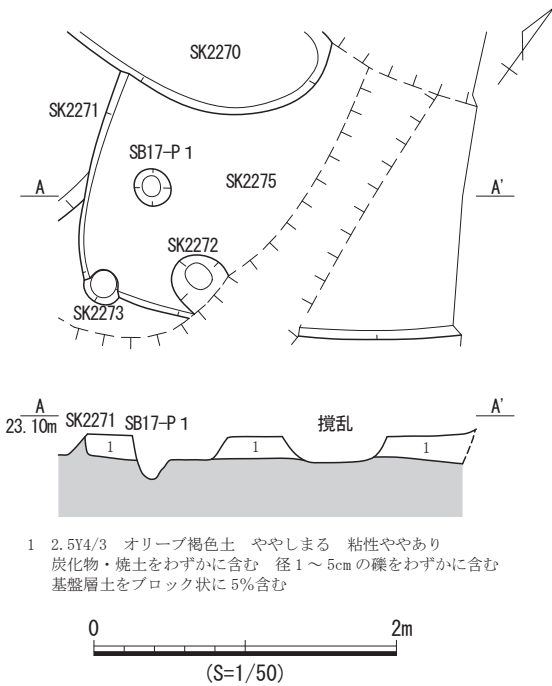
SK2261



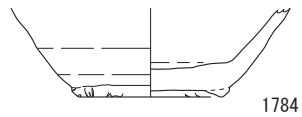
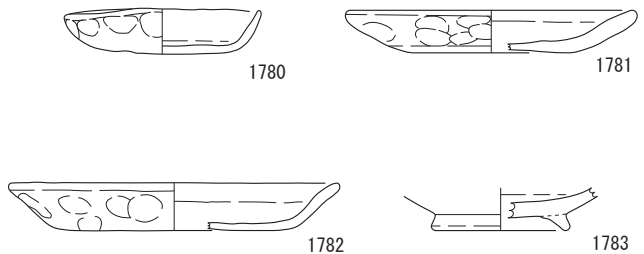
SK2271



SK2275



SK2261



SK2271



図 282 SK2261・SK2271・SK2275 遺構図・出土遺物実測図

側と中央は攪乱により消失する。北東側は発掘区外に続く。北側で SK2270、西側で SK2271、南側で SK2273、南東側で SK2276、遺構内で SK2272・SK2274・SB17-P1 と重複する。本遺構は SB17・SK2270・SK2271・SK2272・SK2273・SK2274 より古く、SK2276 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面の傾斜はやや急で、底面は概ね平坦である。

埋土 単層の埋土である。礫、焼土、炭化物、ブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 5 点、須恵器 4 点、灰釉陶器 2 点、山茶碗 5 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SB17・SK2271 との重複関係と尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は 13 世紀中葉以前の中世と考えられる。

SK2320 (図 283)

検出状況 20 地点 MG 5 グリッド、IV a 層上面及び SK2321 底面で検出した。平面形は明瞭であった。本遺構は SK2321 より古い。

規模・形状 平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。南東側の壁面の傾斜は検出面付近で大きく開く。柱穴状の掘方をもつが、柱穴としてはやや浅い。

埋土 2 層に分層した。概ね 1 層の堆積であり、2 層は南東側の壁面の開いた部分に堆積する。1 層、2 層ともに炭化物やブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 検出面から山茶碗の底部 1 点(1787)が逆位で、その底部に重なり別個体の山茶碗 1 点(1788)が出土した。

出土遺物 山茶碗 2 点を図示した。1787 は第 5 型式の尾張型山茶碗、1788 は窯洞 1 号窯式に比定した東濃型山茶碗である。

時期 SK2321 との重複関係と図示した 1788 から、本遺構は 13 世紀初頭と考えられる。

SK2321 (図 283)

検出状況 20 地点 MG 5 グリッド、IV a 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側で SE 1・SD270、南側で SA18-P3・SK2323、遺構内で SA18-P2・SK2318・SK2319 と重複する。底面で SK2320 を検出した。本遺構は、SE 1・SK2318・SK2319・SD270 より古く、SA18・SK2320・SK2323 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整形とされる。壁面の傾斜は緩やかに開き、底面は中央部で一段下がる。竪穴状の掘方をもたず、浅い窪み状の掘方である。

埋土 2 層に分層した。1 層は遺構の上面に薄く堆積し、2 層は一段下がった中端から下端に堆積する。1 層・2 層ともに炭化物やブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 1 層から山茶碗 1 点(1790)が逆位で出土した。その他に埋土中から土師器 21 点、須恵器 3 点、山茶碗 71 点、器種不明の鉄製品 1 点が出土した。

出土遺物 土師器皿など 2 点を図示した。1789 は M 2 類の土師器皿である。1790 は第 5 型式の尾張型山茶碗である。

時期 SA18・SE1・SK2320 との重複関係と図示した 1790 から、本遺構は 12 世紀後葉から 13 世紀初頭と考えられる。

SK2326 (図 284)

検出状況 20 地点 MG 5～MH 5 グリッド、IV a 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側は発掘区外に続く。遺構の中央で SK2325、北側で SA18-P 3 と重複する。本遺構は SK2325 より古く、SA18 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面の傾斜は急で、底面は概ね平坦であるが、西壁面付近で一段上がる。

埋土 3層に分層した。概ね水平に堆積する。埋土全体に炭化物、ブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。南側では2層は厚く、3層は薄く堆積する。1層と2層の層界で礫を確認したが、SK2325 との境界で出土したことから、SK2325 に係る礫の可能性はある。

遺物出土状況 埋土中から土師器 21 点、須恵器 18 点、灰釉陶器 4 点、山茶碗 51 点、陶器 3 点が散在して出土した。

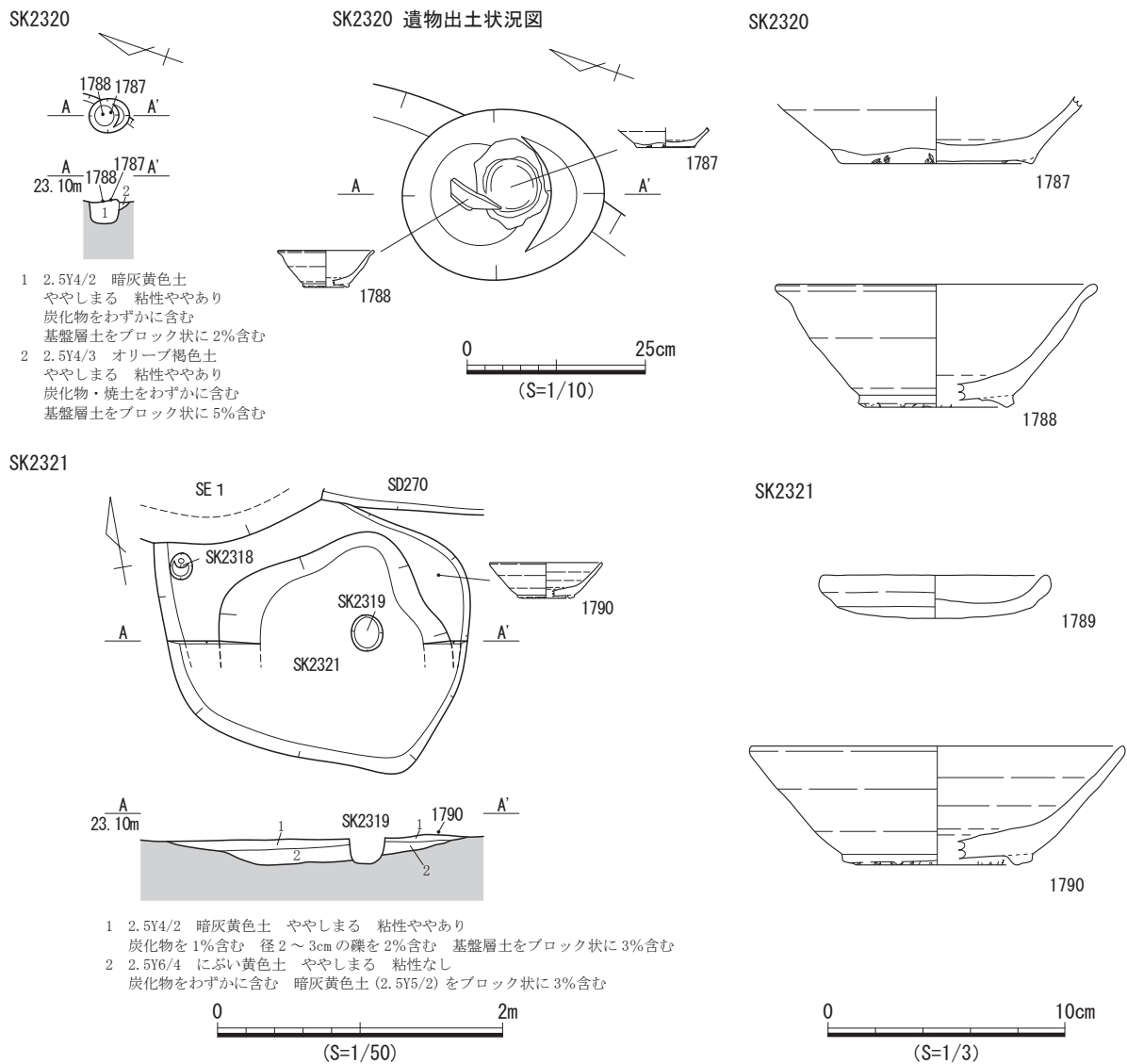


図 283 SK2320・SK2321 遺構図・出土遺物実測図

出土遺物 灰釉陶器など4点を図示した。1791は虎溪山1号窯式に比定した灰釉陶器の皿である。1792と1793は第5型式の尾張型山茶碗、1794は丸石3号窯式に比定した東濃型山茶碗である。

時期 図示した1792～1794から、本遺構は12世紀後葉から13世紀初頭と考えられる。

SK2340 (図 285)

検出状況 21地点LE17グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側は発掘区外に続く。東側でSK2341・SD272と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面の傾斜はやや緩やかに開き、底面は平坦である。

埋土 単層の埋土である。炭化物、焼土、ブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器16点、須恵器2点、灰釉陶器1点、山茶碗2点、白磁1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿2点を図示した。1795はC1類、1796はM3類の土師器皿である。

時期 SK2341との重複関係から、本遺構は14世紀初頭以降と考えられる。

SK2341 (図 285)

検出状況 21地点LE17グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側、南側ともに発掘区外に続く。西側でSK2340、東側でSD272と重複する。本遺構はSK2340より古く、SD272より新しい。

規模・形状 SK2340との重複により上端の大部分が消失する。壁面の傾斜は西側では急で、東側ではやや緩やかに直線的に開く。底面はやや丸みを帯び、南側にテラス状の平坦面をもつ。

埋土 単層の埋土である。炭化物や礫、基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器19点、須恵器2点、山茶碗6点、古瀬戸1点が出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 大畑大洞4号窯式新段階の東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構は14世紀初頭から後葉と考えられる。

SK2345 (図 285)

検出状況 21地点LE16グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北東部は発掘区外に続く。西側でSK2348と重複する。本遺構はSK2348より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は方形と考えられる。壁面の傾斜はやや緩やかに直線的に開き、底面は平坦である。

埋土 2層に分層した。概ね水平に堆積する。1層は炭化物をわずかに含み、表面に薄く堆積する。2層は埋土の半分以上を占め、炭化物を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器12点、山茶碗1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 山茶碗が出土したことから、本遺構の時期は中世と考えられる。

SK2348 (図 286)

検出状況 21地点LE16グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側でSK2350、

東側でSK2345と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は楕円形と考えられる。壁面はほとんど残存しない。底面は平坦である。底面付近で幅15cm～30cmの垂円礫4個を確認した。垂円礫はSK2350の南東側の掘方に沿った状態で並ぶ。

埋土 単層の埋土である。炭化物、ブロック土をわずかに含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器4点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2345・SK2350との重複関係とC1類の土師器皿が出土したことから、本遺構は中世と考えられる。

SK2350 (図286)

検出状況 21地点LE16グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側でSK2348と重複する。本遺構はSK2348より新しい。

規模・形状 平面形は隅丸方形である。壁面の傾斜は急で、底面はわずかに丸みを帯びる。

埋土 単層の埋土である。炭化物、焼土、ブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器37点、須恵器1点、山茶碗7点が散在して出土したが、いずれも小

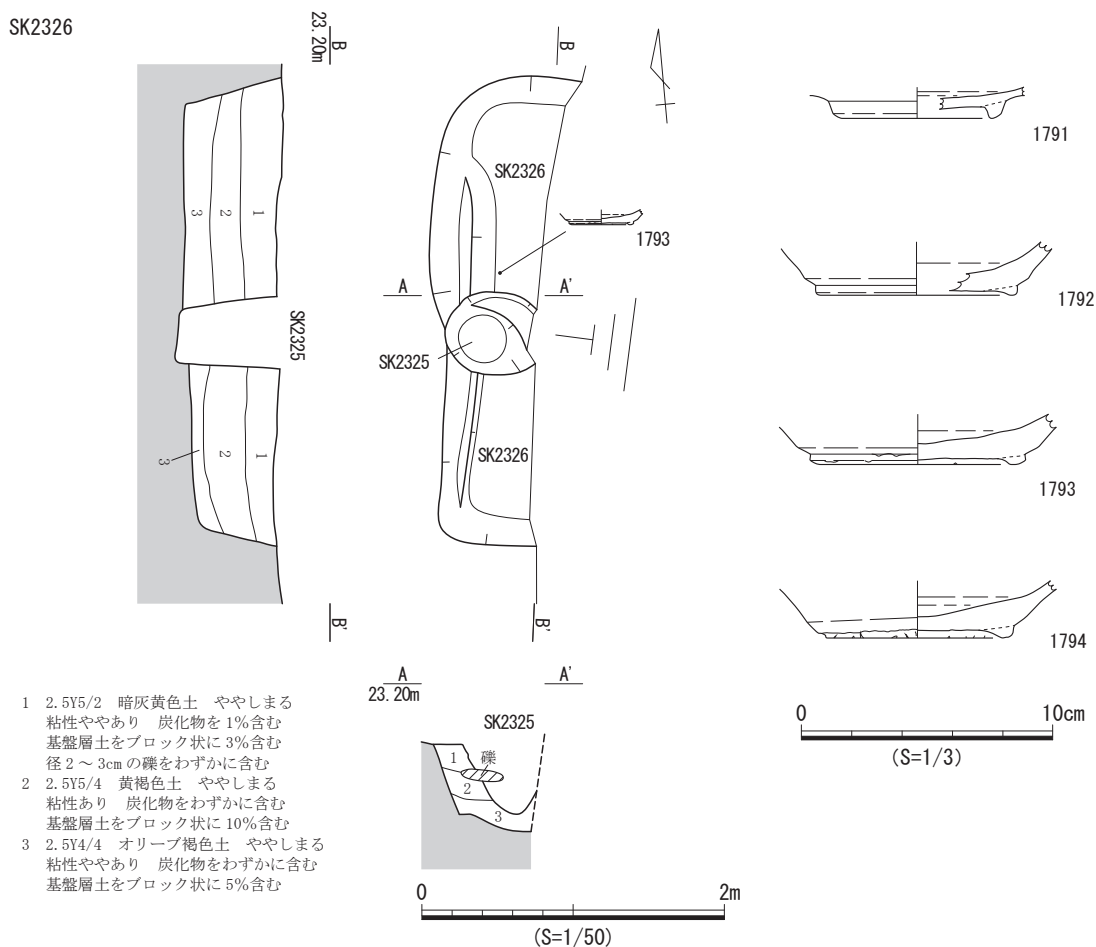


図284 SK2326 遺構図・出土遺物実測図

片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2348 との重複関係と山茶碗が出土したことから、本遺構は中世と考えられる
SK2364 (図 286)

検出状況 21 地点 LF14~LF15 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。全体では SF 1、西側で SD289 と重複する。本遺構は SD289・SF 1 より新しい。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面の傾斜は南側では緩やかで、その他の側ではやや急である。底面は概ね平坦である。

埋土 単層の埋土である。大粒の炭化物をわずかに含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 1 点、須恵器 1 点、山茶碗 3 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SD289 との重複関係から、本遺構は 15 世紀末以降と考えられる。

SK2368 (図 286)

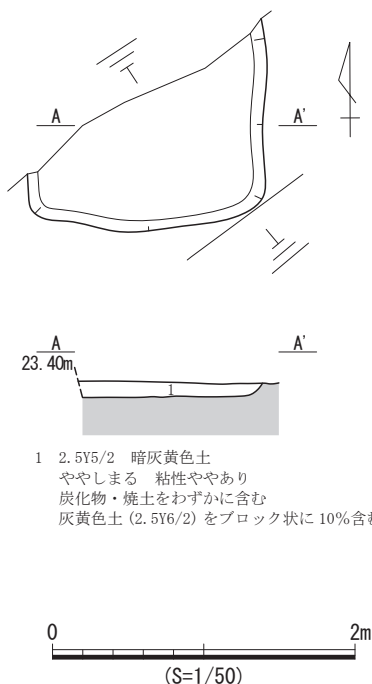
検出状況 21 地点 LF14 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。西端は攪乱により消失する。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面の傾斜はやや急で、底面は北東に向かってやや下がる。

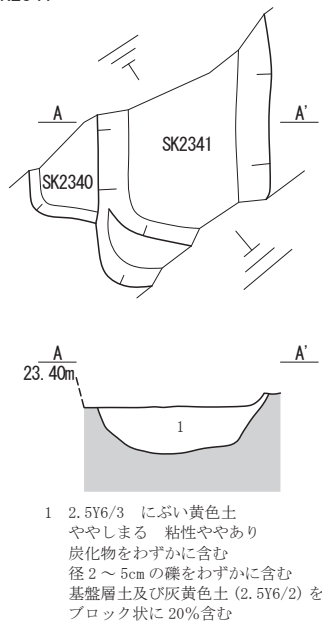
埋土 2 層に分層した。1 層は遺構中央に堆積し、別遺構の可能性もある。1 層・2 層ともに埋土に炭化物をわずかに含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 1 点、灰釉陶器 1 点が出土したが、いずれも小片であった。

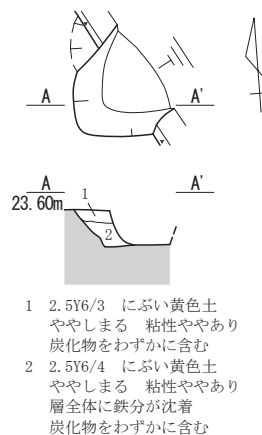
SK2340



SK2341



SK2345



SK2340

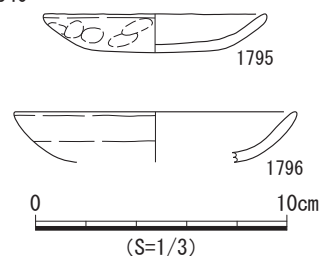


図 285 SK2340・SK2341・SK2345 遺構図・出土遺物実測図

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 灰釉陶器が出土したことから、本遺構の時期は古代と考えられる。

SK2377 (図 287)

検出状況 21 地点 LG14 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。西側は重複により消失する。西側で SK2378、東側で SD289 と重複する。底面で SK2380 を検出した。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は楕円形と考えられる。壁面の傾斜は急で、底面は概ね平坦である。

埋土 単層の埋土である。炭化物をわずかに含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 5 点、須恵器 2 点、山茶碗 1 点、石硯 1 点、釘 2 点が出土した。出土遺物や土坑の規模から、土坑墓の可能性もある。

出土遺物 石硯など 3 点を図示した。1797 は石硯で、表裏両面に「海」を削り込む。元来片面のみを硯として使用したものを、破碎後に裏面に海を削り込み再利用したと考えられる。裏面の海に墨の付着が認められる。1798 と 1799 は釘である。

時期 SK2378 との重複関係から、本遺構は 16 世紀後葉以降と考えられる。

SK2378 (図 287)

検出状況 21 地点 LG14 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。東側で SK2377・SK2380 と重複する。本遺構は SK2377 より古く、SK2380 より新しい。

規模・形状 平面形は隅丸方形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦である。

埋土 8 層に分層した。底面の北壁付近に 8 層、南壁付近に 7 層が一部堆積する。その他の層は概ね水平に堆積する。埋土全体にブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 6 層から炭化材と釘(1803)が出土した。その他に埋土中から縄文土器 1 点、土師器 31 点、須恵器 9 点、灰釉陶器 3 点、山茶碗 13 点、陶器 3 点、釘 3 点が散在して出土した。出土遺物や土坑の規模・形状から、土坑墓の可能性も考えられる。

出土遺物 須恵器など 4 点を図示した。1800 と 1801 は美濃須衛窯産の須恵器である。1800 は V 期第小期に比定した須恵器の坏蓋 C 類、1801 は IV 期第 3 小期に比定した把手付甕である。1802 は大窯第 3 段階の天目茶碗である。1803 は釘で、別個体の釘の先端部が錆着する。

時期 図示した 1802 から、本遺構は 16 世紀後葉と考えられる。

SK2380 (図 288)

検出状況 21 地点 LG14 グリッド、SD289 の壁面及び SK2377・SK2378 の底面で検出した。平面形は不明瞭であった。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 上端が重複により消失し、平面形は不明である。南北側壁面の下部が残存する B-B' 断面では上部より下部の最大径が広いことから、袋状土坑と考えられる。

埋土 重複により埋土のほとんどが消失する。検出した範囲では、単層の埋土である。基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 3 点、須恵器 1 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 土師器と須恵器が出土したことから、本遺構は古墳時代から古代と考えられる。

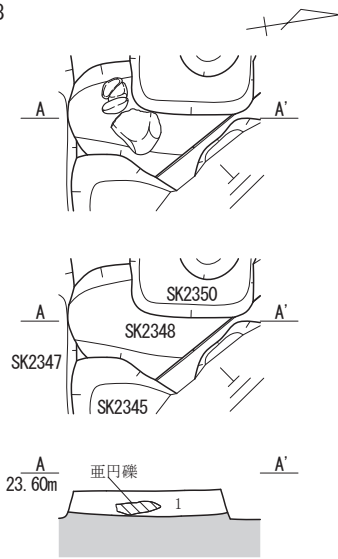
SK2383 (図 288)

検出状況 21地点LF14~LG14グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側でSK2385と重複する。本遺構はSK2385より新しい。

規模・形状 平面形は隅丸方形である。壁面の傾斜は北側では緩やかで、南側では垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦である。

埋土 単層の埋土である。炭化物を多く含む。

SK2348



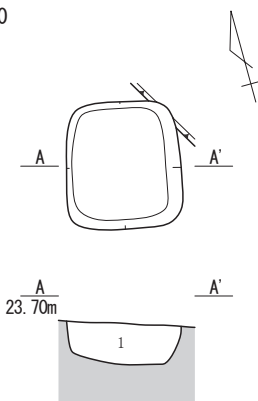
1 2.5Y4/4 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む
灰黄色土 (2.5Y7/2) を
ブロック状に3%含む

SK2348 垂円礫出土状況図



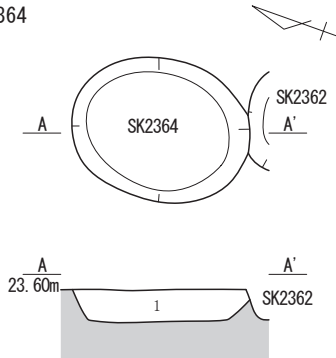
0 50cm
(S=1/20)

SK2350



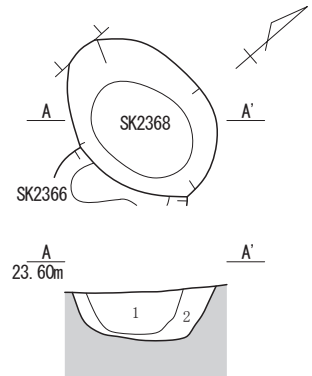
1 2.5Y4/4 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土をわずかに含む
灰黄色土 (2.5Y6/2) を
ブロック状に5%含む

SK2364



1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む

SK2368



1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性あり
炭化物をわずかに含む
2 2.5Y4/4 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む

0 2m
(S=1/50)

図 286 SK2348・SK2350・SK2364・SK2368 遺構図

遺物出土状況 埋土中から土師器52点、須恵器5点、灰釉陶器3点、山茶碗8点、白磁1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2385 との重複関係から、本遺構は14世紀後葉以降と考えられる。

SK2385 (図 288)

検出状況 21 地点 LG14 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側は攪乱により消失する。北側でSK2383 と重複する。本遺構は重複する SK2383 より古い。

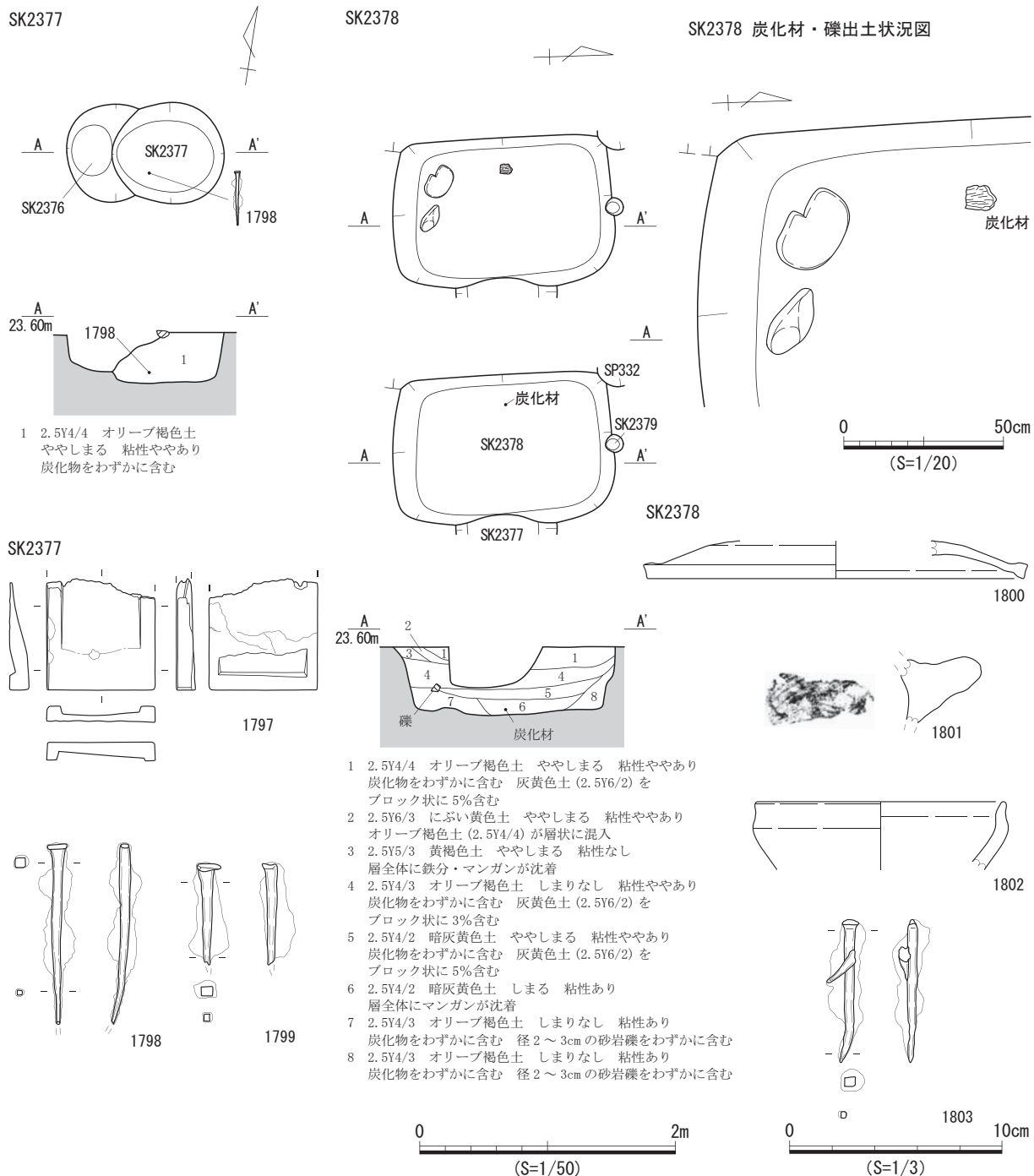


図 287 SK2377・SK2378 遺構図・出土遺物実測図

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面の傾斜は急で、底面は平坦である。

埋土 5層に分層した。2層と3層、4層と5層はそれぞれ同じレベルで検出したが、北側に3層と5層、南側に2層と4層が堆積する。全体では概ね水平に堆積する。5層は上部が硬化していた。東側の1層と3層の層界で大きな礫を確認した。

遺物出土状況 埋土中から土師器75点、須恵器14点、灰釉陶器4点、山茶碗11点、古瀬戸6点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 古瀬戸後期の直縁大皿が出土したことから、本遺構は14世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SK2390 (図 288)

検出状況 21 地点 LG14 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。南西側と中央部は攪乱により消失する。北西側で SK2385、東側で SK2396・SK2397 と重複する。底面で SK2391・SK2393・SK2394 を検出した。本遺構は SK2385 より古く、SK2391・SK2393・SK2394・SK2396・SK2397 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかに開き、底面は概ね平坦である。

埋土 3層に分層した。1層が大部分を占め、2層と3層は一部に堆積する。1層と2層に基盤層のブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器8点、須恵器4点、山茶碗2点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2385・SK2391 との重複関係から、本遺構は13世紀後葉から14世紀後葉と考えられる。

SK2391 (図 289)

検出状況 21 地点 LG14 グリッド、SK2390 底面で検出した。平面形は不明瞭であった。壁面の一部は攪乱により消失する。東側で SK2393・SK2396・SK2397、遺構内で SK2393・SK2394 と重複する。底面で SK2395 を検出した。本遺構は SK2393・SK2394 より古く、SK2395～SK2397 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整形とされる。壁面の傾斜は西側では急で、東側では下部は緩やかで、上部は急である。底面は丸みを帯び、東側にテラス状の平坦面をもつ。

埋土 3層に分層した。1層は上部に薄く堆積し、2層は中央が窪む。2層と3層に炭化物を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器28点、須恵器18点、灰釉陶器3点、山茶碗13点、常滑産の甕1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 明和1号窯式に比定した東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構は13世紀後葉から末と考えられる。

SK2393 (図 289)

検出状況 21 地点 LG14 グリッド、SK2390 底面で検出した。平面形は不明瞭であった。南西側は攪乱

により消失する。東側でSK2391と重複する。本遺構はSK2390より古く、SK2391より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整形円形と考えられる。壁面の傾斜は急で、底面は南東に向かい下がる。

埋土 2層に分層した。1層は中央が大きく窪む。1層と2層に炭化物をわずかに含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器1点、須恵器1点、山茶碗2点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2390・SK2391との重複関係から、本遺構は13世紀後葉から14世紀後葉と考えられる。

SK2394 (図 289)

検出状況 21地点LG14グリッド、SK2390底面で検出した。平面形は明瞭であった。南側でSK2391・SK2395と重複する。本遺構はSK2390より古く、SK2391・SK2395より新しい。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面は垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

埋土 単層の埋土である。炭化物をわずかに含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器1点、灰釉陶器2点が出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2390・SK2391・SK2395との重複関係から、本遺構は13世紀後葉から14世紀後葉と考えられる。

SK2395 (図 289)

検出状況 21地点LG14グリッド、SK2391底面で検出した。平面形は不明瞭であった。北西側でSK2394、南西側でSK2393と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 平面形は不整形楕円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は丸みを帯びる。

埋土 4層に分層した。2層から4層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から遺物は出土しなかった。

時期 SK2391との重複関係から、本遺構は13世紀末以前と考えられる。

SK2396 (図 289)

検出状況 21地点LG14グリッド、SD291底面で検出した。平面形は不明瞭であった。西側は重複により消失する。西側でSK2391・SK2397と重複する。本遺構はSK2391より古く、SK2397より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は楕円形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかに開き、底面はやや丸みを帯びる。

埋土 2層に分層した。1層は中央がやや窪む。すべての層に基盤層のブロック土を多く含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器1点、山茶碗1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器1点を図示した。1804はA類の伊勢型鍋である。

時期 図示した1804から、本遺構は12世紀中葉から後葉と考えられる。

SK2397 (図 289)

検出状況 21地点LG14グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。西側は重複により一部消失する。西側でSK2391、東側でSK2396と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

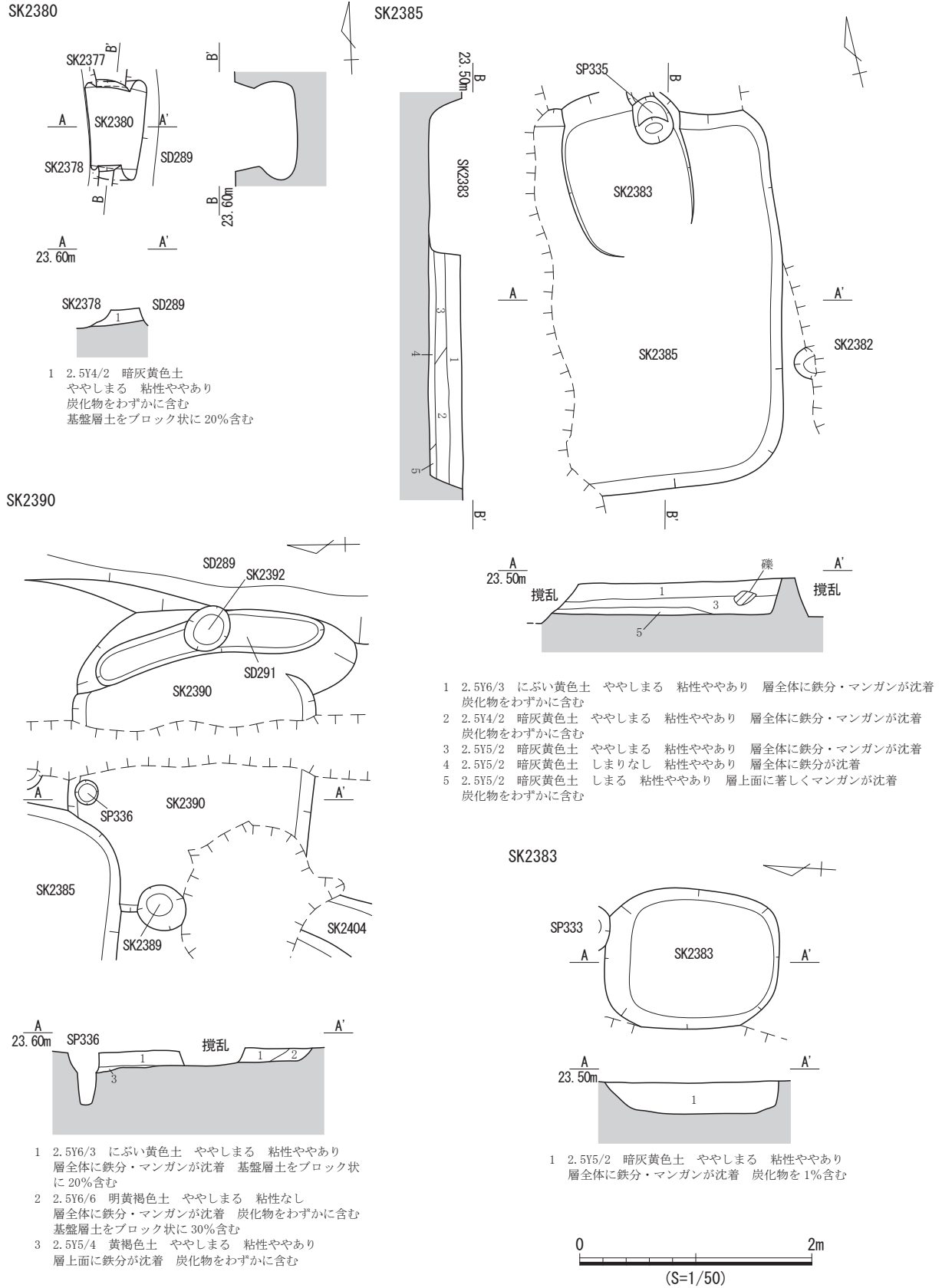


図 288 SK2380・SK2383・SK2385・SK2390 遺構図

規模・形状 検出した範囲では、平面形は円形と考えられる。壁面の傾斜は底面付近では緩やかに開き、上部に向かい急になる。底面はわずかに丸みを帯びる。

埋土 3層に分層した。概ね水平に堆積し、中央がわずかに窪む。すべての層に基盤層のブロック土を多く含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から須恵器1点が出土したが、小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 美濃須衛窯IV期～V期第1小期に比定した須恵器の坏身C類が出土したことから、本遺構は8世紀前葉から9世紀後葉と考えられる。

SK2406 (図 290)

検出状況 21 地点 LH14 グリッド、IV b 層上面で検出した。西側は攪乱、東側は重複により消失する。南東側は発掘区外に続く。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不定形と考えられる。壁面の傾斜は残存する底面付近ではやや緩やかである。底面は概ね平坦で、南側にテラス状の平坦面をもつ。

埋土 12層に分層した。多くの層で基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。堆積が複雑に乱れ、土色やしまりの様子も異なることから、複数回にわたり掘り直しや埋め戻しが行われたと考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器103点、須恵器9点、灰釉陶器7点、山茶碗34点、陶磁器6点、鉄滓1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 山茶碗が出土したことから、本遺構は中世と考えられる。

SK2407 (図 290)

検出状況 21 地点 LH14 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側でSD289と重複する。本遺構はSD289より新しい。

規模・形状 平面形は不整円形である。壁面の傾斜は急で、底面は概ね平坦である。検出面で露出した複数の垂円礫を確認した。垂円礫は底面から少し浮いた状態で置かれていた。

埋土 単層の埋土である。炭化物をわずかに含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器3点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SD289との重複関係から、本遺構は15世紀末以降と考えられる。

SK2414 (図 290)

検出状況 21 地点 LF16 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。西側は重複により一部消失する。北側でSD284、南東側でSD280と重複する。底面でSK2419を検出した。本遺構はいずれの遺構より新しい。

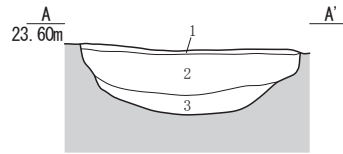
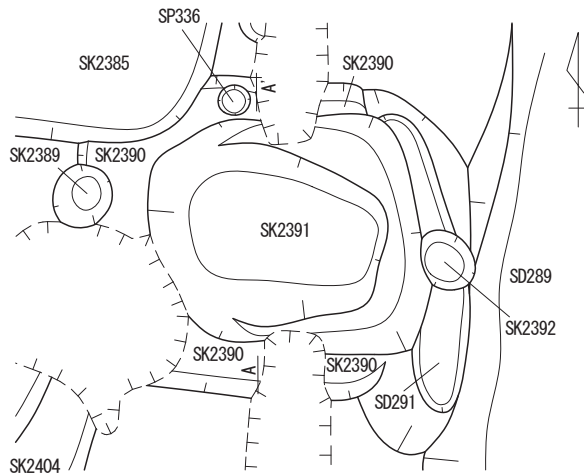
規模・形状 平面形は隅丸方形である。壁面の傾斜は急で、底面は平坦である。

埋土 単層の埋土である。炭化物をわずかに含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器15点、須恵器6点、山茶碗2点が散在して出土した。

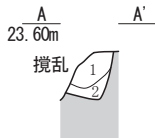
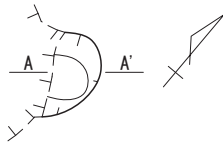
出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

SK2391



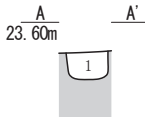
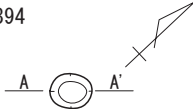
- 1 2.5Y6/6 明黄褐色土 しまる 粘性なし
層全体に著しく鉄分が沈着し硬化
- 2 2.5Y5/4 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分が沈着 炭化物をわずかに含む
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分が沈着 炭化物をわずかに含む

SK2393



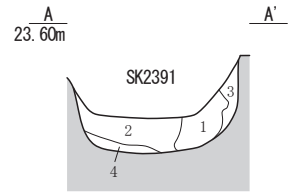
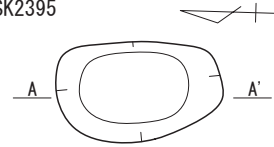
- 1 2.5Y6/4 にぶい黄色土 ややしまる
粘性ややあり 層全体に鉄分が沈着
炭化物をわずかに含む
- 2 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる
粘性ややあり 層全体に鉄分が沈着
炭化物をわずかに含む

SK2394



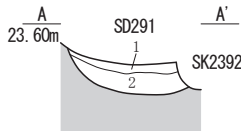
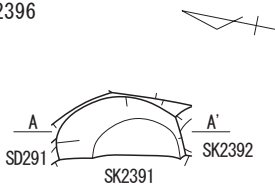
- 1 2.5Y6/2 灰黄色土 ややしまる
粘性なし 層全体に鉄分が沈着
炭化物をわずかに含む

SK2395



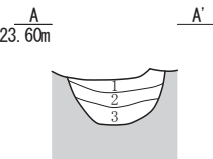
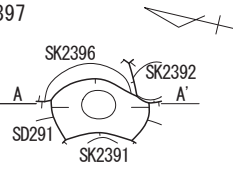
- 1 N5/ 灰土 ややしまる 粘性あり
層界に鉄分が沈着
- 2 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる
粘性ややあり 層全体に鉄分・マン
ガンが沈着 基盤層土をブロック状に5%含む
- 3 2.5Y6/2 灰黄色土 ややしまる
粘性ややあり 層全体に鉄分が沈着
基盤層土をブロック状に10%含む
- 4 2.5Y5/3 黄褐色土 ややしまる
粘性ややあり 層全体に鉄分・マンガンが沈着
基盤層土をブロック状に10%含む

SK2396



- 1 2.5Y5/3 黄褐色土 ややしまる
粘性なし 層全体に鉄分が沈着
炭化物をわずかに含む
基盤層土をブロック状に20%含む
- 2 2.5Y6/6 黄褐色土 ややしまる
粘性なし 層全体に鉄分が沈着
炭化物をわずかに含む
基盤層土をブロック状に30%含む

SK2397



- 1 2.5Y6/2 灰黄色土 ややしまる 粘性なし
層全体に鉄分・マンガンが沈着 炭化物を
わずかに含む 基盤層土をブロック状に30%含む
- 2 2.5Y6/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分・マンガンが沈着 炭化物をわずか
に含む 基盤層土をブロック状に20%含む
- 3 2.5Y7/4 浅黄色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分・マンガンが沈着
灰黄色土 (2.5Y6/2) をブロック状に10%含む

SK2396

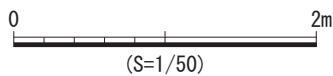
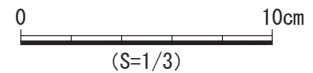
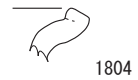


図 289 SK2391・SK2393～SK2397 遺構図・出土遺物実測図

時期 SD280・SD284 との重複関係から、本遺構は 15 世紀初頭以降と考えられる。

SK2417 (図 291)

検出状況 21 地点 LF15 グリッド、IV b 層上面で検出した。南側と西側は攪乱、北側と東側は重複により消失する。平面形は不明瞭であった。北側で SL10、西側で SD282、東側で SD284 と重複する。本遺構は SD284 より古く、SL10・SD282 より新しい。

規模・形状 重複が激しく平面形は不明である。壁面の傾斜は西側では底面付近ではやや急で、上部に向かい緩やかに開く。底面はわずかに丸みを帯びる。

埋土 4 層に分層した。大部分を 1 層が占め、2 層から 4 層は底部に薄く堆積する。埋土全体に炭化物や焼土ブロックを含む。4 層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 15 点、須恵器 4 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など 3 点を図示した。1805 は土師器の甕、1806 は土師器の長胴甕である。1807 は美濃須衛窯IV期第 3 小期～V期第 1 小期に比定した須恵器の坏身 B 類である。

時期 SL10 との重複関係と図示した 1807 から、8 世紀後葉から 9 世紀後葉と考えられる。

SK2419 (図 291)

検出状況 21 地点 LF16 グリッド、SK2414 底面で検出した。平面形は不明瞭であった。南側で SL10、東側で SD284、中央で SD280 と重複する。本遺構は SK2414 より古く、SD280・SD284・SL10 より新しい。

規模・形状 平面形は隅丸方形である。壁面は垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土 3 層に分層した。1 層と 2 層に炭化物をわずかに含む。いずれの層もブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 6 点、須恵器 8 点、灰釉陶器 3 点、青磁 1 点、環状鉄製品 1 点が散在して出土した。

出土遺物 環状鉄製品 1 点を図示した。1808 は扁平な鉄板を環状に加工する。

時期 SD280・SD284 との重複関係から、本遺構は 15 世紀初頭以降と考えられる。

SK2432 (図 291)

検出状況 21 地点 LF16 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側で SA21-P 4、西側で SD284、東側で SD280 と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は長楕円形と考えられる。壁面の傾斜は残存する南東側では非常に急である。底面は概ね平坦で、東側がわずかに下がる。底面は V 層に達する。

埋土 2 層に分層した。1 層に炭化物を含み、2 層に 1 層と同色のブロック土を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 1 点が出土したが、小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

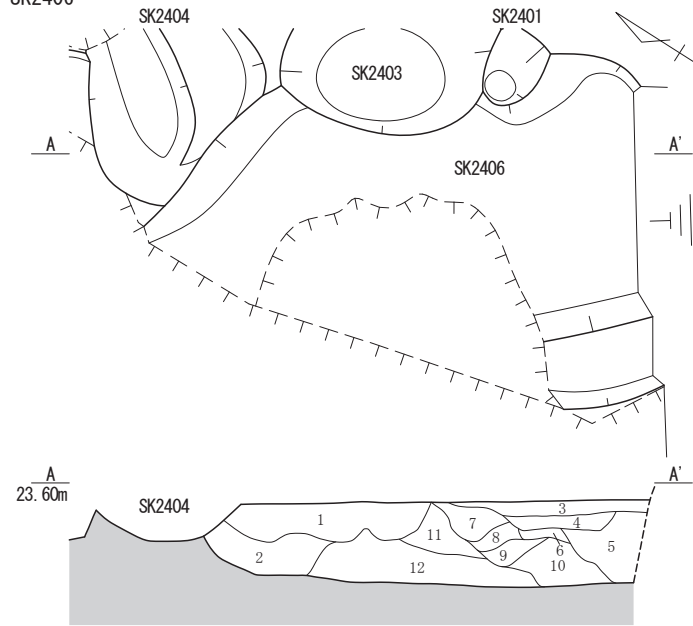
時期 SD280・SD284 との重複関係から、本遺構は 15 世紀初頭から後葉と考えられる。

SK2442 (図 292)

検出状況 21 地点 LF16 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側で SK2443、遺構全体で SD285 と重複する。本遺構は SK2443・SD285 より新しい。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面はやや丸みを帯びる。底面は V 層に達する。

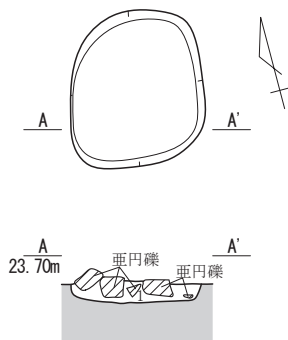
SK2406



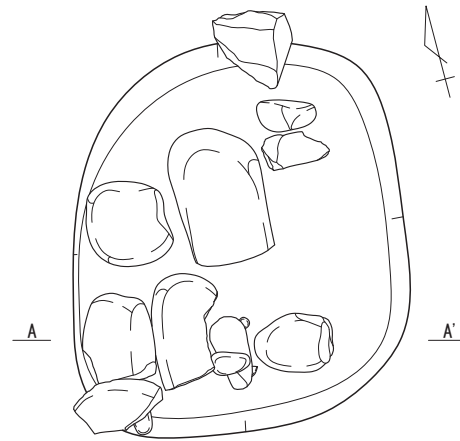
- 1 2.5Y6/3 にぶい黄色土 しまる 粘性ややあり
層全体に鉄分・マンガンが沈着 炭化物をわずかに含む
基盤層土をブロック状に20%含む
- 2 2.5Y6/2 灰黄色土 しまりなし 粘性ややあり
層全体に鉄分・マンガンが沈着 炭化物をわずかに含む
基盤層土をブロック状に5%含む
- 3 2.5Y6/6 明黄褐色土 しまる 粘性ややあり
層全体に鉄分・マンガンが沈着
基盤層土をブロック状に30%含む
- 4 2.5Y4/2 暗灰黄色土 しまりなし 粘性ややあり
層全体に鉄分・マンガンが沈着 炭化物をわずかに含む
- 5 2.5Y5/2 暗灰黄色土 しまりなし 粘性ややあり
層全体に鉄分が沈着 炭化物をわずかに含む
- 6 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分・マンガンが沈着
基盤層土をブロック状に10%含む
- 7 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分・マンガンが沈着 炭化物をわずかに含む
- 8 2.5Y5/4 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分・マンガンが沈着
基盤層土をブロック状に10%含む
- 9 2.5Y5/2 暗灰黄色土 しまりなし 粘性ややあり
層全体に鉄分・マンガンが沈着
基盤層土をブロック状に3%含む
- 10 2.5Y4/1 黄灰色土 しまりなし 粘性ややあり
層全体に鉄分・マンガンが沈着 炭化物をわずかに含む
- 11 2.5Y6/3 にぶい黄色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分が沈着
- 12 2.5Y6/2 灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分が沈着 炭化物をわずかに含む

SK2407

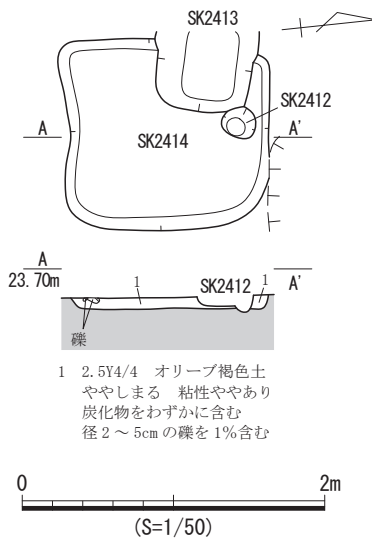
SK2407 亜円礫出土状況図



- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む
径20～50cmの亜円礫を30%含む



SK2414



- 1 2.5Y4/4 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む
径2～5cmの礫を1%含む

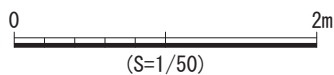


図 290 SK2406・SK2407・SK2414 遺構図

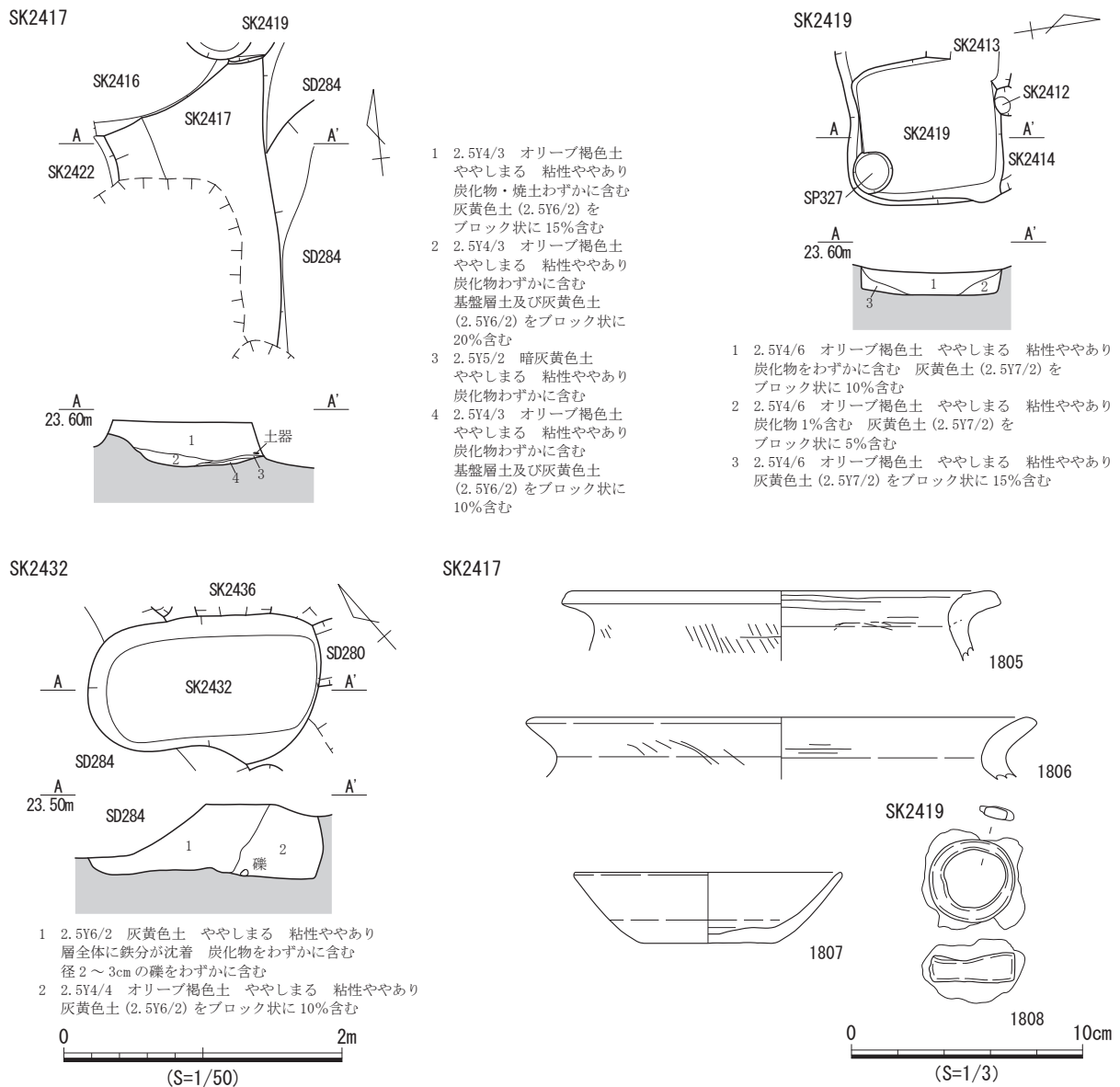


図 291 SK2417・SK2419・SK2432 遺構図・出土遺物実測図

埋土 4層に分層した。いずれの層も炭化物を含み、2層と4層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 中央の4層から完形の土師器皿(1809)が逆位で出土した。その他に埋土中から土師器49点、須恵器4点、灰釉陶器1点、山茶碗2点、陶器5点、釘1点が散在して出土した。出土遺物や土坑の規模・形状から土坑墓の可能性はある。

出土遺物 土師器皿など3点を図示した。1809はC1類の土師器皿である。1810は丸石2号窯式に比定した灰釉陶器の皿である。1811は釘である。

時期 SK2443との重複関係と古瀬戸が出土したことから、本遺構は15世紀中葉から後葉と考えられる。

SK2443 (図 293)

検出状況 21 地点 LF16 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北東側、南東側の上端は攪乱により消失し、北西側は発掘区外に続く。南側で SK2442、中央で SD285 と重複する。本遺構は SK2442 より古く、SD285 より新しい。

規模・形状 平面形は不整形である。壁面の傾斜は残存する西側では急で、底面は平坦である。底面はV層に達する。遺構南側の2層で径30cm~70cmの垂円礫を多数確認した。一部は南辺の掘方に沿って並ぶ。中央付近の垂円礫は被熱して破碎していた。

埋土 2層に分層した。水平に堆積する。1層は2層に比べて厚く堆積する。埋土全体に炭化物や基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 116 点、須恵器 8 点、山茶碗 15 点、陶磁器 4 点、木製品 1 点（種別不明）が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿 1 点を図示した。1812 はC 1 類の土師器皿である。

時期 古瀬戸後IV期古段階の折縁深皿が出土したことから、本遺構は 15 世紀中葉と考えられる。

SK2447 (図 294)

検出状況 21 地点 LF16 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側と西側の上端は攪乱により消失する。西側で SK2448・SD280、中央で SD285 と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 平面形は長楕円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面はわずかに丸みを帯びる。

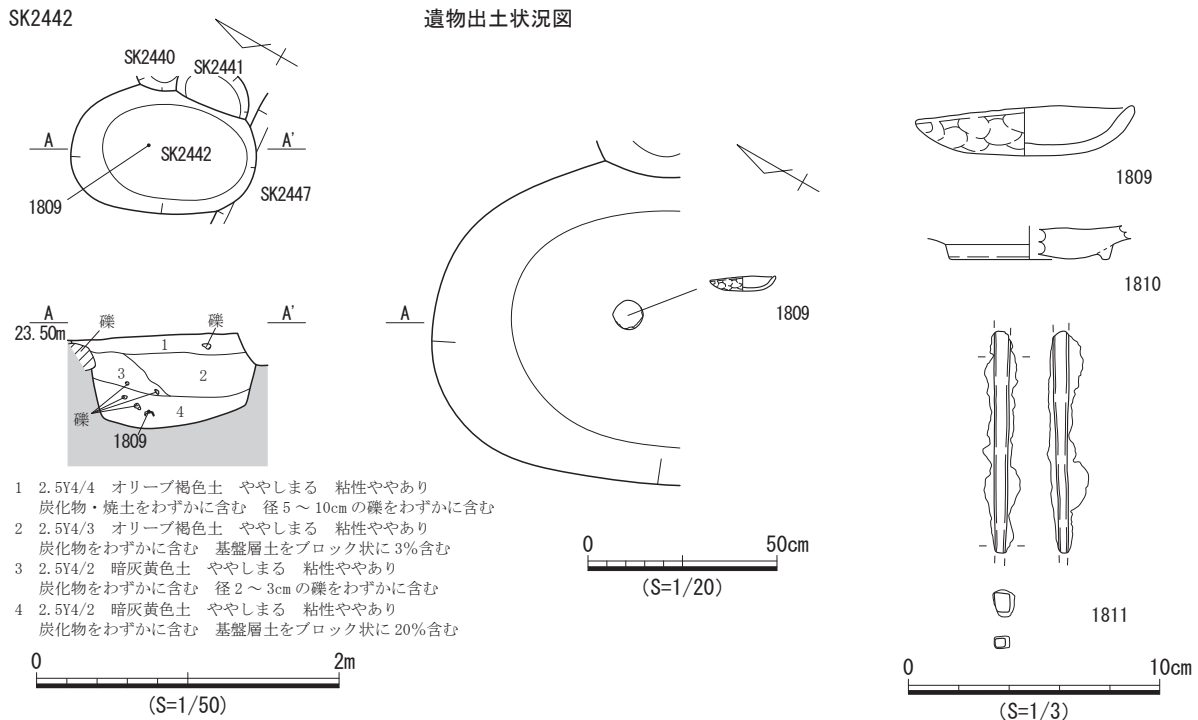
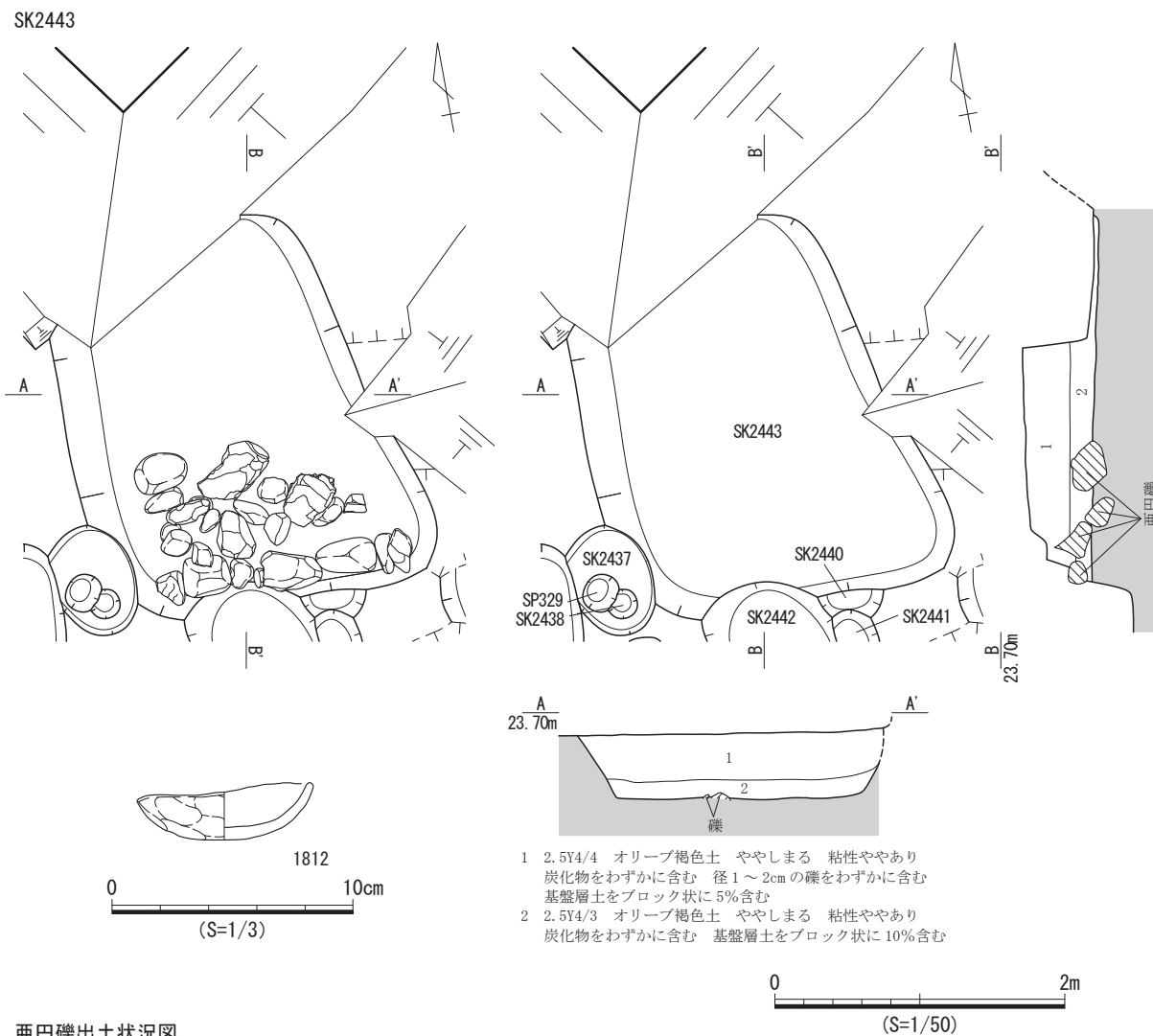


図 292 SK2442 遺構図・出土遺物実測図



垂円礫出土状況図



図 293 SK2443 遺構図・出土遺物実測図

埋土 2層に分層した。1層は中央付近がやや窪み、径5cm～15cmの垂円礫や角礫を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器30点、須恵器11点、灰釉陶器1点、山茶碗1点、古瀬戸1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SD285との重複関係から、本遺構は15世紀中葉以降と考えられる。

SK2448 (図 294)

検出状況 21地点LF16グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側でSK2447・SD280、東側でSD285と重複する。本遺構はSK2447より古く、SD280・SD285より新しい。

規模・形状 平面形は不整長方形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。概ね水平に堆積し、基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器27点、須恵器3点、山茶碗5点が出土した。

出土遺物 須恵器1点を図示した。1813は美濃須衛窯Ⅲ期後半に比定したA類の坏身である。

時期 SK2447・SD285との重複関係から、本遺構は15世紀中葉以降と考えられる。

SK2462 (図 294)

検出状況 21地点LG16～LG17グリッド、IVb層上面で検出した。南東側は攪乱により消失する。北側、西側、南西側は重複により上端が消失する。平面形は不明瞭であった。西側でSD281、中央でSD285と重複する。本遺構はSD281より古く、SD285より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は楕円形と考えられる。壁面の傾斜はやや急で、底面は西側でわずかに下がる。

埋土 4層に分層した。東壁付近の3層と4層で被熱した礫も含む垂円礫や角礫を確認した。

遺物出土状況 埋土中から土師器53点、須恵器10点、山茶碗11点、古瀬戸2点が散在して出土した。

出土遺物 須恵器1点を図示した。1814は美濃須衛窯V期第1小期に比定した坏身C類である。

時期 古瀬戸後期の直縁大皿が出土したことから、本遺構は14世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SK2474 (図 295)

検出状況 21地点LG17～LH17グリッド、IVb層上面で検出した。北東側と北西側は攪乱により消失する。南側でSP340、遺構全体でSK2478と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整円形と考えられる。壁面は垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。埋土全体に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。1層底面付近で大きさ18cmの角礫と径30cmの垂円礫を確認した。1層埋戻し時に入れ込んだと考えられる。2層は底面に薄く堆積する。

遺物出土状況 埋土中から土師器8点、須恵器12点、山茶碗1点、古瀬戸1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 古瀬戸が出土したことから、本遺構は12世紀末から15世紀後葉と考えられる。

SK2475 (図 295)

検出状況 21 地点 LH17 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側は攪乱により消失する。西側でSK2478 と重複する。本遺構はSK2478 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面の傾斜はやや緩やかで、底面は平坦である。

埋土 単層の埋土である。炭化物、焼土ブロックをわずかに含む。基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 北東側から土師器 36 点、須恵器 5 点がまとまって出土した。

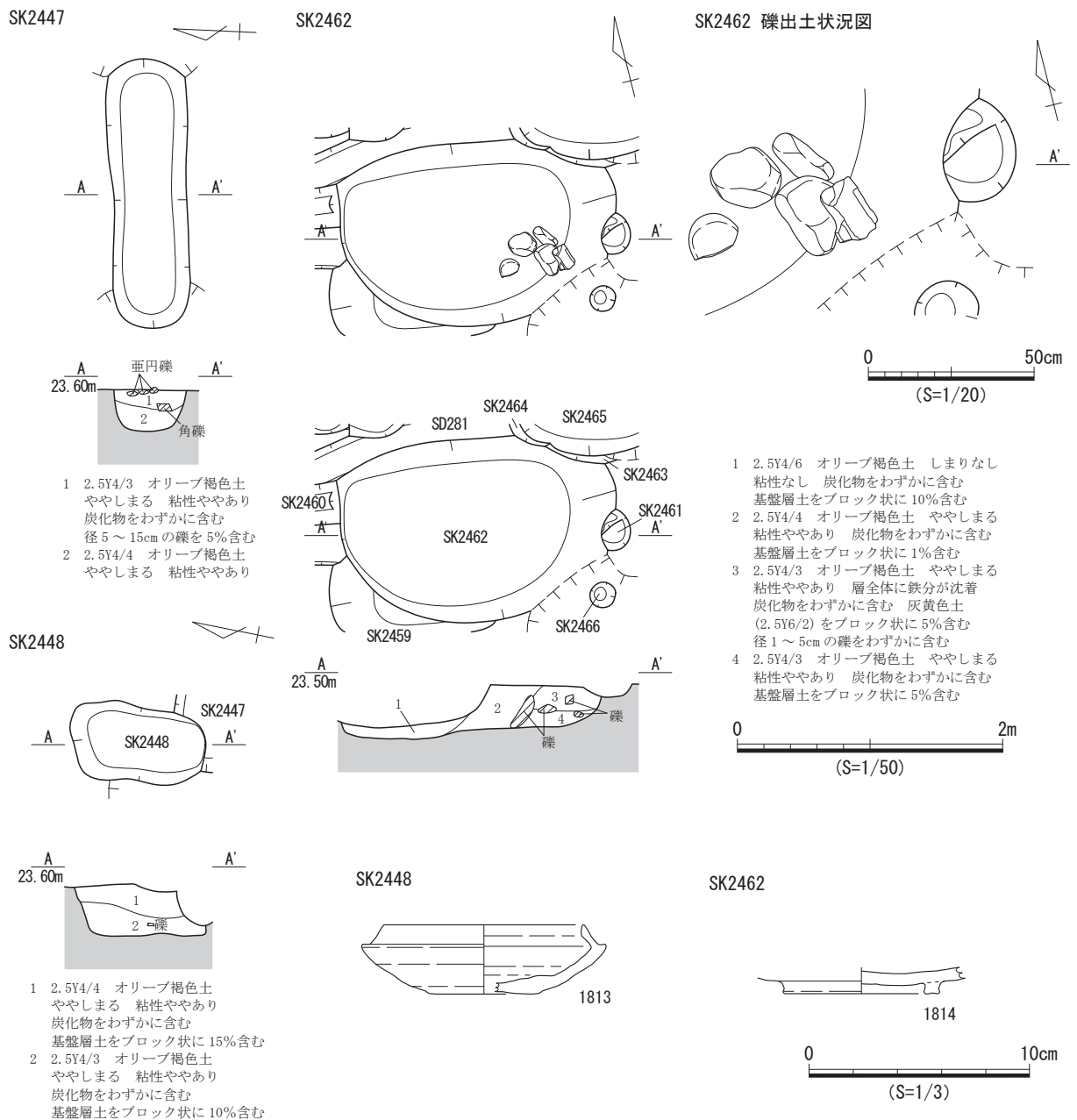


図 294 SK2447・SK2448・SK2462 遺構図・出土遺物実測図

出土遺物 土師器など4点を図示した。1815と1816は土師器の長胴甕である。1817と1818は美濃須衛窯V期第1小期に比定した須恵器で、1817は有台鉢、1818は碗である。

時期 図示した1817と1818から、本遺構は9世紀初頭から後葉と考えられる。

SK2476 (図 296)

検出状況 21地点 LH16～LH17グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側は攪乱により消失する。西側でSD285、南側でSK2477、東側でSK2478と重複する。本遺構はSD285より古く、SK2477・SK2478より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は円形と考えられる。壁面の傾斜は急で、底面は概ね平坦である。

埋土 単層の埋土である。炭化物や焼土ブロックをわずかに含む。ブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器3点、須恵器1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器1点を図示した。1819は長胴甕である。

時期 SK2477との重複関係と図示した1819から、本遺構は9世紀初頭から後葉と考えられる。

SK2477 (図 296)

検出状況 21地点 LH16～LH17グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側でSK2476、西側でSD285と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は円形と考えられる。壁面の傾斜はやや急で、底面はわずかに丸みを帯びる。

埋土 単層の埋土である。炭化物や基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器1点、須恵器1点が散在して出土した。

出土遺物 須恵器1点を図示した。1820は美濃須衛窯V期第1小期に比定した碗である。

時期 図示した1820から、本遺構は9世紀初頭から後葉と考えられる。

SK2478 (図 295)

検出状況 21地点 LG17～LH17グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。東側と西側中央は攪乱により消失する。西側でSK2476、南側でSK2475、遺構内部でSK2474・SP340と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は方形と考えられる。壁面の傾斜は垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

埋土 単層の埋土である。炭化物をわずかに含む。基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器6点、須恵器1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

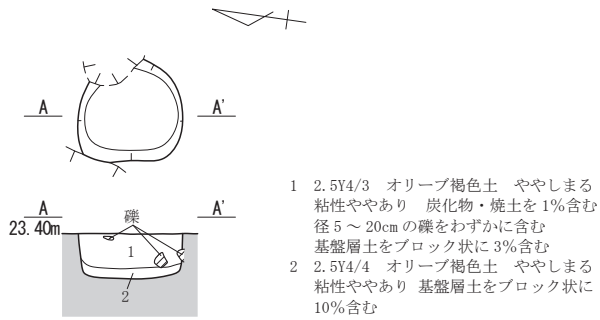
出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2475・SK2476との重複関係から、本遺構は7世紀初頭から9世紀後葉と考えられる。

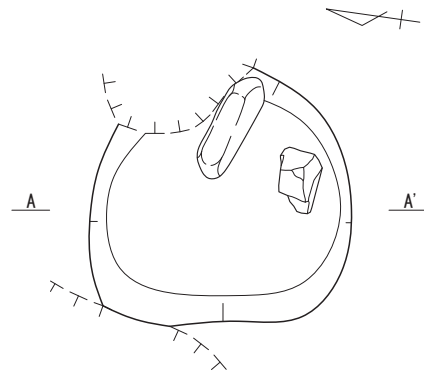
SK2479 (図 296)

検出状況 21地点 LG16グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。東側は攪乱により消失する。東側でSD285と重複する。本遺構はSD285より新しい。

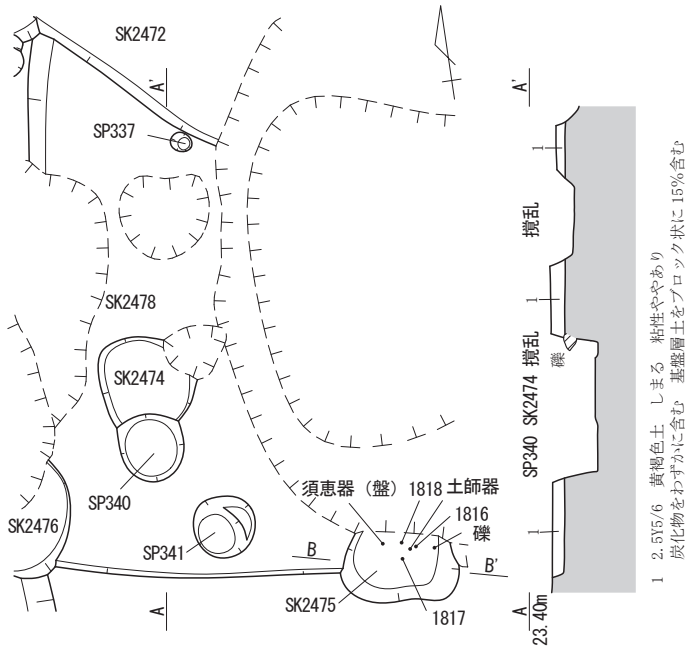
SK2474



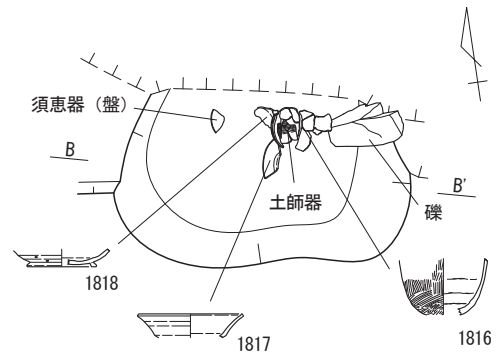
SK2474 礫出土状況図



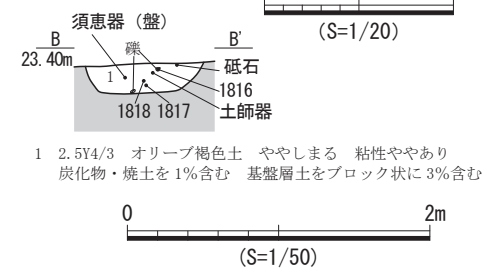
SK2475・SK2478



SK2475 遺物出土状況図



SK2475



SK2475

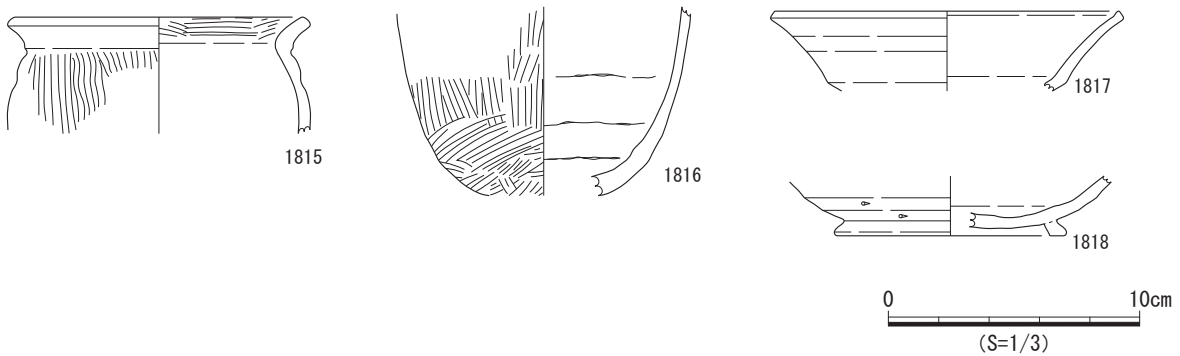


図 295 SK2474・SK2475・SK2478 遺構図・出土遺物実測図

規模・形状 平面形は不整形である。壁面は垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。底面でSK2482を検出した。なお、本遺構内でSK2482を検出したが、関連は不明である。

埋土 4層に分層した。いずれの層も炭化物を含む。1層から3層に焼土ブロックや基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。4層に礫を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器148点、須恵器18点、灰釉陶器12点、山茶碗3点、陶磁器17点、釘1点が散在して出土した。また、骨片を確認したことから、土坑墓の可能性はある。

出土遺物 土師器など4点を図示した。1821はC1類の土師器皿、1822は土師器の長胴甕である。1823は黒笹90号窯式併行に比定した篠岡産の灰釉陶器の碗である。1824は釘である。

時期 SD285との重複関係から、本遺構は15世紀中葉以降と考えられる。

SK2489 (図297)

検出状況 21地点LG16グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側の先端は

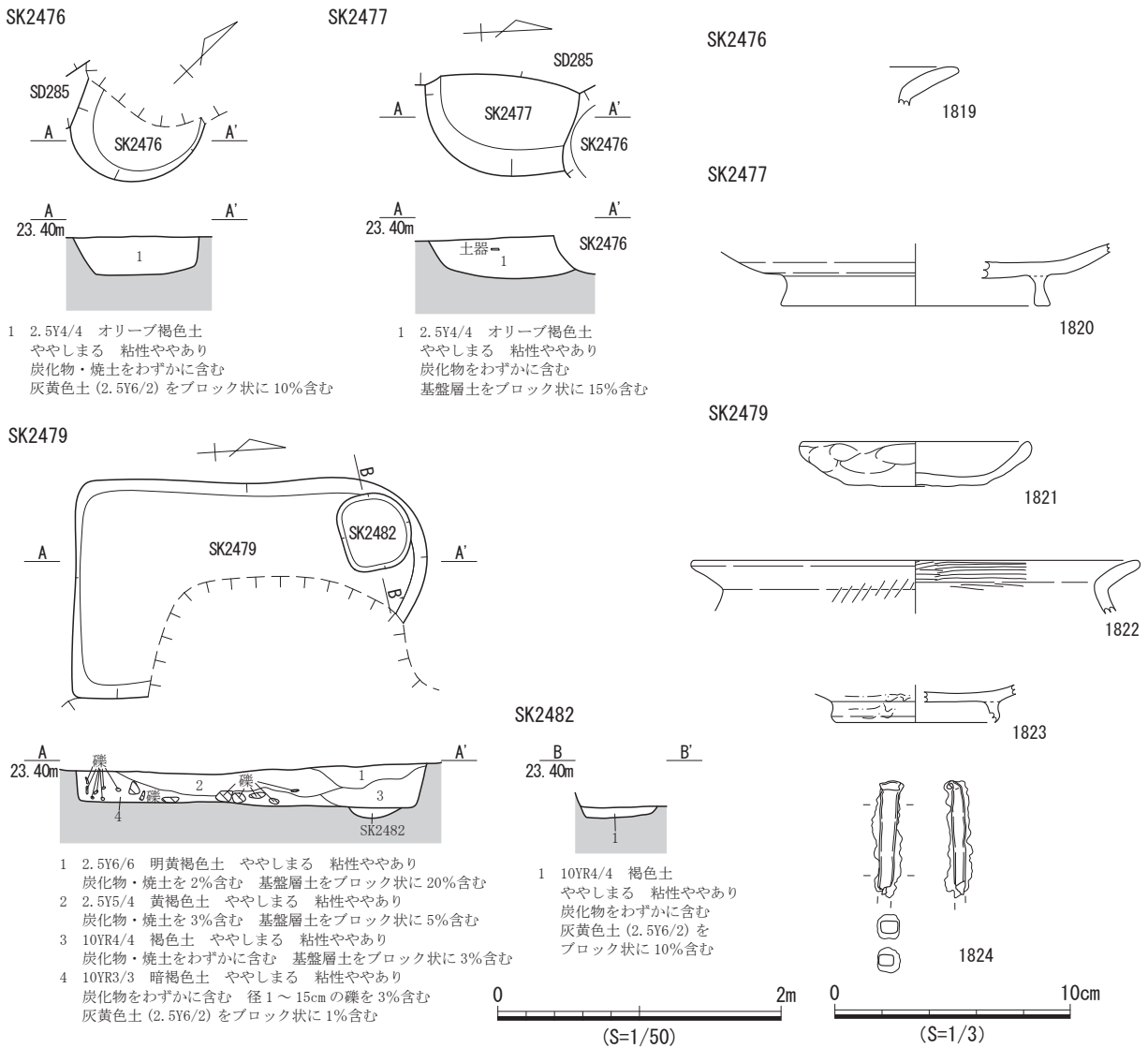


図296 SK2476・SK2477・SK2479 遺構図・出土遺物実測図

攪乱により消失する。西側でSK2492、遺構全体でSD284と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。壁面の傾斜は急で、底面は平坦である。

埋土 3層に分層した。埋土全体に炭化物を含む。3層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 中央やや北西側の1層上面からほぼ完形の土師器皿1点(1826)と半分に分かれた土師器皿1点(1825)が正位で、南東側からほぼ完形の土師器1点(1827)が逆位で出土した。対峙する位置で出土したことから、意図的に配置、埋納したと考えられ、土坑墓の可能性もある。その他に埋土中から土師器72点、須恵器2点、灰釉陶器1点、山茶碗3点、陶器3点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など4点を図示した。1825～1827はC1類の土師器皿である。1828は古瀬戸後II期の縁釉小皿である。

時期 図示した1828から、本遺構は14世紀末から15世紀初頭と考えられる。

SK2490 (図298・299)

検出状況 21地点LG16グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。南側の上端は攪乱により消失する。北側でSD284、西側でSK2492と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 平面形は方形である。壁面は北側では垂直に立ち上がる。底面は北側に向かって下がる。

埋土 6層に分層した。北壁面を中心とした3層で土器や径10cm以上の礫を多量に確認した。北壁面

SK2489

遺物出土状況図

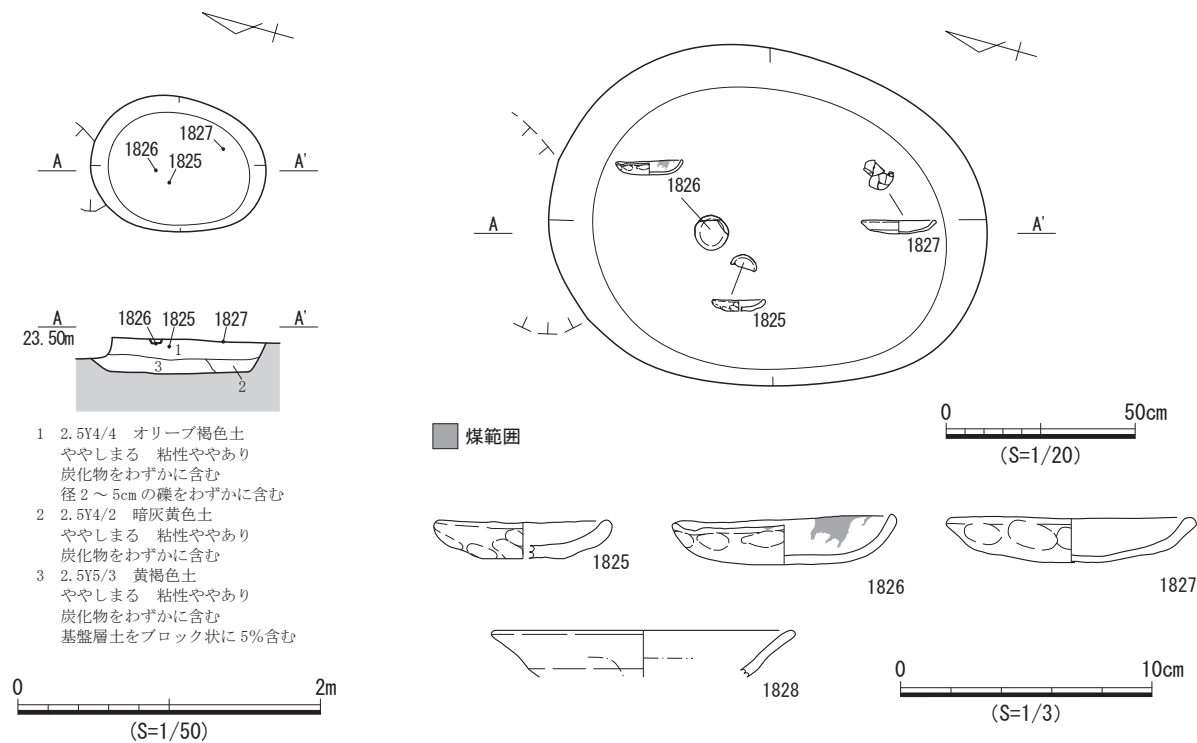


図297 SK2489 遺構図・出土遺物実測図

から中央にかけての6層で多量の礫を確認した。1～5層に炭化物を含む。多量の礫や土器を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 3層の礫の間から土師器皿(1829～1831)、古瀬戸四耳壺(1840)、常滑産壺(1842)などが出土した。これらを含め埋土中から土師器 223 点、須恵器 17 点、山茶碗 33 点、陶磁器 73 点、釘 1 点の他、骨片が散在して出土した。出土遺物から、土坑墓の可能性はある。

出土遺物 土師器など 15 点を図示した。1829～1831 は C 1 類の土師器皿である。1832 は A 2 類の羽釜である。1833 と 1834 は美濃須衛窯産の須恵器で、1833 は III 期後半～IV 期第 1 小期に比定した B 類の坏身、1834 は V 期第 1 小期に比定した甕である。1835 と 1836 は尾張型山茶碗で、1835 は第 5 型式の碗、1836 は第 10 型式の片口鉢である。1837 は窯洞 1 号窯式に比定した東濃型山茶碗である。1838～1840 は古瀬戸で、1840 は前 II c 期の四耳壺、1838 は後 I 期の折縁深皿、1839 は後 III 期の直縁大皿である。1841 と 1842 は 9 型式の常滑産陶器で、1841 は甕、1842 は壺である。1843 は釘である。

時期 図示した 1839 から、本遺構は 15 世紀前葉と考えられる。

SK2492 (図 300・301)

検出状況 21 地点 LG15～LH16 グリッド、IV b 層上面で検出した。北西側の上端が攪乱により消失する。南側で SK2494、東側で SK2489・SK2490・SD284 と重複する。本遺構は SK2489・SK2490 より古く、SK2494・SD284 より新しい。

規模・形状 平面形は南西部が突出する不整形である。壁面の傾斜は急であるが、南側と東側ではやや開く。底面で北に向かって上下 2 段のテラス状の平坦面を確認した。

埋土 11 層に分層した。11 層は下段のテラス面から底面にかけて薄く堆積する灰色土である。6 層や 10 層は壁際に堆積し、崩落土と考えられる。その他は概ね水平に堆積する。なお、3 層と 5 層は根痕と考えられる。

遺物出土状況 遺構東側中央の 8 層から銭貨 3 点(2 枚若しくは 3 枚が錆着、合計 7 枚、1857～1860)がまとまって出土した。埋土中から土師器 392 点、須恵器 51 点、灰釉陶器 13 点、山茶碗 79 点、陶器 33 点、金属製品 13 点(刀子 1 点、鉄鏃 1 点、釘 11 点)が散在して出土した。出土遺物から、土坑墓の可能性はある。

出土遺物 土師器など 17 点を図示した。1844 は M 4 類の土師器皿である。1845 と 1846 は灰釉陶器で、1845 は虎溪山 1 号窯式に比定した碗、1846 は丸石 2 号窯式に比定した皿である。1847 は大窯第 1 段階の播鉢である。1848 は 9 型式の常滑産の甕である。1849 は刀子で、関の部分で屈曲し、刃部は欠損する。1850 は鉄鏃で、篋被関の部分が残存する。1851～1856 は釘である。1857～1860 は銭貨である。1857 は「元豊通寶」(初鑄 1078 年)である。1858 は 2 枚が錆着する。「咸平通寶」(初鑄 998 年)と「元祐通寶」(初鑄 1086 年)である。1859 は 3 枚が錆着する。1 枚は「元祐通寶」(初鑄 1086 年)で、2 枚は判読できなかった。1860 は 2 枚が錆着する。銭種の判読はできなかった。このうち 1847 は上層からの出土で混入と考えられる。

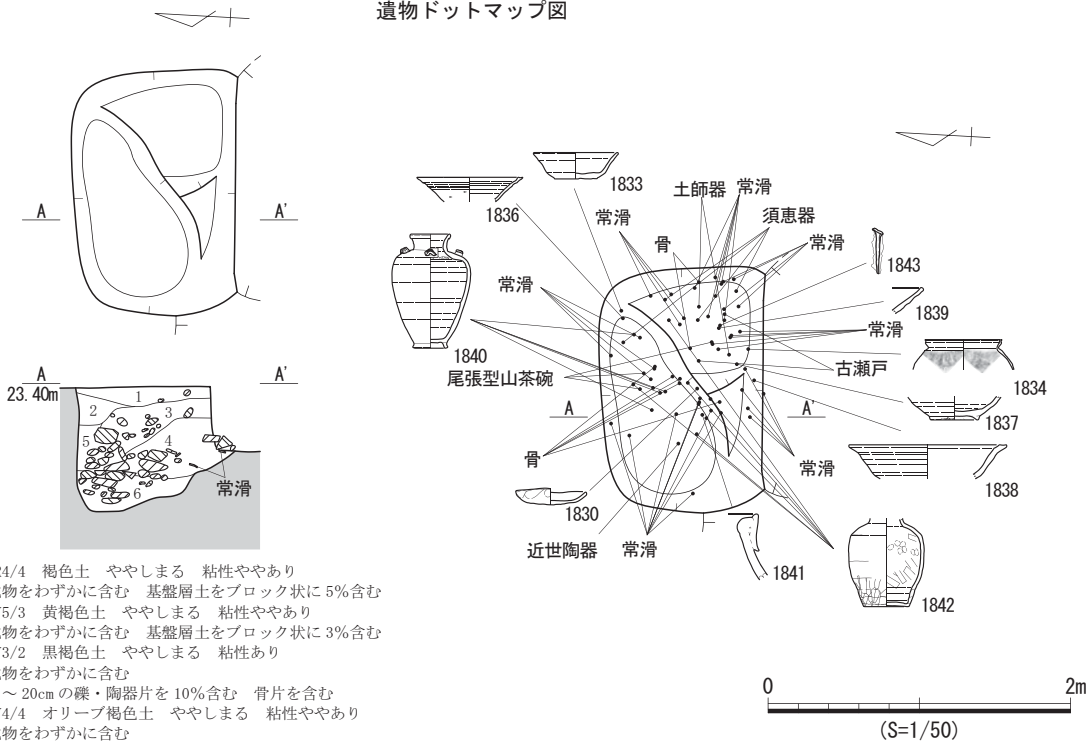
時期 SK2489・SK2490 との重複関係と図示した 1848 から、本遺構は 14 世紀末から 15 世紀初頭と考えられる。

SK2494 (図 300)

検出状況 21 地点 LG15～LH15 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。南側は

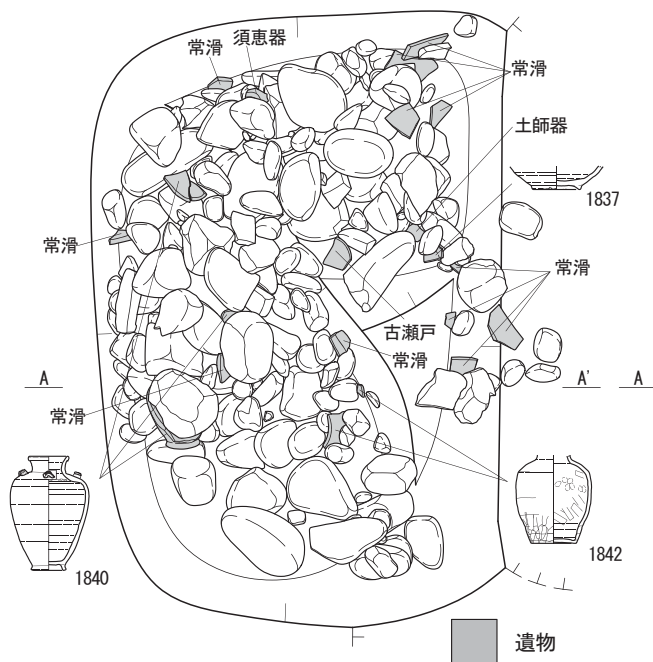
SK2490

遺物ドットマップ図



- 1 10YR4/4 褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に5%含む
- 2 2.5Y5/3 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に3%含む
- 3 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性あり
炭化物をわずかに含む
径5～20cmの礫・陶器片を10%含む 骨片を含む
- 4 2.5Y4/2 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む
灰黄色土(2.5Y6/2)をブロック状に3%含む
- 5 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性あり
炭化物をわずかに含む 石組裏込め
- 6 2.5Y6/2 灰黄色土 しまりなし 粘性あり
層全体に鉄分が沈着 径5～30cmの礫を10%含む

3層礫・遺物出土状況図



6層礫・遺物出土状況図

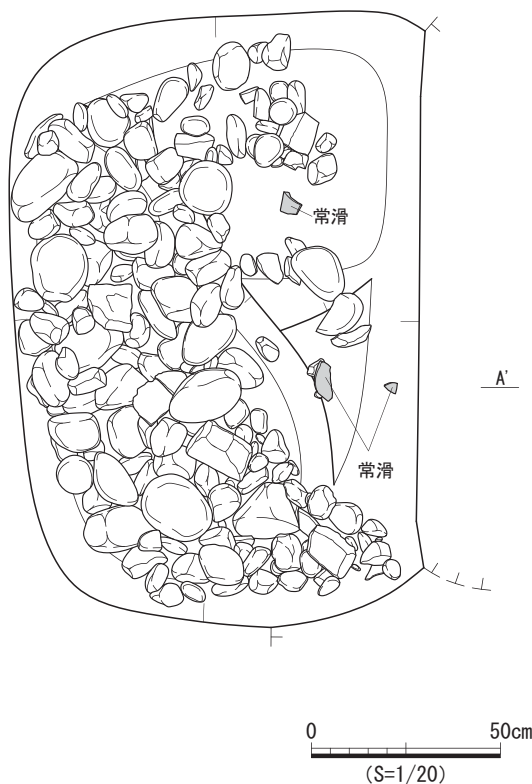


図 298 SK2490 遺構図

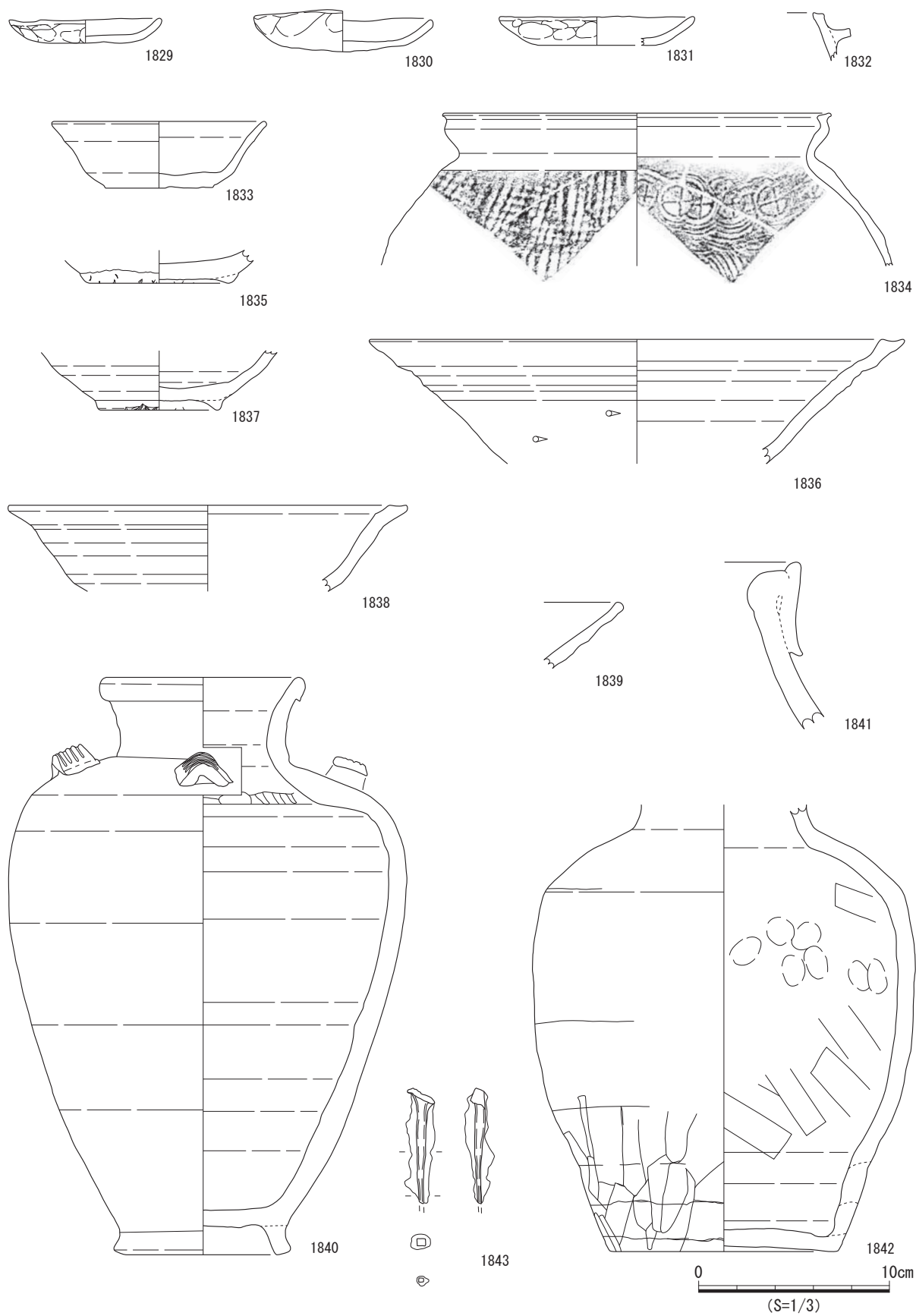


图 299 SK2490 出土遺物実測図

SK2492・SK2494

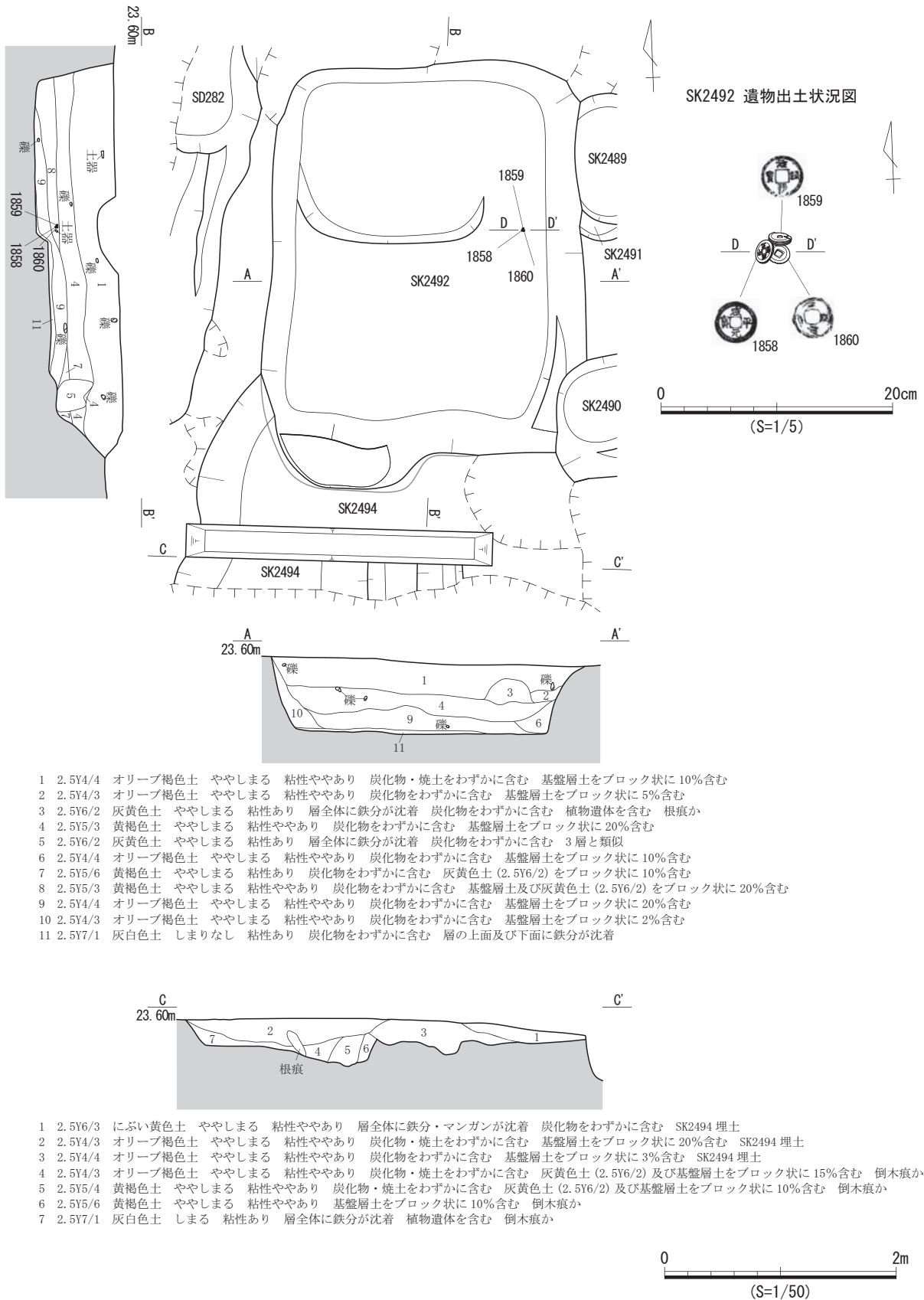


図 300 SK2492・SK2494 遺構図

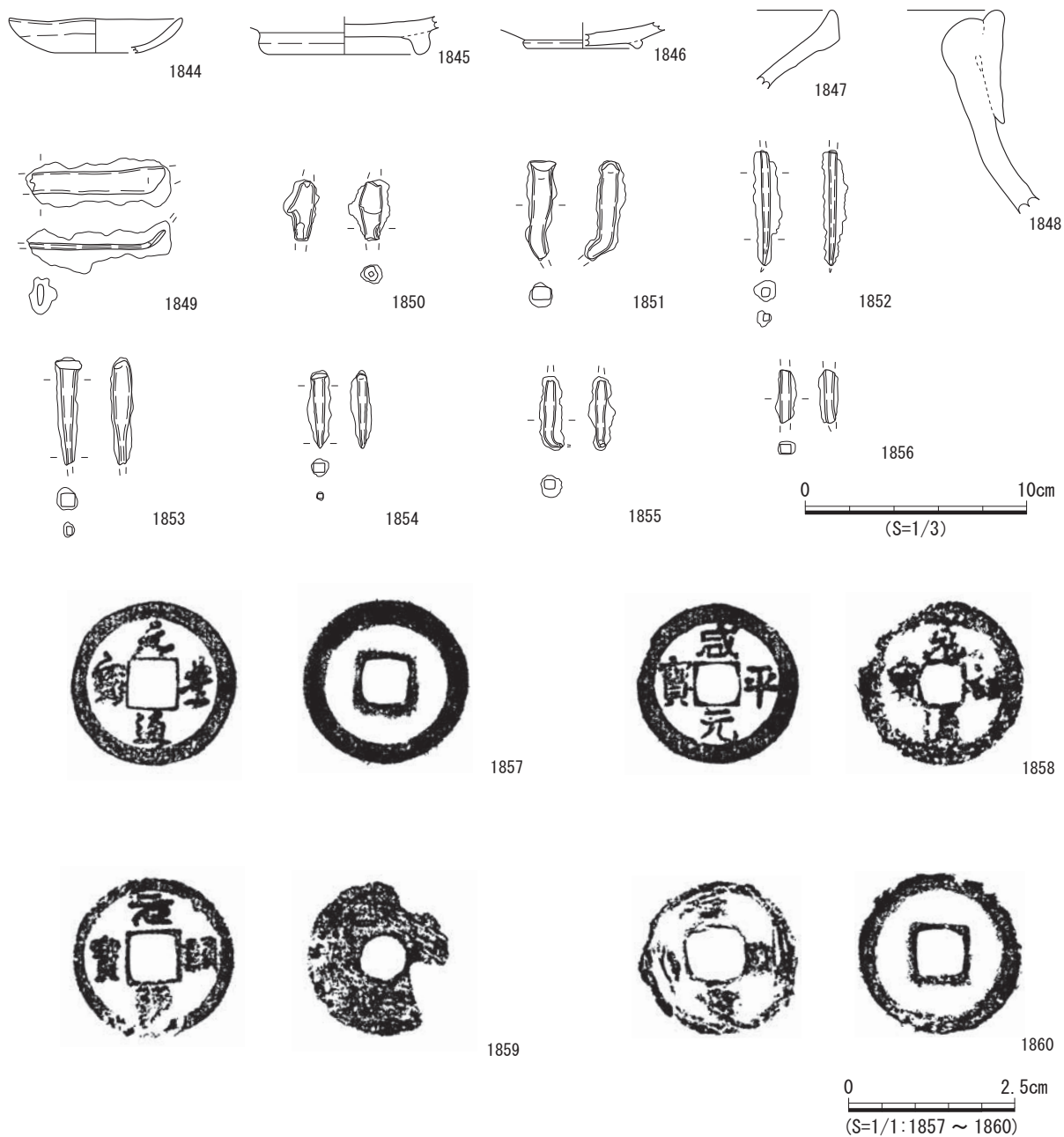


図 301 SK2492 出土遺物実測図

攪乱により消失する。また、東側と西側の上端は攪乱により消失する。北側でSK2492、東側でSD284と重複する。本遺構はSK2492より古く、SD284より新しい。

規模・形状 平面形は不明である。壁面の傾斜は緩やかに開く。底面は中央部に凹凸がある。

埋土 3層に分層した。埋土全体に炭化物を含む。2層と3層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から、土師器16点、須恵器6点、山茶碗5点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物がなかった

時期 SK2492・SD284 との重複関係から、本遺構は15世紀初頭と考えられる。

SK2497 (図 302)

検出状況 21 地点 LH16 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側で SK2498、西側で SK2495、南側で SA24-P 1・SA25-P 1、遺構全体で SD287 と重複する。本遺構は SA24・SK2495 より古く、SA25・SK2498・SD287 より新しい。

規模・形状 平面形は隅丸正方形である。壁面は東側ではほぼ垂直に立ち上がり、南北側では上部に向かって傾斜が急になる。底面は概ね平坦である。西側にテラス状の平坦面をもつ。

埋土 2層に分層した。埋土全体に炭化物と基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 153 点、須恵器 36 点、灰釉陶器 8 点、山茶碗 27 点、陶器 5 点、金属製品 4 点（釘 1 点、鉄滓 1 点、種別不明 2 点）が散在して出土した。出土遺物や規模・形状から、土坑墓の可能性はある。

出土遺物 土師器など 3 点を図示した。1861 は C 1 類の土師器皿である。1862 は釘、1863 は鉄滓である。

時期 大畑大洞 4 号窯式古段階に比定した東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構は 13 世紀末から 14 世紀初頭と考えられる。

SK2498 (図 302)

検出状況 21 地点 LH16 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。西側は攪乱により消失する。南側で SK2497、東側で SD285・SD287 と重複する。本遺構は SK2497 より古く、SD285・SD287 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面の傾斜はやや急である。底面は概ね平坦であるが、西側に向かってやや高くなっていく。

埋土 2層に分層した。1層は遺構の西側、2層は遺構の東側に堆積する。埋土全体に炭化物や基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 28 点、須恵器 5 点、灰釉陶器 4 点、常滑産の甕 1 点、金属製品 1 点（種別不明）が散在して出土したが、いずれも小片であった。出土遺物や規模・形状から、土坑墓の可能性はある。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2497 との重複関係から、本遺構は 13 世紀末から 14 世紀初頭と考えられる。

SK2500 (図 302)

検出状況 21 地点 LH16 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。上端は攪乱により消失する。北側で SK2490 と重複する。本遺構は SK2490 より古い。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整長方形と考えられる。壁面の傾斜は北側ではやや急で、南側ではやや緩やかに開く。底面は概ね平坦である。

埋土 7層に分層した。1層～3層は倒木痕と考えられる。5層～7層に炭化物やブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 49 点、須恵器 17 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 6 点、陶器 5 点、釘 1 点が散在して出土した。出土遺物や規模・形状から土坑墓の可能性はある。

出土遺物 釘(1864) 1 点を図示した。

時期 大畑大洞 4 号窯式古段階に比定した東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構は 13 世紀末から 14 世紀初頭と考えられる。

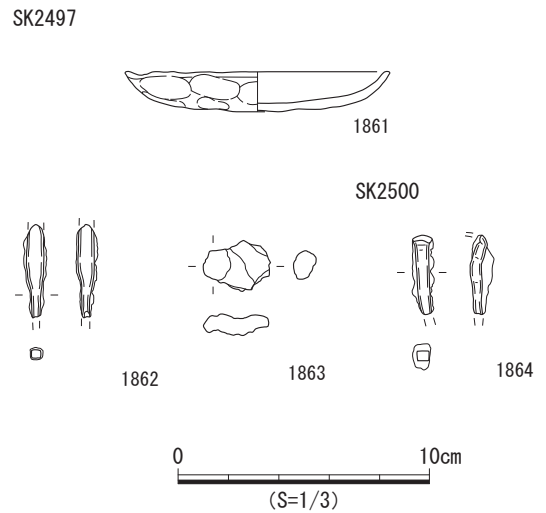
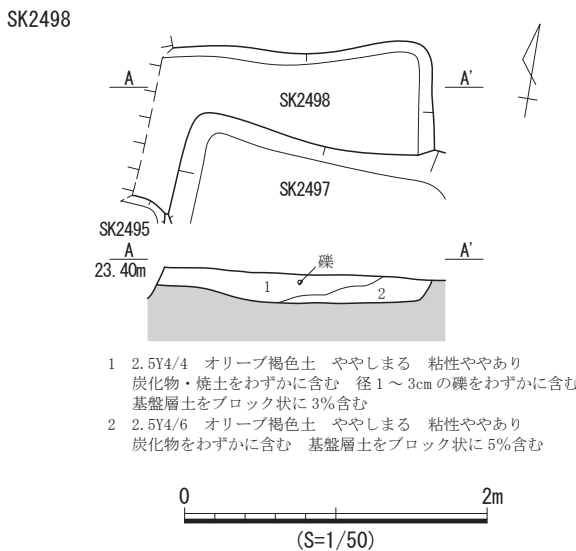
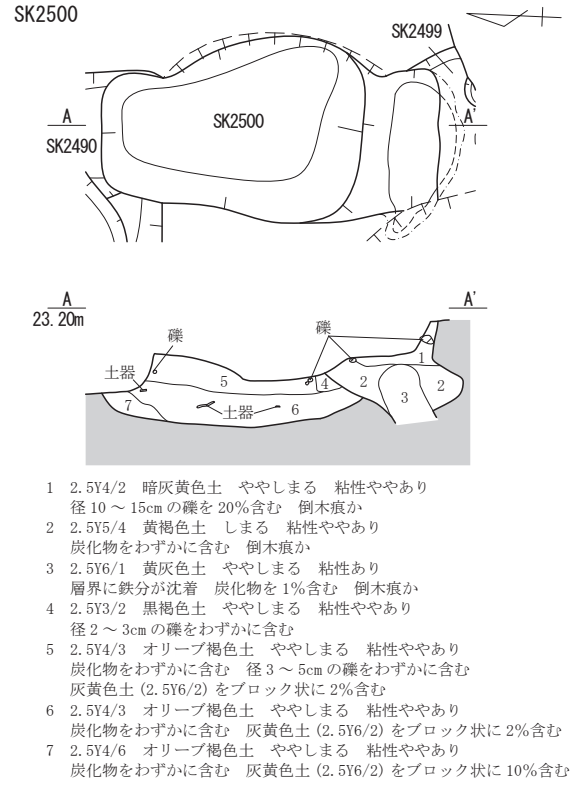
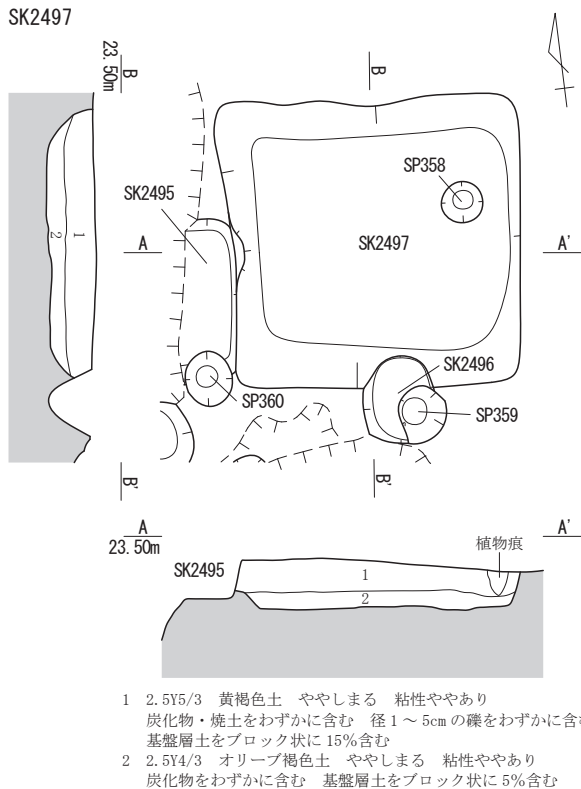


図 302 SK2497・SK2498・SK2500 遺構図・出土遺物実測図

SK2507 (図 303)

検出状況 21 地点 LH17~18 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。南東側と南西側は攪乱により消失し、北東側は発掘区外に続く。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整形形と考えられる。壁面は南側と西側ではほぼ垂直に立ち上がるが、北側では傾斜が緩やかである。遺構の中央に方形とみられる窪みがあり、底面は平坦で、北側と南側にテラス状の平坦面をもつ。

埋土 7層に分層した。1層は遺構全体の上部に堆積し、炭化物を含む層である。5層は4層と6層の間で炭化物を大量に含む堆積である。4層と6層は基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。2層は3層堆積後に掘り込まれた可能性がある。

遺物出土状況 埋土中から土師器 62 点、須恵器 35 点、山茶碗 11 点、陶器 1 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 第5型式の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は12世紀後葉から13世紀初頭と考えられる。

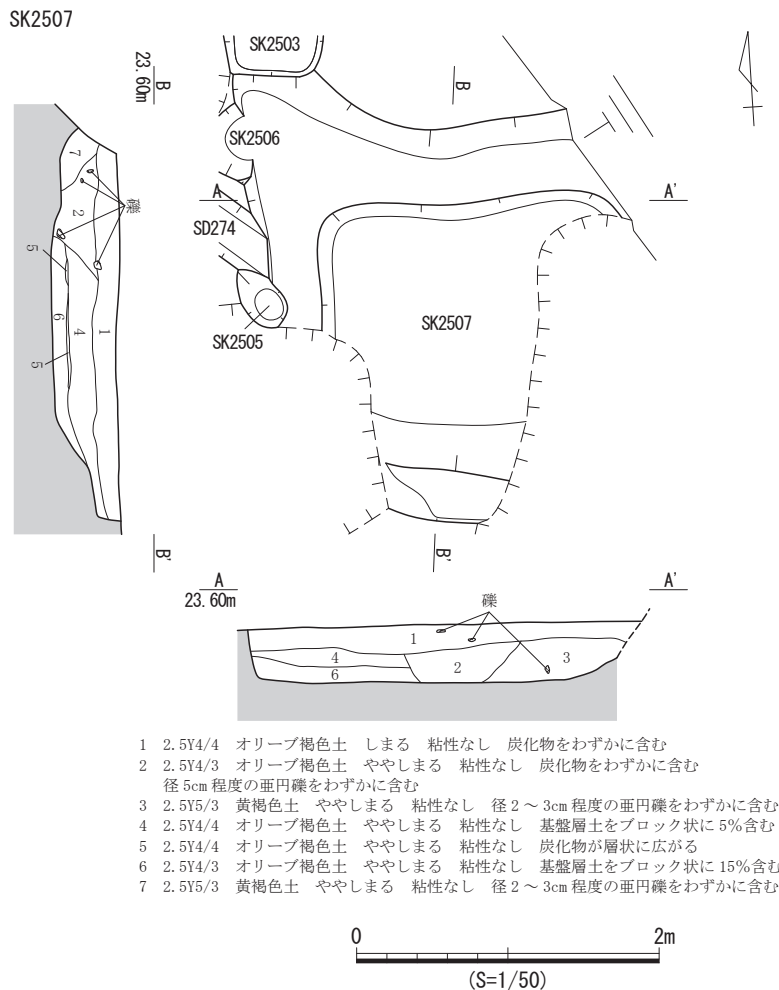


図 303 SK2507 遺構図

SK2517 (図 304)

検出状況 21 地点 LH17 グリッド、IV b 層上面で検出した。南側で SK2519 と重複する。本遺構は SK2519 より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。壁面の傾斜は急で、底面は概ね平坦である。

埋土 3 層に分層した。埋土全体に炭化物を含む。1 層と 3 層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 1 層から口縁部を下に向けた S 字甕 1 点(1865)と鉄鏃 1 点(1866)が出土した。その他に埋土中から土師器 23 点、鉄鏃 1 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など 2 点を図示した。1865 は廻間 II 式の S 字甕 B 類である。1866 は平根鏃で、軸部が欠損する。

時期 図示した 1865 から、本遺構は 3 世紀中葉から末と考えられる。

SK2519 (図 305)

検出状況 21 地点 LH17 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側で SK2517 と重複する。本遺構は SK2517 より古い。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面の傾斜は急で、底面がやや窪む。

埋土 4 層に分層した。埋土全体に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。1 層と 4 層に炭化物や焼土粒を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 7 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器 1 点を図示した。1867 はつまみ上げ口縁をもつ丸底甕で、1 層からの出土であることから混入と考えられる。

時期 SK2517 との重複関係から、本遺構は 3 世紀末以前と考えられる。

SK2538 (図 305)

検出状況 21 地点 LI16 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北西側は攪乱により消失する。東側で SD285、遺構全体で SD287 と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整円形と考えられる。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

埋土 2 層に分層した。1 層は炭化物や焼土をわずかに含み、基盤層のブロック土を多く含むことから、人為堆積と考えられる。2 層は東壁面付近に斜めに堆積し、ブロック土を含むことから、崩落土と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 14 点、須恵器 5 点、山茶碗 2 点、常滑産陶器 2 点、鉄滓 1 点が散在して出土した。

出土遺物 須恵器 1 点を図示した。1868 は美濃須衛窯 V 期第 1 小期に比定した坏身 B 類で、底部外面に直線的な線刻が施される。

時期 SD285 との重複関係から、本遺構は 15 世紀中葉以降と考えられる。

SK2539 (図 305)

検出状況 21 地点 LI16 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側で SD287、東側で SD285 と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

SK2517

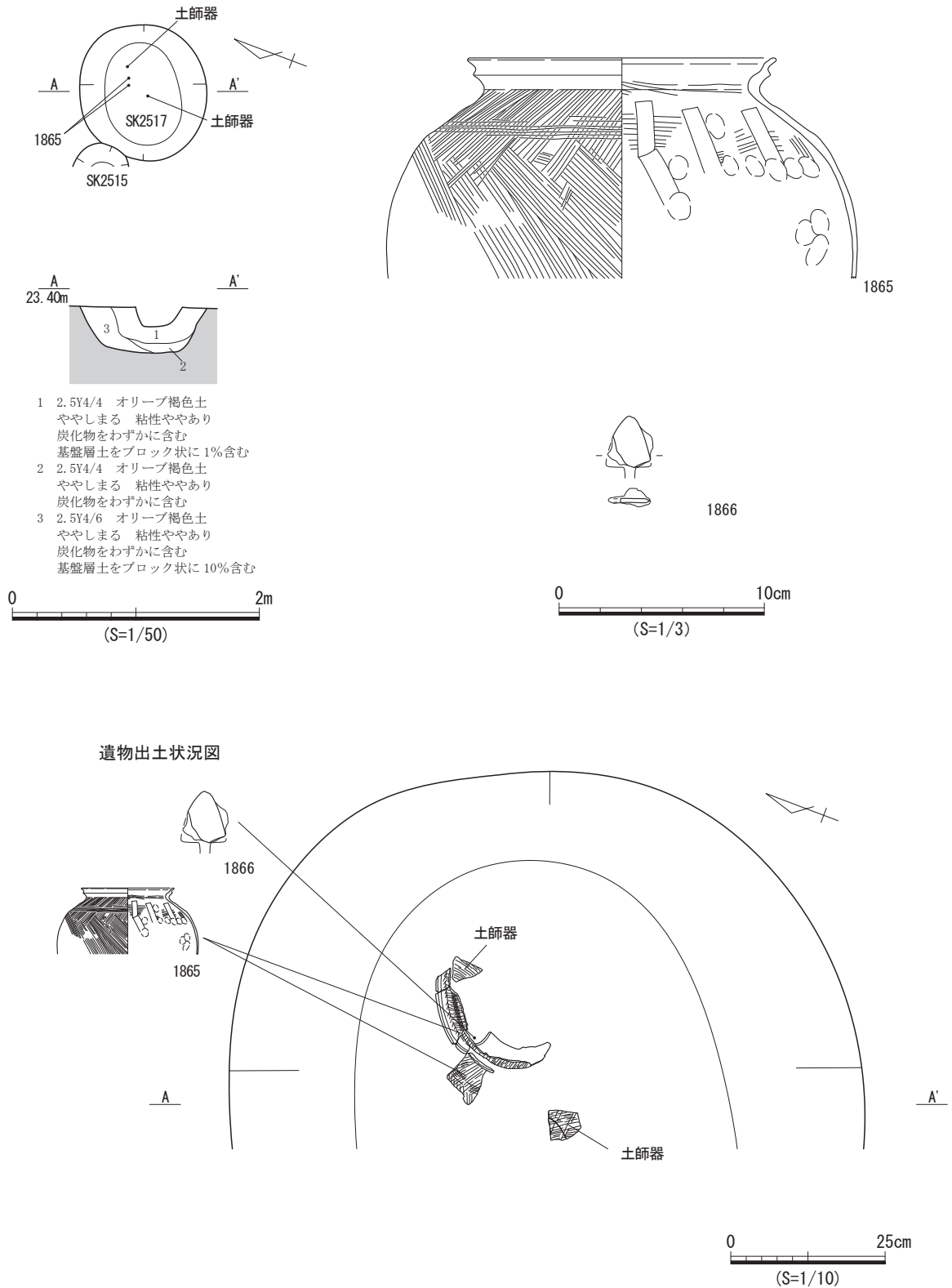


図 304 SK2517 遺構図・出土遺物実測図

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面は垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

埋土 単層の埋土である。炭化物や基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 57 点、須恵器 11 点、山茶碗 21 点、陶器 2 点、釘 2 点が散在して出土した。出土遺物や規模・形状から土坑墓の可能性はある。

出土遺物 釘 1 点(1869)を図示した。

時期 SD285 との重複関係から、本遺構は 15 世紀中葉以降と考えられる。

SK2550 (図 305)

検出状況 21 地点 LI15 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側で SK2551 と重複する。本遺構は SK2551 より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。壁面は垂直に立ち上がり、底面はやや丸みを帯びる。

埋土 3 層に分層した。水平に堆積し、ブロック土を含む。1 層と 2 層に炭化物を含む。2 層で被熱した扁平な亜円礫 2 点、径 20cm ほどの亜円礫 1 点を確認した。

遺物出土状況 埋土中から土師器 5 点、須恵器 1 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2551 との重複関係から、本遺構は 13 世紀初頭以降と考えられる。

SK2551 (図 305)

検出状況 21 地点 LI15 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側と南東側は攪乱により消失する。西側で SK2550、南側で SI 6・SK2558 と重複する。本遺構は SK2550 より古く、SI 6・SK2558 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整長方形と考えられる。西壁面の傾斜はやや緩やかで、底面はわずかに丸みを帯びる。

埋土 8 層に分層した。2 層と 3 層を除くすべての層にブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。1 層～6 層は 7 層と 8 層を掘り込んでいると考えられる。堆積状況から 7 層と 8 層は重複する別遺構の埋土の可能性はある。

遺物出土状況 埋土中から土師器 25 点、須恵器 6 点、灰釉陶器 3 点、山茶碗 5 点が散在して出土した。

出土遺物 須恵器 1 点を図示した。1870 は美濃須衛窯Ⅲ期前半に比定した坏身 A 類である。

時期 SI 6・SK2550 との重複関係と第 6 型式の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は 13 世紀初頭から中葉と考えられる。

SK2558 (図 306)

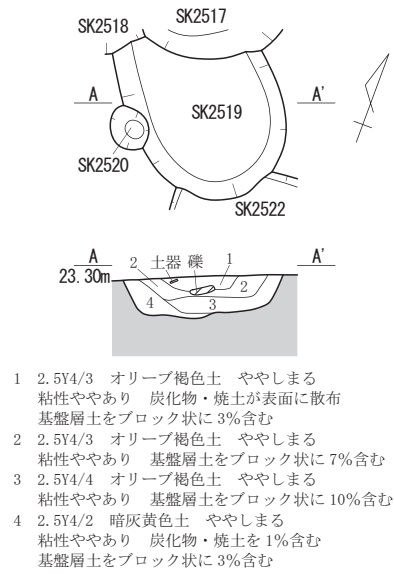
検出状況 21 地点 LI15 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。東側は攪乱により消失する。北側で SK2551、西側で SI 6 と重複する。本遺構は SK2551 より古く、SI 6 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整長方形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかである。底面は概ね平坦であるが、南側でわずかに下がる。

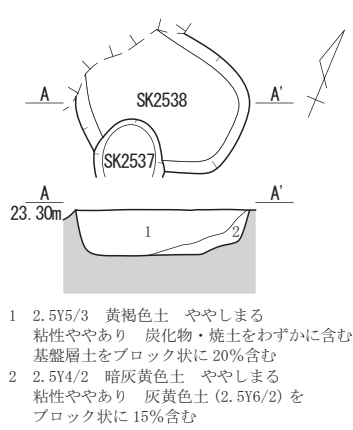
埋土 2 層に分層した。埋土全体に炭化物を含む。1 層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 7 点、須恵器 1 点、山茶碗 2 点が散在して出土したが、いずれも小

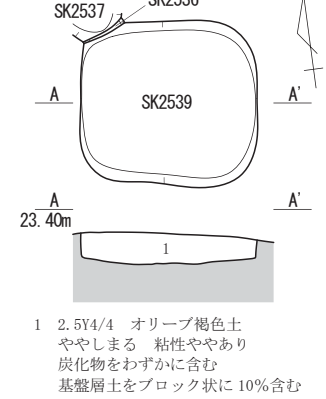
SK2519



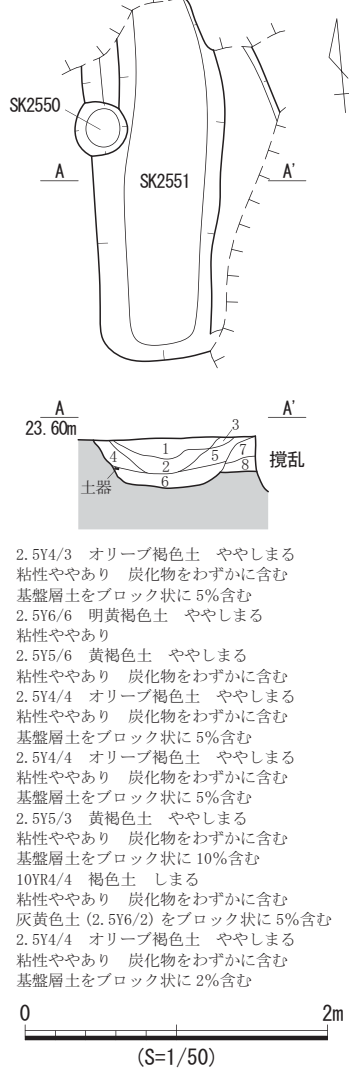
SK2538



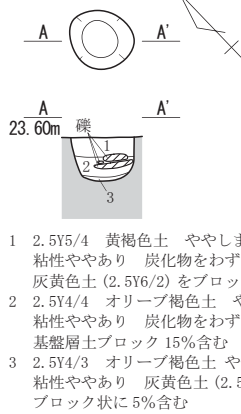
SK2539



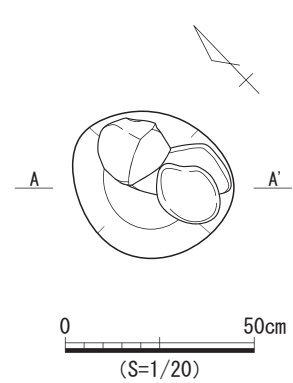
SK2551



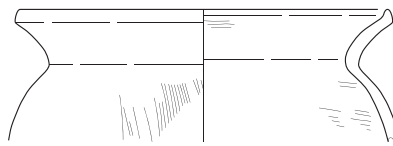
SK2550



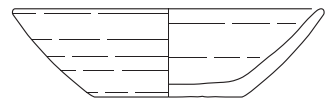
SK2550 礫出土状況図



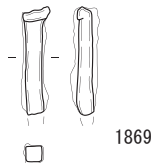
SK2519



SK2538



SK2539



SK2551

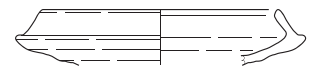


図 305 SK2519・SK2538・SK2539・SK2550・SK2551 遺構図・出土遺物実測図

片であった。

遺物出土状況 中央部の1層から石臼(1872)が出土した。その他に埋土中から土師器6点、須恵器1点、山茶碗2点、石臼1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など2点を図示した。1871はS字甕B類のミニチュアである。1872は石臼(下臼)である。

時期 SI 6・SK2551 との重複関係から、本遺構は12世紀中葉から13世紀後葉と考えられる。

SK2555 (図 307)

検出状況 21 地点 LJ16 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北西側は攪乱

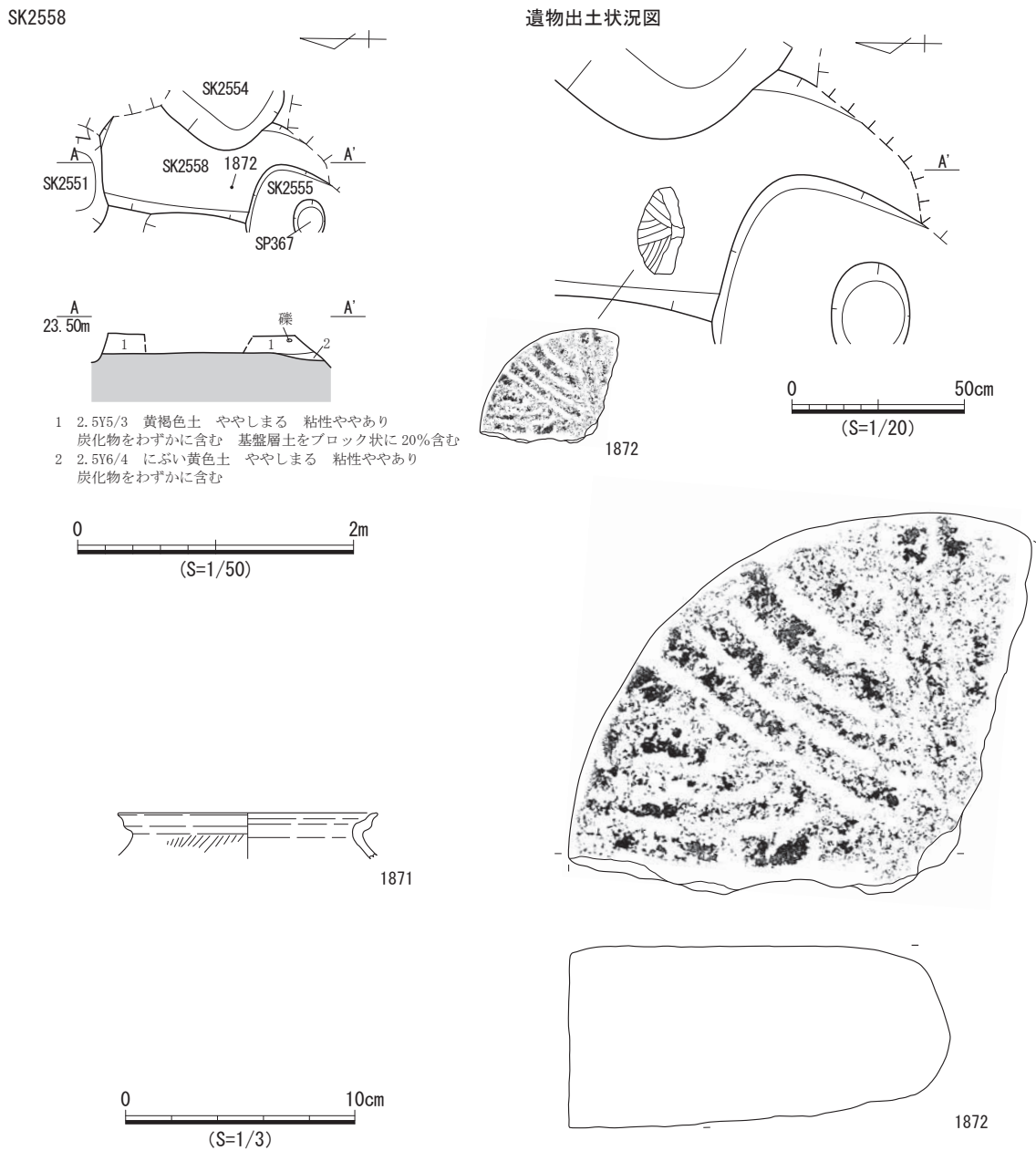


図 306 SK2558 遺構図・出土遺物実測図

により消失する。北側でSD287、西側でSD284・SD286、東側でSL12、遺構中央でSD283と重複する。本遺構はSD283・SD284・SD286・SD287より古く、SL12より新しい。

規模・形状 重複により壁面は残存せず、平面形は不明である。底面は概ね平坦である。

埋土 6層に分層した。多くの層にブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器30点、灰釉陶器1点、山茶碗1点が散在して出土した。特に北側からの出土が多い。なお、山茶碗は上層からの出土で混入と考えられる。

出土遺物 灰釉陶器1点を図示した。1873は大原2号窯式～虎溪山1号窯式に比定した灰釉陶器の碗である。

時期 図示した1873から、本遺構は10世紀前葉から11世紀初頭と考えられる。

SK2575 (図307)

検出状況 21地点LK17グリッド、IVb層上面で検出した。東側は攪乱により消失する。南側は発掘区外に続く。北側でSD283、西側でSI14・SP381と重複する。底面でSP382を検出した。本遺構はSI14・SP381・SD283より古く、SP382より新しい。

規模・形状 重複により壁面は残存せず、平面形は不明である。底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。2層は底面に薄く堆積する。1層と2層に炭化物や基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器6点、須恵器9点が散在して出土した。

出土遺物 須恵器1点を図示した。1874は美濃須衛窯IV期第3小期～V期第1小期に比定した坏身B類である。

時期 図示した1874から、本遺構は8世紀後葉から9世紀後葉と考えられる。

SK2578 (図308)

検出状況 21地点LJ17グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北西側と南東側は攪乱により消失する。底面でSK2579を検出した。本遺構はSK2579より新しいが、SK2578の2層・3層とSK2579の1層は似ることから、同一の遺構であった可能性がある。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面の傾斜は急である。底面は、概ね平坦であるが、南側でわずかに上がる。

埋土 3層に分層した。埋土全体に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器164点、須恵器16点、灰釉陶器1点、山茶碗46点、青磁2点、金属製品2点（釘、鉄滓）が散在して出土した。出土遺物や規模・形状から土坑墓の可能性がある。

出土遺物 土師器など2点を図示した。1875はM3類の土師器皿である。1876は釘である。

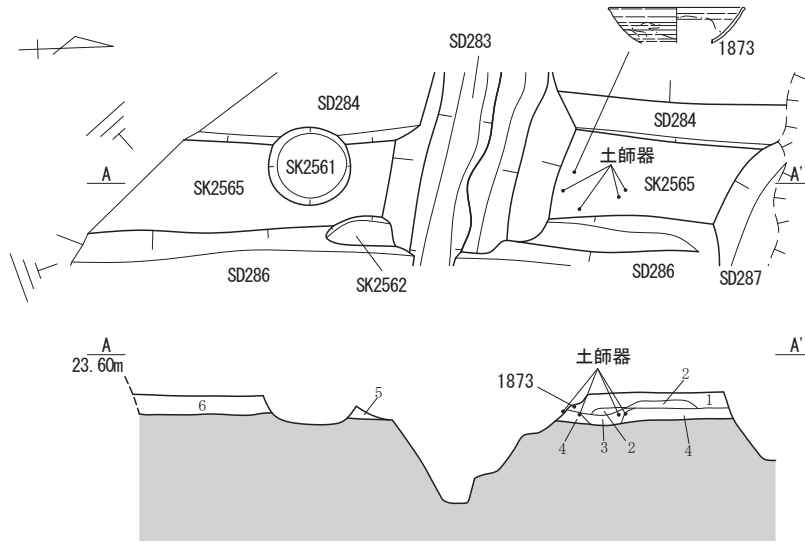
時期 図示した1875と龍泉窯系I-4a類の青磁碗が出土したことから、本遺構は12世紀後葉から13世紀中葉と考えられる。

SK2579 (図308)

検出状況 21地点LJ17グリッド、SK2578底面で検出した。平面形は明瞭であった。北西側と南東側は攪乱により消失する。本遺構はSK2578より古い、SK2578と同一遺構であった可能性がある。

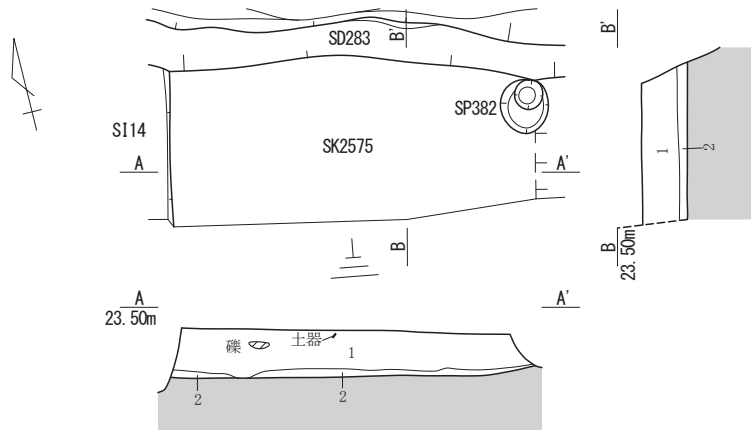
規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面の傾斜は南側では急で、北側ではほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

SK2565

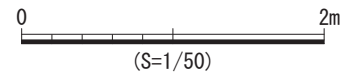


- 1 10YR4/4 褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物・焼土をわずかに含む
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性なし 炭化物をわずかに含む 礫砂を層状に含む 基盤層土をブロック状に2%含む
- 3 2.5Y5/4 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 基盤層土をブロック状に3%含む
- 4 2.5Y5/6 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物をわずかに含む オリーブ褐色土 (2.5Y4/3) をブロック状に3%含む
- 5 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性なし 炭化物をわずかに含む 礫砂を層状に含む 基盤層土をブロック状に2%含む
- 6 10YR4/4 褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物・焼土をわずかに含む

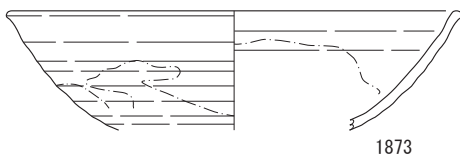
SK2575



- 1 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物・焼土をわずかに含む 基盤層土をブロック状に5%含む
- 2 2.5Y5/6 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に15%含む



SK2565



SK2575

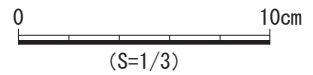
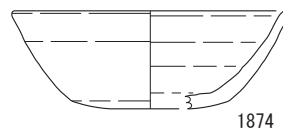


図 307 SK2565・SK2575 遺構図・出土遺物実測図

埋土 4層に分層した。3層と4層はそれぞれ南側と北側の壁面付近に三角堆積し、崩落土と考えられる。1層と2層はともに基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器10点、須恵器5点、常滑産陶器1点、楔形鉄製品1点が散在して出土した。出土遺物や規模・形状から土坑墓である可能性がある。

出土遺物 楔形鉄製品1点を図示した。1877は扁平で端部が細い。

時期 SK2578と重複する別遺構とすると、SK2578との重複関係から、本遺構は13世紀中葉以前と考えられる。SK2578と同一遺構とすると、本遺構は12世紀後葉から13世紀中葉と考えられる。

SK2587 (図 308)

検出状況 21地点 LH18～LI18 グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。東側は攪乱により消失する。西側でSI5と重複する。本遺構はSI5より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土 6層に分層した。埋土全体にブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。多くの層に炭化物や焼土粒を含む。

遺物出土状況 1層からほぼ完形の大窯の耳付水注1点(1878)が正位で出土した。その他に埋土中から土師器37点、須恵器9点、山茶碗8点が散在して出土した。

出土遺物 大窯製品1点を図示した。1878は大窯第2段階～第3段階の耳付水柱である。

時期 図示した1878から、本遺構は16世紀前葉から後葉と考えられる。

SK2591 (図 309・310)

検出状況 21地点 LI17～LJ18 グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側でSI11、南側でSI10・SI13と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 平面形は不整隅丸方形の土坑部分に、土坑部分の南東隅から南に延びる溝状遺構が付属する。土坑部分の壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦であるが、テラス状の平坦面をもつ。溝状遺構部は土坑部の南東端から南東に向かい3mほど延び、東に屈曲し0.6m延びたところで収束する。屈曲部は不整形形状に広がる。D-D'断面付近では壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

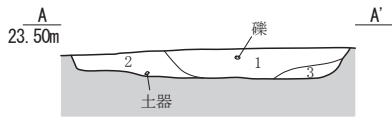
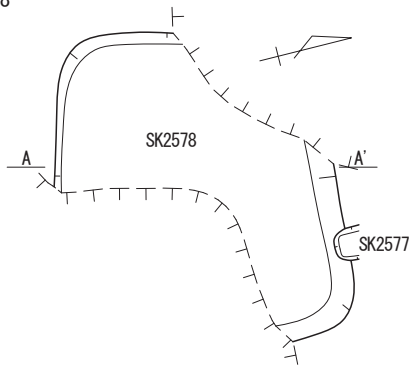
埋土 土坑部分は14層に分層した。1層～5層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。14層は滞水による自然堆積と考えられ、土坑内に水がためられていた可能性がある。溝状遺構部分は南東部の広がった部分で6層に分層した。1層は土坑部分の1層に対応する。また、底面近くで径75cmの垂円礫を確認した。

遺物出土状況 土坑部分の南東側で木製の杭(1886)が底面にささった状態で出土した。その他に埋土中から土師器346点、須恵器104点、灰釉陶器14点、山茶碗144点、陶磁器60点、砥石2点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など8点を図示した。1880はM2類、1879はM4類の土師器皿である。1881は美濃須衛窯V期第1小期に比定した碗である。1882は第6型式の尾張型山茶碗である。1883と1884は古瀬戸で、1883は後I期～後II期の燭台、1884は後IV期古段階の中皿である。1885は砥石である。1886は杭である。モモ材を加工した杭で、枝を払った痕跡が認められる。

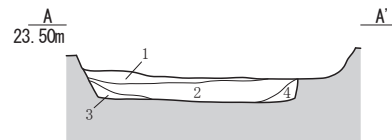
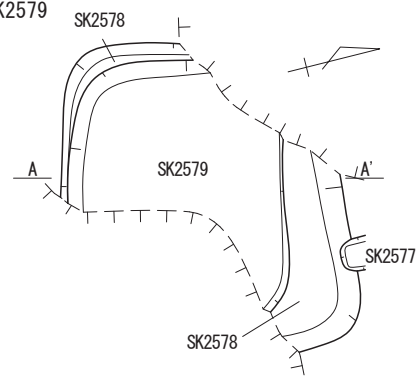
時期 図示した1884から、本遺構は15世紀中葉と考えられる。

SK2578



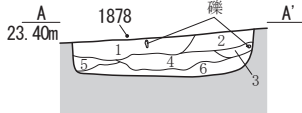
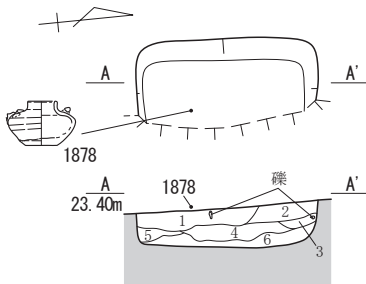
- 1 2.5Y5/3 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物を1%含む 径2~3cmの礫をわずかに含む
基盤層土をブロック状に10%含む
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に5%含む
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に5%含む

SK2579

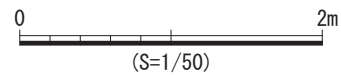


- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に2%含む
- 2 2.5Y5/3 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に20%含む
- 3 2.5Y5/4 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
上面に鉄分が沈着
- 4 2.5Y6/6 明黄褐色土 ややしまる 粘性なし
オリーブ褐色土 (2.5Y4/3) をブロック状に10%含む

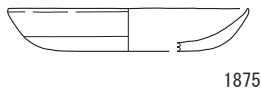
SK2587



- 1 2.5Y5/3 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土をわずかに含む
にぶい黄色土 (2.5Y6/4) をブロック状に3%含む
- 2 2.5Y5/3 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土をわずかに含む
にぶい黄色土 (2.5Y6/4) をブロック状に10%含む
- 3 2.5Y5/3 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土をわずかに含む
にぶい黄色土 (2.5Y6/4) をブロック状に5%含む
- 4 2.5Y5/4 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土をわずかに含む
にぶい黄色土 (2.5Y6/4) 及び基盤層土をブロック状に20%含む
- 5 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
基盤層土をブロック状に5%含む
- 6 2.5Y5/4 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に20%含む



SK2578



1875



1876



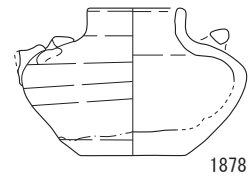
SK2579



1877



SK2587



1878

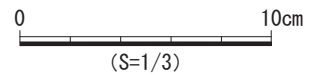


図 308 SK2578・SK2579・SK2587 遺構図・出土遺物実測図

SK2591

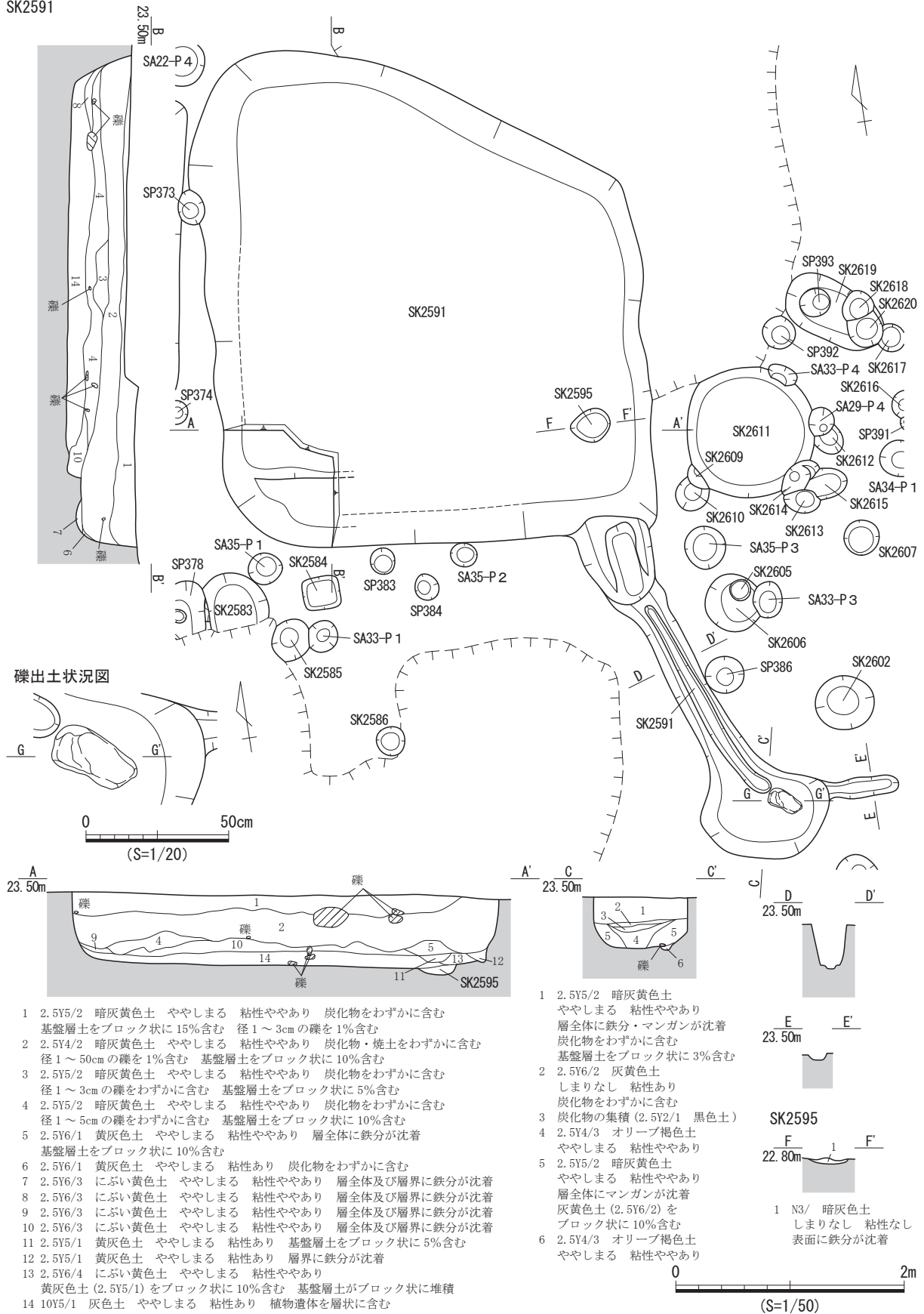


図 309 SK2591 遺構図

SK2596 (図 311)

検出状況 21 地点 LJ18~LK18 グリッド、IV b 層上面で検出した。周囲は攪乱や重複により消失する。平面形は不明瞭であった。北側で SI10・SK2591、南側で SI13・SD283 と重複する。底面で SK2598 を検出した。SK2598 は出土遺物から本遺構の上面から掘り込まれたことを確認した。本遺構は SK2591・SK2598・SD283 より古く、SI10・SI13 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整楕円形と考えられる。底面はわずかに丸みを帯びる。

埋土 3層に分層した。埋土全体にブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 ほぼ中央の底面付近で、角皿 13 点が出土したが、直下の SK2598 出土の角皿の破片と同一であると確認したため、SK2598 の帰属とした。その他に埋土中から土師器 10 点、須恵器 11 点、山茶碗 4 点、陶磁器 21 点が散在して出土した。

遺物出土状況 埋土中から土師器 7 点、須恵器 11 点、山茶碗 4 点、陶器 17 点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗など 2 点を図示した。1887 は第 3 型式の尾張型山茶碗である。1888 は古瀬戸後 IV 期古段階の口広有耳壺である。

時期 図示した 1888 から、本遺構は 15 世紀中葉と考えられる。

SK2598 (図 311~313)

検出状況 21 地点 LJ18 グリッド、SK2596 底面で検出したが、出土遺物から SK2596 上面からの掘り込みであることを確認した。平面形は不明瞭であった。南側で SI13 と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は円形と考えられる。壁面の傾斜は急で、底面は平坦である。

埋土 単層の埋土である。基盤層のブロック土を含むことや遺物の出土状況から、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 本遺構の直上 SK2596 内で確認した角皿(1889~1901)と埋土中から出土した角皿の破

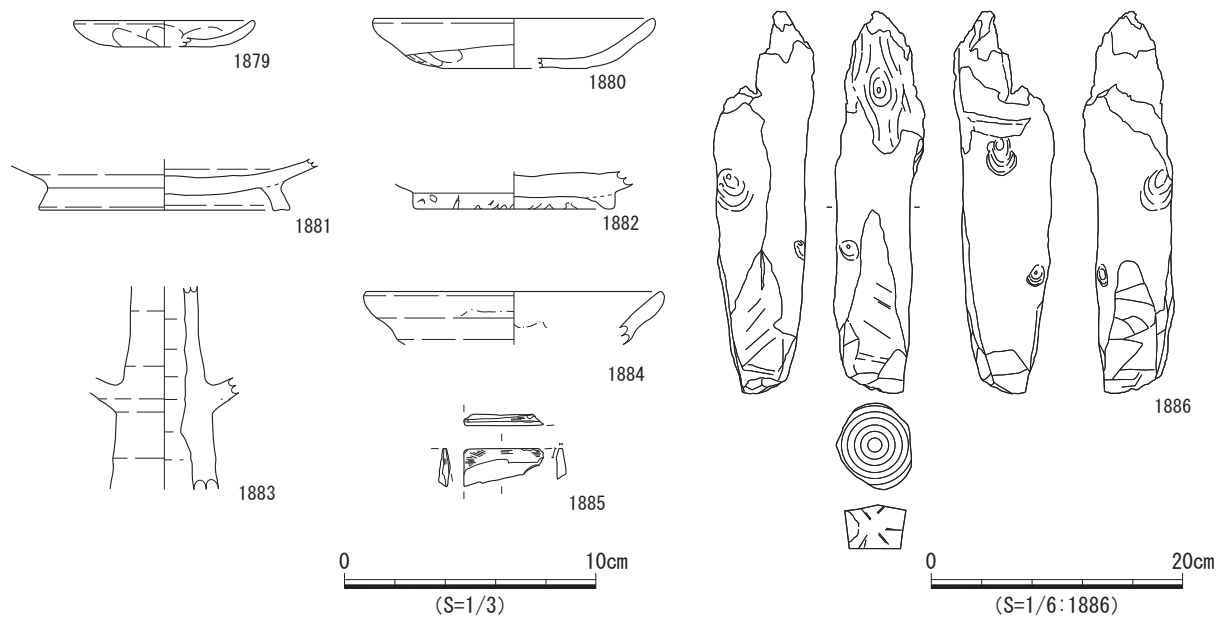


図 310 SK2591 出土遺物実測図

片(1902)が同一規格であると確認したため、本遺構の遺物とした。ほぼ完形の角皿13点(1889～1901)が中央で重なった状態で逆位で出土した。埋納したものと考えられる。

出土遺物 陶器14点を図示した。1889～1902は角皿で、内外面に錆釉が施される。外形は四隅を切り欠いた隅丸方形で、内面見込みは型打ちにより円形に打ち出される。隅丸方形の扁平な縁部にロクロ目が確認できることから、ロクロにより円形の円盤を作成後に型打ちし、四隅を切り欠いたと考えられる。外面底部は方形で、縁部付近の上部は円形である。底部外面には輪ドチ痕が確認できる。型打ちの成形技法や複数の揃いの皿がいわゆる銘々皿のようなセットとなすことから、近世から近代までの時期が想定される。生産遺跡において類例が確認できず、詳細な時期は不明である。

時期 図示した1889～1902から、本遺構は近世から近代と考えられる。

SK2626 (図314)

検出状況 21地点LI19～LJ19グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北東側は発掘区外に続く。SA31が本遺構の西辺と南辺に沿って位置する。西側でSI8と重複する。本遺構はSI8より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は方形と考えられる。壁面の傾斜はやや急で、底面は平坦である。

埋土 2層に分層した。1層と2層に炭化物を含む。2層の上面に鉄分が沈着して硬化する。2層にブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器31点、須恵器3点、山茶碗18点、古瀬戸2点、釘1点が散在して出土した。

出土遺物 釘1点(1903)を図示した。

時期 大畑大洞4号窯式に比定した山茶碗の小皿が出土したことから、本遺構は13世紀末から14世紀後葉と考えられる。

SK2652 (図314)

検出状況 21地点LH12グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。底面でSK2654を検出した。本遺構はSK2654より新しい。

規模・形状 平面形は隅丸方形である。東壁面の傾斜は急で、西側はやや緩やかに開く。底面はやや硬化しており、概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。1層は炭化物や焼土粒を含み、遺構全体に堆積する。2層は北壁面の底部にわずかに堆積する。2層は基盤層のブロック土を含むことから、壁面の崩落土の可能性はある。

遺物出土状況 埋土中から土師器69点、須恵器4点、灰釉陶器2点、山茶碗16点、陶器3点が散在して出土した。

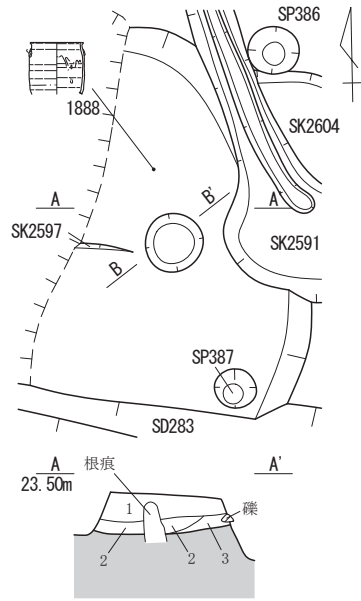
出土遺物 土師器など2点を図示した。1904はM3類の土師器皿である。1905は古瀬戸後IV期古段階の卸目付大皿である。

時期 SK2654との重複関係と図示した1905から、本遺構は15世紀中葉と考えられる。

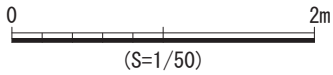
SK2654 (図314)

検出状況 21地点LH12グリッド、SK2652底面で検出した。平面形は明瞭である。本遺構はSK2652より古い。

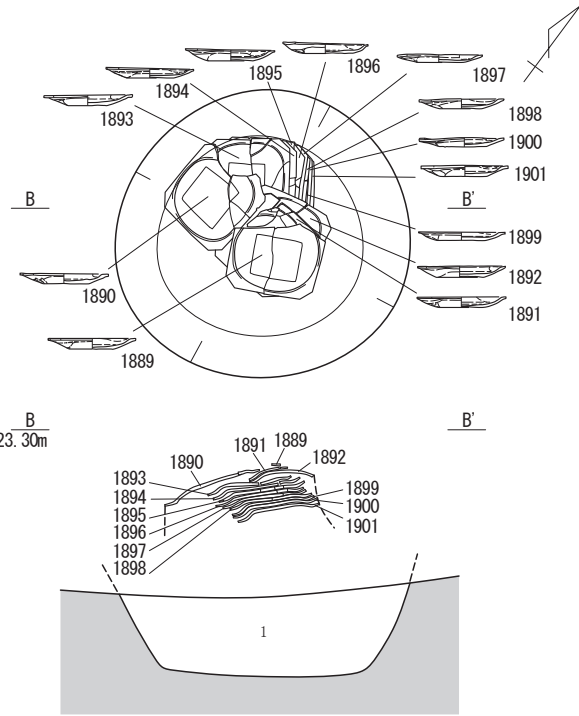
SK2596・SK2598



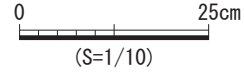
- 1 2.5Y5/4 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に5%含む
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 灰黄色土(2.5Y6/2)をブロック状に10%含む
- 3 2.5Y6/8 明黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に20%含む



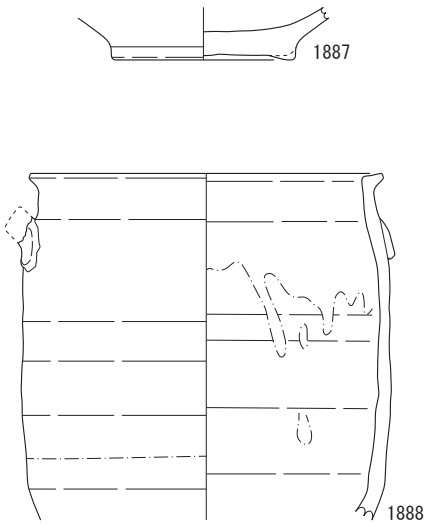
SK2598 遺物出土状況図



- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に15%含む



SK2596



SK2598

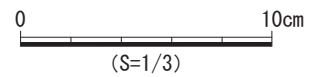
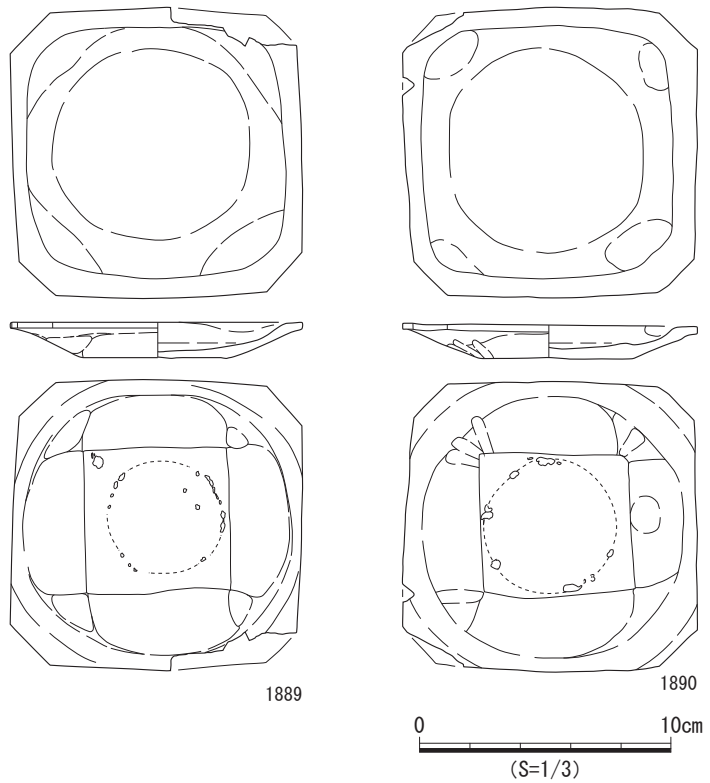


図 311 SK2596・SK2598 遺構図・出土遺物実測図(1)

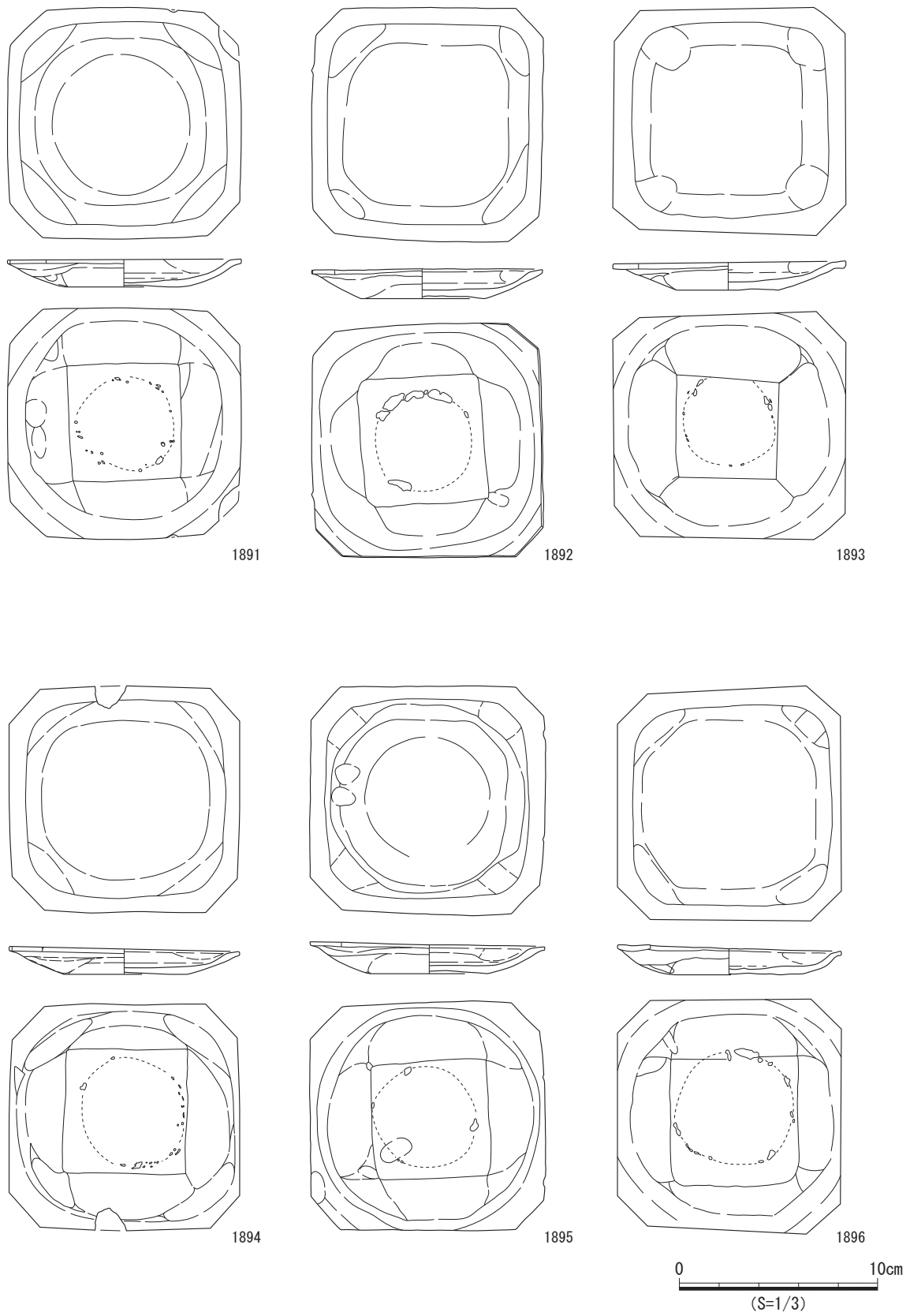


図 312 SK2598 出土遺物実測図 (2)

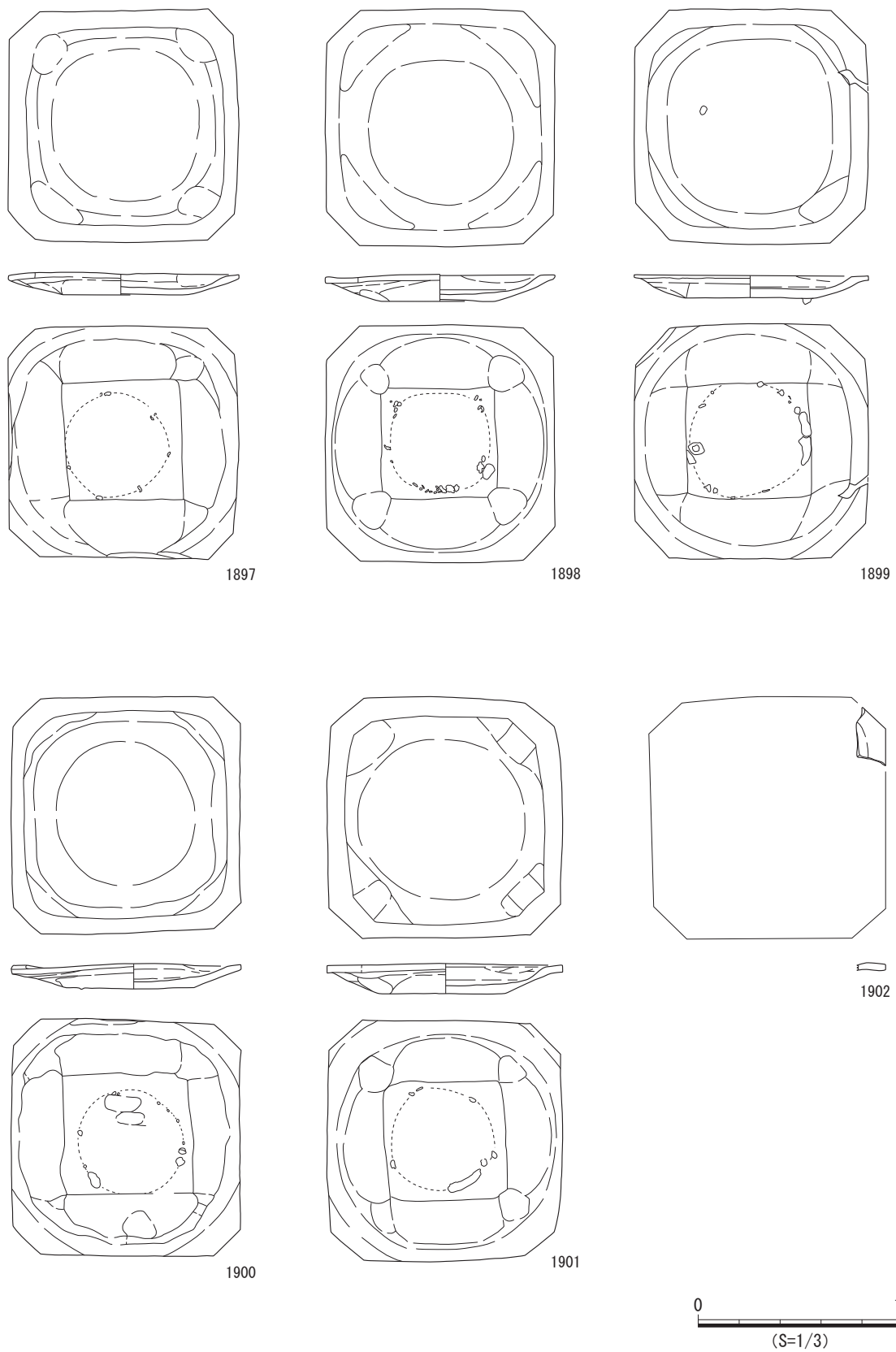
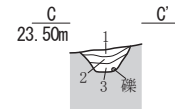
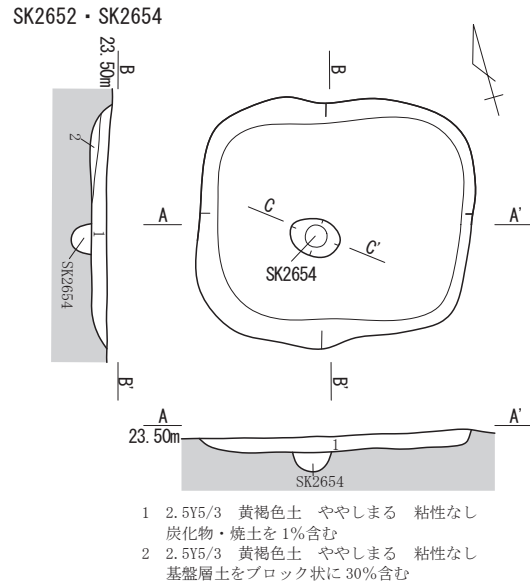
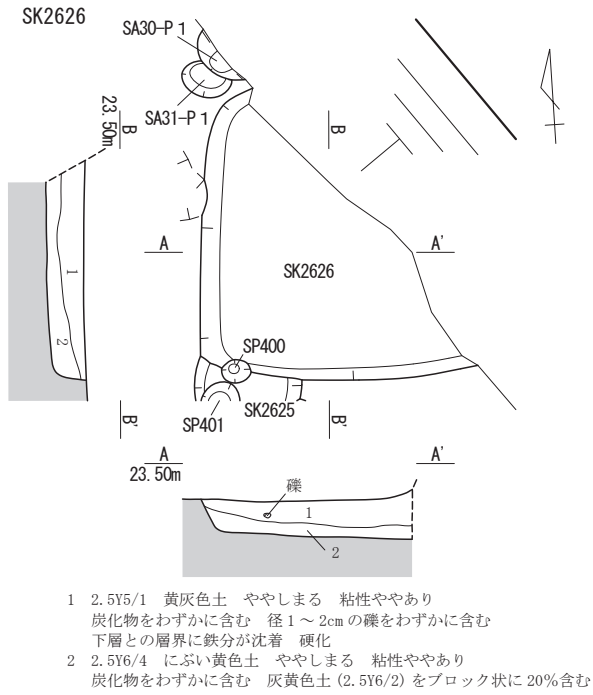


図 313 SK2598 出土遺物実測図 (3)



- 1 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性なし
炭化物をわずかに含む
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性なし
炭化物をわずかに含む
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む

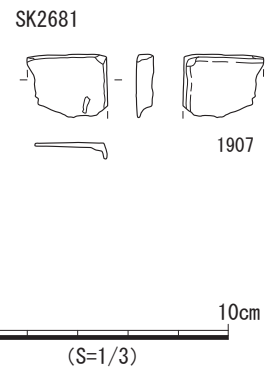
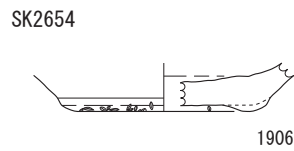
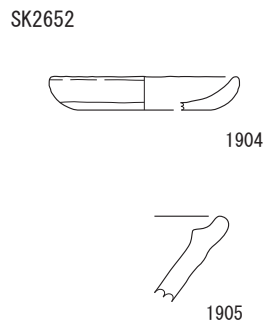
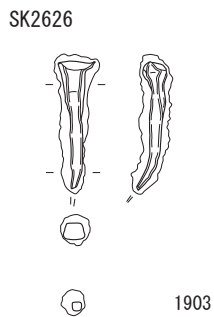
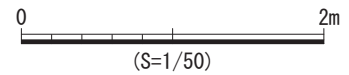
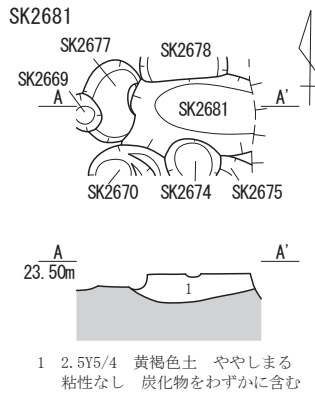


図 314 SK2626・SK2652・SK2654・SK2681 遺構図・出土遺物実測図

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面の傾斜は急で、底面は平坦である。

埋土 3層に分層した。いずれの層も中央がやや窪み、炭化物を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器2点、山茶碗2点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗1点を図示した。1906は第5型式の尾張型山茶碗である。

時期 図示した1906から、本遺構は12世紀後葉から13世紀初頭と考えられる。

SK2681 (図314)

検出状況 21地点 LH12 グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。東側は攪乱により消失する。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は長楕円形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかで、底面は丸みを帯びる。

埋土 単層の埋土である。炭化物を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器2点、須恵器2点、山茶碗3点、飾金具1点が散在して出土した。

出土遺物 飾金具1点を図示した。1907は銅製の飾金具で、方形で端部はL字型に屈曲する。

時期 山茶碗が出土したことから、本遺構は中世と考えられる。

SK2691 (図315)

検出状況 21地点 LI12～LI13 グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側は攪乱により消失し、南側は発掘区外に続く。西側でSB22-P5と重複する。本遺構はSB22より古い。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は方形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかで、底面は平坦である。

埋土 単層の埋土である。炭化物をわずかに含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器53点、須恵器5点、山茶碗10点、古瀬戸1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器1点を図示した。1908はM3類の土師器皿である。

時期 古瀬戸後期の平碗が出土したことから、本遺構は14世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SK2711 (図315)

検出状況 21地点 LH12 グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は明瞭であった。中央でSK2712と重複する。本遺構はSK2712より新しい。

規模・形状 平面形は隅丸方形である。壁面の傾斜はやや急で、底面は平坦である。

埋土 2層に分層した。2層は底面のやや東側に寄りに堆積する。1層にわずかに炭化物を含む。

SK2712と概ね重なり、土色も似ることから、SK2712と同一の遺構であった可能性がある。

遺物出土状況 埋土中から土師器49点、須恵器8点、灰釉陶器2点、山茶碗9点が散在して出土した。

出土遺物 土師器1点を図示した。1909はC1類の土師器皿である。

時期 SK2712との重複関係から、本遺構は15世紀後葉以降と考えられる。

SK2712 (図315)

検出状況 21地点 LH12 グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は明瞭であった。遺構の中央は遺構の重複により大きく消失する。北側でSB20-P2・SB21-P1、南側でSA27-P2、東側でSK2713・SK2716、中央でSK2711と重複する。本遺構はSB20・SA27・SK2711より古く、SB21・SK2713・SK2716より新しい。

規模・形状 平面形は隅丸方形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土 2層に分層した。埋土全体に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

SK2711 と概ね重なり、土色も似ることから、SK2711 と同一の遺構であった可能性がある。

遺物出土状況 埋土中から土師器 33 点、山茶碗 2 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SA27 との重複関係から、本遺構は 15 世紀中葉以降と考えられる。

SK2713 (図 315)

検出状況 21 地点 LH12 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。西側で SK2712 と重複する。本遺構は SK2712 より古い。

規模・形状 平面形は隅丸長方形である。壁面は垂直に立ち上がり、底面は平坦でわずかに下がる。

埋土 2層に分層した。中央がやや窪む堆積である。埋土全体に炭化物と基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 53 点、須恵器 2 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 12 点、古瀬戸 1 点、釘 1 点が散在して出土した。出土遺物や規模・形状から、土坑墓の可能性はある。

出土遺物 釘 1 点(1910)を図示した。

時期 SK2712 との重複関係と古瀬戸後期の陶片が出土したことから、本遺構は 14 世紀中葉から 15 世紀後葉と考えられる。

SK2716 (図 315)

検出状況 21 地点 LH12 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側は重複により消失する。西側で SK2712 と重複する。本遺構は SK2712 より古い。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は長方形と考えられる。東壁面の傾斜は急で、底面は西に向かってわずかに上がる。

埋土 3層に分層した。埋土全体に炭化物を含む。1層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 底面付近の 3 層から土師器皿 1 点(1912)が正位で出土した。その他に埋土中から土師器 24 点、須恵器 2 点、山茶碗 8 点、陶器 1 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器 2 点を図示した。1911 と 1912 は C 1 類の土師器皿である。

時期 SK2712 との重複関係と図示した 1911 と 1912 から、本遺構は 14 世紀後葉から 15 世紀後葉と考えられる。

SK2732 (図 315)

検出状況 21 地点 LI12 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側で SA27-P 2 ・ SA28-P 1、南側で SB22-P 2 ・ SB24-P 1 と重複する。本遺構は SA27 より古く、SB22 ・ SB24 ・ SA28 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整形とされる。壁面の傾斜は下部では急で、上部では緩やかに開く。底面はやや丸みを帯びる。

埋土 2層に分層した。埋土全体に炭化物を含む。2層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。1層と2層の層界で扁平な礫を確認した。

遺物出土状況 埋土中から土師器 54 点、須恵器 3 点、灰釉陶器 5 点、山茶碗 6 点、陶器 3 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など 4 点を図示した。1913～1915 は C 1 類の土師器皿である。1916 は古瀬戸後Ⅳ期古段階の天目茶碗である。

時期 図示した 1916 から、本遺構は 15 世紀中葉と考えられる。

SK2747 (図 316)

検出状況 21 地点 LH11 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側から北西側は発掘区外に続く。南側で SK2749、中央で SD292 と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面の傾斜は東側の下部では急で、上部では緩やかに開く。南側ではほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦である。

埋土 4 層に分層した。南壁面の西側で壁面に沿って 1 m ほど並んだ状態で、2 段～3 段の石組みを確認した。土止めのための石組みと考えられるが、上端の高さが揃わないことから、3 段以上積まれていた可能性がある。また、底面で大きさ 10cm～40cm の礫を複数確認した。石組みから崩落したものと考えられる。4 層は石組みの裏込め土で、3 層は崩落土と考えられる。2 層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 東壁面付近から被熱した砥石(1917)が出土した。その他に埋土中から土師器 115 点、須恵器 4 点、灰釉陶器 8 点、山茶碗 42 点、陶器 4 点、金属製品 3 点(釘)が出土した。出土遺物から、石組みをもつ土坑墓の可能性はある。

出土遺物 砥石など 3 点を図示した。1917 は砥石である。1918 と 1919 は釘である。

時期 SK2749 との重複関係と生田 2 号窯式に比定した東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構は 15 世紀後葉から末と考えられる。

SK2749 (図 317)

検出状況 21 地点 LH11～LI11 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側は重複により消失する。北側で SK2747、東側で SB23-P 1、遺構全体で SD292 と重複する。本遺構は SK2747 より古く、SB23・SD292 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかで、底面は平坦である。底面で SK2765～SK2768 を検出したが、本遺構との関係は不明である。

埋土 2 層に分層した。2 層に焼土粒や炭化物を含む。1 層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 178 点、須恵器 1 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 60 点、陶器 7 点、鉄製品 1 点(種別不明)が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SB23 との重複関係と古瀬戸後Ⅳ期の縁釉小皿が出土したことから、本遺構は 15 世紀中葉から後葉と考えられる。

SK2774 (図 317)

検出状況 21 地点 LI12 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸長方形と考えられる。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、

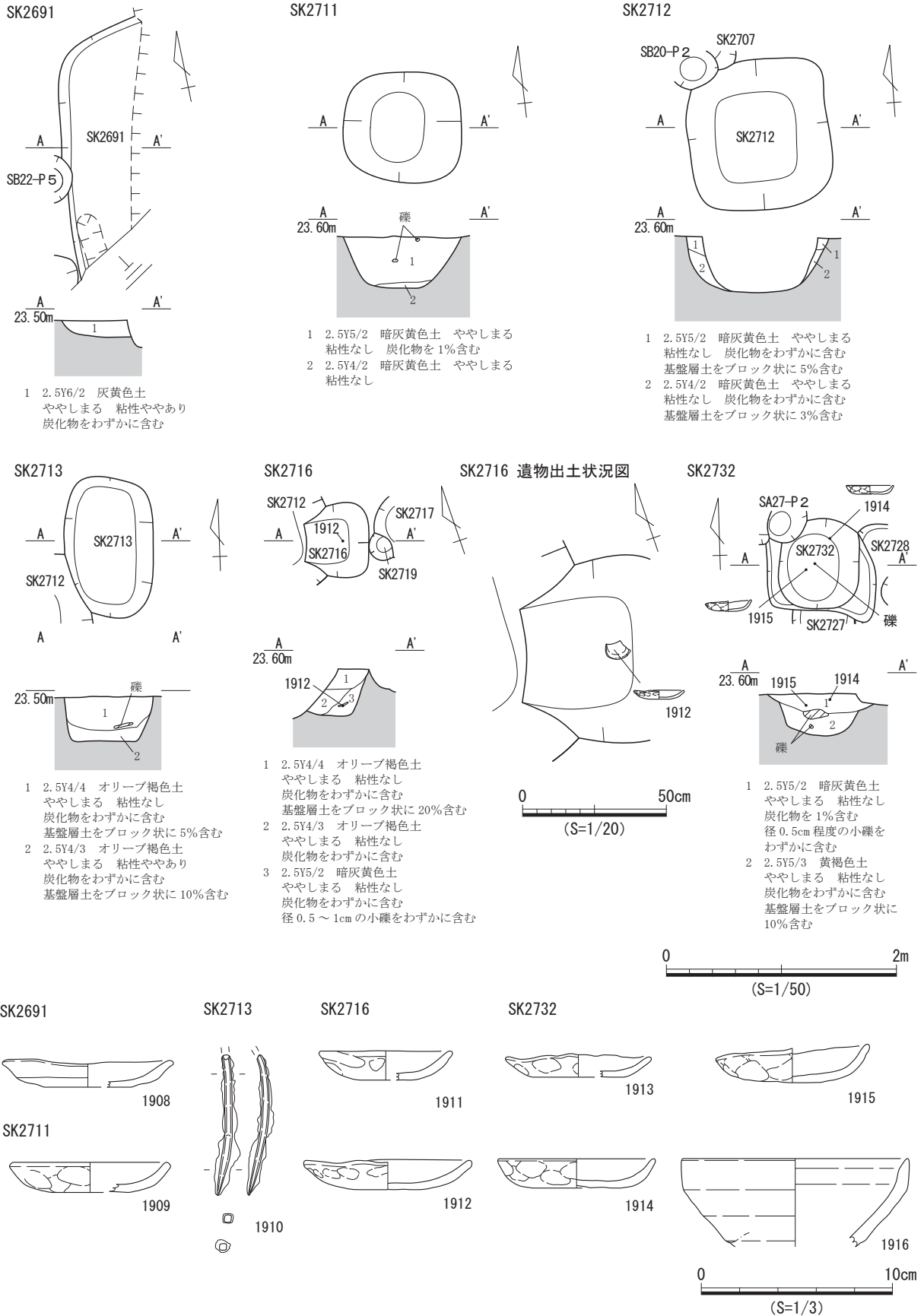
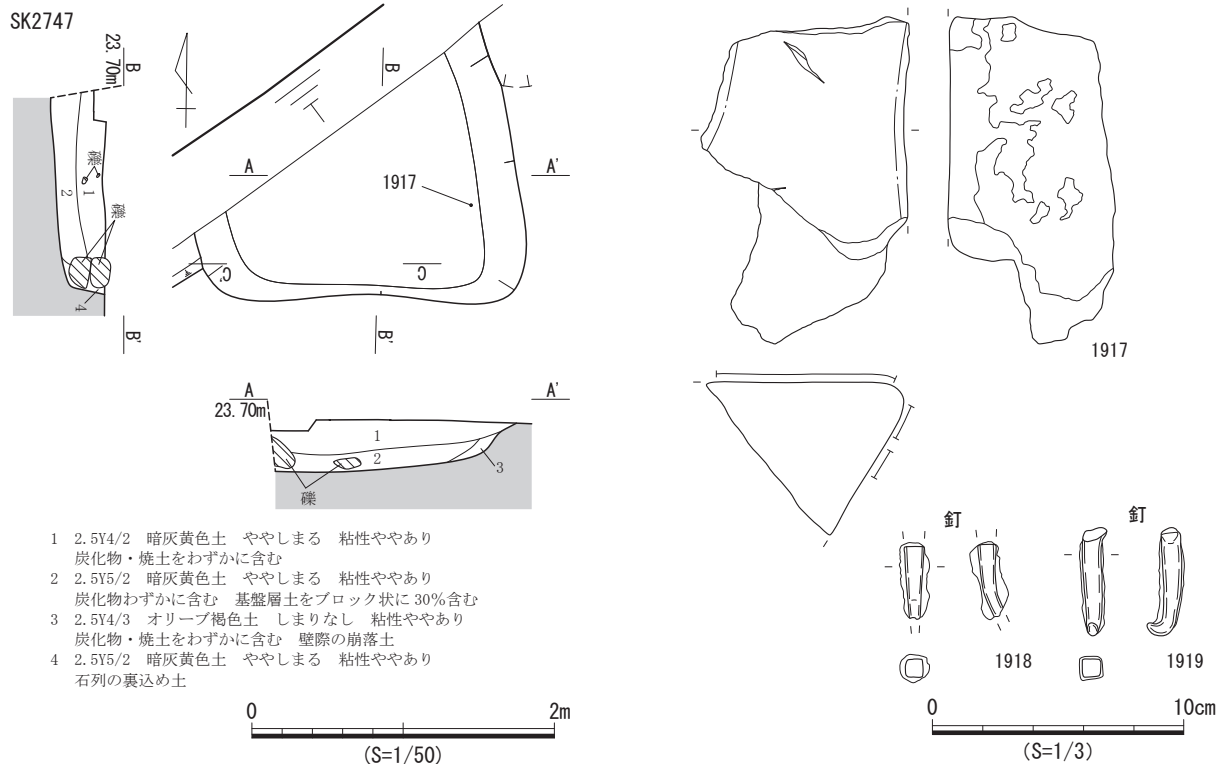
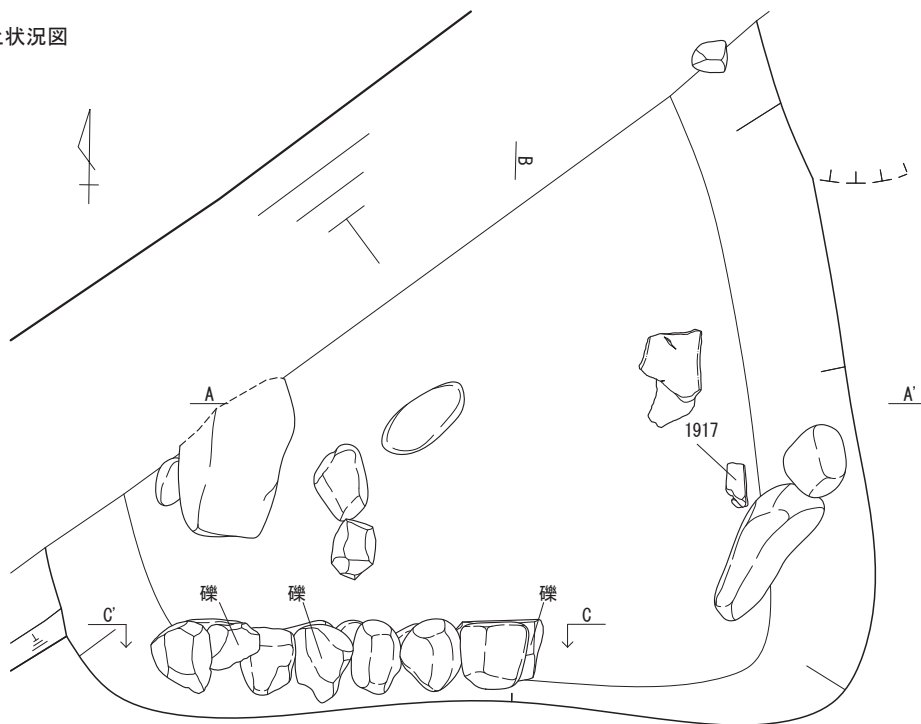


図 315 SK2691・SK2711～SK2713・SK2716・SK2732 遺構図・出土遺物実測図



石列出土状況図



石列見通し図

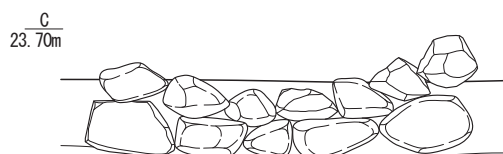


図 316 SK2747 遺構図・出土遺物実測図

底面はわずかに西に向かって上がる。

埋土 2層に分層した。埋土全体に炭化物を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 53 点、須恵器 1 点、山茶碗 15 点、釘 1 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。出土遺物や規模・形状から、土坑墓の可能性はある。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 大洞東 1 号窯式に比定した東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構は 14 世紀後葉から 15 世紀初頭と考えられる。

SK2794 (図 317)

検出状況 21 地点 LI12 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南東側は重複により消失する。北側で SB23-P 6、西側で SK2797 と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整楕円形と考えられる。壁面の傾斜は東側ではやや急で、西側では緩やかに開く。底面は平坦である。

埋土 2層に分層した。1層は中央付近が窪む堆積である。埋土全体に炭化物や基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。底面の南側で垂円礫 3 点、中央で垂円礫 1 点を確認した。

遺物出土状況 埋土中から土師器 18 点、須恵器 1 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 6 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器 1 点を図示した。1920 は M 4 類の土師器皿である。

時期 SB23 との重複関係から、本遺構は 15 世紀中葉から後葉と考えられる。

SK2797 (図 318)

検出状況 21 地点 LI12 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側で SK2794 と重複する。本遺構は SK2794 より古い。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面の傾斜は東側では緩やかに開く。底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。埋土全体に炭化物を含み、積み上げられた 5 点の礫を確認した。

遺物出土状況 埋土中から土師器 7 点、山茶碗 1 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2794 との重複関係から、本遺構は 15 世紀後葉以前と考えられる。

SK2802 (図 318)

検出状況 21 地点 LJ11～LJ12 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側と東側は発掘区外に続く。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸長方形と考えられる。壁面は北側では垂直に立ち上がり、西側では下部でわずかに袋状となる。底面は概ね平坦である。

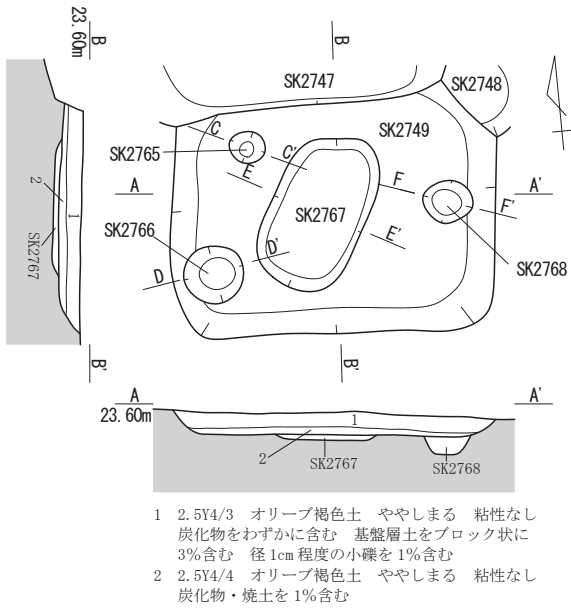
埋土 18層に分層した。埋土の色調や土質から、18層・15層～17層・5層～14層・2層～4層・1層がそれぞれ同時期に堆積したと考えられる。1層部分は別遺構の可能性はある。

遺物出土状況 埋土中から土師器 53 点、須恵器 5 点、灰釉陶器 2 点、山茶碗 34 点、陶磁器 6 点が散在して出土した。

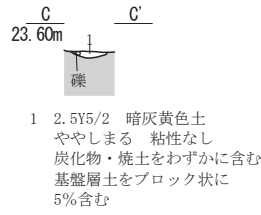
出土遺物 山茶碗など 2 点を図示した。1921 は第 5 型式の尾張型山茶碗である。1922 は龍泉窯系Ⅲ類の青磁坏である。内面見込みに双魚貼付文が施される。

時期 古瀬戸後期の縁釉小皿が出土したことから、本遺構は 14 世紀後葉から 15 世紀後葉と考えられ

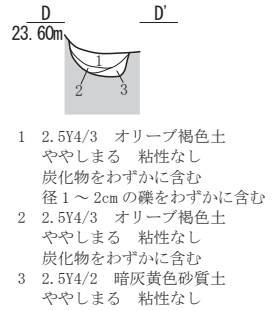
SK2749



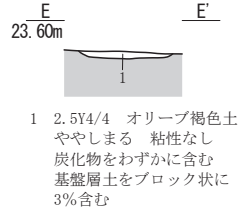
SK2765



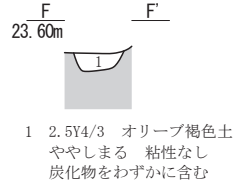
SK2766



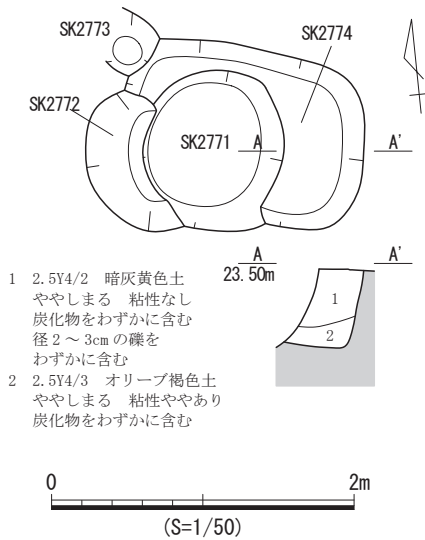
SK2767



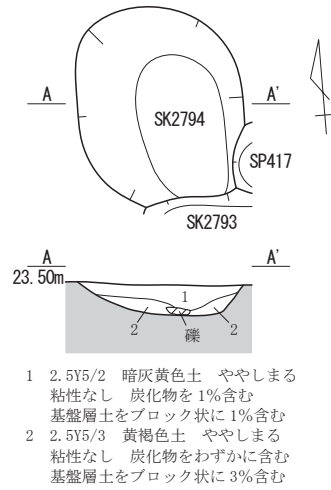
SK2768



SK2774



SK2794



SK2794 礫出土状況図

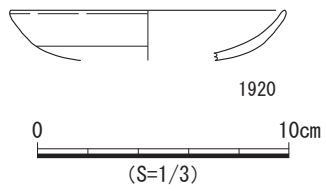
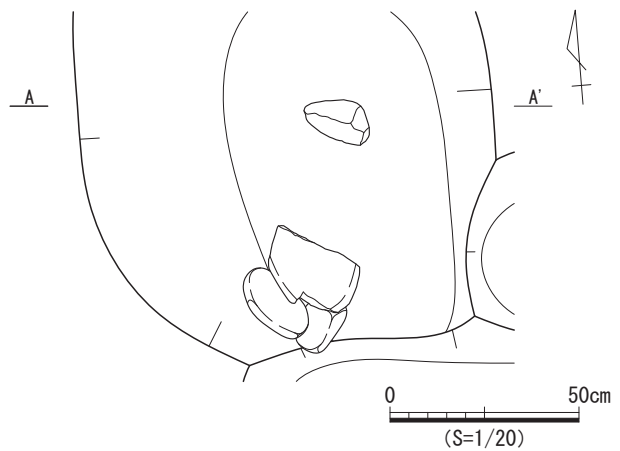


図 317 SK2749・SK2774・SK2794 遺構図・出土遺物実測図

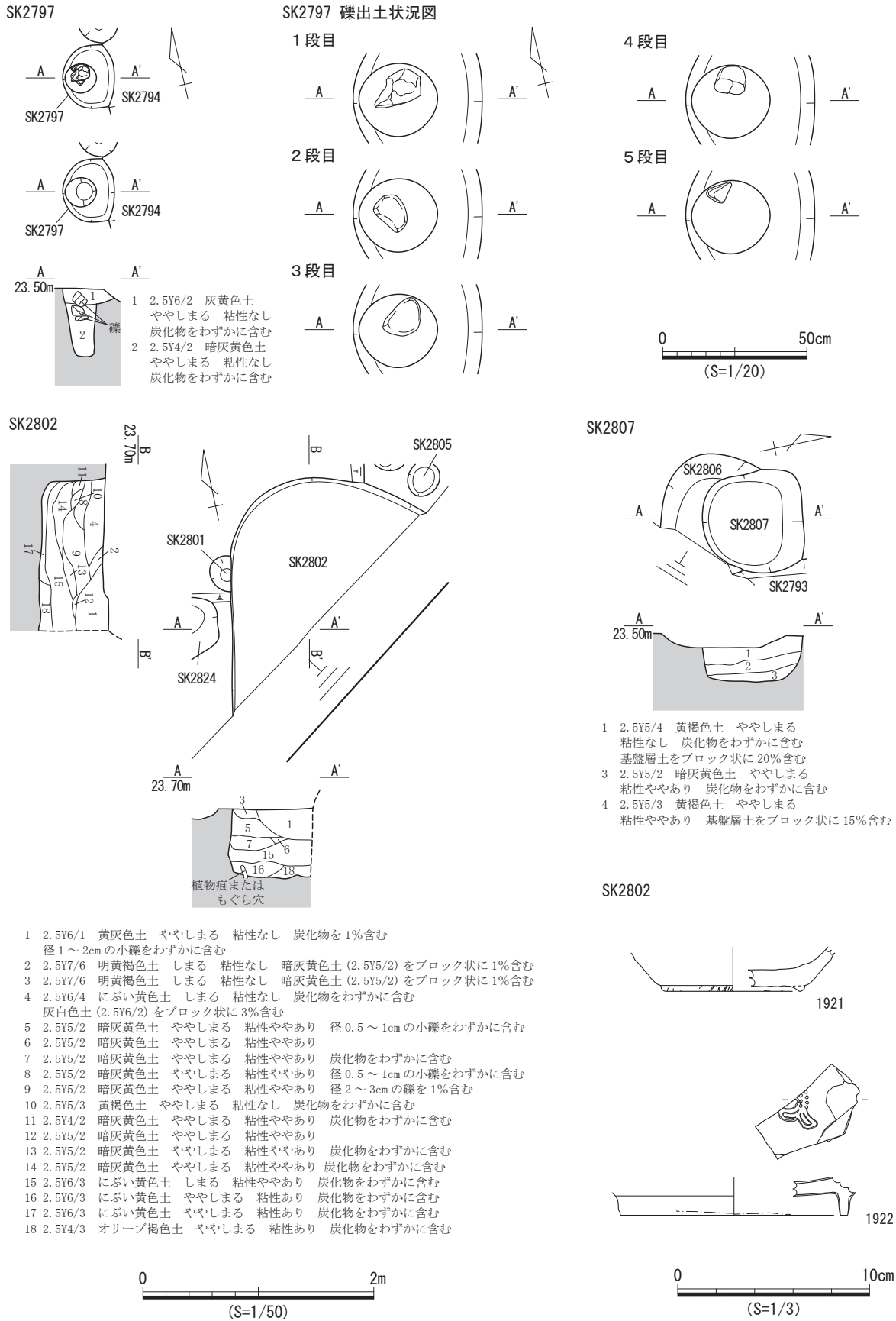


図 318 SK2797・SK2802・SK2807 遺構図・出土遺物実測図

る。

SK2807 (図 318)

検出状況 21 地点 LI12 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 平面形は不整円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土 3層に分層した。1層と2層に炭化物を含む。1層と3層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 22 点、須恵器 2 点、山茶碗 7 点、金属製品 1 点（種別不明）が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 第 6 型式の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は 13 世紀初頭から中葉と考えられる。

SK2819 (図 319)

検出状況 21 地点 LI10～LJ11 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側は発掘区外に続く。北側で SD292、南側で SK2823 と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 平面形は不整楕円形である。壁面の傾斜はやや急で、底面は多少凹凸があるものの概ね平坦である。南側にテラス状の平坦面をもつ。

埋土 4層に分層した。概ね水平に堆積するが、1層に多くの礫が混じる。特に西壁面付近で大量の礫を確認した。意図的な配置などが見られないことから、埋め戻しの際に入り込んだと考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 370 点、須恵器 8 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 127 点、陶器 27 点、鉄滓 1 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など 5 点を図示した。1923 は C 1 類、1924 は M 3 類の土師器皿である。1925 は甕である。1926 は第 5 型式の尾張型山茶碗である。1927 は大窯第 1 段階の播鉢である。

時期 図示した 1927 から、本遺構は 15 世紀末から 16 世紀初頭と考えられる。

SK2823 (図 320)

検出状況 21 地点 LJ11 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北西側は重複により消失し、南側は発掘区外に続く。北側で SK2819・SD292 と重複する。本遺構は SK2819 より古く、SD292 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸長方形と考えられる。断面形は中央が大きく窪み、周囲にテラス状の平坦面をもつ、二段構造になっている。壁面は下部ではほぼ垂直に立ち上がり、テラス面より上部では傾斜がやや急である。底面は平坦である。

埋土 6層に分層した。ほとんどの層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。5層は炭化物や焼土ブロックを多く含み、大きさ 30cm 以下の礫を面的に確認した。礫の中には被熱したのもも見られた。

遺物出土状況 埋土中から土師器 229 点、須恵器 11 点、灰釉陶器 8 点、山茶碗 64 点、陶器 2 点が散在して出土した。焼土と被熱した礫を確認したことから、土坑墓もしくは火葬施設の可能性がある。

出土遺物 土師器など 2 点を図示した。1928 は M 4 類の土師器皿である。1929 は古瀬戸後 IV 期古段階の播鉢である。

時期 図示した 1929 から、本遺構は 15 世紀中葉と考えられる。

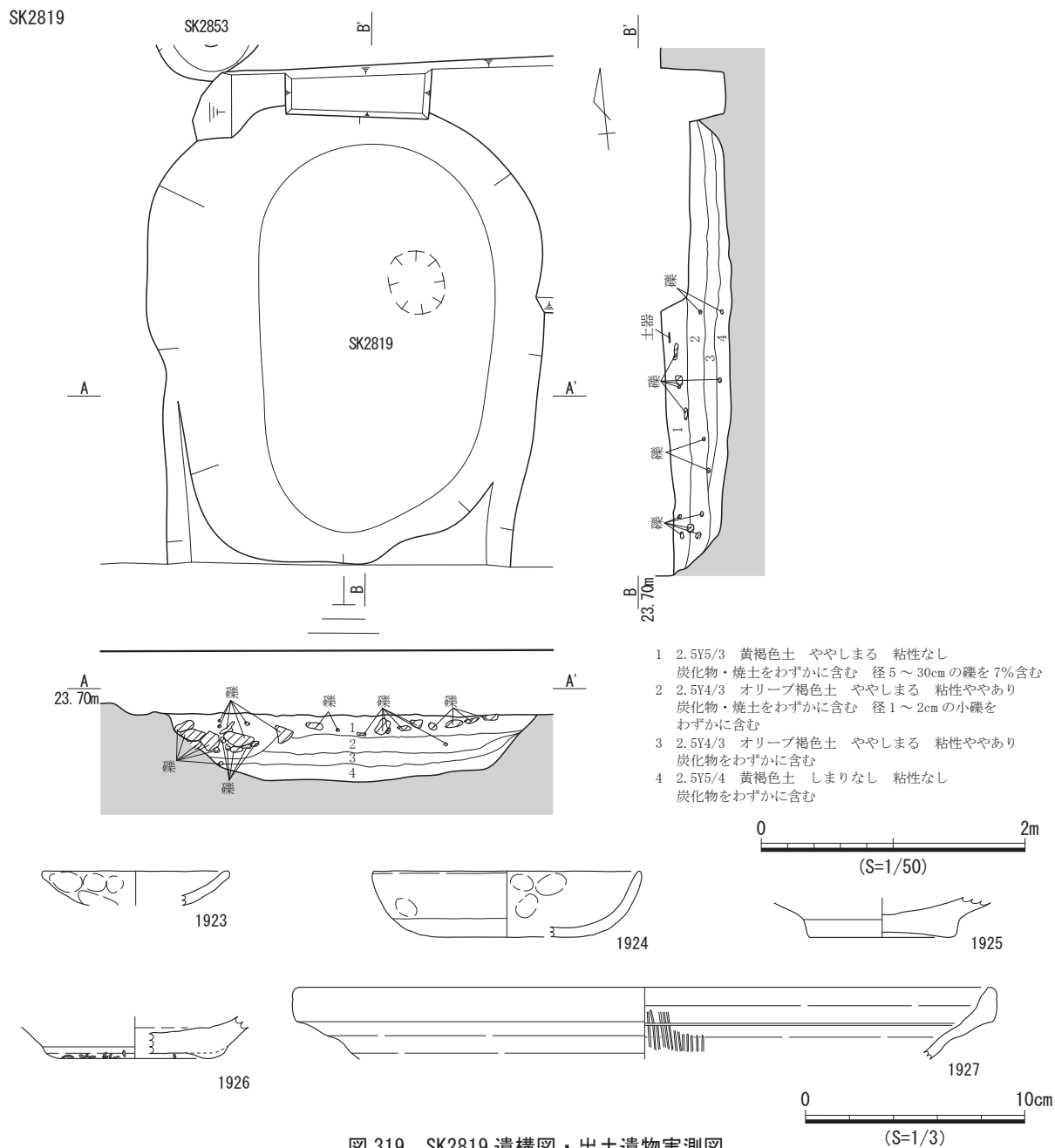


図 319 SK2819 遺構図・出土遺物実測図

SK2840 (図 320)

検出状況 21 地点 LI11 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。中央で SD292 と重複する。本遺構は SD292 より古い。

規模・形状 平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦であるが、西壁際でわずかに下がる。

埋土 3層に分層した。概ね水平に堆積する。埋土全体に炭化物や焼土粒を含む。3層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 1層から砥石1点(1930)が出土した。その他に埋土中から土師器36点、須恵器1点、灰釉陶器1点、山茶碗14点、常滑産陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 砥石1点(1930)を図示した。

時期 第7型式の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は13世紀後葉から末と考えられる。

SK2843 (図 321)

検出状況 21 地点 LI11 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。遺構全体で SD292 と重複する。本遺構は SD292 より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。壁面の傾斜は緩やかで、底面は丸みを帯びる。

埋土 単層の埋土である。炭化物や焼土粒をわずかに含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 60 点、須恵器 2 点、灰釉陶器 3 点、山茶碗 23 点、陶器 4 点、釘 1 点が散在して出土した。出土遺物から土坑墓の可能性はある。

出土遺物 土師器 1 点を図示した。1931 は M 3 類の土師器皿である。

時期 生田 2 号窯式に比定した東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構は 15 世紀後葉から末と考えられる。

SK2849 (図 321)

検出状況 21 地点 LI10～LI11 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北西側は発掘区外に続く。南側で SF 2、東側で SK2851 と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面の傾斜は急で、底面は平坦である。底面で SK2860～SK2862 を検出したが、本遺構との関係は不明である。

埋土 単層の埋土である。炭化物や焼土粒を含む。基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 5 点、須恵器 3 点、灰釉陶器 3 点、山茶碗 1 点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗 1 点を図示した。1932 は第 4 型式の尾張型山茶碗である。

時期 SK2851 との重複関係から、本遺構は 13 世紀後葉以降と考えられる。

SK2851 (図 321)

検出状況 21 地点 LI10～LI11 グリッド、IV b 層上面で検出した。北西側は重複により消失する。西側で SK2849・SD292・SF 2 と重複する。本遺構は SD292・SK2849 より古く、SF 2 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかで、底面は概ね平坦である。中央から北西側にテラス状の平坦面をもつ。底面で SK2857～SK2859 を検出したが、本遺構との関係は不明である。

埋土 2 層に分層した。埋土全体に炭化物を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 70 点、須恵器 4 点、灰釉陶器 3 点、山茶碗 40 点、常滑産陶器 2 点が散在して出土した。

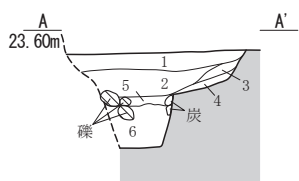
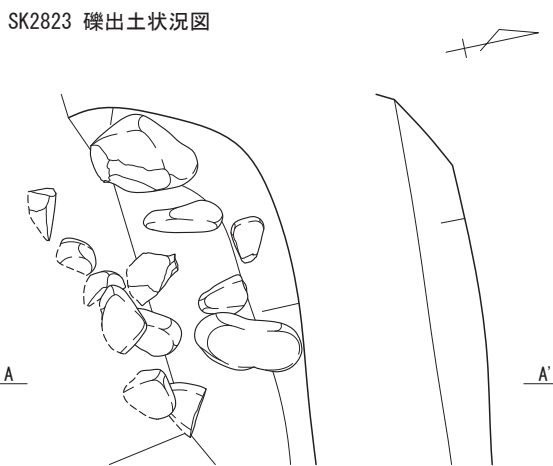
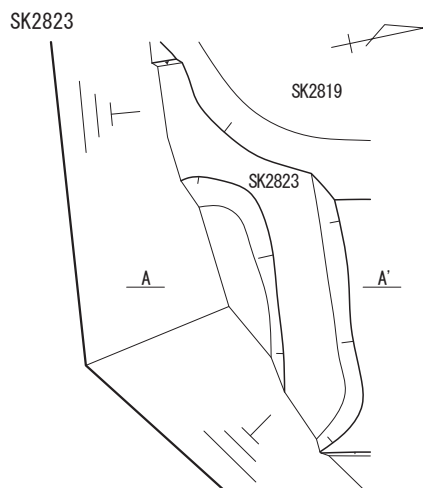
出土遺物 土師器 2 点を図示した。1933 は C 1 類、1934 は M 3 類の土師器皿である。

時期 SD292 との重複関係図示から、本遺構は 13 世紀後葉以降と考えられる。

SK2863 (図 322)

検出状況 21 地点 LI10 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北西側は発掘区外に続く。南側で SD295・SD296、東側で SD294・SF 2 と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

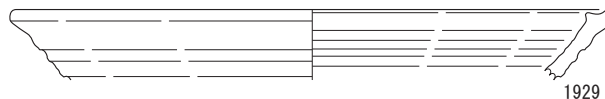
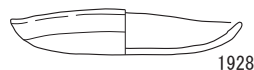
規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整形と考えられる。壁面の傾斜は急で、底面は南西か



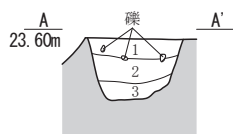
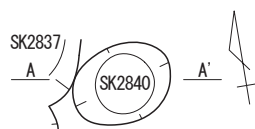
0 50cm
(S=1/20)

- 1 2.5Y5/4 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に5%含む
- 2 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土を1%含む 基盤層土をブロック状に3%含む
- 3 2.5Y5/3 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土をわずかに含む 基盤層土をブロック状に30%含む
- 4 2.5Y6/3 にぶい黄色土 ややしまる 粘性なし
炭化物・焼土をわずかに含む 基盤層土をブロック状に50%含む
- 5 2.5Y4/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土を30%含む 径5~20cmの礫を1%含む
- 6 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土を2%含む 基盤層土をブロック状に5%含む

SK2823

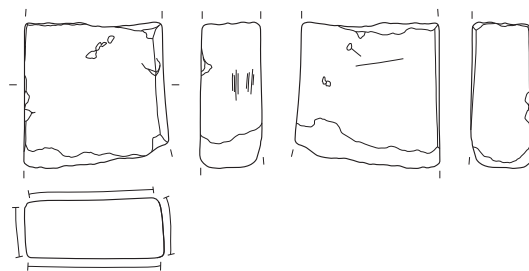


SK2840



- 1 2.5Y5/3 黄褐色土 ややしまる
粘性なし 炭化物・焼土を1%含む
径1~5cmの礫をわずかに含む
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物・焼土を3%含む
- 3 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物・焼土をわずかに含む
基盤層土をブロック状に30%含む

SK2840

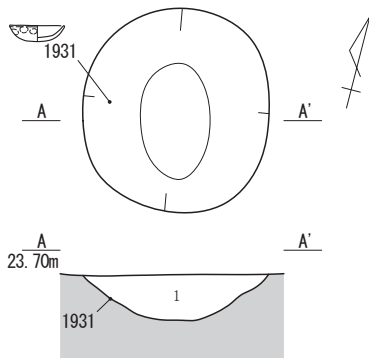


0 2m
(S=1/50)

0 10cm
(S=1/3)

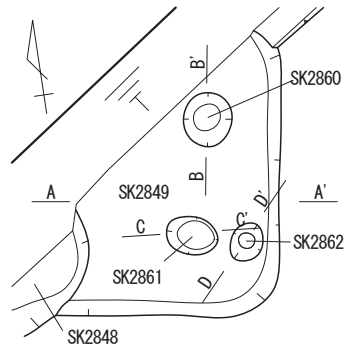
図 320 SK2823・SK2840 遺構図・出土遺物実測図

SK2843



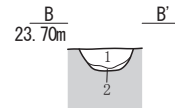
- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物・焼土をわずかに含む
径2cm程度の小礫を1%含む

SK2849



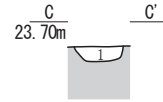
- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土をわずかに含む
基盤層をブロック状に20%含む

SK2860



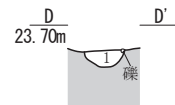
- 1 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる
粘性なし 基盤層土をブロック状に30%含む
2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 しまりなし
粘性ややあり

SK2861



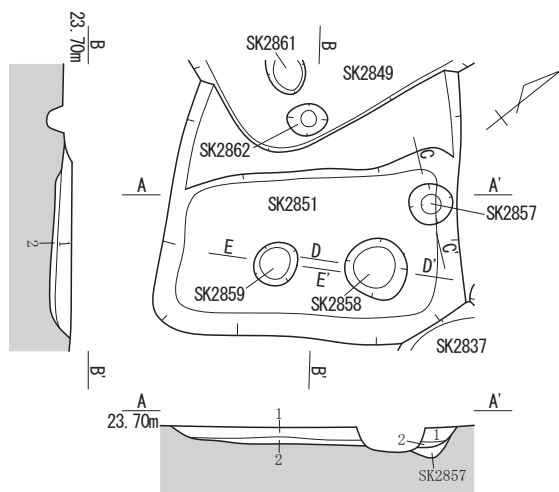
- 1 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる
粘性なし 基盤層土をブロック状に30%含む

SK2862



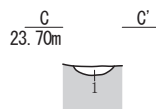
- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる
粘性なし 炭化物をわずかに含む
基盤層土をブロック状に30%含む

SK2851



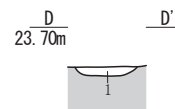
- 1 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性なし
炭化物をわずかに含む 径1~2cmの礫をわずかに含む
2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む

SK2857



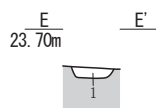
- 1 2.5Y4/4 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性なし
炭化物をわずかに含む
径0.5~1cmの小礫を1%含む

SK2858

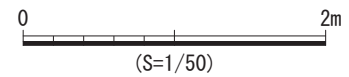


- 1 2.5Y4/4 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性なし
炭化物をわずかに含む
径0.5~1cmの小礫を1%含む

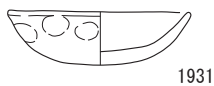
SK2859



- 1 2.5Y4/4 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性なし
炭化物をわずかに含む
径0.5~1cmの小礫を1%含む

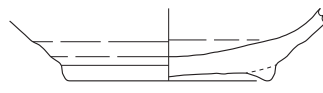


SK2843



1931

SK2849

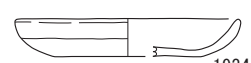


1932

SK2851



1933



1934

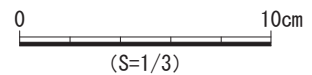
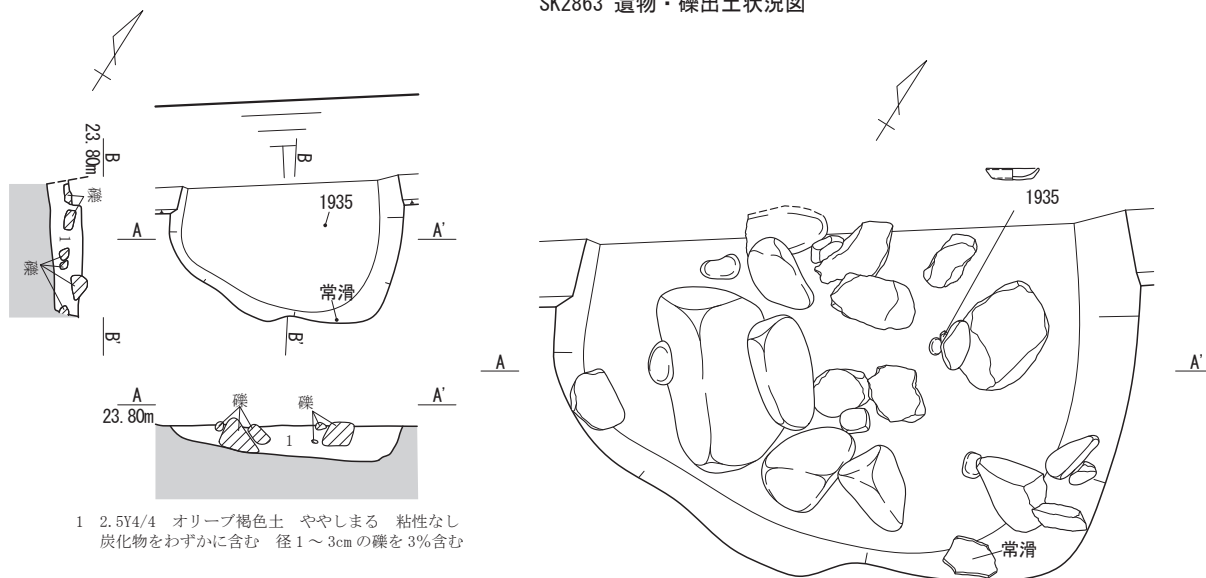


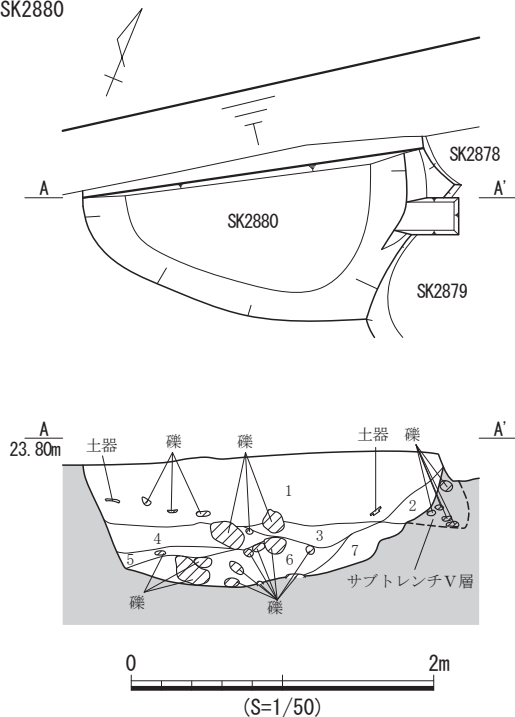
図 321 SK2843・SK2849・SK2851 遺構図・出土遺物実測図

SK2863

SK2863 遺物・礫出土状況図



SK2880



- 0 50cm (S=1/20)

SK2863

SK2880

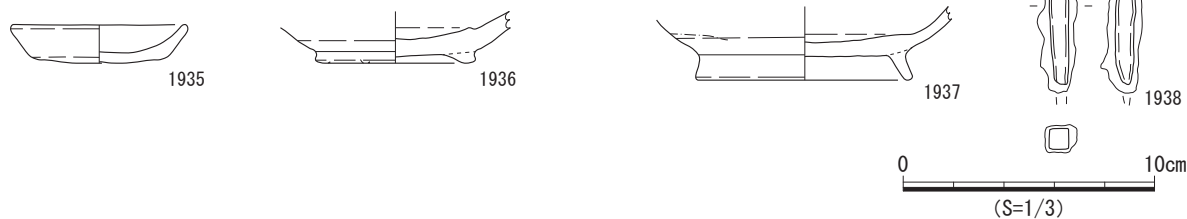


図 322 SK2863・SK2880 遺構図・出土遺物実測図

ら北東に向かって下がる。

埋土 単層の埋土である。炭化物を含む。検出面に礫が露出しており、埋土中で礫を多数確認した。中には被熱したものや破碎したものが含まれる。意図的な配置状況がないことから、埋戻し時に入れられたと考えられる。

遺物出土状況 土師器皿(1935)など多くの遺物が礫の間から出土した。これらを含め、埋土中から土師器 88 点、須恵器 1 点、灰釉陶器 4 点、山茶碗 31 点、常滑産の甕 4 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など 2 点を図示した。1935 は M 3 類の土師器皿である。1936 は第 6 型式の尾張型山茶碗である。

時期 図示した 1936 から、本遺構は 13 世紀初頭から中葉と考えられる。

SK2880 (図 322)

検出状況 21 地点 LJ9 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北西側は発掘区外に続く。南側で SK2888 と重複する。本遺構は SK2888 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整形とされる。壁面は南側ではほぼ垂直に立ち上がり、北側では階段状に立ち上がる。底面はわずかに丸みを帯びる。

埋土 7 層に分層した。1 層は上部に厚く堆積し、炭化物や焼土粒、基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。2 層と 7 層は崩落土と思われる。3 層から 6 層に幅 30cm 以下の礫を多く含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 271 点、須恵器 12 点、灰釉陶器 10 点、山茶碗 48 点、陶器 10 点、釘 1 点が散在して出土した。

出土遺物 灰釉陶器など 2 点を図示した。1937 は美濃須衛窯 VII 期(百代寺窯式併行)に比定した深碗である。1938 は釘である。

時期 大窯第 1 段階の挿鉢が出土したことから、本遺構は 15 世紀末から 16 世紀初頭と考えられる。

SK2881 (図 323)

検出状況 21 地点 LJ10 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側は発掘区外に続く。北側で SK2882、東側で SD296 と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は楕円形とされる。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土 4 層に分層した。2 層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。埋土全体に幅 20cm 以下の礫を多く含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 26 点、須恵器 3 点、山茶碗 13 点、陶器 2 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2882 との重複関係から、本遺構は 13 世紀初頭以降と考えられる。

SK2882 (図 323)

検出状況 21 地点 LI10~LJ10 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側は重複により消失する。南側で SK2881、東側で SD295・SD296・SF 2 と重複する。本遺構は SK2881 より古く、SD295・SD296・SF 2 より新しい。

規模・形状 平面形は隅丸方形である。壁面の傾斜は緩やかである。底面は概ね平坦で、西側にテラス状の平坦面をもつ。

埋土 2層に分層した。概ね水平に堆積する。1層に炭化物や焼土粒を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 145 点、須恵器 2 点、山茶碗 65 点、陶磁器 8 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 第6型式の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は13世紀初頭から中葉と考えられる。

SK2888 (図 323)

検出状況 21 地点 LJ9 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側は重複により消失し、南側は発掘区外に続く。中央東寄りの上端は攪乱により消失する。北側で SK2880 と重複する。本遺構は SK2880 より古い。

規模・形状 平面形は不明である。壁面の傾斜は緩やかで、底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。概ね水平に堆積するが、西側では1層がやや厚く堆積する。1層と2層に炭化物を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 58 点、灰釉陶器 2 点、山茶碗 41 点、陶磁器 5 点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗 1 点を図示した。1939 は第5型式の尾張型山茶碗である。

時期 図示した 1939 から、本遺構は12世紀後葉から13世紀初頭と考えられる。

SK2893 (図 323)

検出状況 21 地点 LJ9 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は円形である。壁面は北側ではほぼ垂直に立ち上がり、南側では傾斜がやや急である。底面は丸みを帯びる。

埋土 3層に分層した。2層に炭化物や焼土ブロックを含む。1層と3層に炭化物と小礫を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 25 点、須恵器 1 点、灰釉陶器 2 点、山茶碗 13 点、陶器 3 点が散在して出土した。多くは1層と2層から出土している。

出土遺物 土師器 1 点を図示した。1940 はB 2 類の土師器皿である。

時期 古瀬戸後期の播鉢が出土したことから、本遺構は14世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SK4577 (図 324)

検出状況 1 地点 ME3 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面の傾斜はやや急で、底面は平坦である。

埋土 2層に分層した。中央がやや窪む堆積である。2層に炭化物を含む。1層の上部にやや大きな礫が混じることから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 15 点が散在して出土した。

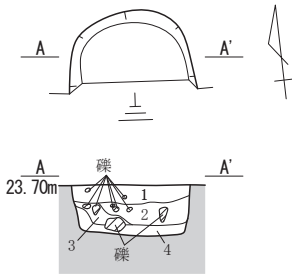
出土遺物 土師器皿 1 点を図示した。1941 はM 4 類の土師器皿である。

時期 図示した 1941 から、本遺構は13世紀後葉から14世紀後葉と考えられる。

SK4578 (図 324)

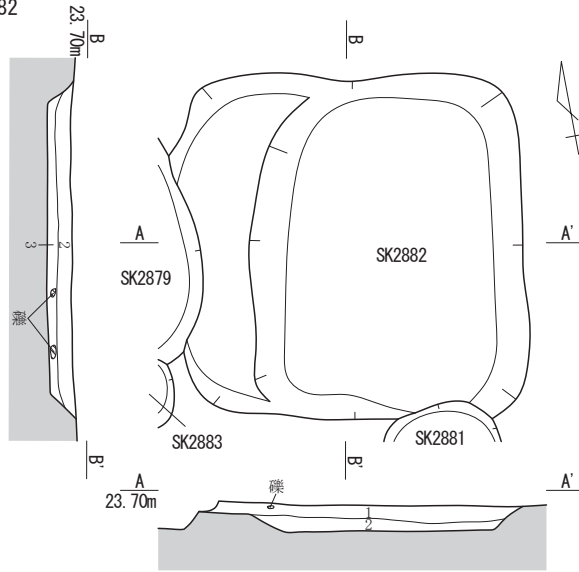
検出状況 2 地点 IQ8 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。遺構内やや北寄り

SK2881



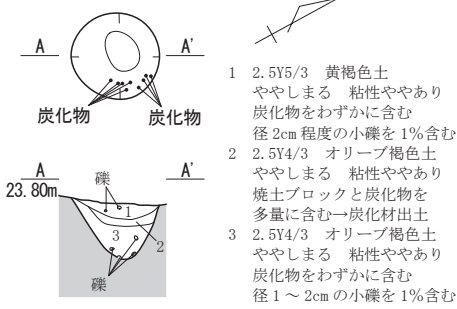
- 1 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物をわずかに含む 径1～3cmの小礫を1%含む
- 2 2.5Y5/4 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 基盤層土をブロック状に3%含む 径3～10cmの礫を3%含む
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径1～20cmの礫を10%含む
- 4 2.5Y4/2 暗灰黄色土 しまりなし 粘性ややあり 炭化物をやや多く含む

SK2882



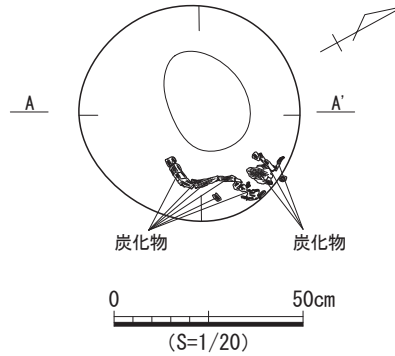
- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物・焼土をわずかに含む 径2～10cmの礫を1%含む
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性なし 炭化物をわずかに含む 径2～5cmの礫を3%含む

SK2893

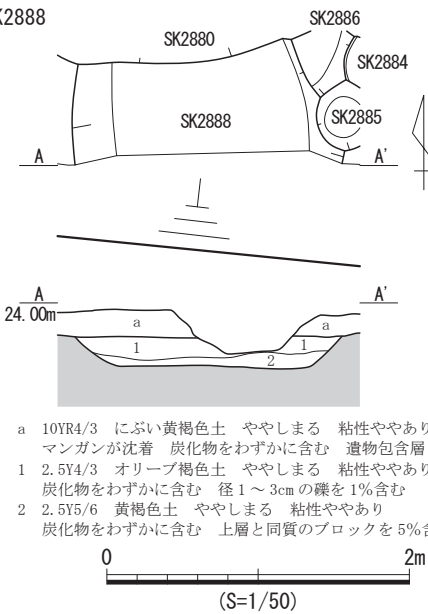


- 1 2.5Y5/3 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物をわずかに含む 径2cm程度の小礫を1%含む
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 焼土ブロックと炭化物を多量に含む→炭化材出土
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物をわずかに含む 径1～2cmの小礫を1%含む

SK2893 炭化物出土状況図



SK2888



- a 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガンが沈着 炭化物をわずかに含む 遺物包含層
- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物をわずかに含む 径1～3cmの礫を1%含む
- 2 2.5Y5/6 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物をわずかに含む 上層と同質のブロックを5%含む

SK2888



SK2893

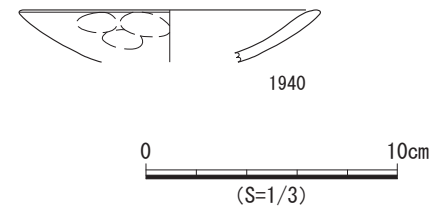


図 323 SK2881・SK2882・SK2888・SK2893 遺構図・出土遺物実測図

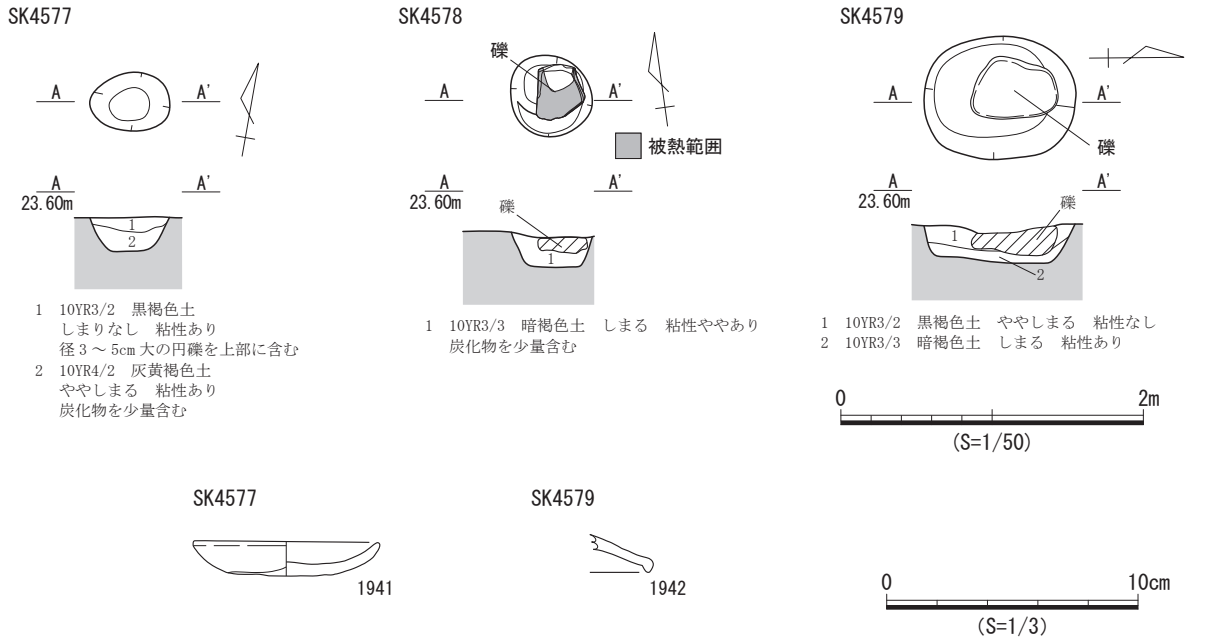


図 324 SK4577～SK4579 遺構図・出土遺物実測図

で長軸 0.36m の礫の一部が露出していた。

規模・形状 平面形は円形である。東西の壁面の傾斜はやや急で、底面は平坦である。南側にテラス状の平坦面をもつ。

埋土 単層の埋土である。炭化物を少量含む。上面が被熱した上下両面が扁平な礫を、底面から 0.1m 浮いた状態で確認した。礫は埋められたと考えられる。

遺物出土状況 埋土中から須恵器 1 点が出土したが、小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 須恵器が出土したことから、本遺構は古墳時代後期から古代と考えられる。

SK4579 (図 324)

検出状況 2 地点 IR8 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。遺構内やや北寄り
で長軸 0.6m の礫の一部が露出していた。

規模・形状 平面形は円形である。壁面の傾斜はやや緩やかである。底面はほぼ平坦であるが、北に向かいやや下る。

埋土 2 層に分層した。概ね水平に堆積する。2 層上面で上下両面が扁平な礫を確認した。礫は埋められたと考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 2 点、須恵器 1 点が散在して出土した。

出土遺物 須恵器 1 点を図示した。1942 は美濃須衛窯 IV 期第 2 小期に比定した須恵器坏蓋 C 類である。

時期 図示した 1942 から、本遺構は 8 世紀中葉と考えられる。

7 溝状遺構

SD258 (図 325・326)

検出状況 2 地点 IP10～IQ10 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。南側は発掘区外に延びる。東側で SK2176 と重複する。本遺構は SK2176 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、長軸 1.9m、幅 1.4mほどであるが、底面の形状から南北方向に延びると考えられるため、溝状遺構とした。壁面の傾斜はやや急である。底面は概ね平坦であるが、中央から西に向かって緩やかに上がる。

埋土 3層に分層した。1層・2層はともに炭化物を含む堆積であり、特に2層は1層と3層の間に薄く堆積し、炭化物を多量に含む。レンズ状に堆積することから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 266 点、須恵器 2 点、灰釉陶器 2 点、山茶碗 35 点、陶器 4 点、石製品（剥片）2 点、器種不明の金属製品 1 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿など 5 点を図示した。1943 と 1944 は M 2 類、1945 は B 2 類の土師器皿である。1946 は第 6 型式の尾張型山茶碗である。1947 は古瀬戸後 IV 期古段階の縁釉小皿である。

時期 図示した 1947 から、本遺構は 15 世紀中葉と考えられる。

SD259 (図 325・326)

検出状況 2 地点 IP 9～IP10 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側は発掘区外に延びる。南側は攪乱により消失する。

規模・形状 検出した範囲では全長 0.9m、幅 1 mほどであるが、底面の形状からさらに南北に延びると考えられるため溝状遺構とした。わずかに北東から南西に向かって傾く溝状遺構である。壁面の傾斜は、西側では緩やかに開き、東側では急に立ち上がり上部で緩やかに開く。底面は中央に向かって大きく窪む。SD260・SD261 と近距離で並ぶが関係は不明である。

埋土 2層に分層した。1層は炭化物や焼土を含む。2層は西側の壁面から底面にかけて堆積する。

遺物出土状況 埋土中から土師器 8 点、山茶碗 2 点、古瀬戸 1 点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗など 2 点を図示した。1948 は第 6 型式の尾張型山茶碗である。1949 は古瀬戸後 III 期～後 IV 期古段階の四耳壺である。

時期 図示した 1949 から、本遺構は 15 世紀前葉から中葉と考えられる。

SD260 (図 325)

検出状況 2 地点 IP 9～IP10 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南北端は発掘区外に延びる。中央は攪乱により消失する。

規模・形状 全長 7.5m 以上、A-A' 断面で上端の幅 0.4m、B-B' 断面で上端の幅 0.6m の南北に延びる溝状遺構である。北側で SD259・SD261 と近距離で並ぶが、攪乱による消失のため関係は不明である。方位は SB16 と同一で、本遺構は SB16 を区画する溝と考えられる。

埋土 2層に分層した。A-A' 断面 1層は概ね水平に堆積し、B-B' 断面 1層は中央が窪む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 3 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SB16 との位置関係から、本遺構は 15 世紀後葉以降と考えられる。

SD261 (図 325)

検出状況 2 地点 IP 9 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側は発掘区外に延びる。南側は攪乱により消失する。

規模・形状 検出した範囲では全長 1.1m、幅 0.7m、深さ 0.35mほどであるが、底面の形状から南北にさらに延びると考えられるため溝状遺構とした。わずかに北西から南東に傾く。東側壁面の傾斜

は緩やかで、西側壁面の傾斜は急に立ち上がる。底面は東側で浅く、西側で深くなる。SD259・SD260と近距離で並ぶが関係は不明である。

埋土 2層に分層した。1層と2層の層界は遺構の底面の形状に伴い西側に偏る。

遺物出土状況 埋土中から土師器7点、灰釉陶器1点、山茶碗2点、陶磁器6点が散在して出土した。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 大畑大洞4号窯式新段階の東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構は14世紀初頭から後葉と考えられる。

SD262 (図 325・326)

検出状況 2地点 IR8～IS8グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は明瞭であった。中央は攪乱により消失する。南側でSK2196と重複し、SK2196より古い。

規模・形状 全長6m、幅0.8mのわずかに北東から南西に向かって傾く溝状遺構である。A-A'断面では、壁面の傾斜は緩やかに開き、底面は浅く概ね平坦である。B-B'断面では、壁面は緩やかに開き、A-A'断面に比べ底面の平坦部が狭い。

埋土 単層である。

遺物出土状況 埋土中から土師器30点、須恵器3点、灰釉陶器1点、山茶碗7点、青磁1点が散在して出土した。

出土遺物 須恵器など4点を図示した。1950は美濃須衛窯IV期第1小期に比定したC類の須恵器坏蓋である。1951は丸石2号窯式に比定した灰釉陶器の碗である。1952は第7型式の尾張型山茶碗である。1953は龍泉窯系IV類の青磁碗である。

時期 図示した1953から、本遺構は14世紀初頭から後葉と考えられる。

SD265 (図 327)

検出状況 20地点 ME3グリッド、IV a層上面で検出した。平面形は明瞭であった。底面でSA16-P2を検出した。東側は攪乱により消失する。西側でSK2253・SK2255・SK2257、東側でSD369と重複する。本遺構はSK2253・SK2255・SK2257より古く、SA16・SD369より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、東西に延びる溝状遺構と考えられる。中央の西側で一度狭まるがさらに西に伸びたところで再び広がる。SD266・SD268と概ね平行で等間隔に並ぶ。本遺構はSD266・SD268に比べやや浅い。

埋土 単層の埋土である。炭化物、ブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器30点、須恵器2点、灰釉陶器7点、山茶碗9点、陶器1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SA16・SK2253・SK2257・SD369との重複関係から、本遺構は15世紀後葉と考えられる。

SD266 (図 327)

検出状況 20地点 ME3グリッド、IV a層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側は攪乱により消失する。西側でSK2253・SK2255、南側でSP294・SK2258・SK2259・SK2260・SD267、東側でSD369と重複する。底面でSA16-P3を検出した。本遺構はSK2253・SK2257より古く、SA16・SP294・SK2258・SK2259・SK2260・SD267・SD369より新しい。

SD258 ~ SD262

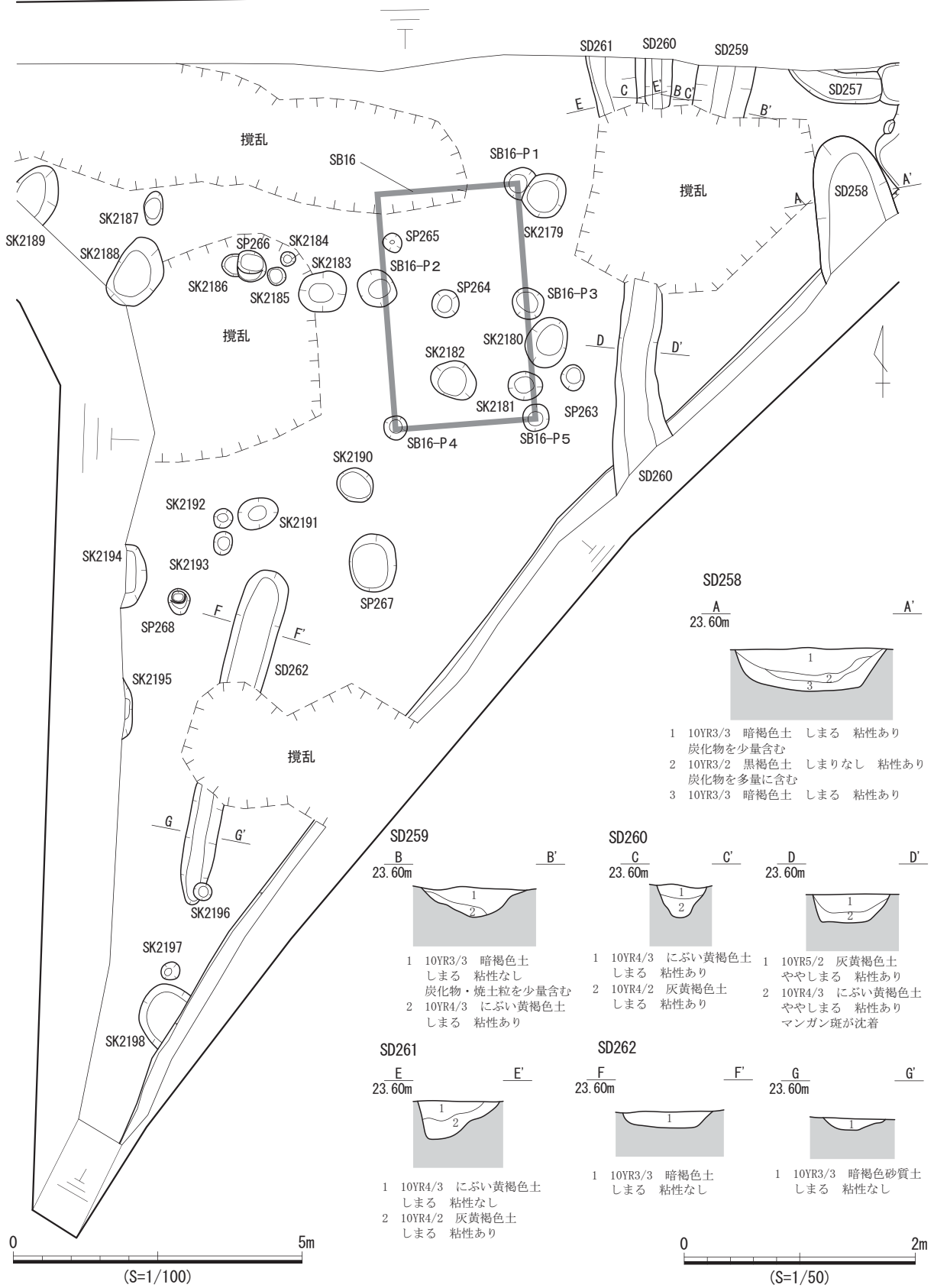


図 325 SD258 ~ SD262 遺構図

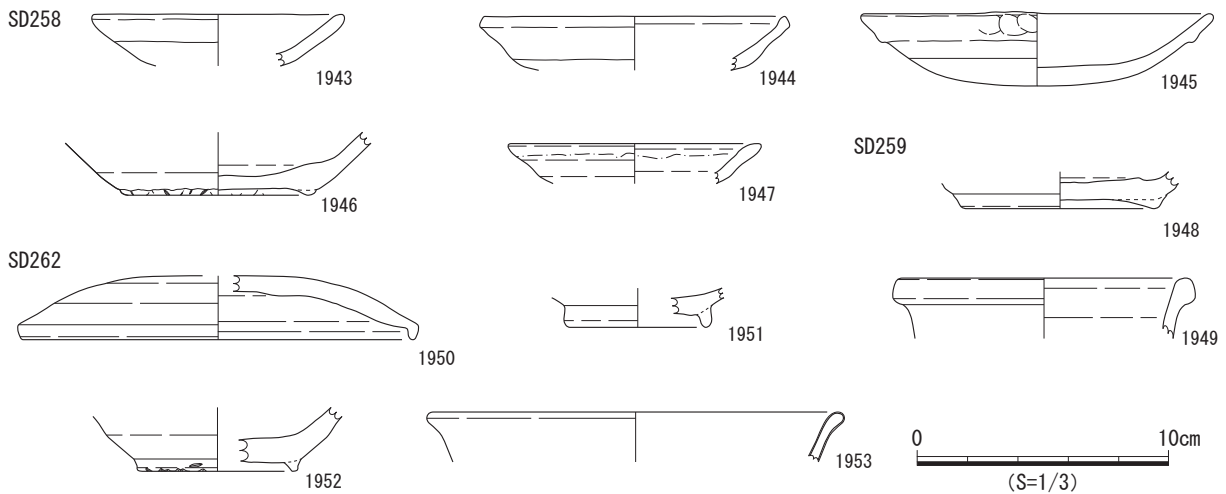


図 326 SD258・SD259・SD262 出土遺物実測図

規模・形状 検出した範囲では、東西に延びる溝状遺構と考えられる。中央付近で一度狭まり両端に向かってやや広がる。SD265・SD268 と概ね平行で等間隔に並ぶ。

埋土 2層に分層した。1層は遺構の大部分を占める。2層は南側の壁面近くに堆積し、崩落土と考えられる。1層にブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 12 点、須恵器 1 点、灰釉陶器 2 点、山茶碗 5 点が散在して出土した。

出土遺物 灰釉陶器 1 点を図示した。1954 は虎溪山 1 号窯式に比定した灰釉陶器の深碗である。

時期 SA16・SK2253・SK2257・SK2258・SD269 との重複関係から、本遺構は 15 世紀後葉と考えられる。

SD268 (図 327)

検出状況 20 地点 ME 3～ME 4 グリッド、IV a 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側は攪乱により消失する。北側で SK2258、西側で SK2253、南側で SK2260、東側で SD369 と重複する。本遺構は、SK2253 より古く、SK2258・SK2260・SD369 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、東西に延びる溝状遺構と考えられる。SD265・SD266 と概ね平行で等間隔に並ぶ。

埋土 2層に分層した。概ね水平に堆積し、中央がやや盛り上がる。1層に炭化物、小型の礫、ブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。2層は全体に鉄分の沈着が認められる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 40 点、須恵器 1 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 6 点、陶器 5 点、釘 1 点が散在して出土した。

出土遺物 釘 1 点(1955)を図示した。

時期 SK2253・SK2258・SK2260・SD269 との重複関係から、本遺構は 15 世紀後葉と考えられる。

SD269・SD368・SD369 (図 328～333)

検出状況 20 地点 ME 2～MF 4 グリッド、SD269 は IV a 層上面、SD368 は SD269 底面、SD369 は IV a 層上面及び SD269 底面で検出した。平面形は不明瞭であった。当初 L 字形の溝状遺構として調査を行ったが、平面形状と土層の堆積状況から、3 条の溝状遺構が重なったものであると判断した。3 条の重複関係は、SD269 が最も新しく、SD369 が最も古い。SD269 は SK2253・SK2254・SK2264 と重複し、い

ずれの遺構より古い。また、SD369 は SK2260・SK2261・SD265・SD266・SD268 と重複し、いずれの遺構より古い。

規模・形状 最も古い SD369 は発掘区の西壁から東に向かって約 4.5m、北に向かって直角に曲がった後約 3 m、1 地点の発掘区際まで延びるが、1 地点では確認できなかった。B-B' 断面では幅 1.75 m になる。2 番目に古い SD368 は、発掘区の西壁から東に向かって延び、幅は 0.9m であったが、深さは 1.0m と 3 つの溝の中で、最も掘り込みが深い。最も新しい SD269 は、幅 0.7m、深さ 0.3m で、発掘区の西壁から東に向かって延び、やや北側に湾曲しながら SK2264 と重複し、収束する。

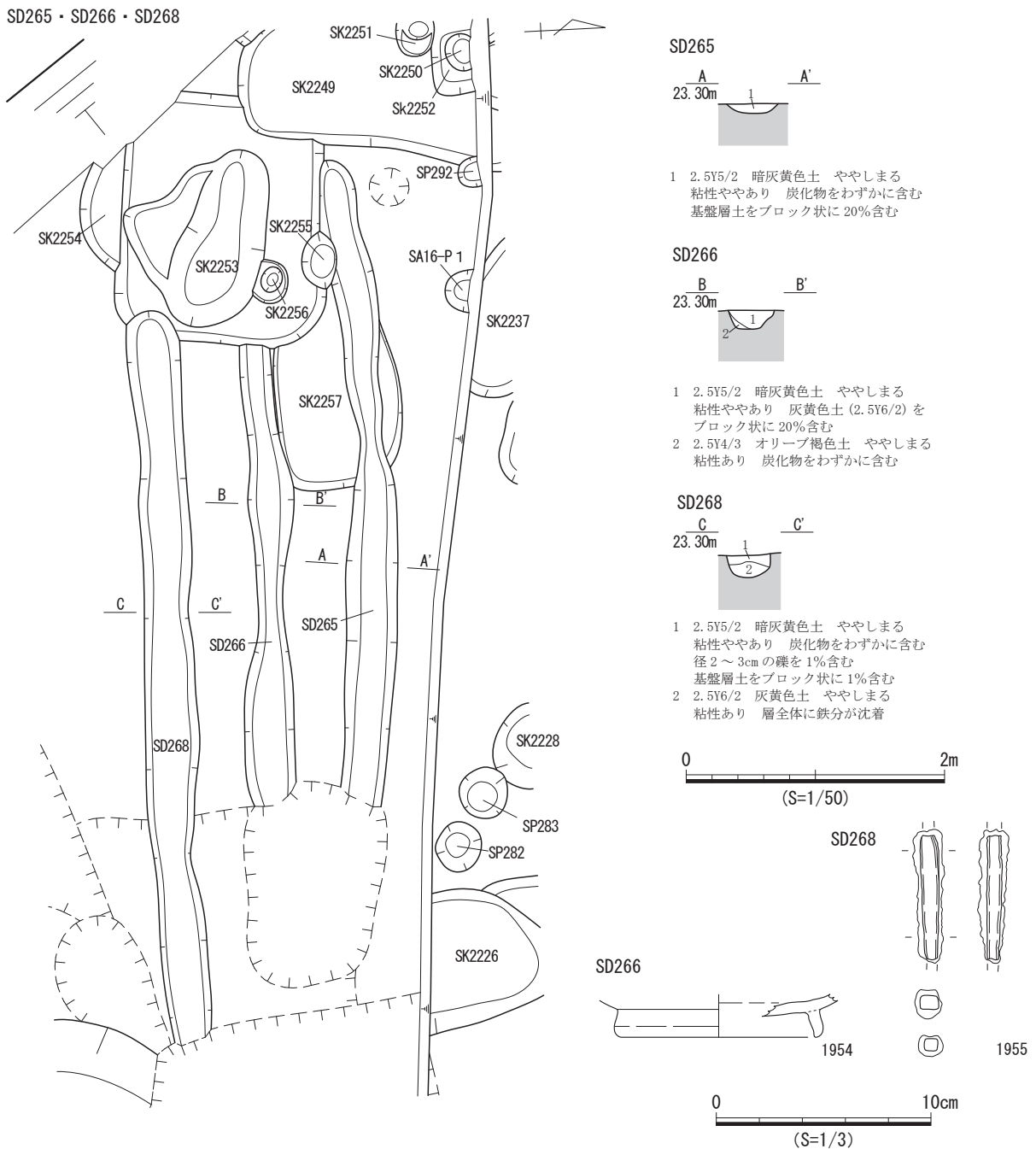


図 327 SD265・SD266・SD268 遺構図・出土遺物実測図

埋土 A-A'断面は7層に分層した。1層と2層はSD269埋土、3層から6層はSD368埋土、7層はSD369埋土と考えられる。1層と2層は小型の礫、焼土、炭化物、ブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。5層と6層はレンズ状の堆積で、自然堆積と考えられる。B-B'断面は2層に分層した。いずれもSD369埋土で、2層はA-A'断面の7層と対応する。1層・2層ともに炭化物、ブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 SD269に対応するA-A'断面の2層から、北側と南側の2箇所に分かれて土師器や陶器がまとまって出土した。SD269廃絶時に廃棄された可能性がある。また、SD368に対応するA-A'断面の3層と4層から、土師器を中心とする土器がまとまって出土した。正位で出土した完形遺物が多いが、意図的に配置された様子がないことから、SD368の廃絶時に廃棄された可能性がある。これらの遺物を含めてSD269から土師器130点、山茶碗1点、陶器7点、SD368から土師器309点、須恵器5点、灰釉陶器5点、山茶碗14点、陶器6点、木製品2点が出土した。SD369からの出土と特定できる遺物はなかった。また、当初1条の溝状遺構としていたため帰属を特定できなかった遺物は、埋土中から土師器768点、須恵器12点、灰釉陶器7点、山茶碗57点、陶器17点、木製品15点が出土した。

出土遺物 土師器皿など64点を図示した。1956～1988はSD269出土遺物である。1972～1982はB1類、1983・1984はB2類、1956～1971はC1類の土師器皿である。1982は口縁部の4箇所と内面見込に煤が付着しており、灯明皿として使用されたと考えられる。1985は古瀬戸後II期の天目茶碗、1986と1987は古瀬戸後IV期新段階の卸目付大皿と挿鉢である。1988はヒノキ材の箸で、方形の角を面取りし、隅丸の断面形を呈する。1989～2017はSD368出土遺物である。1989～2003はC1類、2004～2017はB1類の土師器皿である。2018～2024は帰属を特定できなかった出土遺物である。2018は第3型式、2019と2020は第5型式の尾張型山茶碗である。2021は大畑大洞4号窯式古段階に比定した東濃型山茶碗である。2022は古瀬戸後IV期古段階の卸目付大皿である。2023は差歯下駄の歯で、歯の両端に使用による摩耗が認められる。2024は火付木である。2023と2024はヒノキ材である。

時期 SD269とSD368の重複関係と図示した1986と1987から、SD269とSD368は15世紀後葉に廃絶したと考えられる。また、SD269・SD368との重複関係から、SD369は15世紀後葉以前に廃絶したと考えられる。

SD270 (図334)

検出状況 20地点MG4～MG5グリッド、IVa層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側は発掘区外に延び、西側はSE1と重複して消失する。西側でSE1・SK2321、東側でSE1-P4と重複する。本遺構はSE1より古く、SK2321より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、東西に延びる溝状遺構と考えられる。南にある、SD271・SB19、北にあるSB17・SA17の東西軸と概ね方向が揃う。

埋土 2層に分層した。中央がやや窪む堆積である。1層は小型の礫や炭化物をわずかに含む。いずれの層もブロック土を多く含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器2点が散在して出土した。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SE1・SK2321との重複関係から、本遺構は12世紀後葉から13世紀中葉と考えられる。

SD269・SD368・SD369

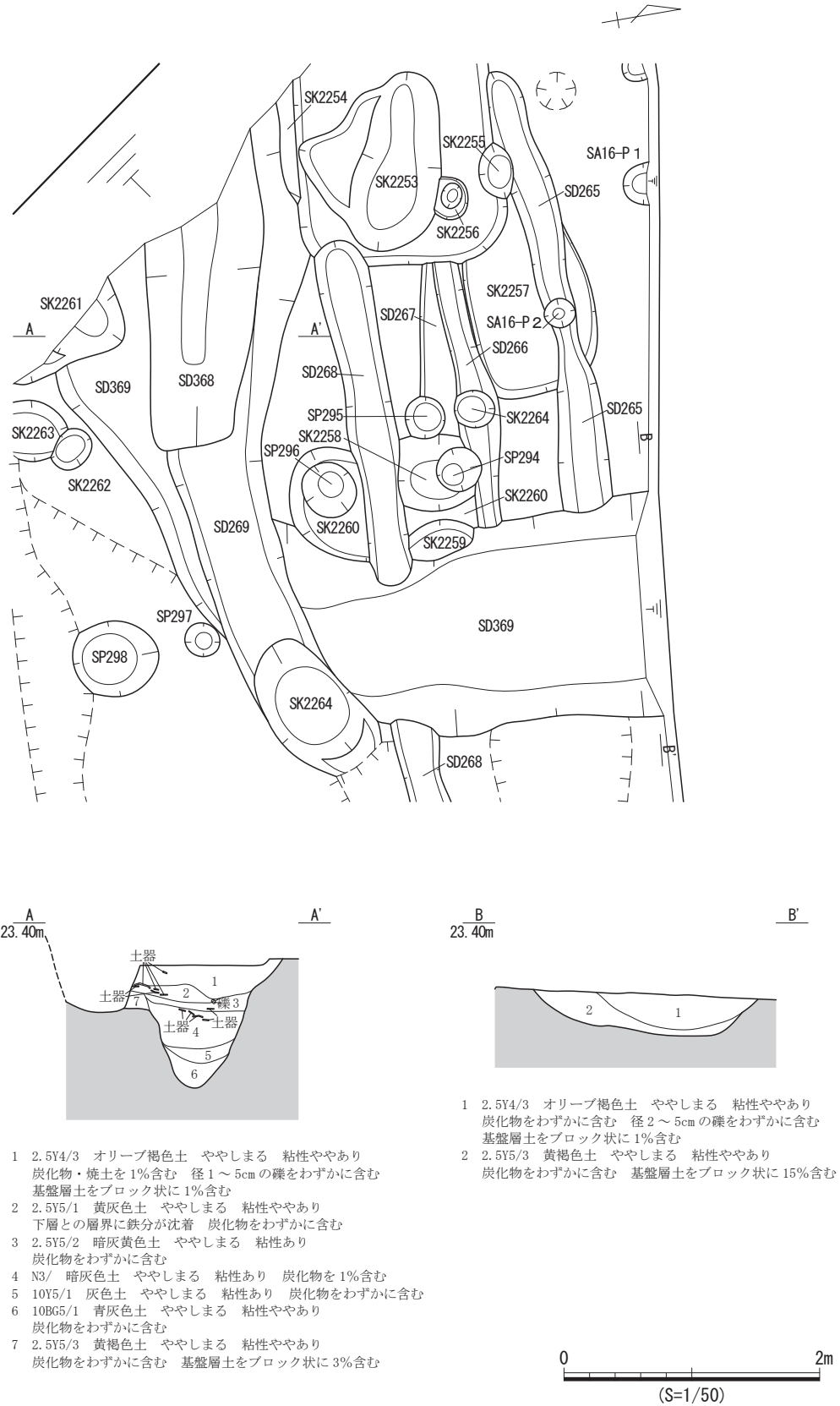


図 328 SD269・SD368・SD369 遺構図

SD269 遺物出土状況図

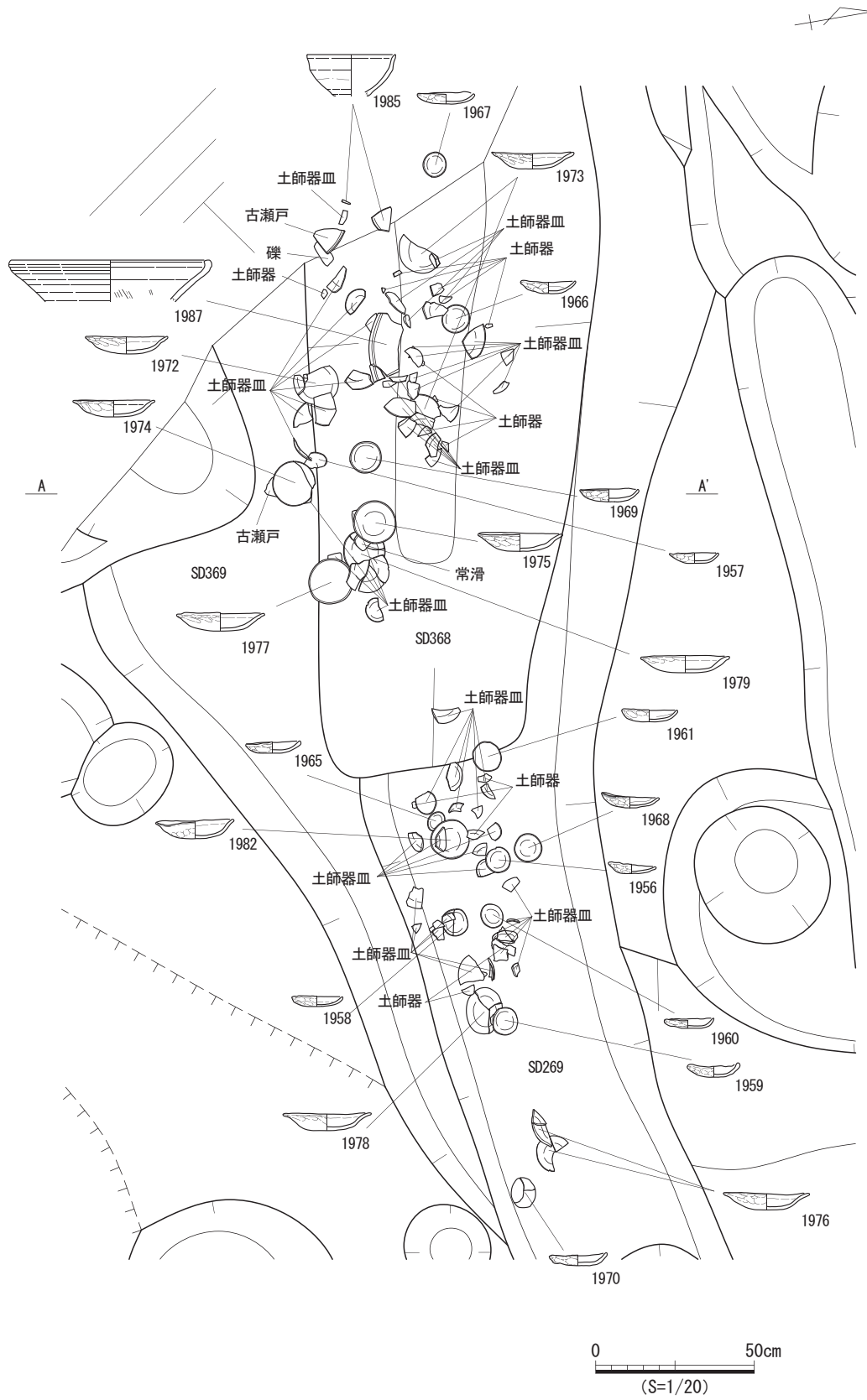


図 329 SD269 遺物出土状況図

SD368 遺物出土状況図

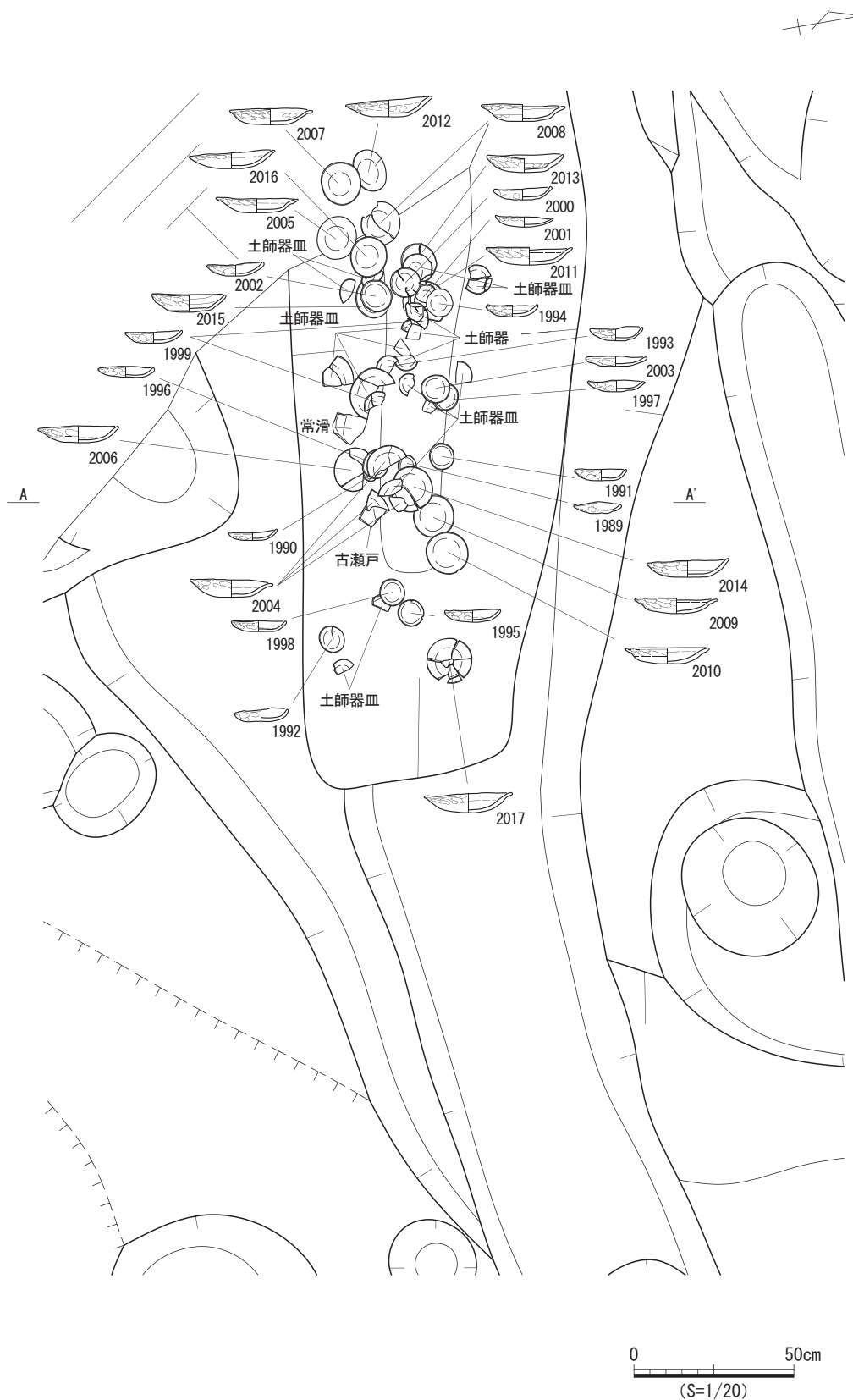


图 330 SD368 遺物出土状況図

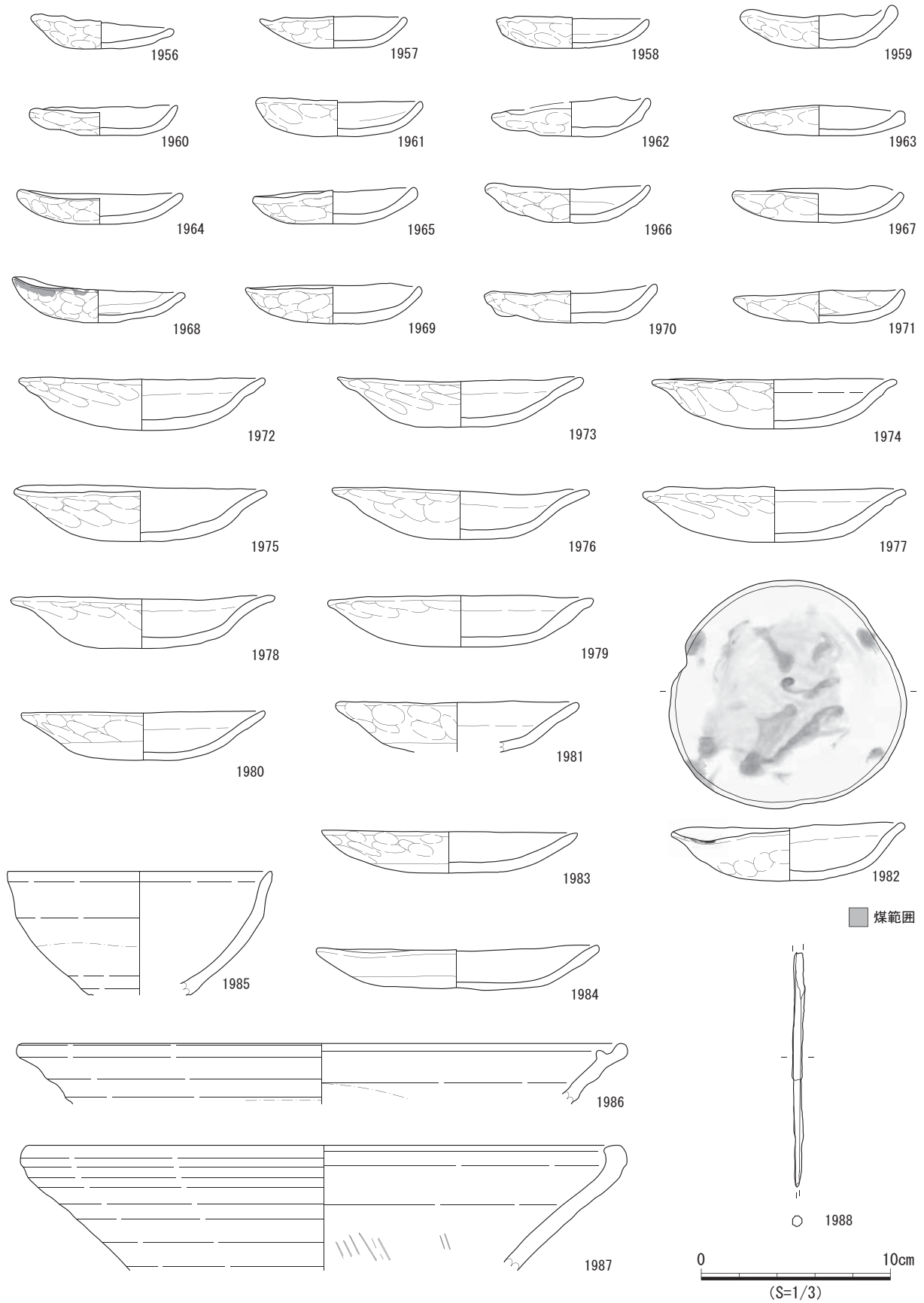


图 331 SD269 出土遺物実測図

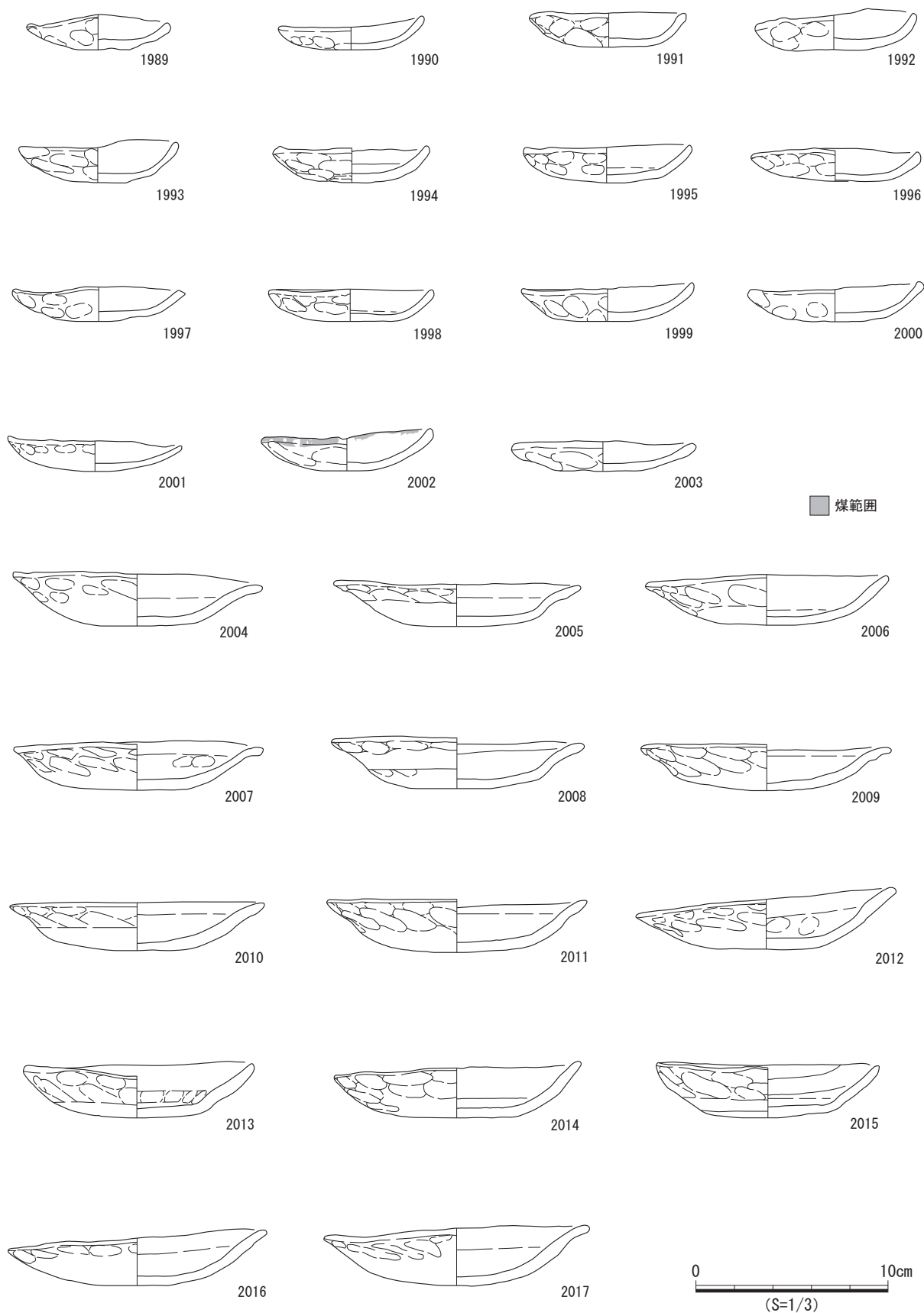


图 332 SD368 出土遺物実測図

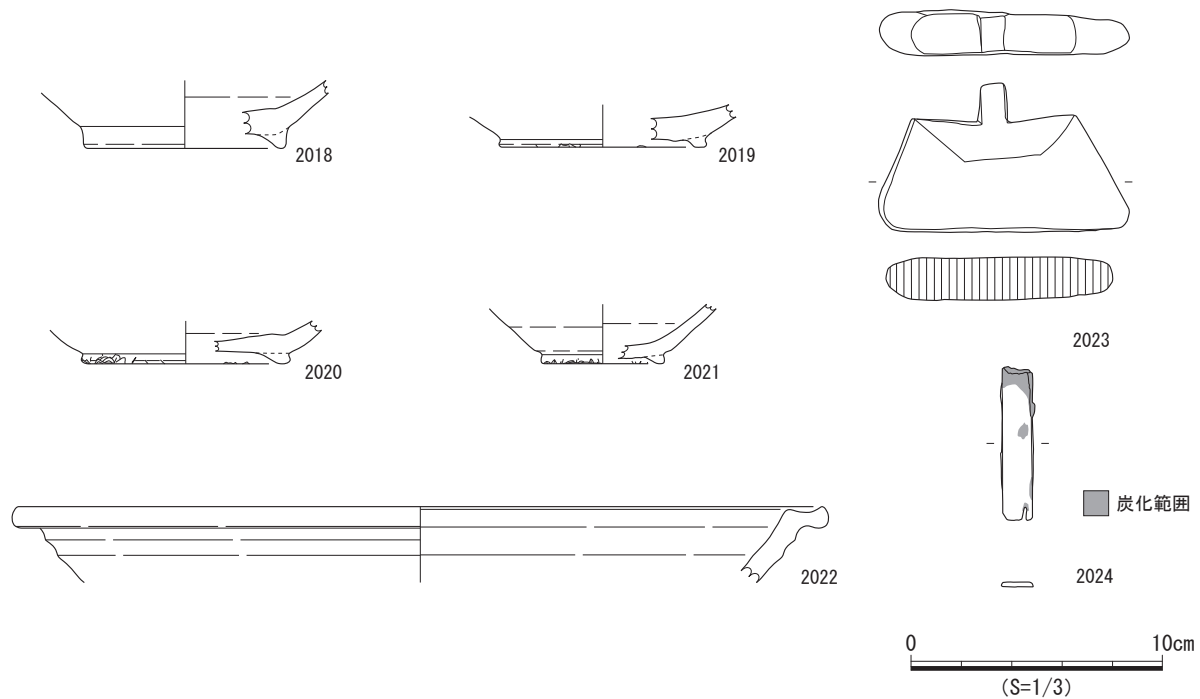


図 333 SD269・SD368・SD369 帰属不明出土遺物実測図

SD271 (図 334)

検出状況 20 地点 MH4～MI5 グリッド、IV a 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側は発掘区外に延びる。北側で SP319、南東側で SK2333～SK2335 と重複する。本遺構は SP319・SK2333～SK2335 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、クランク状に曲がりながら南北に延びる溝状遺構と考えられる。北端は MH4 グリッドの北側で収束する。南側がより深くなっている。東西軸は SD270 と方向が揃う。

埋土 A-A' 断面では単層である。炭化物と基盤層ブロック土を多く含むことから、人為堆積と考えられる。また、B-B' 断面では2層に分層した。1層・2層ともに炭化物、ブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。A-A' 断面の1層とB-B' 断面の1層は対応する。

遺物出土状況 埋土中から土師器 28 点、須恵器 2 点、灰釉陶器 2 点、山茶碗 17 点、古瀬戸 4 点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗 1 点を図示した。2025 は第 6 型式の尾張型山茶碗である。

時期 SK2333 との重複関係と古瀬戸後 I 期の播鉢が出土したことから、本遺構は 14 世紀後葉と考えられる。

SD272・SD273・SD279 (図 335)

検出状況 SD272 は 21 地点 LE17～LE18 グリッド、SD273 は同 LE17～LF17 グリッド、SD279 は同 LE15～LE16 グリッド、IV b 層上面で検出した。いずれも平面形は明瞭で、東西は発掘区外に延びると考えられる。SD272 は西側で SK2340・SK2341 と重複する。SD272 は SK2340・SK2341 より古い。

規模・形状 いずれも東西に延びる溝状遺構である。SD273 は SD279 の延長線上にあり、同一遺構の可能性もある。また、SD272 は SD273・SD279 と 1.95m ほど隔てて並行する。

埋土 SD272 は3層に分層した。埋土全体に炭化物や基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。SD273 と SD279 は単層である。土色や土質は似るが、SD279 埋土は基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 SD272 埋土中から土師器4点、須恵器1点、山茶碗1点、SD279 埋土中から土師器11点、灰釉陶器1点が散在して出土した。SD273 埋土中からは遺物は出土しなかった。

出土遺物 土師器1点を図示した。2026 はSD272 から出土したM3類の土師器皿である。

時期 SD272・SD273・SD279 の位置関係、SK2341 との重複関係、図示した2026 から、SD272・SD273・SD279 は12世紀後葉から13世紀中葉と考えられる。

SD274・SD275・SD280 (図336)

検出状況 SD274 は21地点 LH17~LH18 グリッド、SD275 は同 LI19 グリッド、SD280 は同 LF15~LF16 グリッド、IV b層上面で検出した。平面形はSD274 では不明瞭で、SD275 とSD280 では明瞭であった。SD274 は東側でSK2507 と重複する。SD274 はSK2507 より新しい。SD275 は北側でSA31-P1、南側でSA29-P1・SP395、東側でSK2626、遺構全体でSI8 と重複する。SD275 はSA29・SA31・SP395・SK2626

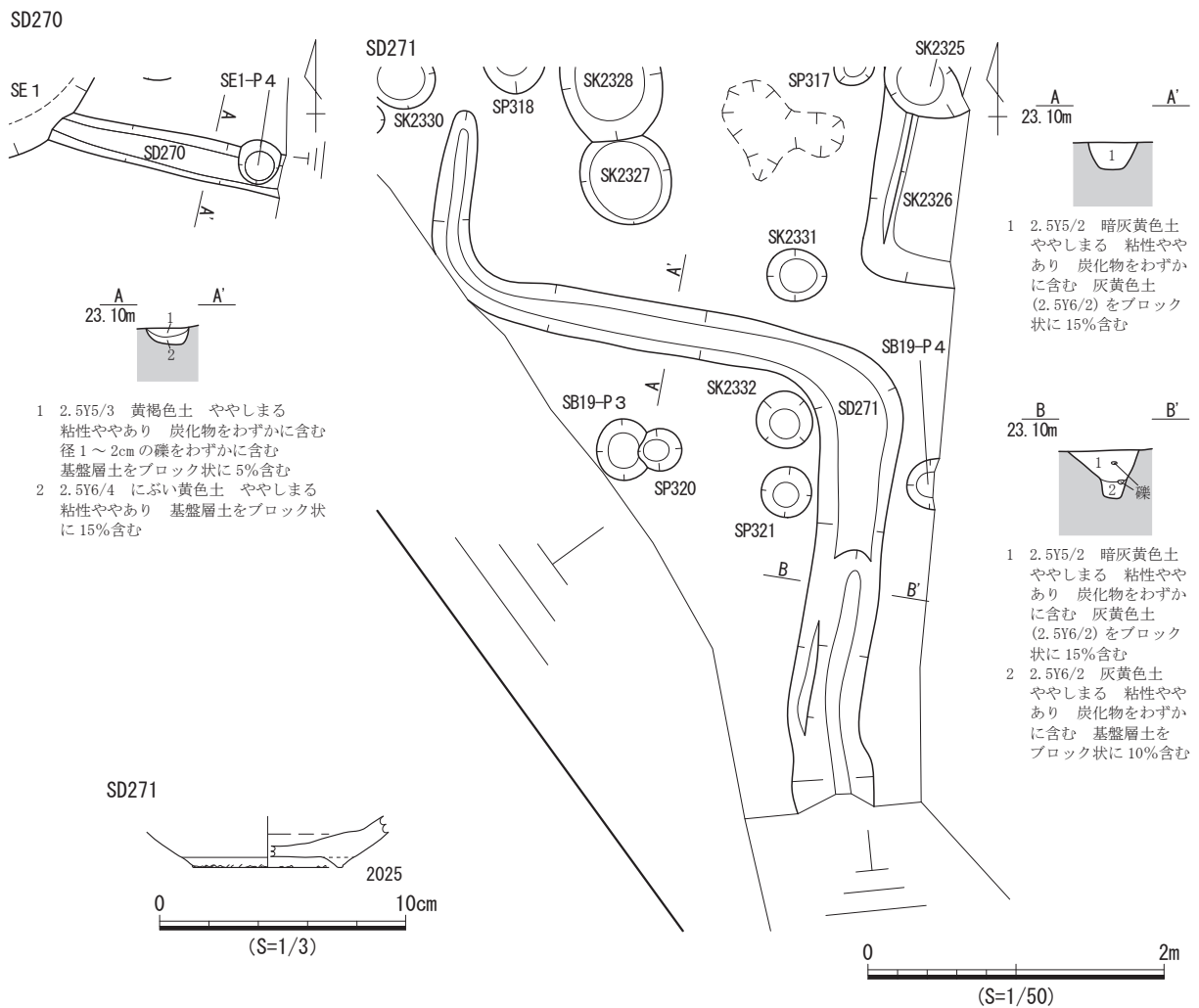


図 334 SD270・SD271 遺構図・出土遺物実測図

SD272・SD273・SD279

SD272

A
23.50m A'



- 1 2.5Y4/6 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土をわずかに含む
基盤層土をブロック状に3%含む
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む
基盤層土をブロック状に2%含む
- 3 2.5Y4/4 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む
基盤層土をブロック状に5%含む

SD273

B
23.50m B'



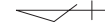
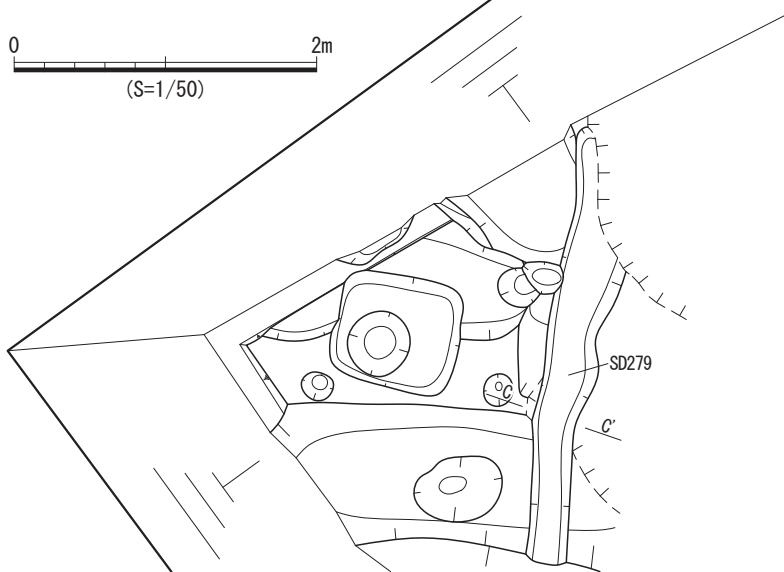
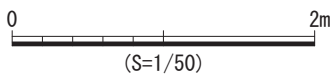
- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む

SD279

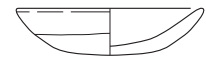
C
23.50m C'



- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む
基盤層土をブロック状に3%含む



SD272



2026

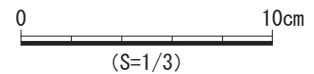


図 335 SD272・SD273・SD279 遺構図・出土遺物実測図

より古く、SI 8 より新しい。SD280 は西側で SK2419・SD282・SL10、東側で SK2447、中央で SA21-P 4・SK2432・SD284 と重複する。SD280 は SA21・SK2419・SK2447 より古く、SK2432・SD282・SD284・SL10 より新しい。

規模・形状 いずれも南北に延びる溝状遺構である。SD274 と SD275 は攪乱を挟み、概ね直線上に位置し、埋土が似ることから同一遺構と考えられる。また、SD280 は SD274・SD275 と方位が揃う。

埋土 SD274 は 2 層に分層した。1 層と 2 層は類似する。SD275 と SD280 は単層である。SD275 埋土は SD274 の 1 層と類似する。

遺物出土状況 SD274 埋土中から土師器 31 点、須恵器 4 点、山茶碗 6 点、陶器 2 点、SD275 埋土中から土師器 5 点、須恵器 1 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 8 点、SD280 埋土中から土師器 4 点、須恵器 2 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2507 との重複関係から SD274 は 13 世紀初頭以降、SP395 との重複関係から SD275 は 15 世紀末以前、また、SD280 は SK2447・SD284 との重複関係から初頭から 15 世紀前葉と考えられる。SD274・SD275・SD280 は同一遺構であることから、時期の重複する 15 世紀初頭から前葉と考えられる。

SD277 (図 337)

検出状況 21 地点 LK20 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南北両側は発掘区外に延びる。西側で SD278 と重複する。本遺構は SD278 より新しい。

規模・形状 南北に延びる溝状遺構である。断面は下部の幅が狭く、上部にかけて大きく開く。西側に 18m 離れて位置する SD285、西側に 30m 離れて位置する SD289 と方位が揃い、規模も似る。

埋土 6 層に分層した。中央がやや窪む。1 層に炭化物や大きな礫をわずかに含むことから、人為堆積と考えられる。堆積状況から複数回の掘り直しがあつた可能性がある。

遺物出土状況 南側の底面から曲物の底板 1 点(2031)、中央の 1 層から大窯の丸皿 1 点(2028)が逆位で出土した。その他に埋土中から土師器 33 点、須恵器 2 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 11 点、陶器 18 点、土錘 1 点が散在して出土した。

出土遺物 灰釉陶器など 5 点を図示した。2027 は虎溪山 1 号窯式に比定した大平鉢である。2028 と 2029 は大窯第 3 段階の丸皿と天目茶碗である。2030 は土錘である。2031 はヒノキ材の曲物の底板である。

時期 図示した 2028 と 2029 から、本遺構は 16 世紀後葉と考えられる。

SD278 (図 337)

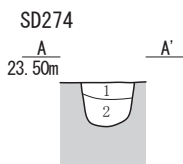
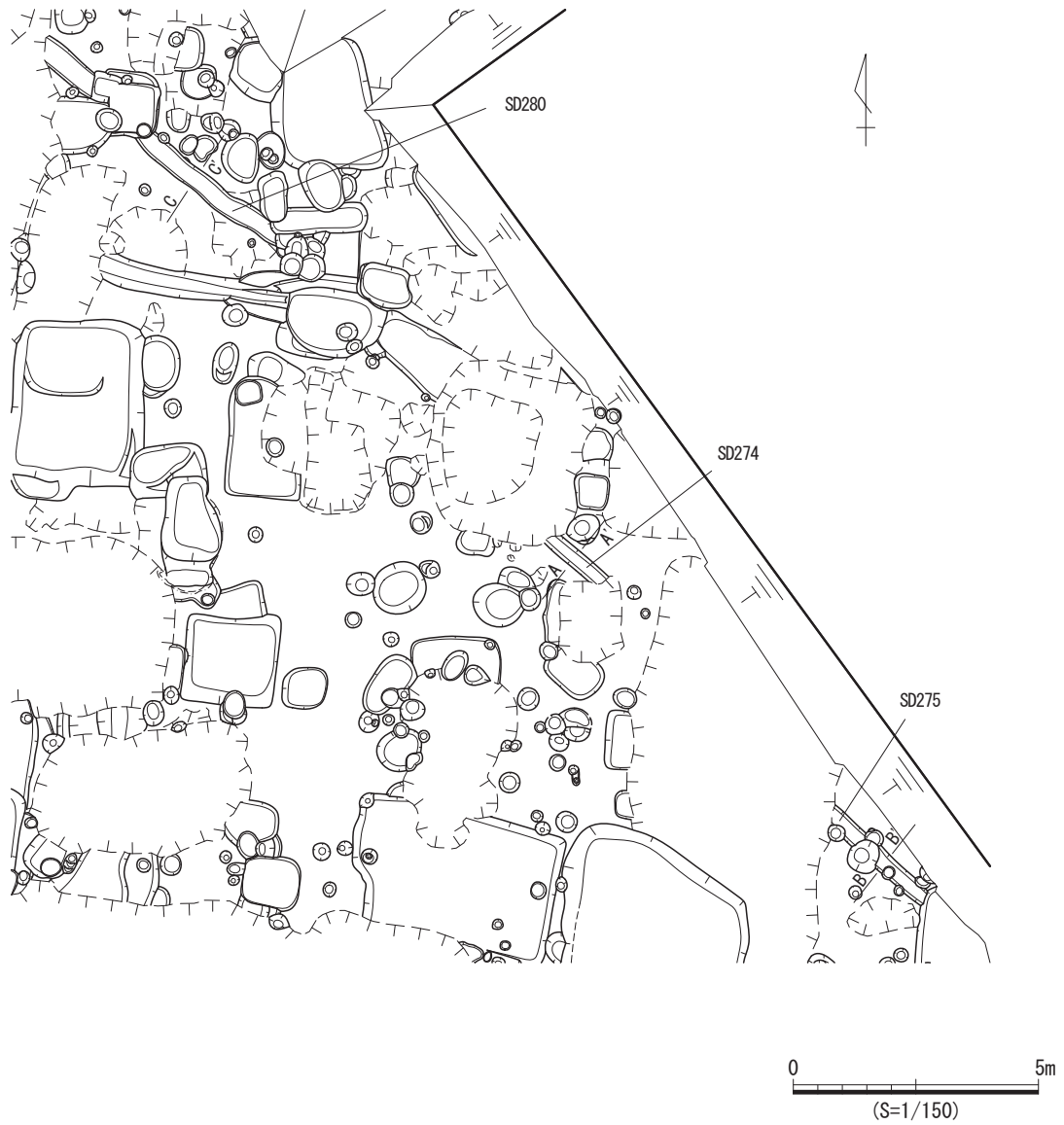
検出状況 21 地点 LJ20~LK20 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。東側は SD277 との重複により大きく消失し、南北両側は発掘区外に延びる。本遺構は SD277 より古い。

規模・形状 南北に延びる溝状遺構である。壁面の傾斜はやや緩やかに開く。西側に 18m 離れて位置する SD285、西側に 30m 離れて位置する SD289 と方位が揃う。

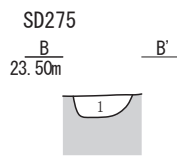
埋土 3 層に分層した。1 層と 3 層に炭化物を含む。2 層と 3 層に基盤層のブロック土を多く含むことから、人為堆積と考えられる。1 層は SD277 2 層と、3 層は SD277 4 層と埋土が似る。SD277 が繰り返し掘り直した可能性があることから、本遺構は SD277 に掘り直された溝であった可能性がある。

遺物出土状況 埋土中から土師器 19 点、須恵器 1 点、山茶碗 12 点、古瀬戸 2 点が散在して出土した

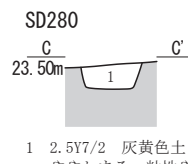
SD274・SD275・SD280



- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む
灰黄色土 (2.5Y6/2) をブロック状
に20%含む
- 2 2.5Y4/4 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む
基盤層土をブロック状に10%含む



- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土をわずかに含む
基盤層土をブロック状に20%含む



- 1 2.5Y7/2 灰黄色土
ややしまる 粘性ややあり
層界に鉄分が沈着

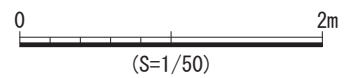


図 336 SD274・SD275・SD280 遺構図

が、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SD277 との重複関係と大畑大洞4号窯式古段階の東濃型山茶碗の皿が出土したことから、本遺構は13世紀末から14世紀初頭と考えられる。

SD281 (図 338)

検出状況 21 地点 LG16～LG17 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東西端は攪乱により消失する。西側でSD284、東側でSK2462・SK2463、中央でSK2460・SD285 と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい

規模・形状 東西に延びる溝状遺構である。わずかにS字状に湾曲する。底面はA-A' 断面付近で西に向かって一段下がる。北側に7m離れて位置するSD273・SD279、8m離れて位置するSD272 と概ね方位が揃うが本遺構が新しい。また、南側に17m離れて位置するSD283 と概ね方位が揃う。

埋土 単層の埋土である。炭化物を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器79点、須恵器6点、灰釉陶器4点、山茶碗6点、陶器5点が散在して出土した。

出土遺物 土師器1点を図示した。2032 はつまみ上げ口縁をもつ丸底甕である。

時期 SK2462 との重複関係から、本遺構は15世紀中葉以降と考えられる。

SD283 (図 339・340)

検出状況 21 地点 LJ17～LK17 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。西側は発掘区外に続く。西側でSD284～SD286、東側でSI12・SI13、中央でSI14 と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 概ね東西に延びる溝状遺構である。断面形は逆三角形から逆台形で、壁面の傾斜はいずれの断面でも急である。底面はA-A' 断面とB-B' 断面では薬研状で、C-C' 断面では平坦である。底面の高さは東に向かって低くなり、東端はやや広く、深くなる。北側に26m離れて位置するSD272、25m離れて位置するSD273 とSD279、18m離れて位置するSD281 と方位が揃う。

埋土 6層に分層した。A-A' 断面、B-B' 断面では6層は元々の底面の堆積で、薬研状に再掘削したために4層と5層が堆積したと考えられる。さらに、堆積状況から複数回の掘り直しが行われたと考えられる。1層はいずれの断面にも対応する堆積で、この溝を最終的に埋めた際の堆積と考えられる。B-B' 断面とC-C' 断面では、埋土に滞水による変色が見られた。

遺物出土状況 中央の1層から土師器皿(2033・2036～2038・2042)や茶釜(2049)、西側の1層から銭貨(2056)が出土した。土師器皿は正位で出土したものも多いが、意図的に配置されたようには見えないことから、溝の廃絶時に廃棄された可能性がある。これらを含め、埋土中から土師器523点、須恵器66点、灰釉陶器30点、山茶碗84点、陶器28点、金属製品2点(銭貨、釘)、木製品8点(種別不明)が出土した。

出土遺物 土師器など24点を図示した。2033～2050は土師器である。2034はC1類、2047はM2類、2035～2046はM3類、2033はM4類の土師器皿である。2048は甕の底部である。2049はB1類の無足の茶釜である。鏝をもたない羽無釜で、貼り付けられた外耳が欠損する。2050はC類の内耳鍋で、三足がつく。2051は美濃須衛窯V期第1小期に比定した須恵器の坏身C類である。2052は第5型式の

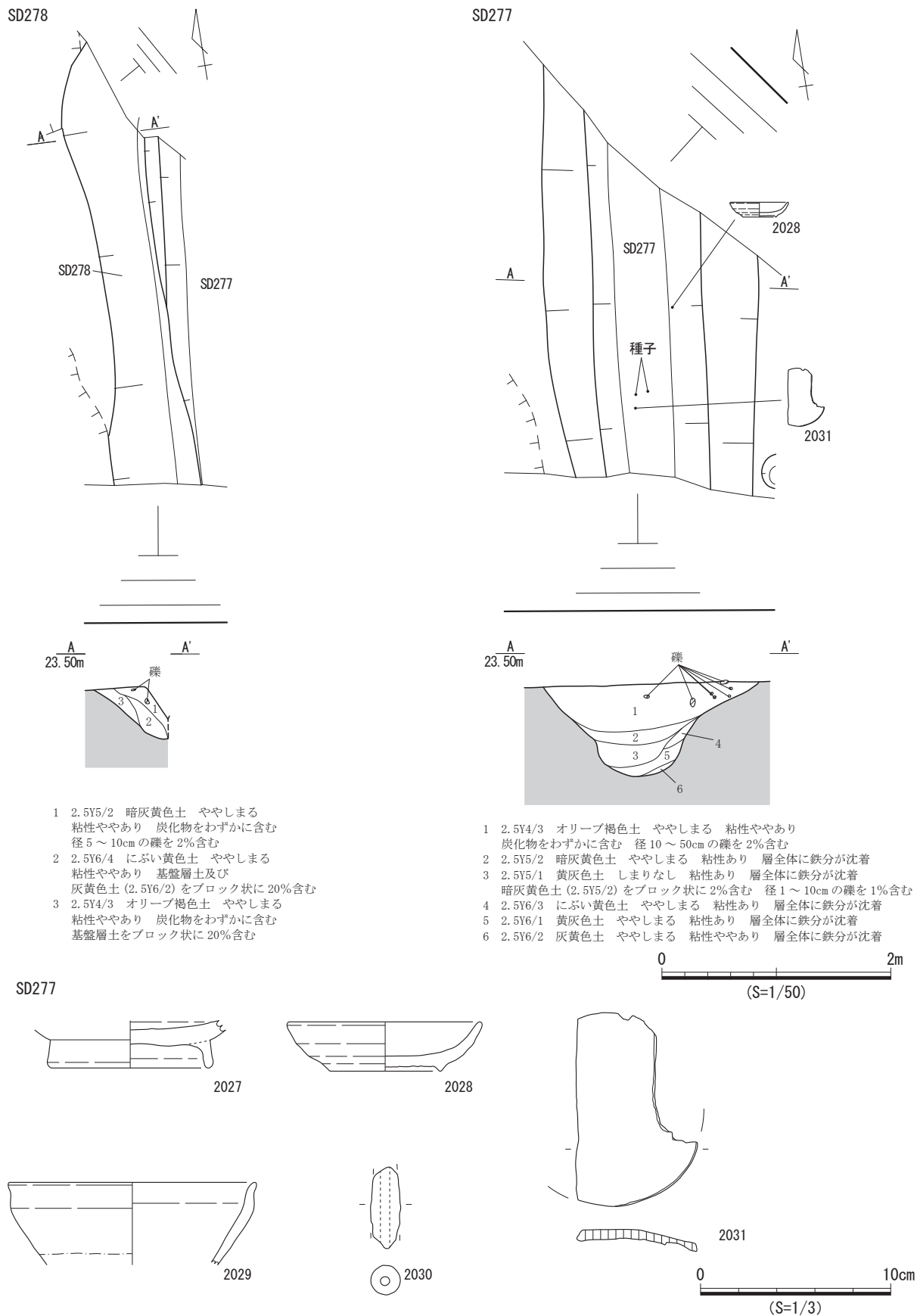


図 337 SD277・SD278 遺構図・出土遺物実測図

尾張型山茶碗である。2053 は古瀬戸後Ⅲ期の卸目付大皿である。2055 は大窯第2段階の播鉢である。2054 は3型式の常滑産の片口鉢である。2056 は銭貨で、「熙寧元寶」（初鑄1068年）である。

時期 遺構の重複から本遺構は15世紀中葉以降に開削され17世紀前葉以前に埋没したと考えられる。
SD284（図341・342）

検出状況 21地点LF15～LJ16グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側は攪乱により消失し、南側は発掘区外に延びる。北側でSA21・SK2414・SK2417・SK2419・SK2432・SD280・SD281・SL10、南側でSK2490・SK2492・SK2494・SK2565と重複する。本遺構はSA21・SK2414・SK2419・SK2490・SK2492・SK2494・SD280・SD281より古く、SK2417・SK2432・SK2565・SL10より新しい。

規模・形状 南北に延びる溝状遺構である。中央から南側にかけて攪乱により消失するが、直線上に延びることから同一遺構とした。上端は南に向かって広がる。いずれの断面でも壁面の傾斜はやや急だが、B-B'断面では西側、C-C'断面では両側で途中から緩やかに開く。底面はA-A'断面ではわずかに丸みを帯び、B-B'断面では丸みを帯び、C-C'断面では概ね平坦である。SD282・SD285・SD289とは概ね方向が揃う。

埋土 A-A'断面では、4層に分層した。1層にブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。B-B'断面とC-C'断面は7層に分層した。B-B'断面では埋土全体にブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。堆積状況から5層～7層堆積後に掘り直されたと考えられる。C-C'断面では3層・6層・7層は崩落土と考えられる。1層はB-B'断面1層と対応し、基盤層のブロック土を含むことから、B-B'断面の1層と同時期に人為的に埋められたと考えられる。

遺物出土状況 南壁面付近の1層底面から完形の土師器皿1点(2061)が正位で出土した。溝廃絶時に投棄されたものと考えられる。その他に埋土中から縄文土器3点、土師器334点、須恵器29点、灰釉陶器4点、山茶碗53点、陶磁器20点が散在して出土した。

出土遺物 縄文土器など9点を図示した。2057と2058は縄文土器で、縄文時代晩期の深鉢である。

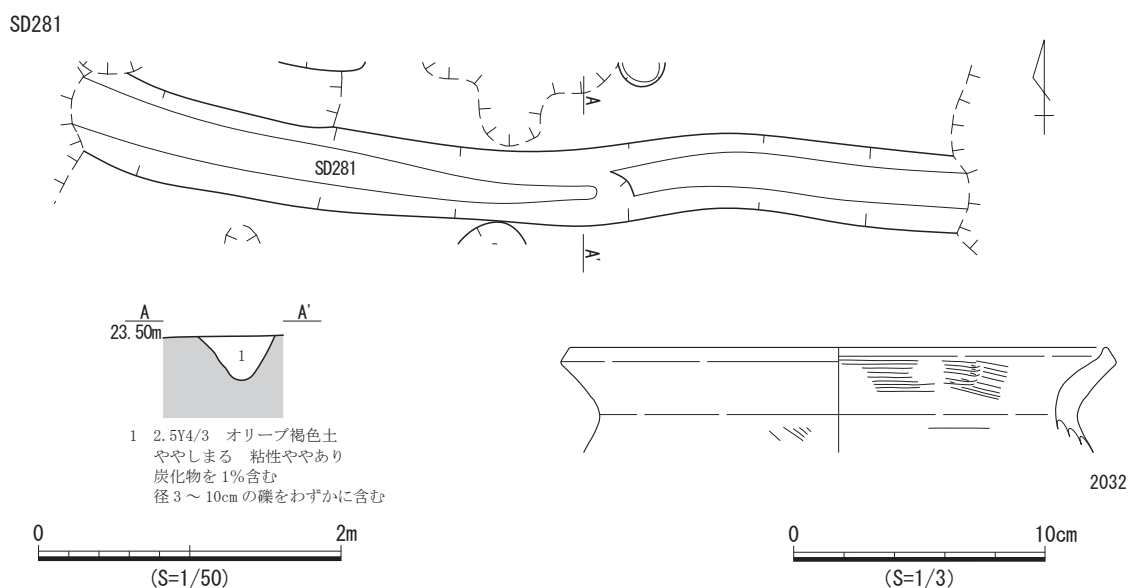


図338 SD281遺構図・出土遺物実測図

SD283

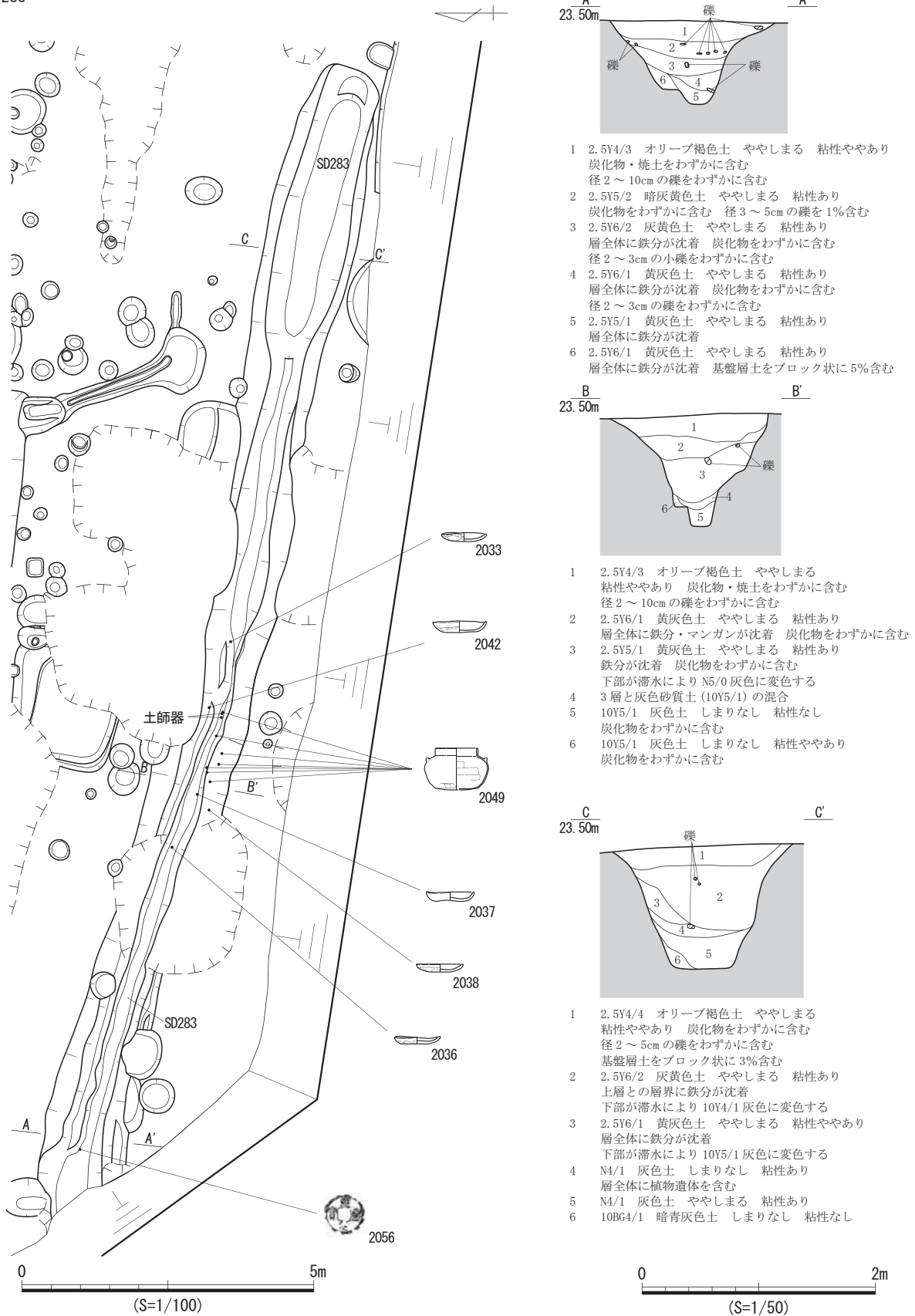


図 339 SD283 遺構図 (1)

SD283 遺物出土状況図

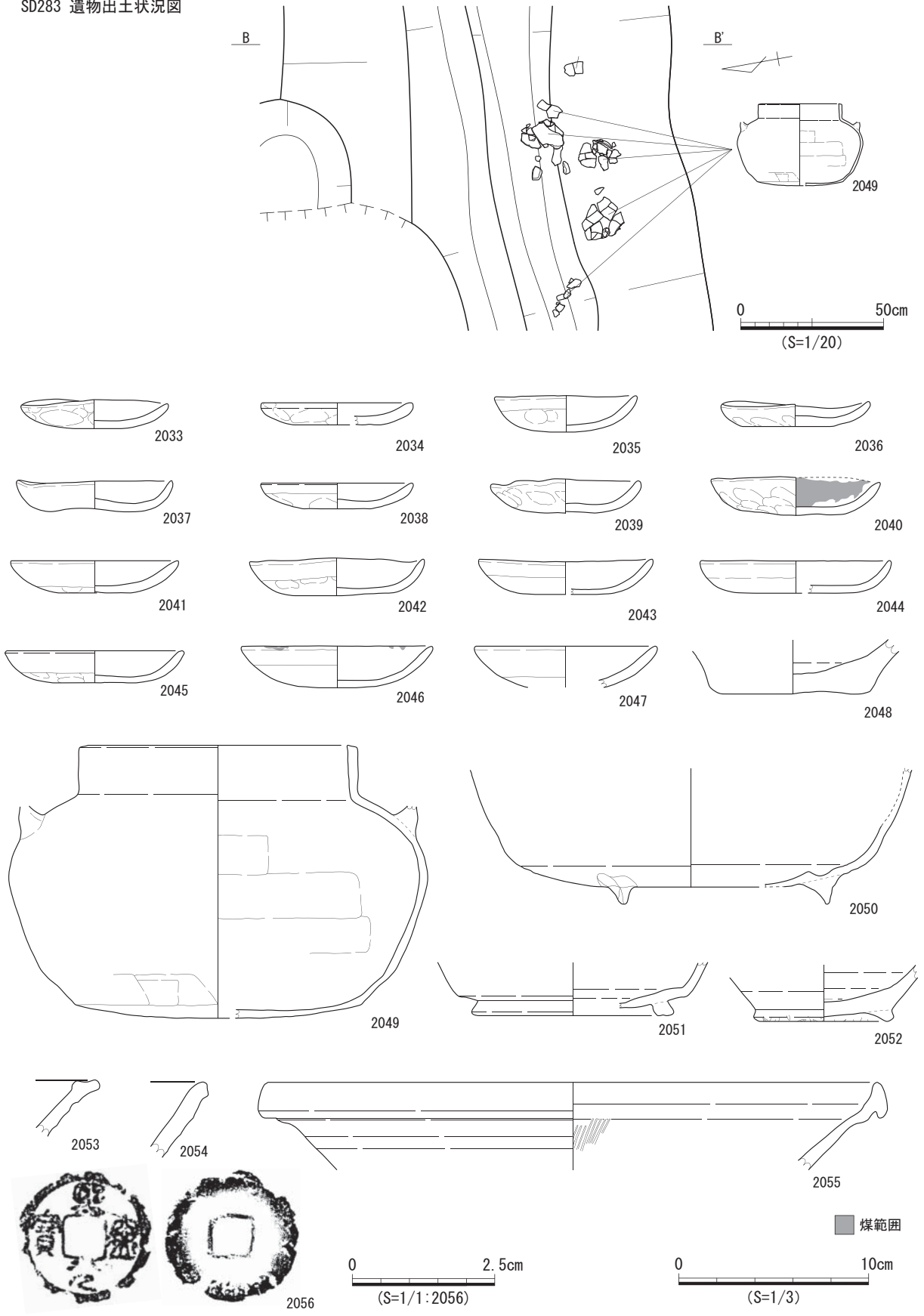
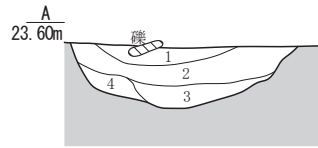
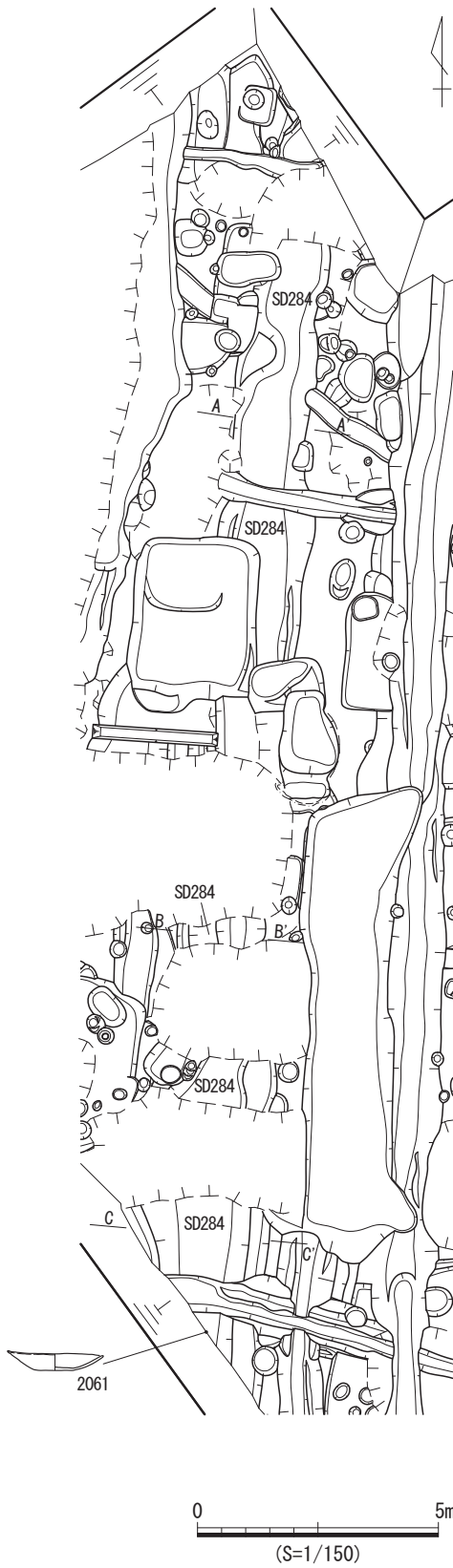
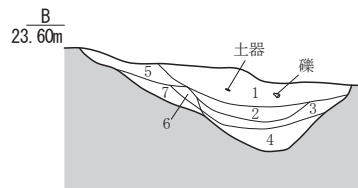


図 340 SD283 遺構図 (2)・出土遺物実測図

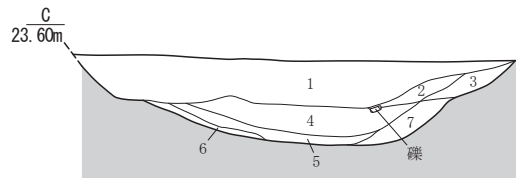
SD284



- 1 2.5Y6/4 にぶい黄色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分・マンガンが沈着
灰黄色土 (2.5Y6/2) をブロック状に20%含む
- 2 2.5Y6/2 灰黄色土 ややしまる 粘性あり
層全体に鉄分が沈着
- 3 2.5Y6/3 にぶい黄色土 ややしまる 粘性あり
層全体に鉄分が沈着
- 4 2.5Y6/4 にぶい黄色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分が沈着 炭化物をわずかに含む
基盤層土をブロック状に15%含む



- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に3%含む
- 2 2.5Y5/4 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
明黄褐色土 (2.5Y6/6) をブロック状に30%含む
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に5%含む
- 4 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に5%含む
- 5 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に7%含む
- 6 2.5Y5/4 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
基盤層土をブロック状に15%含む
- 7 2.5Y5/6 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
基盤層土をブロック状に30%含む



- 1 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に5%含む
径1~2cmの礫をわずかに含む
- 2 2.5Y6/4 にぶい黄色土 ややしまる 粘性あり
層全体にマンガンが沈着
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
基盤層土をブロック状に1%含む
- 4 2.5Y6/3 にぶい黄色土 ややしまる 粘性あり
層全体に鉄分・マンガンが沈着 炭化物をわずかに含む
- 5 2.5Y6/2 灰黄色土 ややしまる 粘性あり
層全体に鉄分が沈着
- 6 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に10%含む
- 7 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 基盤層土をブロック状に10%含む

図 341 SD284 遺構図

2059～2062 は土師器である。2061 はB 1 類、2059 はC 1 類、2060 はM 3 類の土師器皿である。2062 はA 4 類の羽釜である。2063 は美濃須衛窯Ⅲ期後半に比定した須恵器の坏身A類である。2064 は脇之島3号窯式に比定した東濃型山茶碗で、外面底部に「可」の可能性のある墨書が確認できる。2065 は10型式の常滑産の甕である。

時期 SK2492 との重複関係と図示した 2064 から、本遺構は 15 世紀初頭と考えられる。

SD285 (図 343)

検出状況 21 地点 LF15～LK16 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。南北両側は発掘区外に延びる。北側で SK2442・SK2443・SK2447・SK2479・SD281、南側で SI14・SD283・SD288、中央で SI 4・SI 7・SP372・SK2476・SK2477・SK2498・SK2538・SK2539・SD287 と重複する。本遺構は SP372・SK2442・SK2443・SK2447・SK2479・SK2498・SK2538・SK2539 より古く、SI4・SI7・SI14・SK2476・SK2477・SD287・SD288 より新しい。

規模・形状 南北に延びる溝状遺構である。壁面の傾斜はA-A' 断面の東側では急で、他では上部がやや開く。底面はやや丸みを帯びる。東に18m離れて位置するSD277、西に10m離れて位置するSD289 と方位が揃い、幅も似る。互いに関係して東西を区画する溝であったと考えられる。

埋土 A-A' 断面では11層に分層した。1層から7層の形状がB-B' 断面の形状と似ていることから、9層～10層堆積後に再掘削した可能性がある。堆積状況から複数回掘り直して使用されたと考えられる。A-A' 断面とB-B' 断面ともに1層の埋土が似ており、基盤層のブロック土を含むことから、同時期に埋められたと思われる。

遺物出土状況 A-A' 断面1層に対応する埋土から完形の土師器皿2点(2067・2069)と山茶碗1点(2077)が出土した。また、B-B' 断面3層に対応する埋土から完形の土師器皿2点(2068・小片)が出土した。意図的な配置が見られないことから廃棄されたと考えられる。その他に埋土中から土師器

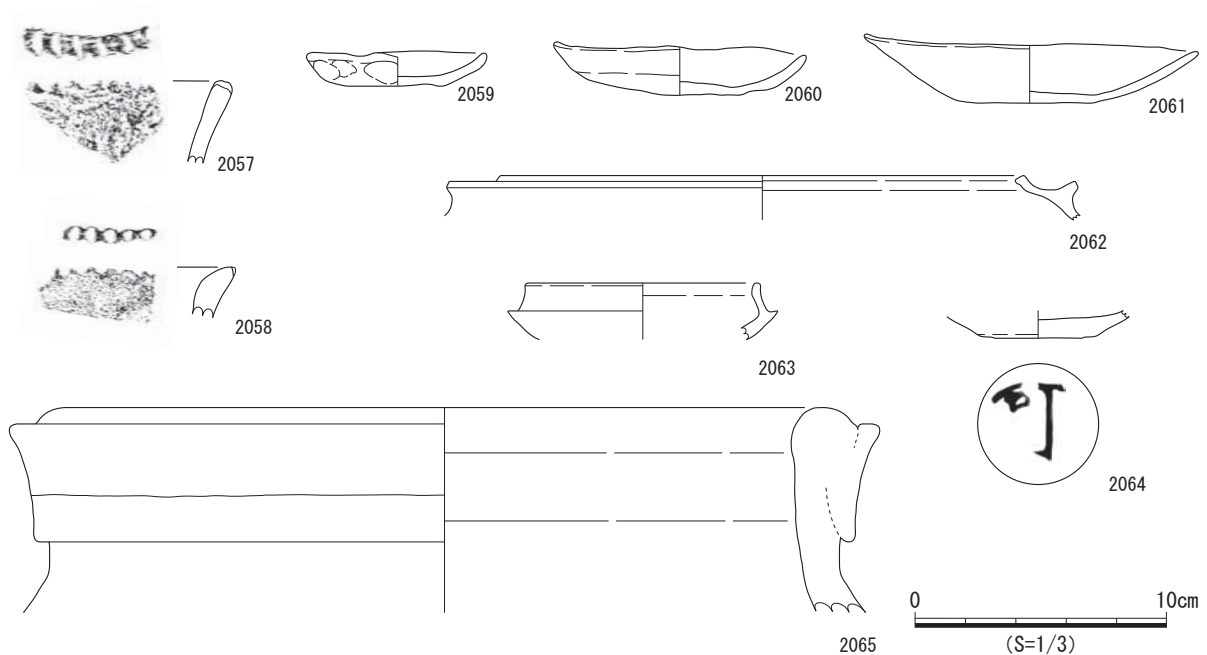


図 342 SD284 出土遺物実測図

753点、須恵器124点、灰釉陶器25点、山茶碗214点、陶器55点、釘2点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など17点を図示した。2066～2071は土師器である。2066～2068はC1類、2069はM3類の土師器皿である。2070は長胴甕、2071はつまみ上げ口縁をもつ丸底甕である。2072と2073は美濃須衛窯V期第1小期に比定した坏身C類である。2074は黒笹90号窯式に比定した灰釉陶器の皿である。2077と2078は第5型式の尾張型山茶碗である。2075と2076は大畑大洞4号窯式新段階と脇之島3号窯式に比定した東濃型山茶碗である。2079と2080は古瀬戸後IV期古段階の播鉢と折縁深皿である。2081と2082は釘である。

時期 図示した2079と2080から、本遺構は15世紀中葉と考えられる。

SD286 (図344)

検出状況 21地点LJ16～LK16グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側は重複により消失し、南側は発掘区外に延びる。北側でSD287、西側でSK2565・SL12、東側でSI14、中央でSD283と重複する。本遺構はSD283・SD287より古く、SI14・SK2565・SL12より新しい。

規模・形状 南北に延びる溝状遺構である。SD285と並行し、南側ではわずかに東に湾曲する。壁面の傾斜は下部では急で、東側の上部では緩やかに開く。底面は概ね平坦である。

埋土 4層に分層した。1層と4層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。4層は一段深くなった部分の堆積である。堆積状況から、1層から3層は再掘削部分の可能性がある。

遺物出土状況 埋土中から土師器25点、須恵器4点、灰釉陶器6点、山茶碗6点、古瀬戸2点が散在して出土した。

出土遺物 古瀬戸1点を図示した。2083は後III期の耳付鍋である。

時期 図示した2083から、本遺構は14世紀後葉から15世紀初頭と考えられる。

SD287 (図345・346)

検出状況 21地点LI16～LJ16グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側でSA24-P1・SA25-P1・SK2497・SK2498、南側でSP372・SK2538・SK2539・SK2565・SD286、東側でSD285と重複する。本遺構はSA24・SA25・SP372・SK2497・SK2498・SK2538・SD285より古く、SK2565・SD286より新しい。

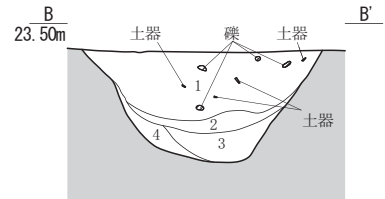
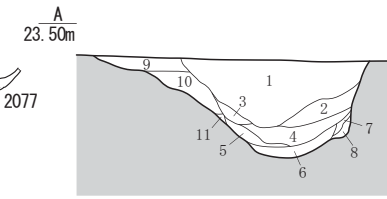
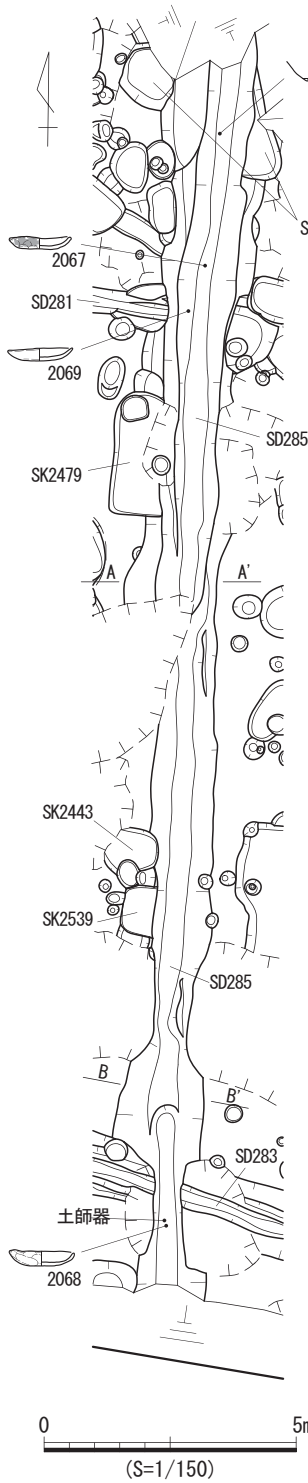
規模・形状 南北に延びる溝状遺構である。南北端がそれぞれ東側に張り出す。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦で、南北の高低差も小さい。SD282・SD284・SD289と方向が揃う。

埋土 A-A'断面、B-B'断面ともに6層に分層した。A-A'断面1層とB-B'断面1層は土質や含有物が似ていることから、対応する埋土であると考えられる。また、1層に炭化物や基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積であると考えられる。B-B'断面では2層から5層にかけて基盤層のブロック土を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器201点、須恵器42点、灰釉陶器2点、山茶碗50点、陶器15点、土錘1点、金属製品3点(釘、鉄滓、種別不明)が散在して出土した。

出土遺物 土師器など10点を図示した。2084と2085は土師器である。2084はC1類の土師器皿、2085はつまみ上げ口縁をもつ丸底甕である。2086と2087は美濃須衛窯産の須恵器で、2086はIV期第3小期に比定した坏身B類、2087はV期第1小期に比定した坏身C類である。2090は第4型式の尾張型山茶碗である。2088と2089は東濃型山茶碗で、2088は谷迫間2号窯式、2089は生田2号窯式に比定し

SD285



- 1 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土をわずかに含む
基盤層土をブロック状に5%含む
- 2 2.5Y6/4 にぶい黄色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分が沈着 基盤層土をブロック状に20%含む
- 3 2.5Y5/3 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
基盤層土をブロック状に15%含む
- 4 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 層全体に鉄分・マンガンが沈着
基盤層土をブロック状にわずかに含む
- 5 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分が沈着 炭化物をわずかに含む
基盤層土をブロック状に1%含む
- 6 2.5Y5/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分が沈着
- 7 2.5Y6/4 にぶい黄色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分が沈着 基盤層土をブロック状に20%含む
- 8 2.5Y6/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり
径1~2cmの小礫をわずかに含む
- 9 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
層状に粗砂を含む 基盤層土をブロック状に3%含む
- 10 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
基盤層土をブロック状に30%含む
- 11 2.5Y6/2 灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分が沈着

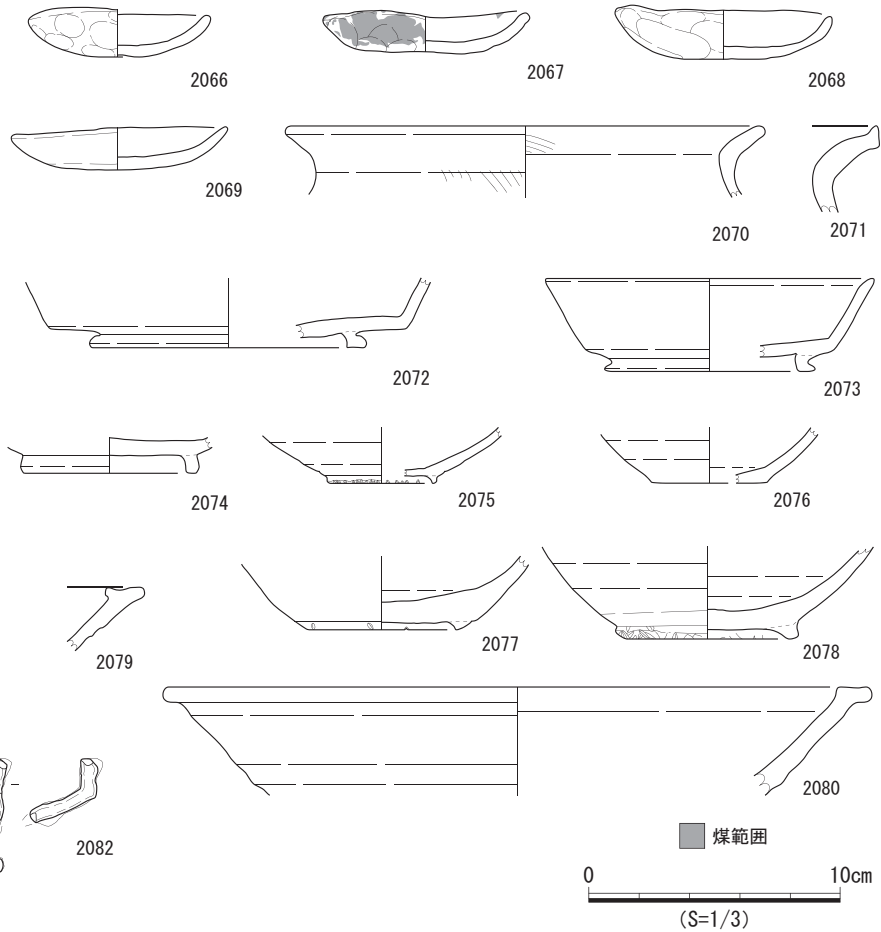
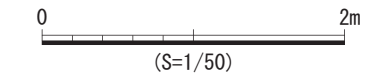


図 343 SD285 遺構図・出土遺物実測図

た。2091 は古瀬戸後Ⅲ期の直縁大皿である。2092 は土錘である。2093 は釘である。

時期 SD285 との重複関係と図示した 2091 から本遺構は 15 世紀前葉と考えられる。

SD288 (図 345)

検出状況 21 地点 LJ16~LJ17 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側は攪乱、西側は重複により消失する。西側で SD285、遺構全体で SI14 と重複する。本遺構は SD285 より古く、SI14 より新しい。

規模・形状 L 字状の溝状遺構である。周辺の溝状遺構に比べて浅く、L 字状に湾曲することから、竪穴建物の壁際溝である可能性も考えられる。

埋土 単層の埋土である。炭化物やブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 5 点、山茶碗 1 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった

時期 SI14、SD285 との重複関係から、本遺構は 12 世紀中葉から 15 世紀中葉と考えられる。

SD292 (図 347)

検出状況 21 地点 LH11~LJ11 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。南北両

SD286

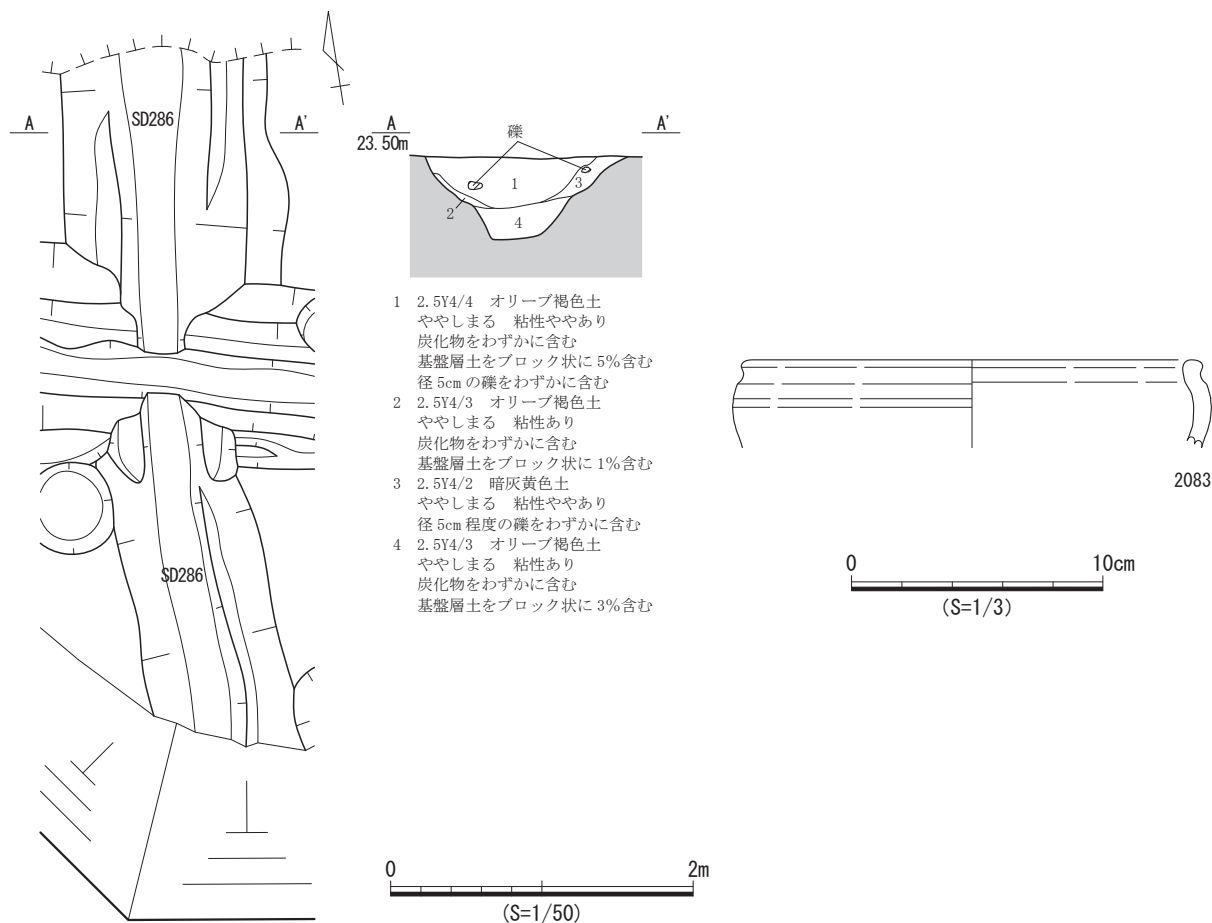


図 344 SD286 遺構図・出土遺物実測図

SD287

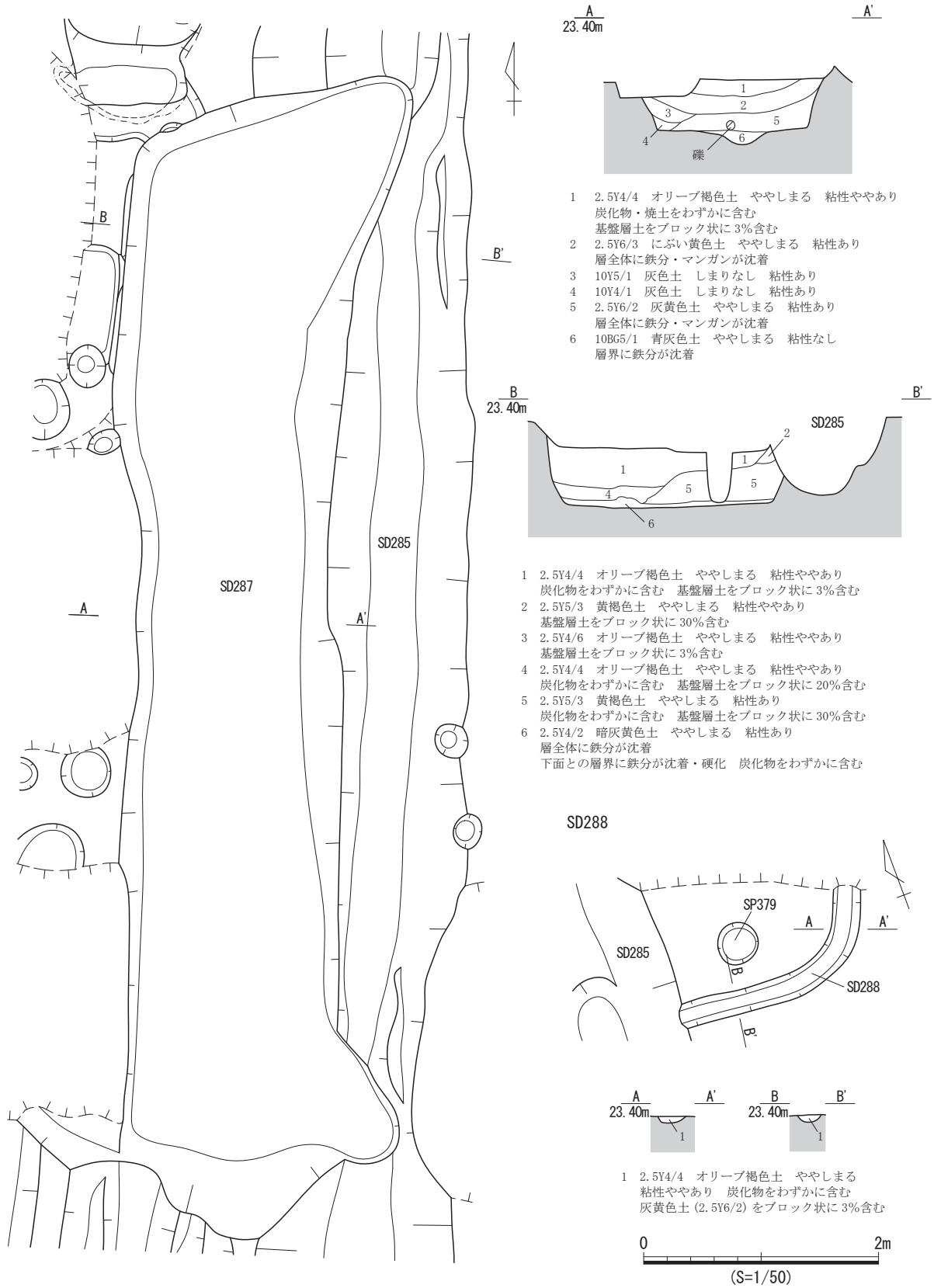


図 345 SD287・SD288 遺構図

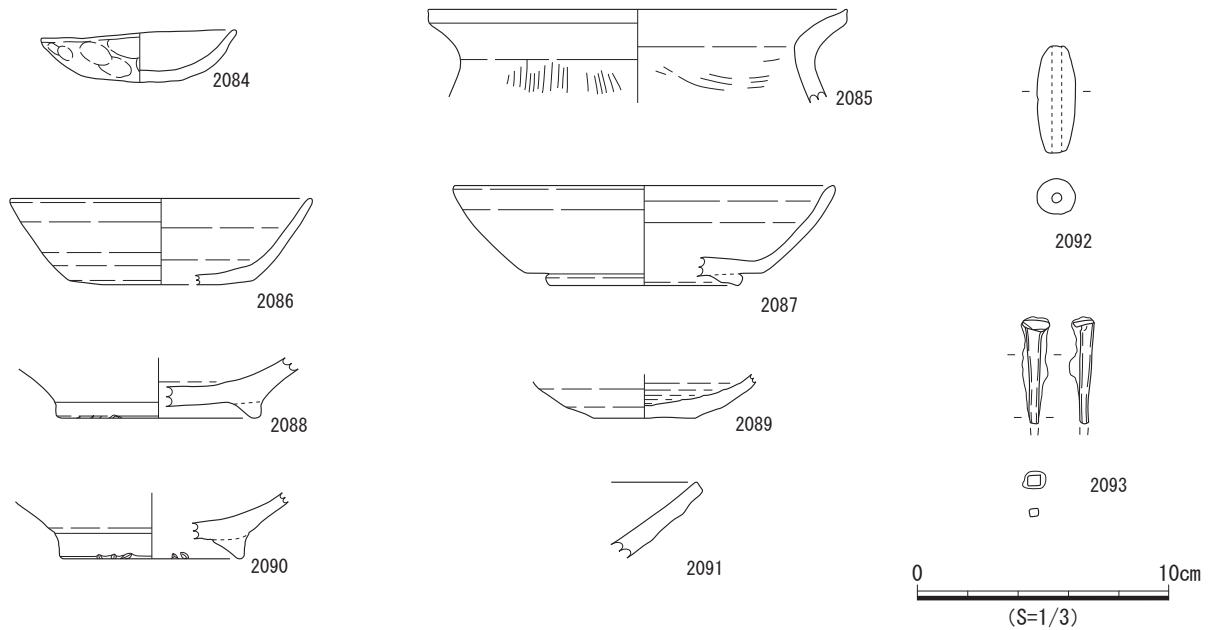


図 346 SD287 出土遺物実測図

側は発掘区外に延びる。北側で SB20-P 1・SB23-P 1・SK2747・SK2749・SK2765～SK2768、南側では SB20-P 5・SB23-P 4・SB25-P 4・SK2819・SK2823・SK2840・SK2843・SK2851 と重複する。本遺構は SB20・SB23・SB25・SK2749・SK2819・SK2823・SK2843 より古く、SK2840・SK2851 より新しい。

規模・形状 南北に延びる溝状遺構である。壁面の傾斜は緩やかで、底面は凹凸が見られる。SF 2 の側溝である SD293～SD296 と方位が揃うことから、SF 2 が拡張や改修を繰り返した際のいずれかの時期で、側溝の役割を果たした可能性も考えられる。

埋土 3層に分層した。1層と2層に炭化物を含む。2層と3層は礫の堆積に偏りがあることから、人為堆積の可能性はある。掘削後に基盤層確認を行ったところ、西側の基盤層はV層、東側の基盤層はIV b層であり、本遺構は地形の境目に設置された可能性はある。

遺物出土状況 埋土中から土師器 324 点、須恵器 29 点、灰釉陶器 39 点、山茶碗 264 点、陶磁器 39 点、金属製品 6 点（種別不明）が散在して出土した。

出土遺物 土師器など 7 点を図示した。2094～2096 はM 3 類の土師器皿である。2097 は丸石 2 号窯式に比定した灰釉陶器の皿である。2098 は第 7 型式の尾張型山茶碗である。2099 は丸石 3 号窯式に比定した東濃型山茶碗である。2100 は龍泉窯系 II - C 類の青磁碗で、内面見込に草花文が施される。

時期 遺構の重複から、本遺構は 13 世紀末以降に開削され 15 世紀中葉以前に埋没したと考えられる。

8 炉・カマド

SL10 (図 348)

検出状況 21 地点 LF16 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側で SK2413・SK2415・SK2416・SK2419・SK2420・SD280、南側で SK2417・SD284 と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 平面形は北側に不整形の部分とその南側に溝状に延びる部分があり、不定形である。北側は一段下がり、1 層底面で被熱痕を確認したことから、炉の焚口と考えられる。C - C' 断面は

SD292

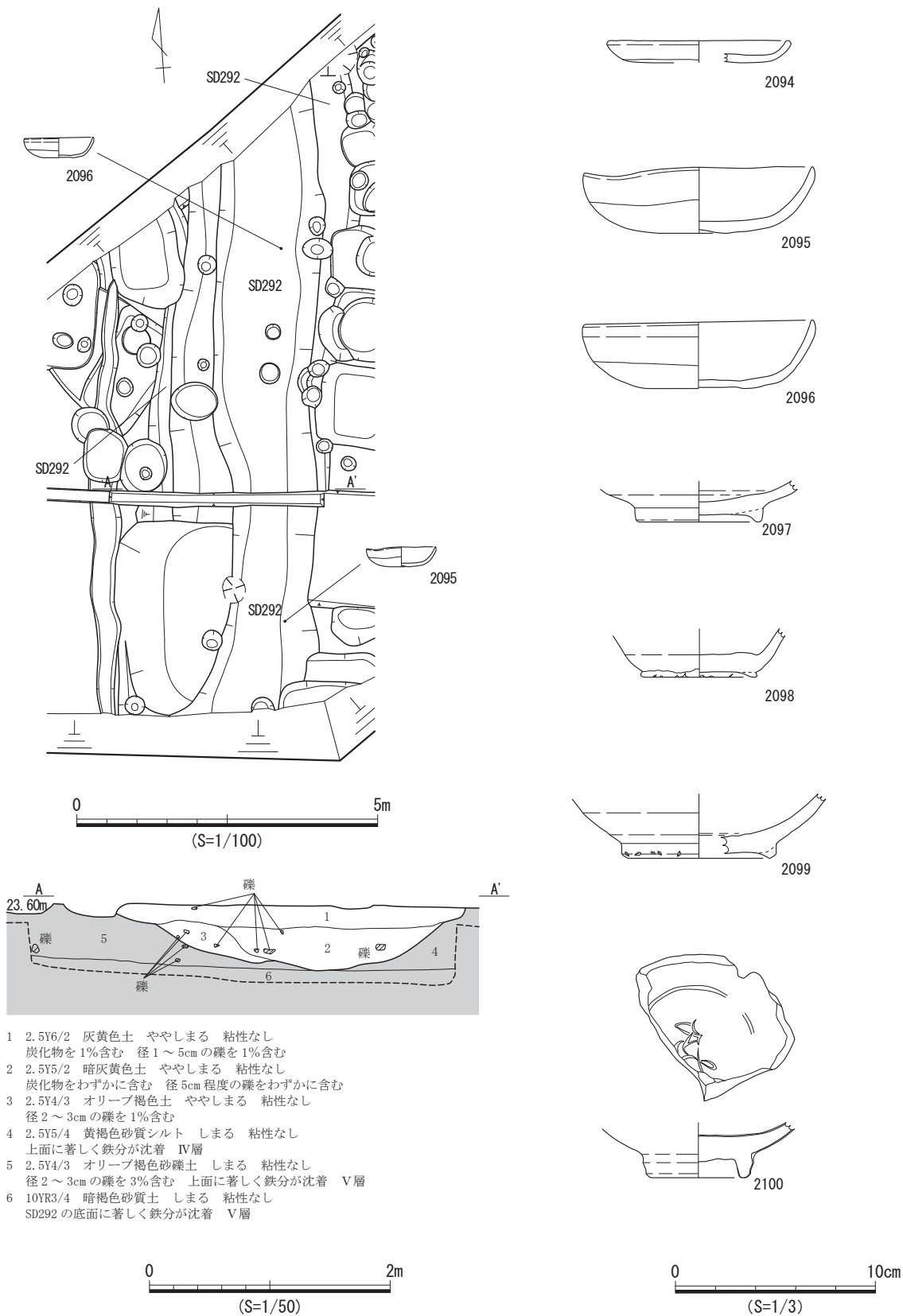
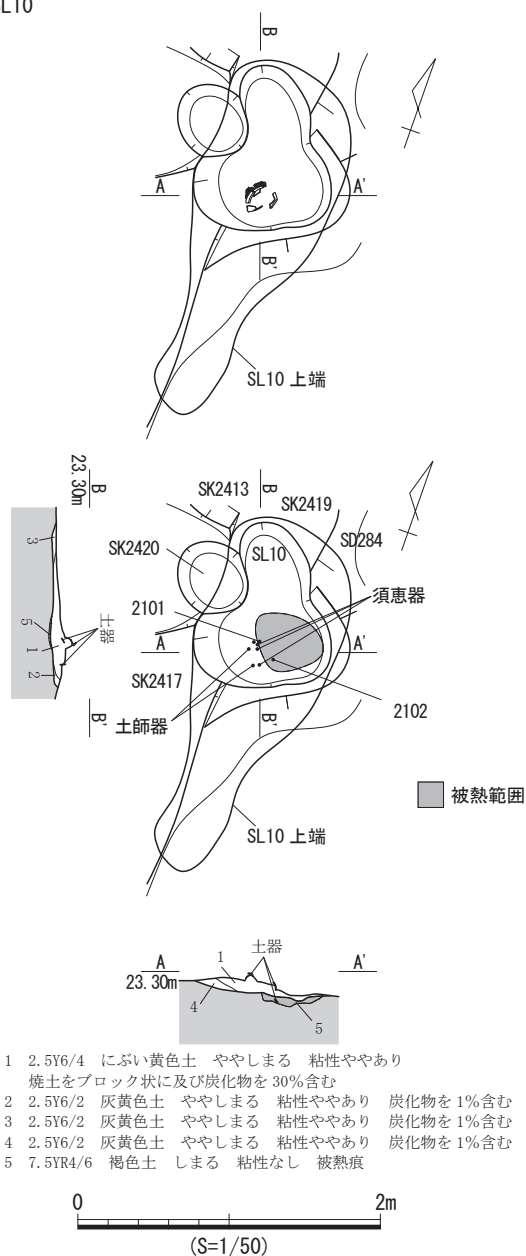
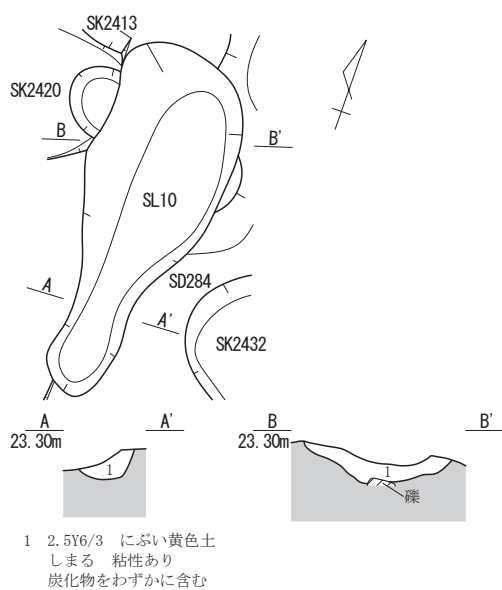


図 347 SD292 遺構図・出土遺物実測図

SL10



炉跡下部土坑



遺物出土状況図

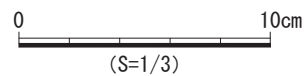
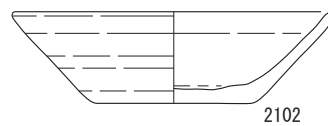
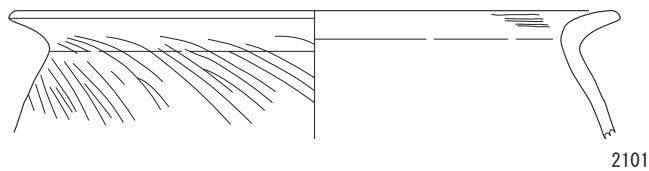
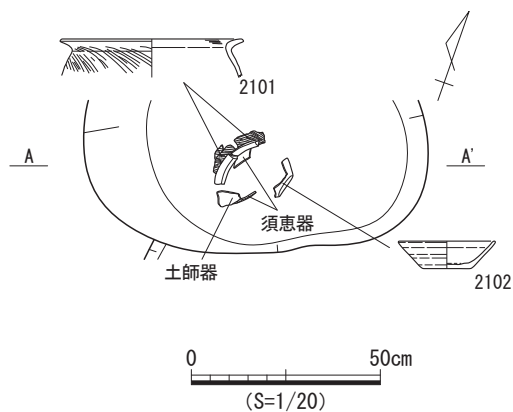


図 348 SL10 遺構図・出土遺物実測図

SL12

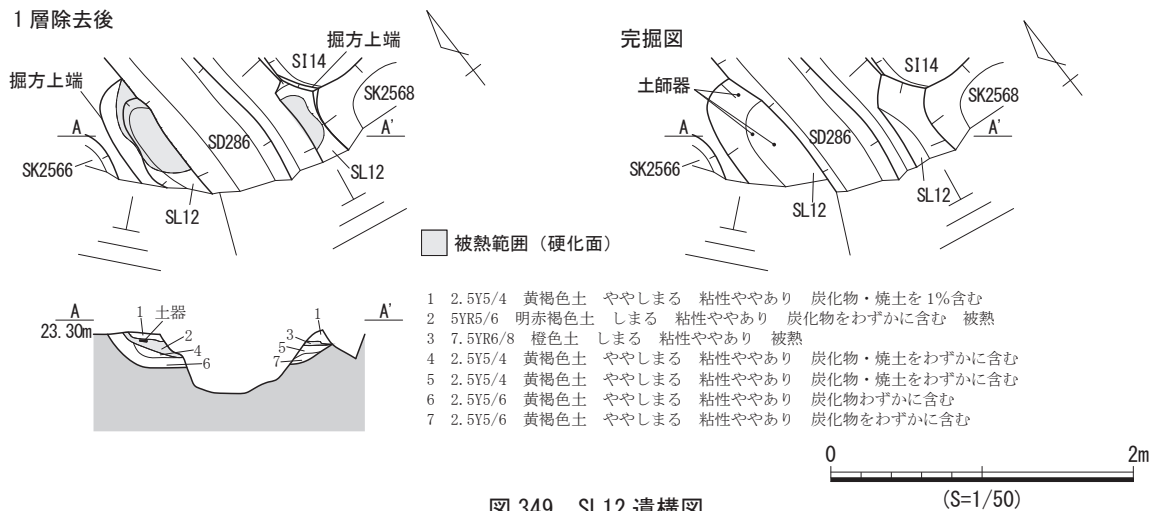


図 349 SL12 遺構図

焚口よりも深く、南に伸びることから、煙道の可能性がある。本遺構が附属する建物類は確認できなかった。

埋土 6層に分層した。1層に焼土粒や炭化物を多量に含む。5層は被熱痕であり、前述の焚口である。6層は炉部の下層から南側の煙道部に堆積する。埋土全体に炭化物を含む。

遺物出土状況 1層の南側上面から土師器の長胴甕1点(2101)が口縁を上にして、須恵器の坏身1点(2102)が縦位で出土した。その他に埋土中から土師器29点、須恵器9点、山茶碗1点が散在して出土した。なお、山茶碗は上層からの出土で混入と考えられる。

出土遺物 土師器など2点を図示した。2101は土師器の長胴甕である。2102は美濃須衛窯IV期第3小期～V期第1小期に比定した須恵器の坏身B類である。

時期 図示した2102から、本遺構は8世紀後葉から9世紀後葉と考えられる。

SL12 (図 349)

検出状況 21地点LJ16～LK16グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。南側は発掘区外に続く。西側でSK2565、東側でSI14、中央でSD286と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。中央はSD286によって分断されるが、東西両側で被熱範囲を確認し、底面の高さも揃うことから同一遺構と判断した。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面の傾斜は東側では急で、西側ではやや緩やかである。底面は大きく消失するが、概ね平坦であると考えられる。

埋土 7層に分層した。すべての層に炭化物を含む。2層と3層は1層除去後に検出した被熱した層である。2層と3層の上面で火を使ったものと考えられる。

遺物出土状況 2層とa層の埋土から土師器5点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2565との重複関係から、本遺構は11世紀初頭以前と考えられる。

9 道路状遺構

SF1 (SD282・SD289) (図 350)

検出状況 LE15、LF14～LH15グリッド、IVb層上面で検出した。SD282とSD289と攪乱の間に盛土を

確認した。SD282 を東側側溝、SD289 を西側側溝、側溝の間を路面と考え、道路状遺構として報告する。遺構の南北側は発掘区外に延びる。路面の東側は攪乱により消失する。路面盛土は北東側で SK2364、SD282 北側で SD280、南側で SK2417、SD289 は北側で SK2364・SK2377、南側で SK2407 と重複する。路面盛土と SD289 はいずれの遺構より古い。SD282 は SD280・SK2417 より古い。

規模・形状 概ね南北方向に延びる道路状遺構である。道路の幅は側溝間の距離からおよそ 2 m～3 mになると考えられる。

埋土 路面の盛土は単層である。炭化物・焼土粒、基盤層のブロック土を含み、しまりがある。路面では道路の改変の状況は確認できなかった。SD282 は単層の埋土である。炭化物・焼土ブロックをわずかに含む。SD289 の埋土は 7 層に分層でき、堆積状況から数回掘り直した可能性があることから、本遺構が改変や改修を重ねながら道路として使用されていたと考えられる。

遺物出土状況 路面盛土中から土師器 2 点、須恵器 1 点、SD282 埋土中から縄文土器 15 点、土師器 38 点、須恵器 10 点、山茶碗 8 点、陶磁器 1 点、SD289 埋土中から土師器 104 点、須恵器 4 点、灰釉陶器 7 点、山茶碗 17 点、陶器 11 点が散在して出土した。

出土遺物 縄文土器など 10 点を図示した。2103～2105 は SD282 出土遺物である。2103 は縄文時代晩期の深鉢である。2105 は美濃須衛窯 V 期第 1 小期に比定した須恵器の坏蓋 C 類である。2104 は第 3 型式の尾張型山茶碗である。2106～2111 は SD289 出土遺物である。2109 は廻間Ⅲ式の柳ヶ坪型壺である。2108 は B 類の清郷型鍋である。2106 と 2107 は C 1 類の土師器皿である。2110 は丸石 2 号窯式に比定した灰釉陶器の皿である。2111 は火打石である。2112 は路面盛土出土遺物で、岩崎 17 号窯式に比定した須恵器の壺である。

時期 路面盛土の出土遺物が少量のため断定はできないが、図示した 2112 から、道路の造成は 7 世紀中葉まで遡る可能性がある。また、SD282 は SD280 との重複関係と大洞東 1 号窯式に比定した東濃型山茶碗が出土したことから、14 世紀後葉から 15 世紀初頭には埋まったと考えられる。また、SD289 は大窯第 1 段階の天目茶碗が出土したことから、15 世紀末から 16 世紀初頭に埋まったと考えられる。

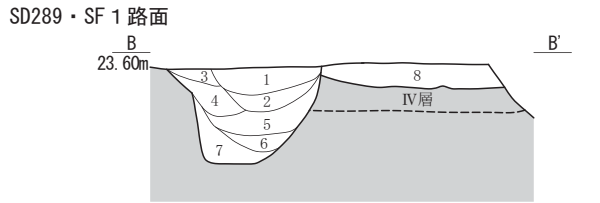
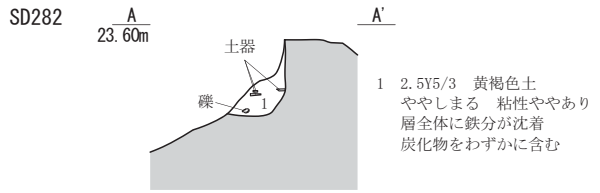
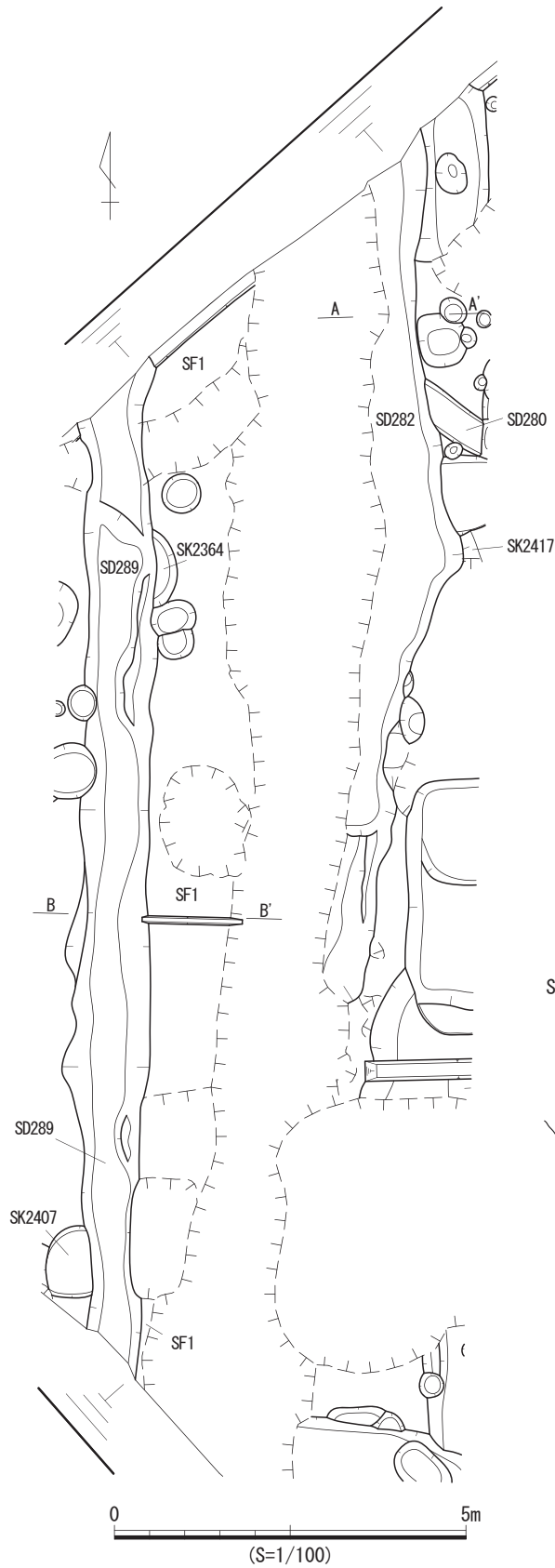
SF 2 (SD293～SD296) (図 351・352)

検出状況 21 地点 LI10～LJ10 グリッド、IV b 層上面で検出した。SD292 と並行し、SD293 と SD296 の間で、硬化してやや高まりのある盛土を確認した。この部分を路面、SD293 を東側側溝、SD296 を西側側溝と考え、道路状遺構として報告する。遺構の南北側は発掘区外に延びる。路面盛土は北側で SK2863・SK2851、南西側で SK2882、SD293 は北側で SK2852、南側で SK2819、SD296 は北側で SK2863、南西側で SK2882、南側で SK2881 と重複する。SD293・SD296・SF2 盛土ともいずれの遺構より古い。

規模・形状 南北方向に延びる道路状遺構である。路面の幅は側溝間の距離から 2 m～3 m である。路面の硬化した盛土の底面で SD294 と SD295 を検出した。この 2 条の溝は東側の SD292 と概ね方位が揃う。元々は SD292 と SD294 と SD295 を側溝とする道路が存在した可能性がある。なお、重複から SD294 は SD295 の掘り直しと考えられる。

埋土 路面の盛土は 2 層に分層した。いずれも礫をわずかに含みしめる。西側側溝の SD296 は 3 層に分層したが、1 層部分が再掘削されていると考えられる。路面の盛土である 5 層と 6 層の間には明確な層界が確認でき、異なる段階の堆積と考えられる。5 層下部で SD296 と並行する南北方向の溝 SD294 と SD295 を検出した。

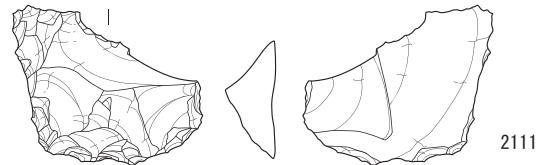
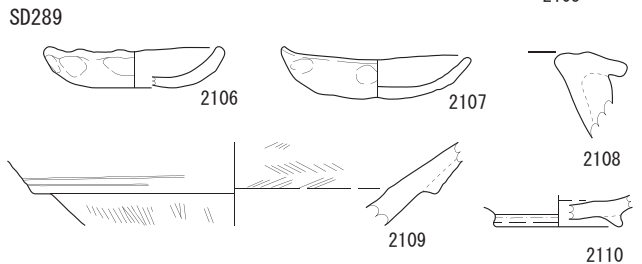
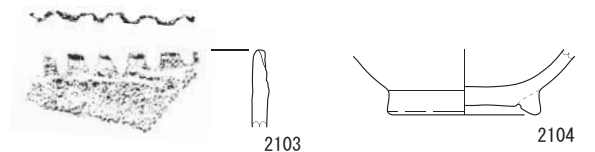
SF 1 (SD282・SD289)



- 1 2.5Y5/3 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分・マンガンが沈着 炭化物をわずかに含む SD289 埋土
- 2 2.5Y6/2 灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分・マンガンが沈着 炭化物をわずかに含む SD289 埋土
- 3 2.5Y7/2 灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分・マンガンが沈着 炭化物をわずかに含む SD289 埋土
- 4 5Y5/2 灰オリーブ色土 しまりなし 粘性なし
層全体に鉄分・マンガンが沈着 炭化物をわずかに含む SD289 埋土
- 5 2.5Y5/3 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分・マンガンが沈着 炭化物をわずかに含む SD289 埋土
- 6 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
層全体に鉄分・マンガンが沈着 炭化物をわずかに含む SD289 埋土
- 7 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性あり
層全体に鉄分・マンガンが沈着 炭化物をわずかに含む SD289 埋土
- 8 2.5Y5/4 黄褐色土 しまる 粘性ややあり
層上面に著しくマンガンが沈着 炭化物・焼土をわずかに含む
基盤層土をブロック状に5%含む 路面盛土



SD282 (S=1/50)



路面盛土

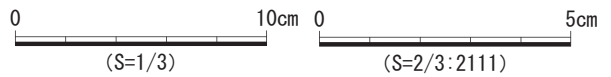
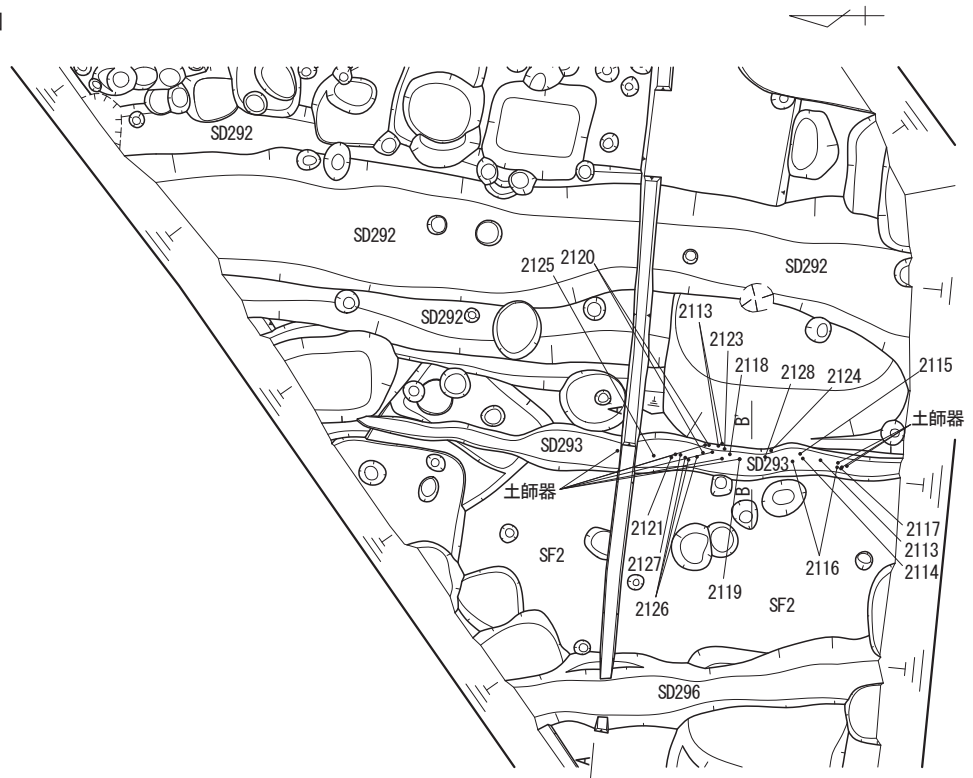


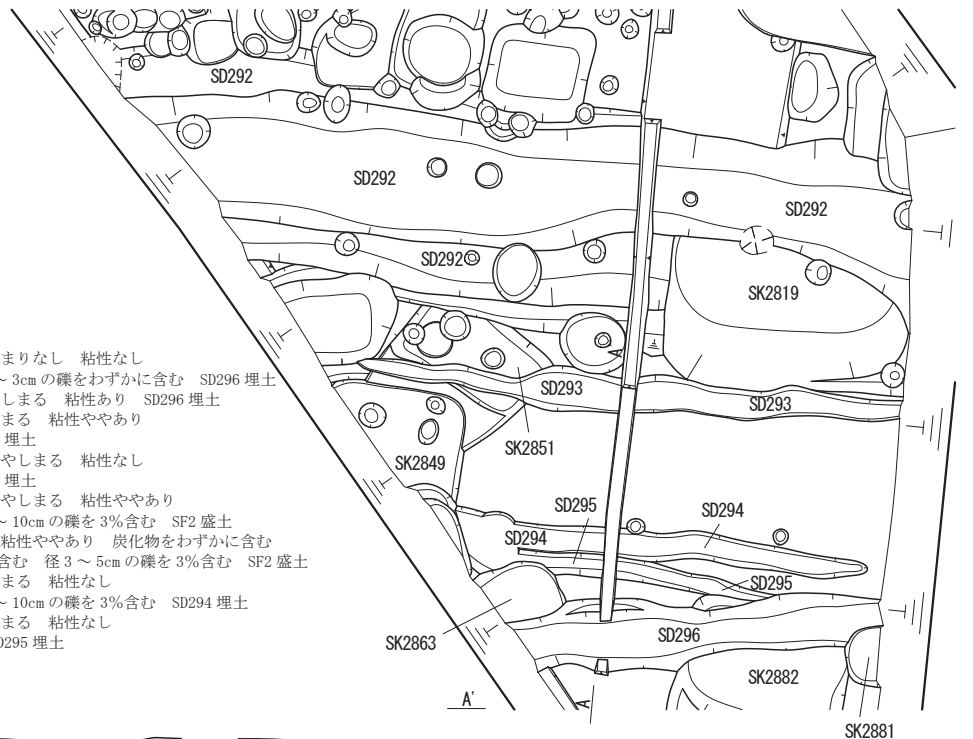
図 350 SF 1 (SD282・SD289) 遺構図・出土遺物実測図

SF 2 (SD293 ~ SD296)

検出状況図



完掘図



- 1 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土 しまりなし 粘性なし
炭化物をわずかに含む 径2~3cmの礫をわずかに含む SD296埋土
- 2 2.5Y5/3 黄褐色粘質土 ややしまる 粘性あり SD296埋土
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む SD296埋土
- 4 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性なし
炭化物をわずかに含む SD293埋土
- 5 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む 径2~10cmの礫を3%含む SF2盛土
- 6 2.5Y5/3 黄褐色土 しまる 粘性ややあり 炭化物をわずかに含む
基盤層土をブロック状に10%含む 径3~5cmの礫を3%含む SF2盛土
- 7 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性なし
炭化物をわずかに含む 径5~10cmの礫を3%含む SD294埋土
- 8 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性なし
径2~5cmの礫を1%含む SD295埋土

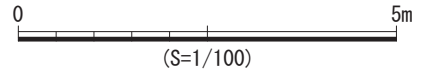
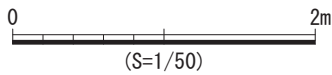
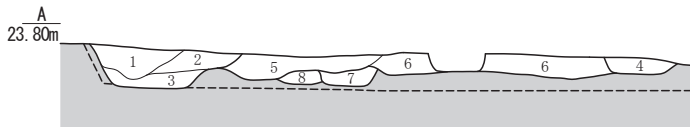
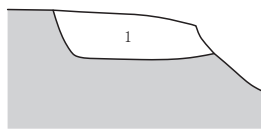
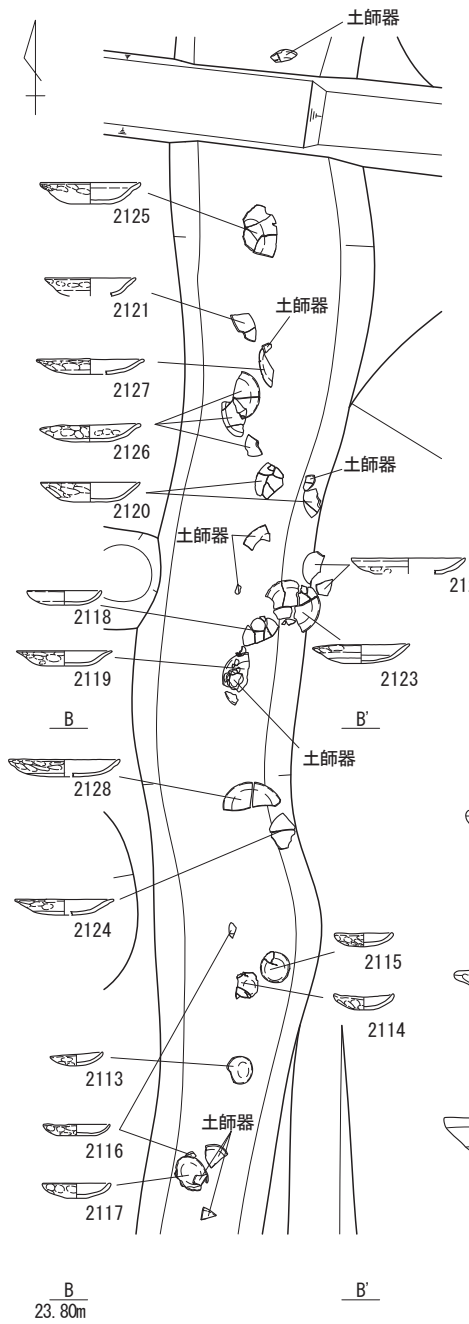
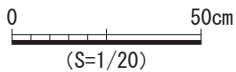


図 351 SF 2 (SD293 ~ SD296) 遺構図

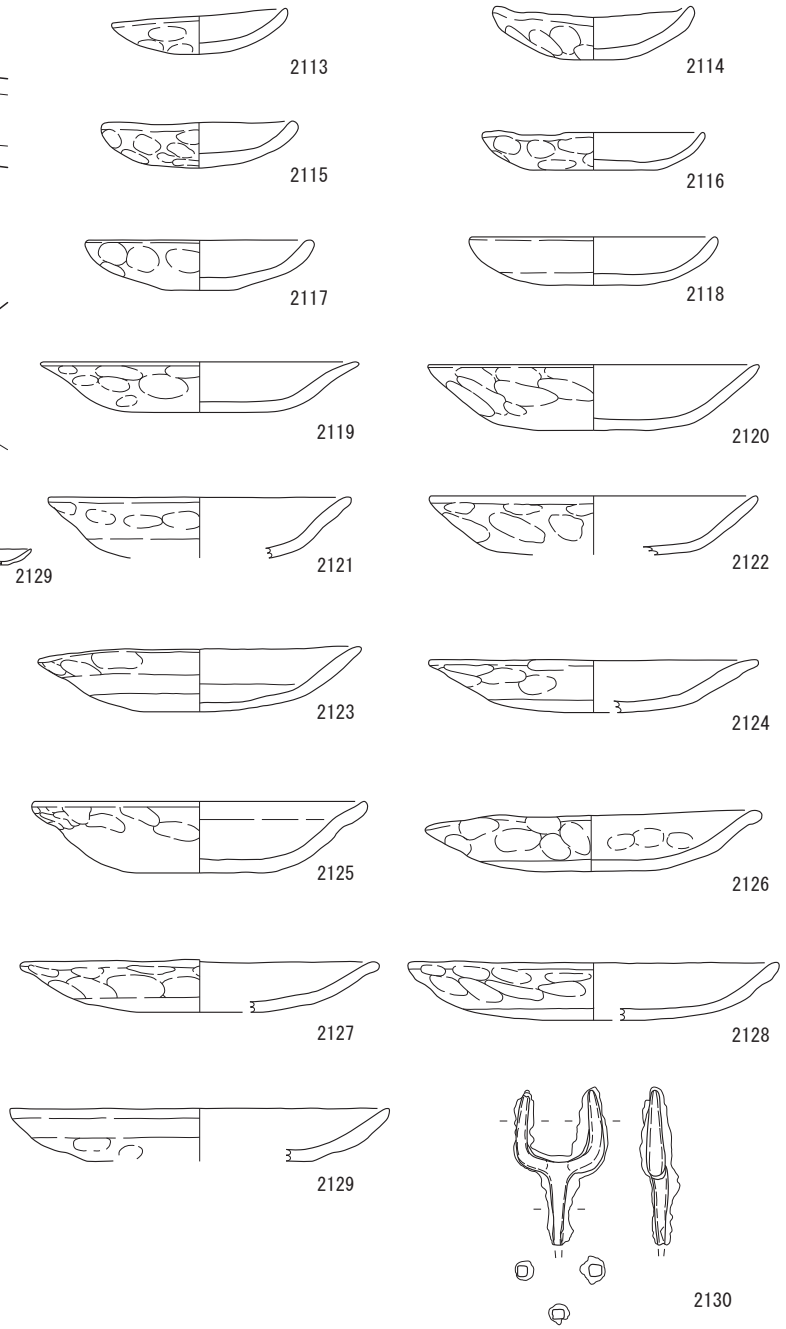
SF2 (SD293) 遺物出土状況図



1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土
ややしまる 粘性なし
炭化物をわずかに含む



SD293



SD296

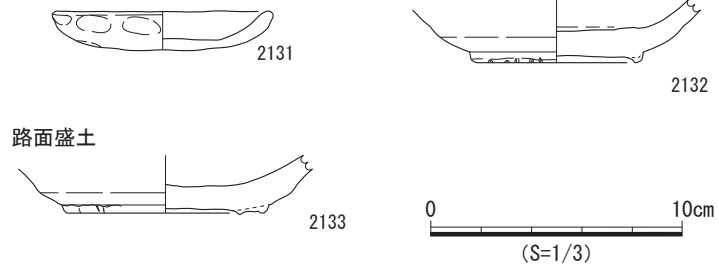


図 352 SF 2 (SD293) 遺物出土状況図・出土遺物実測図

遺物出土状況 SD293 南側の埋土の中層から面的に土師器皿 16 点(2113～2121・2123～2129)がまとめて出土した。正位のものが多いが逆位のものもあり、多くは半分以下に破損していた。埋め戻しの際にまとめて廃棄されたものと考えられる。これらを含め、SD293 埋土中から土師器 197 点、須恵器 1 点、灰釉陶器 3 点、山茶碗 8 点、古瀬戸 1 点、ヤス 1 点、路面盛土中から土師器 160 点、須恵器 10 点、灰釉陶器 8 点、山茶碗 54 点、陶器 6 点、SD296 埋土中から土師器 44 点、須恵器 10 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 31 点、陶器 2 点が散在して出土した。なお、盛土底面で検出した SD294、SD295 埋土中から遺物は出土しなかった。

出土遺物 土師器など 21 点を図示した。2113～2130 は SD293 出土遺物である。2119～2127 は B 1 類、2128 と 2129 は B 2 類、2113～2117 は C 1 類、2118 は M 3 類の土師器皿である。2130 はヤスである。2131 と 2132 は SD296 出土遺物である。2131 は C 1 類の土師器皿である。2132 は第 6 型式の尾張型山茶碗である。2133 は路面盛土出土遺物で、第 5 型式の尾張型山茶碗である。

時期 図示した 2133 から、道路の造成は 12 世紀後葉から 13 世紀初頭と考えられる。また、盛土路面、SD296 と SK2863・SK2882 との重複関係から、道路は造成後長期間使用されたわけではなく、13 世紀初頭までに道路としての使用が終了したと考えられる。

10 遺物集積遺構

SU3 (図 353)

検出状況 21 地点 LK17 グリッド、IV b 層上面で検出した。SI14 の南東側発掘区の壁面付近で SI14 埋土の上面に焼土粒や炭化物、土器類が散布した範囲を確認した。明確な掘り込みは確認できなかったため、遺物集積遺構とした。本遺構は SI14 より新しい。

規模・形状 遺物検出面で焼土粒や炭化物などの集積を確認したが、被熱痕は見られず、下部構造なども確認できなかった。

遺物出土状況 土師器 24 点、須恵器 12 点、灰釉陶器 5 点が焼土粒や炭化物とともに出土した。

出土遺物 須恵器など 3 点を図示した。2134 は美濃須衛窯 IV 期第 3 小期に比定した須恵器の水瓶である。2135 は美濃須衛窯 VI 期古段階 (大原 2 号窯式併行)、2136 は虎溪山 1 号窯式に比定した灰釉陶器の碗である。

時期 SI14 との重複関係から、本遺構は 12 世紀中葉以降と考えられるが、須恵器と灰釉陶器を主体とすることから、SI14 廃絶後に周辺の古代の遺構を破壊し、1 箇所まとめて廃棄したと考えられる。

11 その他の遺構出土遺物 (図 354)

出土遺物のうち 12 点を図示した。2137～2141 は土師器である。2139 は壺、2140 はつまみ上げ口縁をもつ丸底甕である。2138 は B 1 類、2137 は M 3 類の土師器皿である。2141 は A 3 類の羽釜である。2142 は光ヶ丘 1 号窯式～大原 2 号窯式に比定した灰釉陶器の碗である。2143 は龍泉窯系 I - 2 b 類の青磁碗で、内面見込に劃花文が施される。2144～2147 は釘である。2148 は鉄塊である。

12 Ⅲ層等出土遺物 (図 355～358)

出土遺物のうち 68 点を図示した。2149～2160 は土師器である。2157 と 2158 は廻間 II 式の S 字甕 B 類と柳ヶ坪型壺である。2155 は B 1 類、2149～2153 は C 1 類、2154 は M 3 類の土師器皿である。2156 は手づくね壺、2159 は壺である。2160 は A 2 類の羽釜である。2161～2165 は美濃須衛窯産の須恵器である。2161 はⅢ期後半に比定した坏蓋 B 類、2162 と 2163 は IV 期第 3 小期～V 期第 1 小期に比定し

SU3

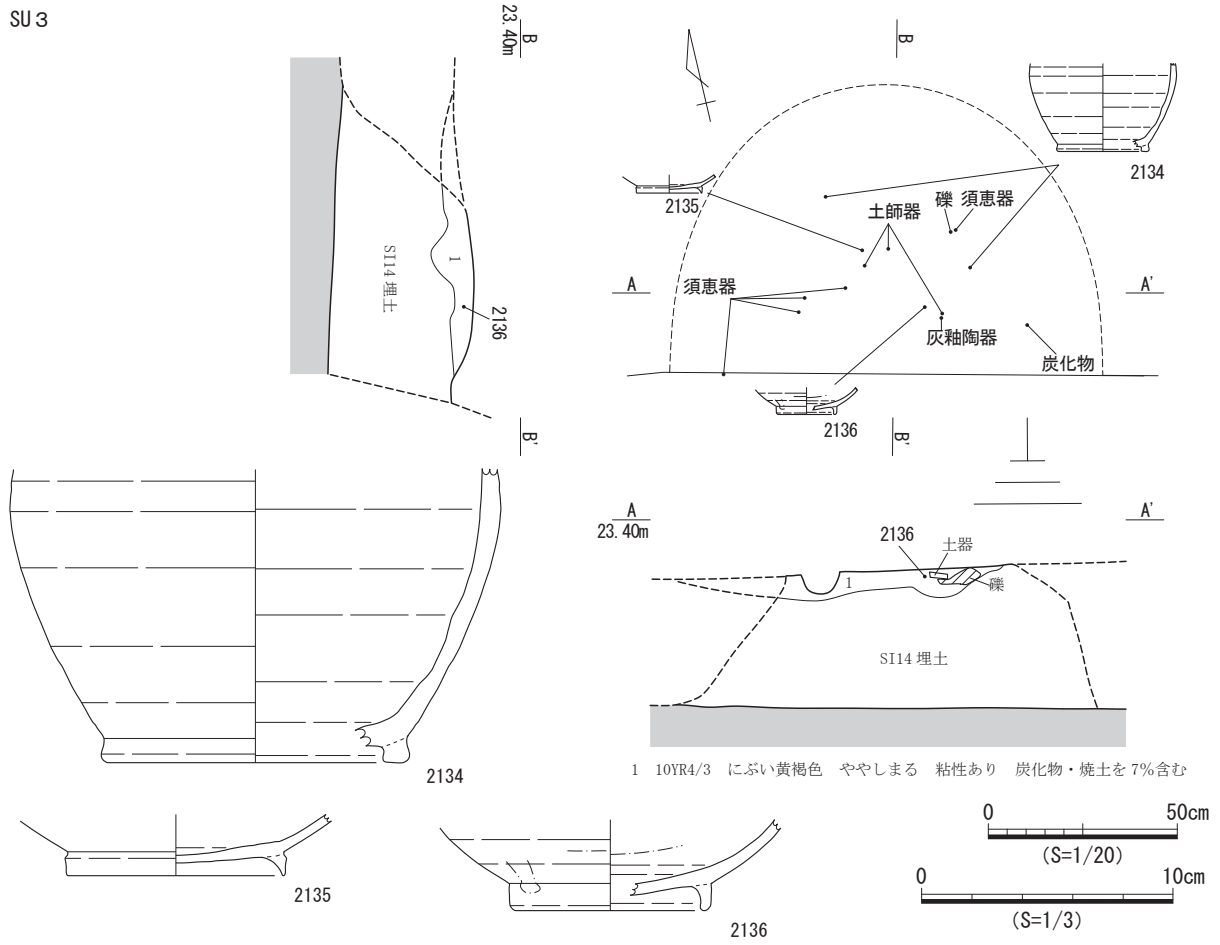


図 353 SU3 遺構図・出土遺物実測図

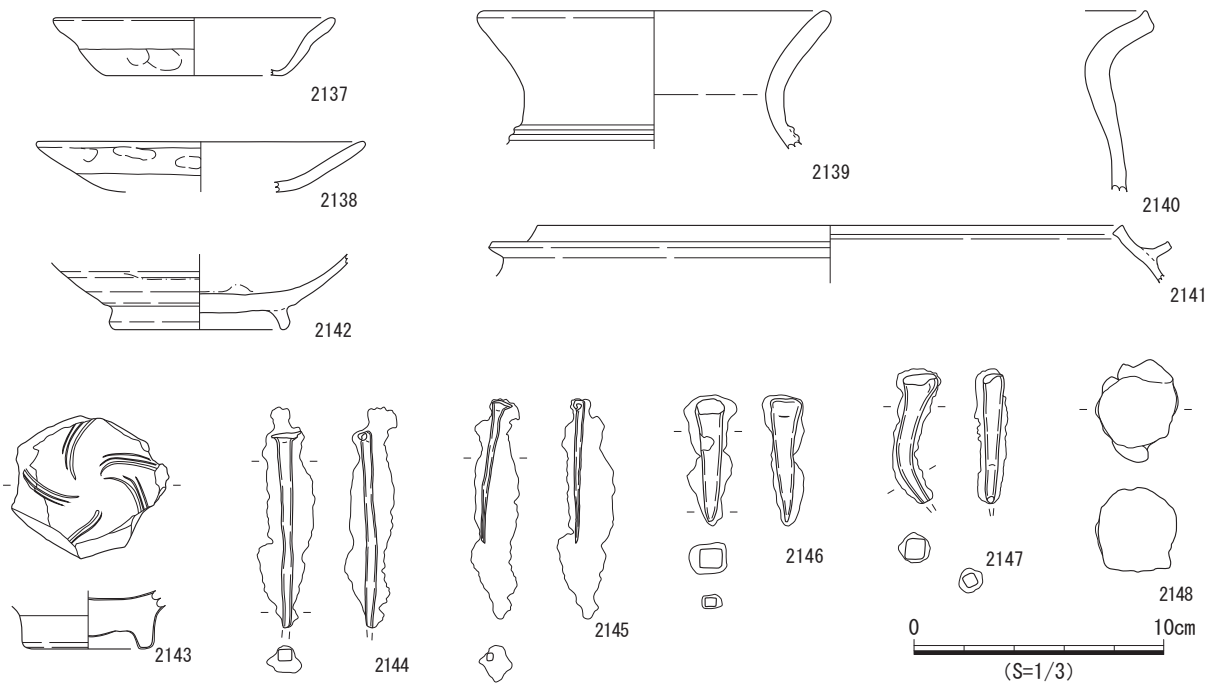


図 354 その他の遺構出土遺物実測図

た有台盤である。2164 と 2165 はV期第1小期に比定した坏身B類と有台盤である。2166 は産地不明の須恵器で、IV期第3小期併行に比定した坏身C類である。2167 は丸石2号窯式に比定した灰釉陶器の皿である。2168～2174 は尾張型山茶碗である。2168 と 2169 は第3型式の小碗と碗、2170 と 2171 は第5型式の小皿、2172 は第5型式の片口鉢、2173 と 2174 は第6型式の小皿と碗である。2175 と 2176 は東濃型山茶碗で、2175 は浅間窯下1号窯式に比定した小皿、2176 は脇之島3号窯式に比定した碗である。2175 は口唇部に煤が付着する。2177～2180 は古瀬戸である。2177 は後Ⅱ期～後Ⅲ期の折縁深皿、2178 は後Ⅲ期～後Ⅳ期古段階の花瓶、2179 は後Ⅳ期古段階の口広有耳壺、2180 は後Ⅳ期新段階の天目茶碗である。2181 と 2182 は大窯製品で、2182 は第3段階の播鉢、2181 は第4段階前半の筒形碗である。2183～2186 は登窯製品である。2183 は第5小期～第6小期の美濃産の灯明具で、外面底部に「古」と思われる墨書が確認できる。2185～2189 は瀬戸産で、2187 は第5小期の播鉢、2185 と 2188 は第6小期の御室茶碗と播鉢、2189 は第8小期の播鉢、2186 は第8小期～第11小期の馬の目皿である。2185 は外面底部に墨書が確認できるが、判読できない。2184 は肥前産の湯飲み茶碗である。2190 は瓦質土器の風炉で、頸部に花菱の印花文が巡り、肩部に火窓が確認できる。2191 は種別不明の瓦質土器製品である。バンドコの可能性がある。格子模様が両面に施される。2192 と 2193 は土鈴、2194 と 2195 は土錘である。2196 は筒状土製品で、粘土板を巻き付け筒状に成形している。2197～2203 は砥石である。2204 は、滑石製の棒状石製品で、側面は面取りされ、断面形が円形に近い形状である。石鍋の再加工品と考えられる。広島県・草戸千軒町遺跡で出土例が報告されている（広島県立歴史博物館 1998）。2205 は石臼（下臼）である。2206 は鞆羽口で、基部が欠損する。先端部には全体に鉾滓が付着する。2207 は刀子で、刃部の一部のみ残存する。2208 は小柄で、銅製の鞘に鉄製の刀身が収まる。2209 は鎌である。2210～2213 は釘である。2214 は環状鉄製品である。2215 は銭貨で、「寛永通寶」（初鑄 1636 年）である。2216 は鉄滓である。

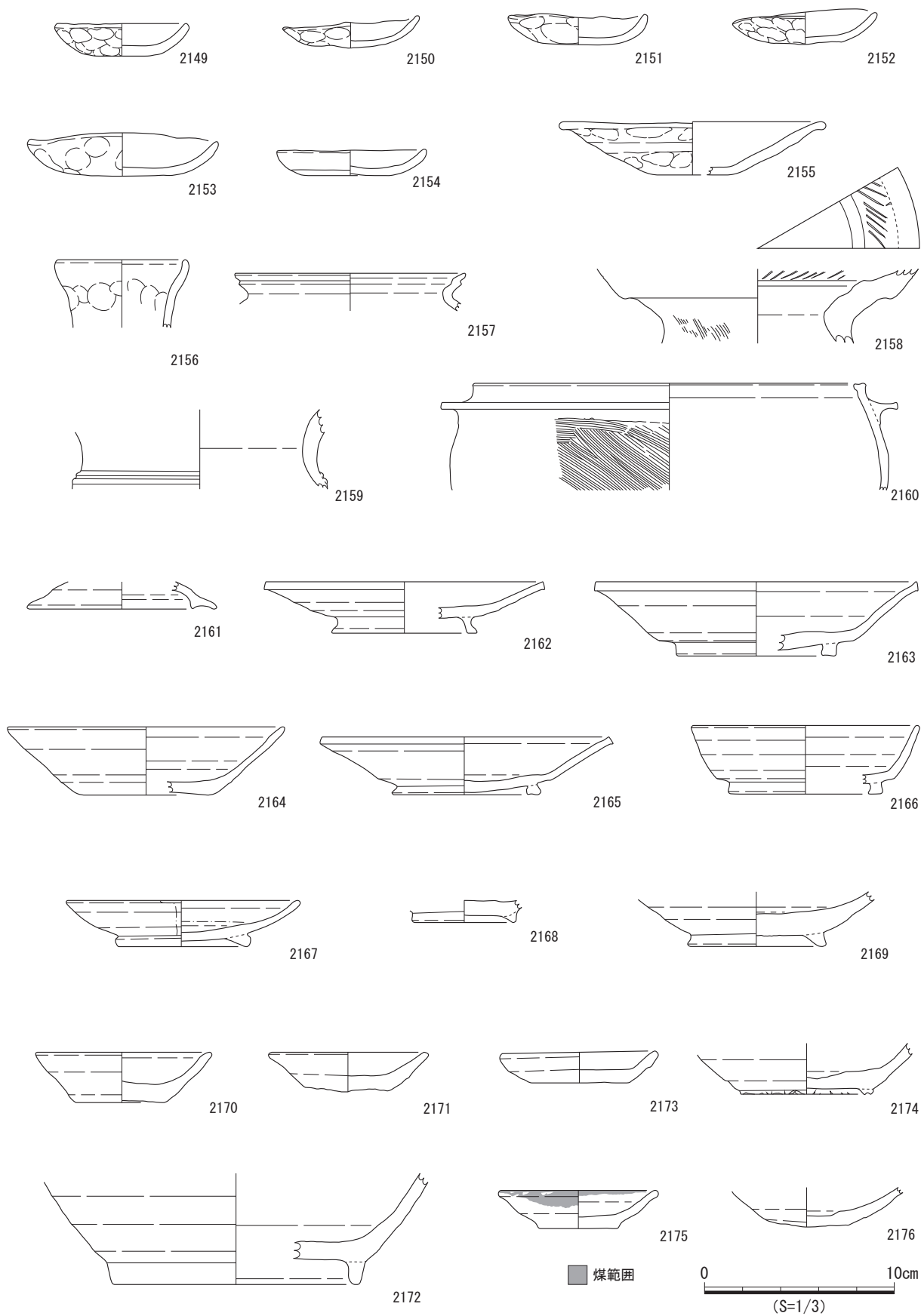


図 355 Ⅲ層等出土遺物実測図(1)

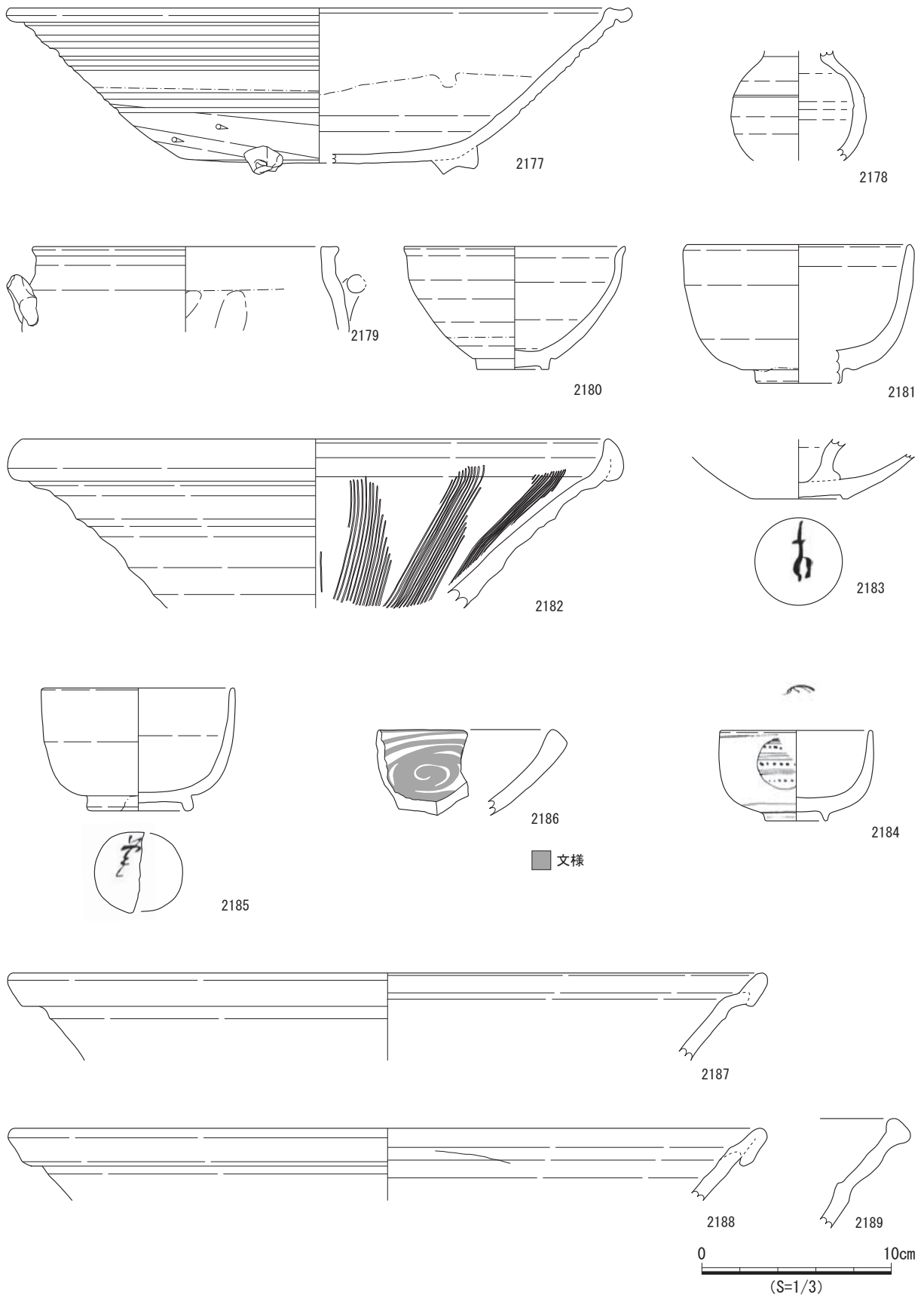


図 356 III層等出土遺物実測図(2)

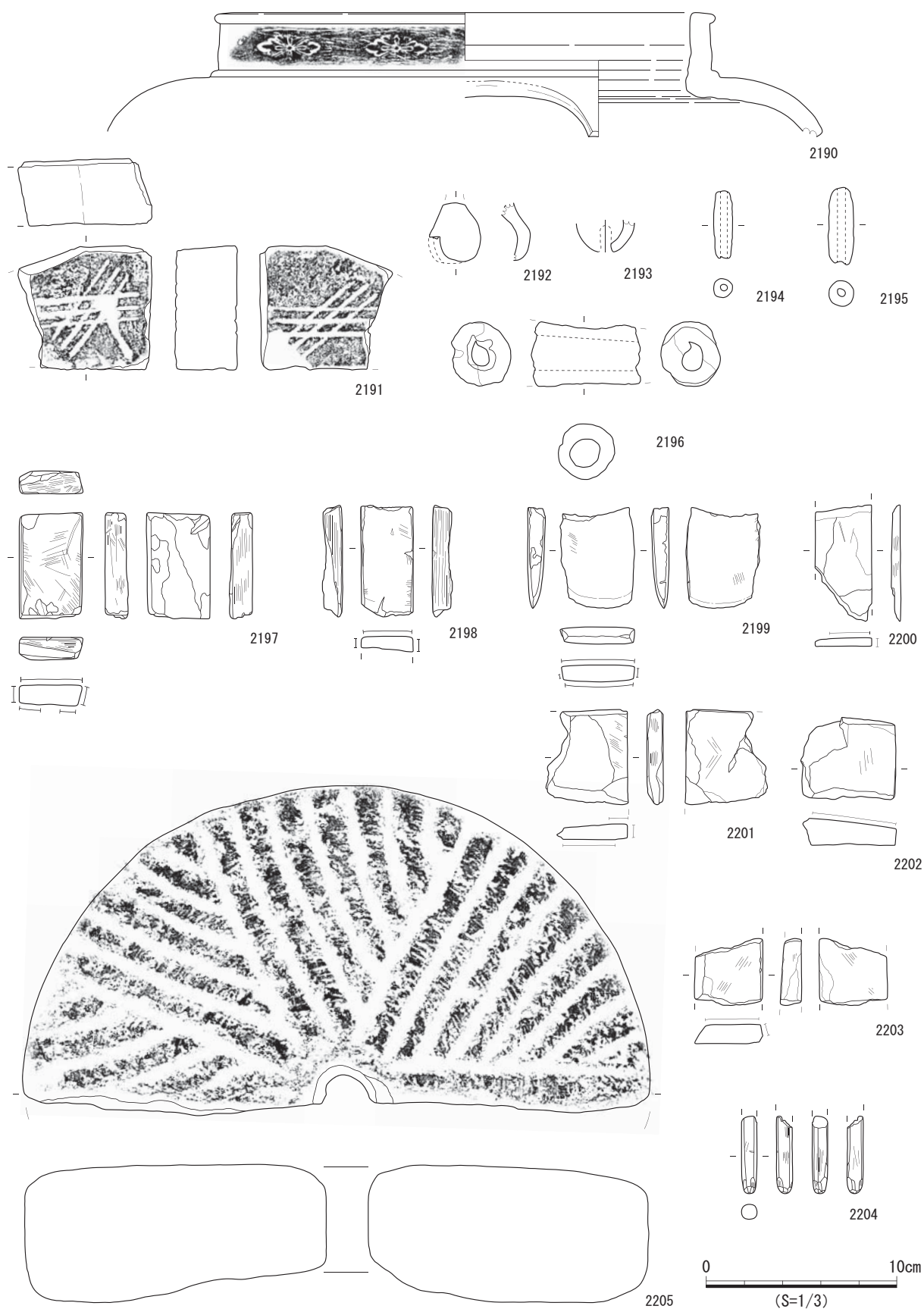


图 357 III層等出土遺物実測図(3)

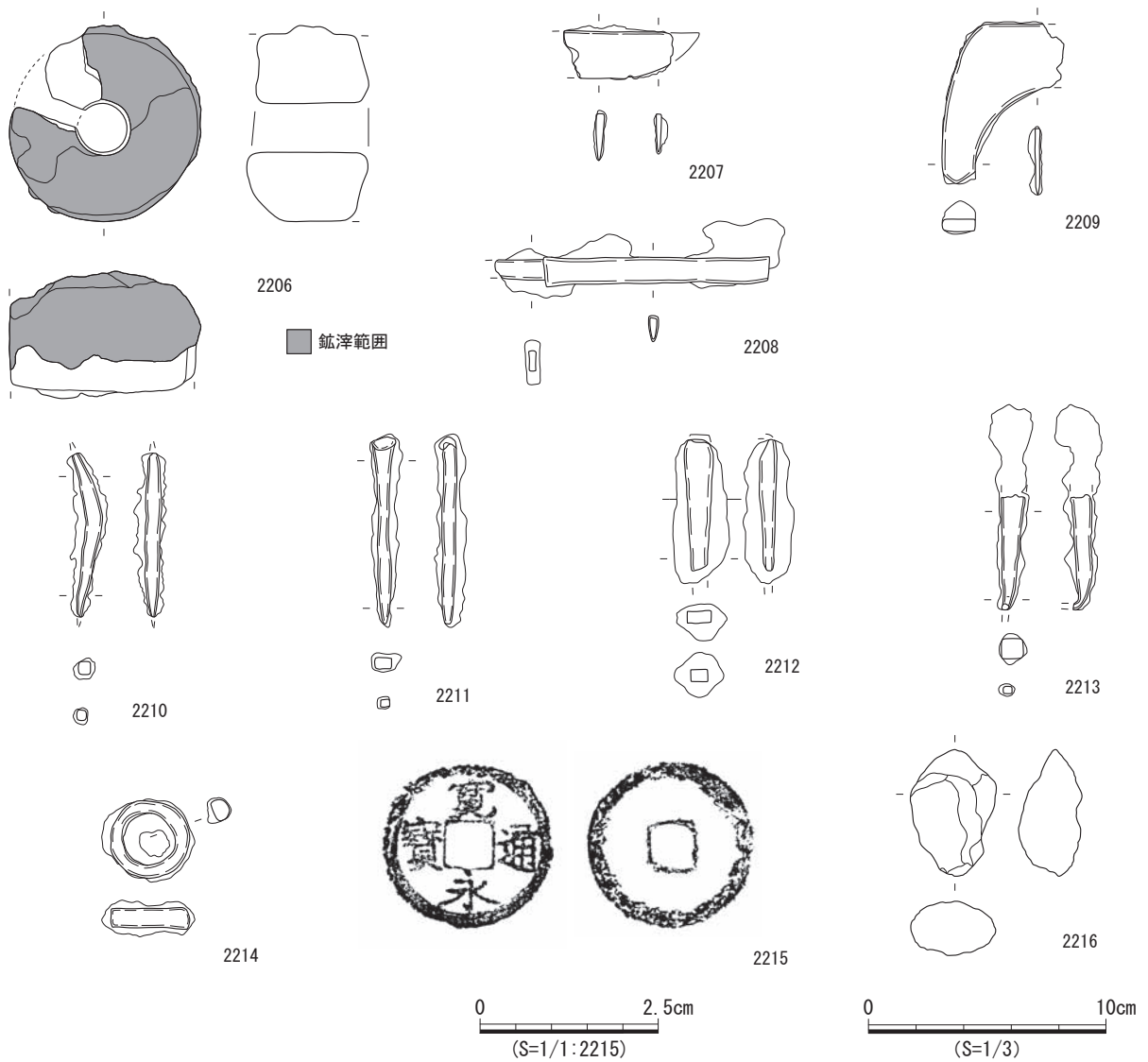


図 358 Ⅲ層等出土遺物実測図(4)

第6節 11 地点の遺構・遺物

遺跡の南西部に位置する調査地点であるが、市道を挟んで 21 地点の南側、12 地点の北側となる。調査面積は 1,972.3 m²で、糸貫 IC の盛土部分を調査した。

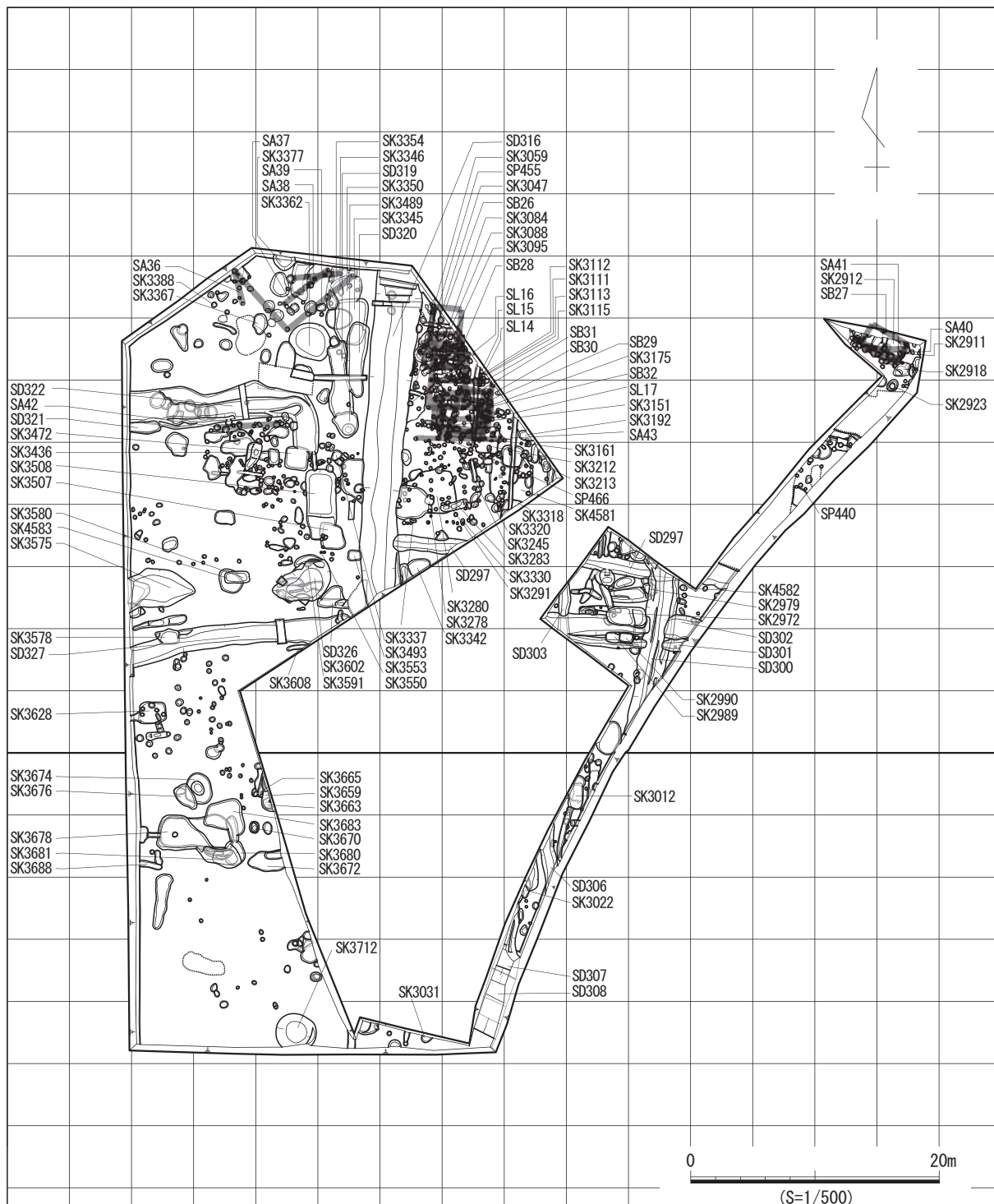


図 359 11 地点平面図

1 掘立柱建物

SB26 (図 360)

検出状況 LM11～LN12 グリッド、IV b 層上面で検出した。2 間×1 間の側柱建物である。北東隅と東辺中央の柱穴は発掘区外にあると考えられる。各柱穴の平面形は P1 では不明瞭で、他の柱穴では明瞭に確認できた。P3 は SK3059 と重複する。本遺構は SK3059 より古い。

規模・形状 桁行 2 間 (3.9m、柱間 1.9m-2.0m)、梁行 1 間 (2.0m)、面積 7.8 m² である。長軸方位は、N-7°-E である。平面形は南北に長い長方形である。SB28・SB29 と重複する位置関係で、SB31 とは長軸方向が概ね揃う。SD300 と SD316 との間に SB26・SB28～SB32 が位置する。

柱穴 柱穴の平面形は円形である。いずれの柱穴も概ね水平に堆積する。どの柱穴にも特徴的な堆積は認められなかった。P2 から土師器 3 点、須恵器 2 点、山茶碗 6 点、P4 から土師器 2 点、灰釉陶器

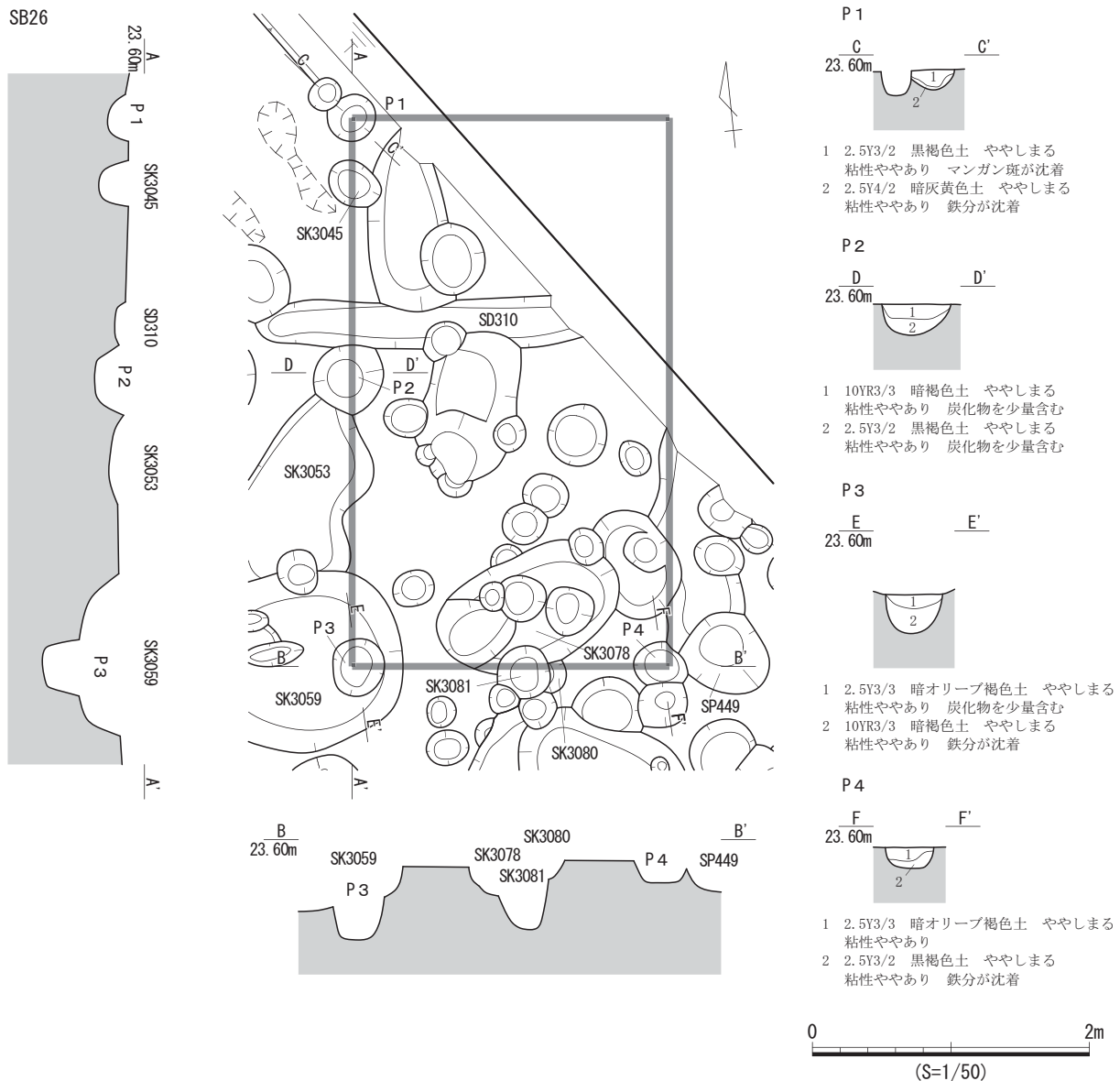


図 360 SB26 遺構図

1点、山茶碗1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK3059との重複関係、SB31との位置関係、第5型式の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は12世紀後葉から13世紀初頭と考えられる

SB27 (図361)

検出状況 LN18~LN19グリッド、IV b層上面で検出した。2間×1間の側柱建物である。北西端と北辺中央の柱穴は発掘区外にあると考えられる。各柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。

規模・形状 桁行2間(3.2m、柱間1.6m-1.6m)、梁行1間(1.8m)、面積5.8㎡である。長軸方位はN-65°-Wである。平面形は北西から南東に向けて長い長方形である。周囲には掘立柱建物は確認できなかったが、中央(調査対象範囲外)を隔てた西側は複数の掘立柱建物を検出している。いずれも長軸の方位は異なる。SA40・SA41と重複する位置関係である。

柱穴 柱穴の平面形は円形である。柱穴の埋土は単層若しくは水平に堆積する。どの柱穴にも特徴的

SB27

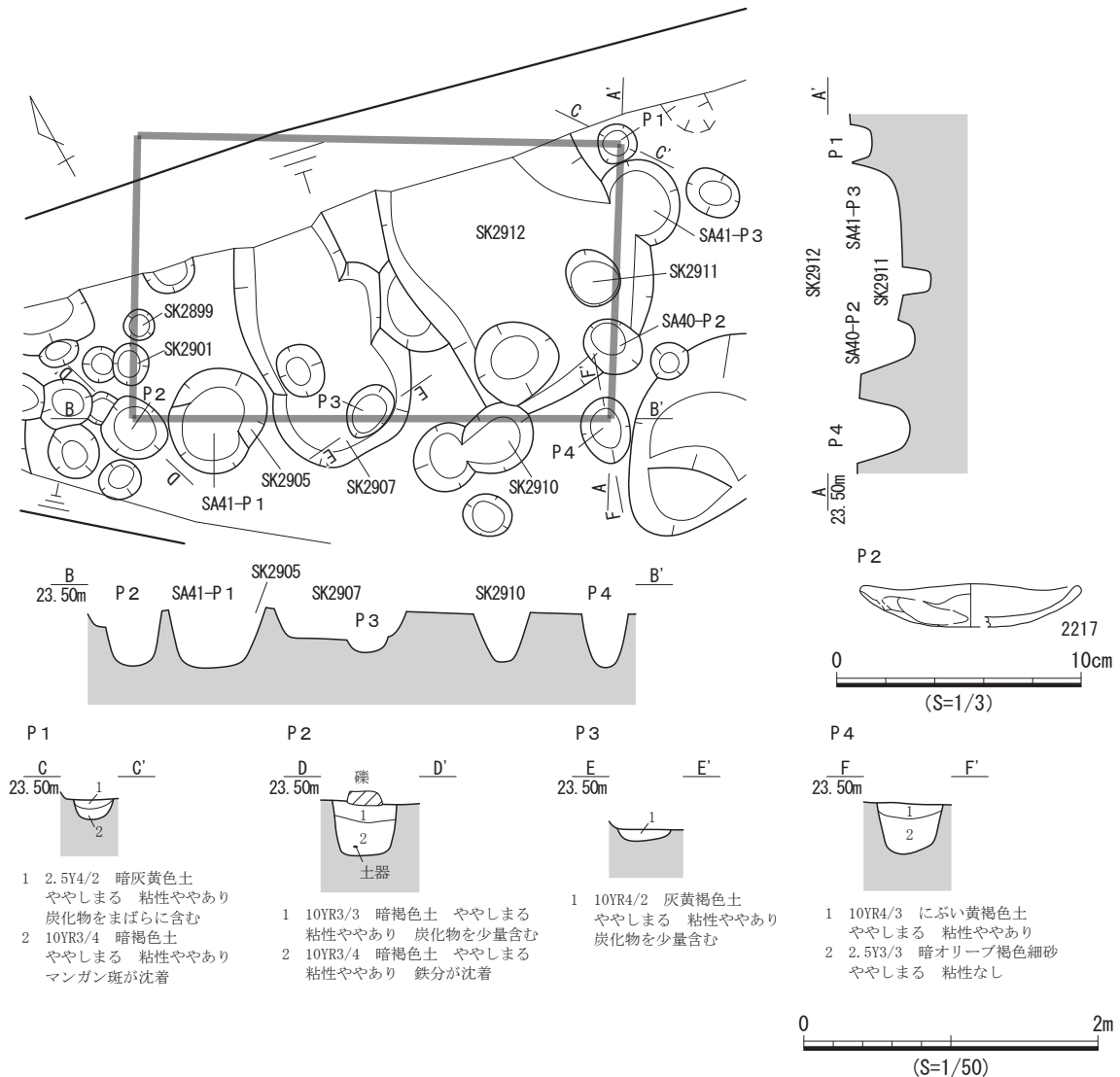


図361 SB27遺構図・出土遺物実測図

な堆積は認められなかった。P2の検出面で方形に打ち欠いた一辺30cmほどの扁平な亜円礫を確認した。加工痕が見られ、P1中心部に置かれていたことから、礎石の可能性はある。他の柱穴では礎石を確認していないことから、SB27に関わる礎石かは不明である。P1から山茶碗1点、P2から土師器10点、山茶碗2点、P3から須恵器1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器1点を図示した。2217はC1類の土師器皿である。

時期 図示した2217から、本遺構は12世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SB28 (図362)

検出状況 LN11～LN12グリッド、IVb層上面で検出した。2間×1間の側柱建物である。各柱穴の平面形は、P1では不明瞭であったが、他の柱穴では明瞭であった。

規模・形状 桁行2間(3.1m、柱間1.7m-1.4m)、梁行1間(1.9m)、面積5.9㎡である。長軸方位は、N-87°-Wである。概ね長方形の建物であるが、西辺は東辺に比べ、わずかに西に傾き、南辺は北辺に比べ西側でやや南に開く。SB26・SB29と重複する位置関係で、SB32と長軸方位が揃う。SD300とSD316との間にSB26・SB28～SB32が位置する。

柱穴 柱穴の平面形は円形である。P1は単層の埋土、P2～P4・P6は水平に堆積する。P5の2層と3層は縦に分層される。どの柱穴にも特徴的な堆積は認められなかった。P1から土師器5点、灰釉陶器1点、山茶碗3点、P3から山茶碗1点、P4から土師器5点、山茶碗9点、P5から灰釉陶器1点、P6から土師器2点、山茶碗1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器1点を図示した。2218はM3類の土師器皿である。

時期 SB32との位置関係から、本遺構は12世紀後葉から13世紀初頭と考えられる。

SB29 (図363・364)

検出状況 LN11～L012グリッド、IVb層上面で検出した。2間×1間の側柱建物である。各柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。

規模・形状 桁行2間(4.8m、柱間2.5m-2.3m)、梁行1間(2.8m)、面積約13.4㎡である。長軸方位はN-5°-Eである。平面形は南北に長い長方形である。SB26・SB28・SB30～SB32と重複する位置関係にある。SD300とSD316との間にSB26・SB28～SB32が位置する。

柱穴 柱穴の平面形は円形である。P3とP6の2層と3層は縦に分層されるが、他の柱穴はいずれも概ね水平に堆積する。どの柱穴にも特徴的な堆積は認められなかった。また、P1・P3・P6に炭化物を含む。P2から土師器3点、山茶碗4点、P3から山茶碗2点、P4から土師器7点、山茶碗7点、P6から山茶碗1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器1点を図示した。2219はC1類の土師器皿である。

時期 第5型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は12世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SB30 (図365)

検出状況 L011～L012グリッド、IVb層上面で検出した。2間×1間の側柱建物である。各柱穴の平面形はP2・P3・P5では不明瞭で、他の柱穴では明瞭であった。P4はSK3153を介してSK3151、P6はSL17と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 桁行2間(4.0m、柱間1.9m-2.1m)、梁行1間(2.2m)、面積8.8㎡である。長軸方

SB28

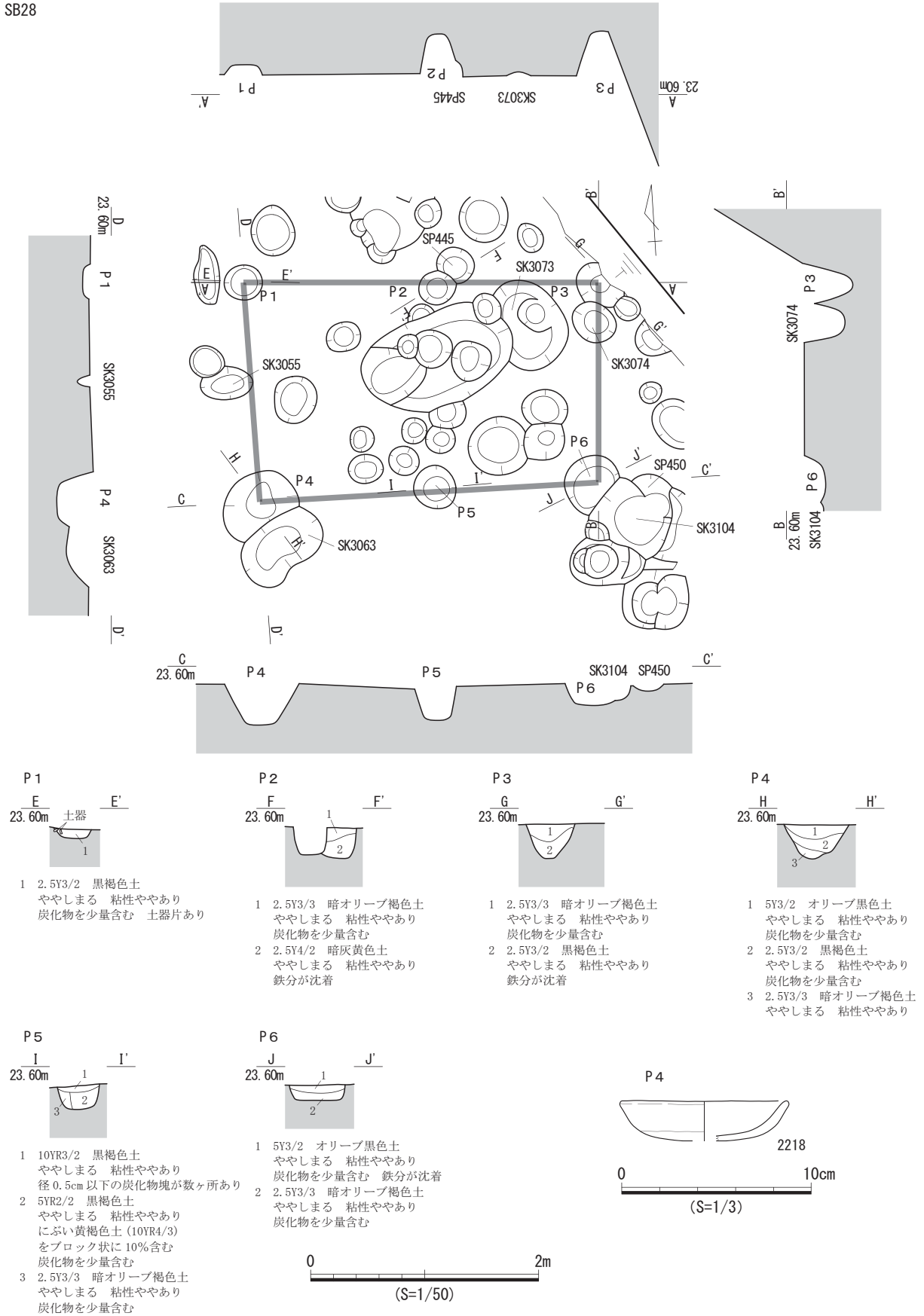


図 362 SB28 遺構図・出土遺物実測図

SB29

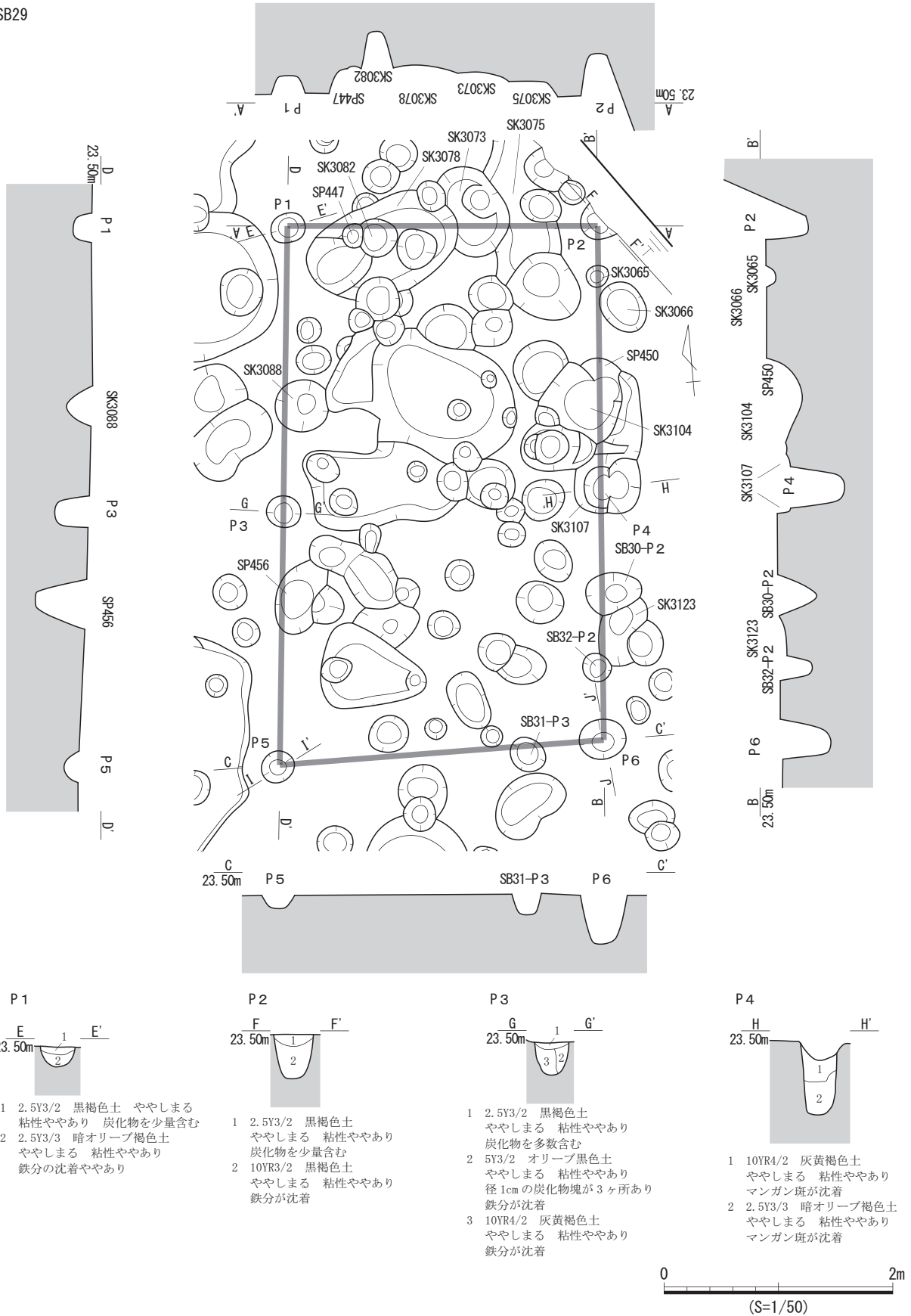


図 363 SB29 遺構図 (1)

位は、N-88°-Eである。平面形は東西に長い長方形である。SB29・SB31・SB32と重複する位置関係で、SB28と長軸方位が揃う。SD300とSD316との間にSB26・SB28～SB32が位置する。

柱穴 柱穴の平面形はP1では不定形で、その他の柱穴では円形若しくは楕円形である。P1は2層と3層が大きく斜めに堆積する。他の柱穴は単層の埋土若しくは概ね水平に堆積する。いずれの柱穴にも特徴的な堆積は認められなかった。また、P2～P6に炭化物を含む。P1から灰釉陶器1点、山茶碗1点、P2から土師器4点、須恵器1点、山茶碗2点、P6から土師器2点、灰釉陶器7点、土錘1点が散在して出土した。

出土遺物 灰釉陶器など2点を図示した。2220は黒笹14号窯式に比定した灰釉陶器の皿である。2221は土錘である。

時期 SB28との位置関係から、本遺構は12世紀後葉から13世紀初頭と考えられる。

SB31 (図366)

検出状況 L012グリッド、IVb層上面で検出した。2間×1間の側柱建物である。南東隅の柱穴は遺構の重複により消失したと考えられる。各柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。P4はSK3175、P5は南側でSK3161、東側でSB32-P5と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 桁行2間(3.5m、柱間1.8m-1.7m)、梁行1間(2.0m)、面積7.0㎡である。長軸方位はN-11°-Eである。平面形は南北に長い長方形である。SB29・SB30・SB32と重複する位置関係にあり、SB26と長軸方位が概ね揃う。SD300とSD316との間にSB26・SB28～SB32が位置する。

柱穴 柱穴の平面形は円形若しくは楕円形である。P1とP5の2層と3層は縦に分層した。他の柱穴は単層の埋土若しくは概ね水平に堆積する。どの柱穴にも特徴的な堆積は認められなかった。また、P1・P3・P5に炭化物を含む。P1から古瀬戸1点、P2から土師器1点、山茶碗1点、P3から土師器2点、山茶碗1点、P4から土師器2点、山茶碗6点、P5から土師器6点、山茶碗2点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物がなかった。

時期 SB32との重複関係とSB26との位置関係から、本遺構は12世紀後葉から13世紀初頭と考えられる。

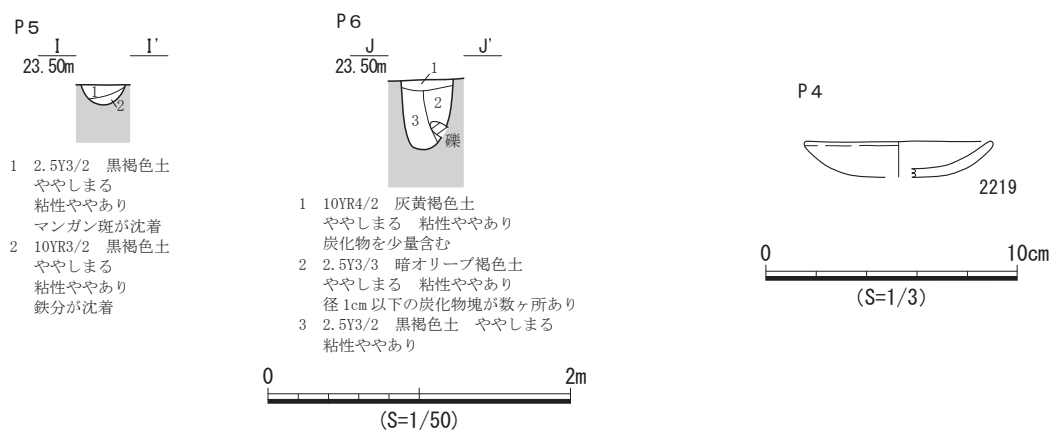


図364 SB29遺構図(2)・出土遺物実測図

SB30

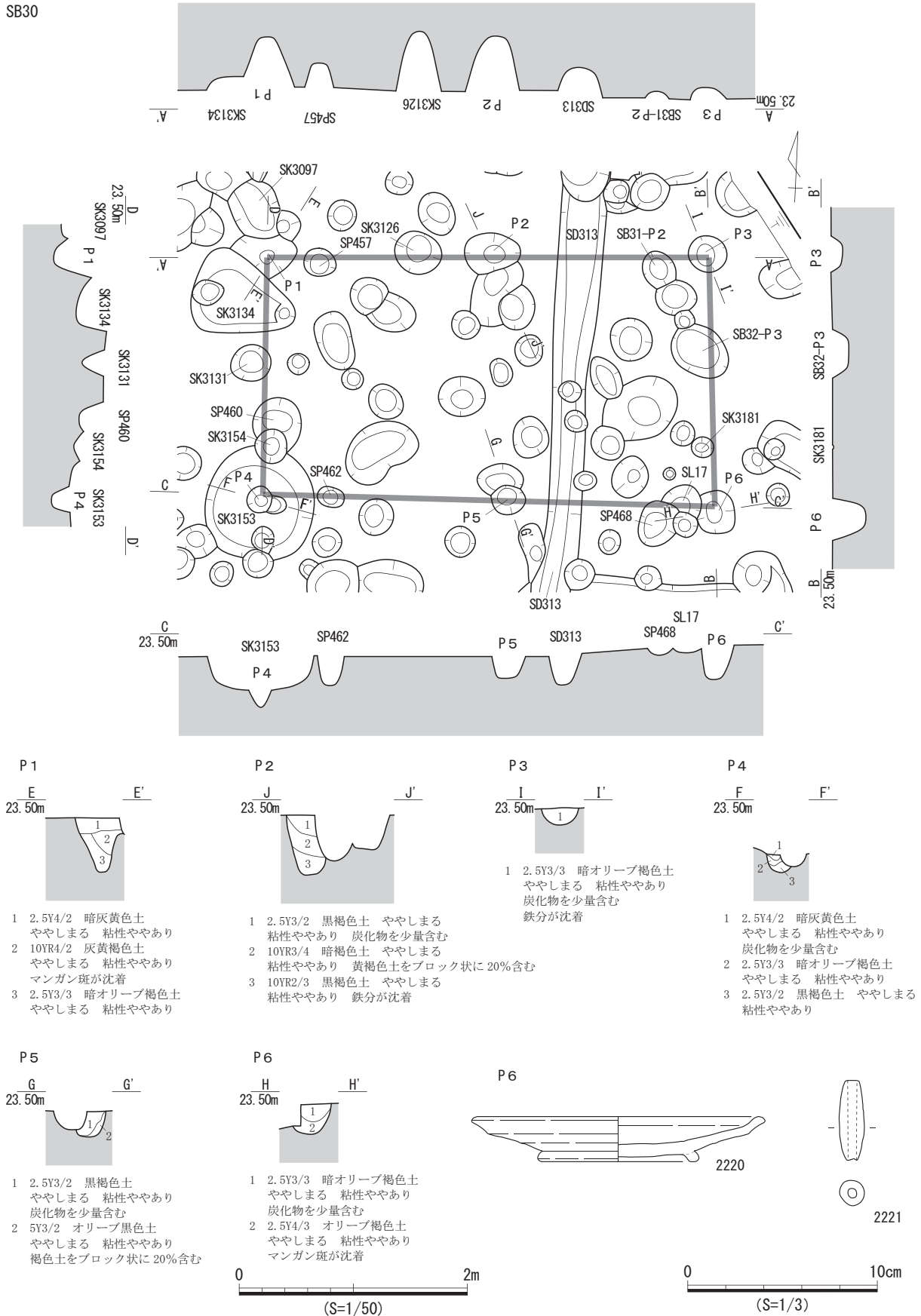


図 365 SB30 遺構図・出土遺物実測図

SB32 (図 367)

検出状況 L011~L012 グリッド、IV b 層上面で検出した。2 間×1 間の側柱建物である。各柱穴の平面形は P5 では不明瞭で、その他の柱穴では明瞭であった。P5 は SB31-P5、P6 は SK3212 と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 桁行 2 間 (4.4m、柱間 2.1m-2.3m)、梁行 1 間 (2.4m)、面積 10.6 m² である。長軸方位は、N-85°-W である。東西に長い長方形の建物である。SB29~SB31 と重複する位置関係にある。SD300 と SD316 との間に SB26・SB28~SB32 が位置する。

柱穴 柱穴の平面形は円形若しくは楕円形である。P4 の 1 層は東側で大きく窪む。P5 の 3 層は掘方埋土と考えられる。他の柱穴は単層の埋土若しくは概ね水平に堆積する。いずれの柱穴も炭化物を含

SB31

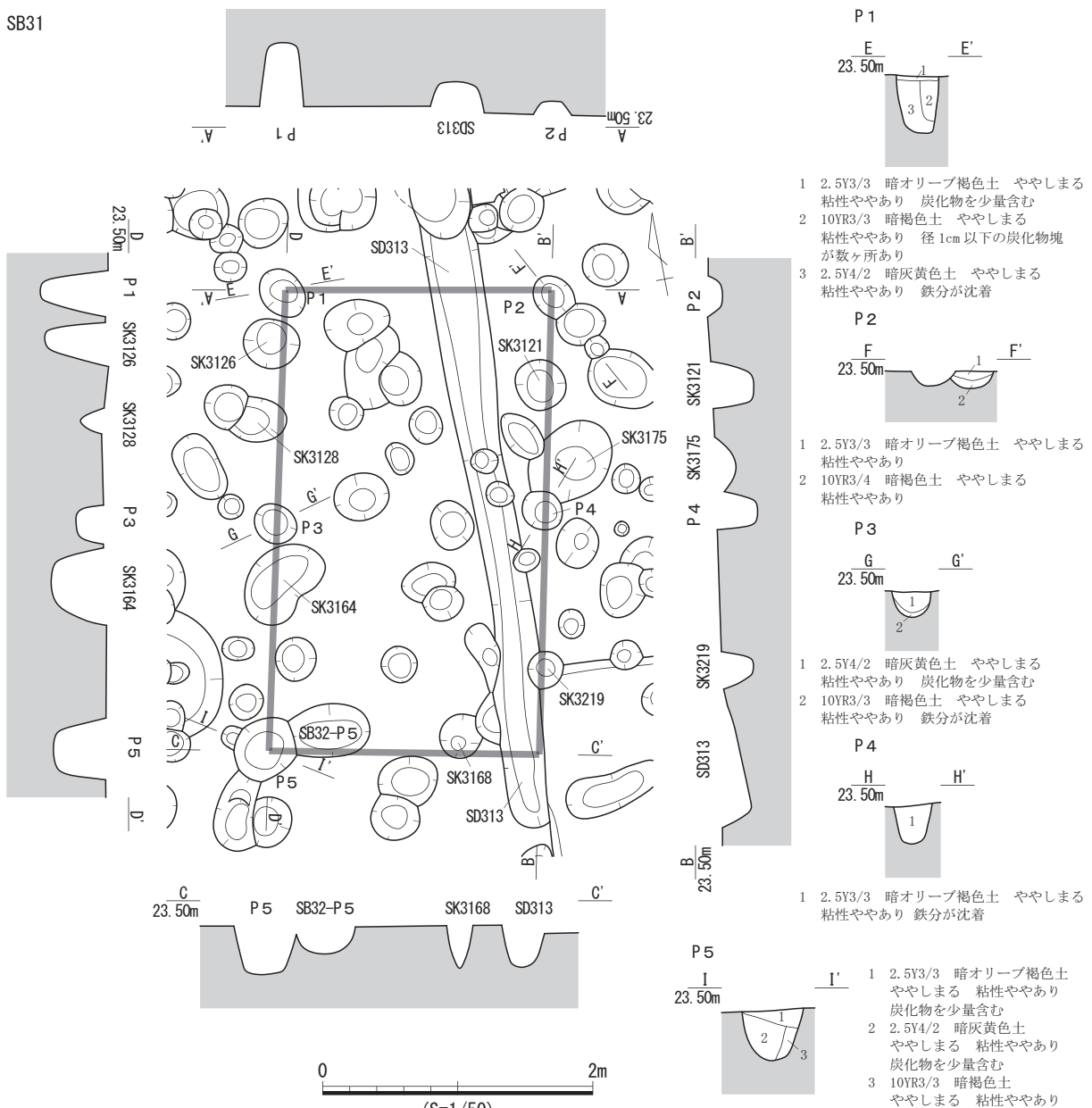


図 366 SB31 遺構図

SB32

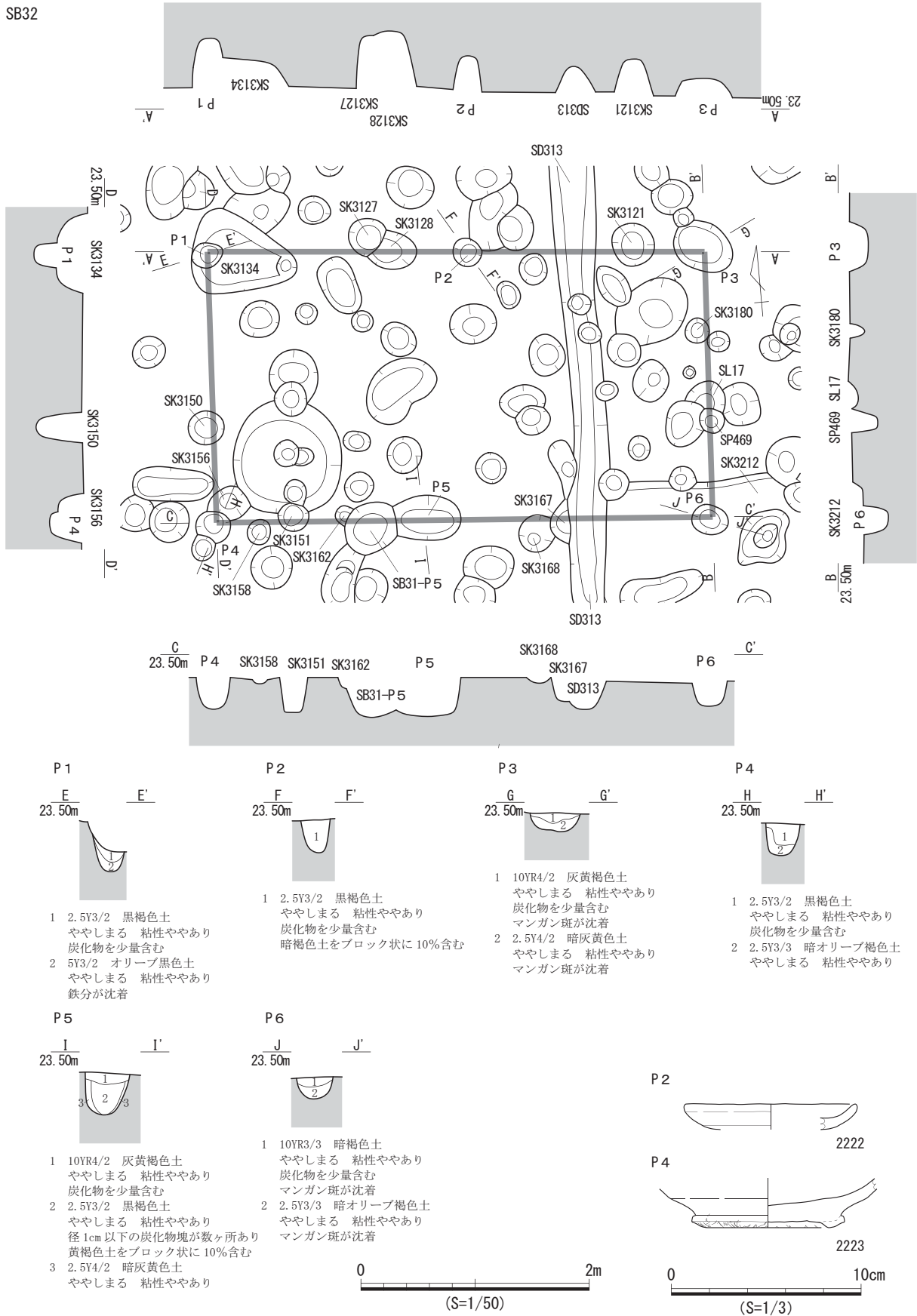


図 367 SB32 遺構図・出土遺物実測図

む。どの柱穴にも特徴的な堆積は認められなかった。P5はP1から土師器1点、山茶碗1点、P2から土師器5点、山茶碗3点、P3から土師器2点、P4から山茶碗4点、P5から土師器2点、山茶碗6点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など2点を図示した。2222はM3類の土師器皿である。2223は第5型式の尾張型山茶碗である。

時期 図示した2223から、本遺構は12世紀後葉から13世紀初頭と考えられる。

2 柵

SA36 (図 368)

検出状況 LM8グリッド、IVb層上面で検出した。各柱穴の平面形はP2では不明瞭であったが、他の柱穴では明瞭であった。北側は発掘区外に延びる可能性がある。P1はSK3378の底面で検出した。本遺構はSK3378より古い。

規模・形状 3基の柱穴が直線的に並ぶ。柱間はP1から1.5m-1.2mである。方位はN-17°-Wである。東側5m以内に存在するSA37~SA39とは方位が異なる。

柱穴 柱穴の平面形は円形である。いずれの柱穴も概ね水平に堆積し、小礫若しくは炭化物を含む。どの柱穴にも特徴的な堆積は認められなかった。P1から土師器5点、山茶碗2点、P2から山茶碗1点、P3から土師器1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 第5型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は12世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SA37 (図 369)

検出状況 LM9~LM10グリッド、IVb層上面で検出した。各柱穴の平面形は、P4では不明瞭で、他の柱穴では明瞭であった。北東側は発掘区外に続く可能性がある。

規模・形状 4基の柱穴が直線的に並ぶ。柱間は、P1から1.7m-1.4m-1.3mである。方位はN-48°-Eである。SA38と重複する位置関係で、東側のSA39と方位が揃う。

柱穴 柱穴の平面形は円形である。いずれの柱穴も概ね水平に堆積し、1層に炭化物を含む。どの柱穴にも特徴的な堆積は認められなかった。P2から土師器6点、山茶碗2点、砥石1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SA39との位置関係から、本遺構は14世紀初頭から15世紀後葉と考えられる。

SA38 (図 370)

検出状況 LM9~LM10グリッド、IVb層上面で検出した。各柱穴の平面形はP3とP4では不明瞭で、他の柱穴では明瞭であった。P4はSD317と重複する。本遺構はSD317より新しい。

規模・形状 4基の柱穴が直線的に並ぶ。柱間は、P1から1.2m-1.5m-1.2mである。方位はN-82°-Eである。SA37と重複する位置関係で、周囲に位置するSA36・SA39と方位が異なる。

柱穴 柱穴の平面形は円形若しくは楕円形である。いずれの柱穴も単層の埋土若しくは概ね水平に堆積する。どの柱穴にも特徴的な堆積は認められなかった。P1は、上端の長軸0.75mと他の柱穴に比べて大きく、3層に小礫を多く含む。P1から土師器10点、山茶碗4点、古瀬戸2点、P2から土師器

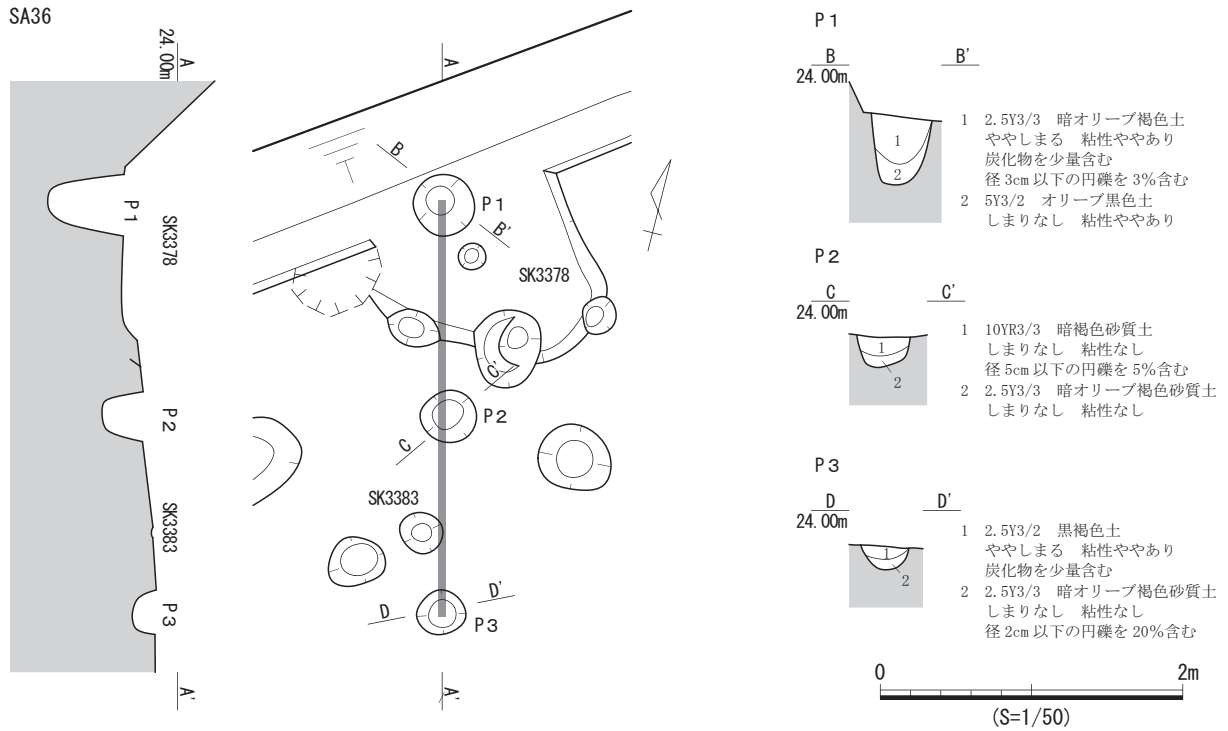


図 368 SA36 遺構図

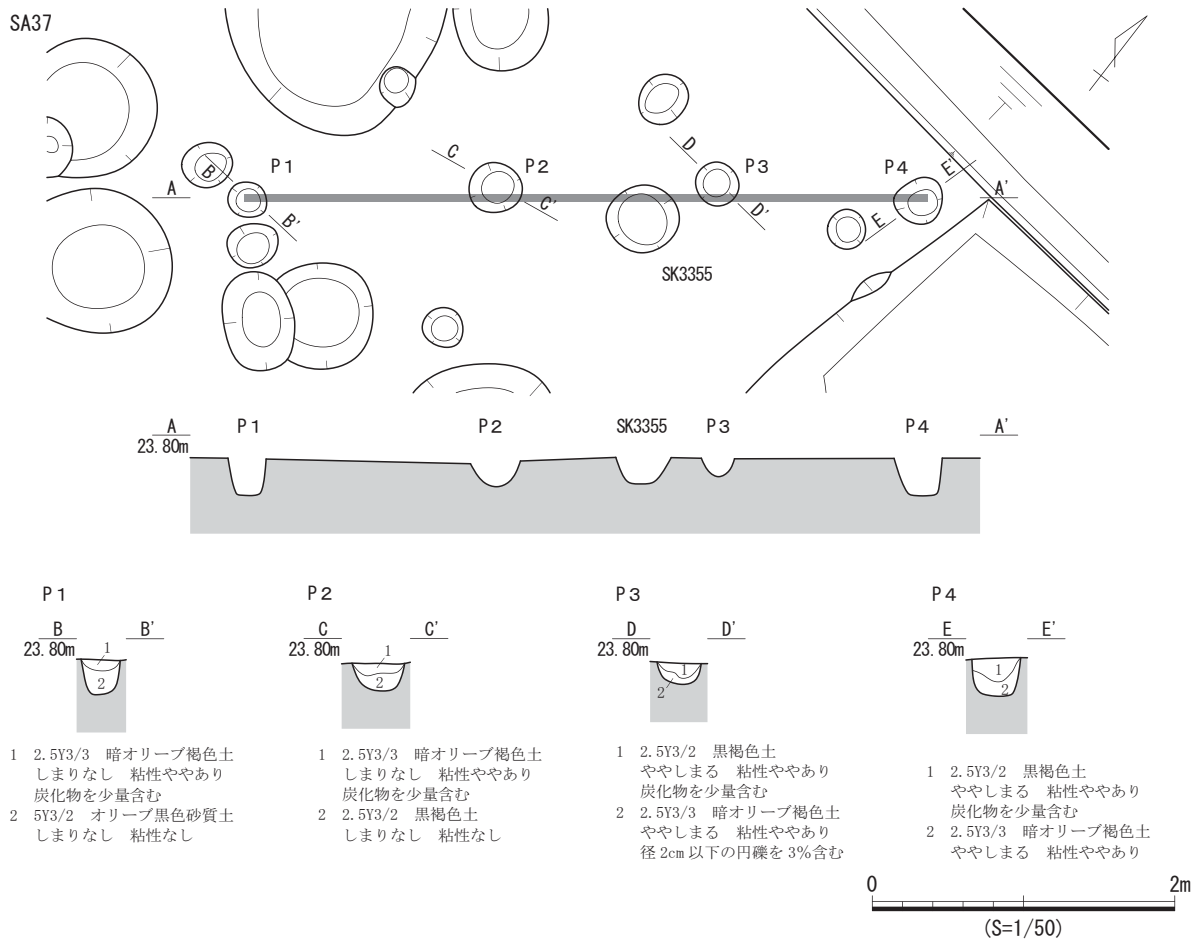


図 369 SA37 遺構図

2点、P3から土師器1点、山茶碗1点、P4から山茶碗1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器1点を図示した。2224はB1類の土師器皿である。

時期 古瀬戸が出土したことから、本遺構は12世紀末から15世紀後葉と考えられる。

SA39 (図371)

検出状況 LM8～LN10グリッド、IVb層上面で検出した。各柱穴の平面形はP1・P3・P4では不明瞭で、他の柱穴では明瞭であった。北東側は発掘区外に続く可能性がある。P1はSK3350・SK3354、P2はSK3354と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 6基の柱穴がL字型に並ぶ。柱間はP1から2.7m-2.1m-2.1m-2.2m-2.3mである。長軸方位はN-50°-Wである。SB37と長軸方位が揃う。

柱穴 柱穴の平面形は円形である。いずれの柱穴も単層の埋土若しくは水平に堆積し、礫や炭化物を含む。どの柱穴にも特徴的な堆積は認められなかった。P1から土師器3点、須恵器1点、山茶碗4点、P2から土師器3点、山茶碗3点、古瀬戸1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

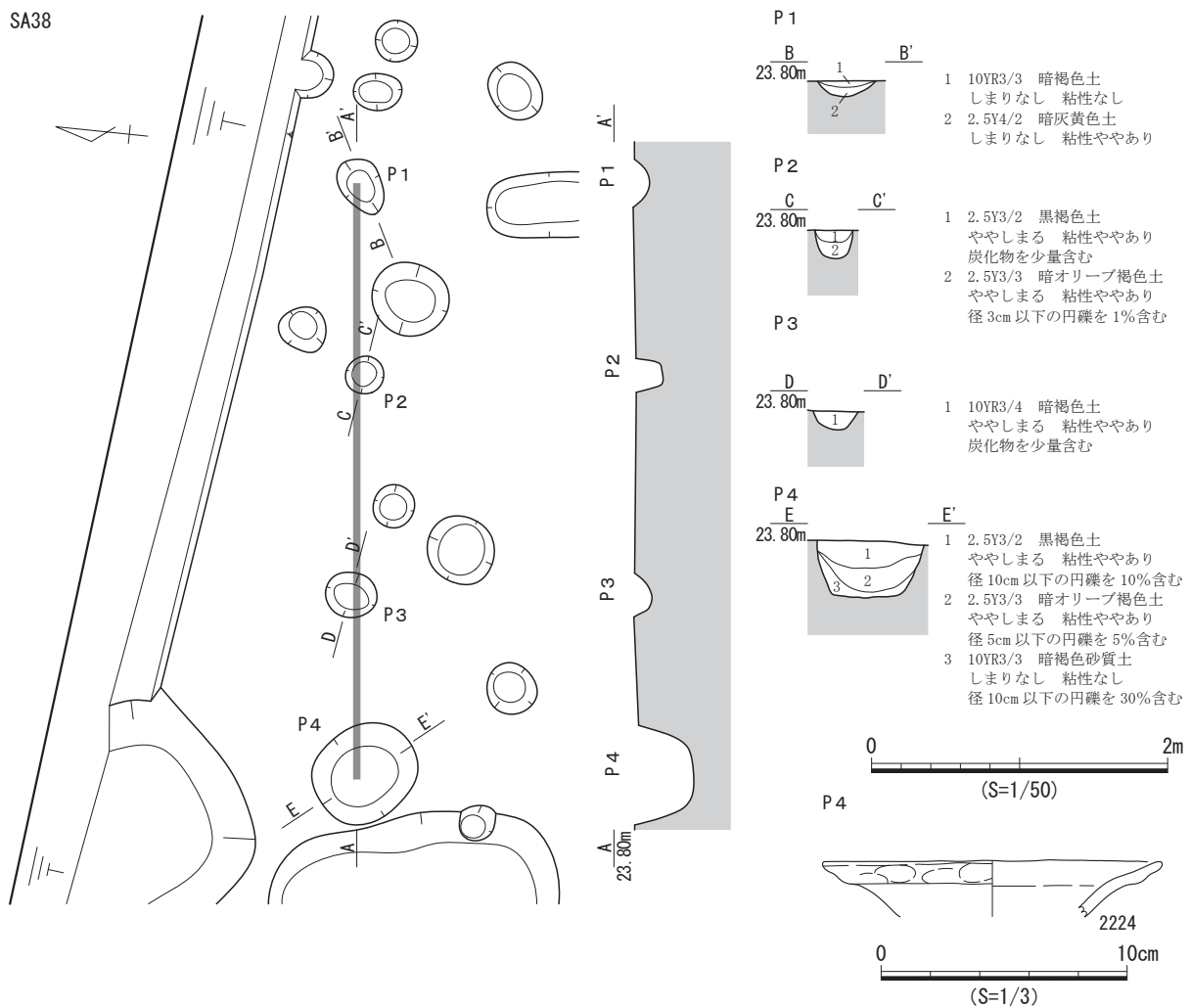
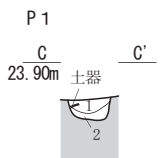
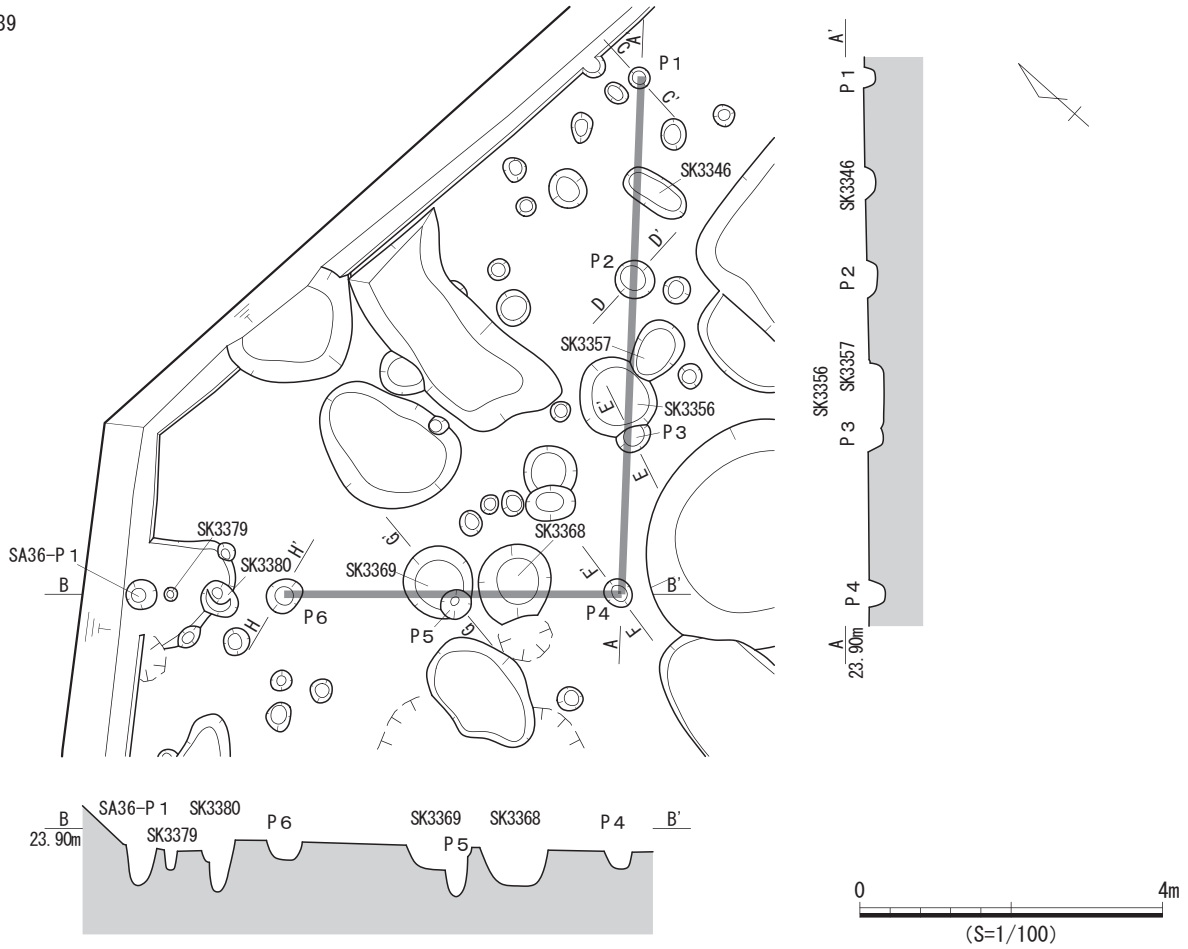
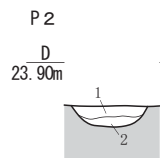


図370 SA38遺構図・出土遺物実測図

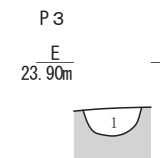
SA39



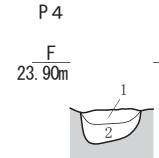
- 1 2.5Y3/2 黒褐色土
しまりなし 粘性ややあり
炭化物を少量含む
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土
しまりなし 粘性ややあり



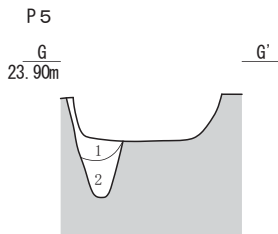
- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土
しまりなし 粘性ややあり
炭化物を少量含む
- 2 10YR3/4 暗褐色土
しまりなし 粘性ややあり
径3cm以下の円礫を3%含む



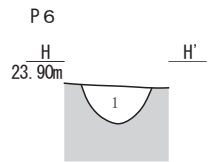
- 1 10YR3/3 暗褐色土
ややしまる 粘性ややあり
径1cm以下の円礫を1%含む



- 1 2.5Y3/2 黒褐色土
ややしまる 粘性ややあり
径3cm以下の円礫を3%含む
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質土
ややしまる 粘性なし



- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土
ややしまる 粘性なし
径1cm以下の円礫を1%含む
- 2 5Y3/2 オリーブ黒色土
ややしまる 粘性ややあり



- 1 10YR3/3 暗褐色砂質土
しまりなし 粘性なし
径5cmの円礫を1%含む

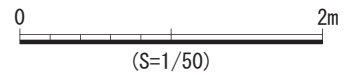


図 371 SA39 遺構図

時期 SK3350 との重複関係と古瀬戸が出土したことから、本遺構は 14 世紀初頭から 15 世紀後葉と考えられる。

SA40 (図 372)

検出状況 LN18~LN19 グリッド、IV b 層上面で検出した。各柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。北西側は発掘区外に続く可能性がある。P3 は SK2912 と重複する。本遺構は SK2912 より新しい。

規模・形状 3 基の柱穴が直線的に並ぶ。柱間は P1 から 2m-2.1m である。方位は N-63° -W である。SB27・SA41 と重複する位置関係である。

柱穴 柱穴の平面形は円形若しくは楕円形である。いずれの柱穴も単層の埋土若しくは水平に堆積し、1 層に炭化物を含む。どの柱穴にも特徴的な堆積は認められなかった。P1 から土師器 5 点、P2 から土師器 3 点、山茶碗 2 点、P3 から土師器 1 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2912 との重複関係と第 5 型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は 13 世紀初頭から 15 世紀後葉と考えられる。

SA41 (図 373)

検出状況 LN18~LN19 グリッド、IV b 層上面で検出した。全ての柱穴で、平面形は明瞭であった。P2 と P3 は SK2912 と重複する。本遺構は SK2912 より新しい。

規模・形状 3 基の柱穴が直線的に並ぶ。柱間は P1 から 1.7m-1.7m である。方位は N-90° -E-W である。SB27・SA40 と重複する位置関係である。

柱穴 柱穴の平面形は円形である。P2 の 3 層は掘方埋土と考えられる。P1 と P3 は概ね水平に堆積する。どの柱穴にも特徴的な堆積は認められなかった。また、P3 の 1 層の底部で幅 30cm ほどの扁平な垂円礫を確認した。2 層を整地土として据えられた礎石の可能性もある。P1 から土師器 1 点、山茶碗 1 点、P2 から土師器 13 点、山茶碗 6 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2912 との重複関係と第 5 型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は 13 世紀初頭から 15 世紀後葉と考えられる。

SA42 (図 374)

検出状況 L08~L09 グリッド、IV b 層上面で検出した。各柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。

規模・形状 4 基の柱穴が東西方向に直線的に並ぶ。柱間は P1 から 1.8m-1.7m-1.8m である。方位は N-86° -E である。北側に位置する SD322 とは 0.5m ほどの間隔を空けて並行する。

柱穴 柱穴の平面形は円形若しくは楕円形である。いずれの柱穴も単層の埋土若しくは概ね水平に堆積し、特徴的な堆積は認められなかった。P1~P3 は 1 層に炭化物を含む。P3 から山茶碗 2 点、P4 から土師器 3 点、灰釉陶器 1 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SD322 との位置関係から、本遺構は 13 世紀末から 14 世紀初頭と考えられる。

SA43 (図 375)

検出状況 L011~L013 グリッド、IV b 層上面で検出した。各柱穴の平面形は P4 では不明瞭で、他の柱穴では明瞭であった。P4 は SK3212、P5 は SK4581 と重複する。本遺構は SK3212 より古く、SK4581

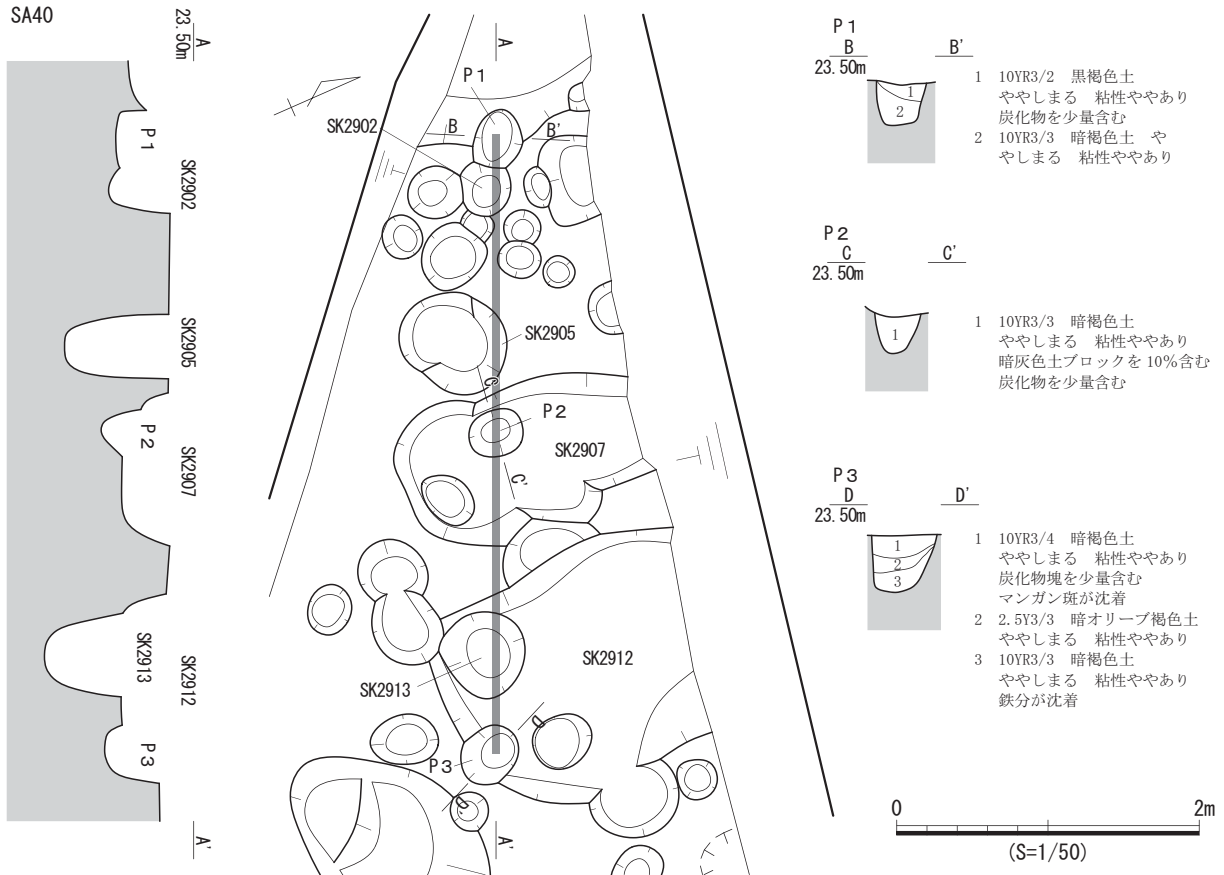


図 372 SA40 遺構図

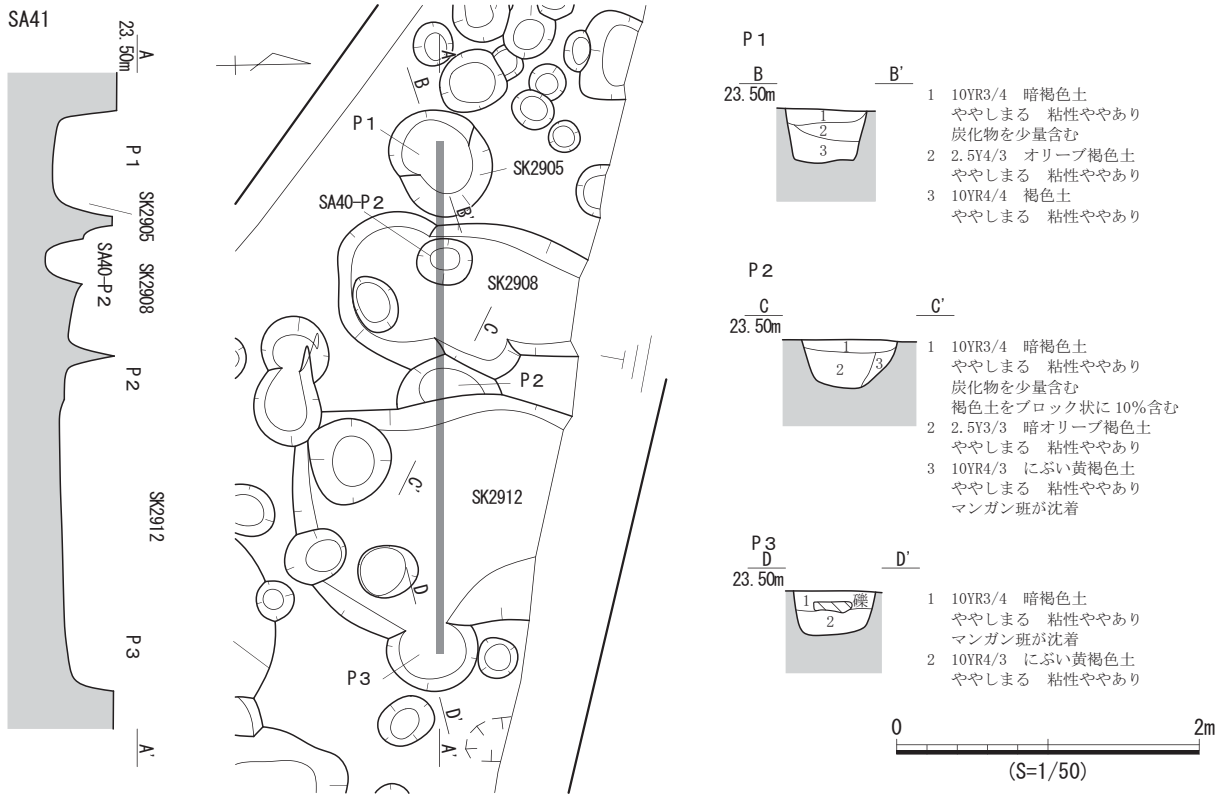


図 373 SA41 遺構図

より新しい。

規模・形状 5基の柱穴が直線的に並ぶ。柱間はP1から1.8m-1.8m-1.6m-1.9mである。方位はN-88°-Wである。西側1m先にSD316、東側0.5m先にSD312が位置し、2条の溝状遺構の間に位置する。

柱穴 柱穴の平面形は円形若しくは楕円形である。P1・P2・P5は概ね水平に堆積する。P3は2層と3層が縦に分層され、P4の1層は南側が深く窪む。いずれの柱穴も炭化物若しくはブロック土を含み、特徴的な堆積は認められなかった。P2から山茶碗2点、P3から灰釉陶器1点、山茶碗2点、P4から土師器1点、須恵器1点、山茶碗1点、P5から土師器1点、須恵器1点、山茶碗2点が散在して出土した。

出土遺物 土師器1点を図示した。2225はM3類の土師器皿である。

時期 SK4581との重複関係と図示した2225から、本遺構は12世紀後葉から13世紀中葉と考えられる。

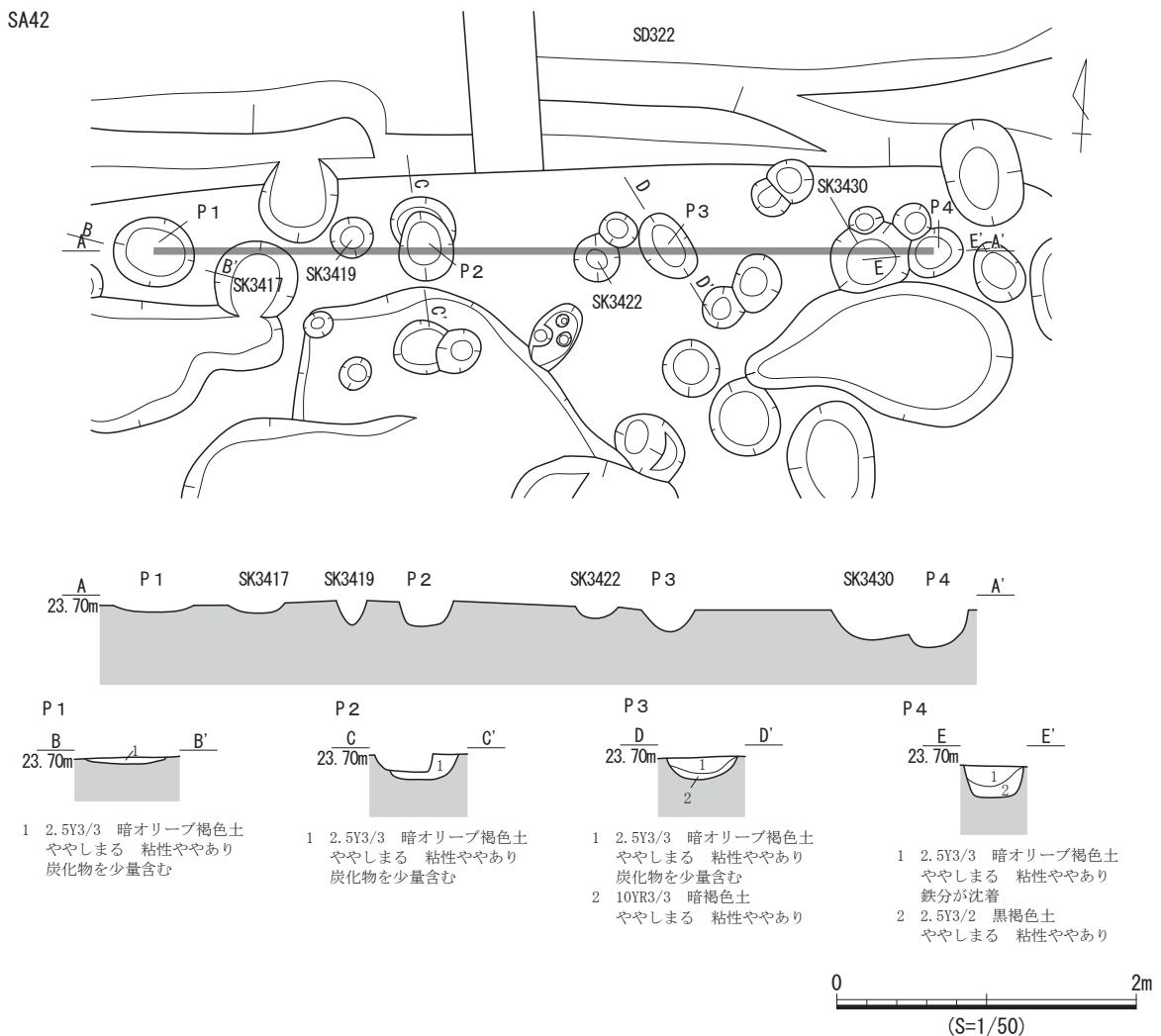


図 374 SA42 遺構図

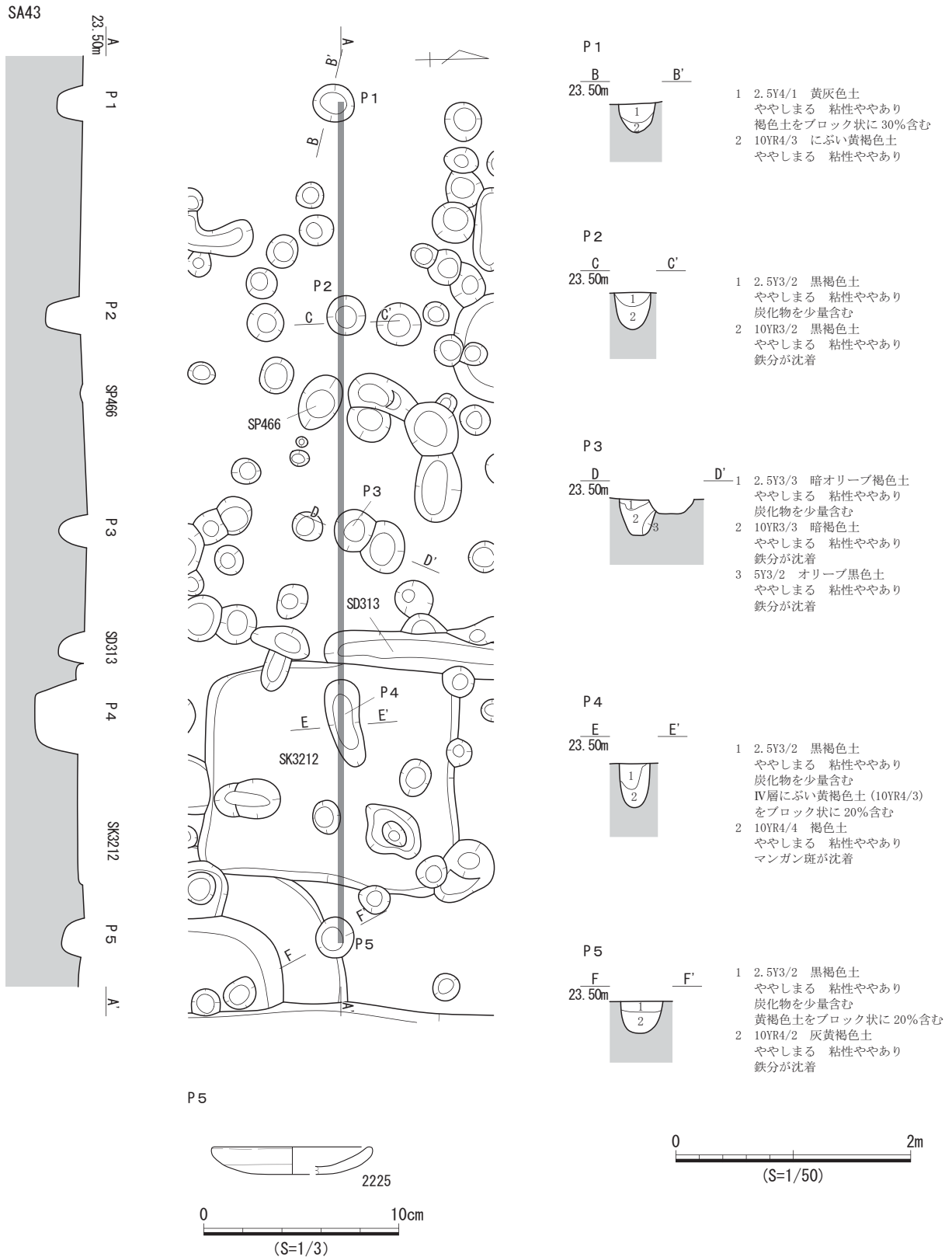


図 375 SA43 遺構図・出土遺物実測図

3 柱穴

SP440 (図 376)

検出状況 LP17 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土 3層に分層した。1層と2層は炭化物を含み、土色も似る。2層から径30cmほどの垂円礫を確認した。垂円礫は上面を平坦に割られて据えられていることから、礎盤石の可能性はある。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

時期 重複関係がなく遺物も出土しなかったため、本遺構の時期は不明である。

SP455 (図 376)

検出状況 L011 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は丸みを帯び、南側が下がる。東側に掘立柱建物群 (SB26・SB28～SB32)、西側にSD316が位置する。

埋土 2層に分層した。1層は検出面付近に薄く堆積し、炭化物を少量含む。

遺物出土状況 2層の底面から幅15cmほどの、上下に砥面をもつ砥石(2227)が出土した。その他に埋土中から土師器14点、須恵器1点、山茶碗4点、土製品4点(鞆羽口1点、種別不明3点)が散在して出土した。

出土遺物 土製品など2点を図示した。2226は鞆羽口で、先端部に鉾滓が付着する。2227は石皿である。

時期 第5型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は12世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SP466 (図 376)

検出状況 L012 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面の傾斜は急で、底面は丸みを帯びる。本遺構の周辺には掘立柱建物や柵などが集まる。

埋土 3層に分層した。1層と3層に炭化物を含む。底面からわずかに浮いた状態で、扁平な垂円礫が平坦面を上にした状態で出土した。1層と2層は柱痕跡、3層は掘方埋土、垂円礫は礎盤石と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器5点、須恵器1点、山茶碗3点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 第5型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は12世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

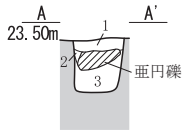
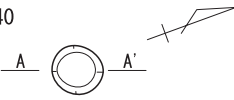
4 土坑

SK2911 (図 377)

検出状況 LN19 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。遺構全体でSK2912と重複する。本遺構はSK2912より新しい。

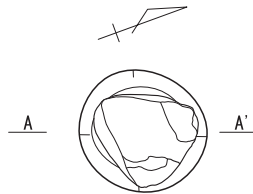
規模・形状 平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がるが、東側にテラス状の平坦面をもつ。

SP440

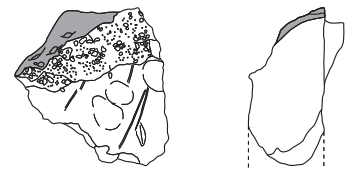
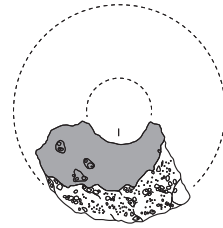


- 1 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり

SP440 亜円礫検出状況図



SP455

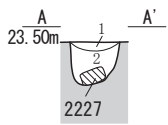
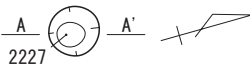


■ 鉱滓範囲



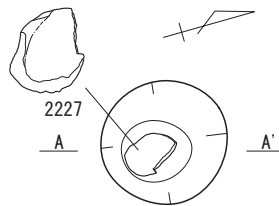
(S=1/3)

SP455



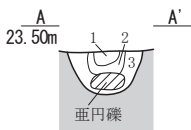
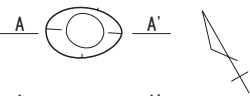
- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 鉄分が沈着

SP455 礫石出土状況図



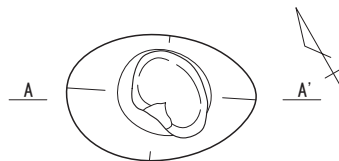
2227

SP466



- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり 鉄分が沈着
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む

SP466 亜円礫検出状況図



(S=1/6)



(S=1/50)



(S=1/20)

図 376 SP440・SP455・SP466 遺構図・出土遺物実測図

底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。1層は上部に薄く堆積する。1層底面付近で、幅30cmほどの亜円礫を確認した。

遺物出土状況 埋土中から土師器26点、須恵器3点、陶器1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK2912との重複関係から、本遺構は13世紀初頭と考えられる

SK2912 (図 377)

検出状況 LN19 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側は発掘区外に続く。西側でSA41-P2、南側でSA40-P3、東側でSK2911・SA41-P3と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不定形と考えられる。壁面の傾斜は西側ではほぼ垂直に立ち上がるが、東側では傾斜は緩やかである。底面は概ね平坦である。

埋土 4層に分層した。中央やや東寄りの3層で径30cmほどの扁平な亜円礫を確認した。

遺物出土状況 亜円礫のすぐ東側で、土師器皿3点(2228~2230)が山茶碗(2232)とともに出土した。このうち2228・2229・2232は逆位で、2230は正位で出土した。その他に埋土中から土師器107点、須恵器2点、灰釉陶器2点、山茶碗29点、陶器2点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿など5点を図示した。2228~2230はC1類の土師器皿である。2231は丸石2号窯式に比定した灰釉陶器の皿である。2232は第6型式の尾張型山茶碗である。

時期 図示した2232から、本遺構は13世紀初頭から中葉と考えられる。

SK2918 (図 377)

検出状況 LN19 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側の上端は重複により消失する。

規模・形状 平面形は不整楕円形である。壁面は南側ではほぼ垂直に立ち上がり、北側では傾斜はやや緩やかである。底面は概ね平坦で、西側にテラス状の平坦面をもつ。

埋土 単層の埋土である。炭化物やブロック土を多く含む。

遺物出土状況 西側の平坦面上で扁平な礫の上部に置かれたように、土師器皿1点(2234)が正位で出土した。その他に埋土中から土師器22点、須恵器1点、山茶碗6点、常滑産陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など4点を図示した。2233~2235はC1類の土師器皿である。2236は大畑大洞4号窯式新段階に比定した東濃型山茶碗の小皿である。

時期 図示した2236から、本遺構は14世紀初頭から後葉と考えられる。

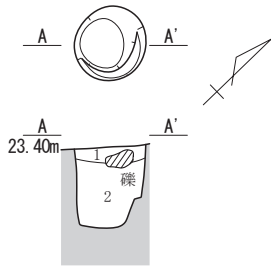
SK2923 (図 378)

検出状況 L019 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は不整円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面はわずかに丸みを帯びる。

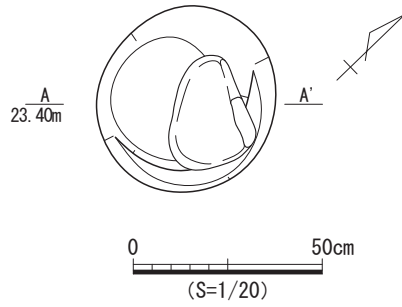
埋土 2層に分層した。概ね水平に堆積し、1層では炭化物を含む。検出面で径32cmほどの扁平な亜円礫を確認した。

SK2911

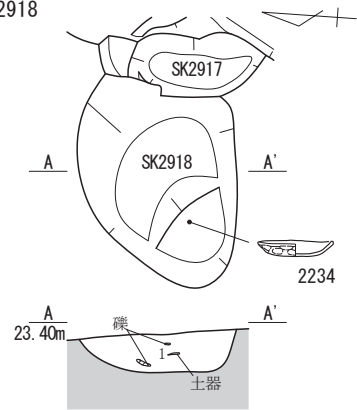


- 1 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物を多く含む
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物を非常に多く含む

SK2911 垂円磔検出状況図

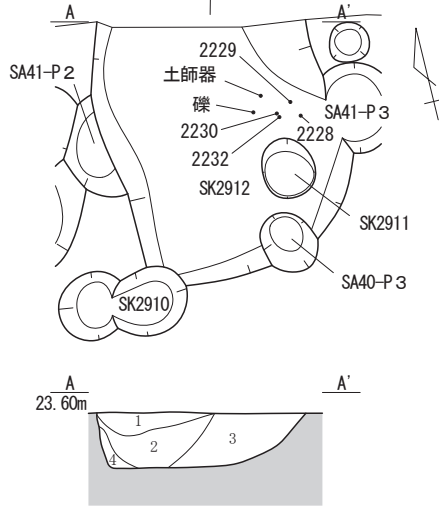


SK2918

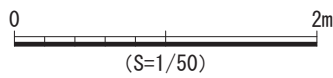


- 1 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物塊を多量に含む
暗灰色土をブロック状に10%含む

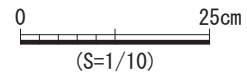
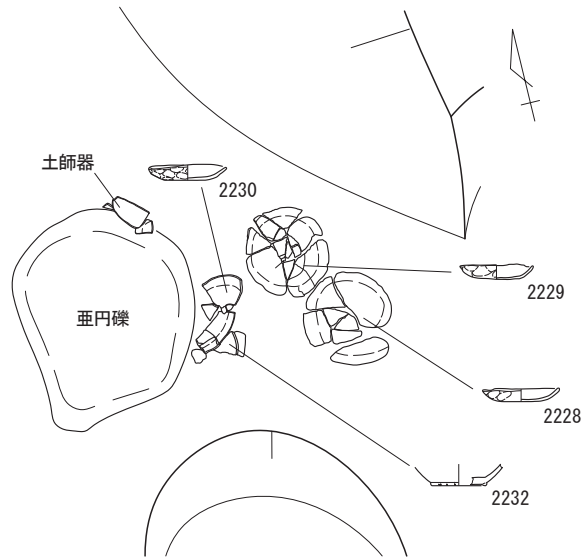
SK2912



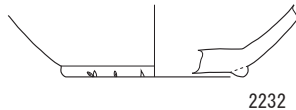
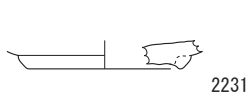
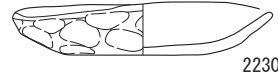
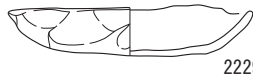
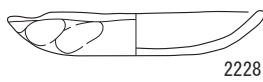
- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる
粘性ややあり マンガン斑が沈着
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物を少量含む
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる
粘性ややあり マンガン斑が沈着
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる
粘性ややあり マンガン斑が沈着



SK2912 遺物出土状況図



SK2912



SK2918

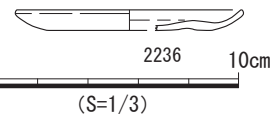
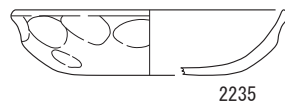
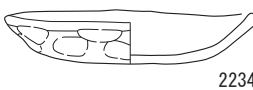
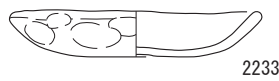


図 377 SK2911・SK2912・SK2918 遺構図・出土遺物実測図

遺物出土状況 埋土中から土師器 1 点が出土したが、小片であった。

出土遺物 小片のため図示できなかった。

時期 重複関係がなく土師器片 1 点のみの出土であることから、本遺構の時期は不明である。

SK2972 (図 378)

検出状況 LR14~LR15 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側で SD302、東側で SD300 と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 平面形は不整長方形である。深さは 1.4m で周辺の遺構よりも極端に深い。壁面は垂直に立ち上がり、底面は中央から南側で一段下がる。東側にテラス状の平坦面をもつ。SK2989 と深さは異なるが、長軸方位や形状が似る。

埋土 6 層に分層した。1 層は 1.2m 以上堆積し、炭化物やブロック土、小円礫を含む。5 層は底面、6 層は東側の底面に堆積する。

遺物出土状況 埋土中から土師器 27 点、須恵器 2 点、灰釉陶器 2 点、山茶碗 23 点、陶器 7 点、釘 1 点が散在して出土した。規模・形状や出土遺物から、土坑墓の可能性はある。

出土遺物 山茶碗など 2 点を図示した。2237 は第 5 型式の尾張型山茶碗である。2238 は釘である。

時期 SD302 との重複関係と第 5 型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は 13 世紀後葉から 15 世紀後葉と考えられる。

SK2979 (図 378)

検出状況 LR15 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。東側で SD300 と重複する。本遺構は SD300 より新しい。

規模・形状 平面形は不整円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

埋土 3 層に分層した。2 層は東側、3 層は西側の底面に堆積する。

遺物出土状況 検出面で土師器皿 2 点 (2239・2240) が出土した。東側の 2239 は逆位で、西側の 2240 は斜位で出土した。その他に埋土中から土師器 89 点、山茶碗 2 点、陶器 2 点、砥石 1 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器皿など 3 点を図示した。2239 と 2240 は C 1 類の土師器皿である。2241 は砥石である。

時期 SD300 との重複関係と後 IV 期新段階の古瀬戸が出土したことから、本遺構は 15 世紀後葉と考えられる。

SK2989 (図 379)

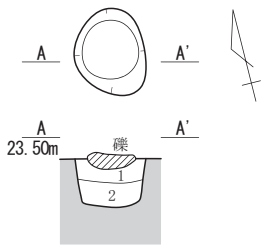
検出状況 LS14~LS15 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側で SD302、南側で SD301 と重複する。底面で SK2990 を検出した。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 平面形は長方形である。壁面の傾斜は、南側は急であるが上部で開く、北側は中ほどでテラス状の平坦面をもつ。底面は概ね平坦である。

埋土 2 層に分層した。1 層は遺構上部に薄く堆積する。1 層底面付近で、径 30cm ほどの垂円礫を確認した。

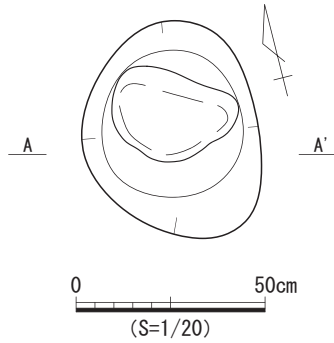
遺物出土状況 埋土中から土師器 34 点、須恵器 2 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 21 点、陶器 5 点、金属製品 2 点 (鉄滓、種別不明) が散在して出土した。

SK2923

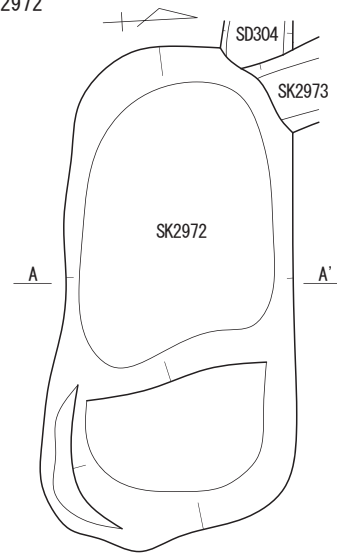


- 1 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む
- 2 10YR4/4 褐色土 ややしまる 粘性ややあり

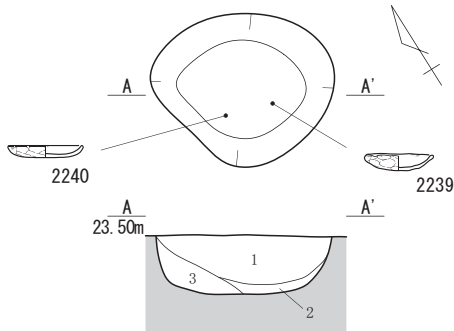
SK2923 亜円礫検出状況図



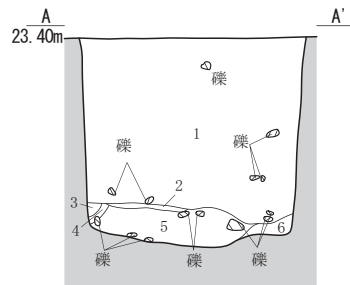
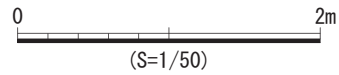
SK2972



SK2979

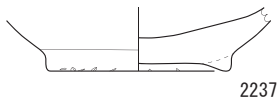


- 1 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着

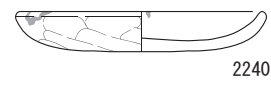
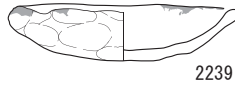


- 1 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物をまばらに含む 灰色土をブロック状に1%含む 径10cm以下の円礫を1%含む
- 2 10YR4/4 褐色粘土 ややしまる 粘性あり
- 3 10YR4/1 褐灰色細砂 ややしまる 粘性なし
- 4 10YR4/4 褐色細砂 ややしまる 粘性なし
- 5 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径15cm以下の円礫を40%含む
- 6 10YR4/4 褐色土 ややしまる 粘性あり

SK2972



SK2979



■ 煤範囲

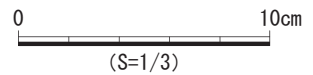
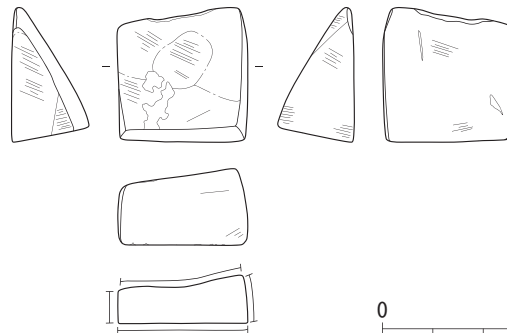
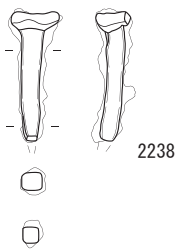


図 378 SK2923・SK2972・SK2979 遺構図・出土遺物実測図

出土遺物 山茶碗1点を図示した。2242は第6型式の尾張型山茶碗である。

時期 SD301との重複関係と第5型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は13世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SK2990 (図 379)

検出状況 LS14～LS15 グリッド、SK2989 底面で検出した。平面形は明瞭であった。本遺構はSK2989より古い。

規模・形状 平面形は隅丸方形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。概ね水平に堆積する。

遺物出土状況 埋土中から土師器4点、山茶碗2点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 第5型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は12世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SK3012 (図 379)

検出状況 NA14 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北東側は発掘区外に続く。西側の先端は攪乱により消失する。

規模・形状 平面形は隅丸長方形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。概ね1層が堆積する。2層は壁面の崩落土と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器7点、須恵器4点、灰釉陶器1点、山茶碗9点、陶器30点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 古瀬戸が出土したことから、本遺構は12世紀末から15世紀後葉と考えられる。

SK3022 (図 379)

検出状況 NC13 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。西側は発掘区外に続く。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整長方形と考えられる。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。埋土全体にブロック土を多量に含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器2点、須恵器2点、山茶碗1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 第5型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は12世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SK3031 (図 379)

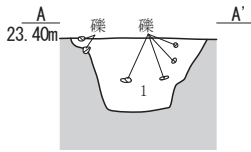
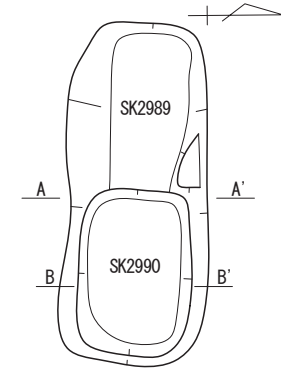
検出状況 NE11 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側は発掘区外に続く。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は楕円形と考えられる。壁面の傾斜は急で、底面は北に向かってやや下がる。

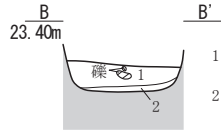
埋土 2層に分層した。概ね水平に堆積する。

遺物出土状況 南側の2層から須恵器の坏蓋1点(2244)が正位で出土した。その他に埋土中から土師

SK2989・SK2990

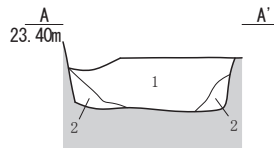
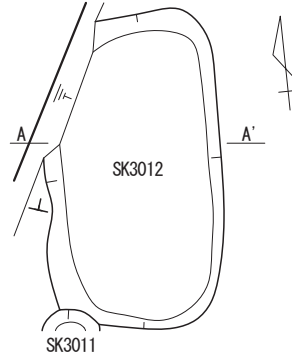


- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物塊を少量含む マンガン斑が沈着



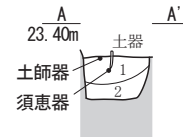
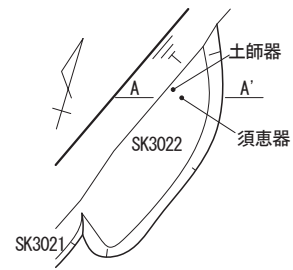
- 1 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり
2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着

SK3012



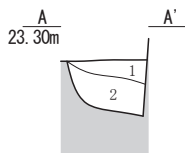
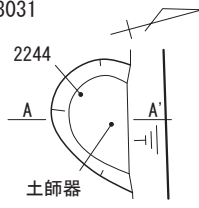
- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径2cm以下の円礫を1%含む マンガン斑が沈着
2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり

SK3022



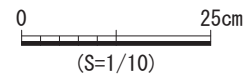
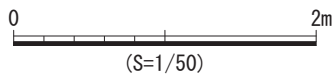
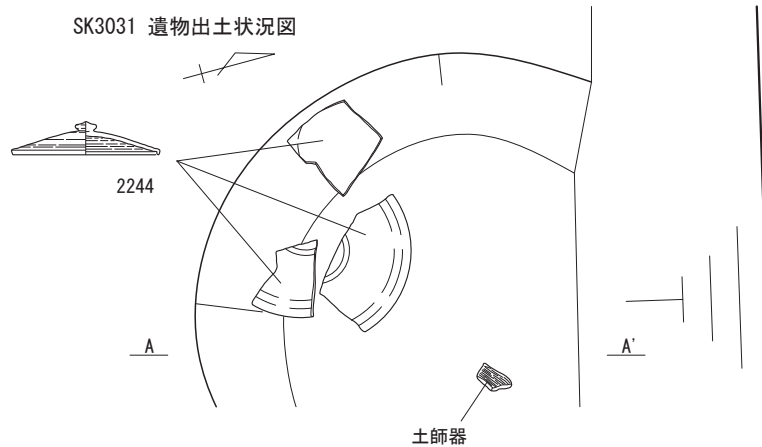
- 1 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 灰黄色土をブロック状に30%含む
2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 灰黄色土をブロック状に30%含む

SK3031

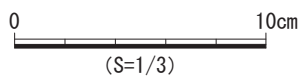
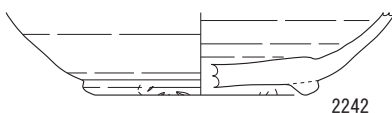


- 1 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着
2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着

SK3031 遺物出土状況図



SK2989



SK3031

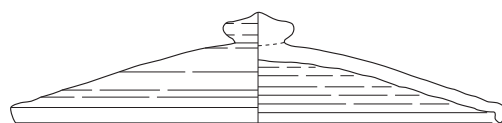
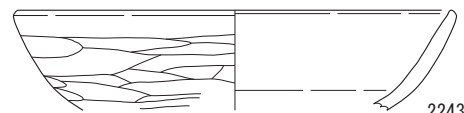


図 379 SK2989・SK2990・SK3012・SK3022・SK3031 遺構図・出土遺物実測図

器6点、須恵器1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など2点を図示した。2243は廻間Ⅱ式の高坏で、横方向のミガキが確認できる。2244は美濃須衛窯Ⅳ期第1小期に比定した須恵器の坏蓋C類である。

時期 図示した2244から、本遺構は8世紀初頭から前葉と考えられる。

SK3047 (図380)

検出状況 LN11グリッド、Ⅳb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。1層は中央が窪む堆積で、炭化物を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器1点、灰釉陶器1点、山茶碗2点が散在して出土した。

出土遺物 灰釉陶器1点を図示した。2245は黒笹14号窯式に比定した灰釉陶器の碗である。

時期 図示した2245から、本遺構は9世紀前葉から中葉と考えられる。

SK3059 (図380)

検出状況 LN11グリッド、Ⅳb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は円形である。壁面の傾斜は急で、底面は概ね平坦である。

埋土 4層に分層した。1層は炭化物を含み、全体に広がる。2層は3層と4層を掘り込むように堆積することから、再掘削の可能性はある。

遺物出土状況 SK3053との境界付近の1層から土錘(2249)が出土した。その他に埋土中から土師器15点、須恵器1点、灰釉陶器4点、山茶碗34点、陶磁器2点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など4点を図示した。2246はM3類の土師器皿である。2247と2248は尾張型山茶碗で、2247は第4型式の小碗、2248は第5型式の碗である。2249は土錘である。

時期 図示した2248から、本遺構は12世紀後葉から13世紀初頭と考えられる。

SK3084 (図380)

検出状況 LN11グリッド、SK3078底面で検出した。平面形は明瞭であった。東側は重複により消失する。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整楕円形と考えられる。西壁面はほぼ垂直に立ち上がり、わずかに袋状を呈する。底面は東に向かってわずかに下がる。

埋土 2層に分層した。埋土全体にブロック土を多く含むことから、人為堆積と考えられる。底面付近で径20cm~30cmの垂円礫3点を確認した。

遺物出土状況 埋土中から土師器3点、山茶碗6点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 第5型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は12世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SK3088 (図380)

検出状況 LN11グリッド、Ⅳb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 平面形は円形である。壁面の傾斜は急で、底面は平坦である。

埋土 3層に分層した。1層と2層にブロック土を多く含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器1点、山茶碗4点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 D類の伊勢型鍋が出土したことから、本遺構は13世紀後葉から14世紀後葉と考えられる。

SK3095 (図 380)

検出状況 LN11 グリッド、SK3070 底面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面は狭く、丸みを帯びる。

埋土 単層の埋土である。炭化物とブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。埋土の上層で径10cmほどの亜円礫と径30cmほどの被熱し割れた亜円礫を確認した。埋没時に入れ込まれたと考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器5点、山茶碗2点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 第5型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は12世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SK3111 (図 381)

検出状況 LN12～L012 グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は不整楕円形である。壁面は、東側ではほぼ垂直に立ち上がる。西側では袋状となる。底面は丸みを帯びる。

埋土 3層に分層した。概ね水平に堆積する。3層にブロック土、1層に遺物を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 1層から残りの良い山茶碗の小皿2点(2251・2252)が正位で出土した。3層底面付近から、山茶碗の小碗の底部1点(2250)と、半分に割れた山茶碗1点(2254)が逆位で出土した。また、底面付近で検出された山茶碗は、それぞれの脇には大きさ8cm～10cmの方形の黒色の礫が置かれており、意図的に配置したと考えられる。その他に埋土中から土師器3点、灰釉陶器1点、山茶碗29点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗5点を図示した。2250～2254は尾張型山茶碗で、2250は第4型式の小碗、2251～2254は第5型式の小皿と碗である。

時期 図示した2251～2254から、本遺構は12世紀後葉から13世紀初頭と考えられる。

SK3112 (図 381)

検出状況 LN12 グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側でSK3113と重複する。本遺構はSK3113より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は丸みを帯びる。

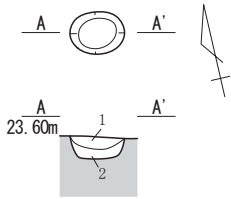
埋土 2層に分層した。1層に炭化物を含む。

遺物出土状況 1層と2層の層界付近から半分に割れた山茶碗の小皿1点(2256)と碗1点(2257)が逆位で重なって出土した。その他に埋土中から土師器2点、山茶碗9点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など3点を図示した。2255はM2類の土師器皿である。2256と2257は第5型式の尾張型山茶碗の小皿と碗である。

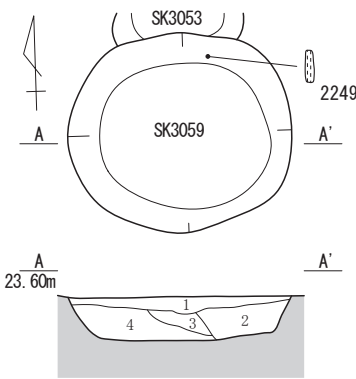
時期 SK3113との重複関係と図示した2256と2257から、本遺構は12世紀後葉から13世紀初頭と考えられる。

SK3047



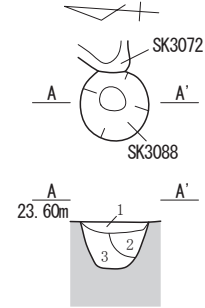
- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 鉄分が沈着

SK3059



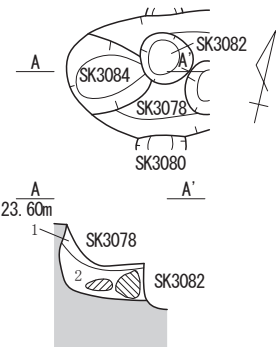
- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む
- 2 10YR3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着
- 3 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり

SK3088



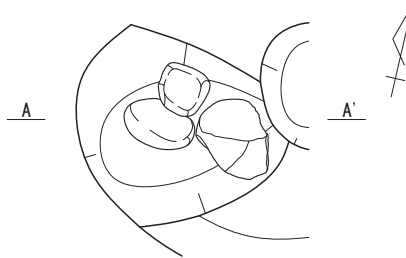
- 1 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 黄褐色土をブロック状に30%含む
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 黄褐色土をブロック状に30%含む
- 3 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり

SK3084

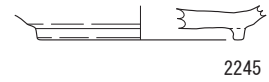


- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 黄褐色土をブロック状に30%含む 炭化物を多く含む
- 2 10YR3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 黄褐色土をブロック状に30%含む マンガン斑が沈着

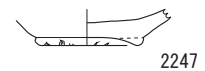
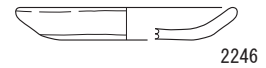
SK3084 垂円礫検出状況図



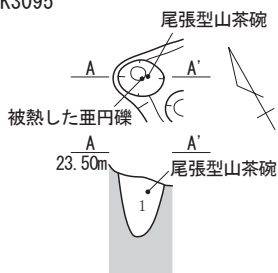
SK3047



SK3059



SK3095



- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む 黄褐色土をブロック状に10%含む

SK3095 遺物出土状況図

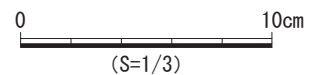
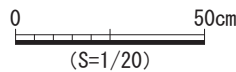
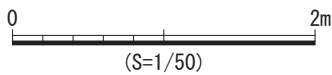
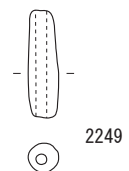
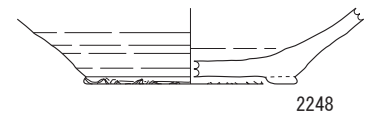
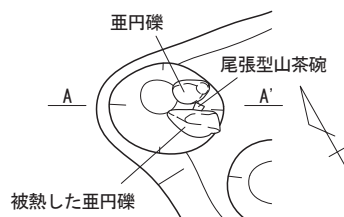
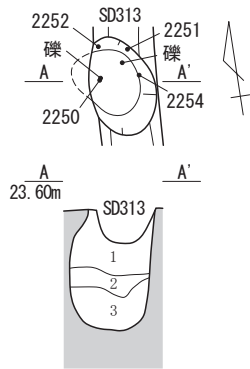


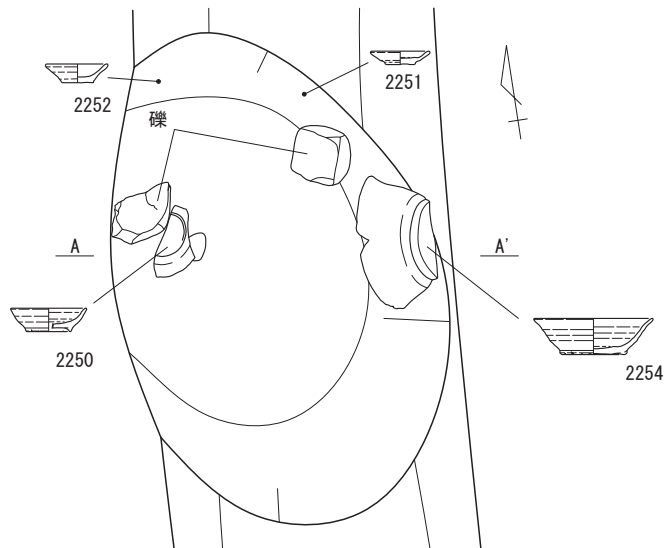
図 380 SK3047・SK3059・SK3084・SK3088・SK3095 遺構図・出土遺物実測図

SK3111

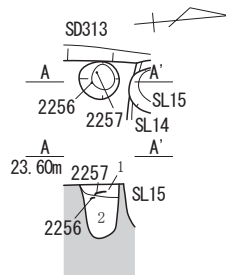


- 1 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性あり 鉄分が沈着
- 2 10YR4/4 褐色土 ややしまる 粘性ややあり 鉄分が沈着
- 3 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性あり 褐色土をブロック状に20%含む

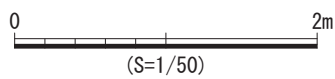
SK3111 遺物出土状況図



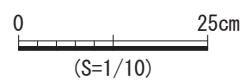
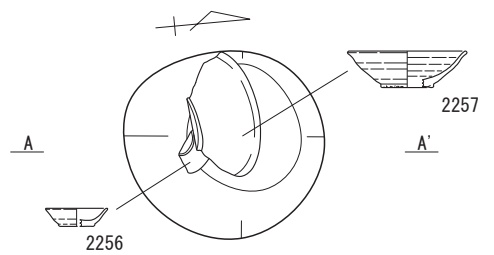
SK3112



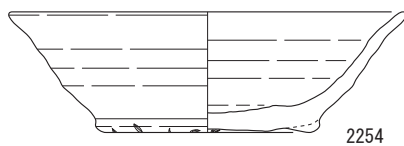
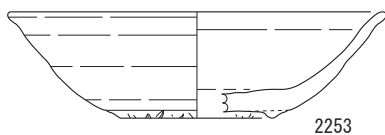
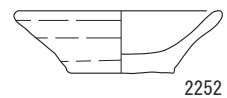
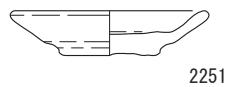
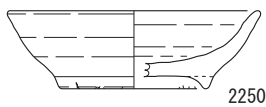
- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり



SK3112 遺物出土状況図



SK3111



SK3112

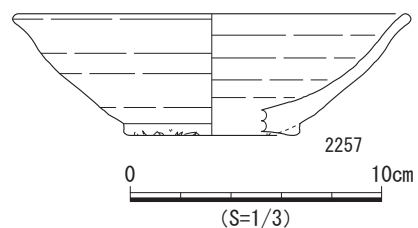
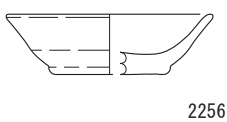
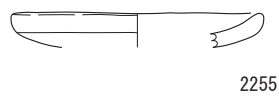


図 381 SK3111・SK3112 遺構図・出土遺物実測図

SK3113 (図 382)

検出状況 LN12 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側で SK3112 と重複する。本遺構は SK3112 より古い

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整楕円形と考えられる。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みを帯び、南側ではテラス状の平坦面をもつ。

埋土 3層に分層した。1層と2層はテラス面の最上層に堆積し、3層はテラス面の最下層に堆積することから、1層と2層は再掘削の可能性はある。

遺物出土状況 2層で径11cmの埴輪を確認し、埴輪の上面から山茶碗片3点、埴輪の下から山茶碗6点(2258~2263)が正位で重なった状態で出土した。意図的に埋められたと考えられる。その他に埋土中から土師器2点、須恵器1点、山茶碗17点、鉄滓1点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗6点を図示した。2258~2263は第5型式の尾張型山茶碗である。2264は鉄滓である。

時期 SK3112との重複関係と図示した2258~2263から、本遺構は12世紀後葉から13世紀初頭と考えられる。

SK3115 (図 383)

検出状況 L012 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は不整円形である。壁面は、北側では垂直に立ち上がり、中央がややえぐれる。南側では垂直に立ち上がるが、中層から上部では傾斜が緩やかとなる。東西両側では傾斜が急である。底面はわずかに丸みを帯びる。

埋土 2層に分層した。2層に炭化物や焼土粒を含む。

遺物出土状況 2層の上部から山茶碗1点(2265)が逆位で出土した。その他に埋土中から土師器2点、山茶碗15点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗1点を図示した。2265は第6型式の尾張型山茶碗である。

時期 図示した2265から、本遺構は13世紀初頭から中葉と考えられる。

SK3151 (図 383)

検出状況 L011~L012 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は丸みを帯びる。

埋土 2層に分層した。中央が窪む堆積である。2層の底面から少し浮いたところで径12cmの埴輪を確認した。

遺物出土状況 埋土中から山茶碗2点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

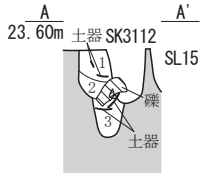
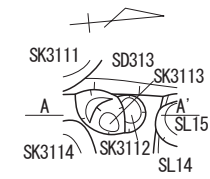
時期 第5型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は12世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SK3161 (図 383)

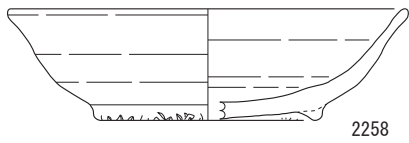
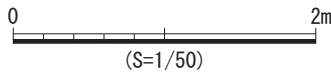
検出状況 L012 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側で SB31-P5 と重複する。本遺構は SB31 より古い。

規模・形状 平面形は不整楕円形である。壁面の傾斜は急で、底面は丸みを帯びる。北側にテラス状の平坦面をもつ。

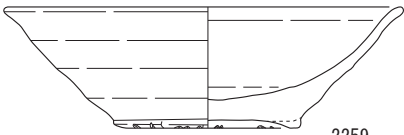
SK3113



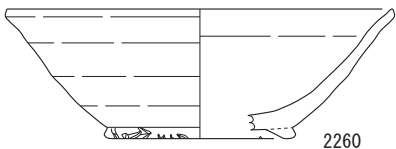
- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色土
ややしまる 粘性ややあり
マンガ斑が沈着
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土
ややしまる 粘性ややあり
黄褐色土をブロック状に20%含む
- 3 10YR3/3 暗褐色土
ややしまる 粘性ややあり



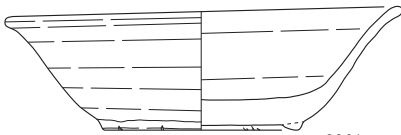
2258



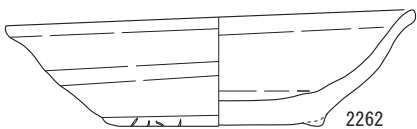
2259



2260



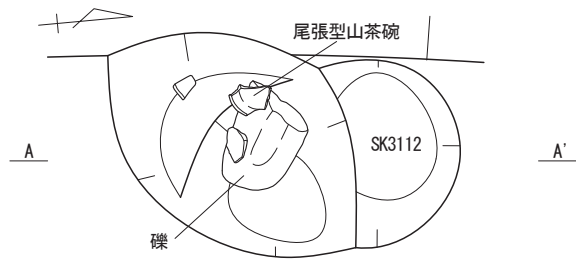
2261



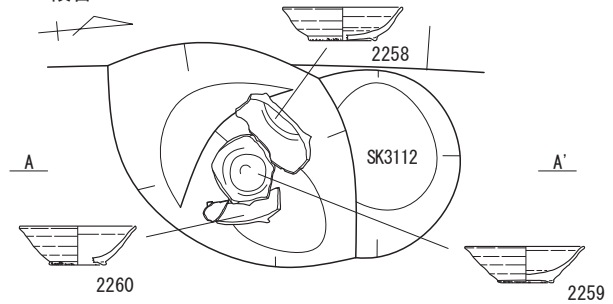
2262

SK3113 遺物出土状況図

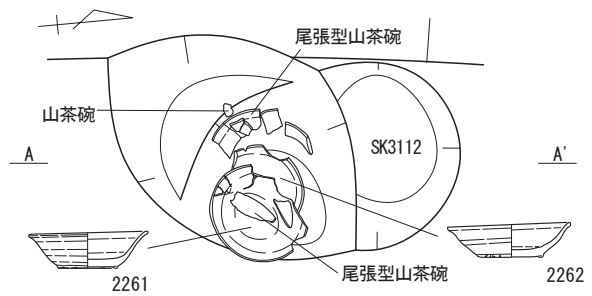
1 段目 (上段)



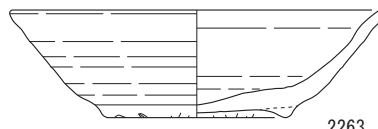
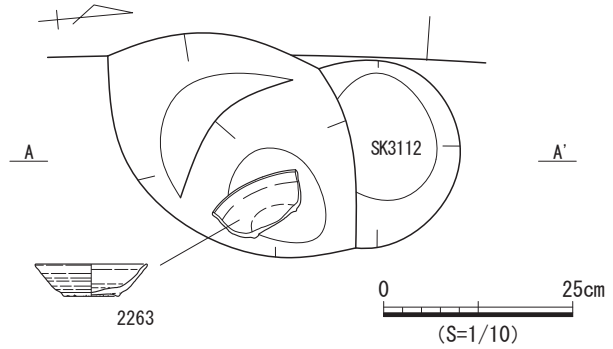
2 段目



3 段目



4 段目 (下段)



2263

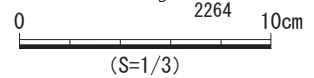


図 382 SK3113 遺構図・出土遺物実測図

埋土 2層に分層した。中央が窪む堆積である。1層に炭化物を含む。2層の底面から少し浮いたところで、径18cmの割れた亜円礫を確認した。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

時期 SB31との重複関係から、本遺構は13世紀初頭以前と考えられる。

SK3175 (図383)

検出状況 L012グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側でSB31-P4と重複する。本遺構はSB31より古い。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面の傾斜はやや急で、底面は丸みを帯びる。

埋土 2層に分層した。1層は上層に概ね水平に堆積し、炭化物を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器4点、灰釉陶器4点、山茶碗14点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗1点を図示した。2266は第4型式の尾張型山茶碗である。

時期 図示した2266から、本遺構は12世紀中葉から後葉と考えられる。

SK3192 (図384)

検出状況 L013グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側は発掘区外に続く。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整楕円形と考えられる。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土 3層に分層した。概ね水平に堆積する。3層は南側壁面では中層まで堆積する。1層に焼土粒や炭化物を多く含む。

遺物出土状況 中央部西側の底面付近から、山茶碗2点(2270・2271)が正位で出土した。その他に埋土中から土師器8点、山茶碗24点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など5点を図示した。2267はM3類の土師器皿である。2268～2270は尾張型山茶碗で、2268は第3型式、2269は第5型式、2270は第6型式である。2271は白土原1号窯式に比定した東濃型山茶碗である。

時期 図示した2270と2271から、本遺構は13世紀初頭から中葉と考えられる。

SK3212 (図384)

検出状況 L012～LP12グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。底面でSB32-P6・SA43-P4を検出した。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 平面形は隅丸方形である。壁面の傾斜は急である。底面は平坦で、西に向かってわずかに下がる。

埋土 単層の埋土である。ブロック土を多く含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器15点、須恵器5点、灰釉陶器3点、山茶碗36点、陶器3点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

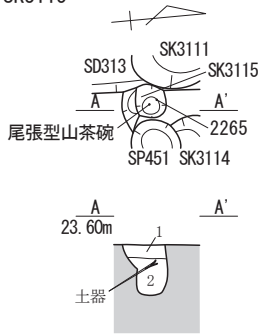
出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 大畑大洞4号窯式に比定した東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構は13世紀末から14世紀後葉と考えられる。

SK3213 (図384)

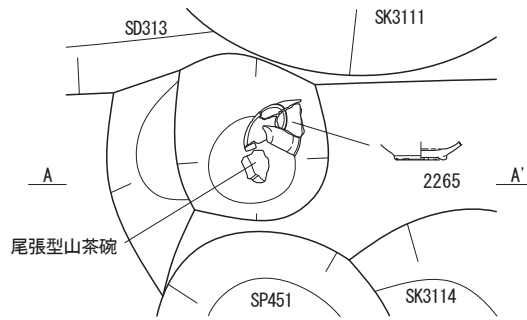
検出状況 LP12～LP13グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側でSK4581と

SK3115

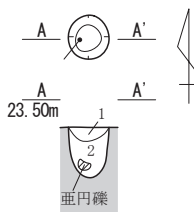


- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる
粘性ややあり マンガン斑が沈着
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物・焼土粒を少量含む マンガン斑が沈着

SK3115 遺物出土状況図

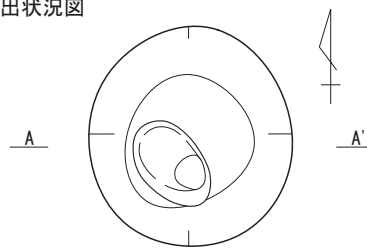


SK3151

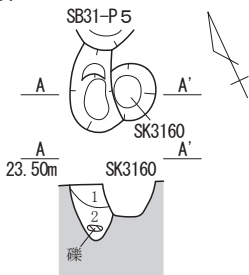


- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物を少量含む
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる
粘性ややあり 径1cmの炭化物塊が数ヶ所あり

SK3151 垂円礫検出状況図

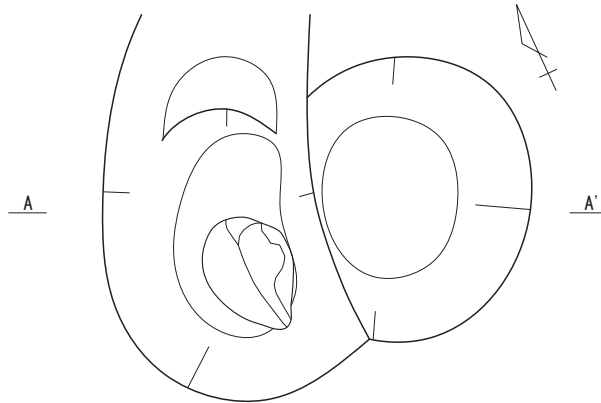


SK3161

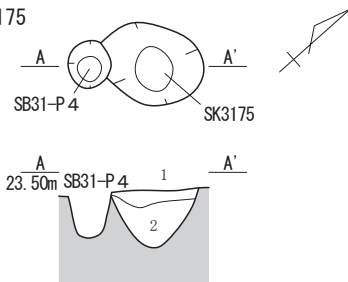


- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる
粘性ややあり 径1cm以下の炭化物が数ヶ所あり
- 2 5Y3/2 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり
鉄分が沈着

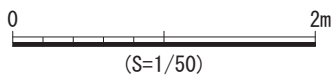
SK3161 垂円礫検出状況図



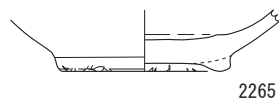
SK3175



- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物を少量含む
マンガン斑が沈着
- 2 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる
粘性ややあり 鉄分が沈着



SK3115



SK3175

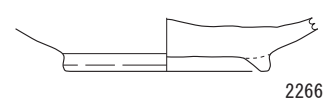
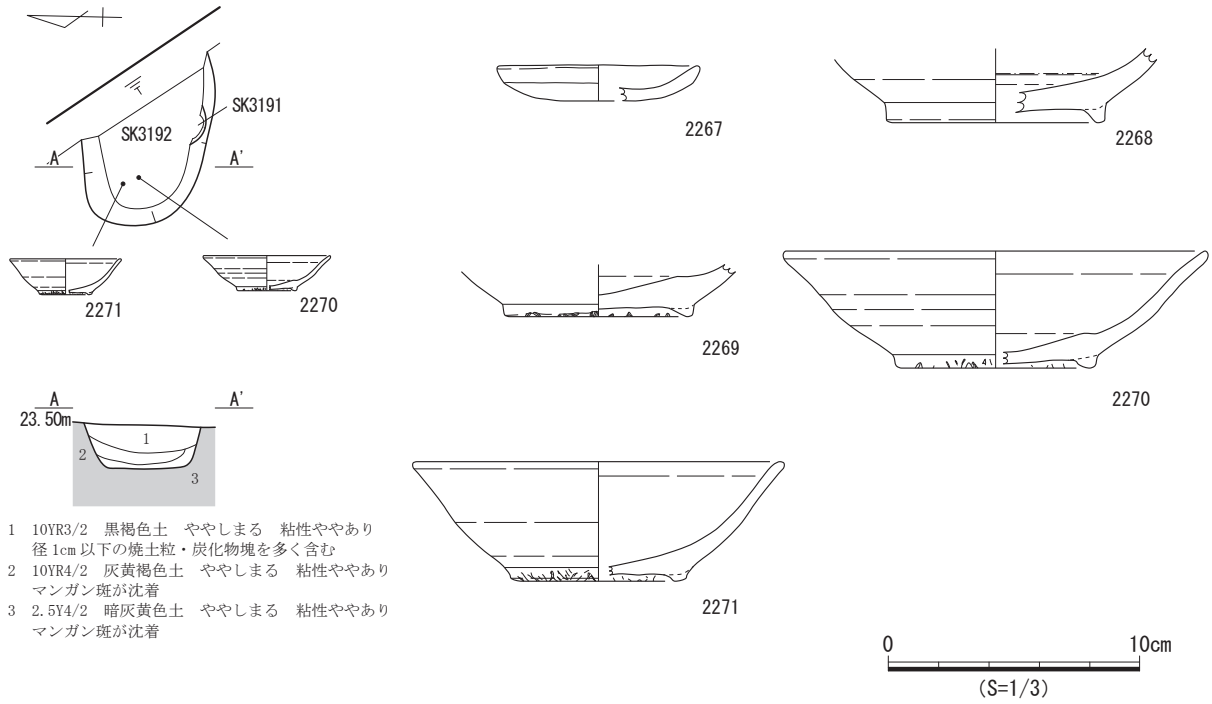
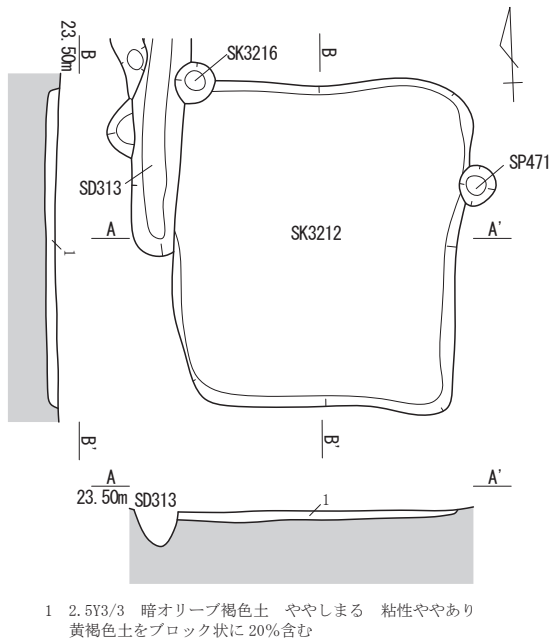


図 383 SK3115・SK3151・SK3161・SK3175 遺構図・出土遺物実測図

SK3192



SK3212



SK3213

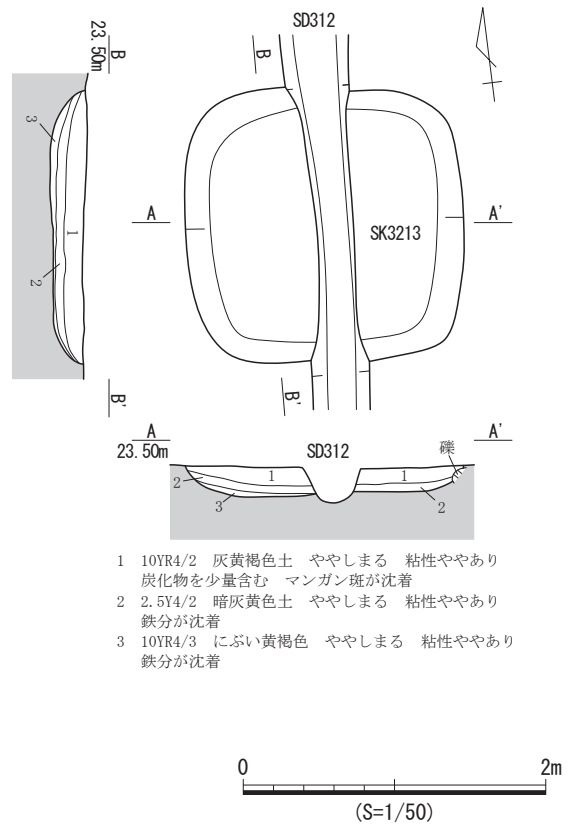


図 384 SK3192・SK3212・SK3213 遺構図・出土遺物実測図

重複する。本遺構はSK4581より新しい。

規模・形状 平面形は隅丸方形である。壁面の傾斜は急である。底面は概ね平坦で、竪穴状の掘方となる。南側に2.5m離れて位置するSK3318と南北軸が揃う。

埋土 3層に分層した。概ね水平に堆積する。3層はSD312の西側の底面に薄く堆積するが東側では見られなかった。

遺物出土状況 埋土中から土師器26点、須恵器7点、灰釉陶器2点、山茶碗40点、古瀬戸1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK3318との位置関係から、本遺構は13世紀末から14世紀後葉と考えられる。

SK3245 (図 385)

検出状況 LP12グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。2層は北壁面から底面に斜めに堆積する。1層に炭化物を含む。

遺物出土状況 1層上層で、ほぼ完形の山茶碗1点(2272)が正位で出土した。意図的に埋められたと考えられる。その他に埋土中から山茶碗2点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗1点を図示した。2272は第5型式の尾張型山茶碗である。

時期 図示した2272から、本遺構は12世紀後葉から13世紀初頭と考えられる。

SK3278 (図 385)

検出状況 LP11グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側でSK3294、遺構全体でSK3280と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 平面形は不整円形である。壁面は垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土 2層に分層した。概ね水平な堆積である。1層は炭化物を含み、2層はブロック土を多く含む。

遺物出土状況 南側の底面から古瀬戸の播鉢1点(2276)が出土した。その他に埋土中から土師器13点、須恵器1点、山茶碗18点、陶器9点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など4点を図示した。2273はC1類の土師器皿である。2274は高蔵寺2号窯式～折戸10号窯式に比定した須恵器の瓶類である。2275と2276は古瀬戸後IV期新段階の播鉢である。

時期 図示した2275と2276から、本遺構は15世紀後葉と考えられる。

SK3280 (図 386)

検出状況 LP11～LQ12グリッド、IV b層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側でSD316、東側でSK3283、遺構中央でSK3278と重複する。底面でSK3291を検出した。本遺構はSK3278・SD316より古く、SK3283・SK3291より新しい。

規模・形状 平面形は不整長方形である。壁面の傾斜は緩やかに開く。底面は概ね平坦であるが、東側では浅く、西側では一段下がる。

埋土 3層に分層した。1層は全体の上面に薄く堆積し、炭化物を含む。3層は東の一段高い部分の底面に、2層は西側の一段低い部分に堆積し、ブロック土を含む。西側の底面はV層の砂礫土、東側の底面はIV b層である。

遺物出土状況 西側の一段下がった部分の底面から山茶碗の碗2点(2282・2283)が逆位、小皿2点

(2279・2280) が正位で、磨石(2285) とともに出土した。その他に埋土中から土師器 50 点、須恵器 8 点、灰釉陶器 8 点、山茶碗 215 点、陶磁器 8 点、石製品 1 点(砥石) が散在して出土した。

出土遺物 土師器など 9 点を図示した。2277 は M 3 類の土師器皿である。2278 は黒笹 14 号窯式に比定した灰釉陶器の皿である。2279～2284 は尾張型山茶碗で、2279～2283 は第 5 型式の小皿と碗、2284 は第 7 型式の碗である。2285 は磨石で、中央に磨面が確認できる。なお、第 5 型式の尾張型山茶碗の出土状況から、2284 は混入と考えられる。

時期 図示した 2279～2283 から、本遺構は 12 世紀後葉から 13 世紀初頭と考えられる。

SK3283 (図 387)

検出状況 LP12～LQ12 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側で SK3291、西側で SK3280 と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 平面形は不整楕円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦であるが、東西

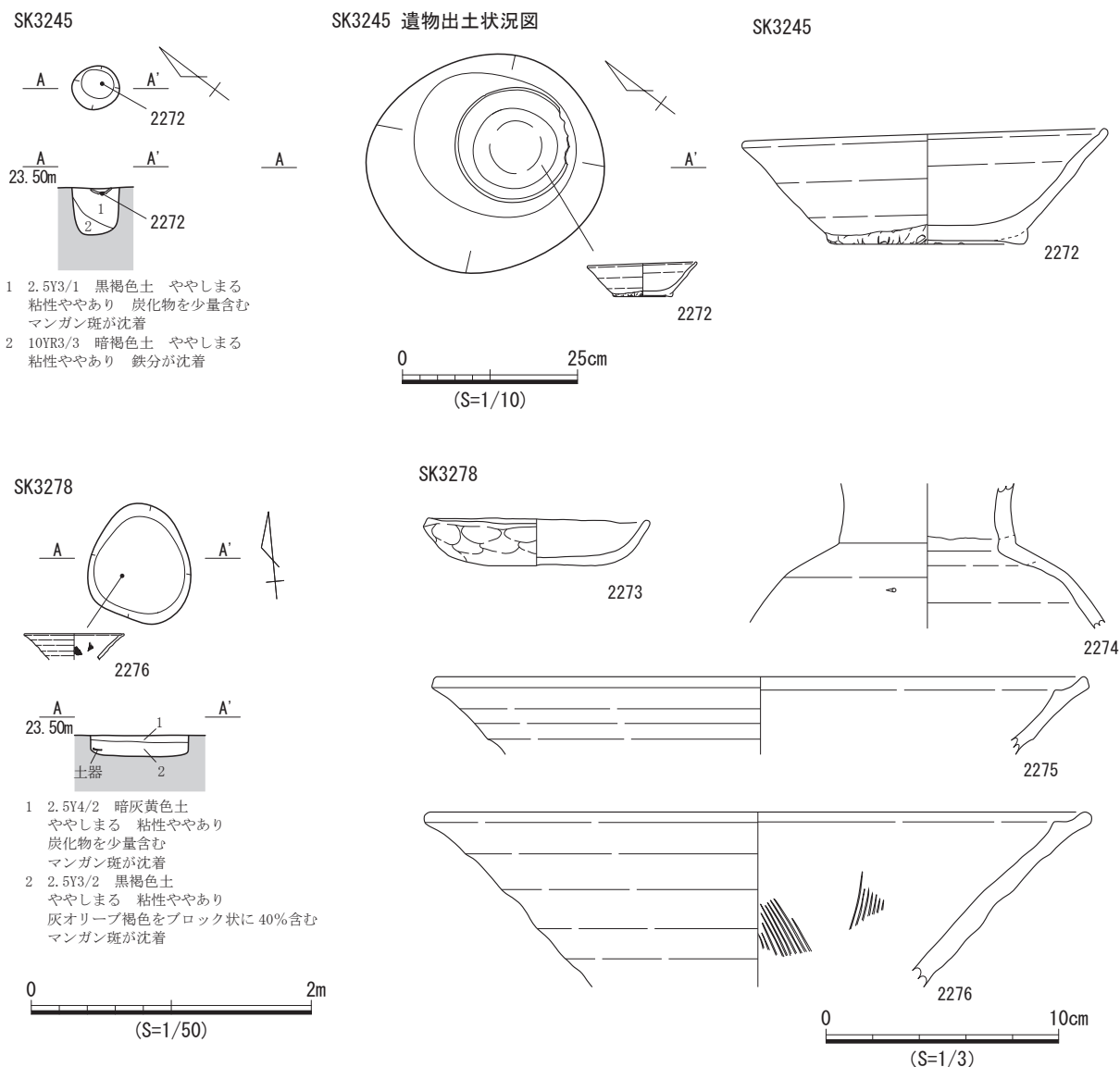


図 385 SK3245・SK3278 遺構図・出土遺物実測図

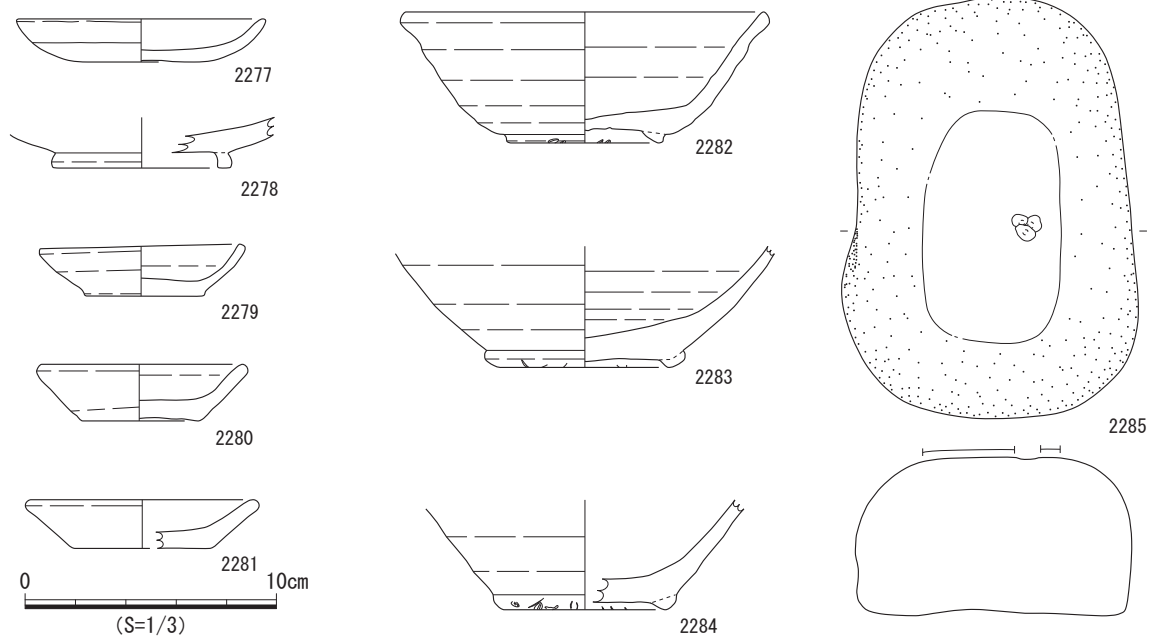
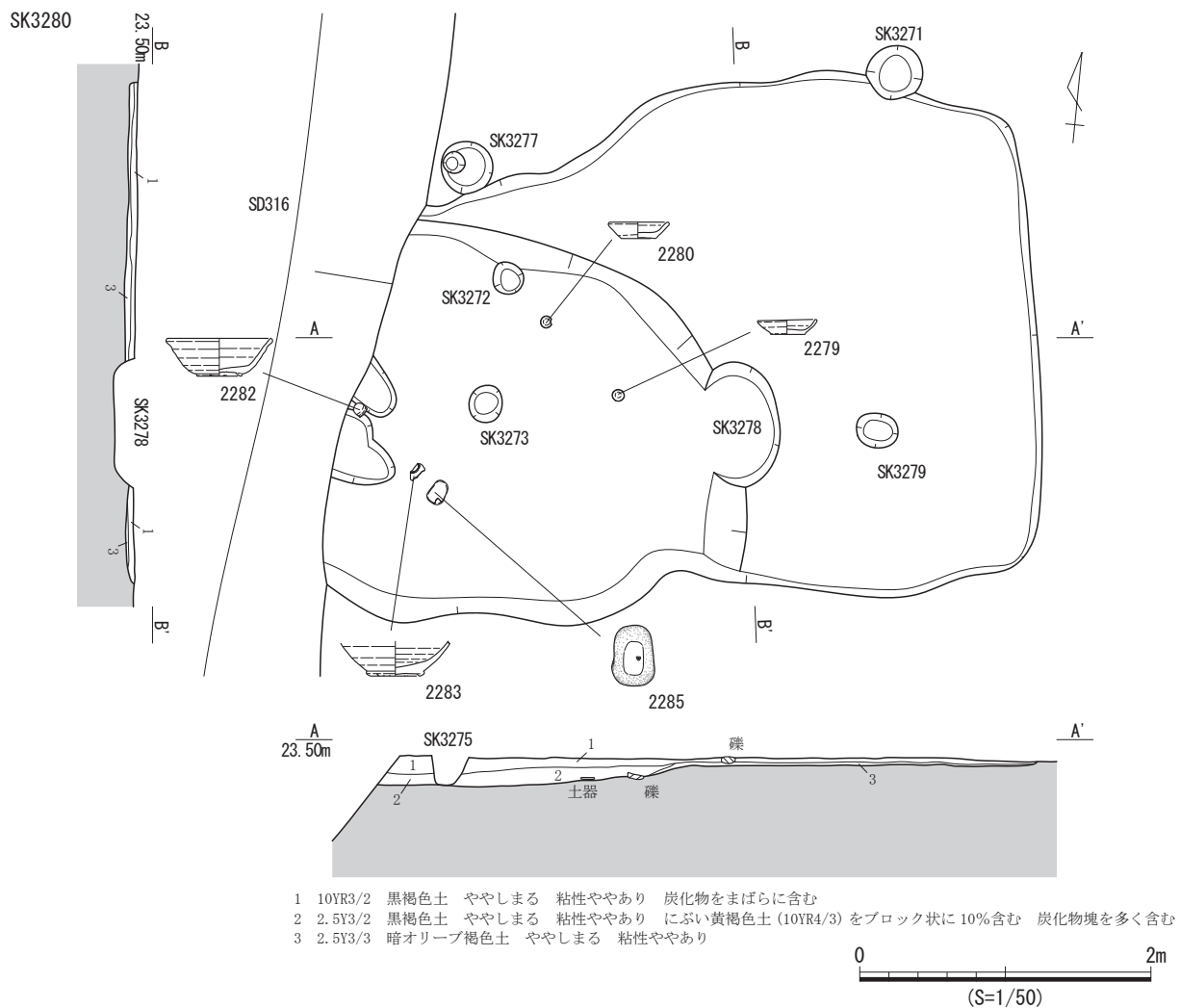


図 386 SK3280 遺構図・出土遺物実測図

両側にテラス状の平坦面をもつ。

埋土 3層に分層した。2層と3層に小礫を含み、1層に基盤層のブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 北側の1層から山茶碗4点(2289・2290・2292・小片)、灰釉陶器1点(2288)、土師器片1点がまとまって出土した。このうち2290は底部が全て、2292は底部が半分ほど残っており、いずれも逆位で出土した。その他に埋土中から土師器20点、須恵器4点、灰釉陶器8点、山茶碗26点、常滑産陶器1点が散在して出土した。

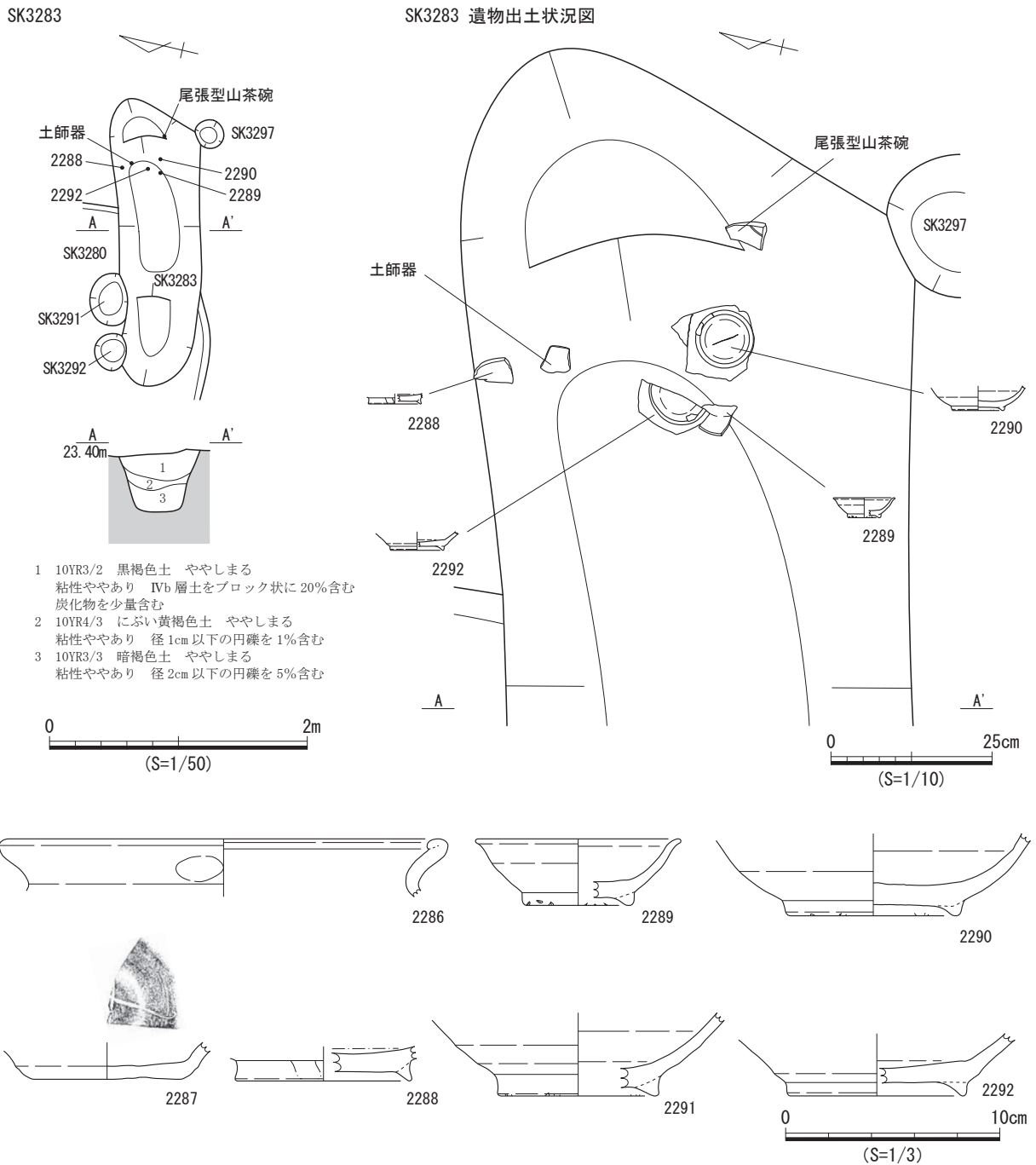


図 387 SK3283 遺構図・出土遺物実測図

出土遺物 土師器など7点を図示した。2286はA類の伊勢型鍋である。2287は美濃須衛窯IV期に比定した須恵器の坏身B類で、内面見込に「丁」にも見えるヘラ描きを確認できる。2288は明和27号窯式に比定した灰釉陶器の碗である。2289～2291は第4型式の尾張型山茶碗の小碗と碗である。2292は谷迫間2号窯式に比定した東濃型山茶碗である。

時期 図示した2289～2291から、本遺構は12世紀中葉から後葉と考えられる。

SK3291 (図 388)

検出状況 LP12グリッド、SK3280底面で検出した。平面形は明瞭であった。南側でSK3283と重複する。本遺構はSK3280より古く、SK3283より新しい。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

埋土 3層に分層した。概ね水平に堆積する。1層と2層に炭化物を含み、3層に小礫を多く含む。

遺物出土状況 1層から砥石(2293)が出土した。

出土遺物 砥石1点(2293)を図示した。

時期 SK3280・SK3283との重複関係から、本遺構は12世紀中葉から13世紀初頭と考えられる。

SK3318 (図 388)

検出状況 LP12～LQ13グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南東側は発掘区外に続く。北側でSK4581と重複する。本遺構はSK4581より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面の傾斜は急で、底面は概ね平坦である。北側に2.5m離れて位置するSK3213と南北軸が揃う。

埋土 3層に分層した。1層に炭化物塊を含む。3層に焼土粒や炭化物を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器28点、灰釉陶器2点、山茶碗22点、陶器2点が散在して出土した。

出土遺物 土師器1点を図示した。2294はC1類の土師器皿である。

時期 大畑大洞4号窯式に比定した東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構は13世紀末から14世紀後葉と考えられる。

SK3320 (図 388)

検出状況 LP12～LQ12グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側でSK4581と重複する。本遺構はSK4581より新しい。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面はやや丸みを帯びる。

埋土 3層に分層した。概ね水平に堆積する。2層に炭化物を含む。上層で大きさ15cmほどの被熱した角礫を確認した。

遺物出土状況 埋土中から土師器6点、灰釉陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器1点を図示した。2295はロクロ成形の土師器皿で、底部外面に回転糸切痕が確認できる。

時期 SK4581との重複関係から、本遺構は12世紀後葉以降と考えられる。

SK3330 (図 388)

検出状況 LQ12グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側は重複により消失する。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面の傾斜はやや急で、底面は丸みを帯びる。

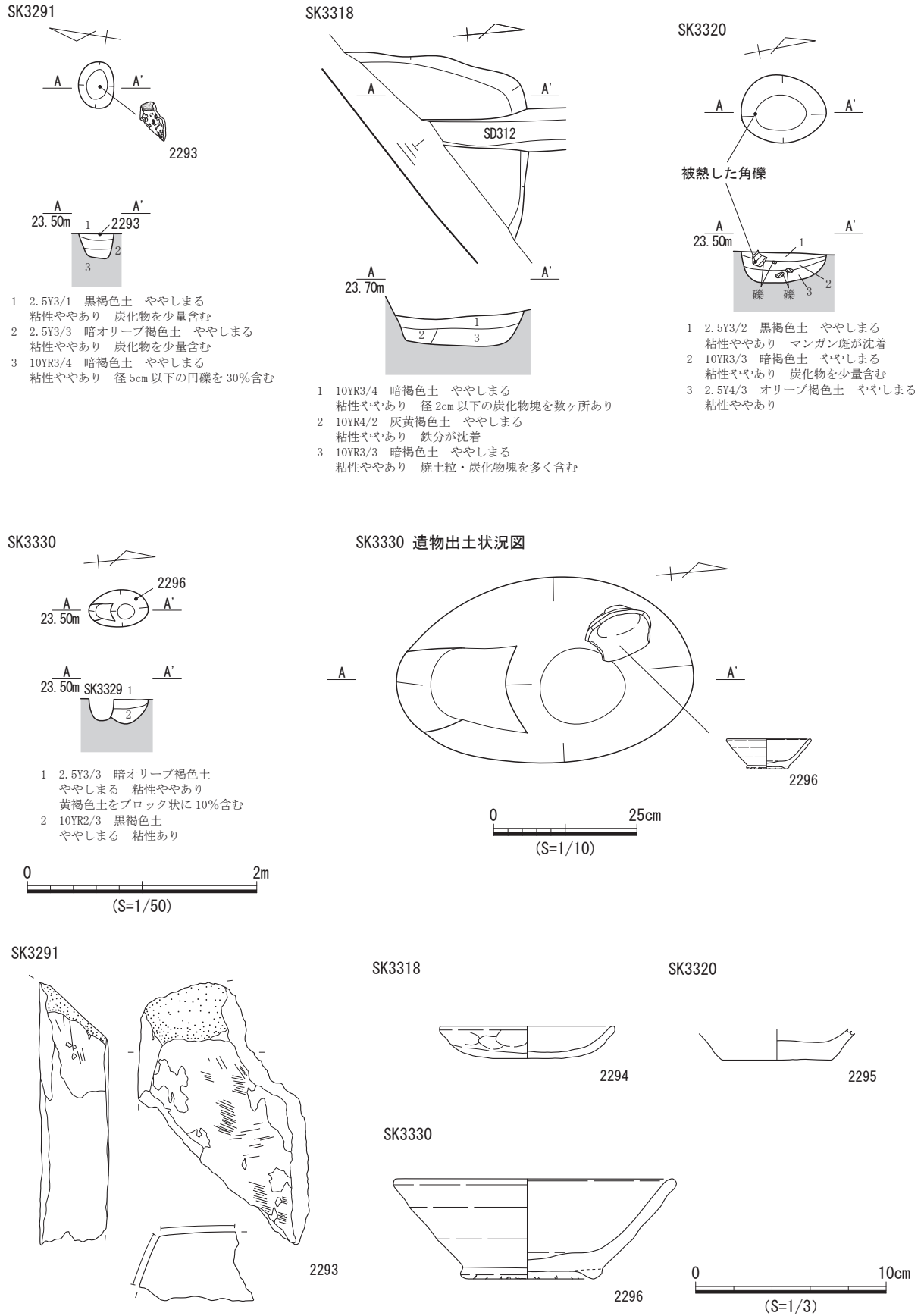


図 388 SK3291・SK3318・SK3320・SK3330 遺構図・出土遺物実測図

埋土 2層に分層した。1層にブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 北西の壁際から山茶碗1点(2296)が縦位で出土した。その他に埋土中から土師器2点、山茶碗2点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗1点を図示した。2296は第6型式の尾張型山茶碗である。

時期 図示した2296から、本遺構は13世紀初頭から中葉と考えられる。

SK3337 (図389)

検出状況 LQ11グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 平面形は西側が北に向かって湾曲する不定形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土 単層の埋土である。炭化物とブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 東側の上部から完形の子茶碗の小皿(2297)が正位で出土した。埋め戻し時に入れられ

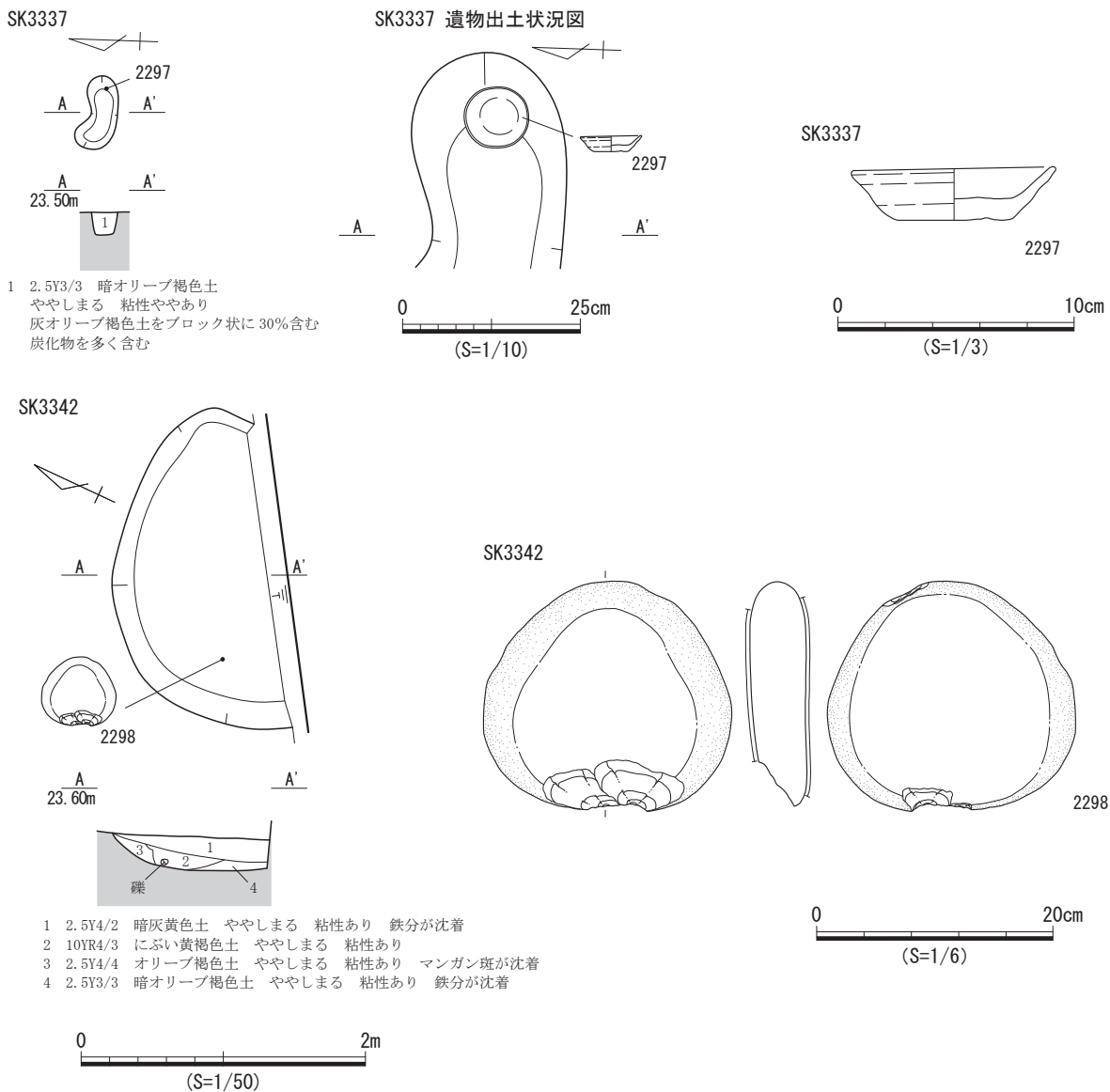


図389 SK3337・SK3342遺構図・出土遺物実測図

たものと考えられる。その他に埋土中から土師器2点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗1点を図示した。2297は第5型式の尾張型山茶碗の小皿である。

時期 図示した2297から、本遺構は12世紀後葉から13世紀初頭と考えられる。

SK3342 (図389)

検出状況 LQ11~LR11グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側は発掘区外に続く。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整楕円形と考えられる。壁面は緩やかに開き、底面は概ね平坦である。

埋土 4層に分層した。1層は遺構全体の上層に堆積する。

遺物出土状況 西側の壁面付近の底面で亜円礫3点を確認した。亜円礫には叩石・磨石1点(2298)が含まれる。その他に埋土中から土師器9点、須恵器1点、山茶碗19点、陶器3点が散在して出土した。

出土遺物 叩石・磨石1点(2298)を図示した。

時期 大窯製品の丸皿が出土したことから、本遺構は15世紀末から17世紀初頭と考えられる。

SK3345 (図390)

検出状況 LM10~LN10グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側でSK3350・SK3354、南側でSD319・SD320と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 平面形は隅丸長方形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で、竪穴状の掘方となる。

埋土 3層に分層した。埋土全体に小礫を含む。1層は全体の上層に堆積し、炭化物を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器85点、灰釉陶器4点、山茶碗72点、陶磁器14点、土製品2点(鞆羽口、種別不明)、石鍋1点、釘1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など9点を図示した。2299と2300はM3類の土師器皿である。2301は土師器の耳皿である。2302と2303は東濃型山茶碗で、2303は窯洞1号窯式に比定した碗、2302は大畑大洞4号窯式新段階に比定した小皿である。2304は龍泉窯系I-2A類の青磁碗で、内面見込に片彫の花文が施される。2305はV類の白磁小碗で、内面見込に型押の花文が施される。2306は鞆羽口で、2307は釘である。

時期 SD320との重複関係から、本遺構は15世紀末以降と考えられる。

SK3346 (図390)

検出状況 LM10グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。遺構全体でSK3350と重複する。本遺構はSK3350より新しい。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面の傾斜は急で、底面は平坦である。

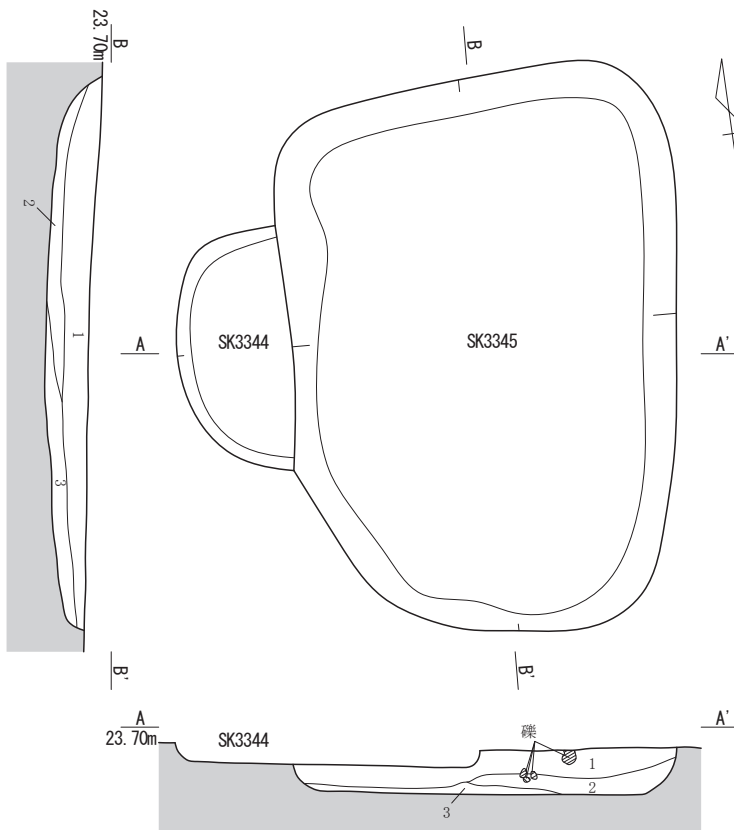
埋土 単層の埋土である。礫と炭化物をわずかに含む。

遺物出土状況 南側の壁面付近の中層から古瀬戸の卸皿1点(2309)が逆位で出土した。その他に埋土中から土師器5点、須恵器1点、山茶碗3点が散在して出土した。

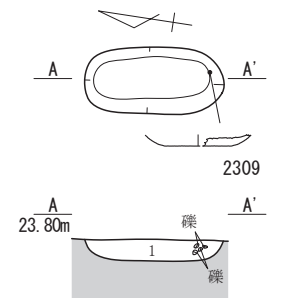
出土遺物 土師器など2点を図示した。2308はC1類の土師器皿である。2309は古瀬戸中期の卸皿である。

時期 SK3350との重複関係と図示した2309から、本遺構は14世紀初頭から後葉と考えられる。

SK3345

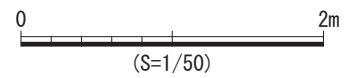


SK3346

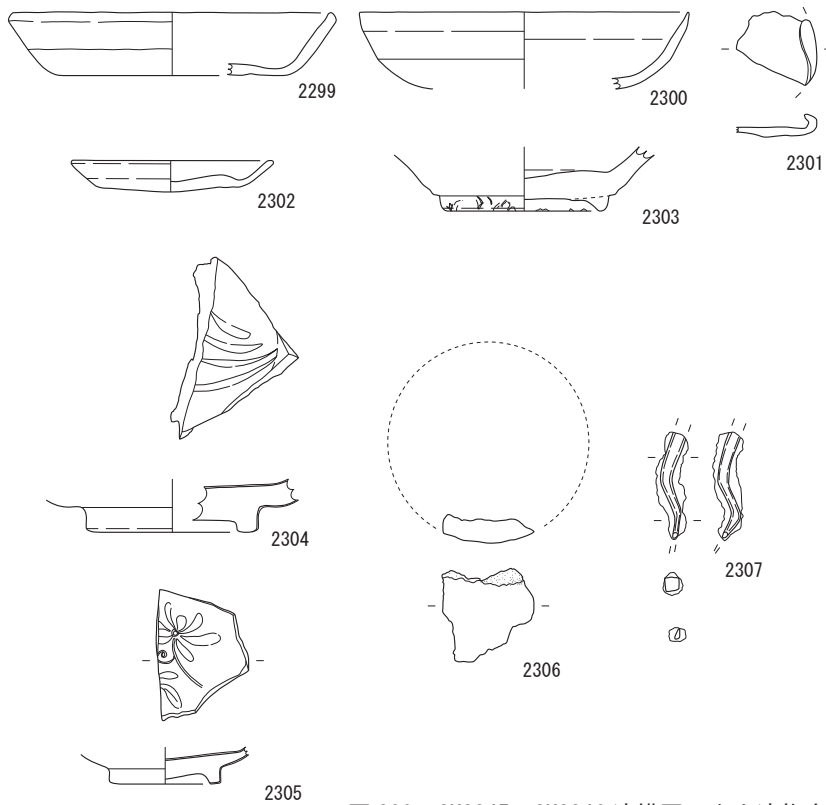


1 10YR3/3 暗褐色土 しまりなし
粘性ややあり 炭化物を少量含む
径5cm以下の円礫を3%含む

- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物を少量含む
径10cm以下の円礫を20%含む
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる
粘性あり 径10cm以下の円礫を3%含む
鉄分が沈着
- 3 2.5Y3/2 黒褐色砂質土 しまりなし
粘性なし 径5cm以下の円礫を30%含む



SK3345



SK3346

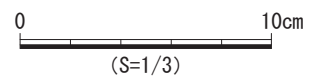
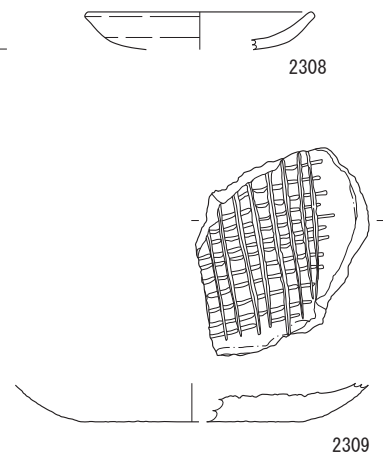


図 390 SK3345・SK3346 遺構図・出土遺物実測図

SK3350 (図 391)

検出状況 LM10 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。南側は重複により消失する。北側で SA39-P 1、西側で SK3354、南側で SK3345、遺構内で SK3346 と重複する。本遺構は SA39・SK3345・SK3346 より古く、SK3354 より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整形と考えられる。壁面は東側ではほぼ垂直に立ち上がり、西側では傾斜は急である。底面は凹凸があり、北側と西側ではわずかに下がる。

埋土 6層に分層した。多くの層に小礫を含む。3層にブロック土を含み、概ね水平に堆積することから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 西側の1層からはほぼ完形の山茶碗1点(2317)が逆位で出土した。意図的に埋められたと考えられる。北側の下層からは残りの良い土師器皿や山茶碗の破片がまとまって出土した。これらを含め埋土中から土師器140点、須恵器5点、灰釉陶器4点、山茶碗97点、陶器6点、砥石1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など16点を図示した。2310はM3類の土師器皿である。2311はロクロ成形の土師器皿、2312と2313はロクロ成形の脚高台皿である。2314～2321は尾張型山茶碗で、2314と2315は第3型式の小碗と碗、2316は第4型式の小碗、2317と2318は第5型式の碗、2319は第6型式の碗、2320と2321は第7型式の小皿と碗である。2322は谷迫間2号窯式、2323は大畑大洞4号窯式新段階に比定した東濃型山茶碗である。2324は古瀬戸後I期の御皿である。2325は砥石である。なお、山茶碗の出土状況から、2324は混入と考えられる。

時期 図示した2323から、本遺構は14世紀初頭から後葉と考えられる。

SK3354 (図 392)

検出状況 LM10 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側と南側は重複により消失する。北端は発掘区外に延びる。西側で SA39-P 2、南側で SK3345、東側で SK3350、遺構内で SA38-P 1・SA39-P 1 と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 平面形は不明である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

埋土 6層に分層した。1層は遺構全体の上層に薄く堆積する。埋土全体に小礫をわずかに含む。2層と3層は4層と5層を掘り込むように堆積する。

遺物出土状況 北西部の底面から、残りの良い山茶碗1点(2327)が正位で出土した。その他に埋土中から土師器20点、須恵器5点、山茶碗15点、陶磁器4点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など3点を図示した。2326はC1類の土師器皿である。2327は谷迫間2号窯式に比定した東濃型山茶碗である。2328はIV類の白磁碗である。

時期 図示した2327から、本遺構は12世紀中葉から後葉と考えられる。

SK3362 (図 392)

検出状況 LN9～LN10 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側で SD319 と重複する。本遺構は SD319 より新しい。

規模・形状 平面形は不整形である。壁面の傾斜は緩やかで、底面は概ね平坦である。

埋土 単層の埋土である。炭化物を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器7点、山茶碗8点、陶器1点が散在して出土したが、いずれも小片

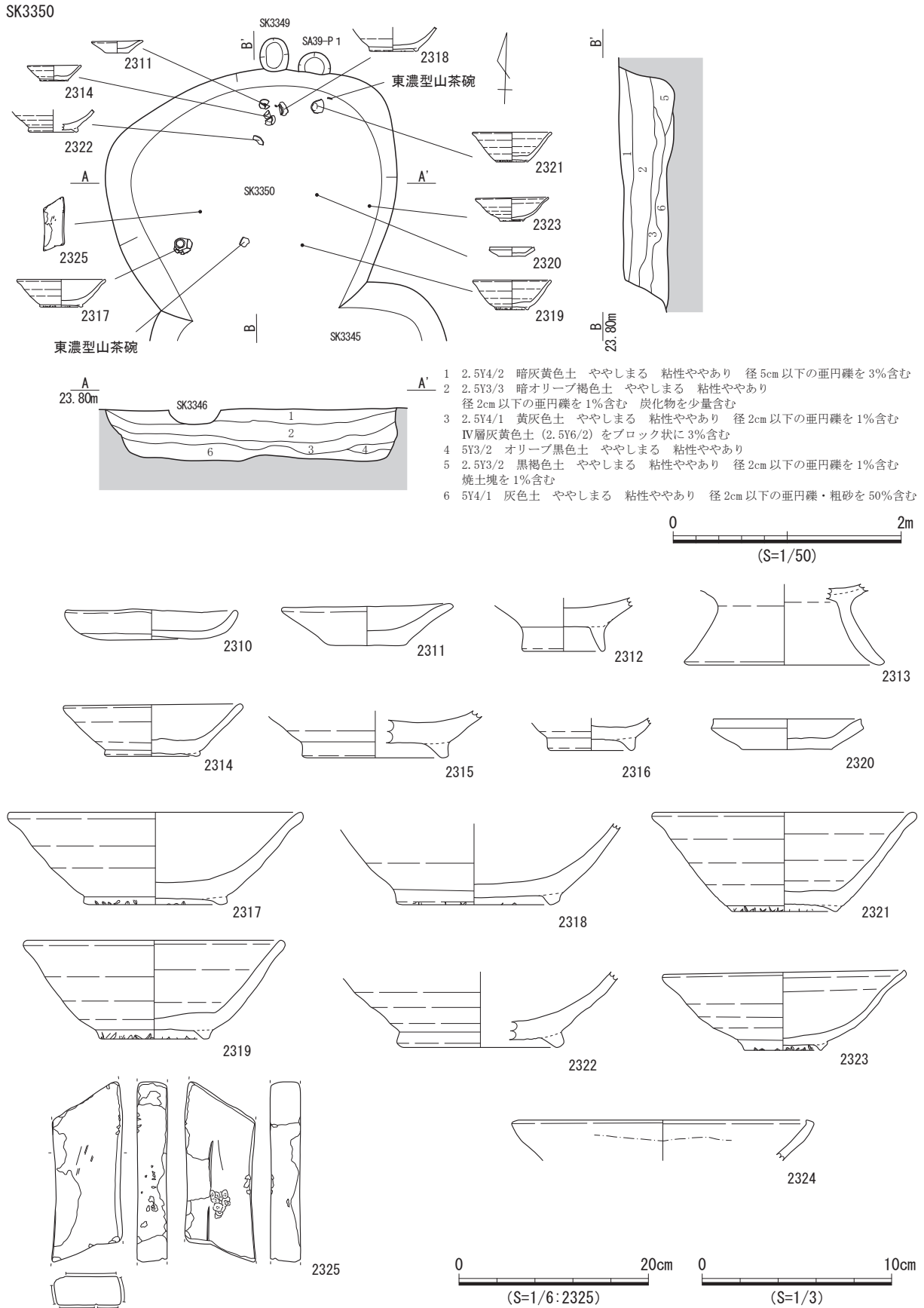


図 391 SK3350 遺構図・出土遺物実測図

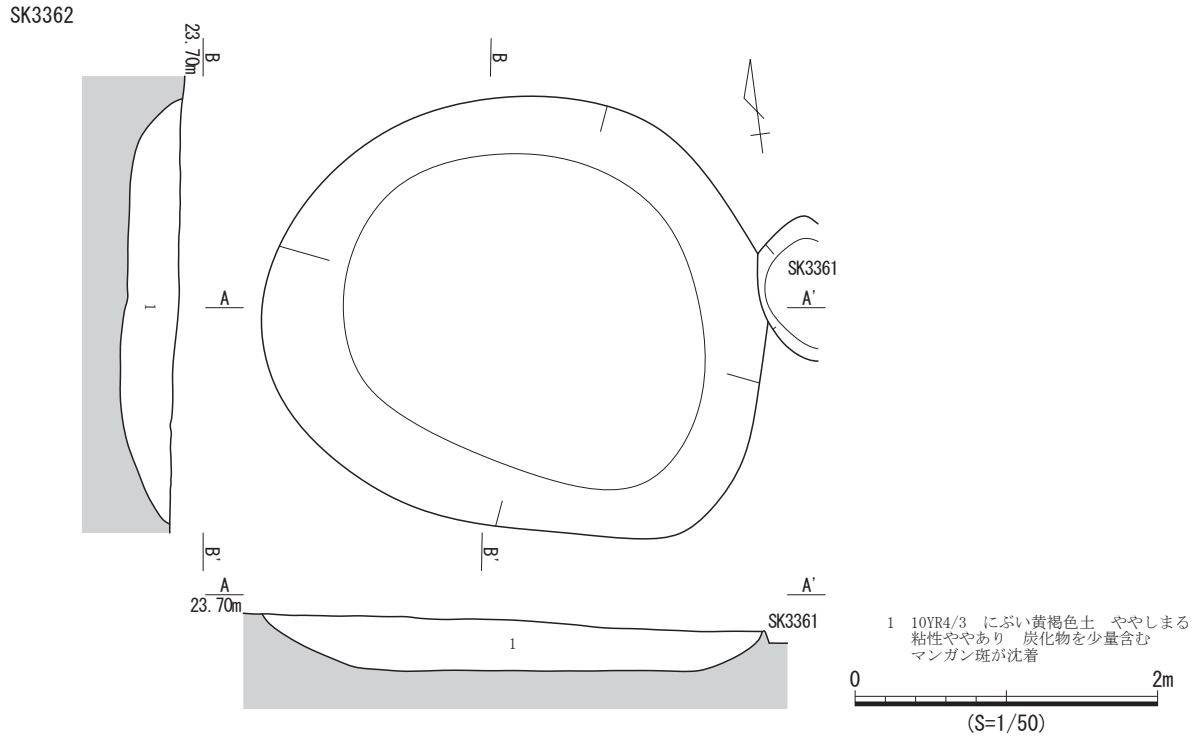
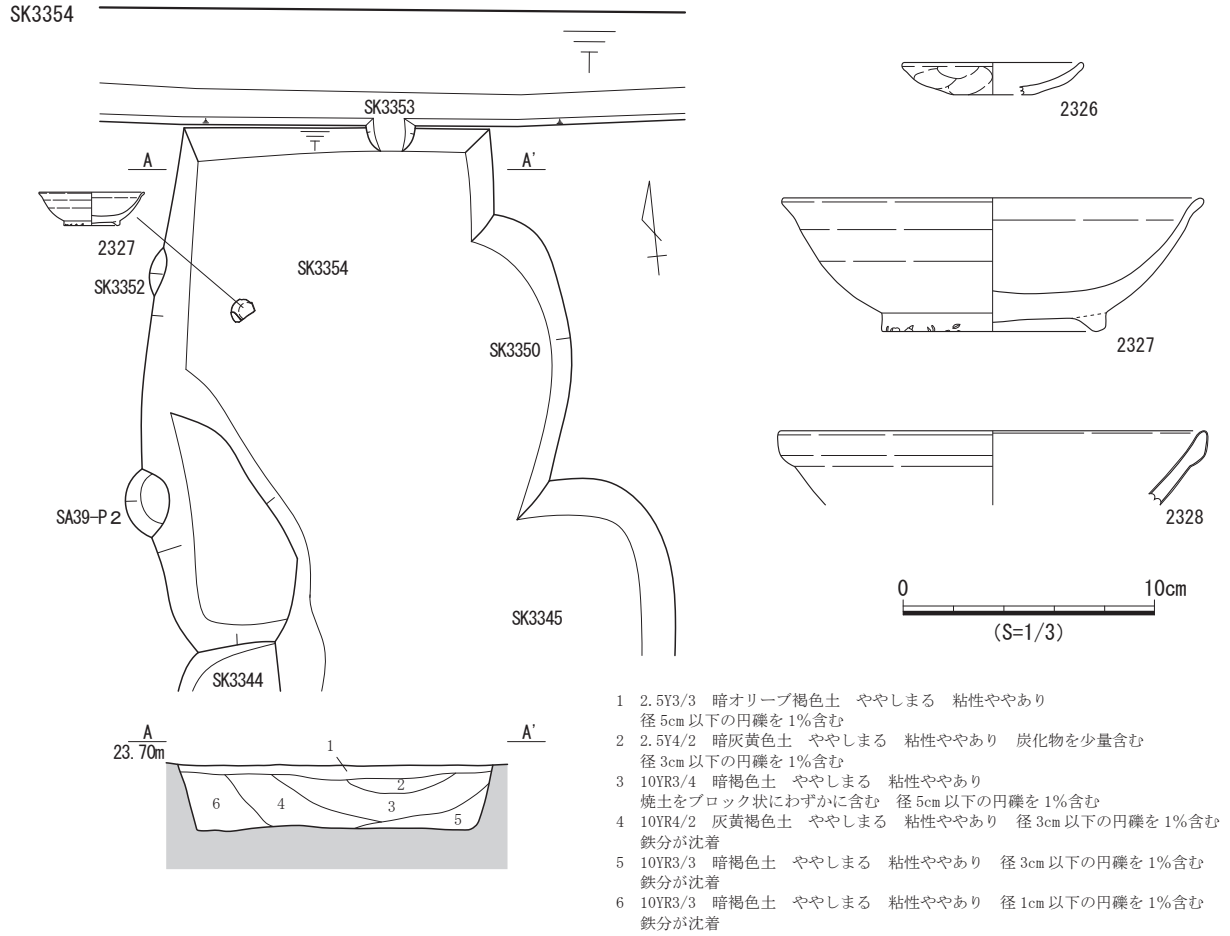


図 392 SK3354・SK3362 遺構図・出土遺物実測図

であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SD319 との重複関係から、本遺構は 15 世紀後葉以降と考えられる。

SK3367 (図 393)

検出状況 LN8～LN9 グリッド、V層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 平面形は不整楕円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

埋土 単層の埋土である。炭化物を含む。埋土中で径 40cm 前後の亜円礫を含む多量の礫を確認した。検出面から底面にかけて遺構全体に広がっていた。中には、破断された痕のある礫や破断面付近が線状に削られた礫を確認した。

遺物出土状況 礫に混じって、常滑産の甕 3 点(2330・小片)や鉄滓 1 点(2332)が出土した。その他に

SK3367

SK3367 遺物出土状況図

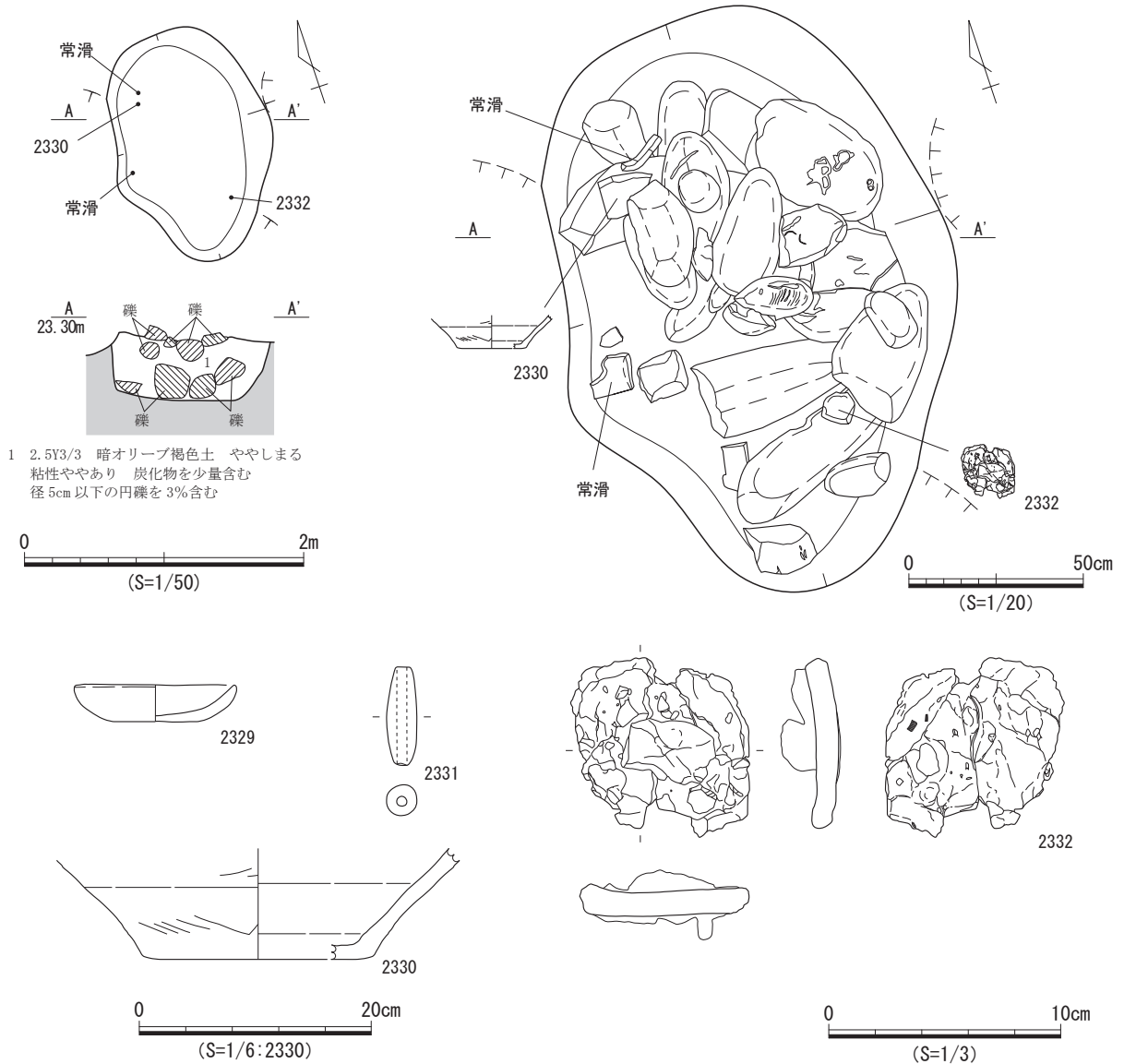


図 393 SK3367 遺構図・出土遺物実測図

埋土中から土師器 74 点、須恵器 1 点、山茶碗 15 点、陶器 8 点、土錘 1 点、金属製品 1 点（種別不明）が散在して出土した。

出土遺物 土師器など 4 点を図示した。2329 は C 1 類の土師器皿である。2330 は常滑産の甕である。2331 は土錘である。2332 は鉄滓である。

時期 古瀬戸が出土したことから、本遺構は 12 世紀末から 15 世紀後葉と考えられる。

SK3377 (図 394)

検出状況 LM9 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側は発掘区外に続く。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整形と考えられる。壁面の傾斜は急で、底面は平坦である。

埋土 3 層に分層した。1 層に炭化物と小礫をわずかに含む。2 層に小礫を含む。

遺物出土状況 南寄りの 1 層上層で、権 1 点(2336)が出土した。その他に埋土中から土師器 105 点、須恵器 2 点、灰釉陶器 2 点、山茶碗 27 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など 4 点を図示した。2333・2334 は C 1 類の土師器皿である。2335 は古瀬戸後 IV 期古段階の縁釉小皿である。2336 は銅製の権（分銅）で、六角柱状の本体に鈕がつく。鈕の孔には紐と思われる繊維が付着しており、繊維同定の結果、素材は麻と判明した（第 5 章第 7 節）。

時期 図示した 2335 から、本遺構は 15 世紀中葉と考えられる。

SK3388 (図 394)

検出状況 LM8 グリッド、V 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土 2 層に分層した。中央が大きく窪む堆積である。1 層と 2 層に小礫を含む。

遺物出土状況 検出面上から銭貨 1 点(2337)が出土した。その他に埋土中から土師器 12 点、山茶碗 2 点が散在して出土した。

出土遺物 銭貨 1 点(2337)を図示した。遺存状態が悪く、銭種は判読できなかった。

時期 第 5 型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は 12 世紀後葉から 15 世紀後葉と考えられる。

SK3436 (図 394)

検出状況 LP8～LP9 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は不整形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、南側と西側にテラス状の平坦面をもつ。テラス部分は西側の方が高い。

埋土 4 層に分層した。概ね水平に堆積する。埋土全体に小礫をわずかに含む。

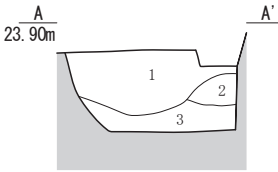
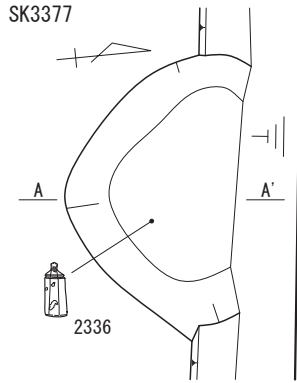
遺物出土状況 埋土中から土師器 115 点、須恵器 1 点、灰釉陶器 5 点、山茶碗 41 点、陶器 9 点、釘 2 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など 4 点を図示した。2338 は B 類の清郷型鍋である。2339 はロクロ成形の脚高高台皿で、体部との接合部で高台が欠損する。2340 は大窯第 2 段階の天目茶碗である。2341 は釘である。

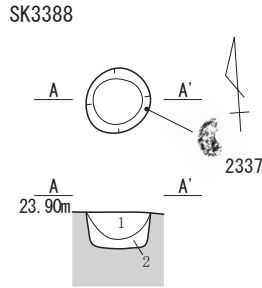
時期 図示した 2340 から、本遺構は 16 世紀前葉から中葉と考えられる。

SK3472 (図 395)

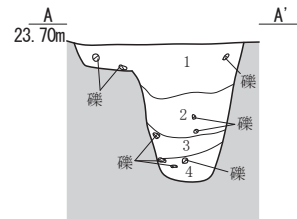
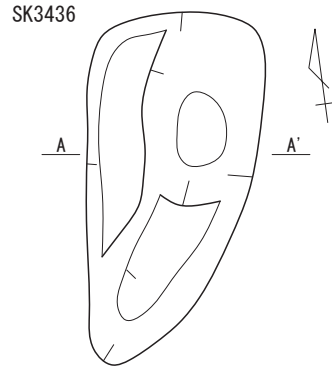
検出状況 LP9 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側で SD322 と重複する。



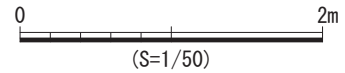
- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 しまりなし 粘性ややあり 炭化物を少量含む 径2cm以下の円礫を1%含む
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質土 しまりなし 粘性なし 径10cm以下の円礫を20%含む
- 3 5Y3/2 オリーブ黒色砂質土 しまりなし 粘性なし



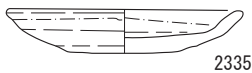
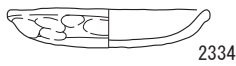
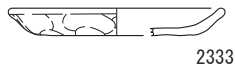
- 1 5Y2/2 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 径3cm以下の円礫を1%含む
- 2 5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質土 しまりなし 粘性なし 径1cm以下の円礫を5%含む



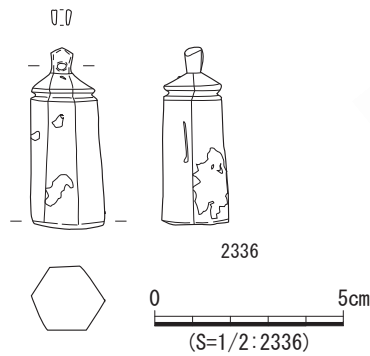
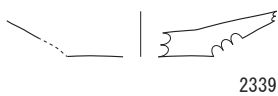
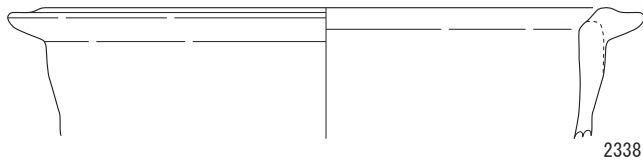
- 1 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径1cm以下の円礫を1%含む
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径5cm以下の円礫を5%含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径10cm以下の円礫を1%含む
- 4 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径1cm以下の円礫を1%含む



SK3377



SK3436



SK3388

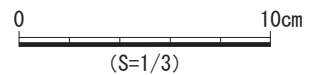
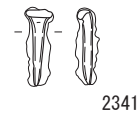
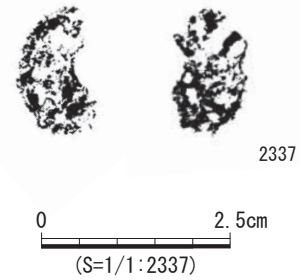


図 394 SK3377・SK3388・SK3436 遺構図・出土遺物実測図

本遺構はSD322より新しい。

規模・形状 平面形は隅丸方形である。壁面の傾斜は急で、底面は中央と西側でわずかに下がる。

埋土 単層の埋土である。小礫と炭化物を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器14点、須恵器3点、灰釉陶器1点、山茶碗8点、陶器7点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 古瀬戸後期の直縁大皿が出土したことから、本遺構は14世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SK3489 (図396)

検出状況 L010グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側でSD319と重複する。本遺構はSD319より新しい。

規模・形状 平面形は不整円形で、西側でやや広がる。壁面の傾斜はやや急で、底面は凹凸がある。

埋土 2層に分層した。埋土全体に多量の礫を含む。埋め戻す際に入れ込まれたと考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器1点、須恵器1点、灰釉陶器1点、山茶碗5点、古瀬戸4点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

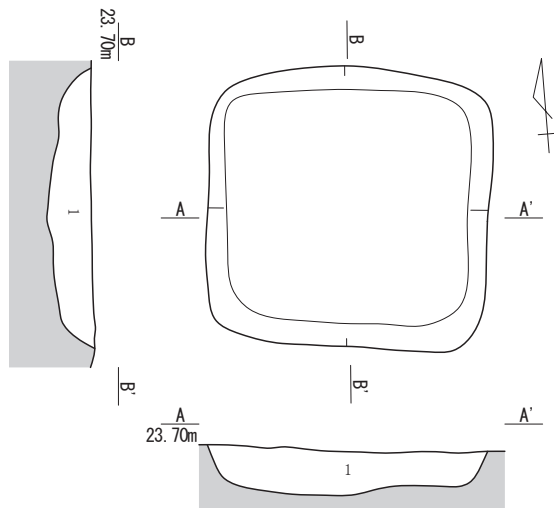
時期 SD319との重複関係と古瀬戸が出土したことから、本遺構は15世紀後葉と考えられる。

SK3493 (図396)

検出状況 LP10グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

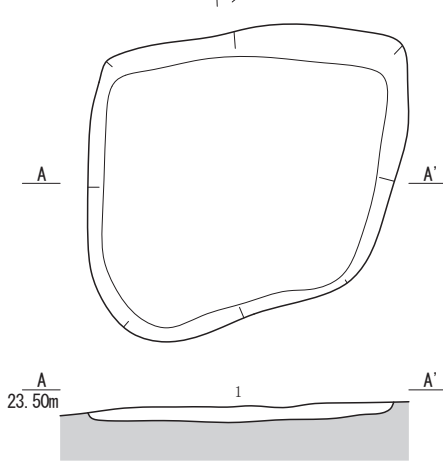
規模・形状 平面形は不整楕円形である。壁面は、北東側では緩やかに開き、南西側では急である。底面は西に向かって下がる。

SK3472



1 10YR3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径5cm以下の小礫を1%含む 炭化物を少量含む

SK3507



1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物を多量に含む
マンガン斑が沈着

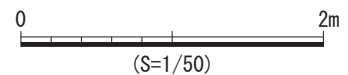
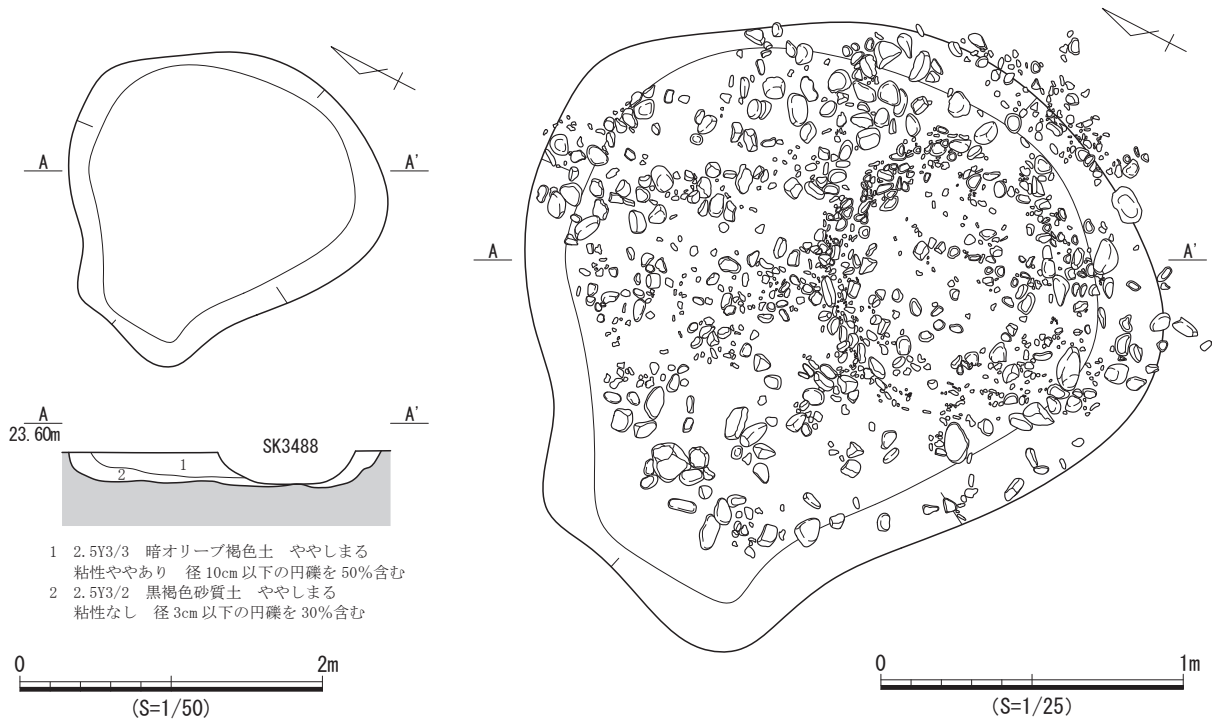


図395 SK3472・SK3507遺構図

SK3489

SK3489 礫検出状況図



SK3493

SK3493 礫検出状況図

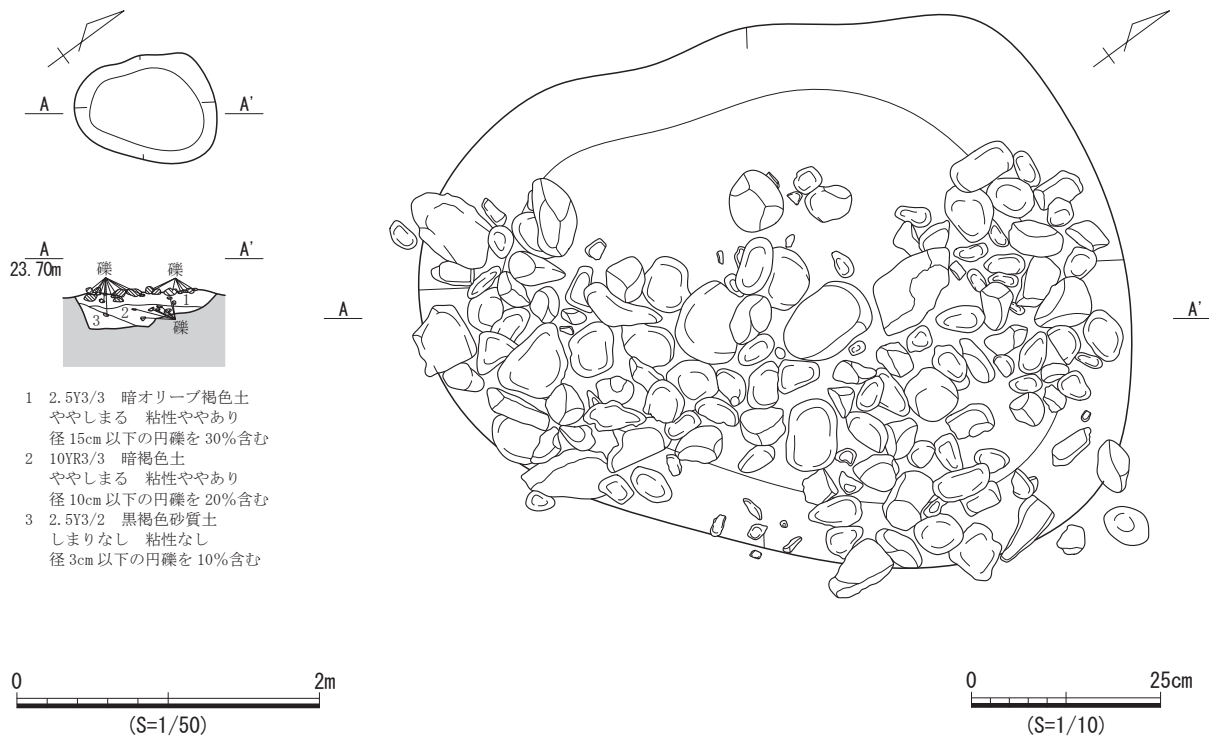


図 396 SK3489・SK3493 遺構図

埋土 3層に分層した。3層は南側の壁面付近で三角堆積する。1層の検出面付近では南東部を中心に、礫が面的に広がっていた。2層と3層にも礫を含むが、面的に堆積する様子は確認できなかった。並べて置かれた様子も見られないことから1層を埋め戻す際に入れ込まれたと考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器5点、灰釉陶器1点、山茶碗1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物がなかった。

時期 第5型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は12世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SK3507 (図 395)

検出状況 LQ10 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側で SK3508 と重複する。底面で SK3515～SK3518 を検出した。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 平面形は不整形である。壁面の傾斜は急である。底面は概ね平坦で、竪穴状の掘方である。

埋土 単層の埋土である。炭化物を多量に含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器22点、山茶碗9点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物がなかった。

時期 SK3508 との重複関係から、本遺構は15世紀中葉以降と考えられる。

SK3508 (図 397)

検出状況 LP 9～LQ10 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側で SK3507 と重複する。本遺構は SK3507 より古い。

規模・形状 平面形は長方形である。壁面は、西側ではほぼ垂直に立ち上がり、東側では傾斜がやや緩やかである。底面は平坦であるが、南側にテラス状の平坦面をもつ。

埋土 4層に分層した。1層から3層は概ね水平に堆積し、小礫を含む。4層は西壁から三角堆積をする。北側の西壁面付近の中層で径25cmの、被熱して破断した扁平な円礫を確認した。

遺物出土状況 埋土中から土師器81点、須恵器7点、灰釉陶器4点、山茶碗84点、陶磁器21点、土錘1点、石製品1点(種別不明)が散在して出土した。

出土遺物 土師器など7点を図示した。2342はB1類の土師器皿である。2343はD類の伊勢型鍋である。2344と2345は第5型式の尾張型山茶碗の小皿と碗である。2347と2348は古瀬戸後IV期古段階の縁釉小皿と直縁大皿である。2346は土錘である。

時期 図示した2347と2348から、本遺構は15世紀中葉と考えられる。

SK3550 (図 398)

検出状況 LQ10 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は丸みを帯びる。

埋土 単層の埋土である。炭化物を含む。

遺物出土状況 西側の底面付近から長さ7cmの土錘(2349)が出土した。

出土遺物 土錘1点(2349)を図示した。

時期 重複関係がなく土錘1点のみの出土であることから、本遺構の時期は不明である。

SK3553 (図 398)

検出状況 LQ10 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。東側でSD316 と重複する。本遺構はSD316 より古い。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整形形と考えられる。東に向かってやや細くなるように見える。壁面の傾斜は緩やかで、底面はわずかに丸みを帯びる。

埋土 2層に分層した。1層に炭化物を含み、2層に小礫を含む。また、南壁面で焼土塊を確認した。

遺物出土状況 南壁面の西側から土師器(2350、甕の破片)がまとまって出土した。これらを含め埋土中から土師器 45 点、須恵器 1 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器 1 点を図示した。2350 はつまみ上げ口縁をもつ丸底甕である。

時期 図示した 2350 から、本遺構は7世紀と考えられる。

SK3508

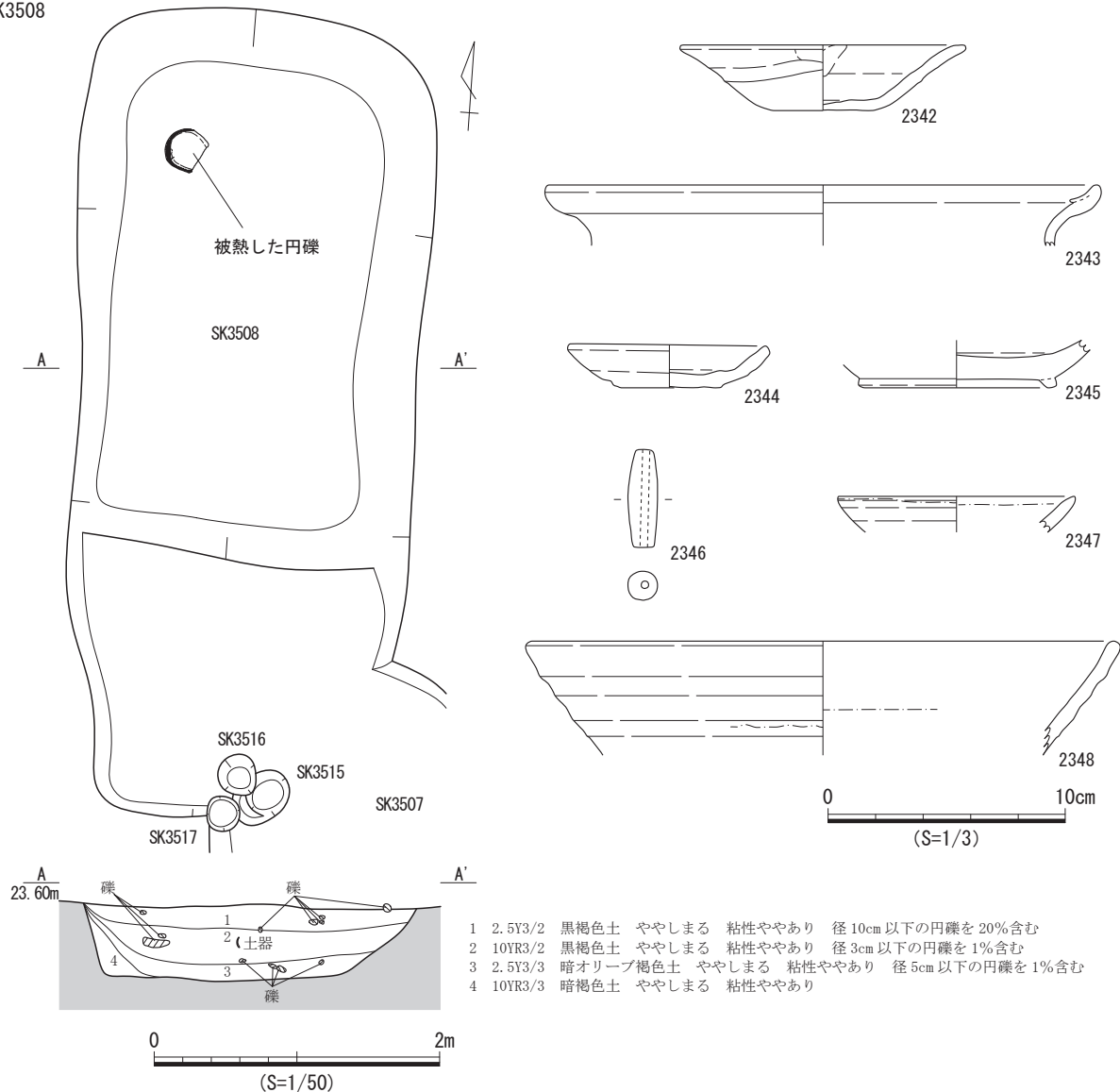


図 397 SK3508 遺構図・出土遺物実測図

SK3575 (図 399)

検出状況 LR7グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側は発掘区外に続く。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不定形で、東に向かってつぼみ状に尖る。壁面の傾斜は南側で緩やかに開き、北側と東側では急である。底面は南北方向ではやや中央が窪むが、東西方向では東側に向かってわずかに上る。

埋土 3層に分層した。2層は西側の底面に、3層は東側底面に堆積する。1層と2層・3層は概ね水平に堆積する。埋土全体に礫を含むが、3層にとりわけ多く含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器79点、須恵器4点、灰釉陶器1点、山茶碗70点、陶磁器23点が散在して出土した。

出土遺物 須恵器など3点を図示した。2351は美濃須衛窯IV期に比定した鉢である。2352は生田2号窯式に比定した東濃型山茶碗である。2353は古瀬戸後IV期古段階の縁釉小皿である。

時期 図示した2352から、本遺構は15世紀後葉から末と考えられる。

SK3578 (図 400)

検出状況 LS7グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側でSD327と重複する。本遺構はSD327より新しい。

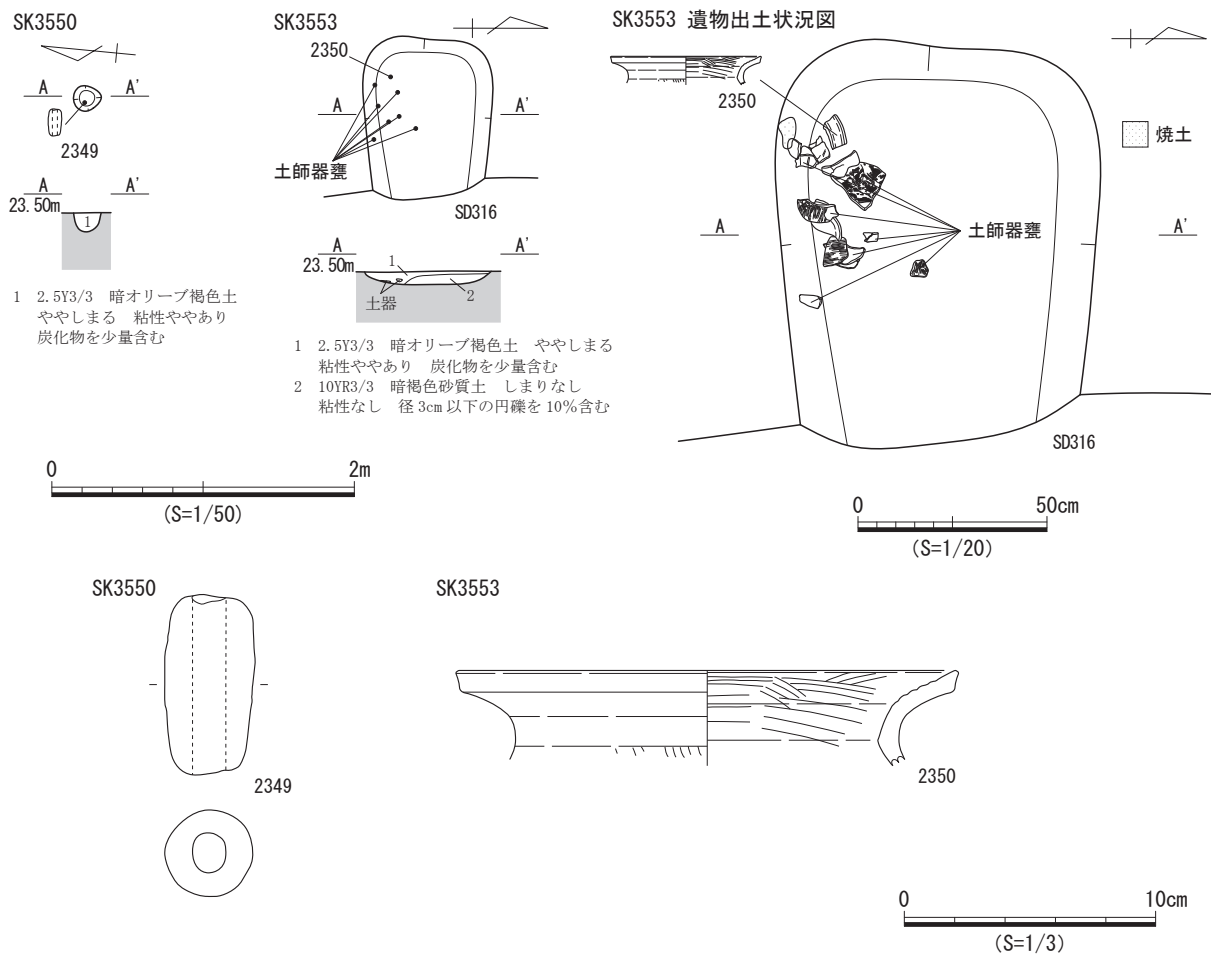


図 398 SK3550・SK3553 遺構図・出土遺物実測図

SK3575

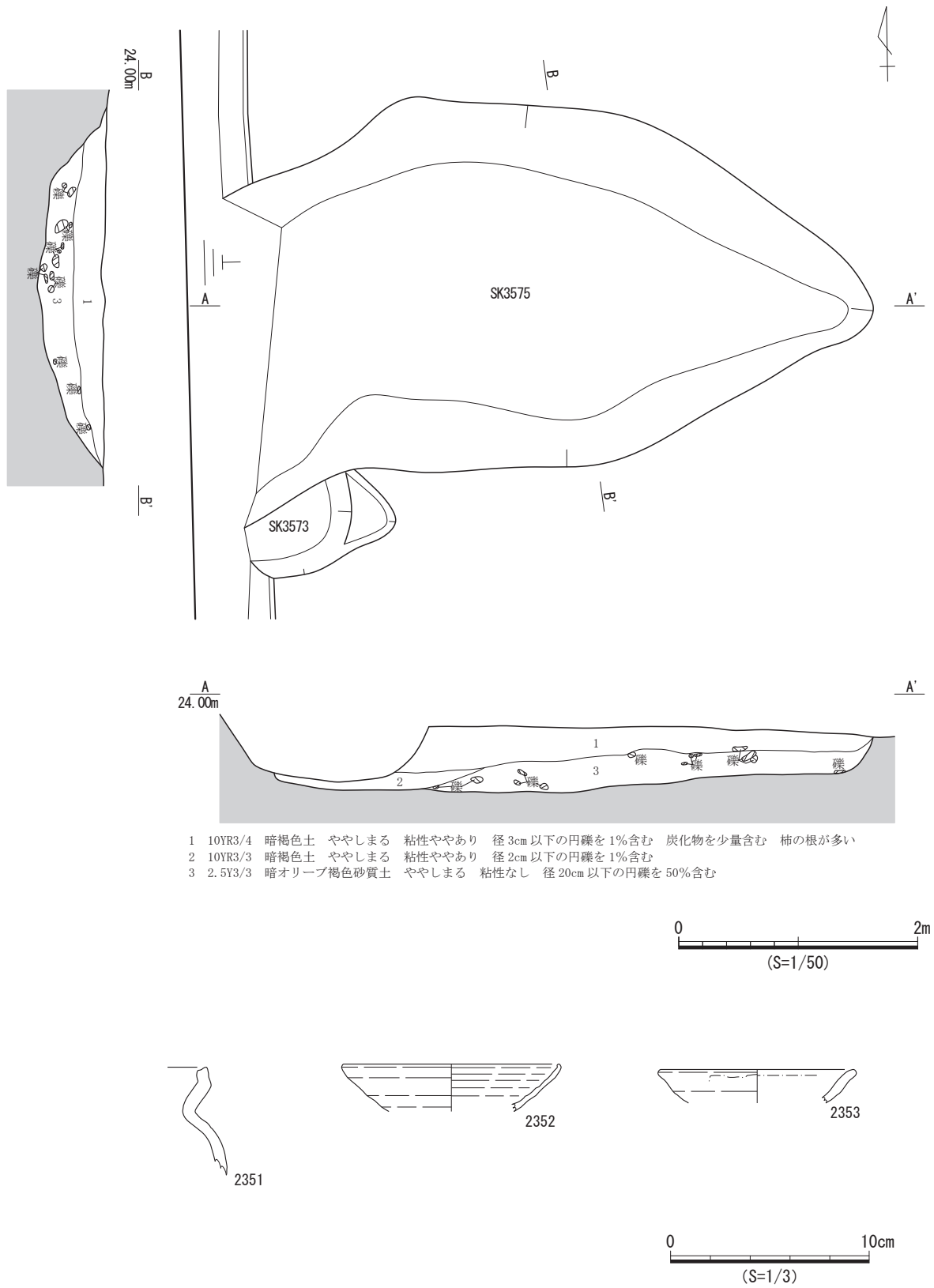


図 399 SK3575 遺構図・出土遺物実測図

規模・形状 平面形は不定形で、西側は外側に張り出す。壁面の傾斜は北側ではやや緩やかであるが、南側では急である。底面は概ね平坦であるが、西側の張り出した部分にテラス状の平坦面をもつ。

埋土 単層の埋土である。炭化物や小礫を含む。南側で大きさ 20cm～30cm の礫を多数確認した。積み上げられた様子は見られないが、大きさが揃い、東西方向に広がる。被熱した礫も複数確認した。

遺物出土状況 礫に混じって山茶碗の破片が出土した。これらを含め埋土中から土師器 34 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 12 点、陶器 8 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など 3 点を図示した。2354 は C 1 類の土師器皿である。2356 は第 5 型式の尾張型山茶碗の片口鉢である。2355 は生田 2 号窯式に比定した東濃型山茶碗である。

時期 図示した 2355 から、本遺構は 15 世紀後葉から末と考えられる。

SK3580 (図 400)

検出状況 LR 8 グリッド、V 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側で SK4583 と重複する。本遺構は SK4583 より古い。

規模・形状 平面形は隅丸長方形である。壁面の傾斜は急で、底面は概ね平坦である。

埋土 2 層に分層した。概ね水平に堆積する。1 層と 2 層に炭化物や径 20cm 以下の円礫を多量に含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 28 点、須恵器 2 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 4 点、陶器 5 点、釘 1 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など 4 点を図示した。2357 と 2358 は C 1 類の土師器皿である。2359 は生田 2 号窯式に比定した東濃型山茶碗である。2360 は古瀬戸後 IV 期古段階の縁釉小皿である。

時期 SK4583 との重複関係と図示した 2359 から、本遺構は 15 世紀後葉から末と考えられる。

SK3591 (図 401)

検出状況 LQ 9 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側で SK3602 と重複する。本遺構は SK3602 より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土 3 層に分層した。全ての層に炭化物を含む。

遺物出土状況 底面から径 20cm の被熱した叩石・磨石 1 点(2361)が平坦面を上にして出土した。その他に埋土中から土師器 1 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 1 点、古瀬戸 1 点が散在して出土した。

出土遺物 叩石・磨石 1 点を図示した。2361 は平坦面の両面に磨面、側面に敲打痕が確認できる。

時期 SK3602 との重複関係と古瀬戸が出土したことから、本遺構は 15 世紀中葉から後葉と考えられる。

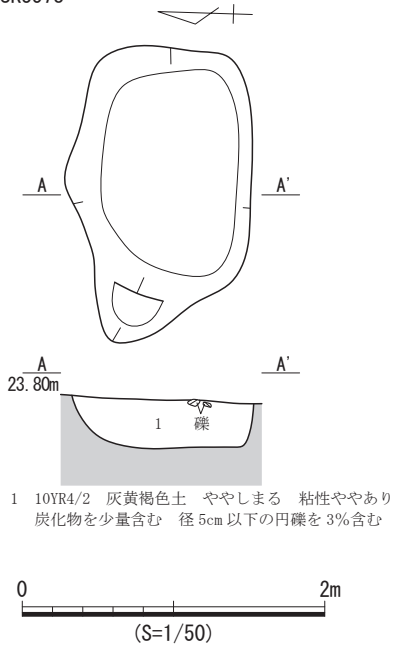
SK3602 (図 402)

検出状況 LQ 9～LR10 グリッド、V 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側で SK3591 と重複する。本遺構は SK3591 より古い。

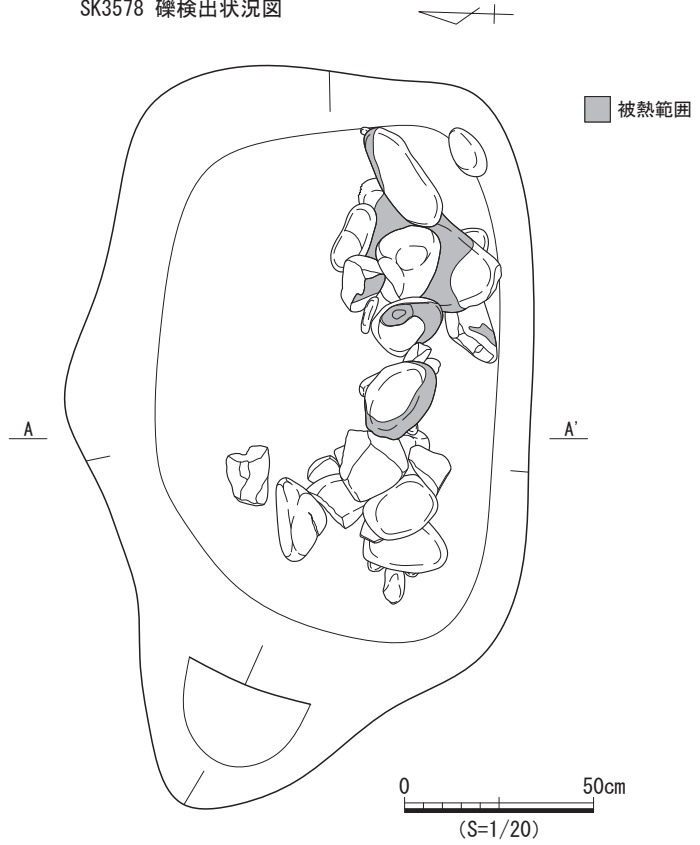
規模・形状 平面形は不定形である。壁面の傾斜は、東側と南側では急で、西側と北側ではやや緩やかである。底面は東西方向では概ね平坦であるが、南に向かって下がり、北東側と南西側にテラス状の平坦面をもつ。

埋土 12 層に分層した。南側では概ね水平に堆積し、礫を含む層とシルト層が交互に堆積する。2 層と 6 層に炭化物塊を多く含む。南東側 10 層で径 50cm 以下の亜円礫の集積を確認した。そのうち複数

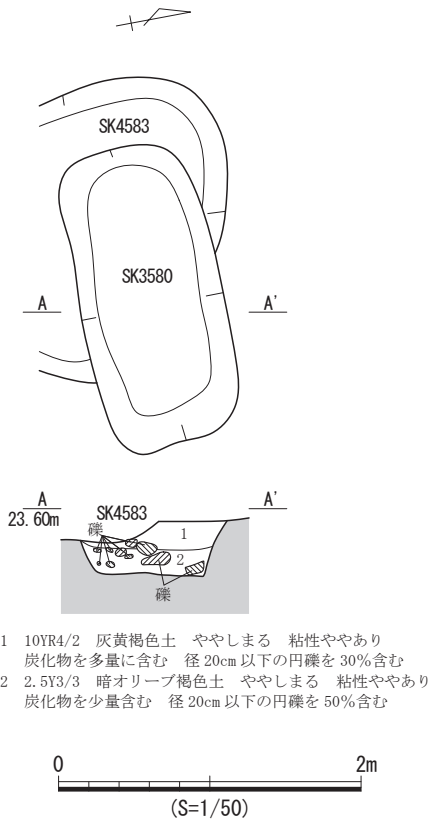
SK3578



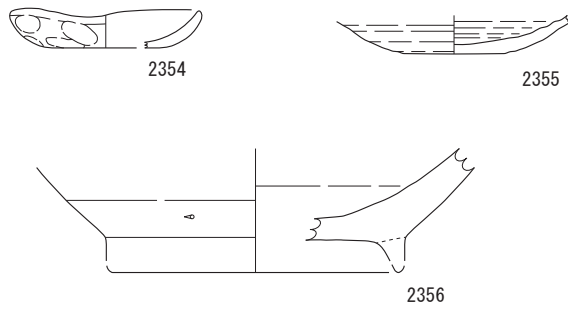
SK3578 礫検出状況図



SK3580



SK3578



SK3580

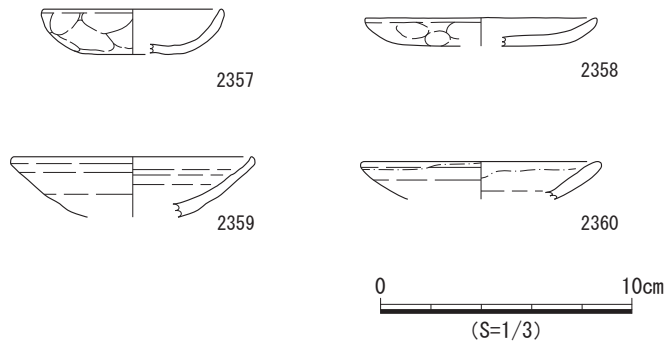


図 400 SK3578・SK3580 遺構図・出土遺物実測図

の垂円礫に被熱痕を確認した。また、南西側7層では被熱した径50cm大の垂円礫2点を確認した。いずれの礫も意図的に並べられた様子はない。

遺物出土状況 底面付近から古瀬戸の折縁深皿1点(2370)が逆位で出土したその他に埋土中から土師器47点、須恵器6点、灰釉陶器6点、山茶碗83点、陶磁器20点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など9点を図示した。2362はA4類の羽釜である。2363は美濃須衛窯IV期第3小期～V期第1小期に比定した瓶類である。2364と2365は第3型式と第5型式の尾張型山茶碗、2366と2367は浅間窯下1号窯式と大畑大洞4号窯式新段階に比定した東濃型山茶碗である。2368～2370は後

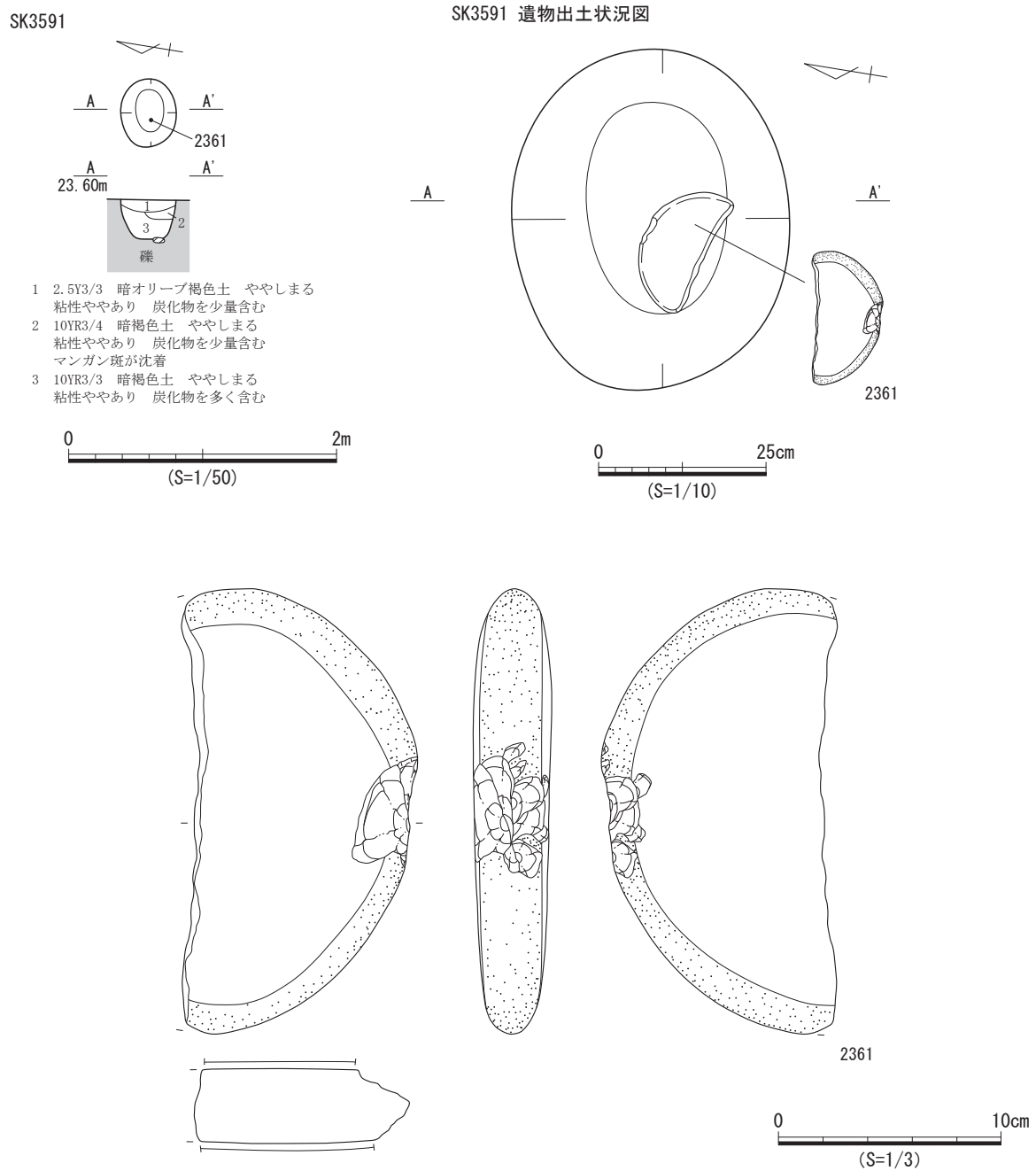
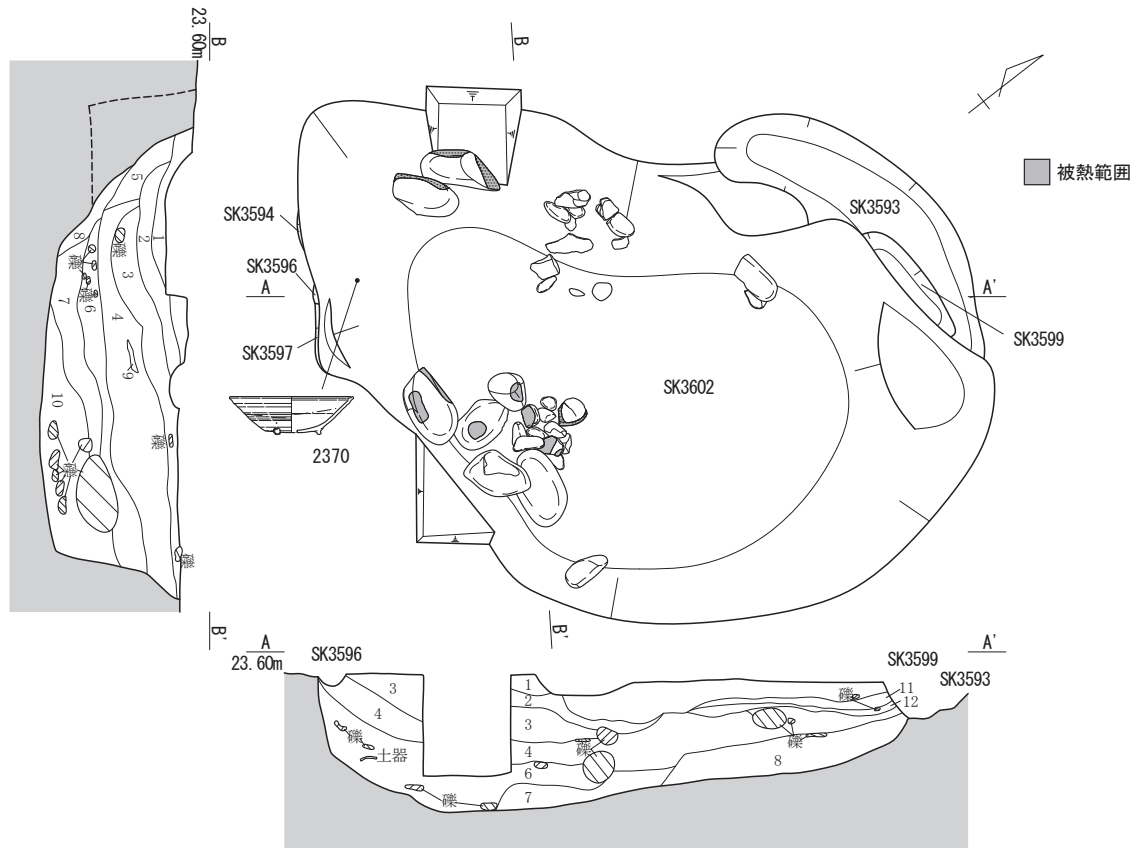


図 401 SK3591 遺構図・出土遺物実測図

SK3602



- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径5cm以下の円礫を20%含む
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着
- 3 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性あり 径15cm以下の円礫を5%含む 炭化物塊を多く含む
- 4 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト ややしまる 粘性ややあり 鉄分が沈着
- 5 10YR3/4 暗褐色シルト ややしまる 粘性ややあり 炭化物塊を少量含む
- 6 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性あり 径15cm以下の円礫を10%含む 炭化物塊を多く含む
- 7 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト ややしまる 粘性ややあり 鉄分が沈着
- 8 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり 径5cm以下の円礫を10%含む
- 9 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト ややしまる 粘性ややあり 鉄分が沈着
- 10 2.5Y4/2 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径5cm以下の円礫を10%含む
- 11 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径3cm以下の円礫を1%含む
- 12 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む

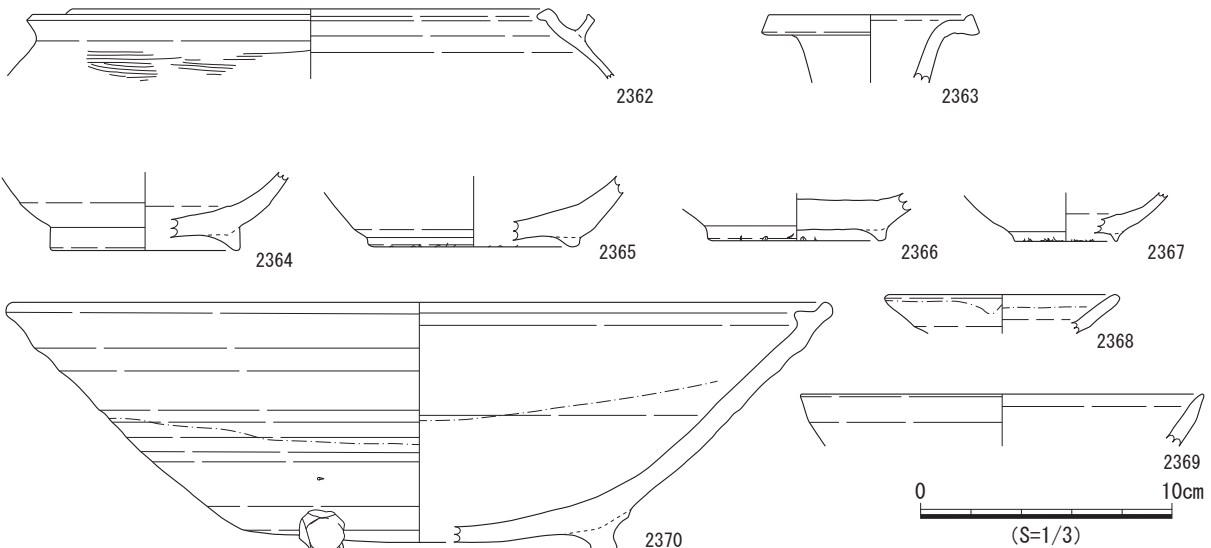
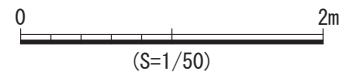


図 402 SK3602 遺構図・出土遺物実測図

IV期古段階の古瀬戸で、2368は縁釉小皿、2369は平碗、2370は折縁深皿である。

時期 図示した2368～2370から、本遺構は15世紀中葉と考えられる。

SK3608 (図403)

検出状況 LS9グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側は発掘区外に続く。

規模・形状 平面形は舌状に延びた長楕円形である。断面形は半円形となる。

埋土 2層に分層した。中央が窪む堆積で、1層に炭化物塊や焼土粒を多量に含む。

遺物出土状況 1層から土師器5点、山茶碗4点、陶器5点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 近世陶器が出土したことから、本遺構は17世紀初頭から19世紀後葉と考えられる。

SK3628 (図403)

検出状況 LT7グリッド、V層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は不整長方形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

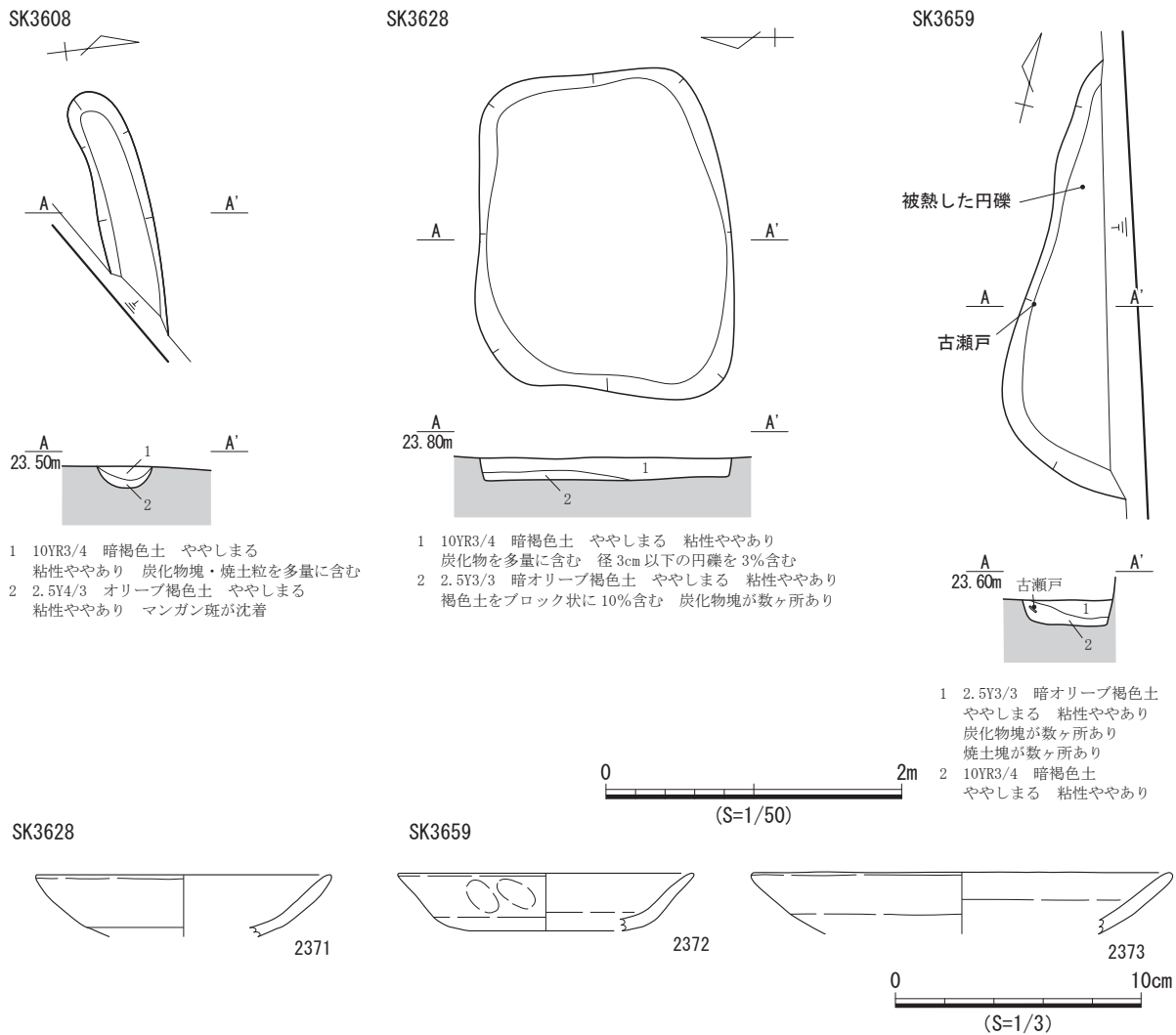


図403 SK3608・SK3628・SK3659 遺構図・出土遺物実測図

埋土 2層に分層した。2層は北側底面に薄く堆積する。1層と2層に炭化物を含む。1層は小礫を含み、2層はブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器8点、須恵器1点、山茶碗6点、古瀬戸1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器1点を図示した。2371はM3類の土師器皿である。

時期 図示した2371から、本遺構は12世紀後葉から13世紀中葉と考えられる。

SK3659 (図403)

検出状況 NA9グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。大部分は発掘区外に続く。北側でSK3665、南側でSK3663と重複する。本遺構はSK3663より古く、SK3665より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。1層に炭化物や焼土を含む。北側の底面付近で被熱した円礫を確認した。

遺物出土状況 埋土中から土師器7点、須恵器2点、山茶碗3点、古瀬戸1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器2点を図示した。2372はB1類、2373はB2類の土師器皿である。

時期 SK3663・SK3665との重複関係と古瀬戸が出土したことから、本遺構は15世紀中葉から後葉と考えられる。

SK3663 (図404)

検出状況 NA9グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。東側は発掘区外に延びる。北側でSK3659と重複する。本遺構はSK3659より新しい。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は楕円形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかで、底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。概ね水平に堆積する。西側の1層で径20cm前後の多量の壺円礫を確認した。1層にブロック土を多く含むことから、人為堆積と考えられる。壺円礫は埋め戻す際に入れ込まれたと考えられる。

遺物出土状況 多量の礫に混じって、古瀬戸の播鉢1点(2376)や土師器皿1点(2374)が出土した。その他に埋土中から土師器9点、山茶碗2点、陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など3点を図示した。2374はB2類の土師器皿である。2375と2376は播鉢で、2376は古瀬戸後IV期古段階、2375は大窯第1段階である。

時期 図示した2375から、本遺構は15世紀末から16世紀初頭と考えられる。

SK3665 (図404)

検出状況 NA9グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側は発掘区外に続く。南側でSK3659と重複する。本遺構はSK3659より古い。

規模・形状 平面形は不定形である。壁面の傾斜は急である。底面の形状は不明であるが、西側にテラス状の平坦面をもつ。

埋土 3層に分層した。概ね水平に堆積する。2層はテラス面と層境が合うことから、再掘削の可能性はある。発掘区壁際の2層底面で被熱した礫を2点確認した。3層埋土の直上であることから、意図的に置かれた可能性がある。

遺物出土状況 北西側の2層からほぼ完形の古瀬戸の縁釉小皿1点(2378)が出土した。その他に埋土

中から土師器6点、須恵器1点、山茶碗4点、陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗など2点を図示した。2377は2b期(尾張型第5型式併行)に比定した渥美・湖西型山茶碗である。2378は古瀬戸後IV期古段階の縁釉小皿である。

時期 図示した2378から、本遺構は15世紀中葉と考えられる。

SK3670 (図404)

検出状況 NB8～NB9グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面の傾斜は急で、底面は概ね平坦である。上部にテラス状の平坦面をもつ。

埋土 4層に分層した。1層はテラス面と層境が合うことから、再掘削の可能性がある。1層に粘土塊を含む。2層は炭化物を含む薄い粘土層である。3層に炭化物を少量含む。4層に礫を多く含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器3点、大窯製品1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 大窯製品が出土したことから、本遺構は15世紀末から17世紀初頭と考えられる。

SK3672 (図405)

検出状況 NB8～NB9グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側は発掘区外に続く。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は不整楕円形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかで、底面は概ね平坦である。

埋土 単層の埋土である。炭化物を含む。

遺物出土状況 中央部の南側で、土師器皿1点(2379)が正位で出土した。その他に埋土中から土師器22点、須恵器2点、山茶碗1点、陶器8点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など2点を図示した。2379はM3類の土師器皿である。2380は古瀬戸後III期～後IV期古段階の大型筒形容器である。

時期 図示した2380から、本遺構は15世紀前葉から中葉と考えられる。

SK3674 (図405)

検出状況 NA7～NA8グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側でSK3676と重複する。本遺構はSK3676より新しい。

規模・形状 平面形は不整円形である。壁面の傾斜は緩やかで、底面は中央で土坑状に一段下がり、上部にはテラス状の平坦面をもつ。中央の底面はわずかに丸みを帯びる。

埋土 3層に分層した。1層に小礫を多量に含む。2層に炭化物、3層に焼土粒をわずかに含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器5点、須恵器1点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

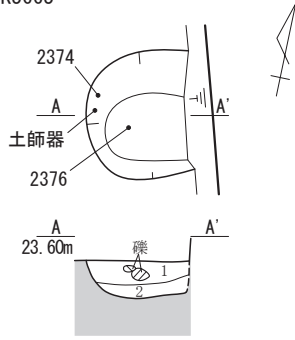
出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SK3676との重複関係と美濃須衛産の須恵器が出土したことから、本遺構は8世紀初頭から9世紀末と考えられる。

SK3676 (図406)

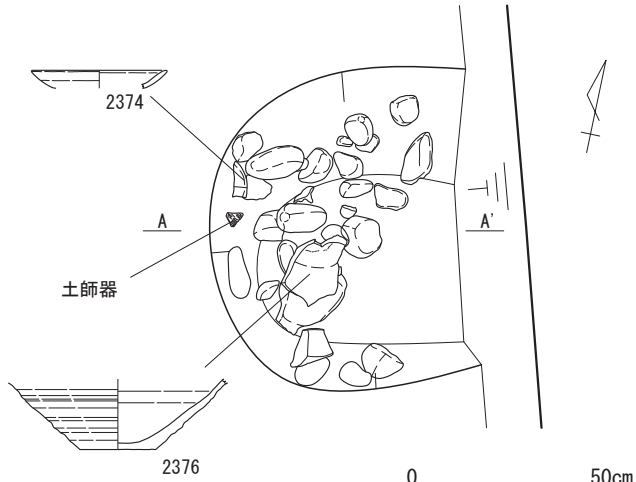
検出状況 NA7～NA8グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側でSK3674と重複する。本遺構はSK3674より古い。

SK3663

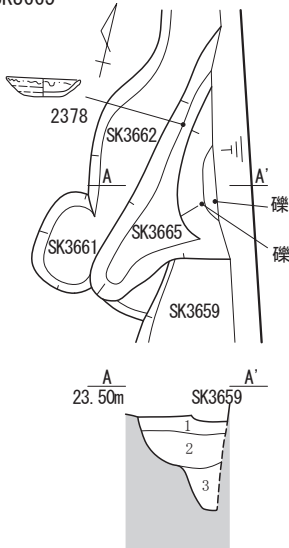


- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性あり
黄褐色土をブロック状に20%含む マンガン斑が沈着
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり

SK3663 遺物出土状況図

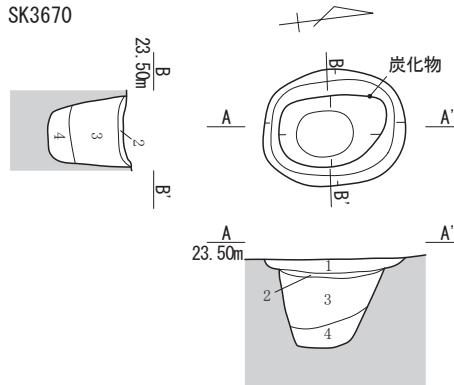


SK3665



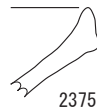
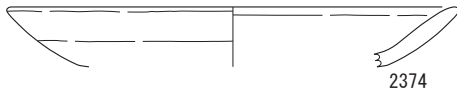
- 1 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物を少量含む マンガン斑が沈着
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
マンガン斑が沈着
- 3 10YR4/4 褐色土 ややしまる 粘性ややあり

SK3670



- 1 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物を少量含む 粘土塊を層状に多く含む
- 2 2.5Y5/3 黄褐色粘土 ややしまる 粘性あり
炭化物を少量含む
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性あり
炭化物を少量含む
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径10cm以下の円礫を30%含む

SK3663



SK3665

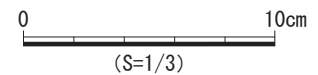
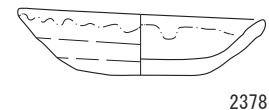
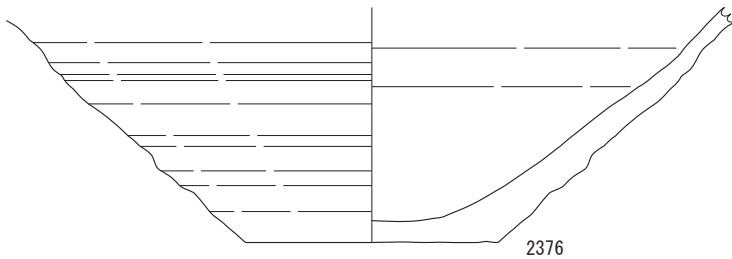
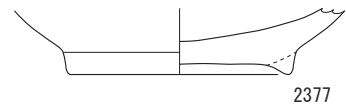
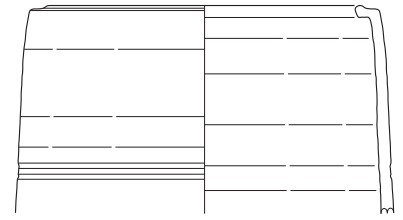
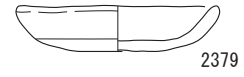
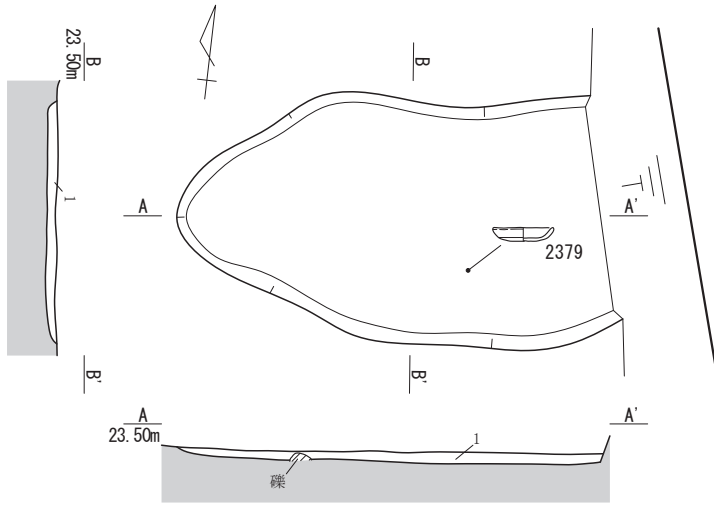
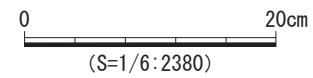
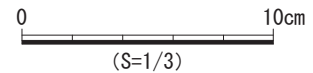


図 404 SK3663・SK3665・SK3670 遺構図・出土遺物実測図

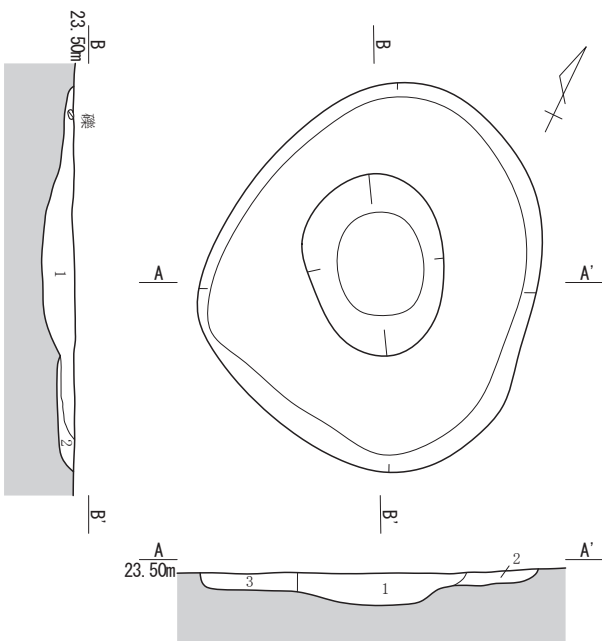
SK3672



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物を少量含む マンガン斑が沈着



SK3674



- 1 10YR4/4 褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径2cm以下の円礫を30%含む
2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまりなし 粘性ややあり 径5mm以下の炭化物を粒状にわずかに含む
3 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまりなし 粘性ややあり 焼土をブロック状にわずかに含む

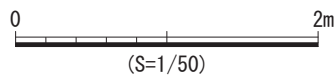


図 405 SK3672・SK3674 遺構図・出土遺物実測図

規模・形状 平面形は不整楕円形であり、南東部が張り出す。壁面の傾斜は南側で緩やかに開き、北側では急である。底面はやや丸みを帯びる。

埋土 2層に分層した。1層と2層は埋土が似る。1層に炭化物をわずかに含む。東側壁面付近の2層上面では、炭化物や焼土粒を多く含み、径38cmの垂円礫を確認し、多数の遺物が出土した。埋土や底面に被熱痕が見られないことから、炉の可能性は低い。

遺物出土状況 東側の壁面付近で、土師器の甕(2381～2383)や鉄鉢(2384)、須恵器の鉢(2385)を含む土器片がまとまって出土した。意図的にまとめて埋めたものと考えられる。これらを含め埋土中から土師器43点、須恵器9点、山茶碗1点、陶器5点が散在して出土した。なお、土師器と須恵器の出土状況から、山茶碗と陶器は混入と考えられる。

出土遺物 土師器など5点を図示した。2381～2383は土師器である。2381と2382はつまみ上げ口縁をもつ丸底甕である。2383は甕である。2384と2385は美濃須衛窯産の須恵器で、2384はⅢ期後半～Ⅳ期第1小期に比定した鉄鉢、2385はⅣ期第1小期に比定した鉢である。

時期 図示した2385から、本遺構は8世紀初頭から前葉と考えられる。

SK3678 (図407)

検出状況 NB7～NB8グリッド、Ⅳb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側でSK3681と重複する。本遺構はSK3681より新しい。

規模・形状 平面形は不定形である。壁面の傾斜はやや急で、底面は概ね平坦であるが、東側に向かってわずかに上がる。

埋土 3層に分層した。1層と2層は水平に堆積する。3層は北側の壁面に堆積する。

遺物出土状況 東側中央部の2層から古瀬戸の茶入(2386)が出土した。その他に埋土中から土師器9点、灰釉陶器1点、山茶碗1点、古瀬戸5点が散在して出土した。

出土遺物 古瀬戸1点を図示した。2386は古瀬戸後Ⅱ期～後Ⅲ期の肩衝茶入である。

時期 図示した2386から、本遺構は14世紀末から15世紀前葉と考えられる。

SK3680 (図407)

検出状況 NB8グリッド、Ⅳb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側でSK3681と重複する。本遺構はSK3681より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は概ね平坦であるが中央でわずかに上がる。

埋土 3層に分層した。概ね水平に堆積する。1層の表層に径30cm以下の円礫を多数確認した。

遺物出土状況 埋土中から土師器8点、須恵器7点、山茶碗3点、陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 須恵器1点を図示した。2387は美濃須衛窯Ⅲ期後半に比定した坏身A類である。

時期 第5型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は12世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SK3681 (図408)

検出状況 NB8グリッド、Ⅳb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側でSK3678、東側でSK3680と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 平面形は不定形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

SK3676

SK3676 遺物出土状況図

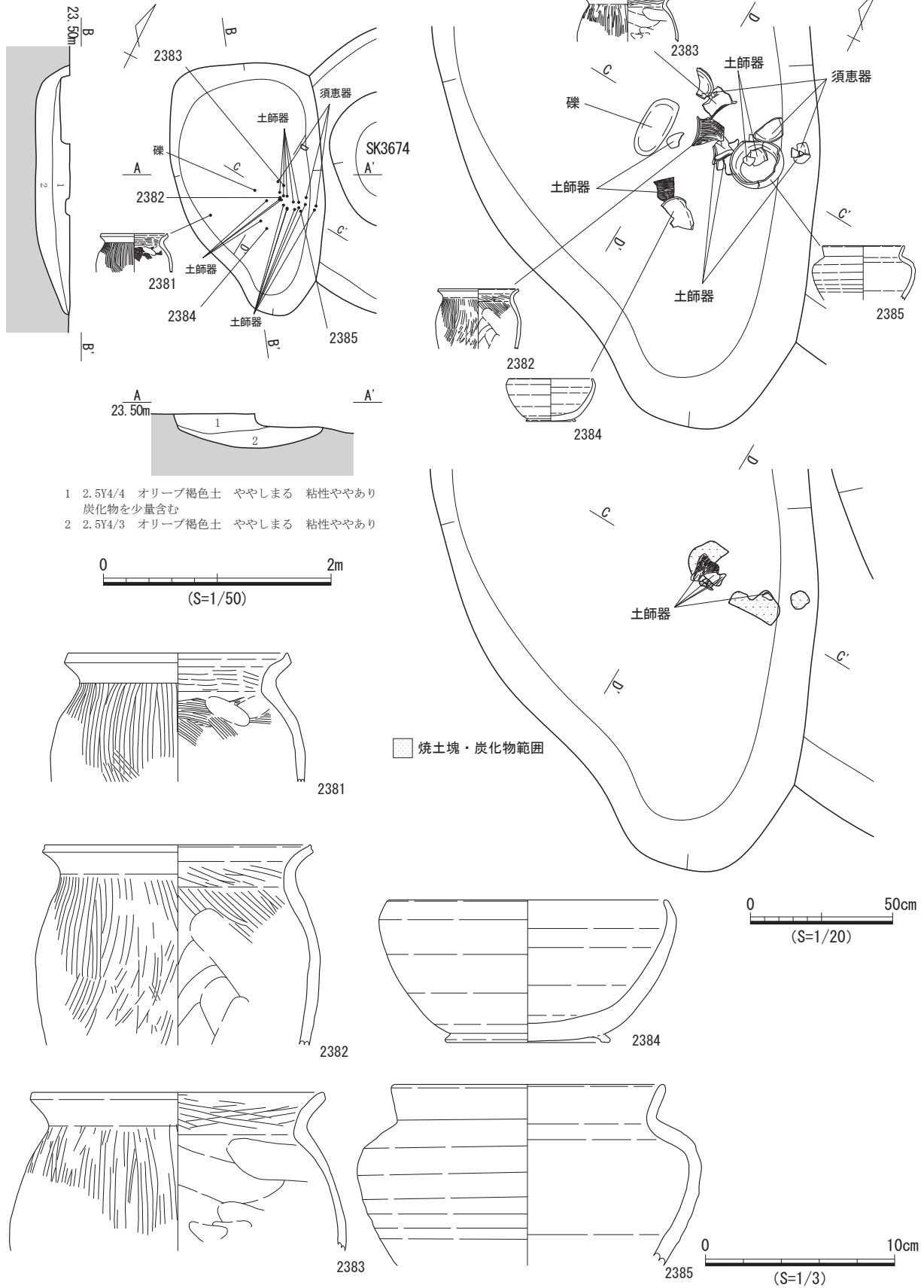
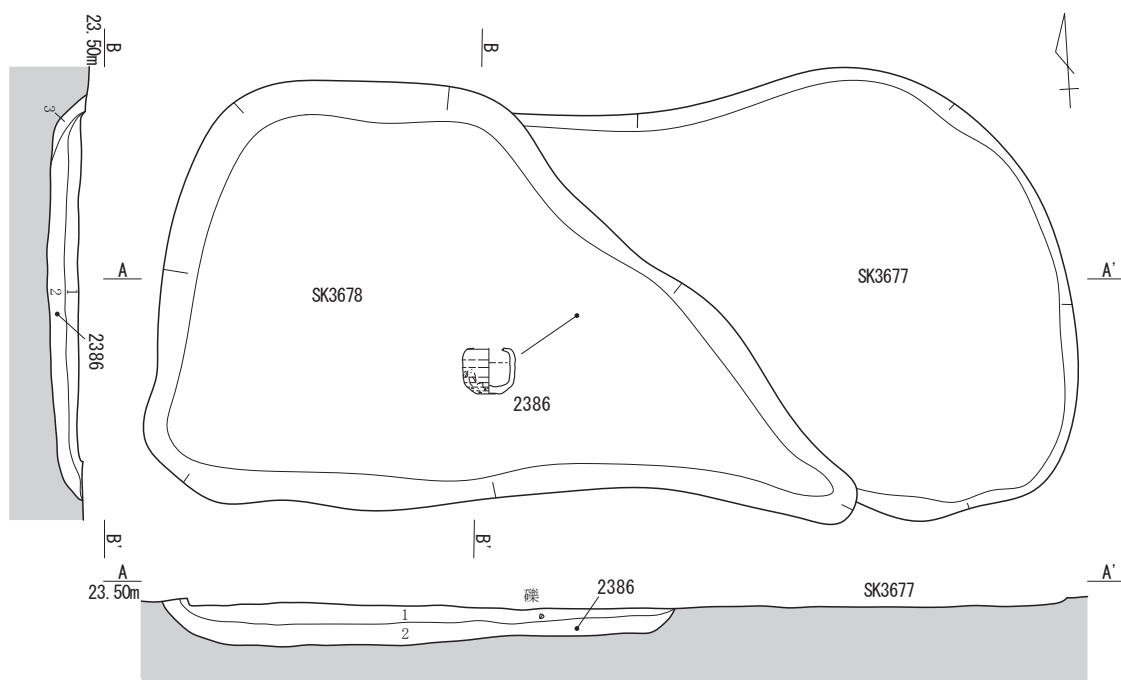


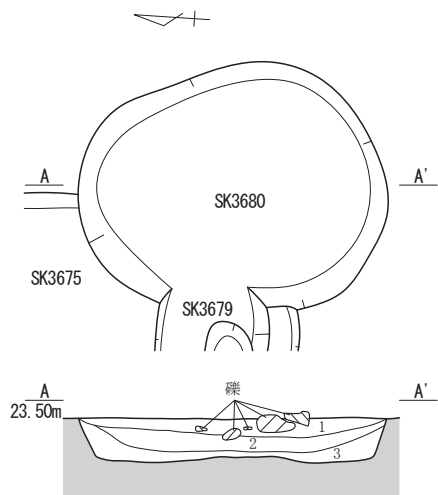
図 406 SK3676 遺構図・出土遺物実測図

SK3678

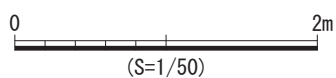


- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物を少量含む マンガン斑が沈着
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着

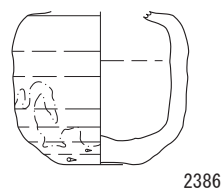
SK3680



- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径30cm以下の円礫を10%含む 炭化物を少量含む
- 2 10YR4/4 褐色シルト ややしまる 粘性なし 鉄分が沈着
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性なし 鉄分が沈着



SK3678



SK3680

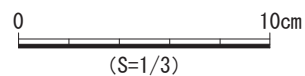


図 407 SK3678・SK3680 遺構図・出土遺物実測図

埋土 6層に分層した。1層と2層に炭化物、5層と6層に小礫を含む。

遺物出土状況 中央やや東側底面付近から須恵器の長頸瓶の頸部(2388)が出土した。また3層から須恵器の坏身1点(2390)が正位で出土した。その他に埋土中から土師器8点、須恵器10点、山茶碗1点、青磁1点が散在して出土した。なお、須恵器の出土状況から、山茶碗と青磁は混入と考えられる。

出土遺物 須恵器など4点を図示した。2388~2390は美濃須衛窯産の須恵器である。2388と2389はIV期第3小期に比定した長頸瓶と坏身C類である。2390はV期第1小期に比定した坏身C類である。2391は龍泉窯系II類の青磁碗で、内面見込みに草花文が施される。

時期 図示した2390から、本遺構は9世紀初頭から後葉と考えられる。

SK3681

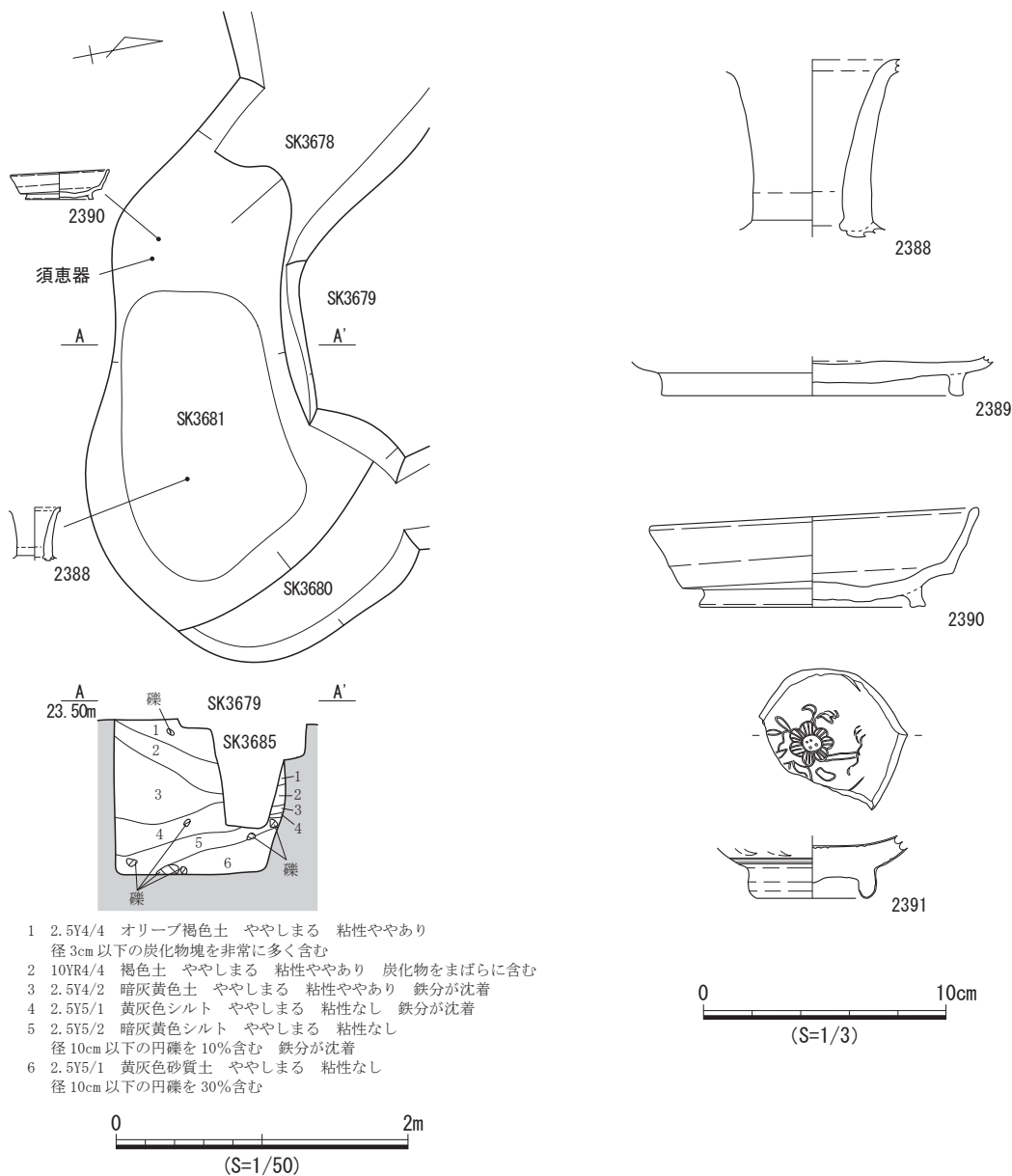


図 408 SK3681 遺構図・出土遺物実測図

SK3683 (図 409)

検出状況 NA8～NB8 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は不定形である。壁面の傾斜はやや急で、底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。概ね水平に堆積する。1層に炭化物と小礫をわずかに含む。2層に小礫を多く含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器4点、須恵器2点、灰釉陶器2点、山茶碗3点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 第5型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は12世紀後葉から15世紀前葉と考えられる。

SK3688 (図 409)

検出状況 NB7 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側は発掘区外に続く。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は長楕円形である。発掘区の西壁から東に向かって、舌状に延びる。壁面の傾斜は緩やかで、底面は丸みを帯びる。

埋土 単層の埋土である。

遺物出土状況 中央部北側の壁面付近から残りの良い土師器皿1点(2392)が正位で出土した。

出土遺物 土師器1点を図示した。2392はC1類の土師器皿である。

時期 図示した2392から、本遺構は12世紀後葉から15世紀後葉と考えられる。

SK3712 (図 409)

検出状況 NE9 グリッド、V層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南側は発掘区外に続く。

規模・形状 検出した範囲では、平面形は円形と考えられる。壁面の傾斜は北側と西側は緩やかで、南側では急である。底面は概ね平坦であるが、東側にテラス状の平坦面をもつ。

埋土 3層に分層した。概ね水平な堆積である。2層は南東側に堆積する。1層に炭化物を多く含み、2層と3層に礫を含む。1層と2層の層界はテラス面と揃うことから、再掘削の可能性はある。

遺物出土状況 埋土中から土師器42点、須恵器6点、山茶碗13点、陶磁器9点が散在して出土した。

出土遺物 青磁1点を図示した。2393は龍泉窯系の青磁碗で、口縁部に雷文帯がめぐり、体部に蓮弁文が施される。

時期 図示した2393から、本遺構は14世紀後葉から15世紀初頭と考えられる。

SK4581 (図 410・411)

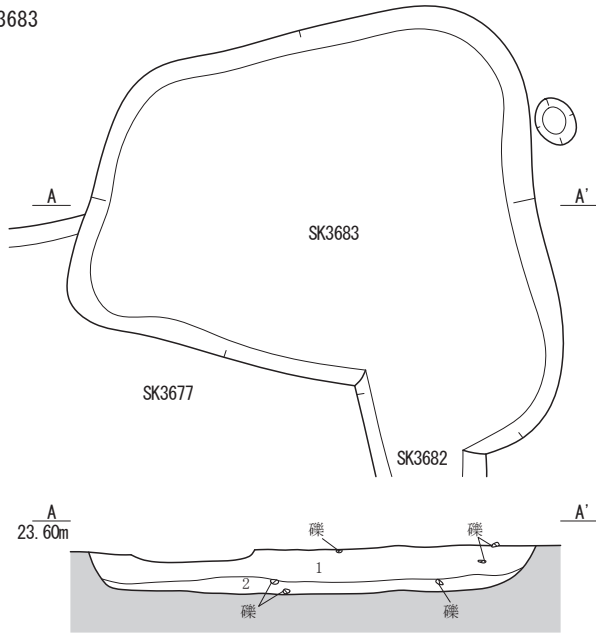
検出状況 LP12～LP13 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南東側は発掘区外に続く。北側でSK3213、南側でSK3318・SK3320と重複する。本遺構はSK3213・SK3318・SK3320より古く、SK3313より新しい。

規模・形状 平面形は不定形である。壁面の傾斜は緩やかで、底面は概ね平坦である。底面でSP473・SK3204～SK3209・SK3217・SK3235・SK3309～SK3312・SK3314～SK3316・SK3321を検出したが、本遺構との関係は不明である。

埋土 2層に分層した。1層に炭化物や焼土を含む。

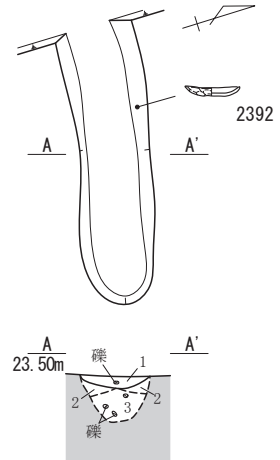
遺物出土状況 中央部西側の底面付近から山茶碗2点が正位(2394)と逆位(小片)で出土した。その他

SK3683



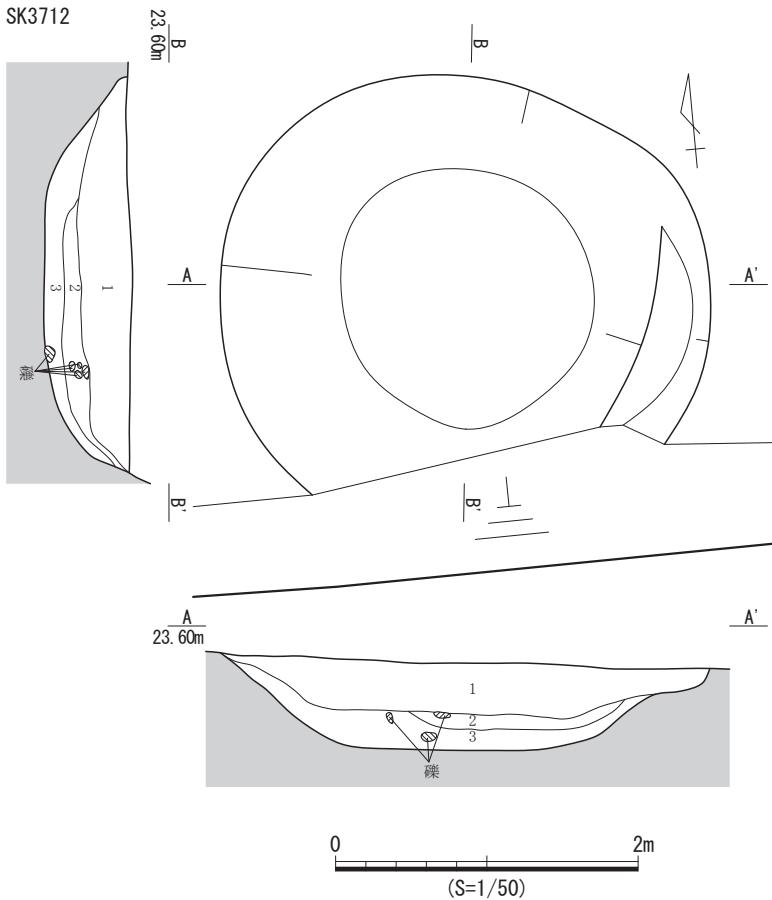
- 1 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む 径10cm以下の円礫を3%含む マンガン斑が沈着
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土 ややしまる 粘性なし 径5cm以下の円礫を30%含む 鉄分が沈着

SK3688

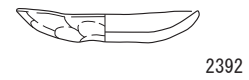


- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着
- 3 10YR3/3 暗褐色砂質土 ややしまる (基盤層) 粘性なし 径15cm以下の円礫を50%含む (基盤層)

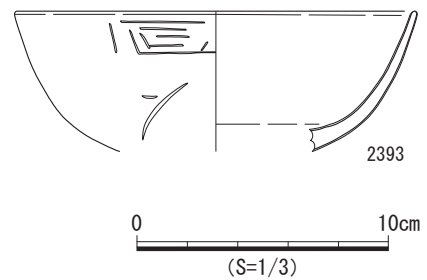
SK3712



SK3688



SK3712



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物塊を多く含む マンガン斑をまばらに含む
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 暗褐色細砂(10YR3/3)をラミナ状に含む 径15cm以下の円礫を1%含む
- 3 10YR4/4 褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径10cm以下の円礫を10%含む

図 409 SK3683・SK3688・SK3712 遺構図・出土遺物実測図

SK4581

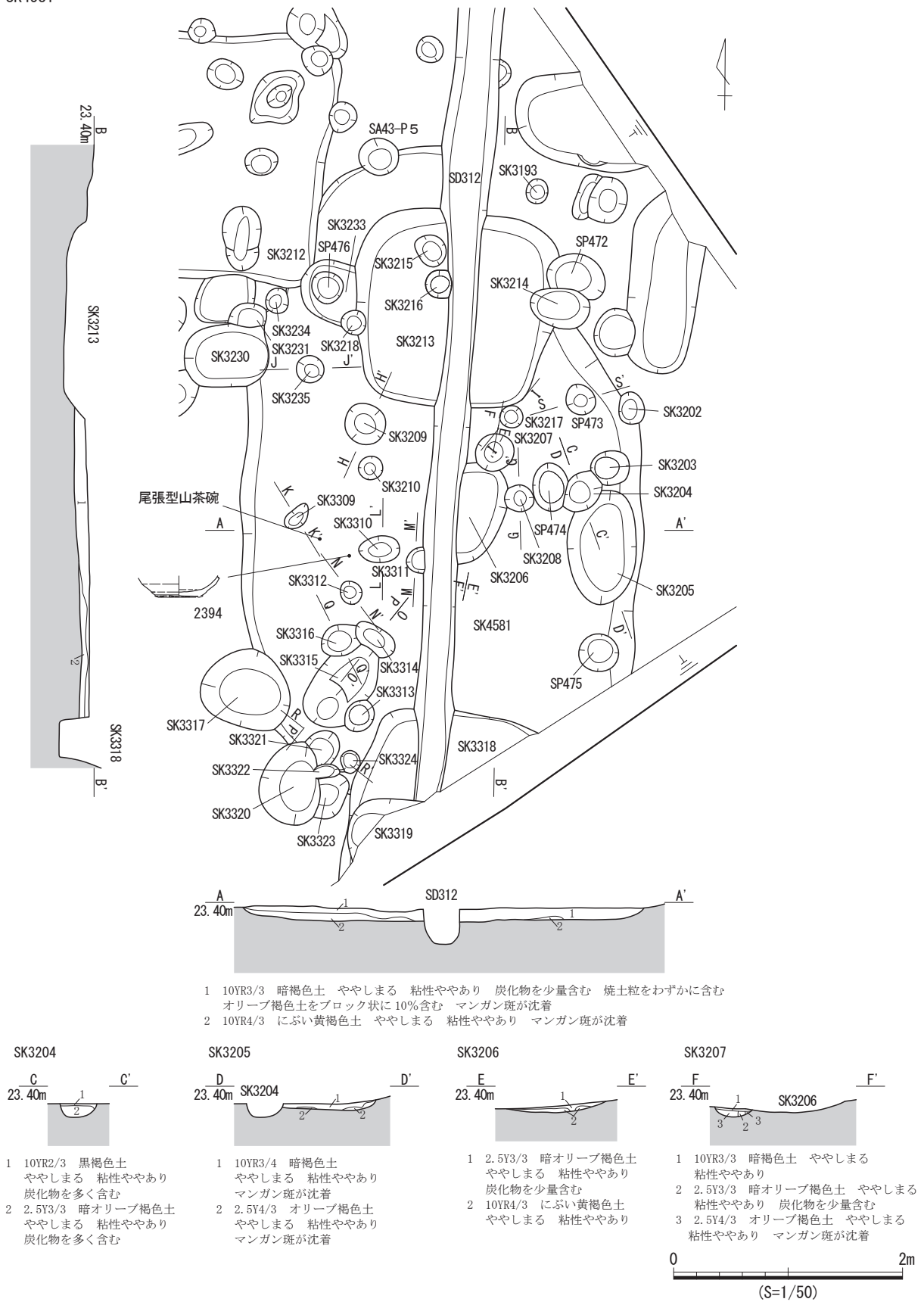
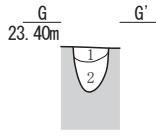


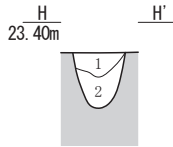
図 410 SK4581 遺構図 (1)

SK3208



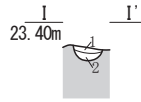
- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む マンガン斑が沈着
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着

SK3209



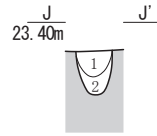
- 1 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む マンガン斑が沈着
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 灰黄褐色土をブロック状に20%含む 炭化物を少量含む

SK3217



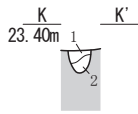
- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり

SK3235



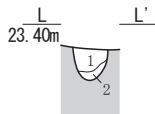
- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 焼土粒・炭化物を少量含む
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 鉄分が沈着

SK3309



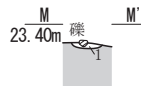
- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 鉄分が沈着

SK3310



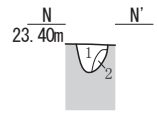
- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を多く含む マンガン斑が沈着
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着

SK3311



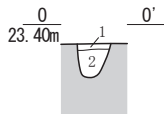
- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む

SK3312



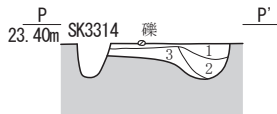
- 1 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む
- 2 10YR4/4 褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む

SK3314



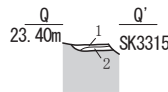
- 1 10YR2/3 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径1cm以下の炭化物塊が数ヶ所あり
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着

SK3315



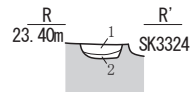
- 1 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を多く含む マンガン斑が沈着
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着

SK3316



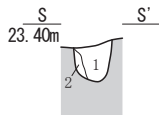
- 1 10YR2/3 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む
- 2 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着

SK3321

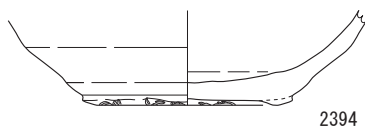
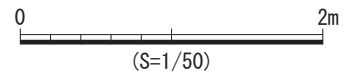


- 1 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり

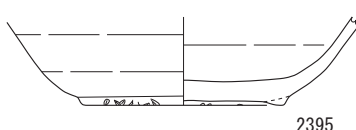
SP473



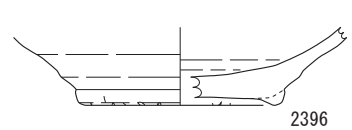
- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり



2394



2395



2396

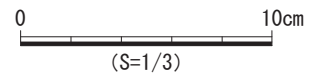


図 411 SK4581 遺構図 (2)・出土遺物実測図

に埋土中から土師器 23 点、須恵器 5 点、灰釉陶器 5 点、山茶碗 178 点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗 3 点を図示した。2394～2396 は第 5 型式の尾張型山茶碗である。

時期 図示した 2394～2396 から、本遺構は 12 世紀後葉から 13 世紀初頭と考えられる。

SK4582 (図 412)

検出状況 LR15 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 平面形は楕円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面はやや丸みを帯びる。

埋土 3 層に分層した。概ね水平に堆積する。2 層で径 25cm～30cm の扁平な皿円礫 3 点を重なった状態で確認した。下段の礫は 2 層底面で確認されており、意図的に入れ込まれたと考えられる。中段の礫では被熱痕を確認した。

遺物出土状況 埋土中から土師器 25 点、灰釉陶器 2 点、山茶碗 13 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 第 5 型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は 12 世紀後葉から 15 世紀前葉と考えられる。

SK4583 (図 413)

検出状況 LR 8 グリッド、V 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側で SK3580 と重複する。本遺構は SK3580 より新しい。

規模・形状 平面形は不整円形である。壁面は南側ではほぼ垂直に立ち上がり、北側では傾斜が緩や

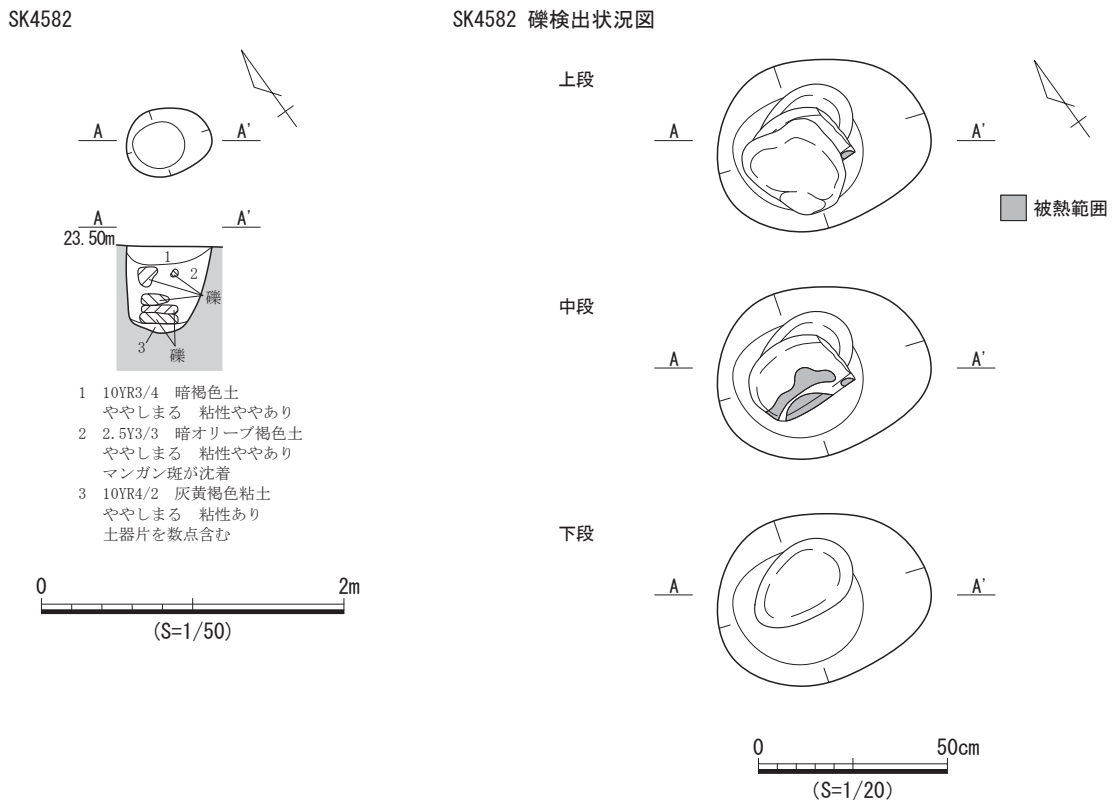
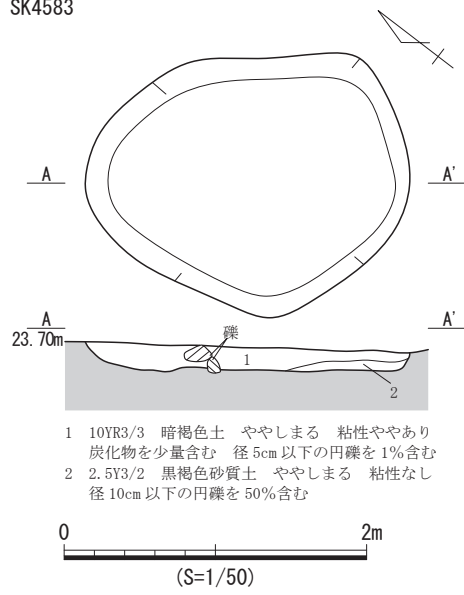


図 412 SK4582 遺構図

SK4583



SK4583 石列検出状況図

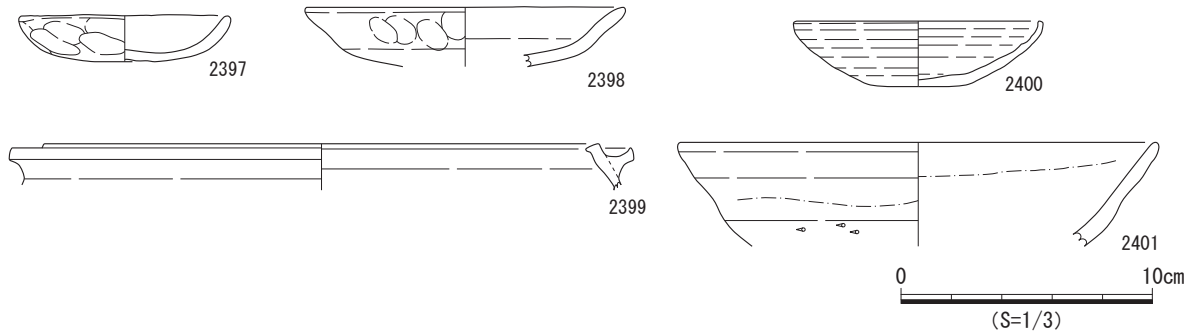
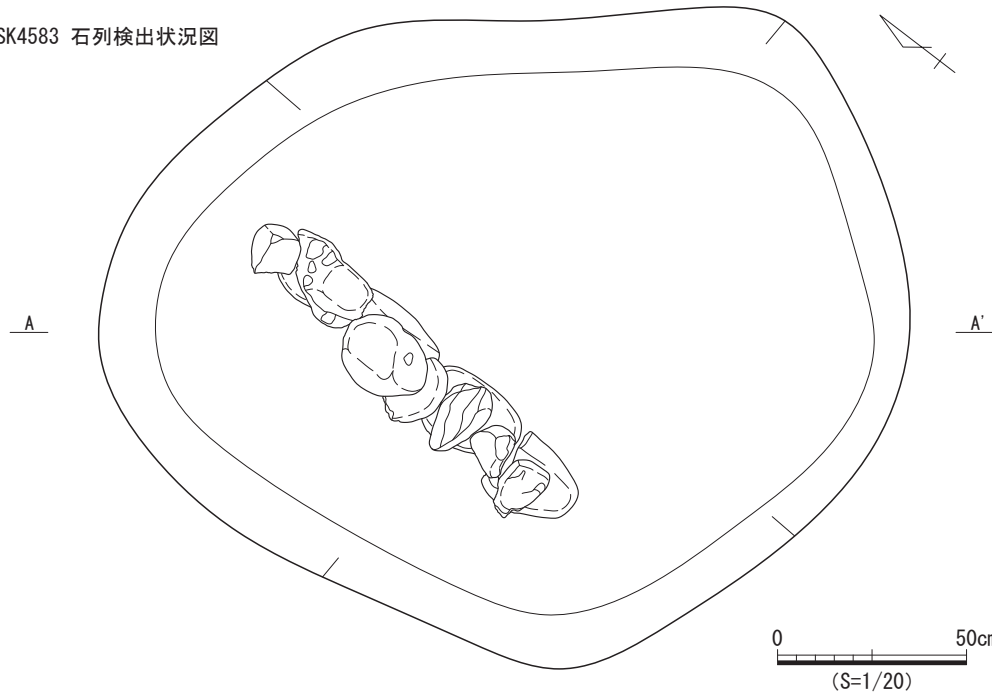


図 413 SK4583 遺構図・出土遺物実測図

かである。底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。大半は1層が堆積し、2層は南側の一部に堆積し、多量の礫を含む。西側の底面で長さ1m、幅0.25mの2段に積まれた石列を確認した。石列の長軸は概ね真北を向く。石列の下段の石はいずれも扁平であり、各石の長軸方向は石列全体の長軸方位と揃っていることから、意図的に並べられたと考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器102点、須恵器1点、灰釉陶器2点、山茶碗23点、陶器10点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など5点を図示した。2397～2399は土師器である。2398はB1類、2397はC1類の土師器皿である。2399はA4類の羽釜である。2400は生田2号窯式に比定した東濃型山茶碗である。2401は古瀬戸後IV期古段階の平碗である。

時期 図示した2400から、本遺構は15世紀後葉から末と考えられる。

5 溝状遺構

SD297 (図414・415)

検出状況 LQ11～LR16グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。発掘区外を隔てるが、直線上に位置し、幅も似ることから同一の溝状遺構とした。東側は発掘区外に延びる。西部西側でSD316、中央部東側でSD300と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 概ね東西に延びる溝状遺構である。A-A'断面とB-B'断面では、壁面は南側ではほぼ垂直に立ち上がり、北側では傾斜は急で、底面は平坦である。C-C'断面では、壁面は南側では傾斜は急であるが、北側では垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦である。

埋土 A-A'断面は5層に分層した。水平に堆積する。1層から4層に礫や粗砂を含み、上層に向かって、混入の割合が多くなる。B-B'断面は9層に分層した。堆積状況から再掘削の可能性がある。C-C'断面では5層に分層した。2層～4層は北側に寄って堆積する。

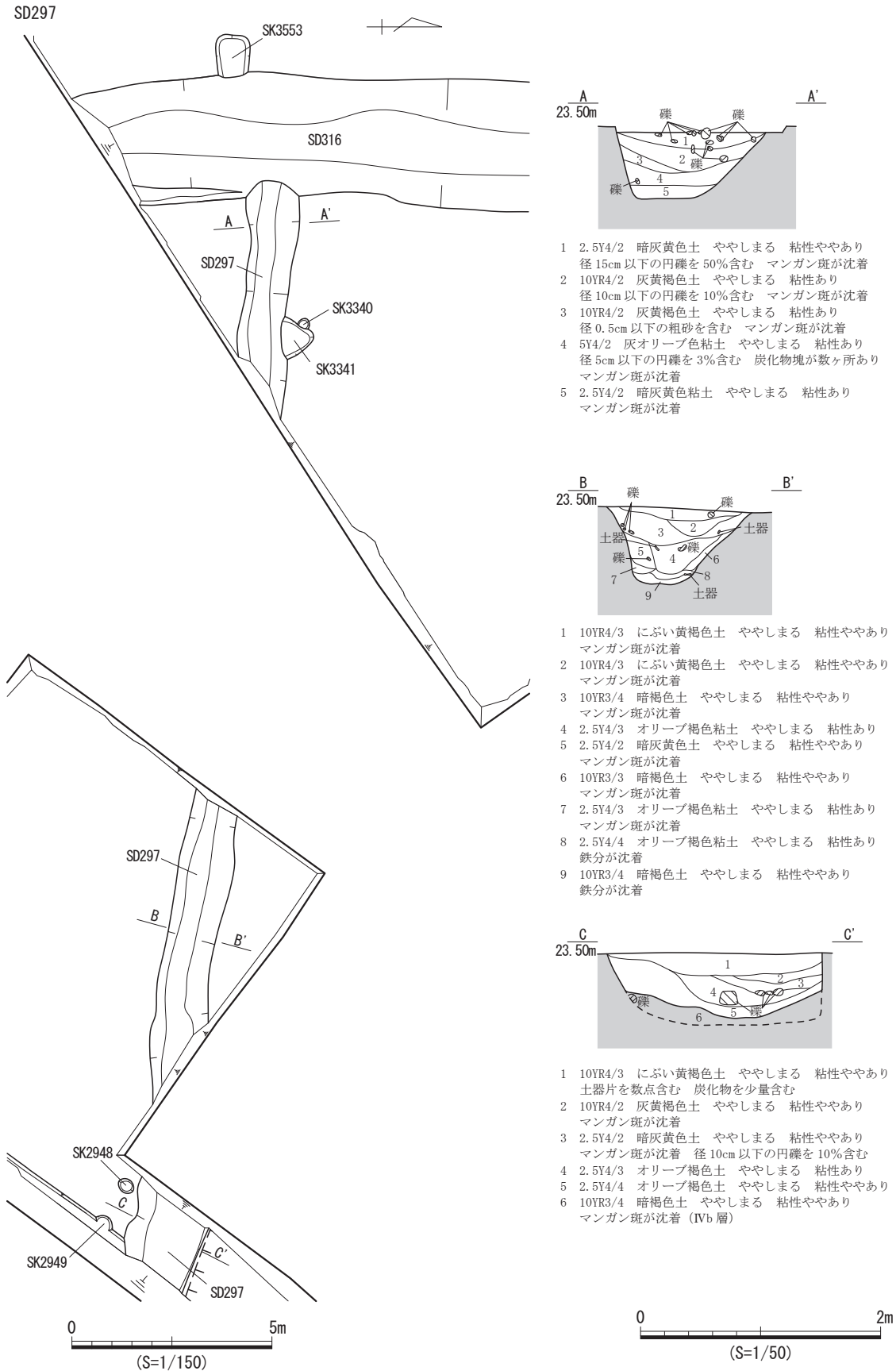
遺物出土状況 中央部東側の底面から朱塗りの漆器(2418)が出土した。その他に埋土中から土師器248点、須恵器25点、灰釉陶器6点、山茶碗91点、陶磁器68点、火打石1点、釘3点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など17点を図示した。2402はB1類、2403と2404はC1類、2405はM4類の土師器皿である。2406は美濃須衛窯産の壺である。2407～2409は尾張型山茶碗で、2409は第4型式の片口鉢、2407と2408は第5型式の碗と片口鉢である。2410と2411は古瀬戸で、2410は中期の花瓶、2411は後IV期の桶である。2412～2415は大窯製品で、2412は第1段階の稜花皿、2413と2414は第2段階の播鉢、2415は第3段階の播鉢である。2416は龍泉窯系の青磁碗で、口縁部に雷文帯がめぐり、体部に蓮弁文が施される。2417は火打石である。2418は漆器である。木質の胎部は残存せず、漆器内面の赤漆塗膜と漆器の内容物(漆塊)であった(第5章第9節参照)。

時期 図示した2415から、本遺構は16世紀後葉と考えられる。

SD300 (図416～422)

検出状況 LR15～LS15グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南北側とも発掘区外に延びる。北側でSD297、西側でSK2972・SK2979、遺構中央でSD301・SD302と重複する。本遺構はSK2972・SK2979・SD297より古く、SD301・SD302より新しい。



- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
径 15cm 以下の円礫を 50% 含む マンガン斑が沈着
- 2 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性あり
径 10cm 以下の円礫を 10% 含む マンガン斑が沈着
- 3 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性あり
径 0.5cm 以下の粗砂を含む マンガン斑が沈着
- 4 5Y4/2 灰オリーブ色粘土 ややしまる 粘性あり
径 5cm 以下の円礫を 3% 含む 炭化物塊が数ヶ所あり
マンガン斑が沈着
- 5 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土 ややしまる 粘性あり
マンガン斑が沈着

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
マンガン斑が沈着
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
マンガン斑が沈着
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり
マンガン斑が沈着
- 4 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土 ややしまる 粘性あり
- 5 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
マンガン斑が沈着
- 6 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり
マンガン斑が沈着
- 7 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土 ややしまる 粘性あり
マンガン斑が沈着
- 8 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘土 ややしまる 粘性あり
鉄分が沈着
- 9 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり
鉄分が沈着

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
土器片を数点含む 炭化物を少量含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
マンガン斑が沈着
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
マンガン斑が沈着 径 10cm 以下の円礫を 10% 含む
- 4 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性あり
- 5 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
- 6 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり
マンガン斑が沈着 (IVb 層)

図 414 SD297 遺構図

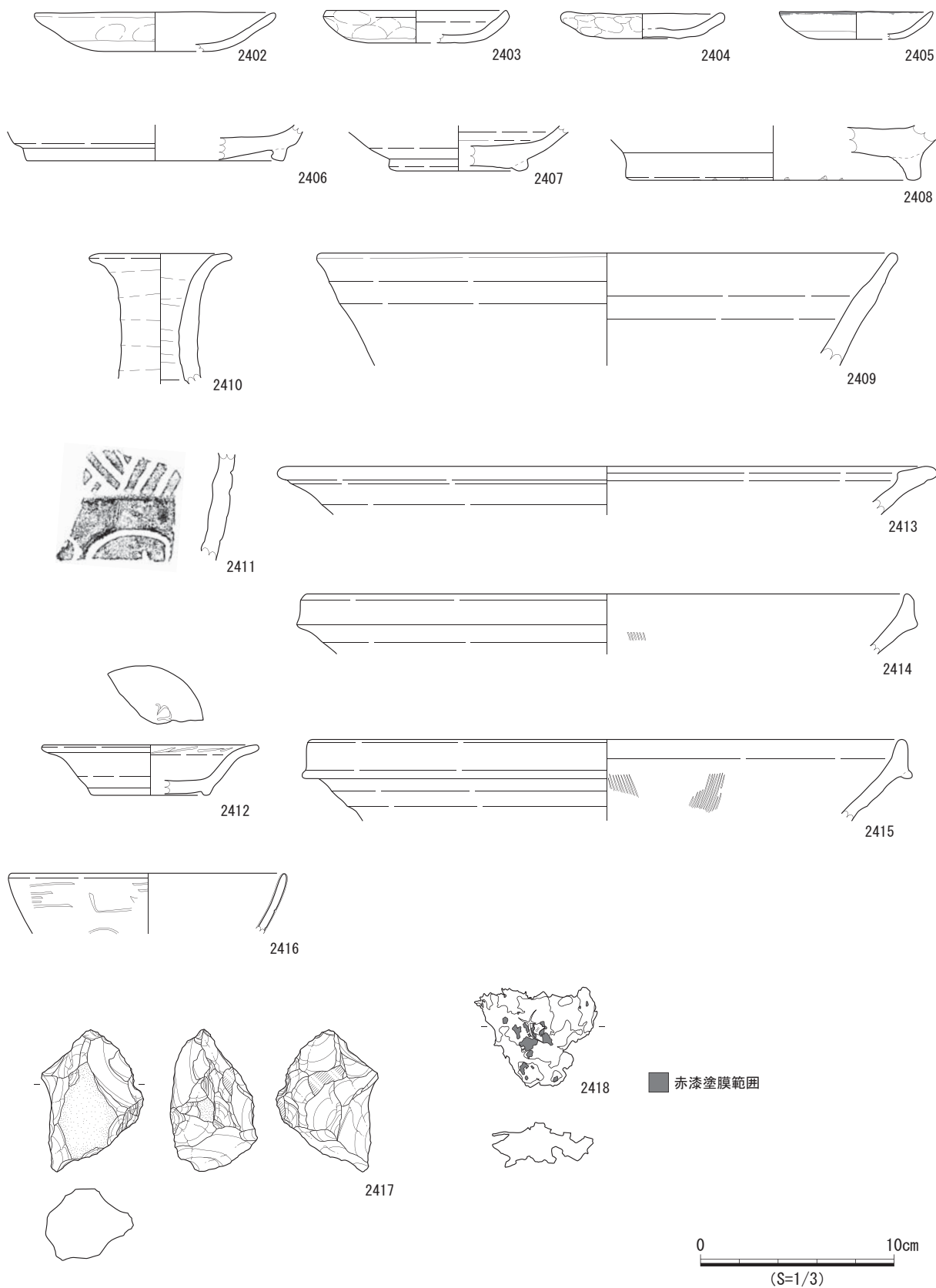


図 415 SD297 出土遺物実測図

規模・形状 南北に延びる溝状遺構である。壁面の傾斜は急で、断面形は播鉢状である。西側のSD316とは20m離れて並行し、幅も似る。SD316との間にSB26・SB28～SB32が位置することから、SD316とともに居住地を区画する溝の可能性はある。

埋土 11層に分層した。レンズ状の堆積である。1層と2層に小礫を含むことから、人為堆積と考えられる。南側の底面付近では、多量の礫の集積を確認した。礫は溝の長軸に対し、概ね直交する形で帯状に集積していた。

遺物出土状況 北側の土層から播鉢(2485)、東側の壁面から埴塙・取鍋(2491)が出土した。北西端の壁面で朱漆片を確認した。北側の底面から輪の羽口や埴塙、鉄滓などの鍛冶関連遺物が多く出土した。また、北側から中央部にかけての底面から京都系を含む、多数の完形や残りの良い土師器がまとまって出土した。南側では、西側の肩部から完形の土師器皿2点(2436・2458)が逆位で、東側の肩部から

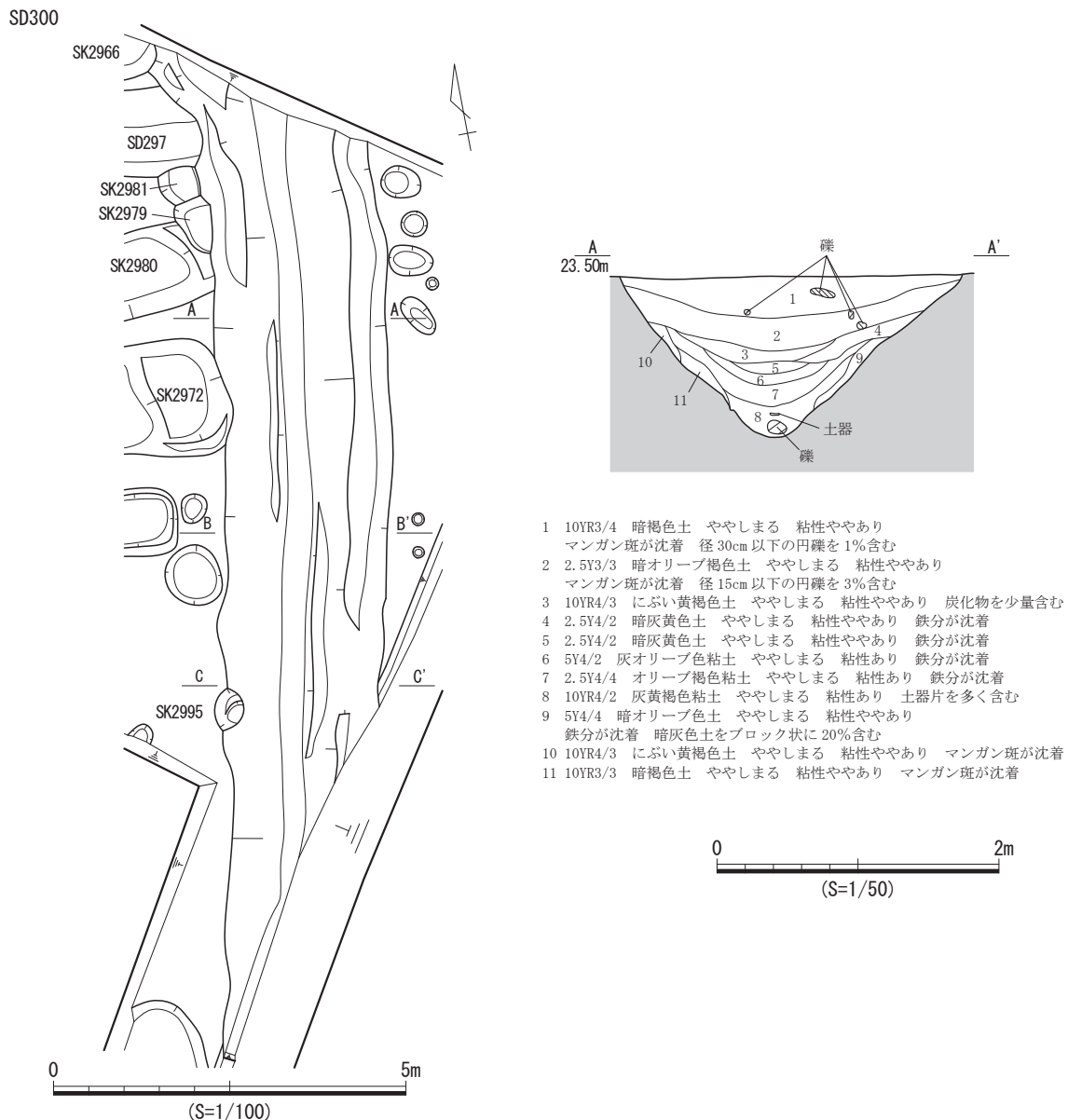


図 416 SD300 遺構図

遺物出土状況図②(中央)

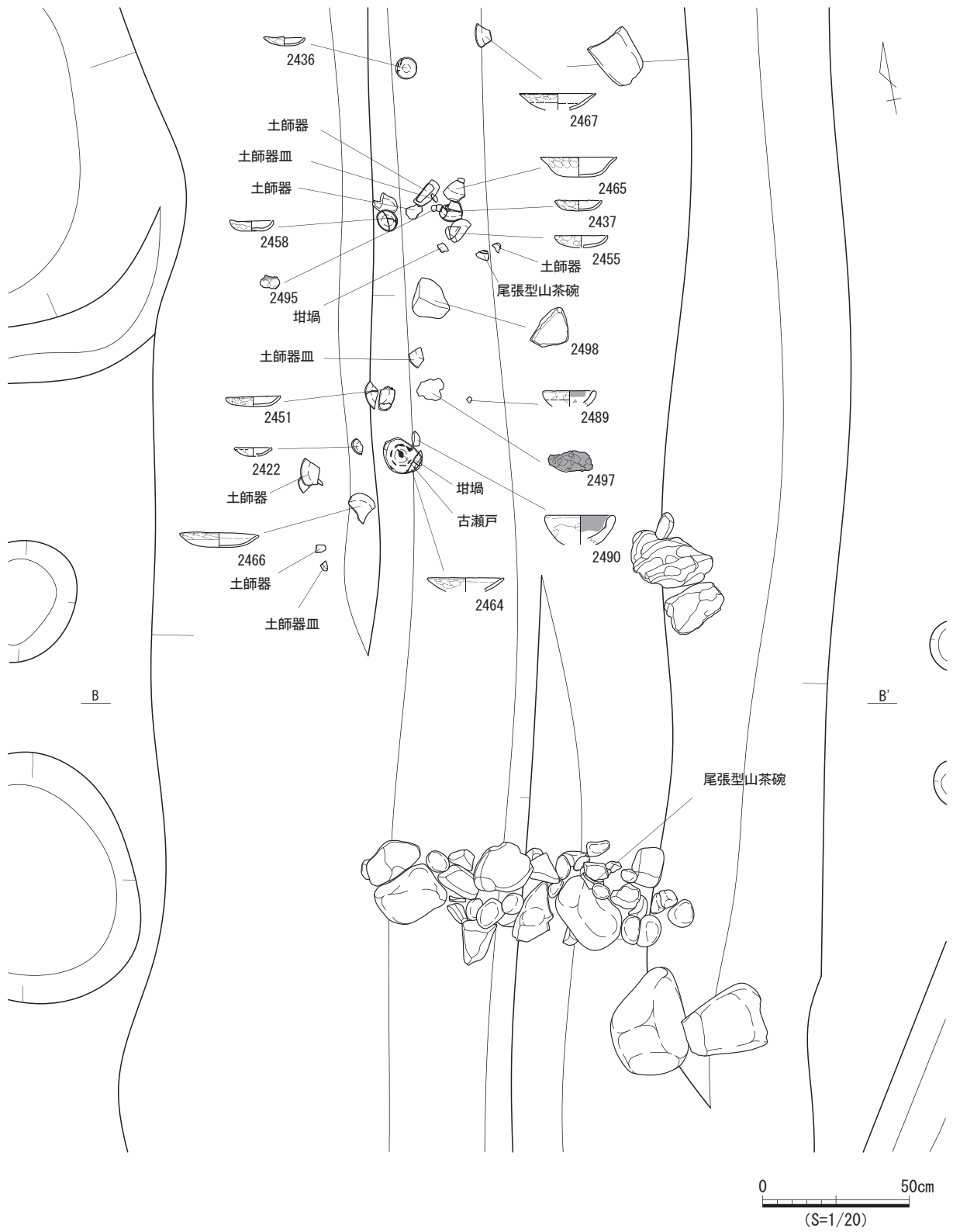


图 418 SD300 遺物出土状況图 (2)

遺物出土状況図③(南側)

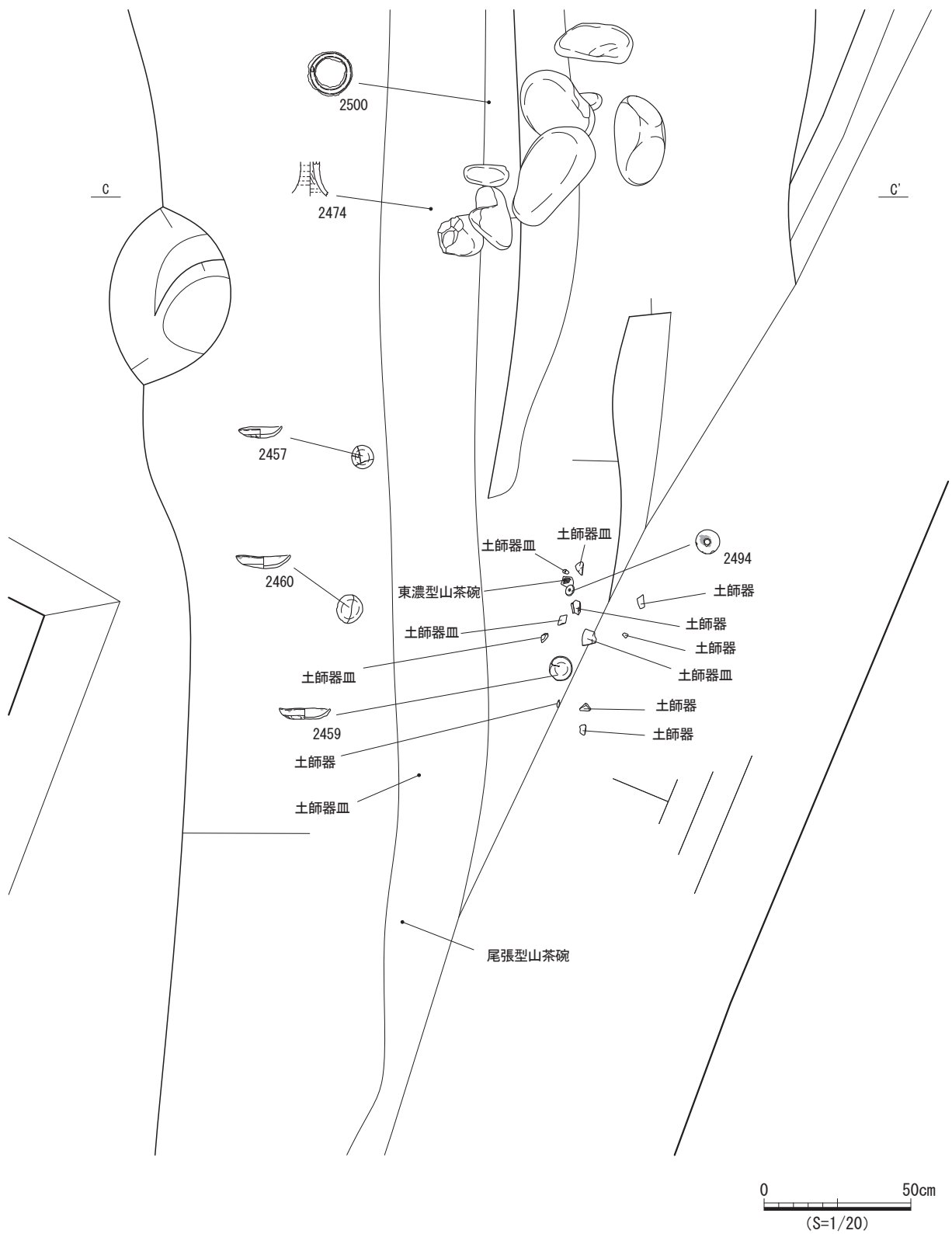


図 419 SD300 遺物出土状況図 (3)

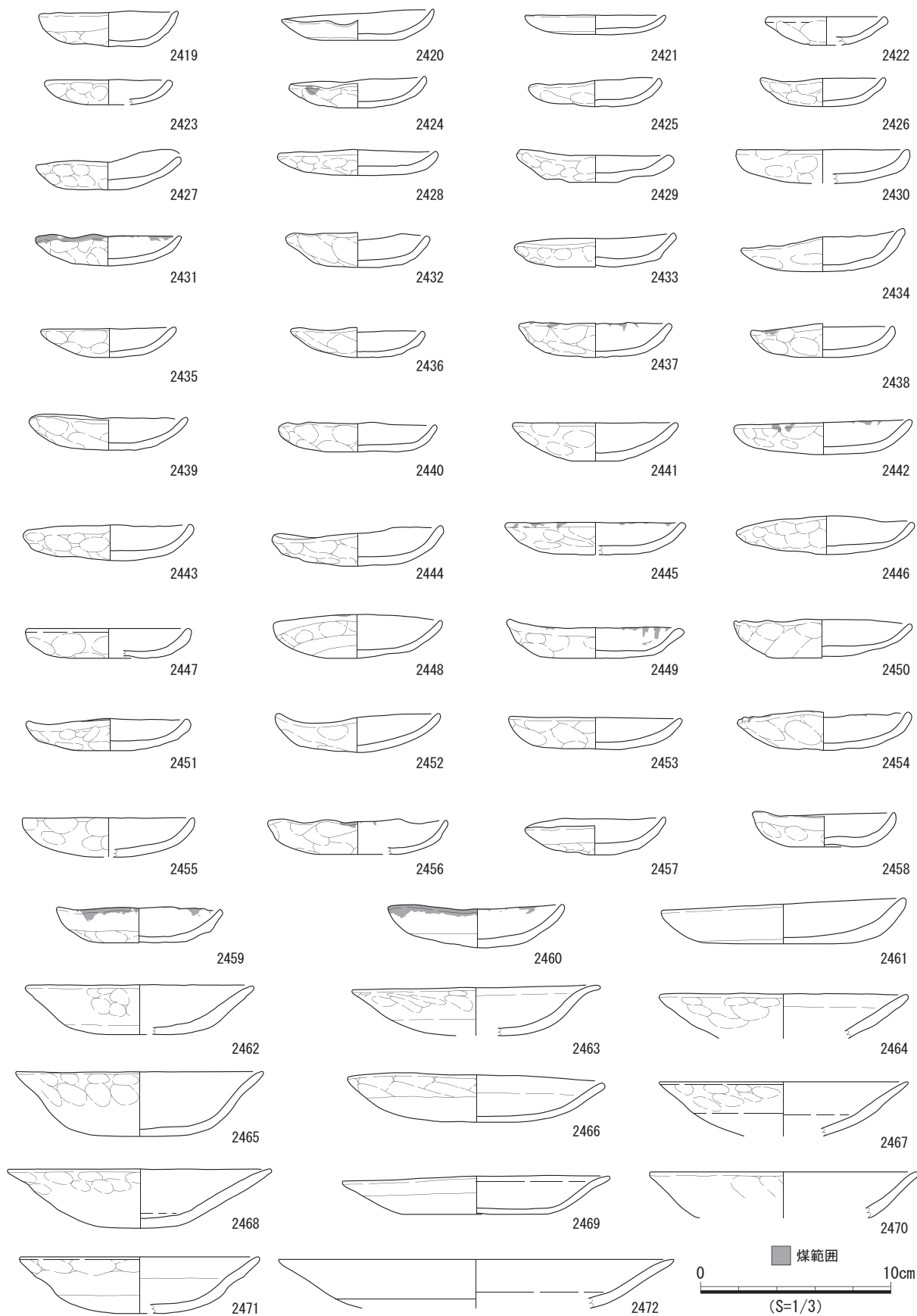


图 420 SD300 出土遺物実測図 (1)

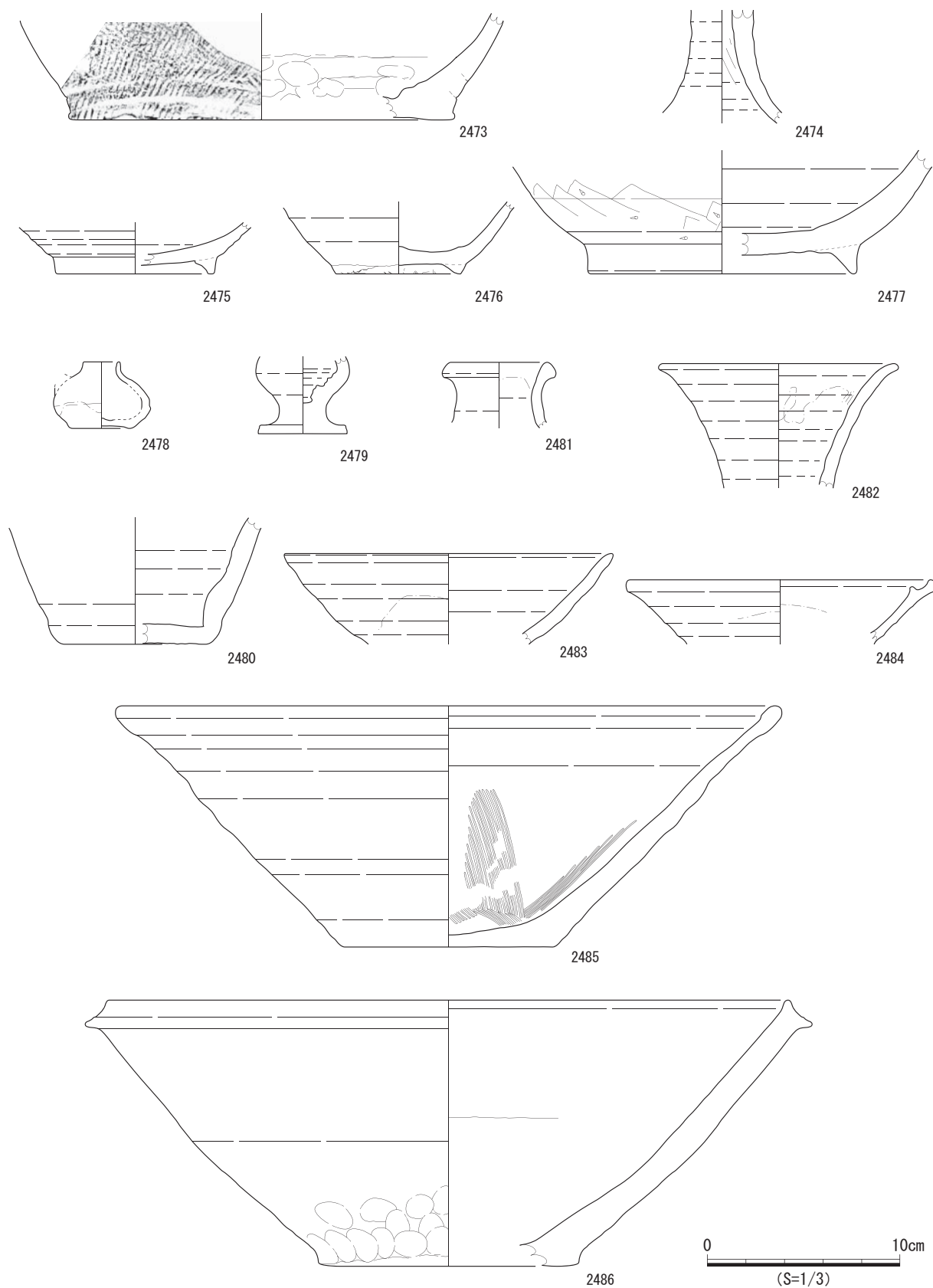


图 421 SD300 出土遺物実測图 (2)

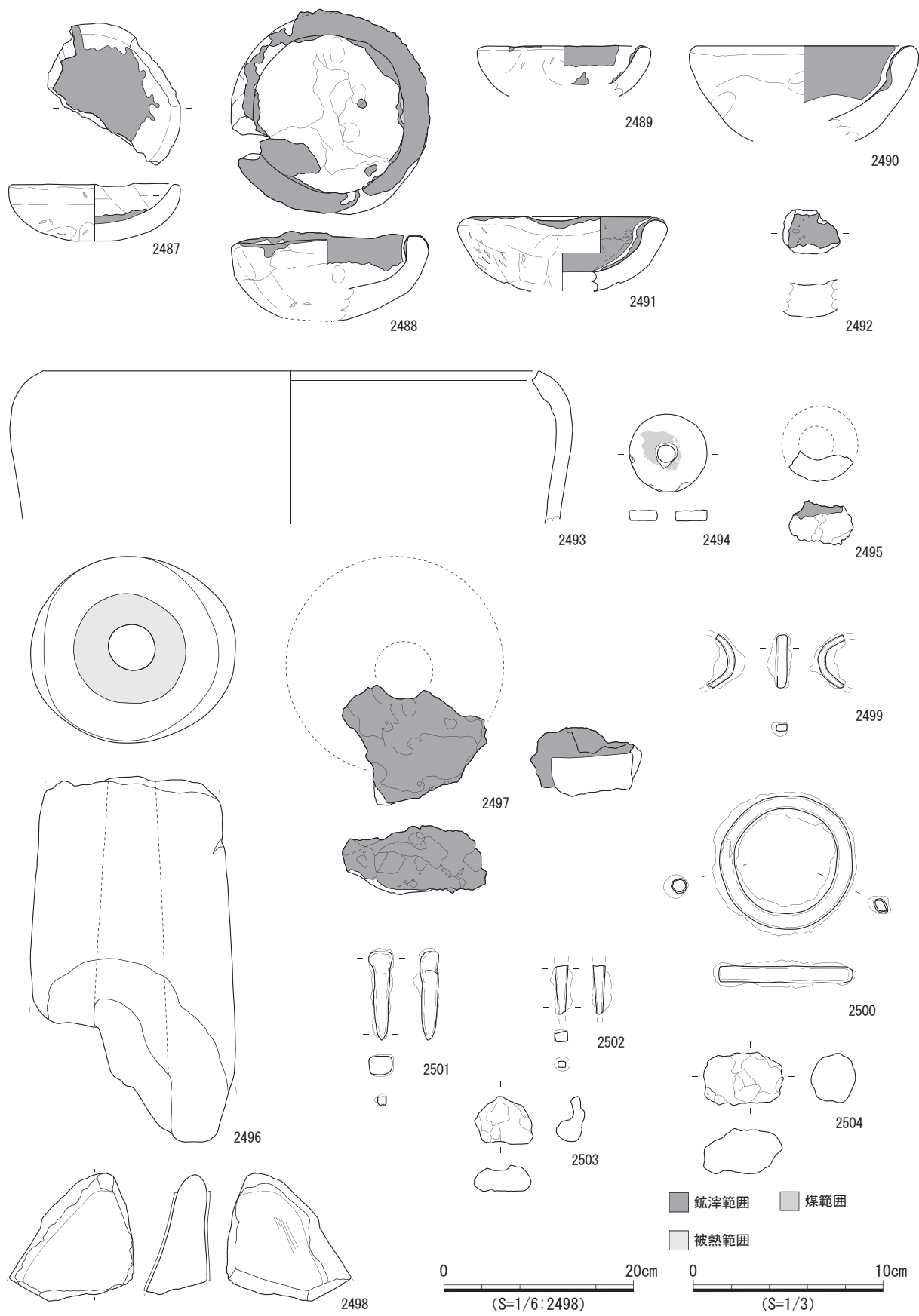


図 422 SD300 出土遺物実測図 (3)

紡錘車 1 点(2494)、完形の土師器皿 1 点(2459)が正位で出土した。これらを含め埋土中から土師器 2,366 点、須恵器 29 点、灰釉陶器 4 点、山茶碗 224 点、陶磁器 130 点、土製品 29 点(埴埴、取鍋 7 点、鞆羽口 5 点、紡錘車 1 点、火消壺 1 点、種別不明 15 点)石製品 3 点(鞆羽口 2 点、砥石 1 点)、金属製品 10 点(釘 4 点、鑿 1 点、環状鉄製品 2 点、鉄滓 2 点、種別不明 1 点)が出土した。このうち、火消壺は混入と考えられる。

出土遺物 土師器など 86 点を図示した。2472 は A 1 類、2462～2471 は B 1 類、2419～2460 は C 1 類、2461 は B 2 類の土師器皿である。このうち 10 点(2424・2431・2437・2438・2442・2445・2449・2456・2459・2460)は口縁に煤が付着する。2473 と 2474 は美濃須衛窯産の須恵器で、2473 は甕、2474 はⅢ期後半に比定した高坏である。2475 と 2476 は第 3 型式と第 6 型式の尾張型山茶碗である。2477 は美濃須衛窯Ⅷ期(尾張型第 5 型式併行)の片口鉢である。2478～2485 は古瀬戸である。2478 は中Ⅰ期の水滴、2479 は中期の花瓶である。2480 と 2481 は瓶子で、2480 は中Ⅰ期～中Ⅱ期、2481 は後Ⅰ期～後Ⅱ期である。2482 は後Ⅲ期～後Ⅳ期古段階の尊式花瓶である。2483 と 2484 は後Ⅳ期新段階の平碗と播鉢型小鉢である。2485 は後Ⅳ期の播鉢である。2486 は 10 型式の常滑産の片口鉢Ⅱ類である。2487～2492 は埴埴・取鍋で、内面及び口縁部に鉄滓が付着する。2493 は瓦器製の火消壺である。2494 は紡錘車で、土師器の甕類を転用した再加工品である。外周側面は研磨され、中央に穿孔がある。孔の周辺には甕類に由来する煤が付着する。2495 は土製の鞆羽口で、先端部側に鉄滓が付着する。2496 と 2497 は石製の鞆羽口である。2496 は被熱した胴部が確認できる。2497 は先端部で、表面に鉄滓が付着する。2498 は砥石である。2499 と 2500 は環状鉄製品である。2500 は薄い鉄板を中空に巻きつけ外側でかしめる。2501 は鑿、2502 は釘である。2503 と 2504 は鉄滓である。

時期 図示した 2483 と 2484 から本遺構は 15 世紀後葉と考えられる。

SD301 (図 423・424)

検出状況 LS14～LS15 グリッド、Ⅳ b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東西両側とも発掘区外に延びる。北側で SK2989・SD302、西側で SD303、東側で SD300 と重複する。本遺構は SK2957・SK2989・SD300・SD303 より古く、SD302 より新しい。

規模・形状 概ね東西に延びる溝状遺構で、西側では北側にやや湾曲する。壁面の傾斜は急で、底面は概ね平坦で、断面形は播鉢状である。

埋土 A-A' 断面では 4 層、B-B' 断面では 8 層に分層した。A-A' 断面 1 層と B-B' 断面の 1 層と 4 層では小礫を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器 14 点、須恵器 10 点、灰釉陶器 3 点、山茶碗 41 点、常滑産陶器 2 点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など 4 点を図示した。2505 は土師器の甕で、内面に輪積み痕が確認できる。2506 と 2507 は第 5 型式と第 6 型式の尾張型山茶碗である。2508 は 2 b 期(尾張型第 5 型式併行)に比定した渥美・湖西型山茶碗である。

時期 大畑大洞 4 号窯式古段階の東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構は 13 世紀末から 14 世紀初頭と考えられる。

SD302 (図 423・424)

検出状況 LR13～LS16 グリッド、Ⅳ b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。東西両側とも発

掘区外に延びる。北側で SK2972、西側で SD303、南側で SK2989・SD301、東側で SD300 と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 東西に延びる溝状遺構である。壁面の傾斜はやや急である。底面は平坦であるが、B-B' 断面では北に向かってわずかに上がる。西側に位置する SD327 の直線上に位置し、幅や堆積状況も似ることから、同一の溝である可能性がある。

埋土 A-A' 断面では7層、B-B' 断面では6層に分層した。概ね水平な堆積である。A-A' 断面の4層は小礫を多量に含む。

遺物出土状況 中央部の2層からほぼ完形の山茶碗1点(2520)が逆位で、底部のみ残存する山茶碗1点(2517)が正位で、並んで出土した。その他に埋土中から土師器43点、須恵器4点、灰釉陶器9点、山茶碗51点、陶磁器6点、瓦1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など16点を図示した。2509と2510はM3類の土師器皿である。2509は口縁に煤が付着する。2511は土師器の甕である。2512は美濃須衛窯IV期に比定した瓶類又は小壺である。2513と2514は灰釉陶器の碗で、2513は美濃須衛窯VI期後半(丸石2号窯式併行)、2514は明和27号窯式に比定した。2515～2521は尾張型山茶碗で、2515と2516は第4型式の小碗と碗、2517は第5型式の碗、2521は第6型式の片口鉢、2518～2520は第7型式の碗である。2522はIV類の白磁碗である。2523は常滑産の甕である。2524は平瓦で、布目痕が確認できる。

時期 図示した2518～2520から、本遺構は13世紀後葉から末と考えられる。

SD303 (図 425)

検出状況 LR13～LR14 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南北両側は発掘区外に延びる。南側で SD301・SD302 と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 南北に延びる溝状遺構である。壁面の傾斜は急で、底面は丸みを帯びる。発掘区外を隔てて南側の延長線上に SD306 が位置し、時期も一致することから同一の溝の可能性がある。

埋土 3層に分層した。堆積の状況から、2層は再掘削の可能性がある。南側の底面で南北方向に並ぶ径30cm～40cmの垂円礫5点を確認した。

遺物出土状況 埋土中から土師器17点、須恵器1点、山茶碗13点、陶器2点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など2点を図示した。2525はM4類の土師器皿である。2526は大窯第1段階の小天目である。

時期 図示した2526から、本遺構は15世紀末から16世紀初頭と考えられる。

SD306 (図 426)

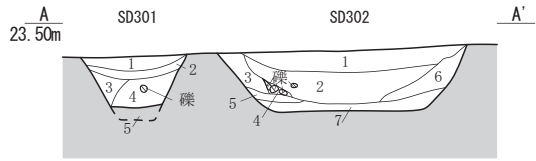
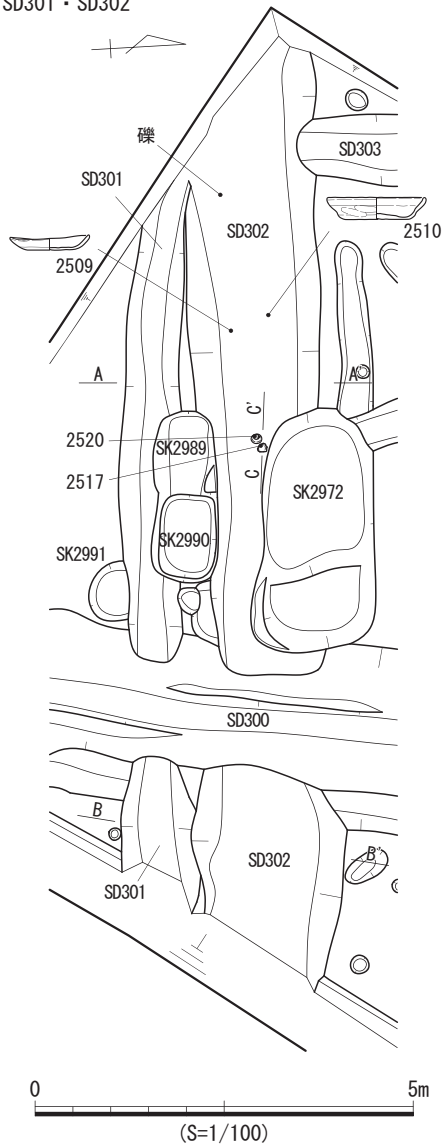
検出状況 NB13～NC13 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南北側は発掘区外に延びる。

規模・形状 南北に延びる溝状遺構である。壁面の傾斜は急で、底面は平坦である。発掘区外を隔てて北側の延長線上に SD303 が位置し、時期も一致することから同一の溝の可能性がある。

埋土 8層に分層した。中層から下層にかけてはレンズ状の堆積であるが、1層から4層は5層を掘り込んで見えることから、再掘削の可能性がある。

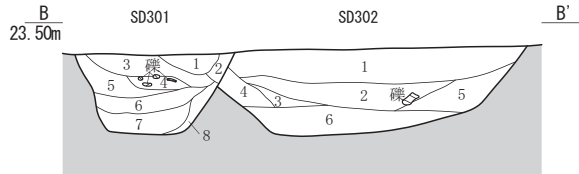
遺物出土状況 6層から火打金1点(2528)と板状鉄製品1点(2529)が出土した。その他に埋土中から土師器13点、須恵器4点、灰釉陶器1点、山茶碗6点、大窯製品1点、砥石1点が散在して出土した。

SD301・SD302



- SD301**
- 1 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径5cm以下の円礫を5%含む
 - 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着
 - 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト ややしまる 粘性なし 鉄分が沈着
 - 4 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり
 - 5 10YR3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり (IV層)

- SD302**
- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり 径3cm以下の円礫を1%含む マンガン斑が沈着
 - 2 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト ややしまる 粘性なし
 - 7.5YR3/4 暗褐色細砂をラミナ状に含む
 - 3 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着
 - 4 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径10cm以下の円礫を70%含む
 - 5 10YR3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性あり
 - 6 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
 - 7 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 鉄分が沈着



- SD301**
- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり 径3cm以下の円礫を10%含む マンガン斑が沈着
 - 2 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着
 - 3 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着
 - 4 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径10cm以下の円礫を30%含む
 - 5 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着
 - 6 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土 ややしまる 粘性あり 10YR4/4 褐色細砂ラミナ状に含む
 - 7 10YR4/2 灰黄褐色粘土 ややしまる 粘性あり 鉄分が沈着
 - 8 10YR4/6 褐色シルト ややしまる 粘性なし

- SD302**
- 1 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着
 - 2 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト ややしまる 粘性なし 10YR4/4 褐色細砂をラミナ状に含む
 - 3 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性なし
 - 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト ややしまる 粘性なし 鉄分が沈着
 - 5 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 鉄分が沈着
 - 6 10YR4/6 褐色シルト ややしまる 粘性ややあり 鉄分が沈着

SD302 遺物出土状況図

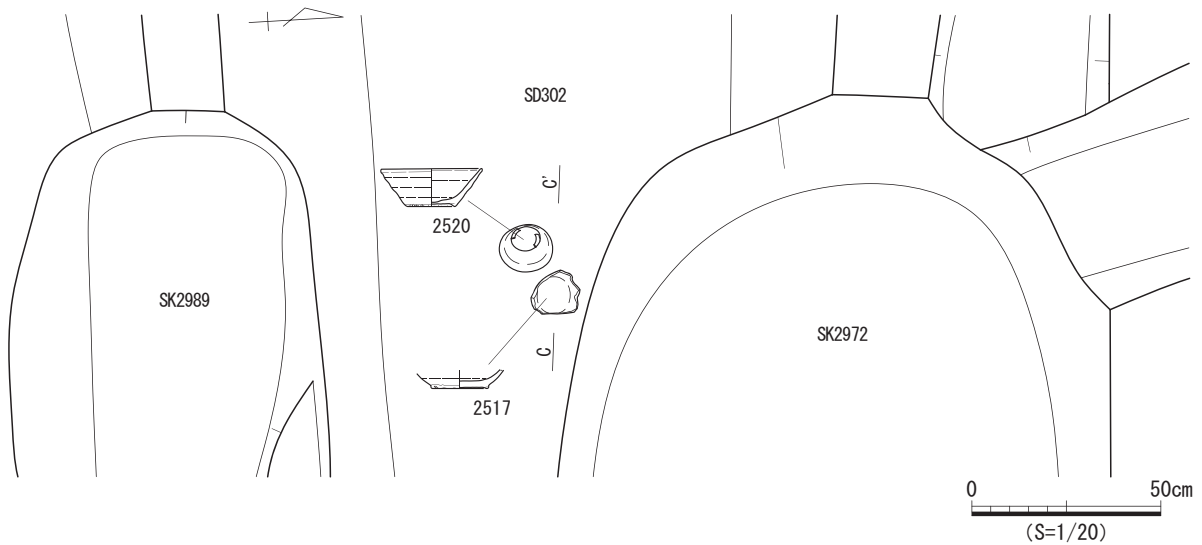
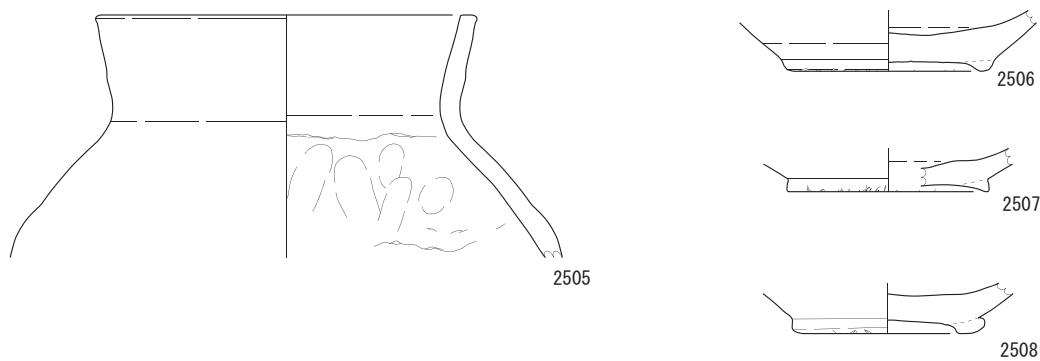


図 423 SD301・SD302 遺構図

SD301



SD302

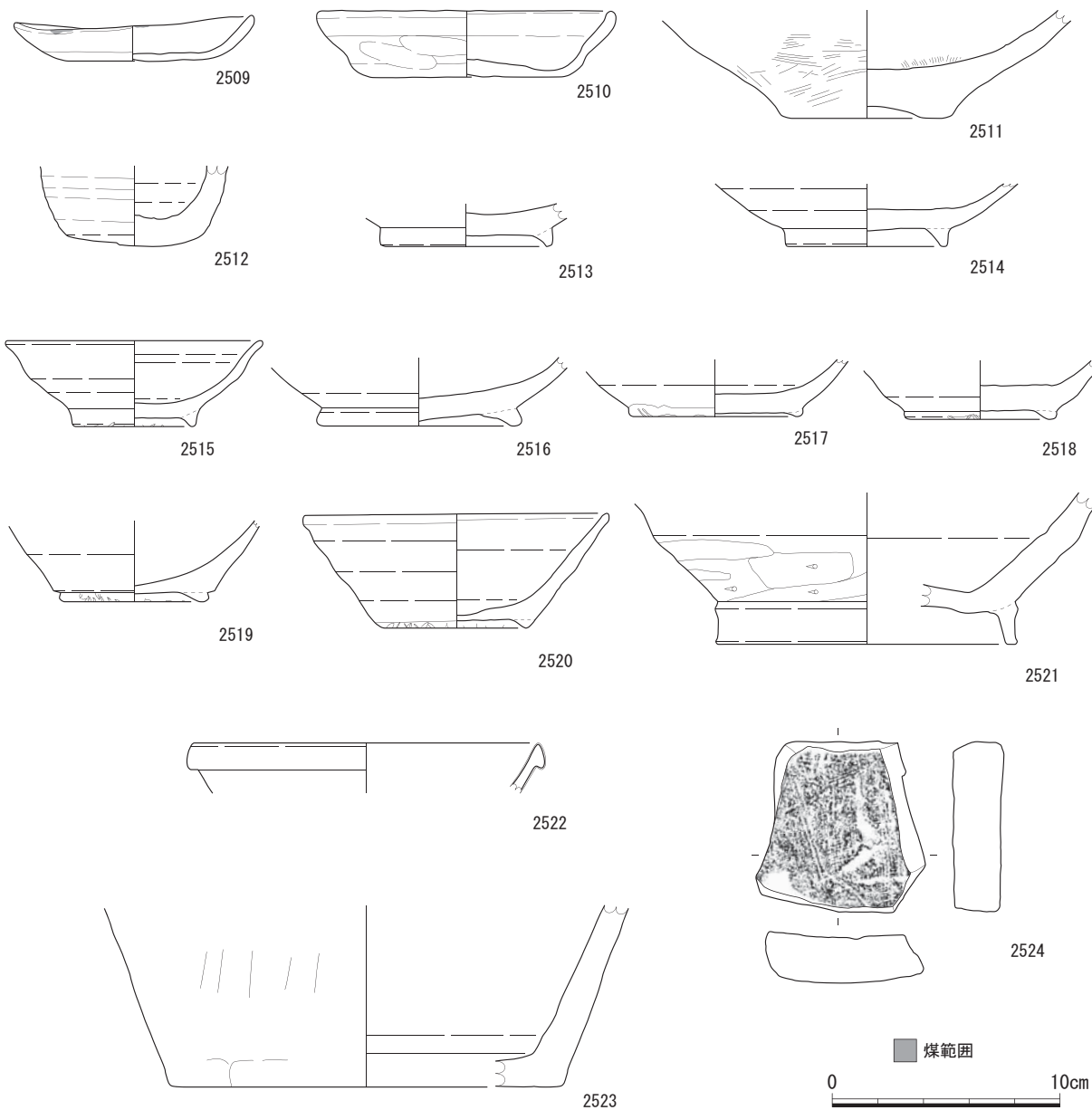


図 424 SD301・SD302 出土遺物実測図

出土遺物 大窯製品など3点を図示した。2527は大窯第1段階の天目茶碗である。2528は火打金である。2529は板状鉄製品である。

時期 図示した2527から、本遺構は15世紀末から16世紀初頭と考えられる。

SD307 (図427・428)

検出状況 NC13~NE13・ND12~NE12グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南西側は重複により消失し、北側と東側は発掘区外に延びる。西側でSD308と重複する。本遺構はSD308より古い。

規模・形状 南北方向から南側で東に直角に屈曲する溝状遺構である。幅は検出した範囲では4.7mである。壁面は緩やかに開き、中央やや南側が最も低くなる。規模や堆積状況からSD316と同一の溝の可能性はある。

SD303

SD303 垂円礫検出状況図

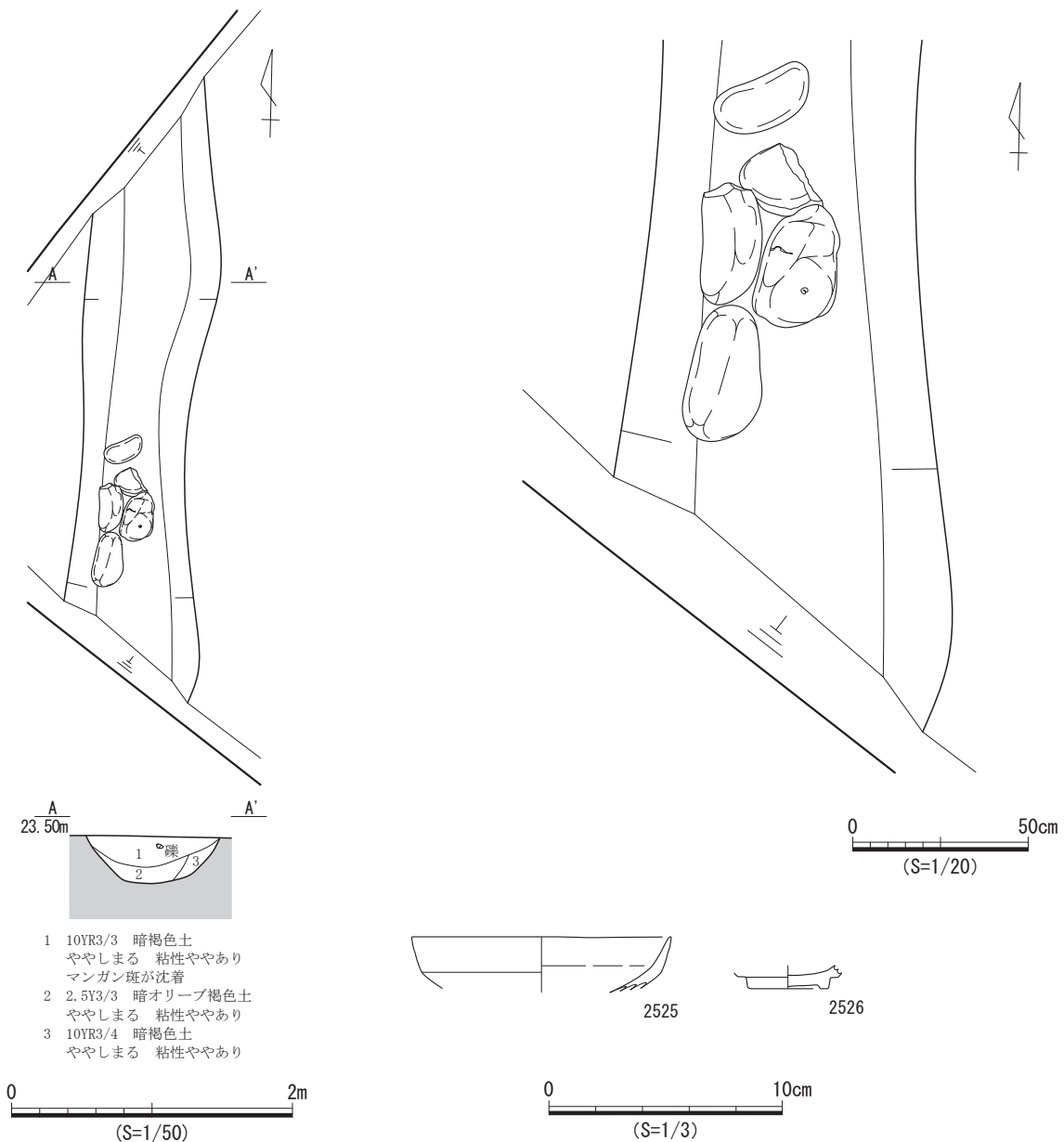


図425 SD303遺構図・出土遺物実測図

埋土 17層に分層した。概ね水平に堆積する。中層から下層にかけては粘土層と砂礫層が交互に堆積する。底面まで調査することは不可能であったが、17層よりも下層にも粘土層が続くことから、さらに深い溝であったと考えられる。

遺物出土状況 埋土中から土師器 67点、須恵器 13点、灰釉陶器 2点、山茶碗 22点、陶器 19点、釘 1点、木製品 6点（漆器碗 1点、一本下駄 1点、残材 2点、種別不明 2点）が散在して出土した。

出土遺物 土師器など 14点を図示した。2530～2532はC 1類の土師器皿である。2532は口縁部に煤が付着する。2533はA 2類の内耳鍋である。2534は美濃須衛窯Ⅲ期後半に比定した壺である。2535は百代寺窯式に比定した灰釉陶器の碗である。2536と2537は尾張型山茶碗で、2536は第4型式の小

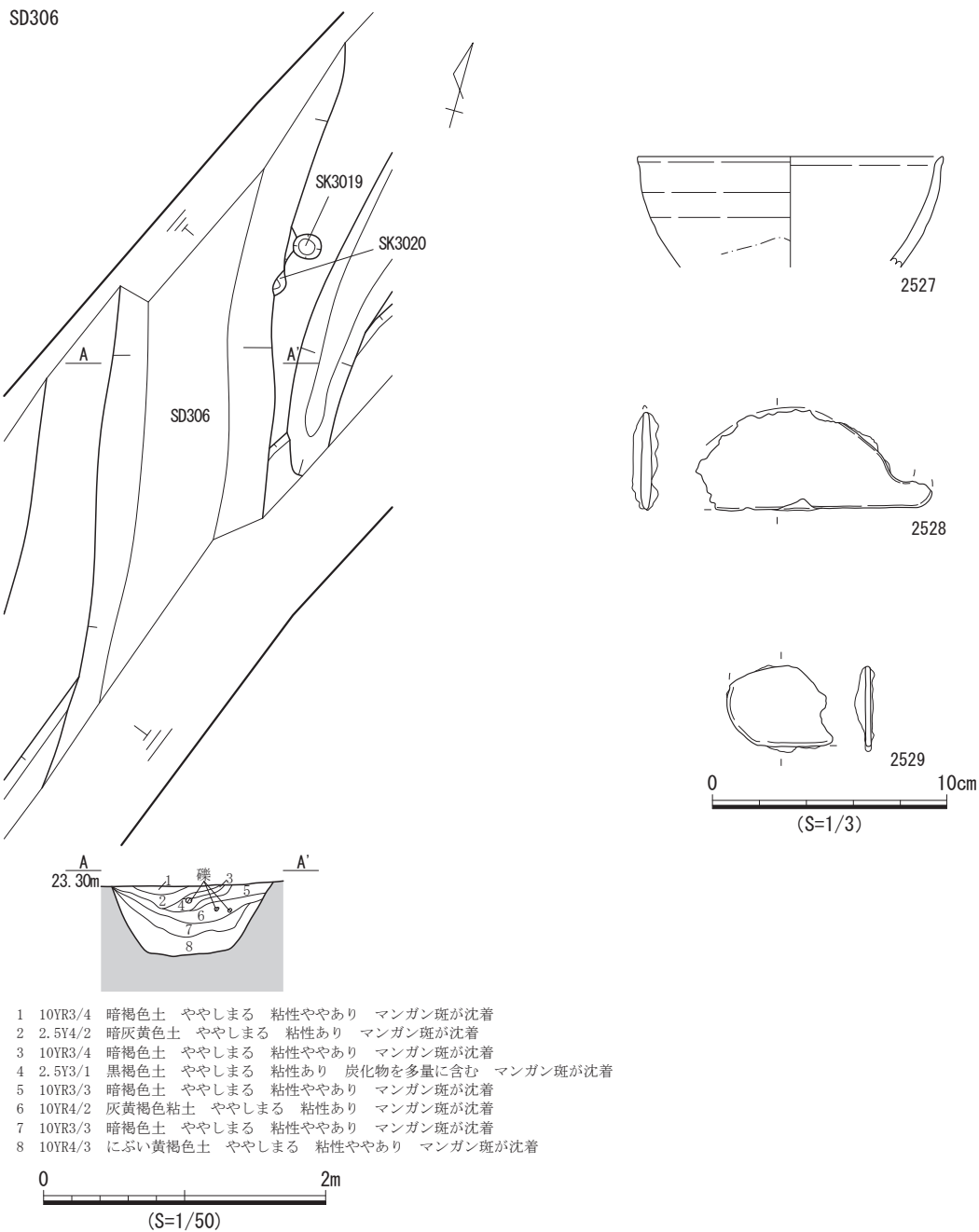
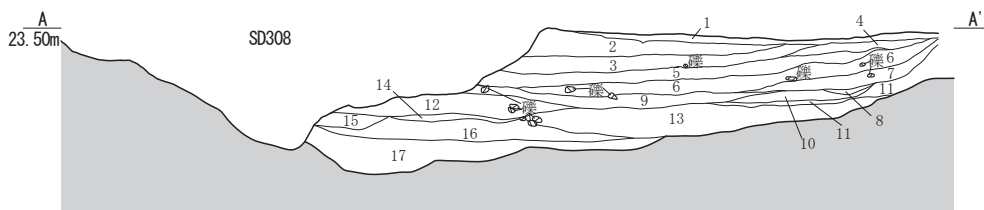
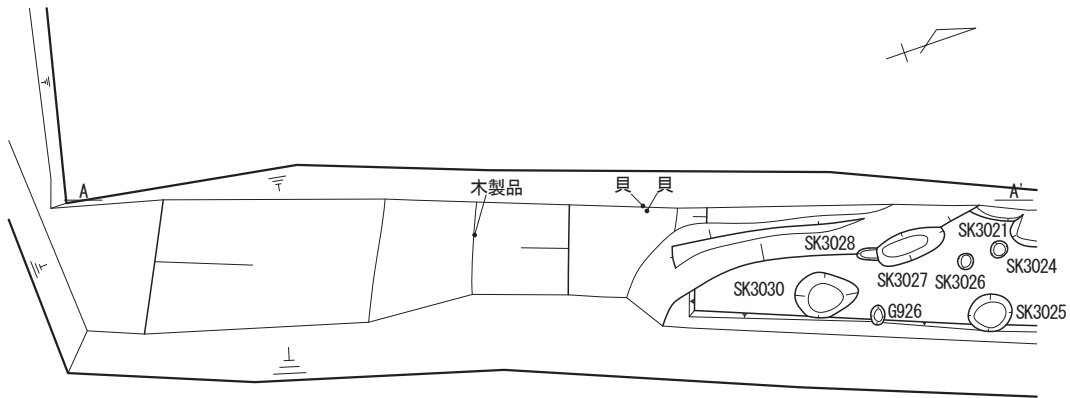


図 426 SD306 遺構図・出土遺物実測図

SD307



- 1 10YR4/4 褐色土 ややしまる 粘性ややあり
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径5cm以下の円礫を3%含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を少量含む 径10cm以下の円礫を1%含む
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径3cm以下の円礫を5%含む
- 5 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物塊をまばらに含む 径10cm以下の円礫を3%含む
- 6 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径5cm以下の円礫を3%含む マンガン斑が沈着
- 7 10YR3/4 暗褐色粘土 ややしまる 粘性あり 鉄分が沈着
- 8 10Y4/1 灰色粘土 ややしまる 粘性あり 鉄分が沈着
- 9 7.5Y4/1 灰色粘土 ややしまる 粘性あり 植物遺体多く含む 鉄分が沈着
- 10 10YR4/4 褐色砂 ややしまる 粘性なし 鉄分が沈着
- 11 7.5YR4/4 褐色粘土 ややしまる 粘性あり 鉄分が沈着
- 12 10YR3/4 暗褐色砂 ややしまる 粘性なし 径10cm以下の円礫を50%含む
- 13 7.5Y4/1 灰色粘土 ややしまる 粘性あり 植物遺体を多く含む 鉄分が沈着
- 14 10YR4/2 灰黄褐色粘土 ややしまる 粘性あり 径10cm以下の円礫を50%含む
- 15 10G2/1 緑黒色粘土 ややしまる 粘性あり 植物遺体を多く含む 径5cm以下の円礫を5%含む
- 16 10YR3/3 暗褐色砂利 ややしまる 粘性なし 径5cm以下の円礫を20%含む
- 17 7.5Y4/1 灰色粘土 ややしまる 粘性あり 植物遺体を非常に多く含む

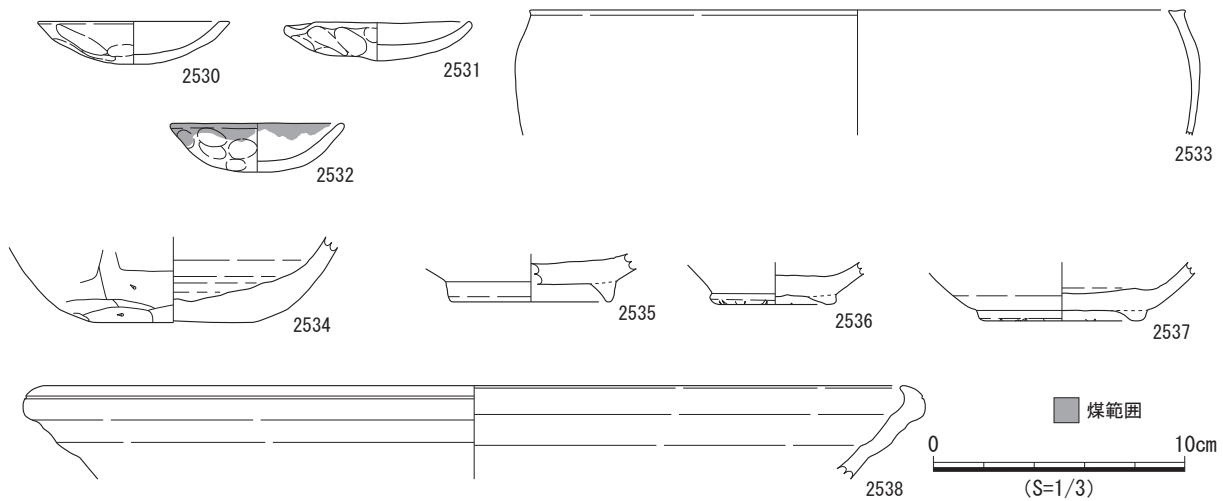
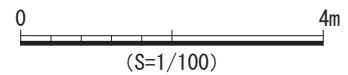


図 427 SD307 遺構図・出土遺物実測図(1)

碗、2537 は第6型式の碗である。2538 は古瀬戸後IV期新段階の播鉢である。2539 は釘である。2540 はトチノキの漆器碗で、炭粉渋下地に2層の透明漆が塗られる。2542 と 2543 は残材で、ヒノキの割材である。

時期 図示した 2538 から、本遺構は 15 世紀後葉と考えられる。

SD308 (図 429)

検出状況 ND12~NE13 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東西両側は発掘区外に延びる。北側で SD307 と重複する。本遺構は SD307 より新しい。

規模・形状 東西に延びる溝状遺構である。壁面の傾斜は南側ではやや緩やかに開く。北側では底面付近ではほぼ垂直に立ち上がり、上部に向かってなだらかな傾斜となる。底面は概ね平坦であるが、北側に向かって下がる。

埋土 12 層に分層した。中層から下層にかけて、7 層・10 層・12 層で植物遺体を含み、11 層でラミナ状の堆積が確認できることから、流水があった時期と流水がなかった時期が繰り返されたと思われる。上層は北側の壁面の傾斜がなだらかになる部分と層界がおよそ一致することから、再掘削された可能性がある。

遺物出土状況 埋土中から土師器 25 点、須恵器 18 点、灰釉陶器 1 点、山茶碗 13 点、陶器 15 点が散在して出土した。

出土遺物 須恵器など 5 点を図示した。2544 と 2545 は美濃須衛窯IV期第3小期に比定した坏身C類である。2546 は虎溪山1号窯式に比定した灰釉陶器の碗である。2547 は第5型式の尾張型山茶碗である。2548 は古瀬戸後IV期新段階の縁釉小皿である。

時期 図示した 2548 から、本遺構は 15 世紀後葉と考えられる。

SD316 (図 430~439)

検出状況 LM10~LR11 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。南北両側は発掘区

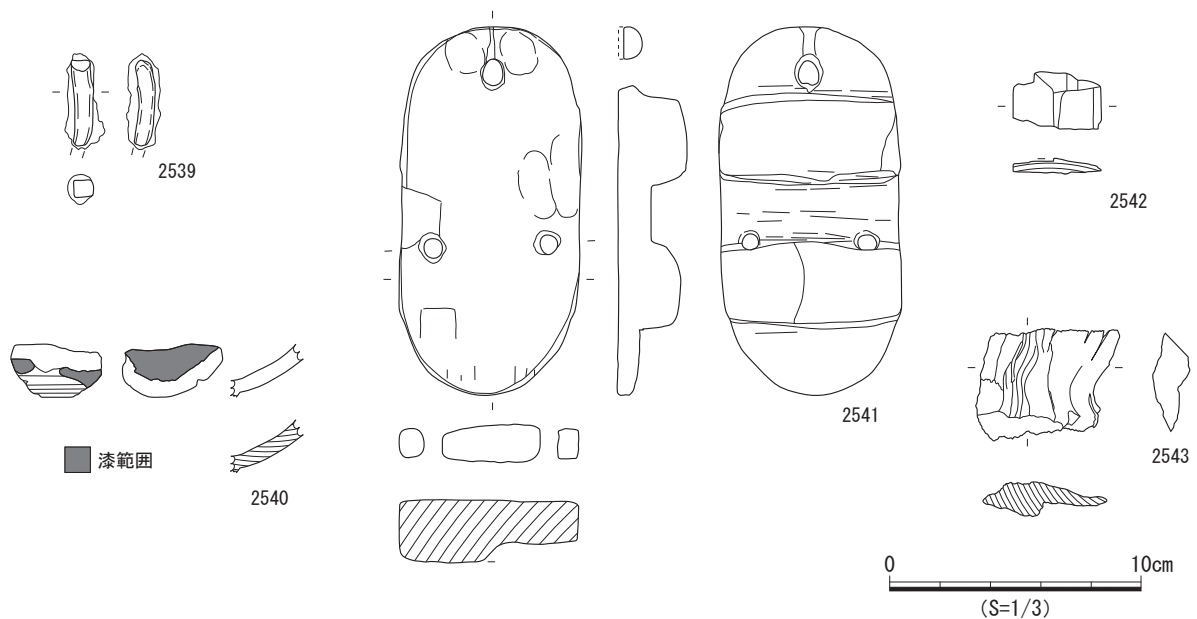
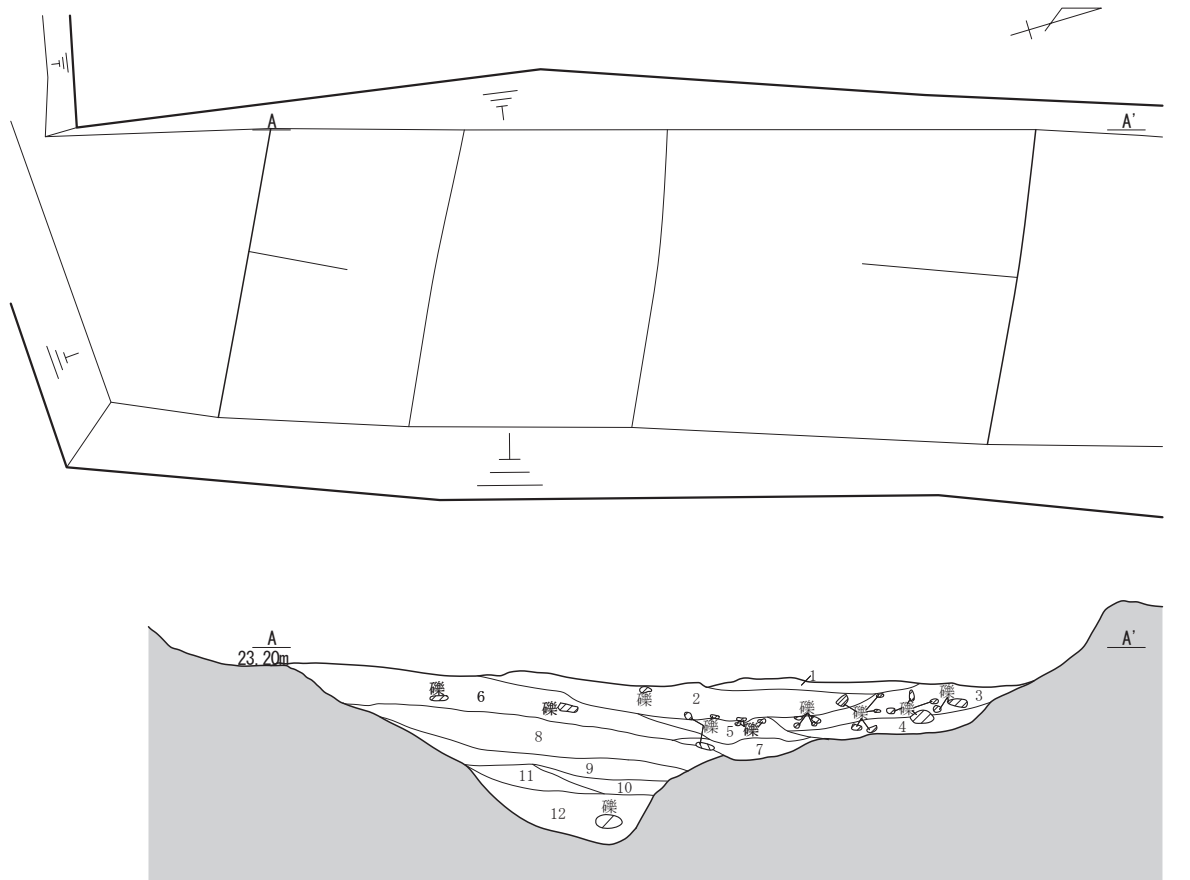
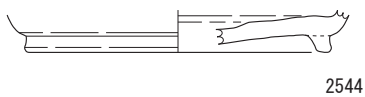
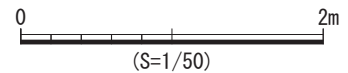


図 428 SD307 出土遺物実測図 (2)

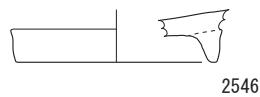
SD308



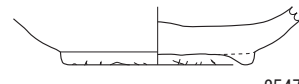
- 1 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着 鉄分が沈着
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり 鉄分が沈着
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物塊をまばらに含む 径10cm以下の円礫を30%含む
- 4 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性あり 鉄分が沈着
- 5 7.5YR3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 鉄分が沈着
- 6 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性あり 鉄分が沈着
- 7 10GY3/1 暗緑灰色土 ややしまる 粘性ややあり 植物遺体をわずかに含む 径5cm以下の円礫を3%含む
- 8 10YR3/4 暗褐色砂 ややしまる 粘性なし
- 9 10YR4/4 褐色粘土 ややしまる 粘性あり 径5cm以下の円礫を10%含む
- 10 10GY3/1 暗緑灰色粘土 ややしまる 粘性あり 植物遺体を多く含む
- 11 7.5Y4/3 暗オリーブ色粘土 ややしまる 粘性あり 灰色細砂をラミナ状に含む 径10cm以下の円礫を5%含む
- 12 7.5GY3/1 暗緑灰色粘土 ややしまる 粘性あり 植物遺体を多く含む 径30cm以下の円礫を10%含む



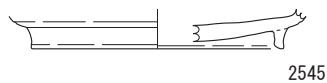
2544



2546



2547



2545



2548

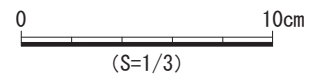


図 429 SD308 遺構図・出土遺物実測図

外に延びる。検出の段階で、溝の両肩に礫が並ぶ状況を確認した。西側で SK3553、東側で SK3280・SD297・SL16 と重複する。本遺構は SD297 より古く、SK3280・SK3553・SL16 より新しい。また、本遺構の北側に延長した先には 21 地点 SD292 があり、一連の遺構と考えられる。SD292 埋没後に調査時の規模に拡大した可能性がある。

規模・形状 南北に延びる溝状遺構である。幅は 2.7m～3.7m で南に向かって幅は狭くなる。断面形は逆台形を呈し、壁面の傾斜は部分的には緩やかであるが、大半は急である。底面はいずれも平坦である。東側の SD300 とは 20m 離れて並行し、幅も似る。SD300 との間に掘立柱建物が位置することから、SD300 とともに居住地を区画する溝の可能性もある。南壁際では軸がやや東側に振る。南側の SD307 は、南端の軸の延長線上にあり、中層以下に粘土層と砂質土の層が続く様子が似ることから、同一の溝の可能性もある。

埋土 A-A' 断面では 20 層、B-B' 断面では 13 層に分層した。いずれも多くの層で小礫を含む。中層では堆積状況から、掘り直しの様子が見られる。B-B' 断面 3 層から下層で粘土層が続き、間に砂質土の層間に入るように堆積する。中央部から北寄りにかけて、帯状の礫の集積を確認した。東側では 12.7m、西側では 7.5m ほど連なっており、意図的に並べられたと考えられる。また、南の発掘区壁面から 4.5m ほど北の位置の上層で東西方向に固めて配置したとみられる礫の集積を確認した。この礫は幅 40cm ほどのものが多い。礫の集積の延びる方向は溝の長軸は直交し、SD297 と重複する位置にあることから、この礫の集積は堰の可能性もある。

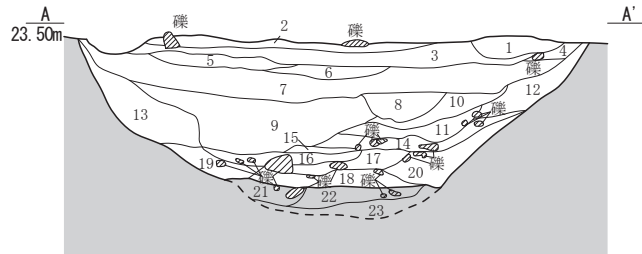
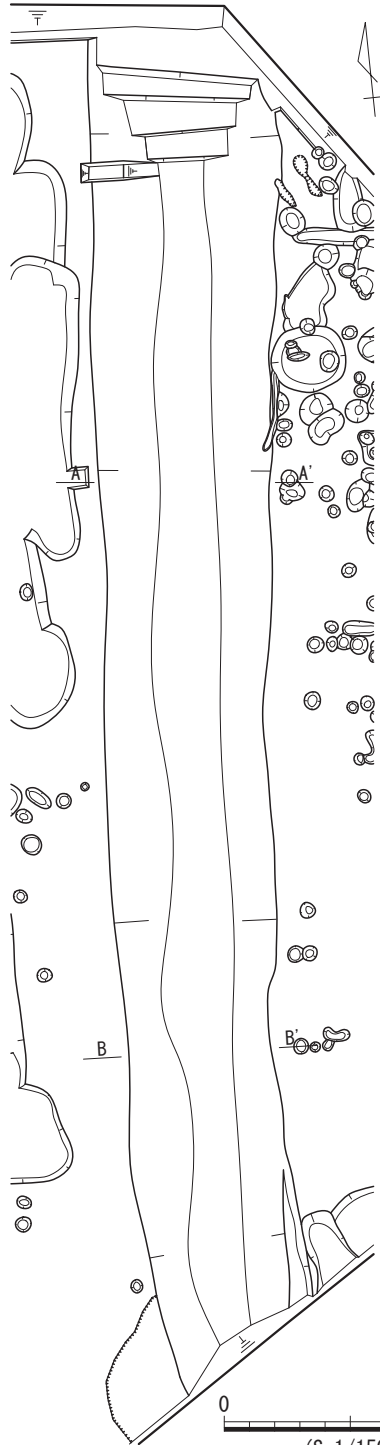
遺物出土状況 A-A' 断面の 17 層から土師器皿がまとまって出土した。完形のものもあるが正位のものも逆位のものもあり、配置されたものとは考えにくい。18 層から砥石 1 点 (2609) や山茶碗 1 点 (2592) が出土した。18 層の底面から多量の土師器皿の破片などがまとまって出土し、それらとともに大型哺乳類の四肢骨も出土したことから、饗宴などの儀礼に伴い、意図的に入れ込んだと考えられる。また、B-B' 断面 6 層から播鉢 1 点 (2607) が逆位で出土し、さらに南側から石臼 1 点 (2612) と小柄 1 点 (2613)、ほぼ完形の土師器皿 (2565) が正位で出土した。これらを含め埋土中から土師器 651 点、須恵器 63 点、灰釉陶器 21 点、山茶碗 364 点、陶磁器 284 点、石製品 5 点 (砥石 3 点、石臼 2 点)、金属製品 2 点 (小柄、種別不明)、木製品 50 点 (火付木 1 点、残材 1 点、種別不明 48 点) が出土した。

出土遺物 土師器など 66 点を図示した。2576・2577 は B 2 類、2550～2554 などは C 1 類、2565～2569 などは C 2 類の土師器皿である。2579 は耳皿である。2580 は A 3 類の内耳鍋である。2581 と 2582 は美濃須衛窯産の須恵器で、2581 は III 期後半に比定した高坏、2582 は IV 期第 3 小期に比定した坏蓋 C 類である。2583～2585 は灰釉陶器で、2583 と 2584 は黒笹 14 号窯式に比定した皿と碗、2585 は百代寺窯式に比定した碗である。2586～2595 は尾張型山茶碗で、2586～2588 は第 3 型式の碗、2591 は第 4 型式の碗、2589 と 2592 は第 5 型式の小皿と碗、2593 と 2594 は第 6 型式の碗、2590 と 2595 は第 7 型式の小皿と碗である。2596 は谷迫間 2 号窯式に比定した東濃型山茶碗である。2597～2601 は古瀬戸で、2597 は後 III 期～後 IV 期古段階の瓶子、2598 は後 IV 期の播鉢、2599 は後 IV 期古段階の直縁大皿である。2600 と 2601 は後 IV 期新段階の腰折皿と天目茶碗である。2604～2608 は大窯第 1 段階の播鉢である。2602 は龍泉窯系 III 類の青磁碗である。2603 は VI-1 a 類の白磁碗である。2609 と 2610 は砥石である。2611 と 2612 は石臼で、2611 は上臼、2612 は下臼である。2613 は小柄で、銅製の柄と刃部が欠損した刀身が残る。刀身の基部で大きく屈曲する。2614 はヒノキの火付木である。2615 は残材で、ヒノキの

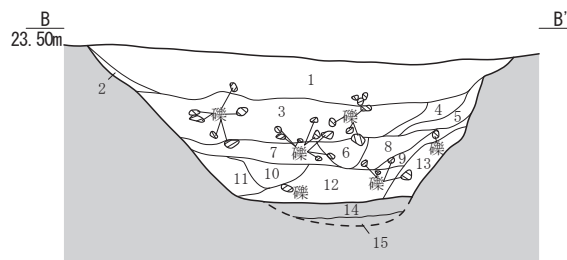
割材である。断面には工具による加工痕が確認できる。

時期 主体となる時期は15世紀末から16世紀初頭であるが、21地点SD292との位置関係から、本遺構は13世紀末以降に開削されたと考えられる。また、SD297との位置関係から、16世紀後葉に埋没したと考えられる。

SD316



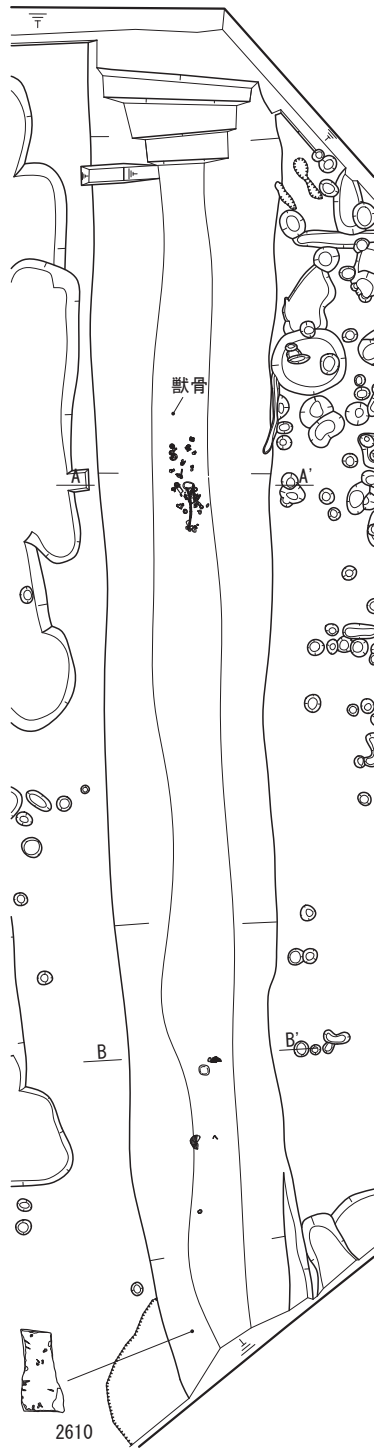
- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径7cm以下の円礫を50%含む
- 2 2.5Y5/3 黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径5cm以下の円礫を30%含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性あり マンガン斑が沈着
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径1cm以下の円礫を3%含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径1cm以下の円礫を5%含む
- 6 10YR3/4 暗褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径3cm以下の円礫を10%含む
- 7 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径5cm以下の円礫を50%含む
- 8 5Y4/2 灰オリーブ色粘土 ややしまる 粘性あり 径7cm以下の円礫を50%含む 鉄分が沈着
- 9 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土 ややしまる 粘性あり 鉄分が沈着
- 10 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土 ややしまる 粘性あり 径1cm以下の円礫を3%含む マンガン斑が沈着
- 11 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土 ややしまる 粘性あり 径10cm以下の円礫を10%含む 鉄分が沈着
- 12 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着
- 13 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径5cm以下の円礫を20%含む
- 14 5Y4/2 灰オリーブ色砂質土 しまりなし 粘性なし 径20cm以下の円礫を50%含む 鉄分が沈着
- 15 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性あり 鉄分が沈着
- 16 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性あり 黒褐色細砂ラミナ状に含む 径10cm以下の円礫を3%含む 鉄分が沈着
- 17 10YR3/2 黒褐色粘土 ややしまる 粘性あり 黒褐色細砂ラミナ状に含む 径5cm以下の円礫を5%含む 鉄分が沈着
- 18 7.5GY4/1 暗緑灰色粘土 ややしまる 粘性あり 植物遺体を多く含む 径5cm以下の円礫を5%含む
- 19 10YR3/4 暗褐色砂質土 ややしまる 粘性なし 径10cm以下の円礫を20%含む 鉄分が沈着
- 20 10YR3/3 暗褐色砂質土 ややしまる 粘性なし 径10cm以下の円礫を20%含む 鉄分が沈着
- 21 2.5Y4/2 暗灰黄色土 しまる 粘性なし 径3cm以下の円礫を20%含む 鉄分沈着激しい (V層)
- 22 2.5Y4/2 暗灰黄色土 しまる 粘性なし 径3cm以下の円礫を50%含む (V層)
- 23 2.5Y4/2 暗灰黄色土 しまる 粘性なし 径3cm以下の円礫を20%含む マンガン斑が沈着 (V層)



- 1 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径5cm以下の円礫を10%含む マンガン斑が沈着
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり マンガン斑が沈着
- 3 2.5Y4/1 黄灰色粘土 ややしまる 粘性あり 径10cm以下の円礫を5%含む 鉄分が沈着 植物遺体をわずかに含む
- 4 10YR3/4 暗褐色粘土 ややしまる 粘性あり マンガン斑が沈着
- 5 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘土 ややしまる 粘性あり 径5cm以下の円礫を5%含む
- 6 2.5Y3/2 黒褐色砂質土 ややしまる 粘性なし 径5cm以下の円礫を5%含む 鉄分が沈着
- 7 7.5GY4/1 暗緑灰色粘土 ややしまる 粘性あり 植物遺体を少量含む
- 8 5Y3/2 オリーブ黒色粘土 ややしまる 粘性あり 径5cm以下の円礫を1%含む 鉄分が沈着
- 9 10YR4/1 褐色粗砂 ややしまる 粘性なし 径2cm以下の円礫を1%含む 鉄分が沈着
- 10 10GY4/1 暗緑灰色砂質土 しまりなし 粘性なし 径10cm以下の円礫を20%含む
- 11 5YR4/8 赤褐色砂質土 しまりなし 粘性なし 径10cm以下の円礫を20%含む 鉄分が沈着
- 12 7.5GY3/1 暗緑灰色粘土 ややしまる 粘性あり 径15cm以下の円礫を20%含む
- 13 2.5Y3/2 黒褐色粗砂 しまりなし 粘性なし 径1cm以下の円礫を20%含む 鉄分が沈着
- 14 10GY3/1 暗緑灰色粗砂 しまりなし 粘性なし 径5cm以下の円礫を30%含む (V層)
- 15 5YR2/4 極暗赤褐色砂質土 しまりなし 粘性なし 径5cm以下の円礫を30%含む 鉄分が沈着 (V層)

図 430 SD316 遺構図 (1)

遺物出土状況図



礫検出状況図

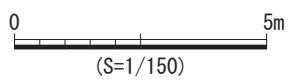
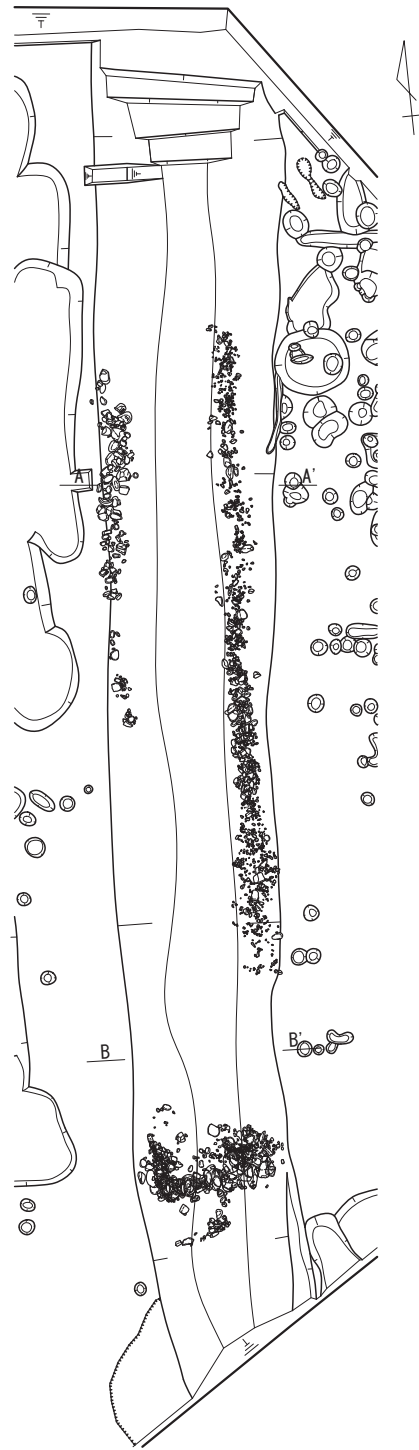
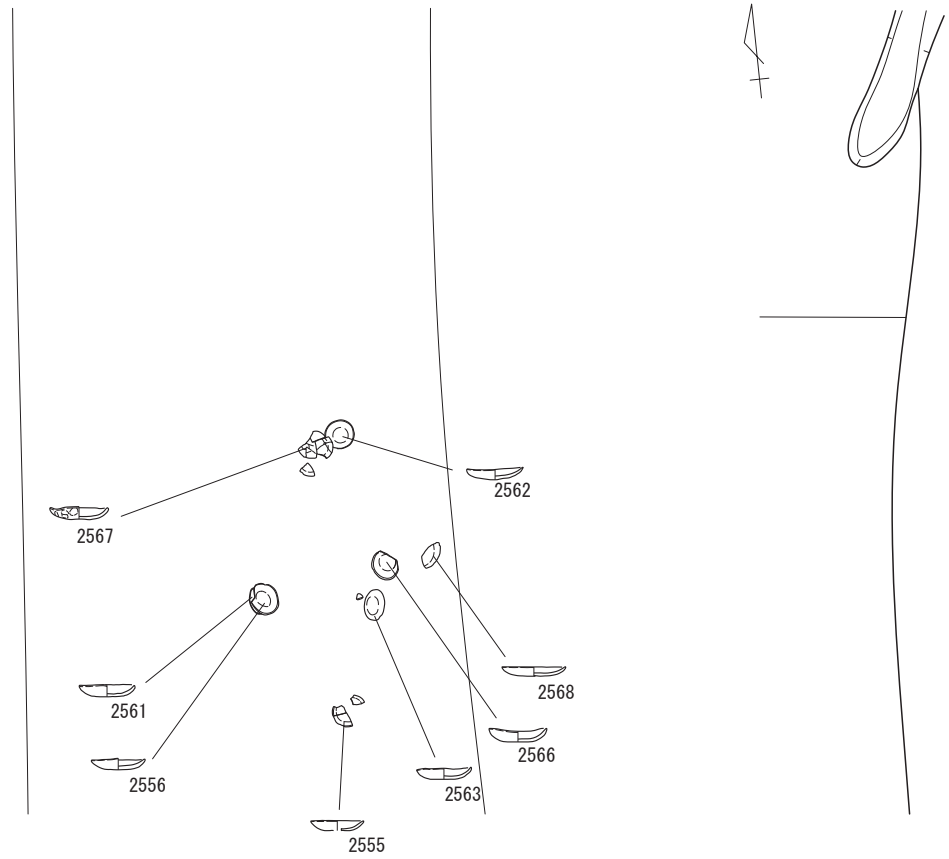


図 431 SD316 遺構図 (2)

遺物出土状況図①

A-A' 断面17層



遺物出土状況図①

A-A' 断面18層

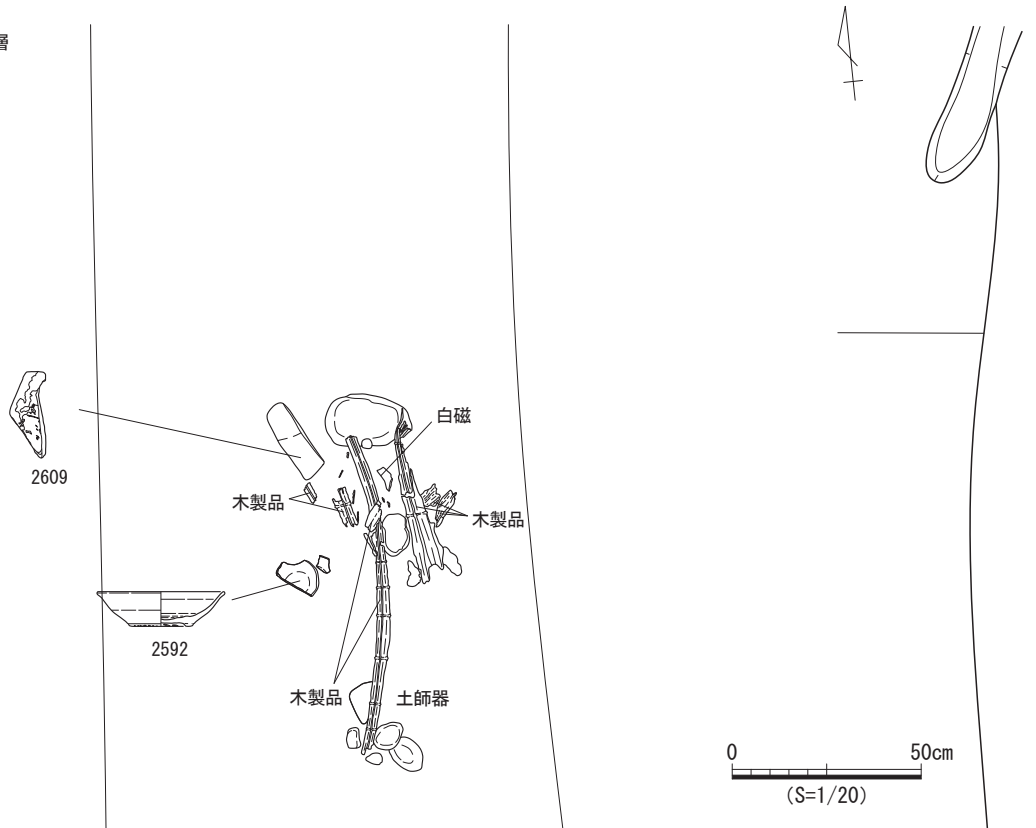


図 432 SD316 遺構図 (3)

SD319 (図 440)

検出状況 LN10~L010 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。北側でSK3345・SK3362、南側でSK3489、東側でSD320 と重複する。本遺構はSK3345・SK3362・SK3489 より古く、SD320 より新しい。

規模・形状 南北に延びる溝状遺構である。北西端は西側に張り出すと考えられる。南側は重複により消失する。壁面は、西側はほぼ垂直に立ち上がり、東側の傾斜はやや急である。底面は概ね平坦である。

埋土 2層に分層した。概ね水平に堆積する。いずれの層も小礫を多量に含む。A-A' 断面の南側では40cm以下の礫が北東から南西にかけて集積する様子を確認した。中には被熱した礫が混じる。

遺物出土状況 埋土中から土師器49点、須恵器1点、灰釉陶器1点、山茶碗36点、陶器13点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など6点を図示した。2616と2617はM3類の土師器皿である。2619と2620は第5型式の尾張型山茶碗の碗と片口鉢である。2621は古瀬戸後IV期新段階の天目茶碗である。

時期 図示した2621から、本遺構は15世紀後葉と考えられる。

SD320 (図 441)

検出状況 LN10~L010 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側でSK3345、西

遺物出土状況図①

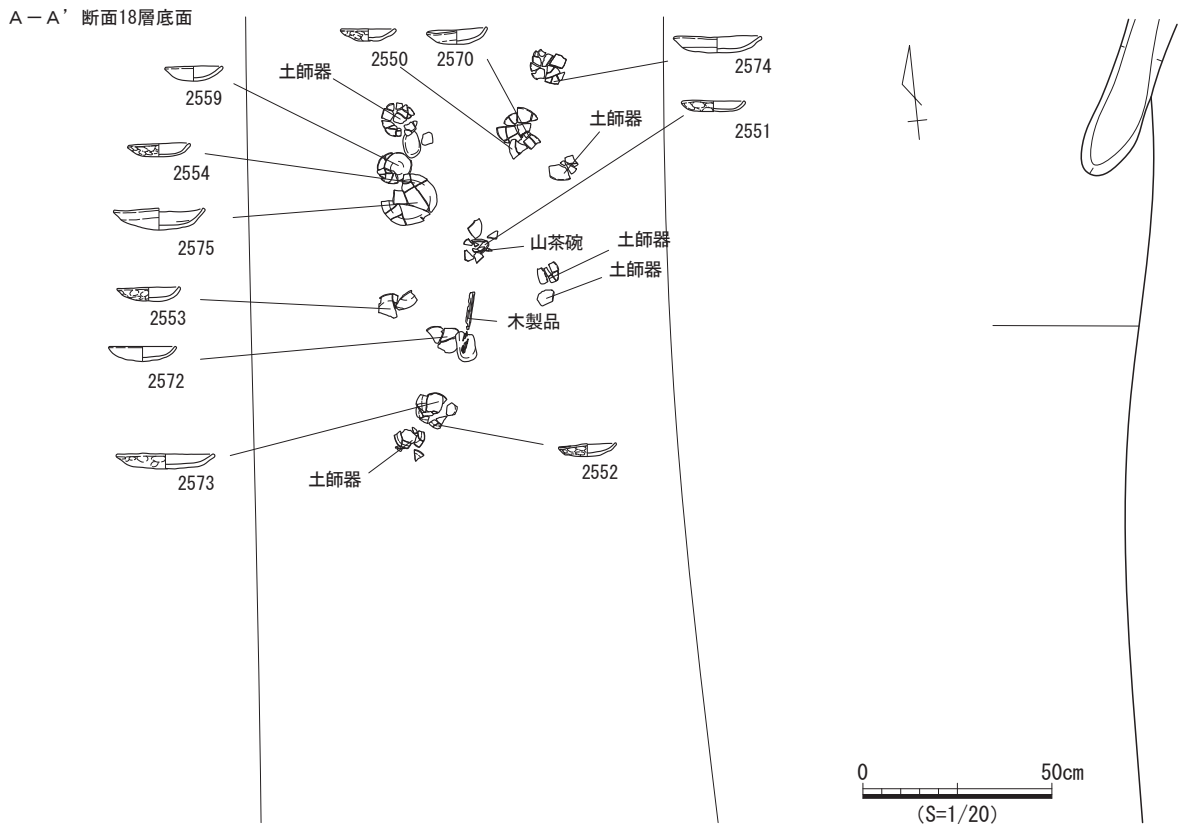


図 433 SD316 遺構図 (4)

遺物出土状況図②

B-B' 断面6層

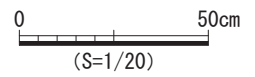
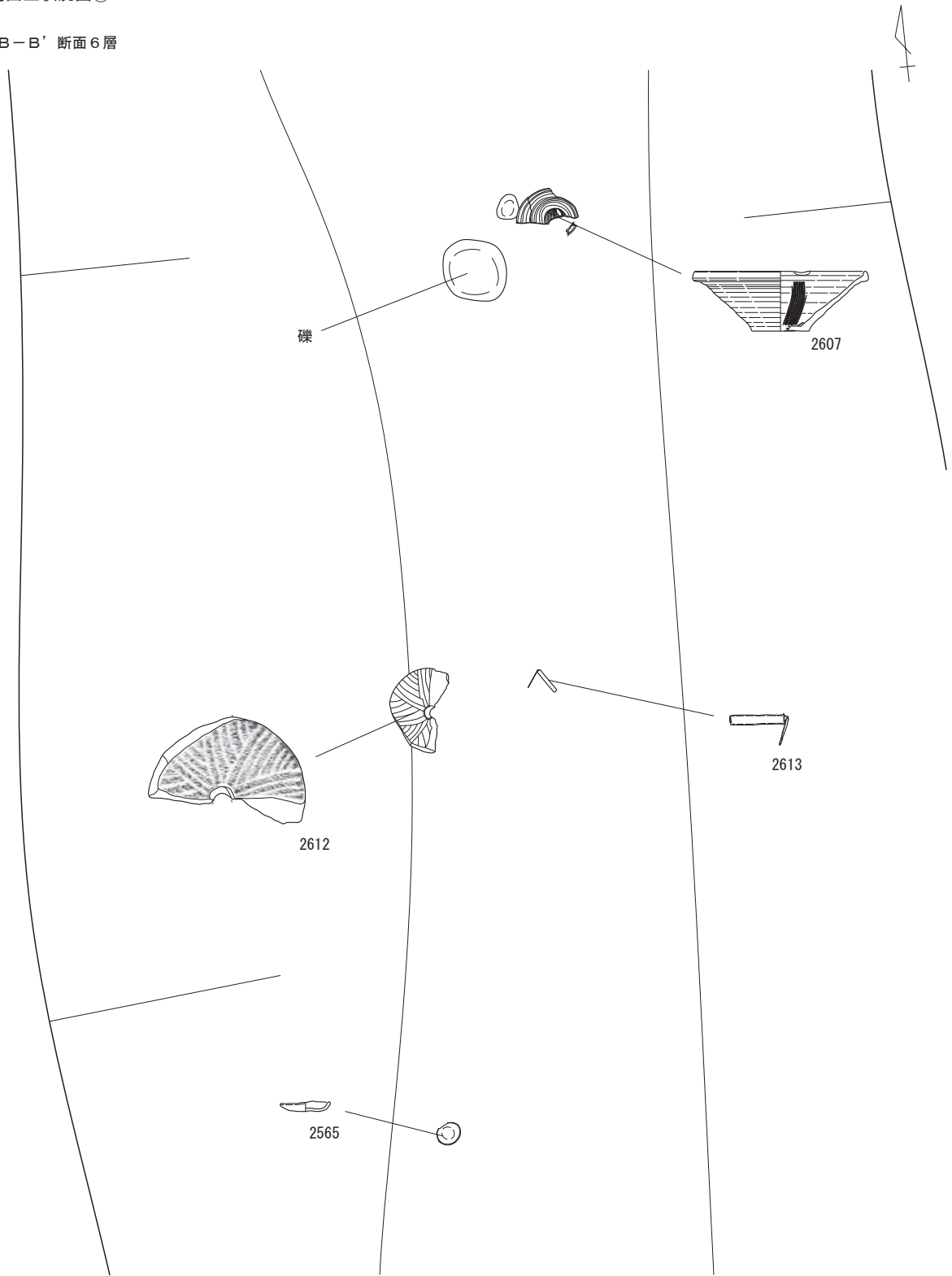


図 434 SD316 遺構図 (5)

礫検出状況拡大図



図 435 SD316 遺構図 (6)

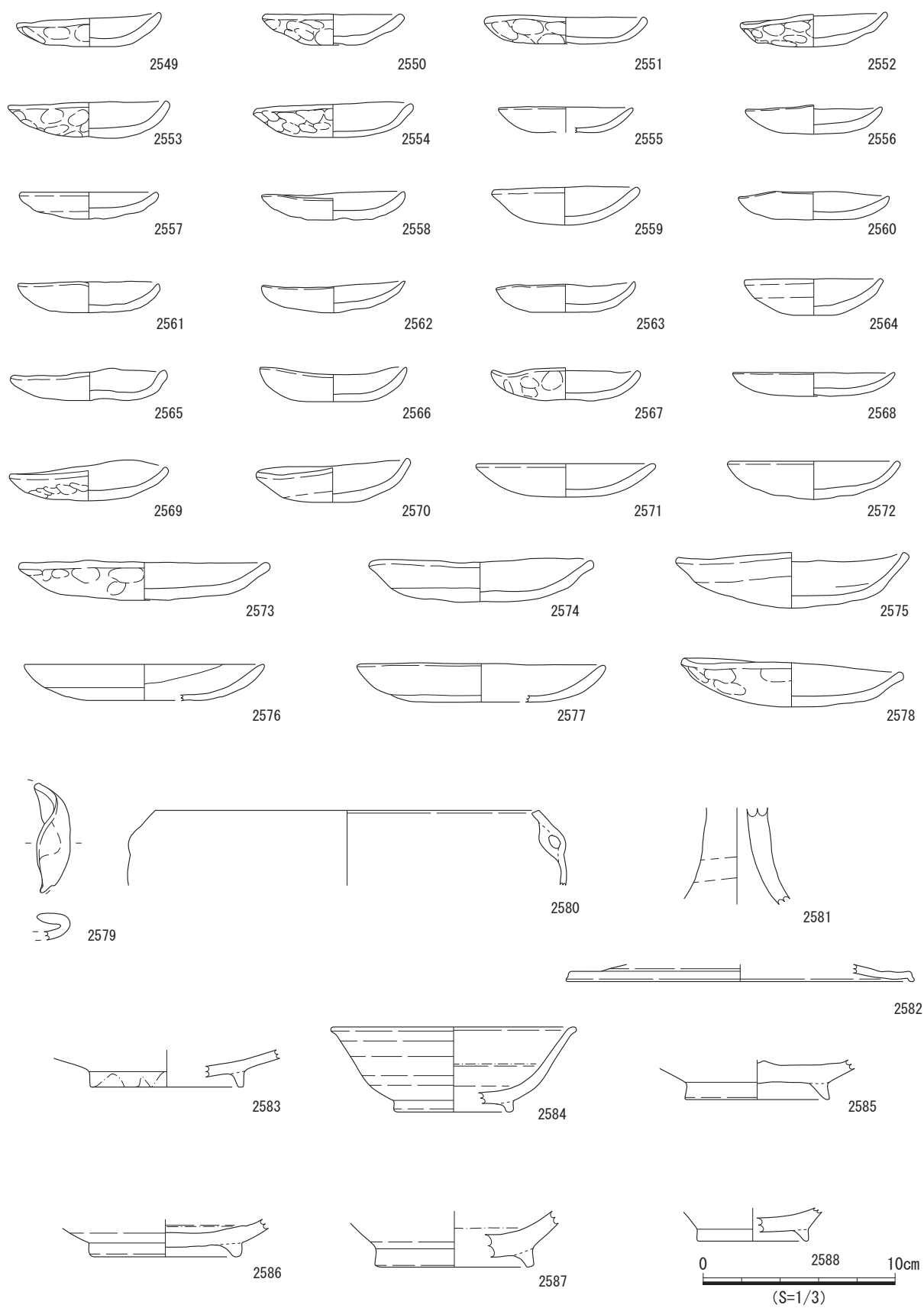


图 436 SD316 出土遺物実測図 (1)

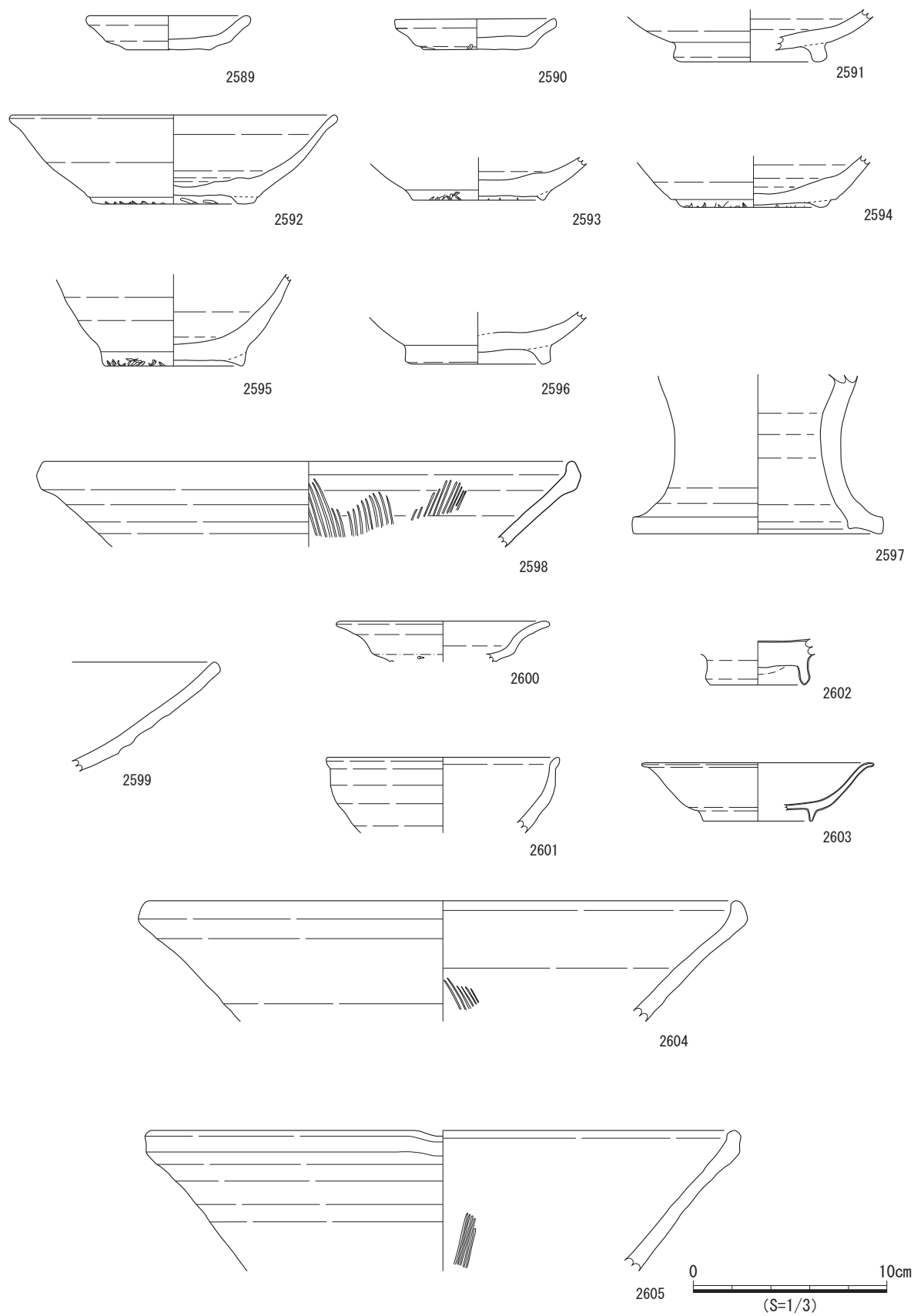


图 437 SD316 出土遺物実測図 (2)

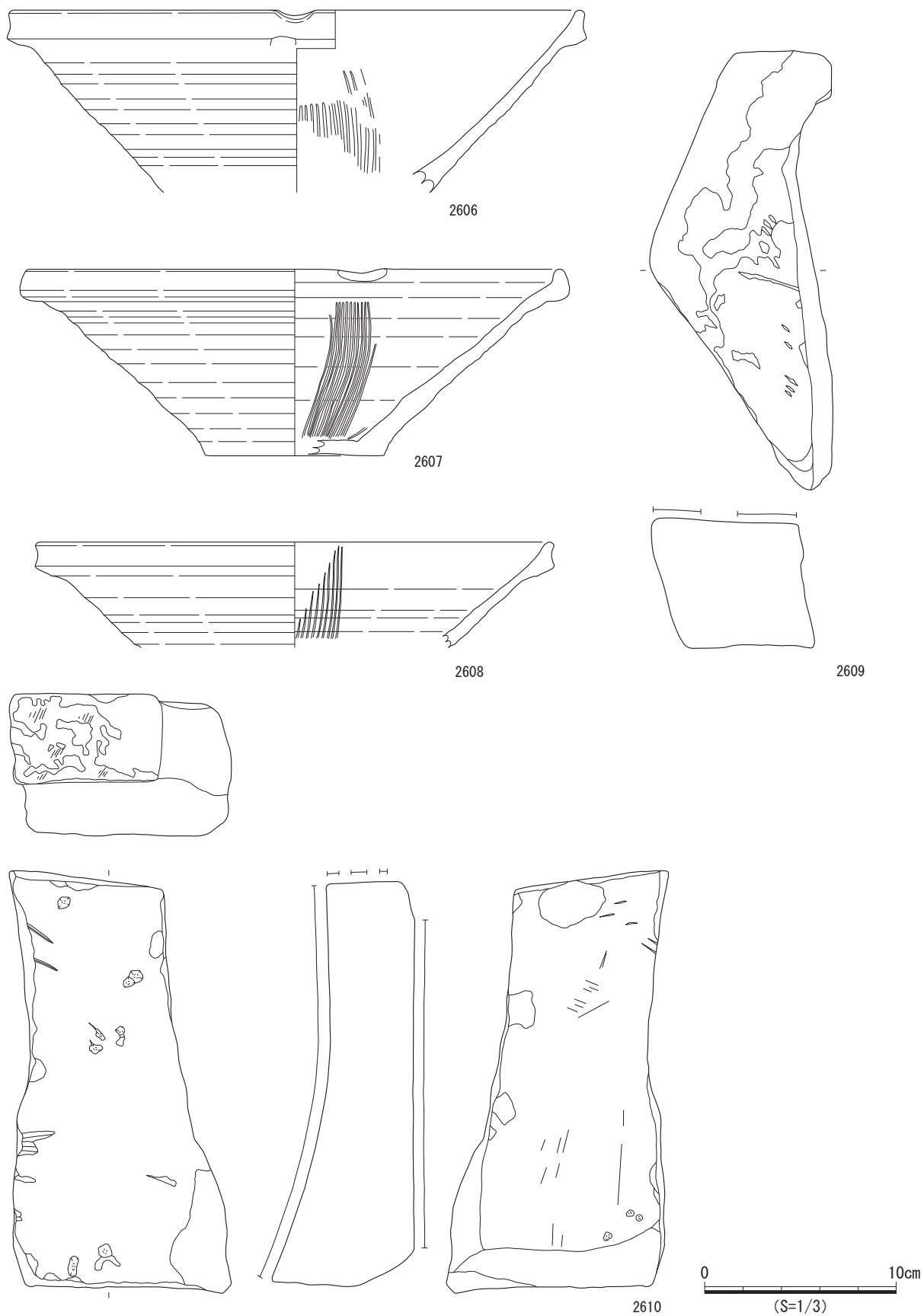


图 438 SD316 出土遺物実測図 (3)

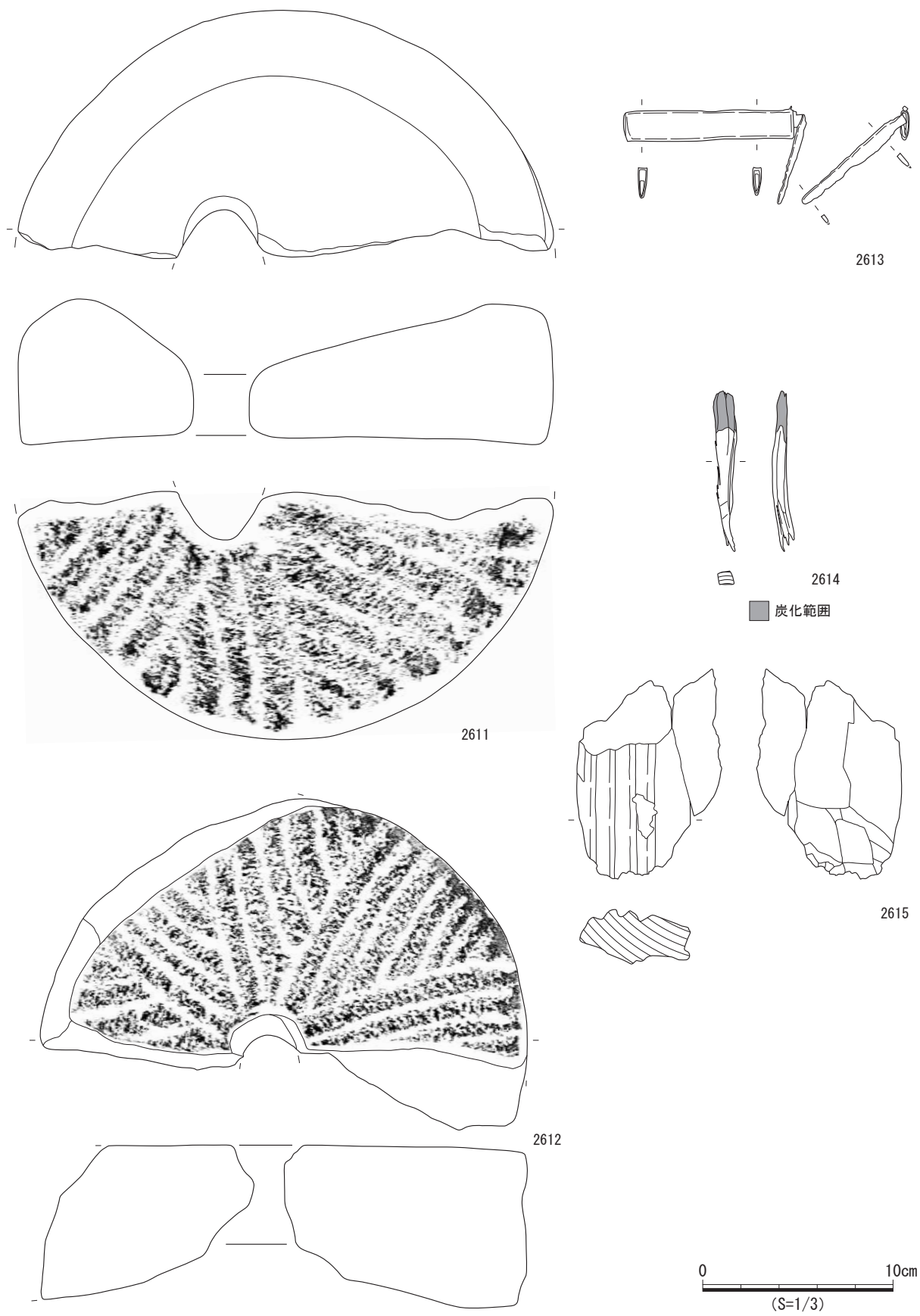


図 439 SD316 出土遺物実測図 (4)

SD319

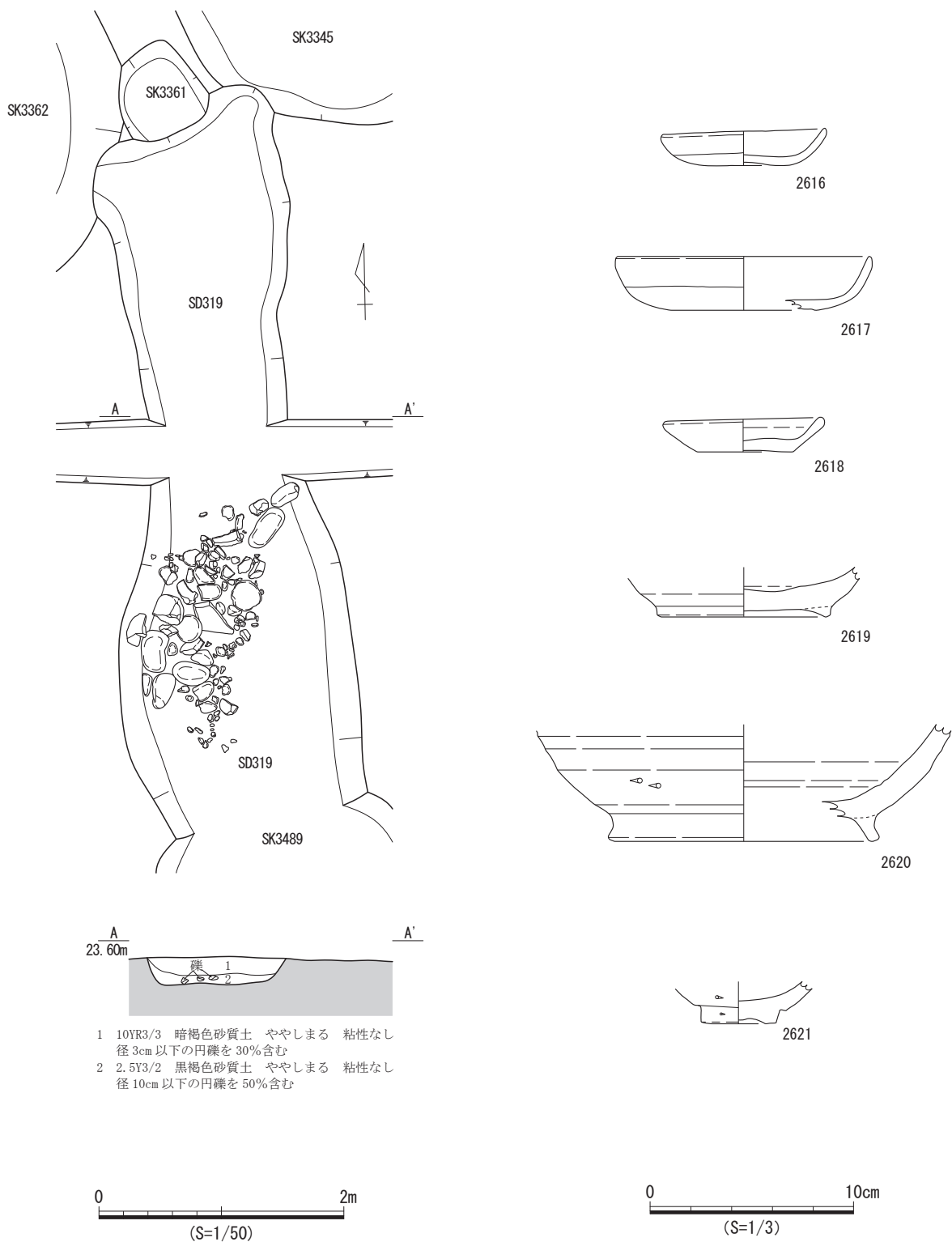


図 440 SD319 遺構図・出土遺物実測図

SD320

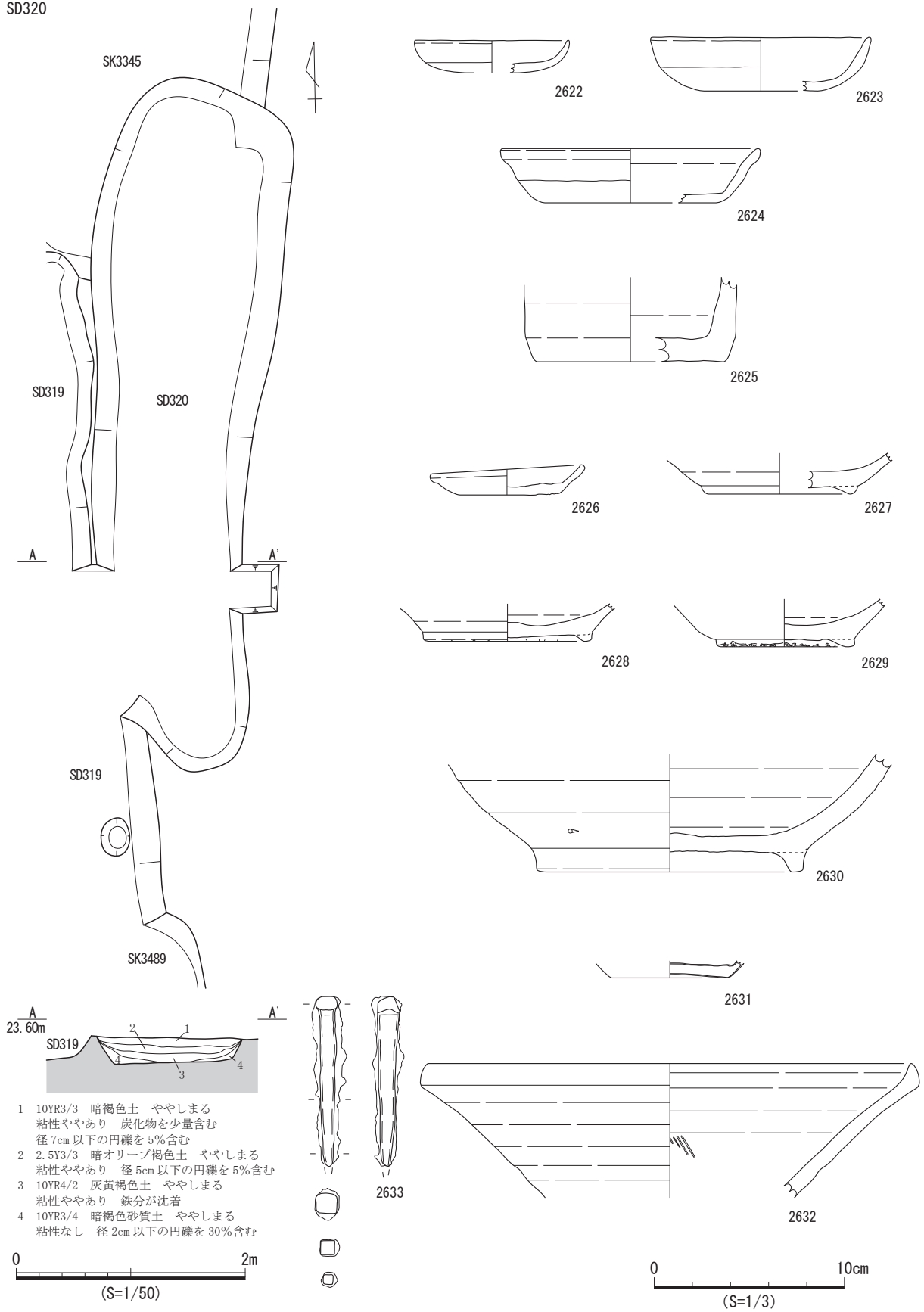


図 441 SD320 遺構図・出土遺物実測図

側でSD319と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 概ね南北方向に延びる溝状遺構である。壁面の傾斜は急で、底面は概ね平坦であるが、西に向かってわずかに下る。

埋土 4層に分層した。概ね水平に堆積する。1層・2層・4層に小礫を含む。

遺物出土状況 埋土中から土師器71点、須恵器5点、山茶碗92点、陶磁器12点、鑿1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など12点を図示した。2622～2624はM3類の土師器皿である。2625は美濃須衛窯IV期に比定した須恵器の壺である。2628～2630は第5型式の尾張型山茶碗で、2628と2629は碗、2630は片口鉢である。2626と2627は東濃型山茶碗で、2627は谷迫間2号窯式に比定した碗、2626は明和1号窯式に比定した小皿である。2632は大窯第1段階の挿鉢である。2631はIX類の白磁皿である。2633は鑿である。なお、2632は混入と考えられる。

時期 図示した2626から、本遺構は13世紀後葉から末と考えられる。

SD321 (図442)

検出状況 L07グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側は発掘区外に延びる。北側でSD322と重複する。本遺構はSD322より新しい。

規模・形状 東西に延びる溝状遺構である。壁面の傾斜は緩やかで、底面は平坦である。

埋土 2層に分層した。2層は南側の底面にのみ堆積する。遺構全体で径20cm以下の円礫を多量に確認した。

遺物出土状況 礫の集積に混じって、砥石(2637)や叩石(2638)が出土した。その他に埋土中から土師器69点、灰釉陶器1点、山茶碗58点、常滑産陶器2点が散在して出土した。

出土遺物 土師器など5点を図示した。2634はM3類の土師器皿である。2635と2636は第6型式と第7型式の尾張型山茶碗である。2637は砥石、2638は叩石である。

時期 大畑大洞4号窯式古段階に比定した東濃型山茶碗の小皿が出土したことから、本遺構は13世紀末から14世紀初頭と考えられる。

SD322 (図443・444)

検出状況 L07～LP9グリッド、IVb層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側は発掘区外に延びる。南側でSD321と重複する。本遺構はSD321より古い。

規模・形状 東西に延び、東側で直角に折れるL字状の溝状遺構である。壁面は東西溝部分の両肩にテラス状の平坦面をもつ。底面は概ね平坦であるが、東西端では広がる。南側に0.5m離れてSA42が並行する。

埋土 6層に分層した。1層～5層が6層を掘り込むように堆積することから、6層堆積後に再掘削された可能性がある。いずれの層にも礫を含み、下層ほど量は多い。

遺物出土状況 底面から土師器皿1点(2645)が逆位で出土した。その他に埋土中から土師器730点、須恵器24点、灰釉陶器21点、山茶碗590点、陶磁器95点、土製品4点(鞆羽口3点、炉壁又は鞆羽口1点)、砥石1点、金属製品10点(釘2点、板状鉄製品1点、鉄滓3点、銅滓1点、種別不明3点)が散在して出土した。

出土遺物 土師器など31点を図示した。2639～2645はM3類の土師器皿である。2646はA4類の羽

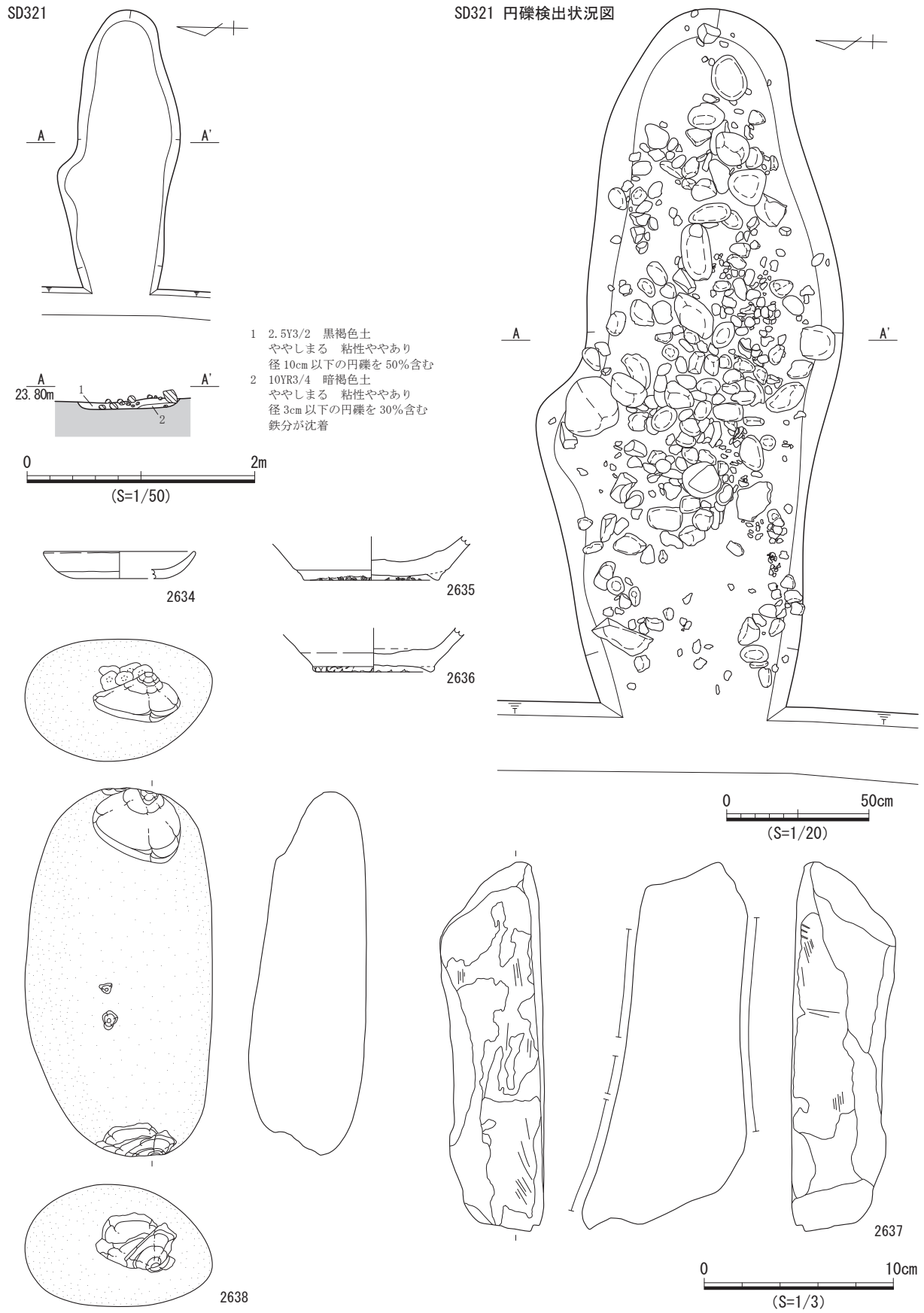
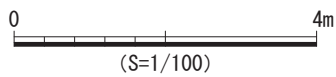
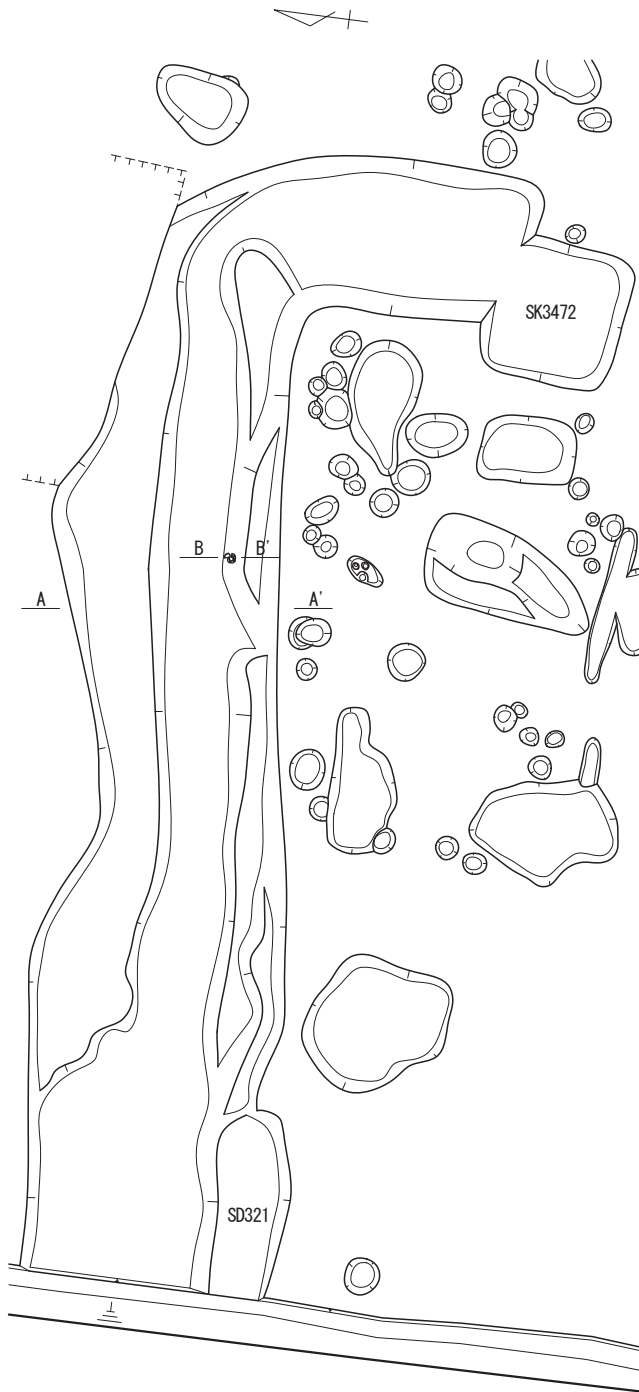
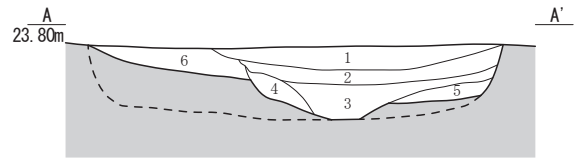
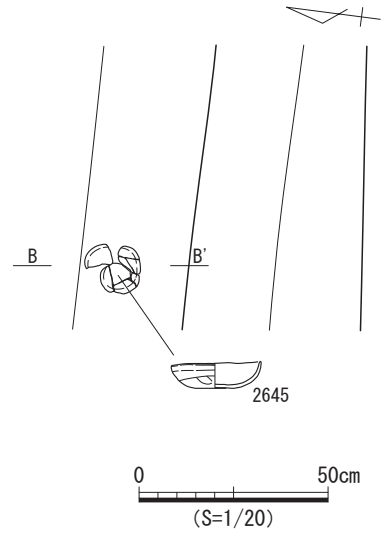


図 442 SD321 遺構図・出土遺物実測図

SD322



SD322 遺物出土状況図



- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径 3cm 以下の円礫を 1% 含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径 5cm 以下の円礫を 3% 含む
- 3 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土 しまりなし 粘性なし
径 10cm 以下の円礫を 10% 含む マンガン沈着激しい
- 4 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまりなし 粘性なし
径 10cm 以下の円礫を 50% 含む マンガン沈着激しい
- 5 10YR4/4 褐色砂質土 しまりなし 粘性なし
径 5cm 以下の円礫を 50% 含む
- 6 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径 5cm 以下の円礫を 1% 含む

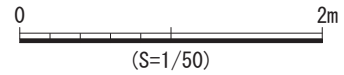


図 443 SD322 遺構図

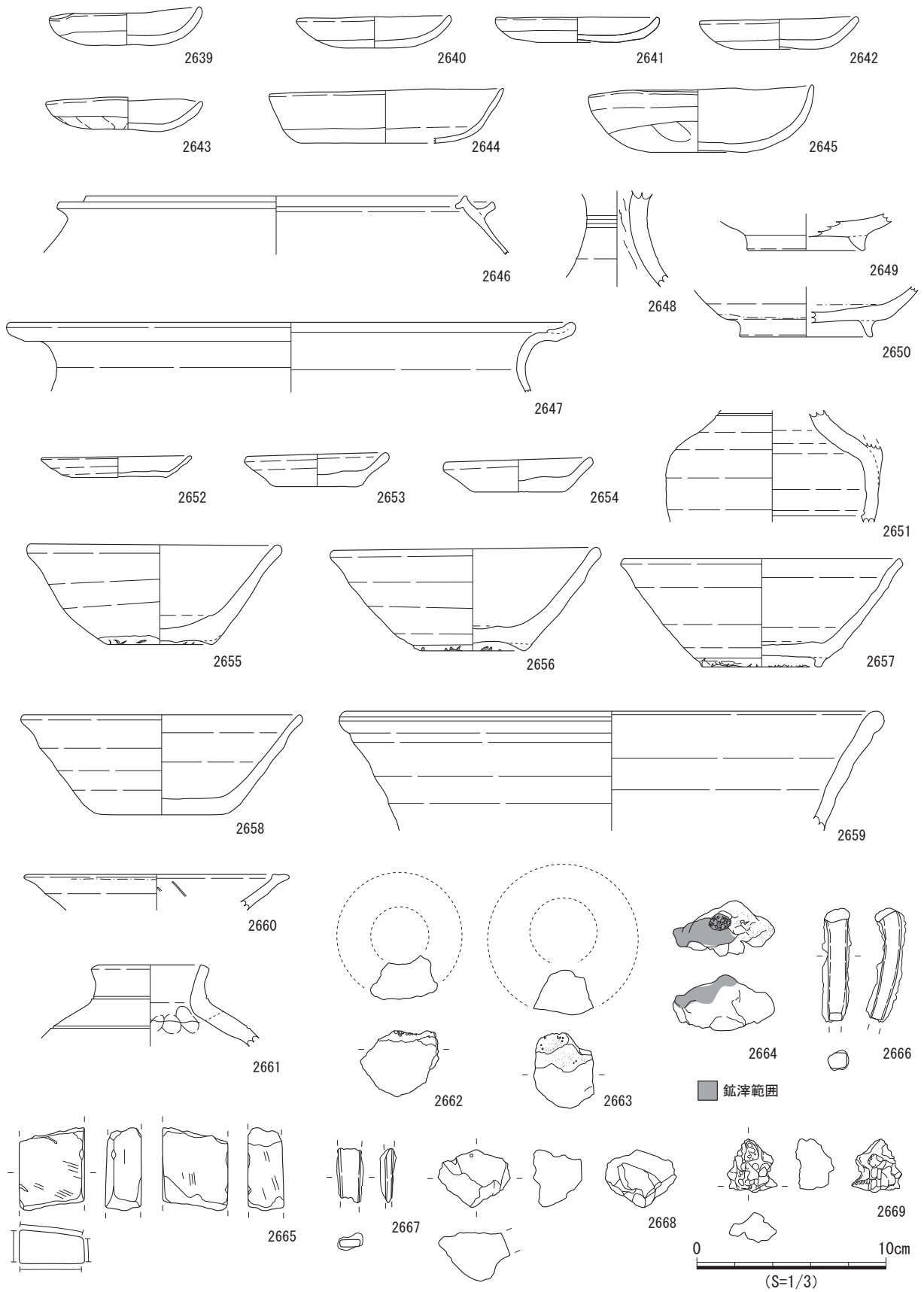


图 444 SD322 出土遺物実測図

釜、2647 はD類の伊勢型鍋である。2648 は美濃須衛窯Ⅲ期後半に比定した高坏である。2649 と 2650 は明和 27 号窯式に比定した灰釉陶器の碗である。2653～2657・2659 は第 7 型式の尾張型山茶碗で、2653 と 2654 は小皿、2655～2657 は碗、2659 は片口鉢である。2658 は第 8 型式の碗である。2652 は大畑大洞 4 号窯式古段階の東濃型山茶碗の小皿である。2651 は美濃須衛窯Ⅷ期(尾張型第 5 型式併行)の水注である。2660 は古瀬戸後Ⅱ期の卸皿である。2661 は常滑産の壺である。2662 と 2663 は土製の鞆羽口である。2664 は、炉壁又は鞆羽口で、残存状態が悪く種別を特定できない。鉦滓が付着する。2665 は砥石である。2666 は釘、2667 は板状鉄製品である。2668 は鉄滓、2669 は銅滓である。なお、土師器皿の出土状況から、2660 は混入と考えられる。

時期 図示した 2652 から、本遺構は 13 世紀末から 14 世紀初頭と考えられる。

SD326 (図 445)

検出状況 LR10 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側は攪乱により消失する。

規模・形状 東西に延びる溝状遺構である。壁面はほぼ垂直に立ち上がるが、南側では底面付近の傾斜がやや緩やかである。底面は概ね平坦であるが、東側に土坑状に窪む部分がある。

埋土 2 層に分層した。概ね水平に堆積するが、1 層の堆積は薄い。幅 35cm 以下の礫が全体に面的に広がる様子を確認した。

遺物出土状況 礫に混じって土師器や山茶碗、陶器類が出土した。礫とともに埋め戻されたと考えられる。これらを含め埋土中から土師器 72 点、須恵器 2 点、山茶碗 17 点、陶器 21 点が散在して出土した。

出土遺物 山茶碗など 7 点を図示した。2670 と 2671 は第 5 型式の尾張型山茶碗である。2672 は脇之島 3 号窯式に比定した東濃型山茶碗である。2673 と 2674 は古瀬戸で、2673 は後Ⅲ期～後Ⅳ期古段階の瓶子Ⅲ類、2674 は後Ⅳ期古段階の平碗である。2676 は大窯第 1 段階の播鉢である。2675 は常滑産の壺である。

時期 図示した 2676 から、本遺構は 15 世紀末から 16 世紀初頭と考えられる。

SD327 (図 446～450)

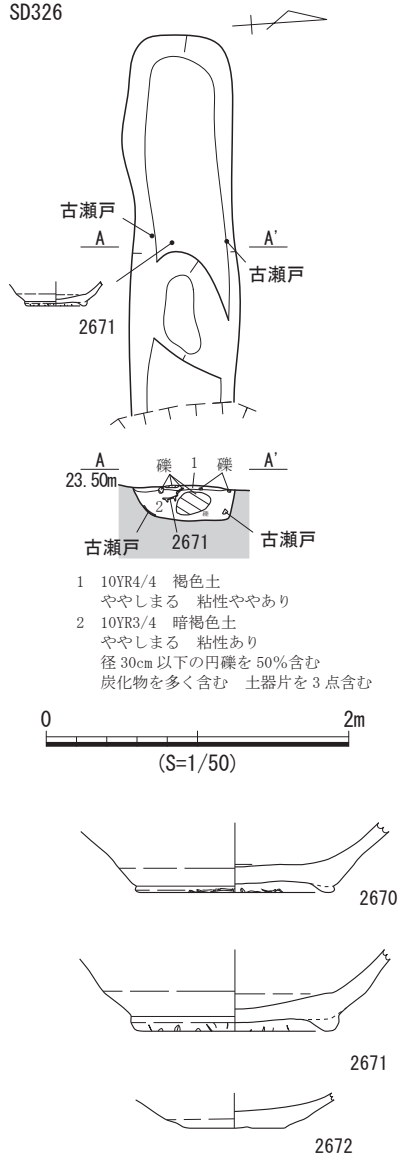
検出状況 LR 8～LR10・LS 7～LS10 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東西両側は発掘区外に延びる。北側で SK3578 と重複する。本遺構は SK3578 より古い。

規模・形状 概ね東西方向に延びる溝状遺構であるが、西側で南に向かってわずかに湾曲する。壁面の傾斜は緩やかで、B-B' 断面の北側の一部にテラス状の平坦面をもつ。東の延長線上には SD302 が位置し、規模や形状、堆積状況も似ることから、同一の遺構の可能性はある。

埋土 A-A' 断面、B-B' 断面ともに 3 層に分層したが、堆積状況は異なる。A-A' 断面では 3 層を 1 層と 2 層が掘り込むように堆積し、再掘削の可能性はある。B-B' 断面では 1 層に礫を多く含み、2 層に炭化物を含む。

遺物出土状況 西側 B-B' 断面付近の底面からほぼ完形の山茶碗 1 点(2712)が縦位で、完形の山茶碗の小皿 1 点(2701)が逆位で、底部のみの山茶碗 2 点(2707・2706)が正位で出土した。さらに西側の底面から底部のみ残る山茶碗 3 点(2703・2714・2715)が逆位で、常滑産の甕(2717・破片)とともにまとまって出土した。また、中央やや北側の 2 層と 3 層から多量の土師器皿の破片が幾重にも重なって

SD326



SD326 遺物出土状況図

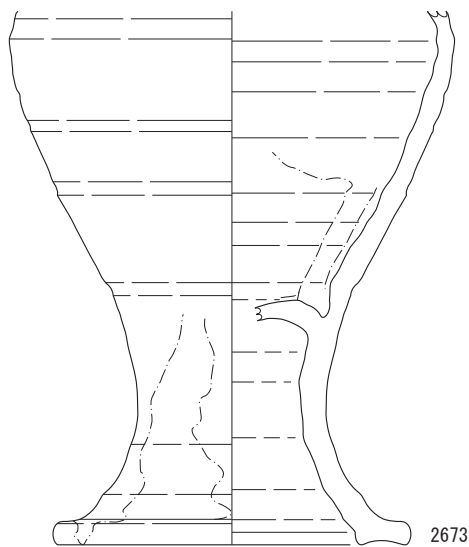
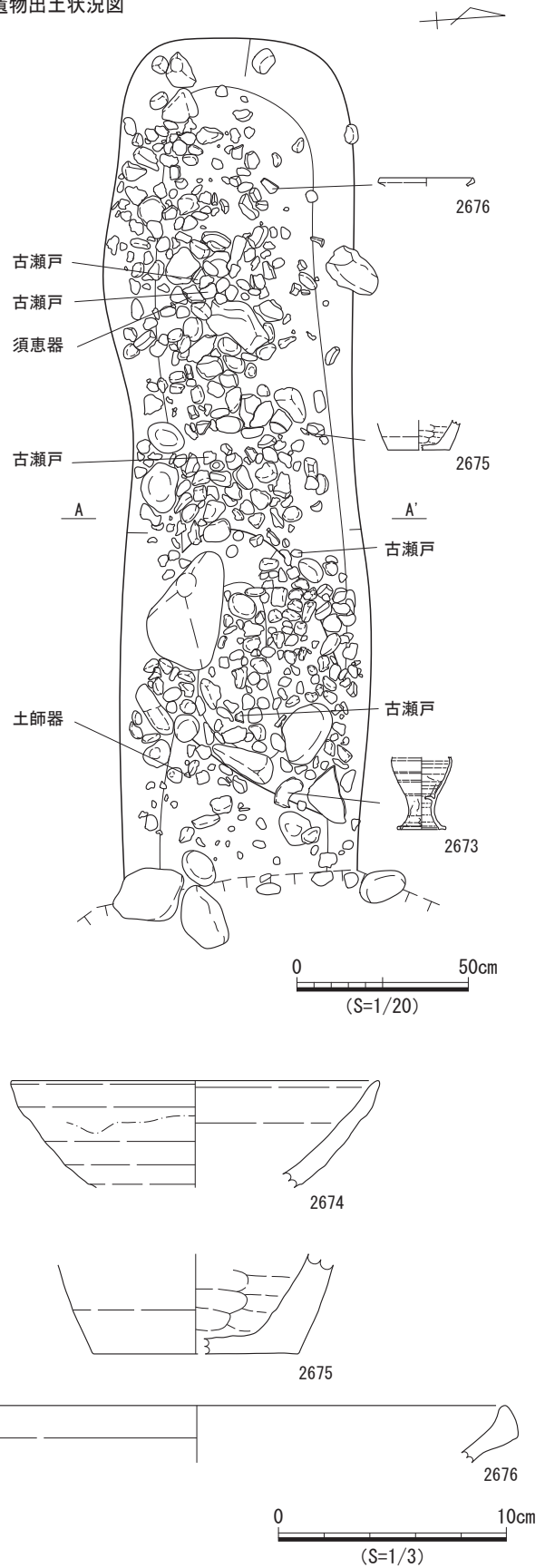


図 445 SD326 遺構図・出土遺物実測図

SD327

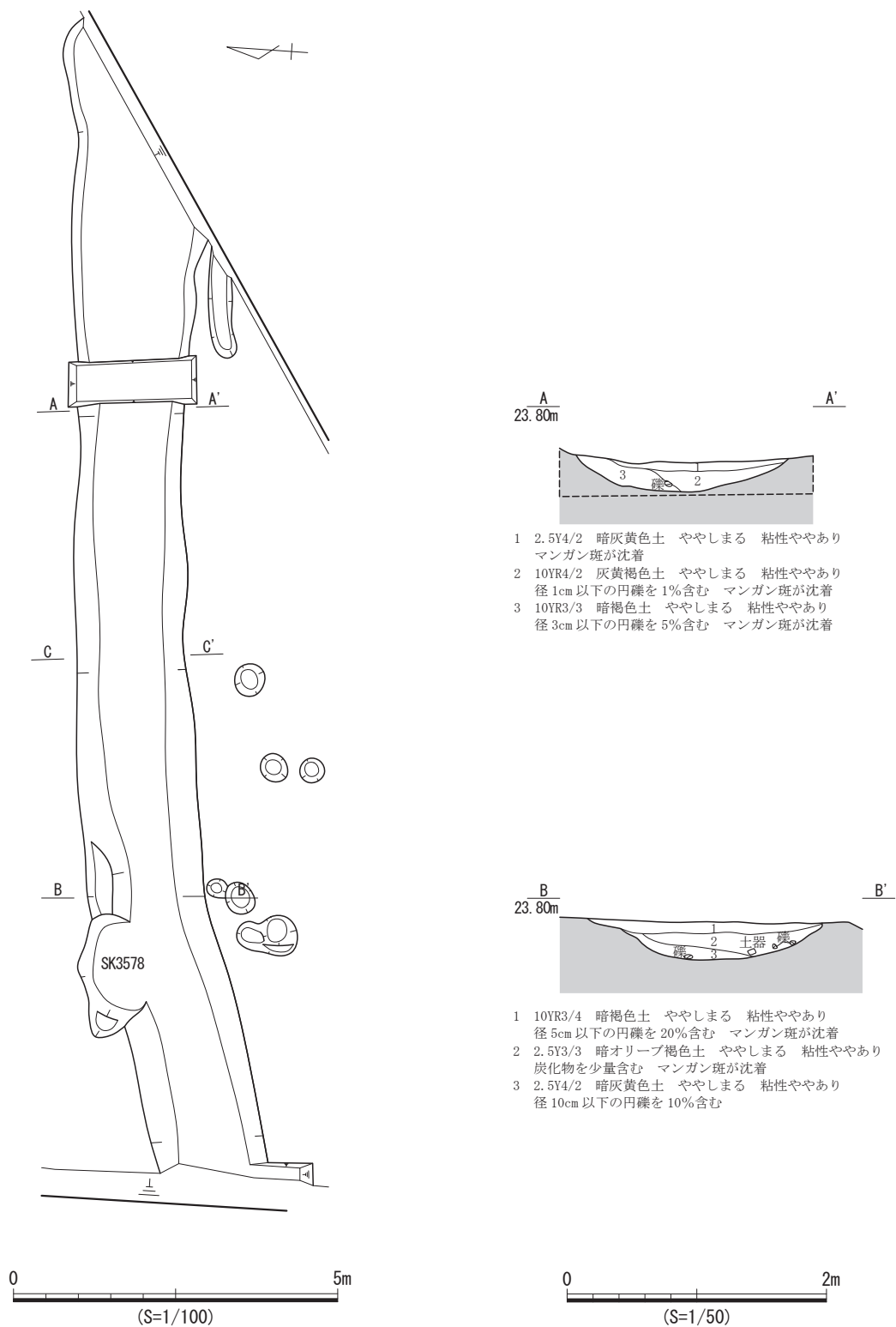


図 446 SD327 遺構図 (1)

遺物出土状況図

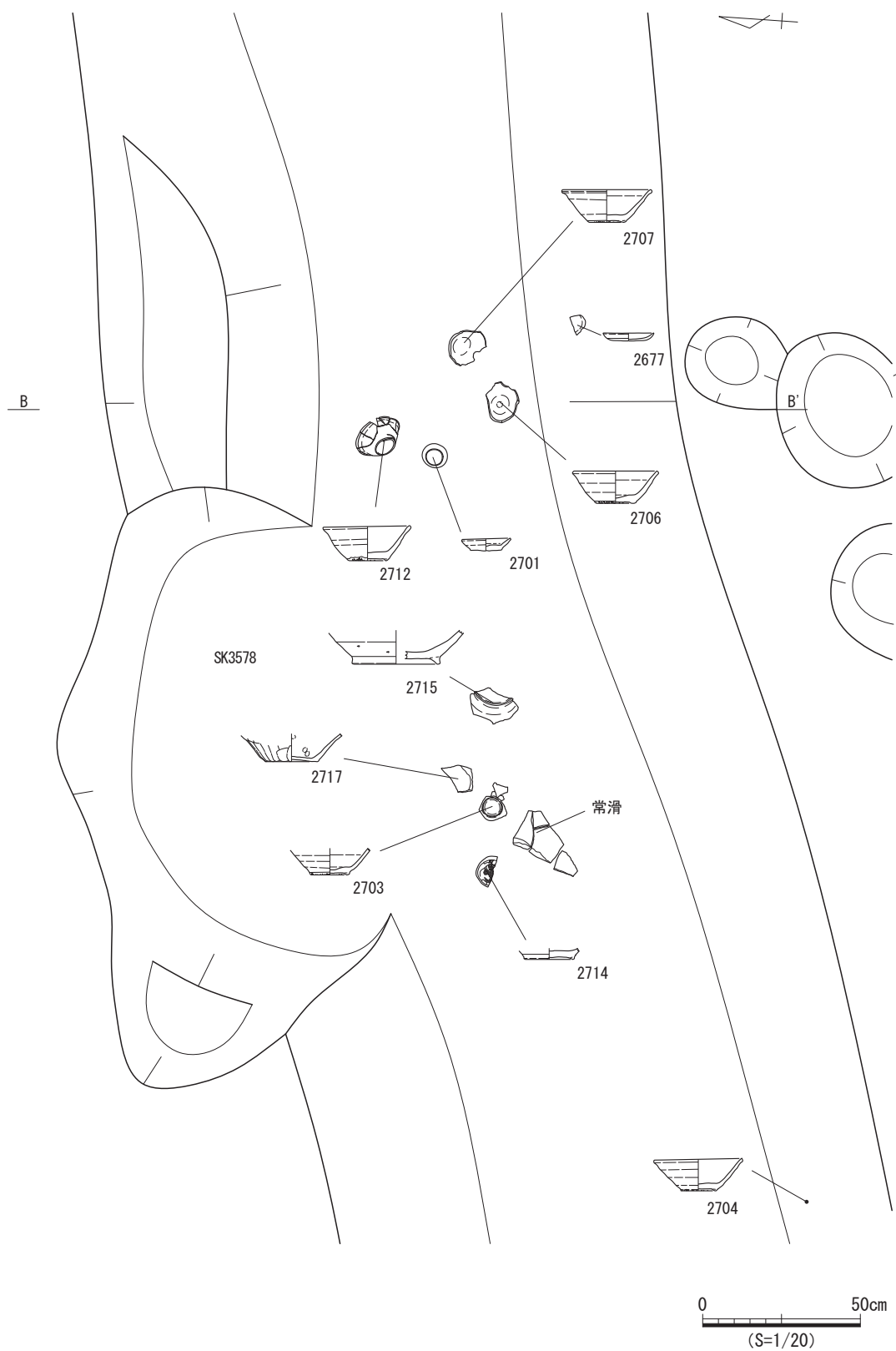
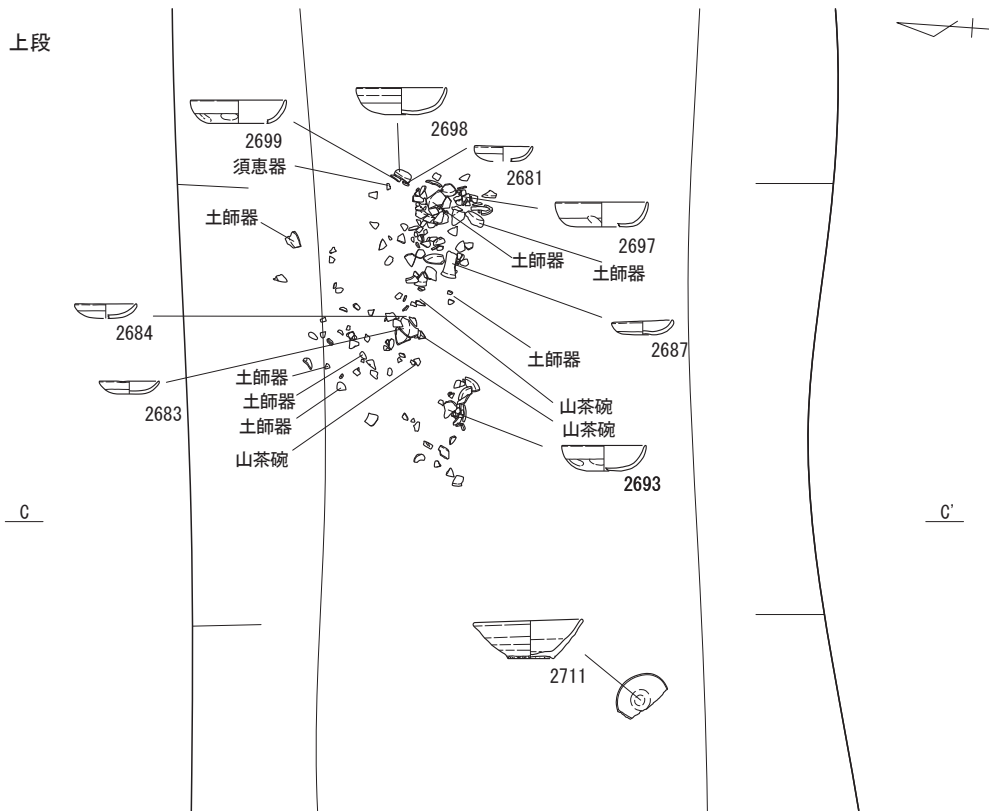


図 447 SD327 遺構図 (2)

遺物出土状況図

上段



中段

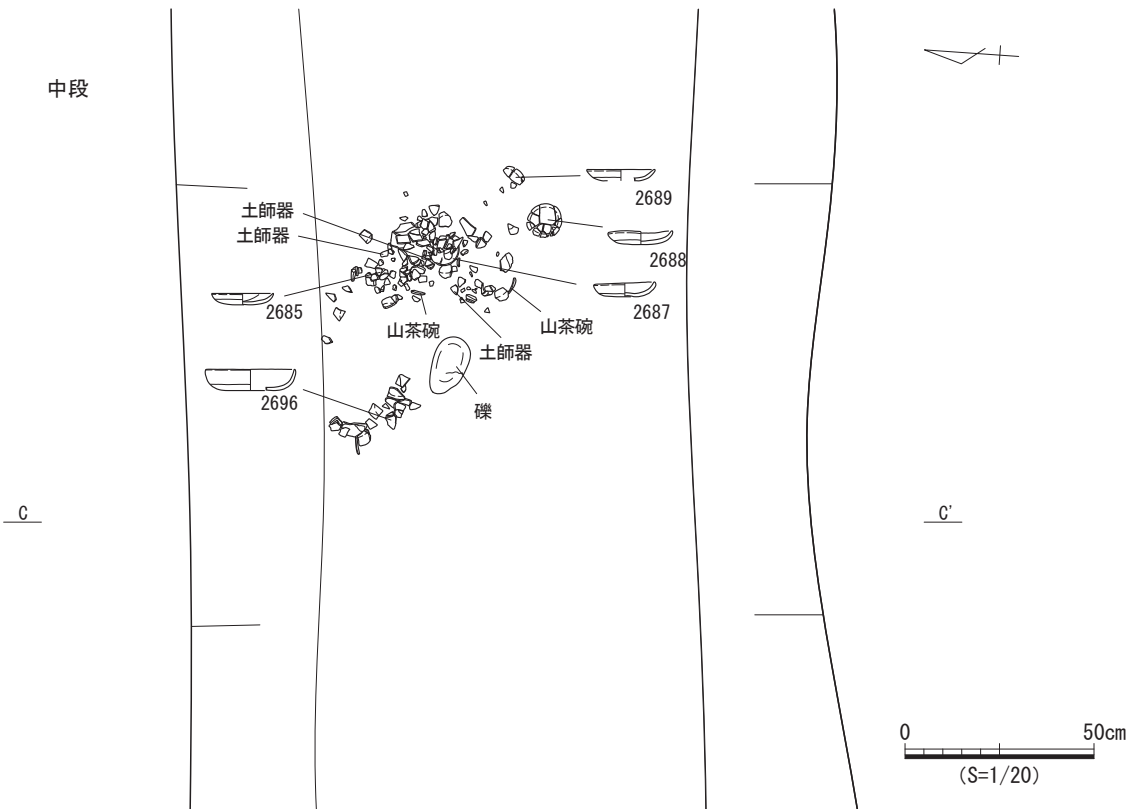


図 448 SD327 遺構図 (3)

遺物出土状況図

下段

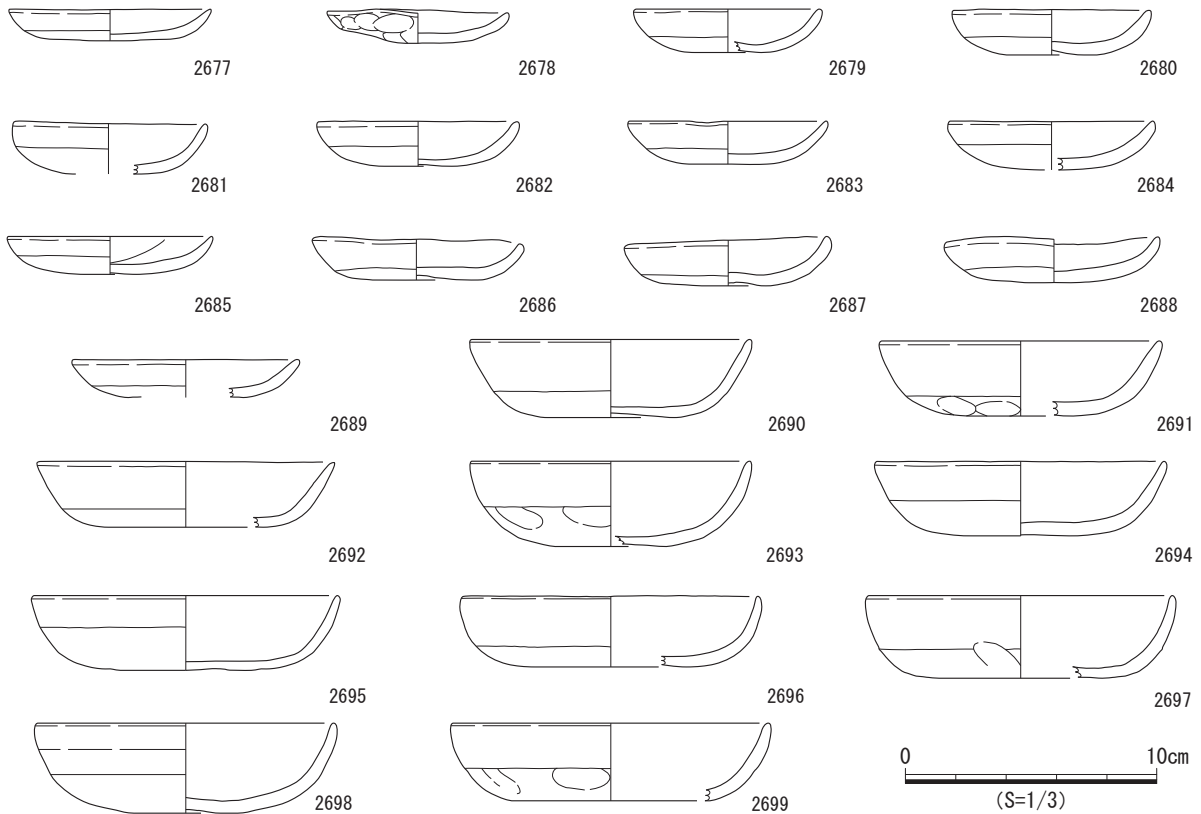
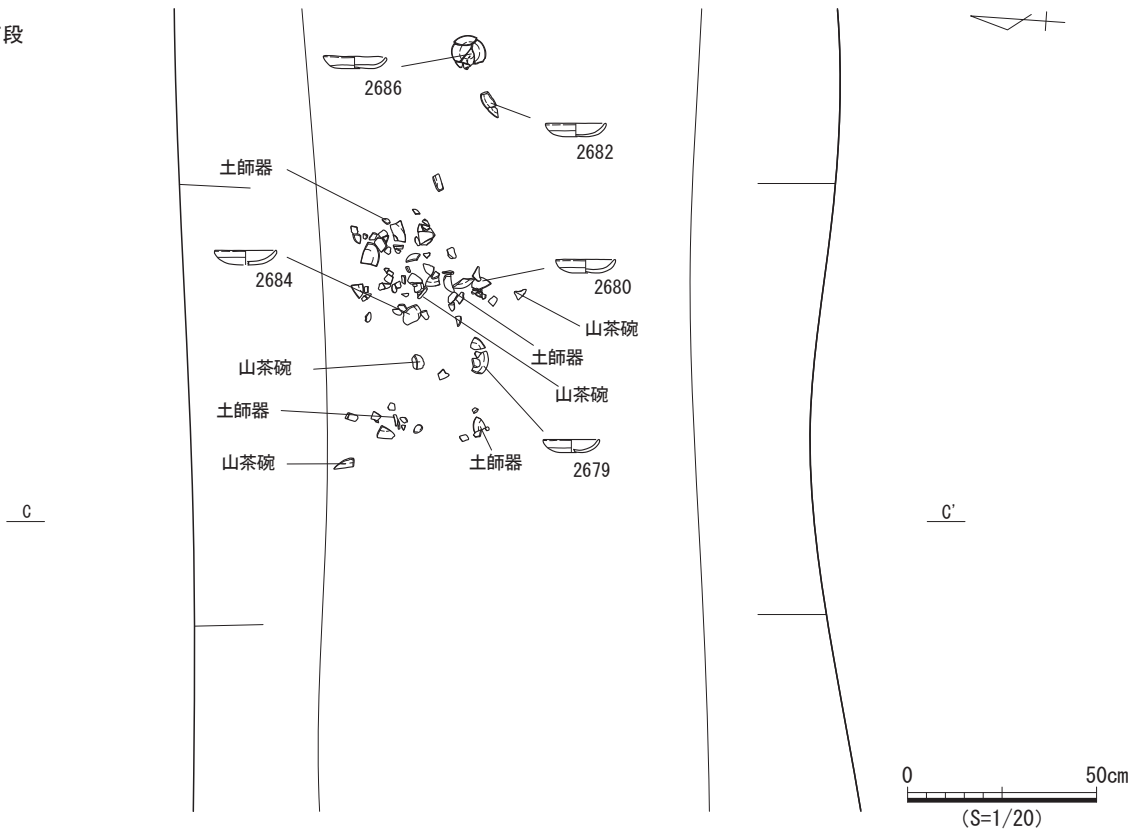


図 449 SD327 遺構図 (4)・出土遺物実測図 (1)

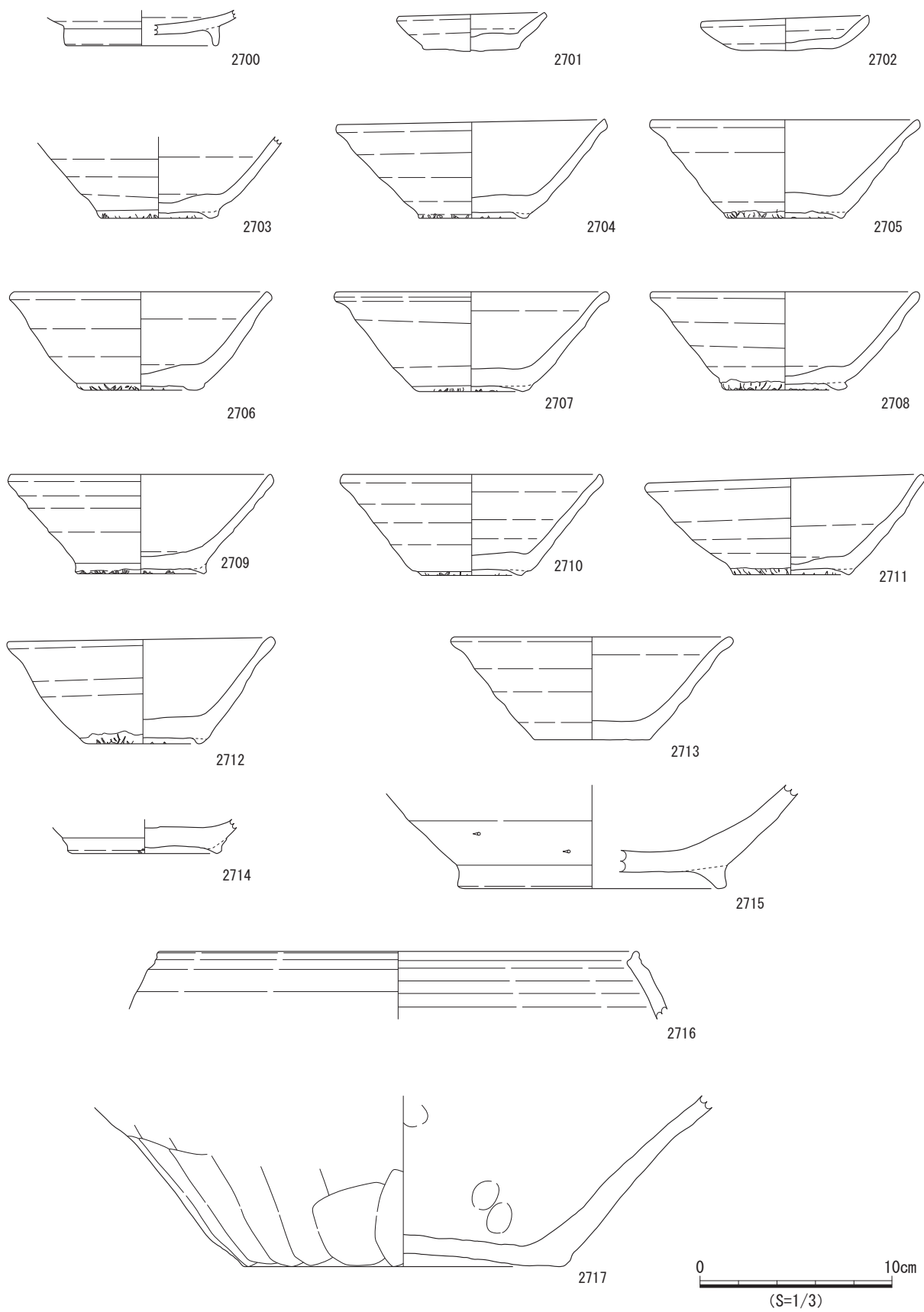


图 450 SD327 出土遺物実測図 (2)

出土した。意図的に割ってまとめて廃棄されたと考えられる。これらを含め埋土中から土師器 1,307 点、須恵器 19 点、灰釉陶器 6 点、山茶碗 301 点、陶器 17 点、鉄製品 1 点（種別不明）が出土した。

出土遺物 土師器など 41 点を図示した。2678 は C 1 類、2679～2699 は M 3 類、2677 は M 4 類の土師器皿である。2700 は虎溪山 1 号窯式に比定した灰釉陶器の碗である。2701～2713 は尾張型山茶碗で、2701 と 2702 は第 6 型式と第 7 型式の小皿、2703～2712 は第 7 型式、2713 は第 8 型式の碗である。2714 は谷迫間 2 号窯式に比定した東濃型山茶碗である。2715 は美濃須衛窯Ⅷ期（尾張型第 5 型式併行）の片口鉢である。2716 と 2717 は常滑産の壺類と甕である。

時期 図示した 2713 から、本遺構は 13 世紀末から 14 世紀初頭と考えられる。

6 焼土遺構・炉

SL14 (図 451)

検出状況 LN12 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北側と東側は発掘区外に続き、西側は重複により消失する。

規模・形状 一部しか検出できず、平面形は不明である。壁面の傾斜は急で、底面は丸みを帯びる。

埋土 3 層に分層した。概ね水平堆積である。いずれの層にも炭化物を含み、3 層では特に多くの炭化物を含む。底面から東側と南側の壁面にかけて焼土粒や炭化物塊が不定形に広がる様子を確認した。また、底面上で割れた長さ 14cm の角礫と径 10cm の亜円礫を確認した。

遺物出土状況 埋土中から土師器 3 点、須恵器 3 点、山茶碗 10 点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 第 5 型式以降の尾張型山茶碗が出土したことから、本遺構は 12 世紀後葉から 15 世紀後葉と考えられる。

SL15 (図 451)

検出状況 LN12 グリッド、SL14 底面で検出した。SL14 底面の焼土・炭化物堆積面を立ち割って調査したところ、その下層で焼土塊を含む黒色土の円形プランを確認した。平面形は明瞭であった。本遺構は SL14 より古い。

規模・形状 平面形は円形である。断面形は北側に寄った半円形である。

埋土 4 層に分層した。1 層に焼土塊や炭化物塊を多く含む。2 層に礫を含み、4 層を掘り込むような堆積である。下層は粘性の強い埋土である。

遺物出土状況 埋土中から灰釉陶器 1 点が出土したが、小片であった。

出土遺物 小片のため図示できなかった。

時期 灰釉陶器が出土したことから、本遺構は 9 世紀前葉から 11 世紀後葉と考えられる。

SL16 (図 452)

検出状況 L011 グリッド、IV b 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。西側で SD316 と重複する。本遺構は SD316 より古い。

規模・形状 平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みを帯びる。

埋土 4 層に分層した。1 層と 2 層は水平に堆積する細砂の堆積である。3 層は暗褐色に被熱して硬化することから、炉床若しくは炉壁と考えられる。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

時期 SD316との重複関係から、本遺構は16世紀初頭以前と考えられる。

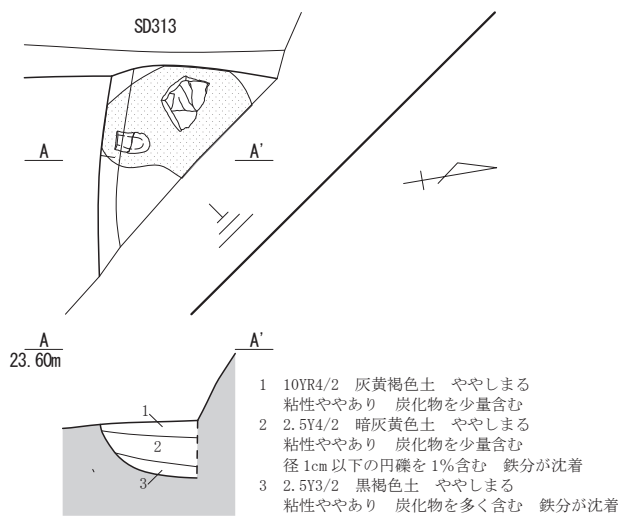
SL17 (図452)

検出状況 L012グリッド、IVb層上面で検出した。埋土が赤く、平面形は明瞭であった。西側でSB30-P6と重複する。本遺構はSB30より新しい。

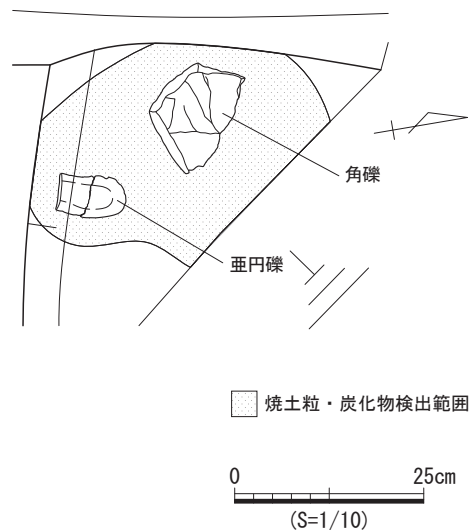
規模・形状 検出した範囲では、平面形は円形と考えられる。壁面は東側ではほぼ垂直に立ち上がり、西側では傾斜は緩やかに開く。底面は丸みを帯びる。

埋土 2層に分層した。2層は赤く被熱し、硬化することから、炉床と考えられる。基盤層まで被熱

SL14



SL14 角礫・垂円礫検出状況図



SL15

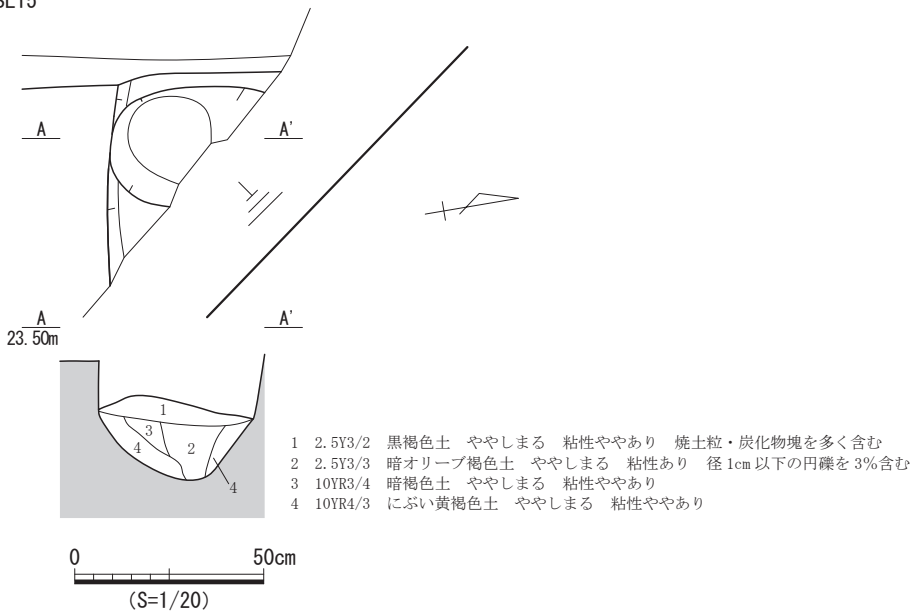


図451 SL14・SL15遺構図

が及んでいることから地床炉と考えられる。

遺物出土状況 土師器2点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物 小片のため図示できる遺物はなかった。

時期 SB30 との重複関係から、本遺構は12世紀後葉以降と考えられる。

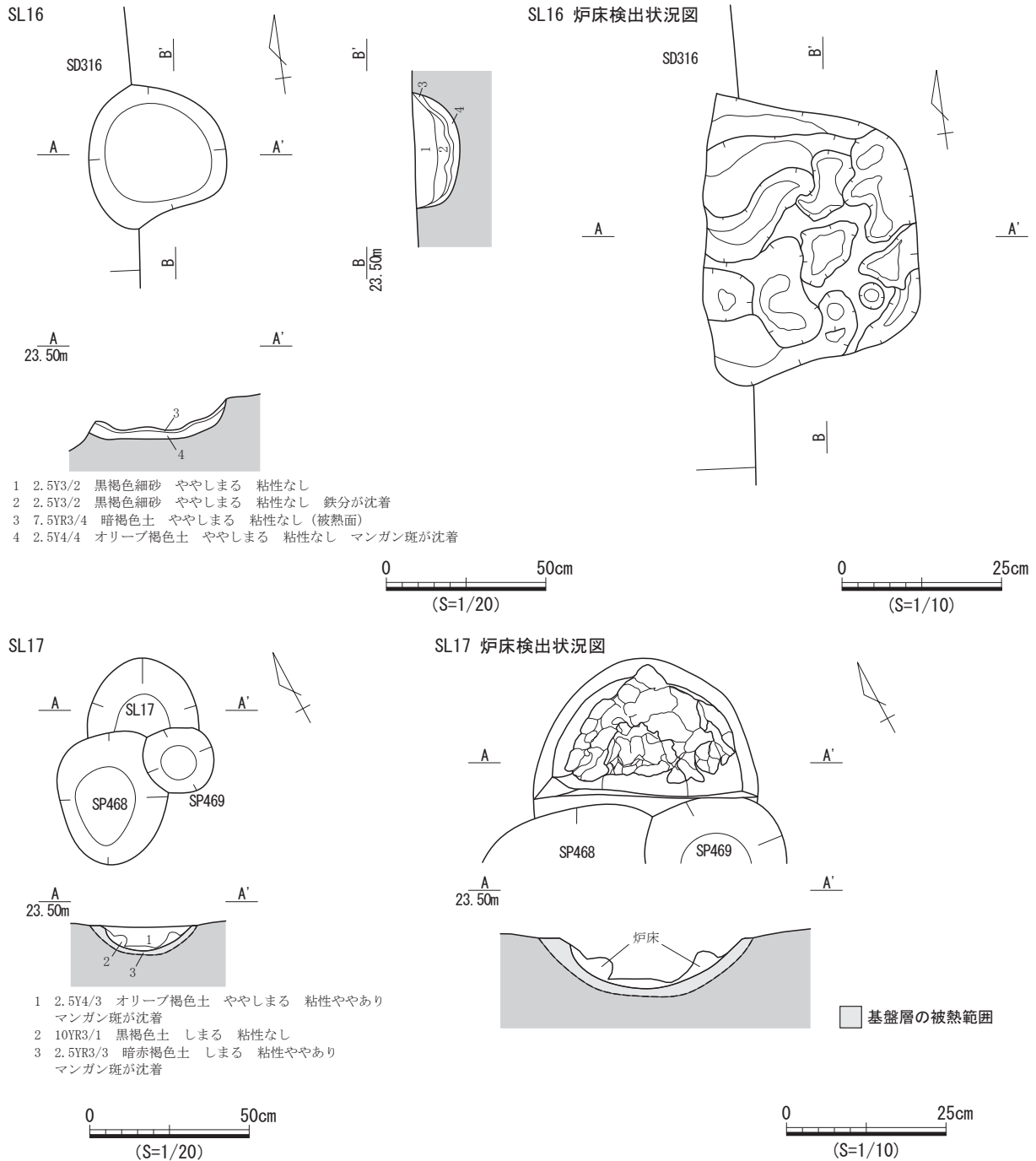


図 452 SL16・SL17 遺構図

7 その他の遺構出土遺物（図 453）

出土遺物のうち 22 点を図示した。2718 は M 2 類の土師器皿である。2719 はロクロ成形の土師器皿で、底部外面に回転糸切痕が確認できる。2720 と 2721 は美濃須衛窯 IV 期第 1 小期に比定した須恵器の坏蓋 C 類と甕である。2722～2726 は後 IV 期古段階の古瀬戸で、2722 と 2723 は縁釉小皿、2724 は内耳鍋、2725 と 2726 は播鉢である。2727 は II - 4 a 類の白磁碗である。2728 は龍泉窯系の青磁碗で、口縁部に雷文帯が施される。2729 は土製の轆羽口で、先端部に鉋滓が付着する。2730 は土鈴である。2731 は叩石、2732 は砥石である。2733～2736 は釘である。2737 はヤリガンナである。2738 と 2739 は鉄滓である。

8 Ⅲ層等出土遺物（図 454・455）

出土遺物のうち 24 点を図示した。2743 は B 1 類、2742 は M 3 類、2741 は C 1 類の土師器皿である。2740 はロクロ成形の土師器皿で、底部外面に回転糸切痕が確認できる。2744 はつまみ上げ口縁をもつ丸底甕である。2745 は美濃須衛窯 III 期後半に比定した須恵器の甕で、体部内外面に当て具痕が確認できる。2746 と 2747 は灰釉陶器で、2746 は黒笹 14 号窯式に比定した皿、2747 は丸石 2 号窯式に比定した碗で、内面見込みに「大」のヘラ書きが確認できる。2748～2756 は尾張型山茶碗である。2748～2750 は第 3 型式の小碗である。2751 と 2752 は第 4 型式の小碗、2756 は第 4 型式の碗である。2753 と 2754 は第 5 型式、2755 は第 6 型式の小皿である。2757～2759 は東濃型山茶碗で、2757 は矢戸上野 2 号窯式に比定した小碗、2758 は浅間窯下 1 号窯式に比定した小皿、2759 は生田 2 号窯式に比定した碗である。2760 と 2761 は龍泉窯系の青磁碗である。2760 は I 類で、内面に片彫蓮花文が施される。2761 は IV 類で、内面見込みに花文が施される。2762 は土師質の円筒埴輪で、輪積痕と台形状のタガが確認できる。この破片では黒斑は確認できない。2763 と 2764 は土錘である。2765 は第 4 型式の石鍋を再加工した温石である。鏝の突出部を削り平滑にし、割れ面が鋭角となる端部を面取りしている。下辺は人為的に切断されている。中央やや上部に穿孔が確認できるが、孔の加工は不十分である。穿孔部を起点に破損していることから、突孔時に破碎したと考えられる。2767 は鎌、2768 は鑿、2769 は釘である。2770 と 2771 は鉄滓で、2770 は椀形滓である。2772～2775 は銭貨で、2772～2774 は「皇宋通寶」（初鑄 1039 年）、2775 は「元祐通寶」（初鑄 1086 年）である。

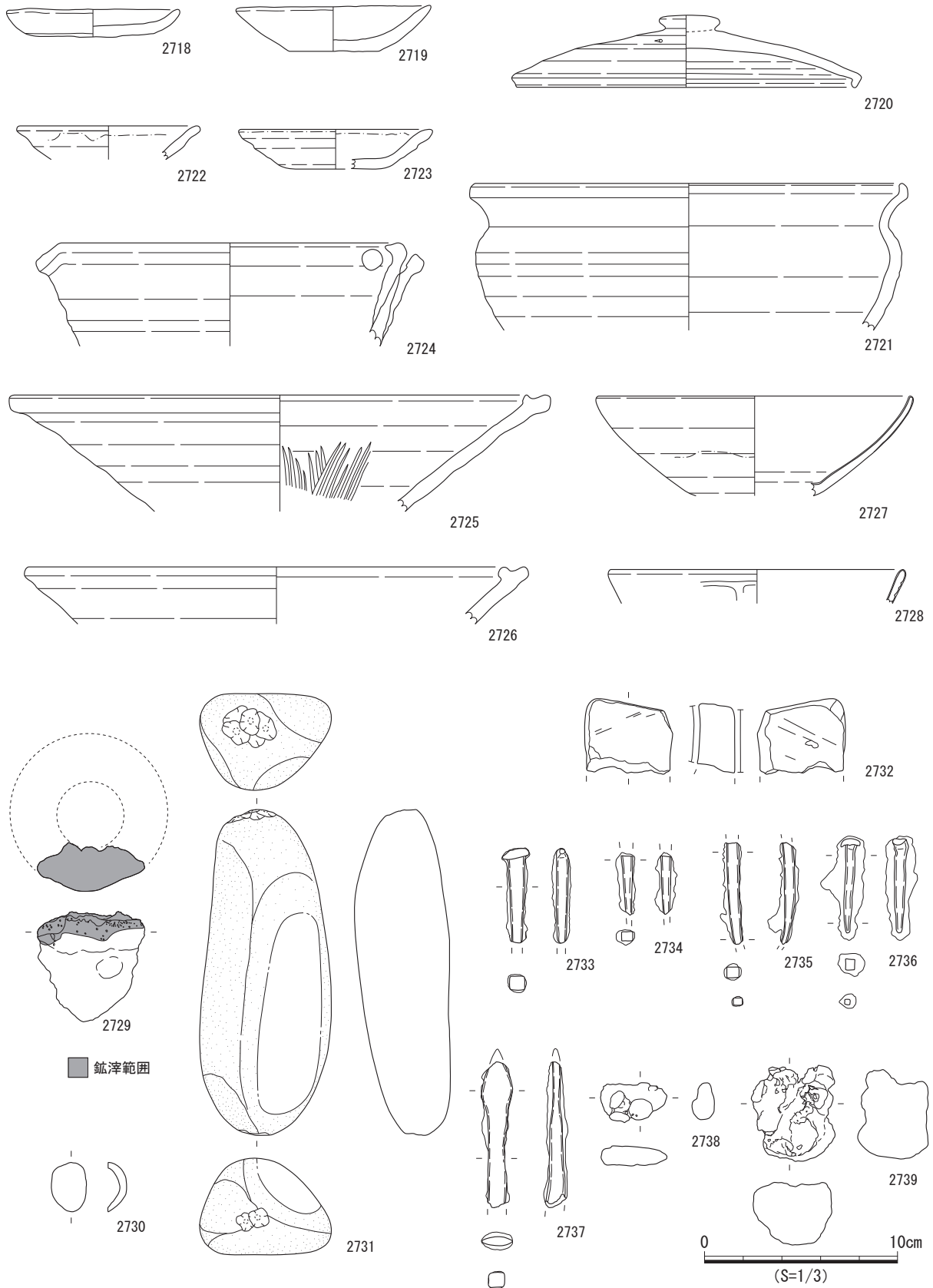


図 453 その他の遺構出土遺物実測図

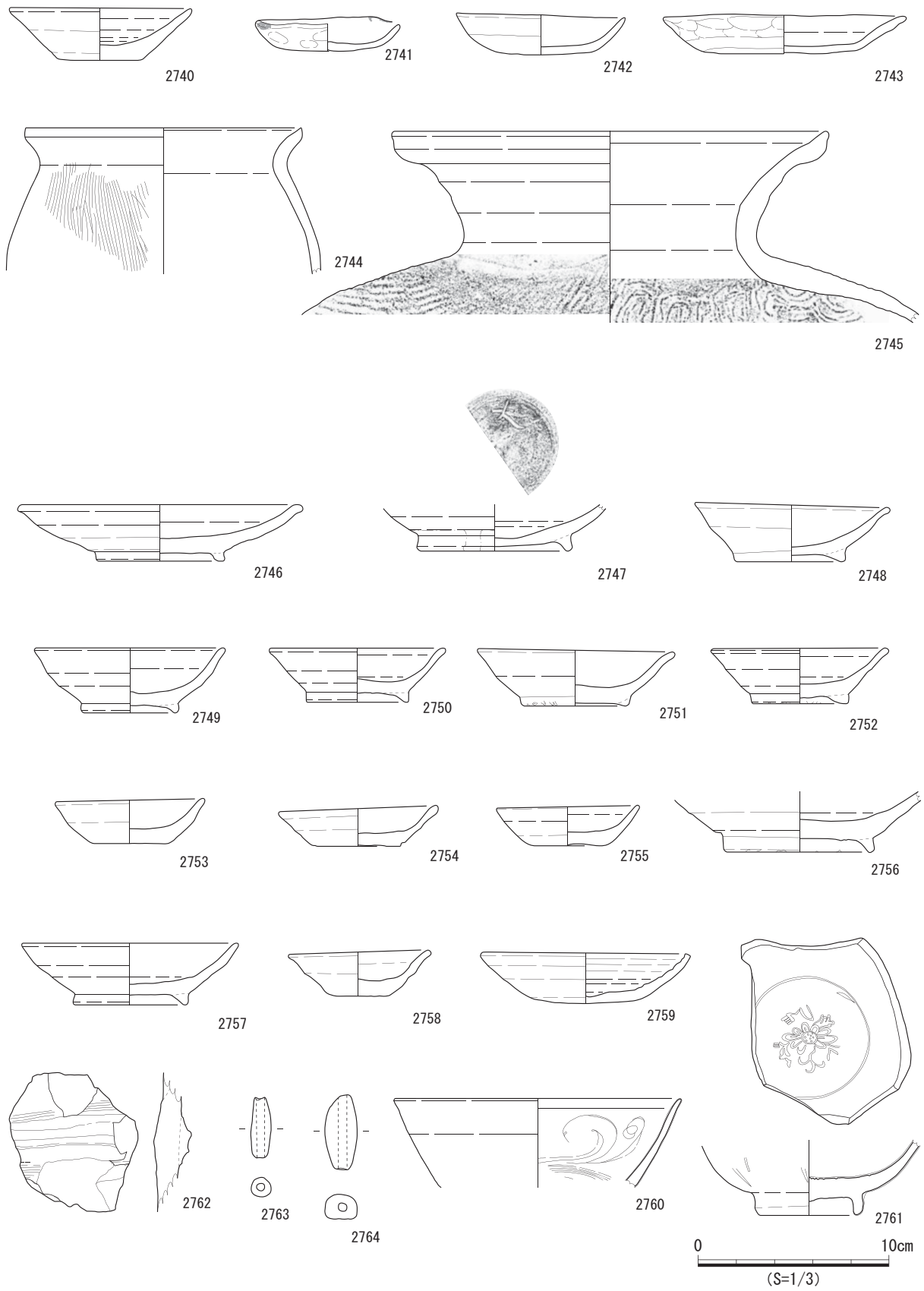


图 454 Ⅲ層等出土遺物実測図(1)

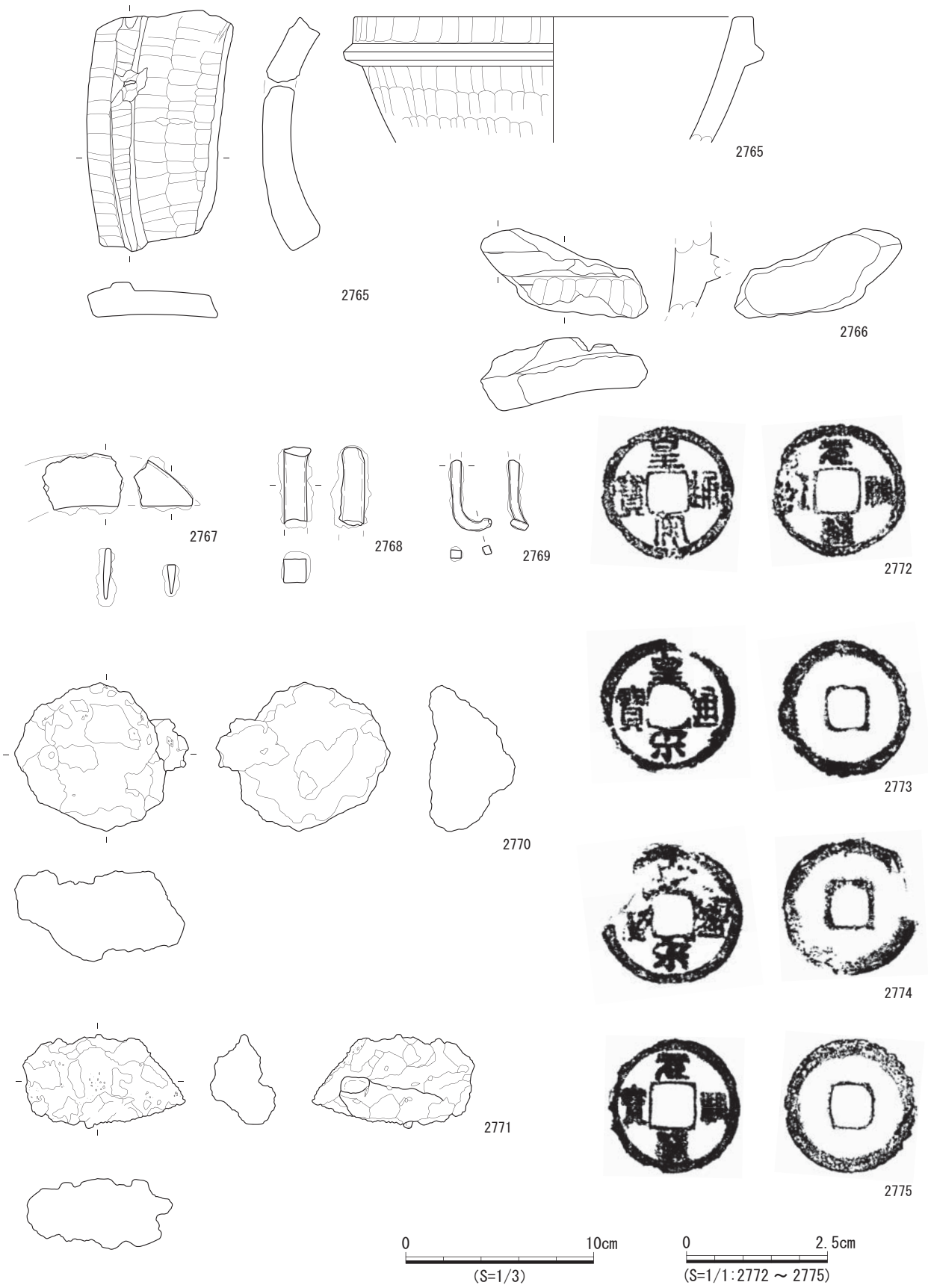


図 455 Ⅲ層等出土遺物実測図（2）

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第151集

上保本郷遺跡
(第2分冊)

2021年3月25日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター

岐阜市三田洞東1-26-1

印 刷 山興印刷株式会社